

長野原城跡 林中原Ⅰ遺跡

ハッ場ダム建設工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第43集

2014

国 土 交 通 省
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

長野原城跡 林中原Ⅰ遺跡

八ッ場ダム建設工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第43集

2014

国 土 交 通 省
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



▲1 長野原城跡 調査状況（北西から、17頁参照）

長野原城跡は、吾妻川と白砂川の合流点付近に、北西から南東にかけて突き出た狭い尾根上を占地する。尾根の裾部には、両河川に沿って形成された河岸段丘による狭い平地が続き、ここには高崎及び信濃に通じる街道が通る。この街道は両河川の合流点付近で接することから、長野原城跡は交通の要衝に築かれている。発掘調査では、城を構成する遺構は検出できなかったが、出土遺物の一部はその年代が明らかに中世まで遡る。

◀2 長野原城跡 調査地点遠景
（北西から、段丘下は吾妻川）

▼3 長野原城跡 遠景（南西から）

写真中央部の丘陵が長野原城跡。その下の帯状の森が吾妻川の右岸。丘陵と吾妻川の間には家並みがあり、信濃に抜ける道が通る。





▲林中原1遺跡 第3・4・5・6・7区画（北東から）

（写真中央上の谷が吾妻川で、右側のクレーンは吾妻川を渡る工事中の湖面3号橋）
林中原1遺跡は、吾妻川左岸の最上位段丘上に立地する。遺跡南60mほど低い中位段丘面には、中近世の掘立柱建物等が調査されている下田遺跡がある。林城は段丘端部を利用して築かれている。



▲1 林中原Ⅰ遺跡 1号堀と第1区画東側、発掘前の第1区画最高所の盛土部分（北東から、68頁参照）

▼2 林中原Ⅰ遺跡 1・2号堀と土橋、第1区画東側と第3区画西側（北から、68頁参照）





▲1 林中原Ⅰ遺跡 2号石垣と土橋、写真上左が1号石垣、右が3号石垣（南東から、71頁参照）

▼2 林中原Ⅰ遺跡 2号石垣と土橋、写真上が第3区画の掘立柱建物（西から、73頁参照）





◀1 林中原1遺跡 2号石垣と土橋土層断面、石垣と土橋との関係がわかる。(東から、71頁参照)

▼2 林中原1遺跡 2号石垣に残っていた矢跡(南から、72頁参照)



▼3 林中原1遺跡 第3区画、ピットの多くが7棟の掘立柱建物の柱穴である。(上空から、132頁参照)





▲1 林中原1遺跡 2号池 (南東から、90頁参照)

林城の池 (81頁参照)

第4区画の南で一段低い傾斜面に湧水があり、湧水地の下は発掘前水田として使われていた。発掘の結果斜面の一部を削り、石や木材等を用いて水を溜めた円形の池2つが造られていた。池から出土した遺物の大部分は中世であり、林城に伴う池の可能性が高い。



▲2 林中原1遺跡 1号池 (手前) 2号池 (奥) (南から、84頁参照)

▼3 林中原1遺跡 2号池 (手前) 1号池 (奥) (北東から、90頁参照)





▲1 林中原Ⅰ遺跡 中近世屋敷（南上空から、199頁参照）

▼2 林中原Ⅰ遺跡 横方向溝の南が第6区画、北が第7区画の一部（上空から、162頁参照）

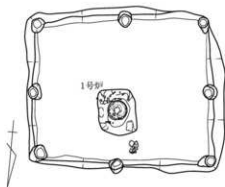




林中原Ⅰ遺跡 52区1号竪穴状遺構 (245頁参照)

南北2.2m、東西2.7m、深さ50cmで、四隅と各壁の中央部に合計8個の壁柱穴をもつ中世の竪穴状遺構。遺構の中央よりやや北側の1号穴底面に口縁部と底部の一部欠損があるがほぼ完形の内耳土器が据えられていた。土器の大きさは直径26.6cm、深さ16.5cmで、土器内部は灰や焼土で埋まっており、炉体土器として使用されていたと考えられる。この土器は、竪穴状遺構の使用形態を暗示するとともに、頻繁に出土する内耳鍋の使用法の一例を示す希有な資料である。

◀▼1・2 林中原Ⅰ遺跡 52区1号竪穴状遺構内耳土器出土状況



▼3 林中原Ⅰ遺跡 52区1号竪穴状遺構全景 (北から、246頁参照)



序

ハツ場ダムは、治水・利水・発電を行う多目的ダムとして計画され、吾妻郡長野原町を中心に関連工事が進められています。ハツ場ダム関連の建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査は、当事業団が平成6年度から実施し、本年度で20年目を迎えます。

今回報告する長野原城跡と林中原Ⅰ遺跡は、吾妻川左岸に位置する中世の城を中心とする遺跡です。長野原城跡は、信濃国の真田氏が永禄五年(1562)に侵略し真田幸隆の舎弟常田氏が城主となっていました。永禄六年(1563)に岩櫃城の齋藤氏他が長野原城を攻め、城主常田氏は諏訪神社前で戦い敗れて戦死した、「長野原の合戦」で有名な城です。発掘では、城の先端部と思われる部分が対象となりました。中世の遺物は出土しましたが、土塁や堀等の遺構は確認出来ませんでした。他に中近世の道と江戸時代の畑を発掘調査しました。

林中原Ⅰ遺跡は、林城と関連する遺構を中心とする遺跡です。林城に関する古文獻はありませんが、地元に「城」の地名が残されていて、発掘調査の結果、多くの堀・石垣・池・中近世の掘立柱建物等の城に関連する多くの遺構を確認することが出来、中世林城の一部が明らかとなりました。

発掘調査から報告書刊行に至るまで、国土交通省ハツ場ダム工事事務所、群馬県教育委員会、長野原町教育委員会をはじめ関係する機関や地元関係者の皆様には多大なご尽力を賜りました。ここに心から感謝申し上げます。

本書が、長野原地域における中近世の基本的な資料として、広く活用されることを願います。

平成26年3月

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
理事長 上原 訓 幸

例 言

- 1 本書は、ハット場ダム建設事に伴う長野原城跡、林中原1遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 遺跡所在地
長野原城跡 吾妻郡長野原町大字長野原236-5、317-3、318-4、235-5、236-1、236-2、236-3、236-4、237-4、237-9、237-11、乙254、254-1、255-1、乙31、丁315、315-10、316、乙317番地
林中原1遺跡 吾妻郡長野原町大字林943、944、950-2、951、957、958、830-1、甲830-2、831、832、833、834、835、836、837、838、839、840、845、846、847、848、849、850、851、852、853-1、853-2、854-1、854-2、857-1、857-2、857-3、858-1、858-2、858-3、858-4、859-1、859-2、859-3、860、861、862-1、862-2、862-3、870、900、901、832-1、832-2、830-3、830-19、830-20、833、834、877-1、877-2、880、881、882-5、883、884、877-2、888、898、896、897-3、235-5、236-1、236-2、236-3、236-4、237-4、237-9、237-11、乙254、254-1、255-1、乙315、丁315、315-10、316、乙317、236-5、317-3、318-4番地
- 3 本発掘調査は、群馬県教育委員会の調整に基づき、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が国土交通省関東地方整備局の委託を受けて実施した。
- 4 調査期間及び担当者
(1)発掘調査
長野原城跡
平成23年(2011)4月1日～4月30日 小野和之(調査課長)・山口遼弘(首席専門員)
平成23年(2011)8月1日～8月31日 小野和之(調査課長)・山口遼弘(首席専門員)
林中原1遺跡
平成16年(2003)5月6日～5月31日 瀧川仲男(専門員)・関 俊明(専門員)
平成19年(2007)8月1日～12月28日 飯塚卓二(主任専門員(総括))・飯森康広(専門員(主幹))・須田正久(主任調査研究員)・真下裕章(主任調査研究員)
平成20年(2008)4月1日～6月30日 飯森康広(専門員(主幹))・宮下 寛(主任調査研究員)
平成21年(2009)11月1日～12月28日 麻生敏隆(主任専門員(総括))・宮下 寛(主任調査研究員)
(2)整理及び整理担当者
長野原城跡 平成25年(2013)4月1日～平成26年(2014)3月31日 中沢 悟(専門調査役)
林中原1遺跡 平成20年(2008)1月1日～平成20年(2008)3月31日 飯森康広(専門員(主幹))
平成25年(2013)1月1日～平成25年(2013)3月31日 黒澤照弘(主任調査研究員)
平成25年(2013)4月1日～平成26年(2014)3月31日 中沢 悟(専門調査役)
- 5 本報告書作成関係者
編集担当 中沢 悟
本文執筆 飯森康広：第3章第5節第2項1林城-2号石垣、土橋、1号池、2号池。2中近世屋敷-52区1号野穴状遺構。第7節第2項林城第3区画の建物と変遷、第3項中近世屋敷(52・53区)の掘立柱建物の検討
藤巻幸男(調査資料部長)：第3章第5節第1項-縄文時代、5-遺構外出土遺物
中沢 悟：上記以外
遺物観察 縄文土器：山口遼弘(首席専門員) 藤巻幸男、陶磁器：黒澤照弘(主任調査研究員)
編集整理業務 デジタル編集：斉田智彦(主任調査研究員)、遺物写真撮影：佐藤元彦(補佐(総括)) 中沢 悟、保存処理：関 邦一(補佐(総括))
整理補助員 石村千恵美、黒岩扶美枝、足立やよい、篠原了子、安カ川京美

6 委託

石材鑑定 渡辺弘幸(甘葉町立新屋小学校教諭)
出土人骨の鑑定 橋崎修一郎(生物考古学研究所)
出土獣骨の鑑定 宮崎重雄
地上測量 株式会社 測研 空中写真撮影 株式会社 測研
デジタル修正及び編集 株式会社 測研
自然科学分析 バリノ・サーヴェイ株式会社

- 7 出土遺物及び図面・写真等の記録は群馬県埋蔵文化財調査センターで保管している。
- 8 発掘調査及び本書の作成にあたっては下記の機関、諸氏より有益なご教示、ご指導をいただいた。記して感謝の意を表する。敬称略(石垣や城の指導) 齋藤慎一(東京都江戸東京博物館) 秋本太郎(群馬県高崎市教育委員会) 宮田毅(群馬県太田市教育委員会) 清水豊(群馬県高崎市教育委員会) 群馬城館址研究会、(陶磁器の鑑定) 小野正敏(人間文化研究機構、船載系陶磁器の鑑定) 藤澤良祐(愛知学院大学、瀬戸・美濃系陶磁器の鑑定) 大橋康二(佐賀県立九州陶器文化館、肥前系陶磁器の鑑定)

凡 例

- 1 2遺跡を合本で報告するので、挿図番号、表番号、写真図版は通番で付した。以下の凡例も原則共通である。
- 2 座標値は日本測地系IX系による。挿図中に使用した方位は、座標北である。真北方向角は長野原城跡で+0° 42' 21.52"、林中原1遺跡で+0° 41' 12.76"である。
- 3 等高線・遺構断面等に記した数値は海拔標高を示す。
- 4 遺構図の縮尺は、1/40あるいは1/80を基本としている。縮尺は各図下にスケールをしめしている。
- 5 遺物図の縮尺は、1/3を基本としている。それ以外の縮尺は各図下にスケールをしめしている。
- 6 遺構・遺物図に使用したスクリーントーンは、以下のとおりである。

遺構		柱痕		木器		粘土範囲		炭範囲
		焼土範囲		面を平らにした割石		柱跡		
遺物		繊維		黒漆		赤色漆		磨り面

- 7 遺物写真の縮尺は、原則として遺物図とほぼ同じである。
- 8 テフラについては、略称を使用している。
YPk：浅間草津黄色軽石(As-YPk) As-Kk：浅間粕川テフラ(As-Kk) As-A軽石：浅間A軽石(As-A)
長野原城跡のA区の畑を埋めているAs-A軽石は、天明3年(1783年)浅間山噴出軽石の略である。また「天明泥流」あるいは「泥流」は、天明3年新暦8月5日の浅間山噴火に伴う泥流堆積物の略称である。
- 9 遺構図中の遺物番号は、遺物実測図の番号と一致する。
- 10 遺物観察表の記載方法は下記の通りである。
- (1)遺物観察表は遺構毎とし、第2章長野原城跡、第3章林中原1遺跡の報告の最後にまとめて掲載した。
 - (2)計測値の単位は、銭貨をmmとし、これ以外をcmとした。
 - (3)欠損した遺物の計測値には()を付けた。
 - (4)銭貨、鉄滓、石製品、等の重量は全て残存値であり、単位はgである。
 - (5)銭貨の直径及び内輪径は、縦の直径を①内輪径を③、横の直径を②内輪径を④としている。
 - (6)銭貨の厚さは、文字部分で計測した最大値と最小値を記している。
 - (7)陶磁器の色調は、胎土の色調を記している。
 - (8)色調については、農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所監修『新版標準土色帖』を用いた。

目次

口絵

序

例言

凡例

目次・挿図目次・表目次・写真目次

第1章 地理的環境と歴史的環境	1
第1節 地理的環境	1
第2節 歴史的環境	1
第2章 長野原城跡	6
第1節 調査に至る経緯と経過	6
第2節 調査の方法	6
第3節 調査区の設定	6
第4節 遺跡の立地と基本土層	8
第5節 検出された遺構と遺物	8
第1項 A区	9
第2項 B区	9
第3項 C区	9
第6節 調査の総括	20
出土遺物観察表	22
第3章 林中原1遺跡	23
第1節 調査に至る経緯と経過	23
第2節 調査の方法	24
第3節 調査区の設定	24
第4節 遺跡の立地と基本土層	25
第5節 検出された遺構と遺物	26
第1項 縄文時代	26
1 住居 2 竪穴状遺構 3 土坑 4 焼土 5 遺構外出土遺物	26
第2項 中近世	58
1 林城	67
堰 石垣 土橋 橋 虎口 池	
第1区画 盛土下面 ビット群 土坑 石垣 礎石 スロープ 道 削平面 溝 遺構外出土遺物	
第2区画 礎石建物(景石) 焼土 土坑 土取穴 北側 遺構外出土遺物	
第3区画 石垣 掘立柱建物 柱穴列 遺物出土ビット 焼土 土坑 溝 遺構外出土遺物	
第4区画 土坑 溝 焼土	
第5区画 石垣 遺構外出土遺物	
第6区画 掘立柱建物 柱穴列 配石 土坑 溝 焼土 遺構外出土遺物	
第7区画 掘立柱建物 遺物出土ビット 竪穴状遺構 土坑 溝 礎石建物	
2 中近世屋敷	199
掘立柱建物 柱穴列 遺物出土ビット 竪穴状遺構 落ち込み 土坑 溝 焼土 井戸 遺構外出土遺物	
3 その他	262
掘立柱建物 竪穴状遺構 土坑 人骨 獣骨 溝 遺物出土ビット 旧石器時代確認調査 遺構外出土遺物	
第6節 自然科学分析	282
第1項 林中原1遺跡出土人骨	282
第2項 林中原1遺跡出土の獣骨	287
第3項 林中原1遺跡の自然科学分析	292
第7節 調査の総括	304
第1項 まとめ	304
第2項 林城第3区画の建物と変遷	304
第3項 中近世屋敷(52・53区)の掘立柱建物の検討	308
ビット一覧表	313
出土遺物観察表	328

写真図版

抄録

插图目次

第1図	長野原城跡・林中原1道跡及び中近世の周辺道跡位置図 3	第54図	63区土坑..... 48
長野原城跡		第55図	72区土坑..... 48
第2図	長野原城跡発掘調査区全体図..... 7	第56図	73区土坑(1)..... 48
第3図	長野原城跡基本土層..... 8	第57図	73区土坑(2)..... 49
第4図	A区全体図..... 10	第58図	84区土坑..... 49
第5図	A区上層断面図..... 11	第59図	土坑出土遺物(1)..... 49
第6図	A区加..... 12	第60図	土坑出土遺物(2)..... 50
第7図	B区全体図..... 13	第61図	53区1号坑..... 52
第8図	B区1号トレンチ..... 14	第62図	道溝外出土遺物(1)..... 52
第9図	B区3号トレンチ..... 14	第63図	道溝外出土遺物(2)..... 53
第10図	B区2号トレンチ..... 15	第64図	道溝外出土遺物(3)..... 54
第11図	A区出土遺物(1)..... 15	第65図	道溝外出土遺物(4)..... 55
第12図	C区トレンチ位置図..... 16	第66図	道溝外出土遺物(5)..... 56
第13図	C区全体図..... 17	第67図	道溝外出土遺物(6)..... 57
第14図	C区旧石器確認トレンチ配置図..... 18	中近世	
第15図	C区旧石器確認トレンチ上層断面図..... 19	第68図	調査区図..... 59
第16図	A区出土遺物(2)..... 19	第69図	林城・第1～7区画周辺地形図..... 60
第17図	B・C区出土遺物..... 20	第70図	第1・2区画全体図(1)..... 61
第18図	長野原城跡縄張り(1)..... 20	第71図	第1・2区画全体図(2)..... 62
第19図	長野原城跡縄張り(2)..... 21	第72図	第1・2区画全体図(3)..... 63
第20図	長野原城跡略図..... 21	第73図	第1・2区画全体図(4)..... 64
林中原1道跡		第74図	第1・2区画全体図(5)..... 65
第21図	林中原1道跡基本土層..... 25	第75図	第1～6区画全体図・道溝断面図(1)..... 66
縄文時代		第76図	第1～6区画全体図・道溝断面図(2)..... 67
第22図	縄文時代遺構全体図(1)..... 27	林城	
第23図	縄文時代遺構全体図(2)..... 28	第77図	1・2号堀(1)..... 68
第24図	52区1号住居..... 29	第78図	1・2号堀(2)..... 69
第25図	52区1号住居出土遺物..... 30	第79図	1号堀出土遺物..... 69
第26図	53区1号住居(1)..... 31	第80図	第1区画4号ピット..... 70
第27図	53区1号住居(2)..... 32	第81図	第1区画4号ピット出土遺物..... 70
第28図	53区1号住居出土遺物(1)..... 32	第82図	2号石垣(1)..... 71
第29図	53区1号住居出土遺物(2)..... 33	第83図	2号石垣(2)..... 72
第30図	53区1号住居出土遺物(3)..... 34	第84図	土橋..... 73
第31図	53区2号住居(1)..... 34	第85図	1号橋(1)..... 74
第32図	53区2号住居(2)..... 35	第86図	1号橋(2)..... 74
第33図	53区2号住居出土遺物(1)..... 35	第87図	3号堀..... 75
第34図	53区2号住居出土遺物(2)..... 36	第88図	3号堀出土遺物..... 75
第35図	53区3号住居(1)..... 36	第89図	2号橋..... 76
第36図	53区3号住居(2)..... 37	第90図	5号堀..... 77
第37図	53区3号住居出土遺物..... 37	第91図	5号堀出土遺物..... 77
第38図	54区1号住居..... 38	第92図	6号堀..... 78
第39図	54区1号住居出土遺物(1)..... 38	第93図	6号堀出土遺物..... 78
第40図	54区1号住居出土遺物(2)..... 39	第94図	7号堀..... 79
第41図	53区1号竪穴状遺構..... 40	第95図	虎口..... 80
第42図	53区1号竪穴状遺構出土遺物..... 40	第96図	1・2号池..... 81
第43図	第1区画土坑..... 41	第97図	1号池(1)..... 82
第44図	第4区画土坑(1)..... 41	第98図	1号池(2)..... 83
第45図	第4区画土坑(2)..... 42	第99図	1号池(3)..... 84
第46図	第6区画土坑(1)..... 42	第100図	1号池出土遺物(1)..... 84
第47図	第6区画土坑(2)..... 43	第101図	1号池出土遺物(2)..... 85
第48図	52区土坑..... 43	第102図	1号池出土遺物(3)..... 86
第49図	53区土坑(1)..... 44	第103図	1号池出土遺物(4)..... 87
第50図	53区土坑(2)..... 45	第104図	1号池出土遺物(5)..... 88
第51図	53区土坑(3)..... 46	第105図	1号池出土遺物(6)..... 89
第52図	54区土坑..... 47	第106図	2号池(1)..... 90
第53図	62区土坑..... 48	第107図	2号池(2)..... 91
		第108図	2号池出土遺物(1)..... 91
		第109図	2号池出土遺物(2)..... 92
		第1区画	

第11089	盛上下面	94	第17089	第3区画遺物出土ピット	148
第11189	盛上下面出土遺物	95	第17189	第3区画ピット出土遺物	148
第11289	第1区画ピット群	95	第17289	第3区画1号塼上	149
第11389	第1区画土坑(1)	97	第17389	第3区画土坑(1)	149
第11489	第1区画土坑(2)	98	第17489	第3区画土坑(2)	150
第11589	第1区画土坑(3)	99	第17589	第3区画土坑出土遺物	151
第11689	第1区画土坑(4)	100	第17689	第3区画1～6号溝	153
第11789	第1区画土坑(5)	101	第17789	第3区画6号溝出土遺物	154
第11889	第1区画土坑(6)	102	第17889	第3区画遺構外出土遺物	154
第11989	第1区画土坑(7)	103		第4区画	
第12089	第1区画土坑出土遺物	103	第17989	第4区画土坑	155
第12189	1号石垣出土遺物	104	第18089	第4区画1～4号溝	156
第12289	1号石垣(1)	105	第18189	第4区画1号塼上	156
第12389	1号石垣(2)	106		第5区画	
第12489	5号石垣出土遺物	107	第18289	4号石垣(1)	157
第12589	5号石垣	108	第18389	第5区画全体図	158
第12689	第1区画1号礎石	109	第18489	4号石垣(2)	159
第12789	スロープ(1)	110	第18589	4号石垣出土遺物	159
第12889	スロープ(2)	111	第18689	第5区画遺構外出土遺物(1)	159
第12989	スロープ(3)	112	第18789	第5区画遺構外出土遺物(2)	160
第13089	スロープ出土遺物	113		第6区画	
第13189	1号道	114	第18889	第6区画全体図	162
第13289	削平面出土遺物	115	第18989	第6区画1号掘立柱建物	163
第13389	削平面	115	第19089	第6区画2号掘立柱建物	164
第13489	第1区画1・2号溝	116	第19189	第6区画3号掘立柱建物	164
第13589	第1区画遺構外出土遺物(1)	116	第19289	第6区画4号掘立柱建物	165
第13689	第1区画遺構外出土遺物(2)	117	第19389	第6区画5号掘立柱建物	165
第13789	第1区画遺構外出土遺物平面図	117	第19489	第6区画6号掘立柱建物	166
	第2区画		第19589	第6区画7号掘立柱建物(1)	167
第13889	第2区画1号礎石建物	118	第19689	第6区画7号掘立柱建物(2)	168
第13989	第2区画1号礎石建物及び1号基石	119	第19789	第6区画8号掘立柱建物	169
第14089	第2区画1号基石	120	第19889	第6区画9号掘立柱建物	170
第14189	第2区画1号礎石建物出土遺物	120	第19989	第6区画10号掘立柱建物	171
第14289	第2区画1～6号塼上	122	第20089	第6区画1・3・4号柱穴列	172
第14389	第2区画塼上出土遺物	123	第20189	第6区画1号配石	173
第14489	第2区画土坑	123	第20289	第6区画1号配石出土遺物(1)	173
第14589	第2区画土坑出土遺物	123	第20389	第6区画1号配石出土遺物(2)	174
第14689	第2区画土取穴(1)	124	第20489	第6区画1号土坑(1)	174
第14789	第2区画土取穴(2)	125	第20589	第6区画1号土坑(2)	175
第14889	第2区画土取穴(3)	126	第20689	第6区画1号溝	176
第14989	第2区画土取穴出土遺物(1)	127	第20789	第6区画2号溝	176
第15089	第2区画土取穴出土遺物(2)	128	第20889	第6区画1号塼上	176
第15189	第2区画北側(1)	129	第20989	第6区画遺構外出土遺物	176
第15289	第2区画北側(2)	130		第7区画	
第15389	第2区画遺構外出土遺物	130	第21089	第7区画全体図	178
	第3区画		第21189	第7区画1号掘立柱建物	179
第15489	第3区画全体図	132	第21289	第7区画2号掘立柱建物	180
第15589	3号石垣(1)	133	第21389	第7区画3号掘立柱建物	182
第15689	3号石垣(2)	134	第21489	第7区画4号掘立柱建物	183
第15789	3号石垣(3)	135	第21589	第7区画5号掘立柱建物	184
第15889	3号石垣出土遺物(1)	136	第21689	第7区画6号掘立柱建物	185
第15989	3号石垣出土遺物(2)	137	第21789	第7区画7号掘立柱建物	187
第16089	第3区画1号掘立柱建物(1)	138	第21889	第7区画8号掘立柱建物	188
第16189	第3区画1号掘立柱建物(2)	139	第21989	第7区画9号掘立柱建物	189
第16289	第3区画2号掘立柱建物	140	第22089	第7区画10号掘立柱建物	190
第16389	第3区画3号掘立柱建物	141	第22189	第7区画11号掘立柱建物	191
第16489	第3区画4号掘立柱建物	142	第22289	第7区画掘立柱建物出土遺物	191
第16589	第3区画5号掘立柱建物	144	第22389	第7区画遺物出土ピット	191
第16689	第3区画6号掘立柱建物	145	第22489	第7区画ピット出土遺物	191
第16789	第3区画7号掘立柱建物	146	第22589	第7区画2号壁穴状遺構	192
第16889	第3区画掘立柱建物出土遺物	147	第22689	第7区画土坑	193
第16989	第3区画1号柱穴列	147	第22789	第7区画土坑出土遺物	193

第2280図	第7区画2～6号溝(1)・・・・・・・・・・	195
第2290図	第7区画1号溝・・・・・・・・・・	196
第2300図	第7区画2～6号溝(2)・・・・・・・・・・	196
第2310図	第7区画溝出土遺物・・・・・・・・・・	196
第2320図	第7区画1号礎石建物・・・・・・・・・・	197
第2330図	第7区画1号礎石建物出土遺物・・・・・・・・	197
第2340図	第7区画2号礎石建物・・・・・・・・・・	198
第2350図	第7区画2号礎石建物出土遺物・・・・・・・・	198
中近世版敷		
第2360図	中近世版敷全体図(掘立柱建物・柱穴列除く)・・	200
第2370図	中近世版敷掘立柱建物・柱穴列(1)・・	201
第2380図	中近世版敷掘立柱建物・柱穴列(2)・・	202
第2390図	S2区1号掘立柱建物・・・・・・・・・・	203
第2400図	S2区2号掘立柱建物・・・・・・・・・・	204
第2410図	S2区2号掘立柱建物上層断面図・・・・・・・・	205
第2420図	S2区3号掘立柱建物・・・・・・・・・・	206
第2430図	S2区4号掘立柱建物・・・・・・・・・・	207
第2440図	S2区5号掘立柱建物・・・・・・・・・・	207
第2450図	S2区6号掘立柱建物・・・・・・・・・・	208
第2460図	S2区7号掘立柱建物・・・・・・・・・・	209
第2470図	S2区8号掘立柱建物・・・・・・・・・・	210
第2480図	S2区9号掘立柱建物・・・・・・・・・・	211
第2490図	S2区10号掘立柱建物・・・・・・・・・・	213
第2500図	S2区11号掘立柱建物・・・・・・・・・・	213
第2510図	S2区12号掘立柱建物・・・・・・・・・・	214
第2520図	S2区13号掘立柱建物・・・・・・・・・・	215
第2530図	S2区14号掘立柱建物・・・・・・・・・・	216
第2540図	S2区14号掘立柱建物上層断面図・・・・・・・・	217
第2550図	S2区15号掘立柱建物・・・・・・・・・・	217
第2560図	S2区16号掘立柱建物・・・・・・・・・・	219
第2570図	S2区17号掘立柱建物・・・・・・・・・・	220
第2580図	S2区18号掘立柱建物・・・・・・・・・・	221
第2590図	S2区19号掘立柱建物・・・・・・・・・・	222
第2600図	S2区20号掘立柱建物・・・・・・・・・・	223
第2610図	S2区21号掘立柱建物・・・・・・・・・・	224
第2620図	S2区22号掘立柱建物・・・・・・・・・・	225
第2630図	S2区23号掘立柱建物・・・・・・・・・・	226
第2640図	S2区24号掘立柱建物・・・・・・・・・・	227
第2650図	S2区25号掘立柱建物・・・・・・・・・・	228
第2660図	S2区26号掘立柱建物・・・・・・・・・・	229
第2670図	S2区27号掘立柱建物・・・・・・・・・・	230
第2680図	S2区27号掘立柱建物上層断面図・・・・・・・・	231
第2690図	S2区28号掘立柱建物・・・・・・・・・・	231
第2700図	S2区29号掘立柱建物・・・・・・・・・・	232
第2710図	S2区30号掘立柱建物・・・・・・・・・・	233
第2720図	S2区31号掘立柱建物・・・・・・・・・・	234
第2730図	S2区32号掘立柱建物・・・・・・・・・・	235
第2740図	S2区33号掘立柱建物・・・・・・・・・・	236
第2750図	S3区1号掘立柱建物・・・・・・・・・・	236
第2760図	S3区5号掘立柱建物・・・・・・・・・・	237
第2770図	S3区7号掘立柱建物・・・・・・・・・・	238
第2780図	S3区6号掘立柱建物・・・・・・・・・・	239
第2790図	S2区1号柱穴列・・・・・・・・・・	240

第2800図	S3区1～5号柱穴列・・・・・・・・・・	242
第2810図	S2区掘立柱建物出土遺物・・・・・・・・・・	243
第2820図	S2区遺物出土ピット・・・・・・・・・・	244
第2830図	S2区ピット出土遺物・・・・・・・・・・	244
第2840図	S2区1号竪穴状遺構(1)・・・・・・・・・・	246
第2850図	S2区1号竪穴状遺構(2)・・・・・・・・・・	247
第2860図	S2区1号竪穴状遺構出土遺物(1)・・・・・・・・	248
第2870図	S2区1号竪穴状遺構出土遺物(2)・・・・・・・・	249
第2880図	S2区2号竪穴状遺構・・・・・・・・・・	250
第2890図	S2区3号竪穴状遺構・・・・・・・・・・	250
第2900図	S2区4号竪穴状遺構・・・・・・・・・・	250
第2910図	S2区1号落ち込み・・・・・・・・・・	251
第2920図	S2区1号落ち込み出土遺物(1)・・・・・・・・	251
第2930図	S2区1号落ち込み出土遺物(2)・・・・・・・・	252
第2940図	S2区上坑(1)・・・・・・・・・・	253
第2950図	S2区上坑(2)・・・・・・・・・・	254
第2960図	S2区上坑(3)・・・・・・・・・・	255
第2970図	S3区上坑・・・・・・・・・・	256
第2980図	S2区上坑出土遺物・・・・・・・・・・	256
第2990図	S2区1・3・4号溝・・・・・・・・・・	258
第3000図	S3区1号溝・・・・・・・・・・	259
第3010図	S2区1号塼土・・・・・・・・・・	259
第3020図	S2区1号井戸・・・・・・・・・・	260
第3030図	遺構外出土遺物(1)・・・・・・・・・・	260
第3040図	遺構外出土遺物(2)・・・・・・・・・・	261

その他		
第3050図	その他の遺構全体図・・・・・・・・・・	263
第3060図	S3区2号掘立柱建物・・・・・・・・・・	264
第3070図	S3区3号掘立柱建物・・・・・・・・・・	265
第3080図	S3区4号掘立柱建物・・・・・・・・・・	265
第3090図	S4区1号竪穴状遺構・・・・・・・・・・	266
第3100図	S4区1号竪穴状遺構出土遺物・・・・・・・・	266
第3110図	S3区上坑(1)・・・・・・・・・・	267
第3120図	S3区上坑(2)・・・・・・・・・・	268
第3130図	S3区上坑(3)・・・・・・・・・・	269
第3140図	S4区上坑・・・・・・・・・・	269
第3150図	62区上坑・・・・・・・・・・	270
第3160図	63区上坑・・・・・・・・・・	270
第3170図	人骨・骸骨出土遺構位置図・・・・・・・・	272
第3180図	墓(1)・・・・・・・・・・	274
第3190図	墓(2)・・・・・・・・・・	275
第3200図	墓出土遺物(1)・・・・・・・・・・	275
第3210図	墓出土遺物(2)・・・・・・・・・・	276
第3220図	第2区画骸骨・・・・・・・・・・	277
第3230図	S3区2・3号溝・・・・・・・・・・	278
第3240図	S3・54区遺物出土ピット・・・・・・・・・・	279
第3250図	S3・54区ピット出土遺物・・・・・・・・・・	279
第3260図	S3・54区遺構外・表層出土遺物・・・・・・・・	280
第3270図	旧石器確認調査・・・・・・・・・・	281

調査の経緯		
第3280図	第3区画建物変遷案・・・・・・・・・・	305
第3290図	建物新旧関係図・・・・・・・・・・	309
第3300図	中近世版敷建物変遷案・・・・・・・・・・	310

表目次

表1	中近世周辺道路一覧表・・・・・・・・・・	2
長野原城跡		
表2	出土遺物観察表・・・・・・・・・・	22
林中原1遺跡		
表3	縄文時代住居一覧表・・・・・・・・・・	26
表4	縄文時代土坑一覧表・・・・・・・・・・	50

林城		
表5	1号堀計測表・・・・・・・・・・	74
表6	2号堀計測表・・・・・・・・・・	76
第1・2・3・4区画		
表7	第1区画ピット番計測表・・・・・・・・・・	95
表8	第1区画上坑一覧表・・・・・・・・・・	104

表9	第2区画土坑一覧表	123
表10	第3区画1号掘立柱建物計測表	137
表11	第3区画2号掘立柱建物計測表	139
表12	第3区画3号掘立柱建物計測表	141
表13	第3区画4号掘立柱建物計測表	141
表14	第3区画5号掘立柱建物計測表	143
表15	第3区画6号掘立柱建物計測表	143
表16	第3区画7号掘立柱建物計測表	143
表17	第3区画1号柱穴計測表	147
表18	第3区画土坑一覧表	151
表19	第4区画土坑一覧表	155

第6区画

表20	第6区画1号掘立柱建物計測表	161
表21	第6区画2号掘立柱建物計測表	161
表22	第6区画3号掘立柱建物計測表	161
表23	第6区画4号掘立柱建物計測表	165
表24	第6区画5号掘立柱建物計測表	165
表25	第6区画6号掘立柱建物計測表	166
表26	第6区画7号掘立柱建物計測表	166
表27	第6区画8号掘立柱建物計測表	168
表28	第6区画9号掘立柱建物計測表	168
表29	第6区画10号掘立柱建物計測表	170
表30	第6区画1号柱穴計測表	171
表31	第6区画3号柱穴計測表	171
表32	第6区画4号柱穴計測表	171
表33	第6区画土坑一覧表	175

第7区画

表34	第7区画1号掘立柱建物計測表	177
表35	第7区画2号掘立柱建物計測表	177
表36	第7区画3号掘立柱建物計測表	181
表37	第7区画4号掘立柱建物計測表	181
表38	第7区画5号掘立柱建物計測表	185
表39	第7区画6号掘立柱建物計測表	186
表40	第7区画7号掘立柱建物計測表	186
表41	第7区画8号掘立柱建物計測表	186
表42	第7区画9号掘立柱建物計測表	189
表43	第7区画10号掘立柱建物計測表	190
表44	第7区画11号掘立柱建物計測表	191
表45	第7区画土坑一覧表	193

中近世屋敷

表46	52区1号掘立柱建物計測表	199
表47	52区2号掘立柱建物計測表	199
表48	52区3号掘立柱建物計測表	205
表49	52区4号掘立柱建物計測表	205
表50	52区5号掘立柱建物計測表	207
表51	52区6号掘立柱建物計測表	208
表52	52区7号掘立柱建物計測表	209
表53	52区8号掘立柱建物計測表	209
表54	52区9号掘立柱建物計測表	210
表55	52区10号掘立柱建物計測表	211
表56	52区11号掘立柱建物計測表	212
表57	52区12号掘立柱建物計測表	212
表58	52区13号掘立柱建物計測表	212
表59	52区14号掘立柱建物計測表	214
表60	52区15号掘立柱建物計測表	215
表61	52区16号掘立柱建物計測表	218
表62	52区17号掘立柱建物計測表	218
表63	52区18号掘立柱建物計測表	218
表64	52区19号掘立柱建物計測表	222
表65	52区20号掘立柱建物計測表	222
表66	52区21号掘立柱建物計測表	223
表67	52区22号掘立柱建物計測表	224

表68	52区23号掘立柱建物計測表	225
表69	52区24号掘立柱建物計測表	226
表70	52区25号掘立柱建物計測表	227
表71	52区26号掘立柱建物計測表	229
表72	52区27号掘立柱建物計測表	231
表73	52区28号掘立柱建物計測表	231
表74	52区29号掘立柱建物計測表	232
表75	52区30号掘立柱建物計測表	233
表76	52区31号掘立柱建物計測表	233
表77	52区32号掘立柱建物計測表	234
表78	52区33号掘立柱建物計測表	235
表79	53区1号掘立柱建物計測表	236
表80	53区5号掘立柱建物計測表	237
表81	53区6号掘立柱建物計測表	237
表82	53区7号掘立柱建物計測表	237
表83	53区1号柱穴計測表	239
表84	53区1号柱穴計測表	240
表85	53区2号柱穴計測表	240
表86	53区3号柱穴計測表	241
表87	53区4号柱穴計測表	241
表88	53区5号柱穴計測表	241
表89	52・53区土坑一覧表	257

その他

表90	53区2号掘立柱建物計測表	262
表91	53区3号掘立柱建物計測表	264
表92	53区4号掘立柱建物計測表	265
表93	53・54・62・63区土坑一覧表	271
表94	人骨(第)一覧表	273
表95	獣骨一覧表	277

自然科学分析

表96	林中原1遺跡出土人骨まとめ	286
表97	林中原1遺跡出土人骨歯計測及び比較表	286
表98	第1区画36号土坑馬歯計測値(1部36号土坑)	290
表99	第2区画1号馬歯計測値(2部1号馬)	290
表100	第2区画3号馬歯計測値(2部3号馬)	290
表101	第2区画4号馬歯計測値(2部2号馬)	291
表102	第2区画6号馬歯計測値(2部5号土取穴)	291
表103	1号池歯計測値(1号池)	291
表104	馬切歯計測値	291
表105	放射性炭素年代測定結果	293
表106	暦年校正結果	293
表107	樹種同定結果(木製品・建築部材)	294
表108	樹種同定結果(炭化材)	294
表109	種実同定結果	296
表110	骨同定結果	297

調査の総括

表111	掘立柱建物新旧表	304
表112	屋敷建物総括表	304
表113	第3区画建物計測表	304
表114	52・53区掘立柱建物一覧表	308
表115	掘立柱建物新旧表	309
表116	屋敷建物総括表	311
表117	ビット一覧表	313
表118	出土遺物観察表	328

写真目次

口絵1	1	長野原城跡 調査状況(北西から)			
	2	長野原城跡 調査地点遠景(北西から)			
	3	長野原城跡 遠景(南西から)			
口絵2		林中原1道跡 第3・4・5・6・7区画(北東から)			
口絵3	1	林中原1道跡 1号堀と第1区画東側、発掘前の第1区画最高所の盛土部分(北東から)			
	2	林中原1道跡 1・2号堀と土橋、第1区画東側と第3区画西側(北から)			
口絵4	1	林中原1道跡 2号石垣と土橋、写真上左が1号石垣、右が3号石垣(南東から)			
	2	林中原1道跡 2号石垣と土橋、写真上が第3区画の縦立柱建物(西から)			
口絵5	1	林中原1道跡 2号石垣と土橋上層断面、石垣と土橋との関係がわかる。(東から)			
	2	林中原1道跡 2号石垣に残っていた矢跡(南から)			
	3	林中原1道跡 第3区画、ピットの多くが7棟の縦立柱建物の柱穴である。(上空から)			
口絵6	1	林中原1道跡 2号池(南東から)			
	2	林中原1道跡 1号池(手前) 2号池(奥) (南から)			
	3	林中原1道跡 2号池(手前) 1号池(奥) (北東から)			
口絵7	1	林中原1道跡 中近世屋敷(南上空から)			
	2	林中原1道跡 横方向溝の南が第6区画、北が第7区画の一部(上空から)			
口絵8	1	林中原1道跡 52区1号型穴状遺構内耳土器出土状況(南から)			
	2	林中原1道跡 同上(北東から)			
	3	林中原1道跡 52区1号型穴状遺構全景(北から)			
長野原城跡			林中原1道跡		
遺構写真			遺構写真		
PL. 1	1	畑全景(南から)	PL. 4	1	52区1号住居全景(東から)
	2	畑(北から)	2	52区1号住居掘り方全景(東から)	
	3	畑(南から)	3	52区1号住居掘り方土層断面(南から)	
	4	全景(南から)	4	52区1号住居土層断面(西から)	
	5	畑断面(東から)	5	52区1号住居P3土層断面(西から)	
	6	畑断面(南から)	6	53区1号住居全景(北から)	
	7	畑断面(南から)	7	53区1号住居全景(北から)	
	8	トレンチ(南から)	8	53区1号住居土層断面(南から)	
	9	トレンチ(北から)	9	53区1号住居遺物出土状態(西から)	
	10	南側調査状況(南東から)	PL. 5	1	1号住居P4全景(北から)
	11	トレンチ(西から)	2	1号住居P4土層断面(西から)	
	12	トレンチ(西から)	3	1号住居掘り方土層断面(南から)	
PL. 2	1	1号トレンチ発掘前(東から)	4	2号住居全景(南東から)	
	2	1号トレンチ(東から)	5	2号住居全景(北東から)	
	3	1号トレンチ(東から)	6	2号住居掘り方土層断面(南西から)	
	4	1号トレンチ(東から)	7	3号住居全景(北から)	
	5	1号トレンチ(南から)	8	3号住居全景(南から)	
	6	1号トレンチ出土渡来銭(南西から)	9	3号住居土層断面(北から)	
	7	2号トレンチ調査前(東から)	PL. 6	1	53区3号住居P1土層断面(北西から)
	8	2号トレンチ(西から)	2	53区3号住居P1出土遺物(北から)	
	9	2号トレンチ(東から)	3	53区3号住居P1出土遺物(南から)	
	10	2号トレンチ(南西から)	4	53区3号住居P1全景(南から)	
	11	3号トレンチ調査前(南東から)	5	53区3号住居P1遺物出土状態(南から)	
	12	3号トレンチ(南東から)	6	53区3号住居P1掘り方全景(南から)	
	13	3号トレンチ(南西から)	7	54区1号住居全景(西から)	
	14	3号トレンチ調査状況(南東から)	8	54区1号住居土層断面(南から)	
	15	3号トレンチ(南東から)	9	54区1号住居土層断面(東から)	
PL. 3	1	発掘地点(南から)	10	54区1号住居P2(西から)	
	2	調査前(北東から)	11	54区1号住居境上(北西から)	
	3	調査前(南東から)	12	53区1号型穴状遺構全景(北から)	
	4	トレンチ調査(北西から)	PL. 7	1	第1区画37号土坑全景(北から)
	5	トレンチ調査(南東から)	2	第1区画38号土坑全景(西から)	
	6	調査状況(西から)	3	第1区画39号土坑全景(南から)	
	7	調査状況(北から)	4	第1区画39・40号土坑全景(南西から)	
	8	トレンチA-A'(北東から)	5	第1区画41号土坑全景(北から)	
	9	旧石器試掘(西から)	6	第1区画41・42・43号土坑全景(北東から)	
遺物写真		A・B・C区出土遺物	7	第1区画42・43号土坑全景(北東から)	
			8	第1区画43号土坑土層断面(東から)	

	9	第4区画5号土坑全景(西から)	11	58・59号土坑全景(南から)
	10	第4区画5号土坑上層断面(西から)	12	64号土坑全景(南から)
	11	第4区画6号土坑全景(北から)	13	65号土坑全景(南から)
	12	第4区画6号土坑上層断面(南から)	14	67号土坑全景(南から)
	13	第4区画7号土坑全景(西から)	15	68号土坑全景(南から)
	14	第4区画7号土坑上層断面(西から)	PL. 12	1 53K69号土坑全景(南から)
	15	第6区画4・5号土坑全景(南から)	2	53K73号土坑全景(南東から)
PL. 8	1	8号土坑全景(北から)	3	54K11号土坑全景(南から)
	2	8号土坑上層断面(西から)	4	54K12号土坑全景(南西から)
	3	12号土坑全景(西から)	5	54K16号土坑全景(北から)
	4	14号土坑上層断面(南東から)	6	54K18号土坑全景(南から)
	5	15号土坑全景(南から)	7	54K19号土坑全景(南から)
	6	17号土坑全景(南から)	8	54K23号土坑全景(南から)
	7	18号土坑全景(南から)	9	54K24号土坑全景(南から)
	8	19号土坑全景(南から)	10	54K26号土坑全景(南から)
	9	20号土坑全景(南から)	11	54K27号土坑全景(南から)
	10	21号土坑全景(南から)	12	54K28号土坑全景(南から)
	11	21号土坑上層断面(南から)	13	54K31号土坑全景(南から)
	12	22号土坑全景(南から)	14	54K32号土坑全景(南から)
	13	23号土坑全景(西から)	15	54K33号土坑全景(東から)
	14	24号土坑全景(西から)	PL. 13	1 54K34号土坑全景(南から)
	15	25号土坑全景(西から)	2	62K2・3号土坑全景(東から)
PL. 9	1	第6区画26号土坑全景(北から)	3	62K4号土坑全景(東から)
	2	52K25・26号土坑全景(西から)	4	62K5号土坑全景(東から)
	3	52K27号土坑全景(北から)	5	63K7号土坑全景(南から)
	4	52K56号土坑全景(南から)	6	63K8号土坑上層断面(南から)
	5	52K57号土坑全景(北から)	7	63K9号土坑全景(南から)
	6	52K58号土坑全景(北から)	8	72K1号土坑全景(南から)
	7	53K2・3号土坑全景(北東から)	9	72K2号土坑全景(東から)
	8	53K4号土坑全景(北から)	10	72K3号土坑全景(南から)
	9	53K5号土坑上層断面(北から)	11	73K1・2号土坑全景(南から)
	10	53K6号土坑全景(北から)	12	73K3号土坑上層断面(北から)
	11	53K12号土坑上層断面(北から)	13	73K4号土坑全景(東から)
	12	53K13号土坑全景(南西から)	14	84K1号土坑全景(南から)
	13	53K14号土坑全景(南から)	15	53K1号礎土上層断面(西から)
	14	53K19号土坑全景(南西から)	PL. 14	1 1号礎全景(北から)
	15	53K20号土坑全景(北から)	2	1号礎履り方全景(南から)
PL. 10	1	23号土坑全景(東から)	3	1号礎全景(西から)
	2	27号土坑全景(北から)	4	1号礎上層断面(南から)
	3	28号土坑全景(東から)	5	2号礎上層断面(北から)
	4	30号土坑全景(北から)	6	3号礎全景(北から)
	5	31号土坑全景(西から)	7	3号礎全景(南から)
	6	32号土坑全景(北から)	8	3号礎上層断面(南から)
	7	33号土坑全景(西から)	9	5号礎全景(東から)
	8	33号土坑上層断面(南東から)	10	5号礎出土遺物(西から)
	9	34号土坑全景(北東から)	11	6号礎全景(南東から)
	10	35号土坑全景(南西から)	12	7号礎全景(南から)
	11	36号土坑上層断面(南から)	PL. 15	1 2号石垣全景(南から)
	12	37号土坑全景(南東から)	2	2号石垣と土橋全景(東から)
	13	38号土坑全景(西から)	3	2号石垣と土橋全景(南から)
	14	39号土坑全景(南から)	4	2号石垣と土橋全景(南から)
	15	40号土坑全景(北から)	5	2号石垣脚体(西から)
PL. 11	1	41号土坑全景(北から)	6	2号石垣脚体(東から)
	2	42号土坑全景(南東から)	7	2号石垣脚体(南から)
	3	46号土坑出土遺物(西から)	8	2号石垣矢跡の残る石(南から)
	4	50号土坑遺物出土状態(西から)	9	2号石垣と土橋全景(西から)
	5	50号土坑上層断面(南東から)	10	2号石垣と土橋上層断面(東から)
	6	52号土坑全景(西から)	11	2号石垣と土橋上層断面(東から)
	7	53号土坑全景(東から)	12	2号石垣と土橋上層断面(西から)
	8	54号土坑上層断面(西から)	PL. 16	1 1号礎全景(北から)
	9	56号土坑全景(南から)	2	2号礎全景(北から)
	10	57号土坑遺物出土状態(東から)	3	虎口全景(北から)

	4	1号池全景(北から)		9	スロープ上層断面(東から)
	5	1号池全景(南西から)		10	スロープ上層断面(東から)
	6	1号池全景(南西から)		11	1号道掘り方全景(東から)
	7	1・2号池全景(北から)		12	1号道土層断面(東から)
	8	1号池出土遺物(南西から)		13	1号道土層断面(東から)
	9	1号池全景(北から)		14	削平面(東から)
PL. 17	1	2号池全景(北から)		15	1号溝全景(北から)
	2	2号池全景(東から)	PL. 22	1	1号礎石建物全景(西から)
	3	2号池全景(東から)		2	1号礎石建物全景(西から)
	4	1・2号池全景(北から)		3	1号礎石建物遺物出土状態(西から)
	5	2号池全景(北から)		4	1号礎石建物土層断面(西から)
	6	2号池全景(北から)		5	1号礎石建物上層断面(西から)
	7	2号池全景(南から)		6	1号礎石建物全景(西から)
	8	2号池全景(西から)		7	1～6号礎土全景(東から)
	9	第1区西盛上下及びビット群(北から)		8	1号礎土全景(南から)
PL. 18	1	1号土坑上層断面(南から)		9	1号礎土上層断面(南東から)
	2	2号土坑上層断面(南から)	PL. 23	1	2号礎土全景(南から)
	3	3号土坑全景(東から)		2	2号礎土上層断面(西から)
	4	4号土坑全景(南から)		3	3号礎土全景(南から)
	5	5号土坑全景(南から)		4	4号礎土全景(南から)
	6	6・7・8・9号土坑全景(西から)		5	4号礎土掘り方全景(東から)
	7	10号土坑全景(南から)		6	5号礎土全景(南から)
	8	11・12号土坑全景(北から)		7	6号礎土全景(南から)
	9	13・17号土坑全景(北から)		8	6号礎土掘り方全景(南から)
	10	14号土坑全景(南から)		9	1号土坑上層断面(東から)
	11	15号土坑全景(南から)		10	1・2号土坑遺物出土状態(東から)
	12	19号土坑全景(東から)		11	2号土坑遺物出土状態(東から)
	13	20号土坑全景(北から)		12	3号土坑遺物出土状態(南から)
	14	22号土坑全景(西から)		13	3号土坑遺物出土状態(南から)
	15	24号土坑全景(北から)		14	3号土坑上層断面(西から)
PL. 19	1	25号土坑全景(南から)		15	3号土坑全景(西から)
	2	27号土坑全景(南東から)	PL. 24	1	1～6号土取穴全景(東から)
	3	29号土坑全景(西から)		2	1号土取穴全景(東から)
	4	30号土坑全景(南から)		3	2号土取穴全景(北から)
	5	31号土坑遺物出土状態(北から)		4	2・4・5・6号土取穴全景(北から)
	6	31号土坑上層断面(西から)		5	3号土取穴遺物出土状態(南東から)
	7	31号土坑現・礎土出土状態(西から)		6	3号土取穴上層断面(西から)
	8	31・32号土坑上層断面(東から)		7	4号土取穴上層断面(北東から)
	9	32・33号土坑上層断面(西から)		8	5号土取穴全景(北から)
	10	35号土坑・P14・17全景(東から)		9	6号土取穴全景(北から)
	11	36号土坑現出土状態(南から)		10	北側全景(北から)
	12	36号土坑全景(北から)		11	北側ビット(南から)
	13	44号土坑全景(東から)		12	北側(北西から)
	14	45号土坑遺物出土状態(南から)	PL. 25	1	3号石垣全景(南東から)
	15	46号土坑上層断面(西から)		2	3号石垣全景(南から)
PL. 20	1	1・5号石垣全景(東から)		3	3号石垣全景(南から)
	2	1号石垣全景(北東から)		4	3号石垣掘り方全景(南東から)
	3	1号石垣上層断面(南から)		5	3号石垣掘り方全景(南東から)
	4	1号石垣上層断面(北から)		6	3号石垣上層断面(西から)
	5	1号石垣上層断面(南から)		7	3号石垣掘り方上層断面(西から)
	6	1号石垣掘り方全景(東から)		8	3号石垣掘り方上層断面(西から)
	7	1・5号石垣遺物出土状態(南東から)		9	3号石垣遺物出土状態(西から)
	8	5号石垣遺物出土状態(南から)	PL. 26	1	1号掘立柱建物P1(西から)
	9	南斜面全景(南から)		2	1号掘立柱建物P2上層断面(西から)
PL. 21	1	5号石垣(東から)		3	1号掘立柱建物P12上層断面(西から)
	2	5号石垣(南から)		4	1号掘立柱建物P15上層断面(南から)
	3	5号石垣(南から)		5	1号掘立柱建物P20上層断面(北から)
	4	5号石垣出土遺物(南から)		6	2号掘立柱建物P14上層断面(北から)
	5	5号石垣掘り方全景(南東から)		7	2号掘立柱建物全景(北から)
	6	1号礎石全景(東から)		8	2号掘立柱建物P10上層断面(南東から)
	7	スロープ(東から)		9	2号掘立柱建物P16上層断面(西から)
	8	スロープ(南東から)	PL. 27	1	3号掘立柱建物全景(北から)

	2	3号掘立柱建物P2土層断面(西から)	4	2号土坑土層断面(東から)
	3	3号掘立柱建物P4土層断面(西から)	5	3号土坑全景(南から)
	4	4号掘立柱建物全景(西から)	6	3号土坑土層断面(南から)
	5	4号掘立柱建物P2土層断面(南から)	7	2・3・4号溝全景(北から)
	6	4号掘立柱建物P16土層断面(西から)	8	4号土坑全景(南から)
	7	4号掘立柱建物P19土層断面(南から)	9	4号土坑土層断面(南から)
	8	4号掘立柱建物P20土層断面(南から)	10	1号坑土全景(北から)
	9	4号掘立柱建物P25土層断面(西から)	11	1号坑土層断面(南西から)
PL. 28	1	5号掘立柱建物全景(北から)	12	1号坑土掘り方全景(南から)
	2	5号掘立柱建物P2土層断面(西から)	PL. 33	1 第5区画全景(垂直)
	3	5号掘立柱建物P3土層断面(南から)	2	4号石垣全景(西から)
	4	6号掘立柱建物P2土層断面(南から)	3	4号石垣全景(西から)
	5	6号掘立柱建物P3土層断面(南から)	4	第5区画全景(北東から)
	6	6号掘立柱建物P11土層断面(西から)	5	4号石垣全景(西から)
	7	6号掘立柱建物全景(北から)	6	遺物出土状態(北東から)
	8	7号掘立柱建物P1土層断面(西から)	7	遺物出土状態(北から)
	9	7号掘立柱建物P2土層断面(東から)	8	遺物出土状態(北から)
PL. 29	1	7号掘立柱建物全景(北から)	9	遺物出土状態(西から)
	2	7号掘立柱建物P3土層断面(南から)	PL. 34	1 1・2号掘立柱建物全景(南から)
	3	7号掘立柱建物P6土層断面(南から)	2	1号掘立柱建物P1土層断面(南西から)
	4	7号掘立柱建物P13土層断面(西から)	3	1号掘立柱建物P3土層断面(南から)
	5	7号掘立柱建物P17土層断面(北西から)	4	2号掘立柱建物全景(南から)
	6	1号柱穴P1土層断面(南から)	5	1号掘立柱建物P12土層断面(西から)
	7	1号柱穴P4土層断面(西から)	6	2号掘立柱建物P3土層断面(西から)
	8	1号柱穴P5土層断面(東から)	7	2号掘立柱建物P6土層断面(西から)
	9	1号柱穴P6土層断面(西から)	8	2号掘立柱建物P7土層断面(西から)
	10	5号掘立柱建物東側P166(西から)	9	2号掘立柱建物P8土層断面(西から)
	11	6号掘立柱建物北側P200(南から)	PL. 35	1 3号掘立柱建物P4土層断面(西から)
	12	1号坑土全景(南から)	2	3号掘立柱建物P5土層断面(北西から)
PL. 30	1	1号土坑土層断面(南から)	3	3号掘立柱建物P7土層断面(南から)
	2	2号土坑全景(南から)	4	4号掘立柱建物P1土層断面(西から)
	3	3号土坑全景(南から)	5	4号掘立柱建物P3土層断面(西から)
	4	4号土坑全景(南から)	6	4号掘立柱建物P4土層断面(南東から)
	5	5号土坑全景(西から)	7	5号掘立柱建物全景(西から)
	6	6号土坑全景(西から)	8	5号掘立柱建物P2土層断面(西から)
	7	7号土坑全景(南から)	9	5号掘立柱建物P5土層断面(西から)
	8	8号土坑全景(南から)	10	5号掘立柱建物P8土層断面(西から)
	9	9号土坑全景(東から)	11	6号掘立柱建物P2土層断面(西から)
	10	10号土坑・P91・131全景(北から)	12	6号掘立柱建物P3土層断面(西から)
	11	11号土坑全景(北から)	PL. 36	1 6号掘立柱建物全景(西から)
	12	12号土坑土層断面(西から)	2	6号掘立柱建物P4土層断面(西から)
	13	13号土坑全景(西から)	3	7号掘立柱建物P6土層断面(西から)
	14	14号土坑全景(東から)	4	7号掘立柱建物全景(東から)
	15	15号土坑全景(西から)	5	7号掘立柱建物P7土層断面(北から)
PL. 31	1	16号土坑全景(南から)	6	7号掘立柱建物P14土層断面(南から)
	2	17号土坑全景(北から)	7	7号掘立柱建物P15土層断面(南から)
	3	18号土坑全景(北から)	8	7号掘立柱建物P28土層断面(南東から)
	4	19号土坑全景(南から)	9	7号掘立柱建物P31土層断面(南から)
	5	20号土坑全景(北から)	PL. 37	1 8号掘立柱建物全景(東から)
	6	21号土坑全景(西から)	2	8号掘立柱建物P1土層断面(西から)
	7	1・2号溝全景(西から)	3	8号掘立柱建物P3土層断面(北から)
	8	3号溝土層断面(東から)	4	8号掘立柱建物P7土層断面(北から)
	9	3号溝全景(東から)	5	8号掘立柱建物P21土層断面(南東から)
	10	3号溝全景(西から)	6	8号掘立柱建物P22土層断面(西から)
	11	4号溝全景(北から)	7	9号掘立柱建物全景(東から)
	12	4号溝土層断面(北から)	8	9号掘立柱建物P5土層断面(北から)
	13	5号溝土層断面(北から)	9	9号掘立柱建物P10土層断面(南から)
	14	6号溝全景(東から)	PL. 38	1 10号掘立柱建物全景(北から)
	15	6号溝土層断面(西から)	2	10号掘立柱建物P2土層断面(南から)
PL. 32	1	1号土坑全景(南から)	3	10号掘立柱建物P3土層断面(西から)
	2	1号土坑土層断面(南から)	4	10号掘立柱建物P8土層断面(南西から)
	3	2号土坑全景(東から)	5	1号柱穴P6全景(南から)

	6	1号柱穴P3上層断面(西から)		5	10号孤立柱建物P1上層断面(南から)		
	7	3号柱穴列全景(東から)		6	10号孤立柱建物P2上層断面(西から)		
	8	3号柱穴列P4上層断面(南から)		7	10号孤立柱建物P4上層断面(西から)		
	9	3号柱穴列P7上層断面(南から)		8	10号孤立柱建物P6上層断面(西から)		
	10	4号柱穴列全景(東から)		9	10号孤立柱建物P8上層断面(西から)		
	11	4号柱穴列P4上層断面(西から)		10	11号孤立柱建物P2上層断面(南から)		
	12	4号柱穴列P2上層断面(北から)		11	11号孤立柱建物P3上層断面(南から)		
PL 39	1	1号配石全景(南から)	PL 45	1	2号祭穴遺構全景(東から)		
	2	1号配石上層断面(南から)		2	54K1号上坑全景(南から)		
	3	1号上坑全景(南から)		3	54K8号上坑全景(南から)		
	4	2号上坑全景(南から)		4	54K8号上坑上層断面(南から)		
	5	6号上坑全景(北から)		5	54K9号上坑全景(東から)		
	6	7号上坑全景(北から)		6	54K10号上坑全景(西から)		
	7	9号上坑全景(北から)		7	54K13号上坑遺物出土状態(東から)		
	8	10号上坑全景(西から)		8	54K13号上坑上層断面(西から)		
	9	10号上坑上層断面(北西から)		9	54K14号上坑遺物出土状態(北から)		
	10	11号上坑全景(西から)		10	54K20号上坑・P335・340全景(西から)		
	11	13号上坑全景(北から)		11	54K21号上坑全景(南から)		
	12	16号上坑全景(北東から)		12	54K21号上坑上層断面(南から)		
	13	1号溝全景(南西から)		13	54K25号上坑遺物出土状態(南から)		
	14	2号溝全景(西から)		14	54K25号上坑上層断面(南から)		
	15	1号塼上全景(北から)		15	54K30号上坑全景(南から)		
PL 40	1	1号孤立柱建物全景(南から)	PL 46	1	1号溝全景(北から)		
	2	1号孤立柱建物P1上層断面(南から)		2	54K35号上坑全景(東から)		
	3	1号孤立柱建物P8上層断面(南から)		3	1号溝全景(西から)		
	4	1号孤立柱建物P9上層断面(南から)		4	2・3・5・6号溝全景(南から)		
	5	1号孤立柱建物P10上層断面(南から)		5	1号溝上層断面(東から)		
	6	2号孤立柱建物P1上層断面(南西から)		6	2～6号溝全景(西から)		
	7	2号孤立柱建物全景(南から)		7	3号溝全景(南から)		
	8	2号孤立柱建物P12上層断面(南から)		8	3号溝上層断面(南から)		
	9	2号孤立柱建物P17上層断面(南から)		9	4号溝全景(南から)		
	PL 41	1		3号孤立柱建物全景(南から)	PL 47	1	5・6号溝全景(北から)
		2		3号孤立柱建物P7上層断面(南から)		2	5・6号溝全景(南から)
		3		3号孤立柱建物P13上層断面(東から)		3	1号礎石建物出土遺物(東から)
		4		3号孤立柱建物P18上層断面(南から)		4	5・6号溝上層断面(北から)
		5		3号孤立柱建物北西側P499(南から)		5	1号礎石建物出土遺物(南から)
		6		4号孤立柱建物全景(南から)		6	1号礎石建物S1柱跡(南から)
7		4号孤立柱建物全景(南から)	7	1号礎石建物S2柱跡(南から)			
8		4号孤立柱建物P3上層断面(南から)	8	1号礎石建物S3柱跡(南から)			
9		4号孤立柱建物P4上層断面(南から)	9	1号礎石建物S5柱跡(南から)			
PL 42		1	5号孤立柱建物全景(南から)	PL 48		10	1号礎石建物S6柱跡(南から)
		2	5号孤立柱建物全景(南から)			11	2号礎石建物出土遺物(南から)
		3	5号孤立柱建物P5上層断面(西から)			12	2号礎石建物S2柱跡(南から)
		4	5号孤立柱建物P13上層断面(南から)			1	1～4号孤立柱建物全景(北から)
		5	5号孤立柱建物P14上層断面(南から)			2	1号孤立柱建物P5上層断面(南から)
		6	6号孤立柱建物P3上層断面(西から)			3	1号孤立柱建物P8上層断面(南から)
	7	6号孤立柱建物全景(南から)	4		1・4・5・6・8号孤立柱建物全景(北から)		
	8	6号孤立柱建物P4上層断面(南から)	5		1号孤立柱建物P11上層断面(西から)		
	9	6号孤立柱建物P7上層断面(南から)	6		1号孤立柱建物P15上層断面(東から)		
	PL 43	1	7号孤立柱建物全景(南から)		PL 49	7	2号孤立柱建物P3上層断面(南西から)
		2	7号孤立柱建物全景(南から)			8	2号孤立柱建物P4全景(北から)
		3	7号孤立柱建物P1上層断面(東から)			9	2号孤立柱建物P5上層断面(西から)
		4	7号孤立柱建物P4上層断面(南から)			1	1号孤立柱建物全景(北から)
		5	8号孤立柱建物P3上層断面(南西から)			2	2号孤立柱建物P10上層断面(西から)
		6	8号孤立柱建物P4上層断面(南から)			3	2号孤立柱建物P18全景(北から)
7		8号孤立柱建物全景(南から)	4	2号孤立柱建物全景(北から)			
8		8号孤立柱建物全景(南から)	5	2号孤立柱建物P23上層断面(南から)			
9		8号孤立柱建物P6上層断面(北から)	6	2号孤立柱建物P25上層断面(南から)			
PL 44		1	9号孤立柱建物全景(南から)			7	3号孤立柱建物P2上層断面(北から)
		2	9号孤立柱建物P1上層断面(南から)			8	3号孤立柱建物P8上層断面(南西から)
		3	9号孤立柱建物P3上層断面(東から)			9	3号孤立柱建物P9上層断面(北東から)
		4	9号孤立柱建物P4上層断面(東から)				

PL. 50	1	3号孤立柱建物全景(北から)	PL. 57	9	17号孤立柱建物4上層断面(東から)
	2	3号孤立柱建物P11上層断面		1	18号孤立柱建物全景(北から)
	3	4号孤立柱建物P2上層断面(西から)		2	17号孤立柱建物P5上層断面(南から)
	4	4号孤立柱建物全景(北から)		3	18号孤立柱建物4上層断面(南から)
	5	4号孤立柱建物P5上層断面(西から)		4	19号孤立柱建物全景(北から)
	6	4号孤立柱建物P6上層断面(西から)		5	18号孤立柱建物P5上層断面(東から)
	7	5号孤立柱建物P2上層断面(南から)		6	18号孤立柱建物P6上層断面(西から)
	8	5号孤立柱建物P3上層断面(西から)		7	19号孤立柱建物P3上層断面(南から)
	9	5号孤立柱建物P5上層断面(南から)		8	19号孤立柱建物4上層断面(南から)
PL. 51	1	5号孤立柱建物全景(北から)	PL. 58	9	19号孤立柱建物P5上層断面(南から)
	2	6号孤立柱建物P3上層断面(北東から)		1	20号孤立柱建物P1上層断面(西から)
	3	6号孤立柱建物P3上層断面(南西から)		2	20号孤立柱建物P4上層断面(西から)
	4	6号孤立柱建物全景(北から)		3	20号孤立柱建物P7上層断面(南西から)
	5	6号孤立柱建物P5上層断面(南から)		4	21号孤立柱建物全景(北から)
	6	6号孤立柱建物P7上層断面(北東から)		5	21号孤立柱建物P3上層断面(北から)
	7	6号孤立柱建物P9上層断面(南から)		6	21号孤立柱建物P11上層断面(東から)
	8	7号孤立柱建物P4上層断面(南から)		7	22号孤立柱建物全景(北から)
	9	7号孤立柱建物P5上層断面(南から)		8	22号孤立柱建物P1上層断面(東から)
PL. 52	1	8号孤立柱建物全景(北から)	PL. 59	9	22号孤立柱建物P11上層断面(西から)
	2	8号孤立柱建物P7上層断面(東から)		1	23号孤立柱建物全景(北から)
	3	8号孤立柱建物P8上層断面(南から)		2	22号孤立柱建物P12上層断面(南から)
	4	9号孤立柱建物P2上層断面(北から)		3	23号孤立柱建物P1上層断面(南から)
	5	9号孤立柱建物P6上層断面(南から)		4	23号孤立柱建物P2上層断面(南から)
	6	9号孤立柱建物P10上層断面(南東から)		5	23号孤立柱建物P3上層断面(北西から)
	7	10号孤立柱建物全景(北から)		6	24号孤立柱建物P2上層断面(西から)
	8	10号孤立柱建物P3上層断面(北から)		7	24号孤立柱建物P5全景(北から)
	9	10号孤立柱建物P5上層断面(北から)		8	24号孤立柱建物P5全景(南から)
PL. 53	1	10～12号孤立柱建物全景(北から)	PL. 60	9	24号孤立柱建物P7全景(南から)
	2	10号孤立柱建物P7上層断面(西から)		1	25号孤立柱建物全景(北から)
	3	11号孤立柱建物P1上層断面(北から)		2	24号孤立柱建物P9上層断面(南東から)
	4	11号孤立柱建物全景(北から)		3	24号孤立柱建物P10上層断面(北西から)
	5	11号孤立柱建物P5上層断面(南から)		4	26号孤立柱建物全景(北から)
	6	11号孤立柱建物P6上層断面(南から)		5	25号孤立柱建物P3上層断面(南から)
	7	12号孤立柱建物P3上層断面(北西から)		6	25号孤立柱建物P12上層断面(北西から)
	8	12号孤立柱建物P4上層断面(北から)		7	26号孤立柱建物P2上層断面(南西から)
	9	12号孤立柱建物P5上層断面(北から)		8	26号孤立柱建物P2全景(北から)
PL. 54	1	12号孤立柱建物全景(北から)	PL. 61	9	26号孤立柱建物P3上層断面(南から)
	2	13号孤立柱建物P6上層断面(西から)		1	27号孤立柱建物全景(北から)
	3	13号孤立柱建物P7上層断面(南から)		2	26号孤立柱建物P7上層断面(南から)
	4	13～16・23号孤立柱建物全景(北から)		3	27号孤立柱建物P1上層断面(西から)
	5	14号孤立柱建物P1上層断面		4	27号孤立柱建物P2全景(西から)
	6	14号孤立柱建物P3上層断面(南から)		5	27号孤立柱建物P2上層断面(西から)
	7	14号孤立柱建物P4上層断面(南から)		6	27号孤立柱建物P10上層断面(西から)
	8	14号孤立柱建物P5上層断面(南から)		7	27号孤立柱建物P14上層断面(南から)
	9	14号孤立柱建物P6上層断面(南から)		8	27号孤立柱建物P15上層断面(北東から)
PL. 55	1	14号孤立柱建物全景(北から)	PL. 62	9	28号孤立柱建物P4上層断面(南から)
	2	14号孤立柱建物P7上層断面(北から)		10	28号孤立柱建物P7上層断面(西から)
	3	14号孤立柱建物P7全景(北から)		11	29号孤立柱建物P6上層断面(南から)
	4	15号孤立柱建物全景(北から)		12	29号孤立柱建物P9上層断面(南西から)
	5	14号孤立柱建物P18上層断面(南から)		1	29号孤立柱建物全景(北から)
	6	14号孤立柱建物P19上層断面(北から)		2	30号孤立柱建物P1上層断面(南東から)
	7	14号孤立柱建物P20上層断面(南から)		3	30号孤立柱建物P2上層断面(南から)
	8	15号孤立柱建物P4上層断面(南から)		4	30号孤立柱建物全景(北から)
	9	15号孤立柱建物P6上層断面(南から)		5	30号孤立柱建物P6上層断面(南から)
PL. 56	1	16号孤立柱建物全景(北から)	PL. 63	6	31号孤立柱建物P1上層断面(北東から)
	2	16号孤立柱建物P2上層断面(南西から)		7	31号孤立柱建物P5上層断面(南から)
	3	16号孤立柱建物P6上層断面(西から)		8	31号孤立柱建物P7全景(北から)
	4	17号孤立柱建物全景(北から)		9	32号孤立柱建物P3上層断面(北から)
	5	16号孤立柱建物P12上層断面(南から)		1	52区1号孤立柱建物全景(南から)
	6	17号孤立柱建物P1上層断面(南から)		2	52区32号孤立柱建物P8上層断面(南西から)
	7	17号孤立柱建物P1全景(北から)		3	52区32号孤立柱建物P9上層断面(西から)
	8	17号孤立柱建物P3上層断面(南から)		4	52区5号孤立柱建物全景(北から)

	5	52区33号掘立柱建物P1土層断面(南から)		13	23号土坑出土遺物(北から)
	6	52区33号掘立柱建物P4土層断面(西から)		14	23号土坑土層断面(北から)
	7	53区1号掘立柱建物P1土層断面(南から)		15	24号土坑土層断面(東から)
	8	53区1号掘立柱建物P8土層断面(西から)	PL 69	1	29号土坑全景(南から)
	9	53区5号掘立柱建物P3土層断面(西から)		2	29号土坑土層断面(南から)
PL 64	1	6号掘立柱建物全景(北から)		3	30号土坑全景(北から)
	2	5号掘立柱建物P6土層断面(西から)		4	31・55号土坑全景(北から)
	3	6号掘立柱建物P1土層断面(西から)		5	32号土坑全景(東から)
	4	7号掘立柱建物全景(北から)		6	32号土坑土層断面(南から)
	5	6号掘立柱建物P2土層断面(南から)		7	33号土坑全景(南から)
	6	6号掘立柱建物P3土層断面(南から)		8	34号土坑全景(北から)
	7	7号掘立柱建物P1土層断面(南から)		9	35号土坑土層断面(西から)
	8	1号柱穴列P3土層断面(南から)		10	36号土坑土層断面(西から)
	9	4号柱穴列P2土層断面(南から)		11	38号土坑遺物出土状態(西から)
PL 65	1	1号整穴状遺構全景(南から)		12	38号土坑全景(北から)
	2	1号整穴状遺構土層断面(東から)		13	39号土坑全景(東から)
	3	1号整穴状遺構土層断面(南から)		14	40号土坑全景(北から)
	4	1号整穴状遺構全景(北から)		15	41号土坑出土遺物(西から)
	5	1号整穴状遺構掘り方全景(北から)	PL 70	1	52区41号土坑・P377全景(北から)
	6	1号整穴状遺構遺物出土状態(南から)		2	52区42号土坑全景(南から)
	7	1号整穴状遺構遺物出土状態(南から)		3	52区42号土坑土層断面(南から)
	8	1号整穴状遺構P1土層断面(南西から)		4	52区43号土坑全景(西から)
	9	1号整穴状遺構出土遺物(北から)		5	52区44号土坑全景(東から)
PL 66	1	1号整穴状遺構掘り方全景(北から)		6	52区44号土坑土層断面(西から)
	2	1号整穴状遺構P1全景(南東から)		7	52区45号土坑全景(南から)
	3	1号整穴状遺構P3全景(南西から)		8	52区47号土坑全景(南から)
	4	1号整穴状遺構P5・12・13全景(南西から)		9	52区50号土坑全景(南から)
	5	1号整穴状遺構P6・10全景(北から)		10	52区51号土坑全景(北から)
	6	1号整穴状遺構P7・11・14全景(北東から)		11	52区52号土坑全景(北から)
	7	2号整穴状遺構全景(北から)		12	52区53号土坑全景(西から)
	8	1号整穴状遺構P9全景(西から)		13	52区53号土坑土層断面(西から)
	9	2号整穴状遺構P2土層断面(北から)		14	53区1号土坑全景(北から)
	10	2号整穴状遺構P2・3全景(北西から)		15	53区43号土坑土層断面(南から)
	11	3号整穴状遺構全景(北から)	PL 71	1	53区44号土坑全景(南から)
	12	4号整穴状遺構全景(北から)		2	53区44号土坑土層断面(南から)
PL 67	1	1号落ち込み遺物出土状態(北から)		3	53区45号土坑全景(南から)
	2	1号落ち込み土層断面(南から)		4	53区45号土坑土層断面(南から)
	3	1号土坑全景(北から)		5	53区47号土坑全景(西から)
	4	2号土坑全景(北から)		6	53区49号土坑全景(南から)
	5	3号土坑土層断面(南から)		7	53区49号土坑土層断面(南から)
	6	4号土坑全景(西から)		8	53区51号土坑全景(南から)
	7	5号土坑・P343土層断面(南東から)		9	52区1号溝全景(南から)
	8	6号土坑遺物出土状態(北から)		10	52区3号溝全景(北から)
	9	6号土坑全景(北から)		11	52区4号溝全景(北から)
	10	7号土坑全景(北から)		12	53区1号溝全景(北から)
	11	8号土坑全景(南から)		13	52区1号礎土全景(東から)
	12	9号土坑全景(北から)		14	52区1号井戸全景(西から)
	13	10号土坑遺物出土状態(南から)		15	52区1号井戸土層断面(西から)
	14	11号土坑全景(南から)	PL 72	1	72区全景(西から)
	15	12号土坑全景(南から)		2	72区全景(東から)
PL 68	1	12号土坑土層断面(南から)		3	72区As - Kk灰層堆積状況
	2	13号土坑全景(南から)		4	73区全景(西から)
	3	14号土坑・P155全景(東から)		5	72区プレ試験(北から)
	4	15号土坑全景(南から)		6	73区全景(東から)
	5	16・17号土坑全景(南から)		7	73区土層堆積状況(南から)
	6	16・17号土坑土層断面(東から)		8	84区トレンチ調査(東から)
	7	18号土坑全景(北から)		9	84区トレンチ調査(東から)
	8	19・24号土坑全景(東から)		10	62区西側面全景(東から)
	9	20号土坑全景(北から)		11	62区西側面全景(東から)
	10	21号土坑全景(東から)		12	53・63区町道2面東部全景(東から)
	11	22号土坑全景(北東から)	PL 73	1	53・63区町道2面東部全景(西から)
	12	22号土坑土層断面(南東から)		2	53・63区町道東部全景(東から)

人骨写真

- 写真1 第1区画1号墓出土人骨[下颌骨]
写真2 第1区画1号墓出土人骨[左上胸骨]
写真3 第1区画1号墓出土人骨[左右大腿骨]
写真4 第2区画1号墓出土人骨[遊離歯咬合面観]
写真5 第2区画1号墓出土人骨[下颌骨左]
写真6 第2区画1号墓出土人骨[左右大腿骨]
写真7 第2区画1号墓出土人骨[右胫骨]
写真8 52区1号墓出土人骨[遊離歯咬合面観]
写真9 53区2号墓出土人骨[遊離歯咬合面観]
写真10 53区3号墓出土人骨[遊離歯咬合面観]

獣骨写真

- 写真1 第1区画36号土坑出土歯
写真2 第2区画1号馬出土歯
写真3 第2区画1号馬出土顎
写真4 第2区画2号馬出土骨
写真5 第2区画3号馬出土歯・顎
写真6 第2区画4号馬出土歯
写真7 第2区画4号馬出土骨・顎
写真8 第2区画6号馬出土歯・顎
写真9 第6区画1号配石出土歯
写真10 1号池出土歯

自然科学分析写真

- 図版1 木材(1)
図版2 木材(2)
図版3 木材(3)
図版4 木材(4)・種実遺体・動物遺存体
図版5 炭化材

第1章 地理的環境と歴史的環境

第1節 地理的環境

長野原城跡と林中原Ⅰ遺跡が所在する吾妻郡長野原町は、関東地方の北西奥部、群馬県吾妻郡域の南西部に位置する。町の北部を吾妻川が東流し、川の左岸を旧国道145号が走る。この国道は渋川市で新潟に続く国道17号と分岐し、吾妻川に沿って長野原町に入り大津で草津と嬪恋方面に別れる。

遺跡南には川を隔てて須賀尾峠、丸岩、遙か北西方向には草津白根山、南西には浅間山が位置している。いずれも現在も活発に活動している日本でも有数の活火山として知られている。長野原城跡の調査で確認されているAs-A軽石とAs-A泥流層(天明3年1783)は、浅間山の噴火に伴うものである。

町の北部を流れる吾妻川は、長野県境の烏居峠付近に源を発して東に流れ、町域のほぼ中央で川幅をやや広くし、東端では第3紀層を深く刻んで吾妻渓谷を形成し、さらに東に流れ渋川市付近で利根川に合流している。この吾妻川には両側に迫る山地から流れ下る多くの支流が見られる。

長野原城跡は吾妻川と白砂川が合流する地点の北西部に位置する。畑が調査された平地部分は中位段丘、道路跡や銭が出土した調査区は急傾斜面であり、最も標高の高い調査区は丘陵先端部である。

林中原Ⅰ遺跡は、最上位段丘に位置し、広いなだらかな傾斜面となっている。

個別の遺跡の立地については、各遺跡の中で記述した。

第2節 歴史的環境

長野原城跡と林中原Ⅰ遺跡で調査された遺構は、縄文時代と中近世であるが、城に関係した中世の遺構が多い。そこで旧石器から古代までの遺跡について概要を報告し、これまで発掘調査され報告されてきた中近世の遺跡について、表を用いて少し詳しく報告する。周辺遺跡位置は、中近世遺跡に限定して図示した。縄文～平安時

代の遺跡位置は、今年度刊行された「長野原一本松遺跡(7)」を参照してほしい。

旧石器時代

長野原町においては旧石器時代の遺物は現在のところ出土していない。

縄文時代

草創期後半の燃糸文土器や早期の押型文土器などが林楡木Ⅱ遺跡・立馬Ⅱ遺跡等で出土している。前期の遺構数は少なく、三平Ⅰ・Ⅱ遺跡、林中原Ⅱ遺跡で住居が確認されている。中期になると遺跡数・遺構量とも大幅に増加する。大きな遺跡として長野原一本松、上ノ平Ⅰ遺跡、横壁中村遺跡がある。林中原Ⅰ遺跡の東に接する林中原Ⅱ遺跡では、中期後半から後期にかけての弧状列石や住居跡が数多く検出され、長野原一本松遺跡、横壁中村遺跡に肩を並べる程の大規模な集落であることが判明した。後期になると集落はやや減少する。代表的な遺跡として長野原一本松遺跡、横壁中村遺跡、林中原Ⅱ遺跡がある。晩期になるとさらに遺跡数は減少する。川原湯勝沼遺跡では、米Ⅱ式土器による再葬墓と思われる土坑が検出されている。他に横壁中村遺跡では晩期初頭から弥生初頭と思われる埋設土器が確認されている。

弥生時代

長野原町では、この時代の遺跡は非常に少ない。立馬遺跡は、中期後半の住居と土器棺墓が調査されている。他に横壁中村遺跡から再葬墓の可能性のある土坑が調査されている。

古墳時代

長野原町に古墳は確認されていない。調査された住居も極めて少ない。住居は林宮原遺跡と下原遺跡で1軒調査されている。いずれも小規模である。

奈良・平安時代

奈良時代の集落は現在まで確認されていない。ところが平安時代9世紀中頃になると長野原町の多くの地域で大きな集落が造られるようになる。上ノ平Ⅰ遺跡では皇朝十二銭中の「貞観永宝」や多くの灰釉陶器等が出土している。遺跡の時期は9世紀から10世紀を中心としている。

第1章 地理的環境と歴史的環境

規模の大きな遺跡として横壁中村遺跡、榎木Ⅱ遺跡がある。

中近世

遺跡は、表1に示したように、31遺跡で発掘調査され報告書が刊行されている。表に発掘調査された遺跡の遺構数とそこから出土した遺物数をまとめた。その表から読み取れる長野原城跡と林中原Ⅰ遺跡周辺の中近世について概要を記す。

ハツ場ダム調査事務所が発掘調査し刊行した報告書はこれまでに42冊である。その中で中近世の遺構や遺物が報告された報告書は33冊である。中近世が掲載されていない報告書は、縄文時代の遺構をまとめたものが多い。ハツ場ダム関連の発掘調査を行えば、多くの遺跡から中近世の遺構が確認されていることになる。中近世が多い理由の一つに天明3年に噴火した浅間山からの軽石と泥流により厚く埋もれていたり遺跡の多いことがあげられる。多くの遺跡はこの泥流により厚く埋まりその後の攪乱を受けていない。また近世だけでなく中世の城をはじ

めとした館や砦遺跡も多い。中世後半この地域を領有した信濃国小県郡真田の真田氏との関係から長野県に近い地域であることも関係していると思われる。

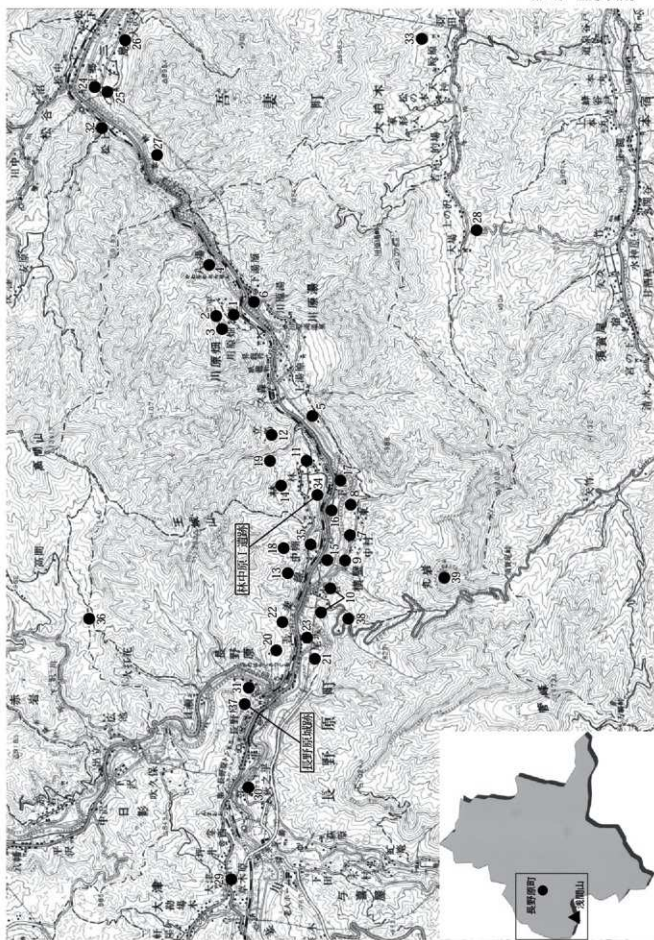
これまでハツ場ダム開発関連で発掘調査した中近世の大きな遺跡として、近世の屋敷を調査した東宮遺跡や上郷岡原遺跡、江戸時代の畑を大規模に発掘調査した上郷岡原遺跡、尾坂遺跡、下原遺跡等また多くの掘立柱建物・竪穴状遺構・礎石建物・土坑・石垣等を発掘調査した横壁中村遺跡や上郷岡原遺跡等がある。

本報告書で報告する長野原城跡は、信濃国の真田氏が永禄五年(1562)に侵略し真田幸隆の舎弟常田氏が城主となっていた。永禄六年(1563)岩城の斎藤氏が長野原城を攻め、城主常田氏は諏訪神社前で戦いに敗れて戦死した。「長野原の合戦」で有名な城である。

林中原Ⅰ遺跡は、林城と関連する遺構が中心の遺跡である。林城に関する文献記録は残されていないが、地元「城」の地名が残る。発掘調査の結果、堀・石垣・土橋・池等の他に6棟の掘立柱建物を調査した。

表1 中近世周辺遺跡一覧表

遺跡No	遺跡名 (所在地)	遺構内容	遺物内容	文献 No					
1	東京 (川原郷)	(中世)集石1、土坑(墓坑)2 (近世)家15、畑29、平地田10、石垣19、道5、溝9、溜池1、集石1、井戸1、土坑6、竪堀1、礎石多数、石段1	(青磁)碗10、皿2、香炉1 (白磁)杯1 (磁器)色絵・染付碗115、皿55、香炉2、油壺3、水筒1、瓶3、仏飯器5、香炉2、杯7等 (陶器)碗115、香炉8、搦鉢17、片口6、徳利11、灯明皿8、皿3、仏具筒3、鉢2、袋物2、仏花皿等 (在地上器)内耳土器12、火鉢1、蓋1、皿1、土人形2 (木製品)下駄82、草履7、漆器桶33、蓋24、曲物18、皿14、櫃蓋9、箱9、籠5、杵文字3、杵4、櫛3、団扇2、櫛4、木杓7、漆箱21、箸2箱、箸箱1、箸2、木鉢4、庄持籠1、火打箱1、刷毛1、行灯1、柿灯1、木杵棒1、白土埴1、箕1、踏躰1、壺付1、竹籠2等 (建築部材)土台34、束10、柱15、大引2、根太81、敷居4、土壁(竹小舞)5、集水筒1、阿栗桶3、榎1、桧板庇11等 (銭)寶永通宝1、天保通宝1、慶應元宝2、文久永宝2、洪武通宝1、永樂通宝4、二朱銀4、あて小判2、元寶通宝1等 (金銀製品)火箸3、鉄線25、鋸取手2、鉄鋸補修金具1、火打ち金1、包丁1、茶釜2、茶釜蓋1、刀3、鐙3、刀子3、手斧2、ノミ4、釘21、鍬2、鎌2、鋸6、鋸1、籠1、かんざし1、鍵2、煙管9、薬箱4、籠鼓3、水筒1、毛抜き1、灯明皿2、おろし金2、柄籠2、杵子3等 (石製品)砥石27、台付砥石1、硯5、石製品4、ヒツシ3、土白9、下打1、茶臼1、石鉢1、鉢石5等	2	30				
2	三平Ⅰ・Ⅱ (川原郷)	(中近世)掘立柱建物10、土坑63、塙上2、集石3、柱穴列1、礎石2、溝1	(陶器)内耳土器23、碗5、皿1、灯明皿2 (金銀製品)煙管1、かんざし1、釘4、鉄砲玉3 (他)骨角器1、石臼5、櫛の穂2	2	12				
3	上ノ平Ⅰ (川原郷)	(近世)草坑17、土坑11	(人骨)第11、女6 (他)徳利1、籠2、煙管11、寛永通宝65、他判読不明鉄15、銅3、鉛9等	2	21				
4	石穂(川原郷)	(近世)畑2	江戸時代に比定される陶器片2片遺失し 釘1	2	2				
5	川原岡原遺跡 (川原郷)	(中近世)溝3、畑14、平坦地30、小畑19、道5	(青磁)碗1、(磁器)碗3、仏具筒1、皿1、小鉢1、(陶器)香炉1、碗7、徳利1、皿1、皿3、灯明皿1、搦鉢1、(銭)元祐通宝1、寛永通宝1 (金銀製品)煙管1	2	5				
6	西ノ上 (川原郷)	(近世)畑12、円形平坦地3、道3	(陶器)碗8、搦鉢4、(磁器)碗6、袋物1、(在地上器)焙烙1、(軟質陶器)内耳皿1、(他)火打ち石1、鉄砲玉1、寛永通宝1	2	4				
7	横壁中村 (横壁)	(中近世)掘立柱建物13、塹穴遺構1、土坑473、石垣19、列石2、石列4、石垣遺構7、配石8、集石3、石垣遺構3、溝4、塙上42、礎石建物1、葺石(人)1、ヤククラ4、墓坑(人)23、墓坑(獣)8、畑1等	(青磁)皿4、碗14、瓶1、蓋1 (白磁)皿1 (磁器)紅皿2、水筒1 (染付)碗21、皿12、摺口2、瓶3、小杯1、仏飯器1、香炉1 (陶器)壺5、小皿26、碗40、御皿3、灯明皿6、灯野受皿2、搦鉢4、香炉7、小瓶1、火入れ1、徳利1、合子蓋1、蓋1、鉢2、土瓶1 (在地上器)皿2、内耳皿18、内耳土器146、鉢7、石鉢1 (土製品)土人形1 (鉄)碗1、釘12、把手1、小刀1、鋸鉄1、火打ち金1、臼口1、腕状押印7 (銅)はばき1 罎口1、飾り金具1、煙管4 (鉛)鉄砲玉45、古寛永通宝311、開元通宝4、紹興元宝2、永樂通宝3、天禧通宝2、景徳元宝5、淳化元宝1、洪武通宝3、皇宋通宝4、嘉定通宝1、崇寧元宝1、聖宋元宝2、政和通宝1、天聖元宝3、宣徳通宝1、元豐通宝4、崇寧元宝5、崇寧元宝1、大觀通宝2、元符通宝1、朝祐通宝1、至和元宝2、札元通宝2、祥符元宝2、元祐通宝1、後漢五銖1、太平通宝1 (他)曲刀1、網結3 (石器)白土臼25、茶臼7、砥石20、石鉢6、硯1、金床石1、五輪塔2、石臼1、石塔蓋1、石製品5等	2	3	6	18	20	28
8	横壁池沼(横壁)	(中近世)土坑墓3	開元通宝1、景徳元宝1、洪武通宝1、永樂通宝1、煙管1	2	2				
9	山根里 (横壁)	(中世)土坑3 (近世)土坑5等	(陶器)碗1、皿1 (他)小刀1、火打ち金1、政和通宝2、開元通宝1、寛永通宝1	2	2				



第1図 長野原城跡・林中原遺跡及び中近世の周辺遺跡位置図(国土地理院1:50,000「草津」平成11年発行を使用)

第1章 地理的環境と歴史的環境

遺跡 No.	遺跡名 (所在地)	遺構内容	遺物内容	文献 No.
10	西久保Ⅰ・Ⅳ (横塚)	(中近世)土坑3 (近世)畑等	(青磁)碗1。(陶器)瀬戸美濃碗1、皿3。(他)内耳土器1、小刀1、鍬1、釘2、煙管1、鉢1、瀬戸元玉1、永樂通宝1、文久通宝1、砥石1	32
11	東原Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ (林)	掘立柱建物2、礎石建物1 土坑27、柱穴列1、溝7、塀上2等	(白磁)皿1(染付)碗28、皿4、小杯8、仏飯器1、瓶1。(色絵)色絵人形。(陶器)皿5、碗4、土器皿5、播磨7、片口1、高型香炉1。(土製品)土人形2。(布地上器)内耳土器3、鉢1、在地区、(他)煙管3、かんざし1、釘1、鉄錐1、開元通宝1、文久永宝1、寛永通宝5、石臼3、礎1、砥石4、火打ち石2等	29
12	立馬Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ (林)	掘立柱建物2、ピット群2、土坑8、溝状遺構15等	陶器丸桶1、泥面子1、寛永通宝3、火打ち金2、釘1、鉄洋1	10 7 24
13	榎木Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ (林)	掘立柱建物20、礎石建物1、石垣3、集石5、石列3、礎石1、テラス3、土坑類1、土坑206、溝17、塀上20、溝水2、畑1、陥伏42等	(青磁)碗1。(染付)碗1(磁器)碗10、小壺1、皿2(陶器)碗2、皿2、内壳皿1、皿1、御神酒德利1、費1(在地区土器)内耳土器1(軟質陶器)カワラケ1、内耳皿8、泥面子2(銭)皇宋通宝3、淳化元宝1、天聖元宝3、治平通宝2、元豐通宝1、洪武通宝2、朝鮮通宝1、文久通宝1、寛永通宝2(金)模範鉄製品1、円柱状鉄製品1、刀子3、釘2、鎌1、鍬3、留め具1、簾1、煙管3(石製品)砥石5、石臼3、石臼3、石臼6、磨り石4等	2 16 32
14	上原Ⅳ (林)	溝5、旧河跡跡2、土塀等	(青磁)碗1。(磁器)碗10、皿1、小杯1、猪口1(陶器)皿1、播鉢1、碗3、皿4、鉢1、香炉1、灯明皿1(在地区土器)鍋4(木製品)下駄3、桶底板1、板2、盤2、舟形木製品1(石)砥石1、磨き石1、石臼2等	15
15	中棚Ⅱ (林)	畑41、平坦面39、ヤックラ70、道10、石垣23、墓2等	(磁器)碗20、平筒碗3、皿3、瓶1、小碗2(陶器)碗48、内付1、播鉢8、蓋2、片口鉢3、皿6、瓶3、灯明皿3、小鉢2、鉢3、德利1。(在地区土器)内耳皿(他)砥石1、火打ち金1、釘1、掛貝1鋼鉄1、煙管4、寛永通宝6等	3 4
16	下原 (林)	掘立柱建物3、礎石3、平坦面31、溝23、土坑88、石垣22、塀上23、木石17、石列5、石垣5、溝92、土坑82、集石34、水田1、道10等	(青磁)皿1、碗1(白磁)皿1(磁器)碗8、皿2、仏飯器1、小杯1、香炉1、瓶1(陶器)碗11、皿2、瓶2、香炉3、御皿1、播鉢3、片口鉢1、壺2、灰桶陶器5、カワラケ2(軟質陶器)内耳皿10、在地区内耳皿6。(鉄)小刀2、火打ち金1、煙管8(銭)寛永通宝5、元豐通宝3、洪武通宝1、景祐元玉1、開元通宝1、至道元玉1、皇宋通宝2、至和元玉1、宋通元玉1、嘉祐元玉1(木製品)下駄1、鎌1(石製品)石臼17、茶臼3、石臼2、播鉢2等	3 11
17	下田 (林)	(近世)家1、畑2	(磁器)碗6、皿2、蓋1(陶器)碗1、播鉢2、香炉2、片口1、鉄軸1、陶胎染付碗1(他)土人形8、火打ち石3、砥石3、釘1、銅鏡1、寛永通宝5、石臼1、煙管1等	2
18	二反沢 (林)	(中世)造成区、石垣4(近世)溝1、畑2等	(青磁)碗4。(白磁)小碗1(磁器)碗1(陶器)碗2、器蓋1、播鉢1(軟質陶器)鍋7、刷製香炉1、鉄洋4、9割1、釘2(石製品)石臼4、茶臼1、播鉢1、台座1(銭)寛永通宝1、祥符通宝1、瀬戸元玉1等	8
19	花畑(林)	なし	寛永通宝1、煙管1、金銀器1等	2
20	長野原一本松 (長野原)	土坑65、溝5、暗渠1、道路跡1、集石土垣2、塀伏柱遺構6、欄干1、集石5、掘立柱建物2、塀上20、石列1等	(青磁)碗10、皿4(青白磁)碗1(磁器)碗10、皿4、仏飯器1、蓋2、杯1、小杯1、鉢1、猪口1、合子1(染付)碗7、合子1、小碗1、皿3(陶器)碗26、皿10、灯明皿5、灯明受皿1、播鉢9、仏飯器1、小杯1、杯1、鉢1、小碗1、急須1、肥前陶器1、軟質陶器鉢1、内耳皿8、泥人形2、13皿22(金銀製品)火打ち金5、刀子3、釘2、鍬1、紡錘皿1、鉄洋2、煙管9、内耳銅鏡1(銭)寛永通宝11、開元通宝2、天禧通宝1、治平元玉1、元祐通宝1(石製品)砥石6、茶臼1、滑石製品1等	1 2 17 13 25 22
21	久々戸 (長野原)	畑29、平坦面32、ヤックラ32、石垣17、塀上5、土盛り1、掘立柱建物2等	(青磁)碗2(陶器)碗39、皿11、播鉢7、大鉢1、鉢2、小碗1、香炉4、瓶4(磁器)碗18、皿4、皿3、小瓶3、平筒碗1、仏飯器2、猪口1、香炉1、小杯2、御神酒德利1(金銀製品)刀子1、火打ち金1、釘1、煙管3(銭)寛長一分判金1、寛永通宝1(他)切石1、漆桶3、建築部材3、柱材7、竹製品1、植物遺存体1、縄1、磨屑2ニホンジカ1等	3 4
22	幸神(長野原)	畑2	寛永通宝1	15
23	尾根 (長野原)	畑1、溝1、石垣1	(陶器)碗1、染付碗1、播鉢4(他)土製円盤1、角杭3、寛永通宝1等	2
24	上郷岡原 (東吾妻町三島)	家3、掘立柱建物34、塀伏状遺構13、礎石建物3、土坑780、土坑墓19、石垣遺構3、集石33、塀上62、井戸2、溝95、平坦面73、水田7、道19、平田743、積石12、石列1、馬堀跡1、便槽13、火葬跡1、土坑墓1等	(中国磁器)皿2、碗1、蓋1(中国青磁)蓋1、盤1(陶器)皿18、碗80、灯明皿38、播鉢15、片口鉢5、浅鉢1、鉢2、仏飯器1、大鉢4、香炉13、急須1、蓋1、德利2、表鏡2、陶胎染付碗1(磁器)皿3、碗4、猪口1、小杯1、仏飯器2、香炉1、德利1(在地区土器)皿1、香炉1、内耳皿1、土人形1(建築部材)柱・戸板・障子・床柱等60、欄干2、膳3、桶1、まな板1、面物箱、わっぱ1、蓋3、かざり4、漆器37、紙破2、下駄1、櫛1、箱1、箱引板2、煙管43、分銅1、籠1、等2(金銀製品)釘8、鈴1、刀子2、火鐸1、ノミ1、鎌5、鉄釘5、刀2、鞘1、錆じり1、鍬1、鉄錐2、鉋、鋸1、タガネ1、引き手金具1(銭)鉄(肉読不明)6、鉄製寛永通宝1、寛永通宝101、治平通宝1、皇宋通宝5、洪武通宝5、治平元玉1、祥符元玉4、天聖元玉2、淳熙元玉2、熙寧元玉3、宋通元玉1、元豐通宝5、開元通宝5、景徳元玉2、元祐通宝2、明道元玉2、紹聖元玉1、重和通宝1、天禧通宝1、永樂通宝5(石製品)石臼12、五輪塔19、砥石16、石臼6、茶臼2、鉢2、硯1(他人骨)14、磨屑1、べっ甲屑1等	14 19 26
25	上郷A (東吾妻町三島)	溝1	青磁1、染付碗4、陶胎碗4、鉄軸丸瓶1、備前焼1、瀬戸・美濃1、陶胎鉢1、陶器碗1	4 27
26	上郷B (東吾妻町三島)	土坑1、溝2、井戸2	(青磁)香炉1(磁器)碗4、香炉1、皿1(陶器)播鉢2、皿1(他)皇宋通宝1、元豐通宝1、洪武通宝1、寛永通宝1、刀子3、釘1、煙管1等	8
27	上郷西 (東吾妻町三島)	畑2、道1、溝1	肥前染付碗1、瀬戸・美濃高型香炉1、瀬戸・美濃皿1、鉄釘51、砥石等	23
28	廣石A (東吾妻町大船木)	土坑3、墓坑1	人骨(頭蓋骨)	8
29	坪井 (大津)	配石遺構1、集石遺構2	軟質陶器播鉢1、陶器碗2、青磁碗1、皿1(他)石臼3、砥石2、銅小把1等	34
30	小林家岡敷跡 (長野原)	礎石建物2、土蔵跡1、石垣1	(陶器)灯明皿1、皿1、播鉢1、費1(鉄製品)鎌1、錠1、釘27、新1(銅製品)銅1、飾り金具9(他)磁器そば猪口1、曲刀1、建築部材6、木製品部材26、石臼4、鍋1、固定臼2、基礎石1等	35
31	鴨木Ⅰ (長野原)	畑1、平坦面2	(陶器)碗2、菊皿1、費1(磁器)碗1等	36

周辺の中世城跡

道跡 No.	道跡名 (所在地)	①立地 ②現況 ③遺存状況 ④存続期間(推定伝承) ⑤築・在城者(推定・伝承) ⑥文獻 ⑦関連地名 ⑧遺構・遺物等 ⑨備考	文獻 No.
32	雁の沢の砦 (東吉妻町松谷)	①山・平地 ②山林・畠 ③中等 ④16世紀 ⑤横谷氏 ⑥加沢記、横谷文書 ⑦雁ヶ沢、資刈場 ⑧堀切、腰郭 ⑨上野志には横谷となっている	
33	羽田城(大栢木城)(芳の城) (東吉妻町大栢木)	①傾斜地 ②山林・畠 ③良 ④16世紀 ⑤羽田氏、浦野氏 ⑥側東郷注文、下屋文書、浦野文書、長崎寺文書、 高崎近郷百姓由來書、佐藤文書 ⑦羽田 ⑧堀、堀切、土橋、戸口、堅壁、土居、腰郭、帯郭 ⑨一	
34	林城 (林)	①崖端 ②山林 ③不良 ④不明 ⑤一 ⑥一 ⑦城 ⑧一 ⑨一	
35	中瀬の砦 (林中瀬)	①段丘上 ②宅地・畠 ③不良 ④不明 ⑤一 ⑥一 ⑦一 ⑧一 ⑨一	
36	長野原城 (六合村火打花、赤岩)	①高原 ②山林 ③良 ④不明 ⑤一 ⑥一 ⑦字新左衛門 ⑧一 ⑨長野氏隠棲地と伝える	37
37	長野原城 (長野原)	①山 ②山林、墓地、社地 ③良 ④16世紀 ⑤岡本氏、指田氏 ⑥熊谷文書、生島足島記請文、加沢記 ⑦城山、 箱岩、字古城址 ⑧堀切、土居、腰郭、堅壁 ⑨一	
38	横壁城(柳沢城) (横壁)	①丘と山 ②山林・畠 ③中等 ④16世紀 ⑤横壁玄蕃 ⑥加沢記 ⑦字城蔵谷、ジョウヒラ ⑧郭面、堀、土居 ⑨一	
39	丸屋城(丸岩城) (横壁)	①山 ②山林 ③良 ④16世紀 ⑤一 ⑥無代古案 ⑦字堂石丸山 ⑧堀切、土居、戸口 ⑨巖状山容を示す	

文献

- 1 『長野原一本松道跡(1)』ハツ場ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第1集2002
- 2 『ハツ場ダム発掘調査集成(1)』ハツ場ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第2集2002
- 3 『久々戸道跡・中瀬川道跡・下原道跡・横壁中村道跡』ハツ場ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第3集2003
- 4 『久々戸道跡・中瀬川(2)道跡・西ノ上道跡・上郷A道跡』ハツ場ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第4集2005
- 5 『上原四郎道跡(2)』ハツ場ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第6集2005
- 6 『横壁中村道跡(3)』ハツ場ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第7集2006
- 7 『立馬道跡』ハツ場ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第8集2006
- 8 『立馬道跡・廣石A道跡・二反沢道跡』ハツ場ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第9集2006
- 9 『横壁中村道跡(4)』ハツ場ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第10集2006
- 10 『立馬B道跡』ハツ場ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第11集2006
- 11 『下原道跡II』ハツ場ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第12集2007
- 12 『三平I・II道跡』ハツ場ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第13集2007
- 13 『長野原一本松道跡(2)』ハツ場ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第15集2007
- 14 『上郷同原道跡(1)』ハツ場ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第16集2007
- 15 『山根道跡(2)・上原IV道跡・幸神道跡』ハツ場ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第17集2008
- 16 『横壁中村(1)』(平安時代・中近世編)ハツ場ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第18集2008
- 17 『長野原一本松道跡(3)』ハツ場ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第19集2008
- 18 『横壁中村(6)』土坑編-ハツ場ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第20集2008
- 19 『上郷同原道跡(2)』ハツ場ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第21集2008
- 20 『横壁中村道跡(7)』土器施設遺構・掘立柱建物・環状柱六列・柱六列・集石・礎土編-ハツ場ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第22集2008
- 21 『上ノ平I道跡』ハツ場ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第23集2008
- 22 『長野原一本松道跡(4)』ハツ場ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第24集2008
- 23 『上郷西道跡』ハツ場ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第25集2008
- 24 『立馬道跡』ハツ場ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第26集2009
- 25 『長野原一本松道跡(5)』ハツ場ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第28集2009
- 26 『上郷同原道跡(3)』ハツ場ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第31集2009
- 27 『上郷A道跡』ハツ場ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第32集2009
- 28 『横壁中村道跡(10)』古代・中世・近世編I-ハツ場ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第33集2010
- 29 『東原I道跡・東原II道跡・東原III道跡』ハツ場ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第35集2010
- 30 『東宮道跡(2)』遺構・建築部材編-ハツ場ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第36集2011
- 31 『東宮道跡(2)』遺物編-ハツ場ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第38集2012
- 32 『横本I道跡・上原IV道跡・西久保IV道跡』ハツ場ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第39集2012
- 33 『長野原一本松道跡(6)』ハツ場ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第40集2013
- 34 『坪井道跡II』長野原町埋蔵文化財調査報告第7集 長野原町教育委員会2000
- 35 『小林家屋敷跡』長野原町埋蔵文化財調査報告第12集 長野原町教育委員会2005
- 36 『町内道跡V』長野原町埋蔵文化財調査報告第15集 長野原町教育委員会2005
- 37 『群馬県の中世城跡』群馬県教育委員会1988

註 文献1～33までの報告書は財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団発行である。

第2章 長野原城跡

第1節 調査に至る経緯と経過

長野原城跡の発掘調査は県道長長野原線建設に伴い実施された。この県道建設に伴う発掘調査は、これまで遺跡の東に流れる白砂川の対岸に位置する長野原一本松遺跡をはじめ幸神遺跡・楡木Ⅱ遺跡、西久保Ⅳ遺跡・花畑遺跡で実施されてきた。

平成21年7月八ッ場ダム関連埋蔵文化財調整会議の中で、長野原城の一部である丘陵部及び白砂川右岸の平らな部分が道路建設に伴い削られることが明らかとなる。掘削される長野原城の一部は、遺跡包蔵地となっており発掘調査は必要であるが、白砂川右岸の平坦地部分は当時包蔵地になっていなかった。県の文化財保護課から遺跡の可能性は高いので試掘調査が必要であることが指摘された。

平成22年3月3日、県の文化財保護課により白砂川右岸平坦地部分の試掘調査が実施され、江戸時代の道路や長野原城の郭の一部が確認された。発掘調査が必要であることが明らかとなり、本調査が計画された。

長野原城南東丘陵先端部南斜面の調査は、地形測量調査と調査可能な狭い平坦面のトレンチ調査で実施することとなった。

第2節 調査の方法

調査区は全体をA・B・C区とし、A区は白砂川右岸の平坦面、B区は長野原城南東丘陵先端部の南斜面、C区は長野原城跡の南東丘陵先端部である。

発掘調査は平成23年4月から開始される。A区・B区の発掘調査は4月で終了する。樹木の伐採が遅れた長野原城跡の南東丘陵先端部(C区)は、7月までに樹木の伐採が終了したので、8月に調査を実施し、8月で発掘調査は全て終了する。

発掘区域は狭く、搬入路も狭かった。表土を置く場所の確保が困難であり、A区は重機を使い調査が終了している尾坂遺跡の一部に表土を搬出し、調査終了後搬入し

埋め戻した。B区は、トレンチ部分が狭かったので人力で発掘を行い表土はトレンチの近くに置いて調査終了後埋め戻した。C区は丘陵先端部であり、小さな重機を入れて表土を除去し、表土以下は人力で発掘した。大量の表土は、斜面に1トンバッグを並べて、その中と1トンバッグで囲われた傾斜面内側に仮置して調査を進めた。

遺構平面図測量は、測量業者委託によるデジタル測量で実施した。遺構写真については、現場担当者がデジタル撮影と6×7版白黒フィルムで撮影した。

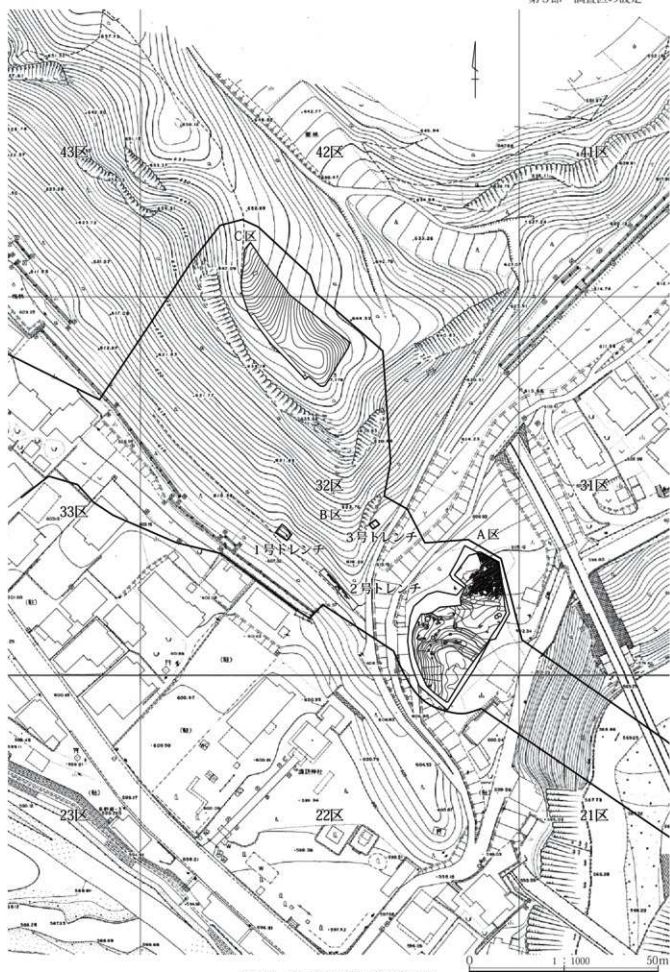
第3節 調査区の設定

平成6年から始まった八ッ場ダム建設事に伴う発掘調査においては、遺跡名称の略号やグリッドの設定などについて「八ッ場ダム関連埋蔵文化財発掘調査方法」に基づき進められている。以下本報告書でもそれに準拠し、必要部分について掲載する。

1. 遺跡番号 八ッ場ダムの略称はYD、つぎに長野原の大字5地区に 1:川原畑地区 2:川原湯地区 3:横壁地区 4:林地地区 5:長野原地区と番号を付ける。各地区に所在する遺跡に対しては、調査順に番号を付ける。長野原城跡は長野原地区5番目で05となる。遺跡番号はYD5-05となる。

2. 座標軸 基準座標は、国家座標(2002年4月改正以前の日本測地系)に基づく日本平面直角座標第IX系を使用し、東吾妻町大字大柏木付近を原点(座標値X=58000.0、Y=97000.0)とした1km方眼を基点として60の区画を設定し、この大グリッドを「地区」と呼ぶ。本遺跡はNo40地区に所在する。

3. 1km方眼を南東隅から100m方眼の1～100に区画し、この中グリッドを「区」とする。南東隅を1とし、東から西へ連続する10単位を南から北に配列し、北西隅を100として完結するよう配置する。本遺跡の場合、A区は22・32区、B区は32区、C区は32区・42区にあたる。それぞれの遺跡の区毎に遺構名称・遺構番号が付されることになっている。遺跡内で遺構名と遺構番号が複数取



第2図 長野原城跡発掘調査区全体図

在することがあるので注意が必要である。ただし本遺跡では遺構数が少なく、遺構名称や遺構番号は重複しない。

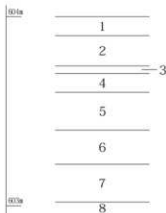
4. 「区」の100m方眼は、さらに4m方眼で625区画に分割され、その4m方眼の調査区画を「グリッド」と呼ぶ。なお、グリッドの東西にはA～Yまでのアルファベットを、南北には1～25までの算用数字を用いながら、南東隅を基点としてグリッドを呼称する。また遺構図や本文中の記載において、特に混乱が予想されない場合は、地区番号を略して用いている。

なお詳しい調査区の設定方法については、「第2章第1節「八ッ場ダム関連埋蔵文化財発掘調査方法」」「長野原一本松遺跡(1)」財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2002に詳しい。

第4節 遺跡の立地と基本土層

(1) 遺跡の立地

遺跡は、白砂川が吾妻川と合流する地点の西側に位置する。調査地点は、両河川の合流に近い中位段丘と北西部に位置する尾根上の丘陵部からなる。河川に近い平地であるA区の標高は602～605mで丘陵部下端にあたるB区の標高は610mから617m、丘陵先端部であるC区の標高は646mから652mとなっている。A区とC区との比高は約50mある。河川に近い平地であるA区東に流れる白砂川の標高は569mであり、A区との比高は約30mで



1. 表土。
2. As-A泥流層。
3. As-A軽石層。
4. 黒褐色土。細砂土。小礫を少量含む。
5. 暗褐色土。小礫を含ま粘性強い。中世～近世遺物出土。
6. 暗褐色土。小礫を多く含む。粘性強い。
7. 暗褐色土。粘性極めて強く、硬くしめる。大型礫を多く含む。
8. 暗褐色土。大型礫を主体とする。黄褐色土塊を多く含む。

第3図 長野原城跡基本土層

ある。

(2) 基本土層

調査区AのA区は、白砂川左岸の平地で土層断面A-A'の地点ではAs-A泥流層が1.3mと厚く堆積しているが、As-A軽石層の堆積はなかった。土層断面B-B'の地点では、厚さ0.15～0.3mの泥流層の下にAs-A軽石層が残り、畑が明瞭に残っていた。B区では1号トレンチにおいて、As-A泥流層とAs-A軽石層が薄く堆積していた。宋銭が出土した土層は、9層の灰黒褐色土下からである。丘陵先端部であるC区では、当然ながらAs-A泥流層はなく、表土層とロームが主であった。基本土層は、A区である。

第5節 検出された遺構と遺物

発掘調査の概要

発掘調査は、平成23年4月にA・B区を調査した。A区は白砂川左岸の平坦面、B区は長野原城南東丘陵先端部の南斜面である。発掘により、A区北側で江戸時代天明泥流下から畑2面、A区南側でAs-A泥流後の洪水により削平された面を調査した。畑耕作土下面から縄文時代の石鏝と中近世の内耳土器や陶磁器の破片等が出土した。B区は、大部分が急斜面である。最近まで使用されていた丘陵裾野部分を東西方向に走る幅1m前後の道路2カ所と大きな岩の下の平坦面1カ所の3本の1～3号トレンチによる調査を実施した。調査の結果1号トレンチでは、南傾斜面を東西に走る幅1mの道が確認され、渡来銭と思われる銭が1枚出土した。調査場所が狭く、上下面は急傾斜でありこれ以上範囲を拡張した調査は危険で出来なかった。2号トレンチは、1号トレンチ東側で同じ道路部分に石が露出していたので、石垣等の存在を確認するために調査した。調査の結果人為的に積まれた石垣はなかった。3号トレンチは、2号トレンチの北側で大きな岩の下部の平坦面の調査であった。調査の結果遺構は存在しなかった。

C区は、調査区内の樹木の伐採が終了した平成23年8月に調査した。長野原城南東位置する丘陵先端部で、長野原城に関連する遺構の存在が想定されたが、調査の結果城郭に関連するような明確な遺構は確認出来なかった。

第1項 A区(白砂川右岸の平坦面)

1 畑 (第4～6図: PL.1)

位置 A区北側、32区B～D-3～8グリッドに位置する。

2面の畑を調査した。畑はさらに北側のJRの線路側に伸びており、北側に建設される町道建設に伴い長野原町教育委員会で行った発掘調査でも、畑が発掘調査されている。耕作による畝の存在と天明3年に浅間山の噴火に伴い堆積したAs-A軽石層の堆積により明瞭に残っていた2面の畑の南側は、同じようなならかな斜面であったが、畝やAs-A軽石層の一部痕跡を残すだけで、ほとんど残っていなかった、さらに南側は大きく削られて一段低い面となっていた。土層断面で見ると厚さ1.3mほどの洪水層と思われる堆積が確認される。これは天明泥流後の洪水により削平され、その後洪水層が堆積したものと思われる。この洪水により北側にあった畑の南半分が削られ、堆積していたAs-A軽石層は大部分流失され、わずかに畑畝の一部のみが残ったものと思われる。

畑の畝は地形の傾斜面と直交して存在し、耕作土の流出を防いでいるものと思われる。畑は中央部で畝が東西に分かれるので、2面とした。畑が確認された範囲は、東西方向12m、南北方向24mで畑が良好に残っていた北側部分では南北方向12mの範囲であった。畝の長さは最大で5.4m、畝の幅は0.3～0.4mであり、高さは0.03m前後である。

2 低地部分 (第4図: PL.1)

位置 A区北側、32区B～D-3～8グリッドに位置する。

低地部分の最も低い部分は、良好な畑の確認された畑面中央部より約3m低く、残りの悪い南側の畑面端部より1.8m低くなっている。低地で最も低い部分は白砂川に近く、西側の丘陵に向かって次第に高くなっている。低地部分は泥流以前にあったであろう低い畑面を、泥流が削ったことにより出来たものと思われる。底面には西側白砂川の河川と同じような大小の大量の河原礫が、露出していた。

第2項 B区(長野原城南東丘陵先端部の南斜面)

1 1号トレンチ (第7・8図: PL.2)

位置 B区西側、32区P-10グリッドに位置する。

丘陵裾部分を東西方向に走る幅1m前後の道路部分に東西方向3.7m南北方向2.6m深さ0.4～1.8mのトレンチによる調査を実施した。調査の結果南傾斜面を東西に走る幅1mの道が確認され、渡来銭と思われる銭が1枚出土した。

2 2号トレンチ (第7・10図: PL.2)

位置 B調査区南側、32区L・M-6・7グリッドに位置する。

東西1号トレンチ東側で同じ道路部分に石が露出していたので、石垣等の存在を確認するために調査した。調査範囲は東西方向9m南北方向0.8m範囲であった。調査の結果人為的に積まれた石垣はなかった。道路建設に伴い、山の傾斜面の石を削ったものと思われる。

3 3号トレンチ (第7・9図: PL.2)

位置 B区東側、32区J-10・11グリッドに位置する。

2号トレンチの北側で大きな岩の下部に平坦面があった。その部分の調査である。東西方向2.2m南北方向1.7m深さ1.1～1.25mのトレンチによる調査を実施した。調査の結果遺構は存在しなかった。

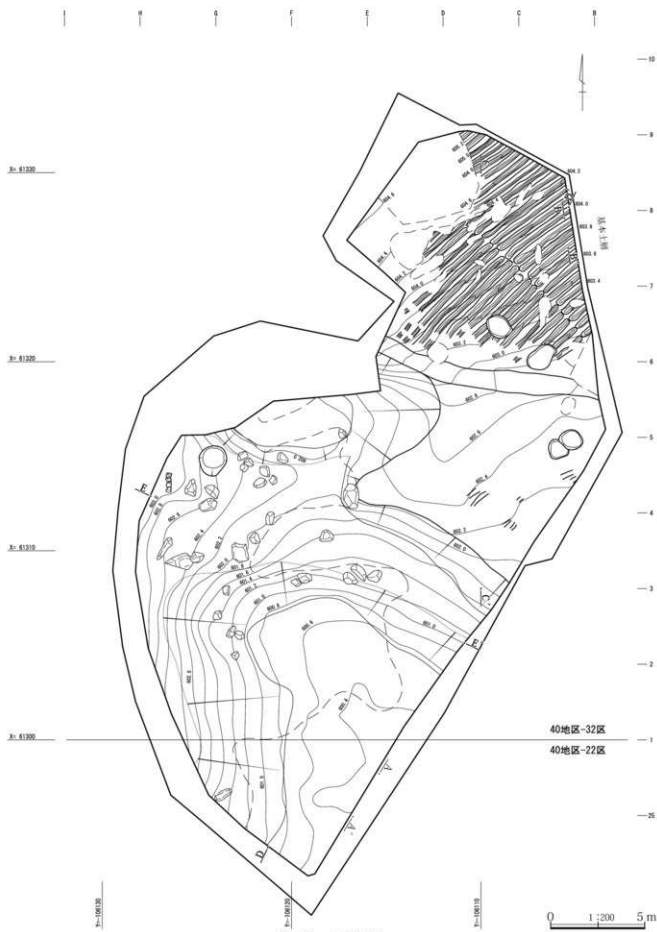
第3項 C区(長野原城南東丘陵先端部)

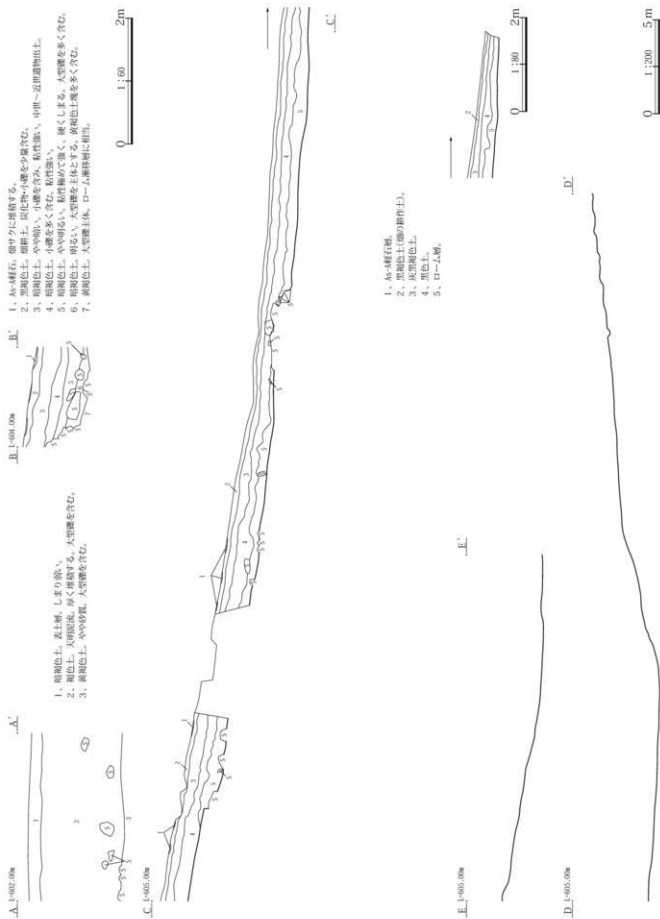
(第12～15図: PL.3)

位置 B区東側、32区J-10・11グリッドに位置する。

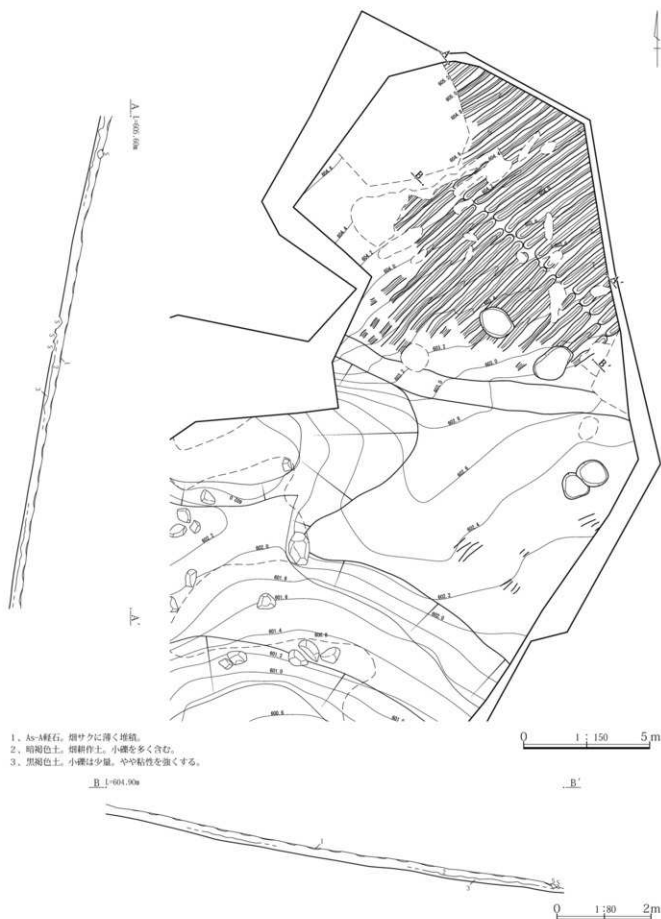
調査区内の樹木の伐採が終了した平成23年8月に調査した。長野原城南東位置する丘陵先端部で、長野原城に関連する土塁や堀又はそれらに関連する建物跡等の存在が想定された。調査の結果城郭に関連するような明確な遺構は確認出来なかった。出土遺物として城が機能していた中世の在土土器である内耳土器(鍋)が4片発見された。

ローム台地であり、旧石器確認調査も実施したが、遺物の出土はなかった。

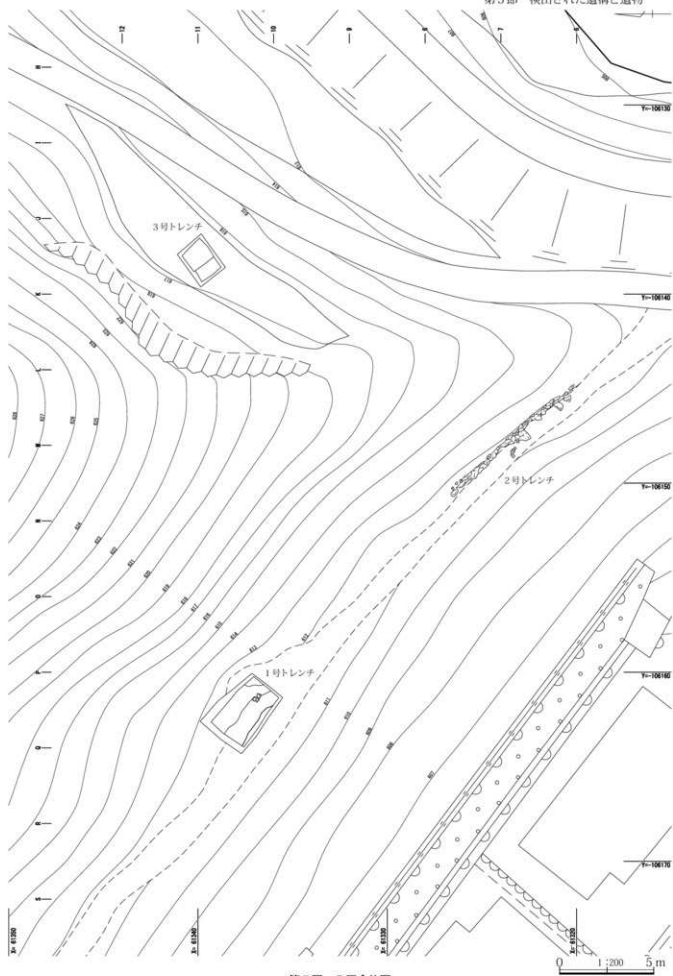




第5図 A区土層断面図

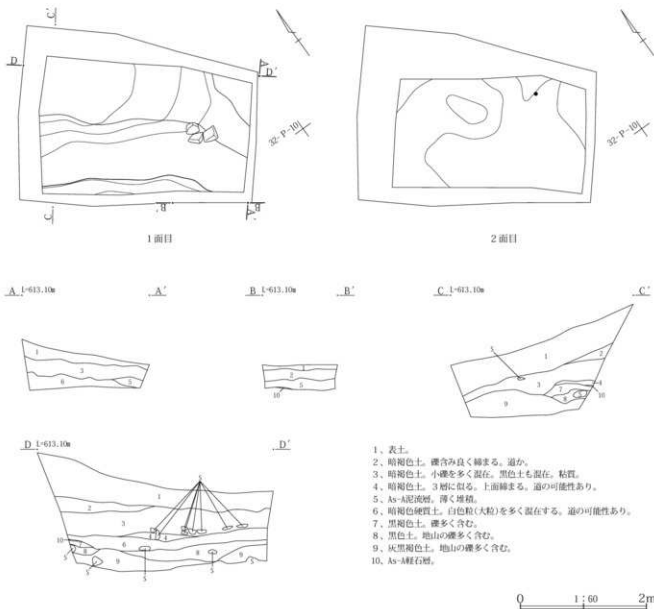


第6図 A区畑

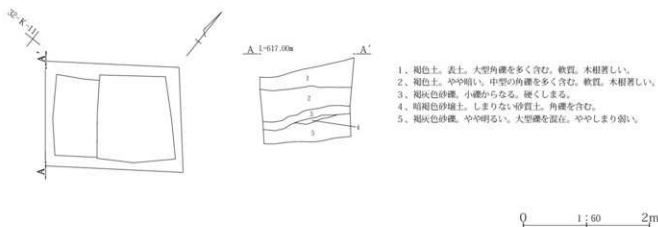


第7図 B区全体図

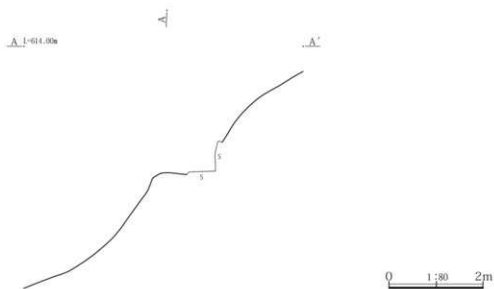
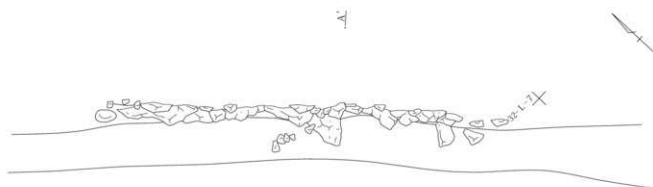
第2章 長野原城跡



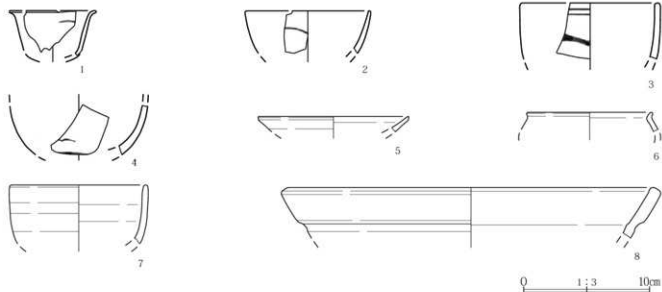
第8図 B区1号トレンチ



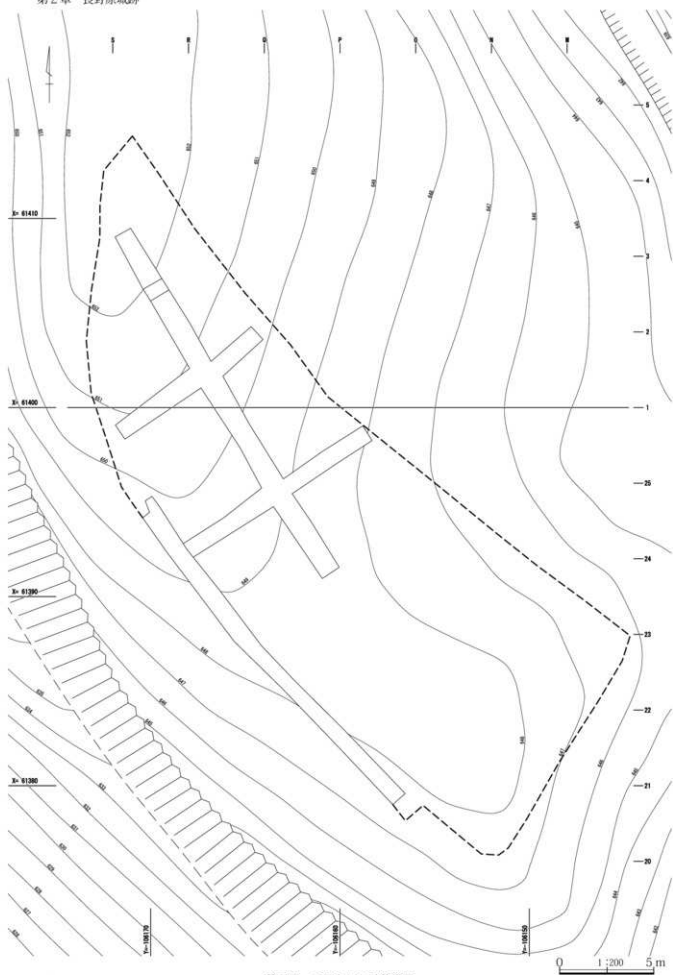
第9図 B区3号トレンチ



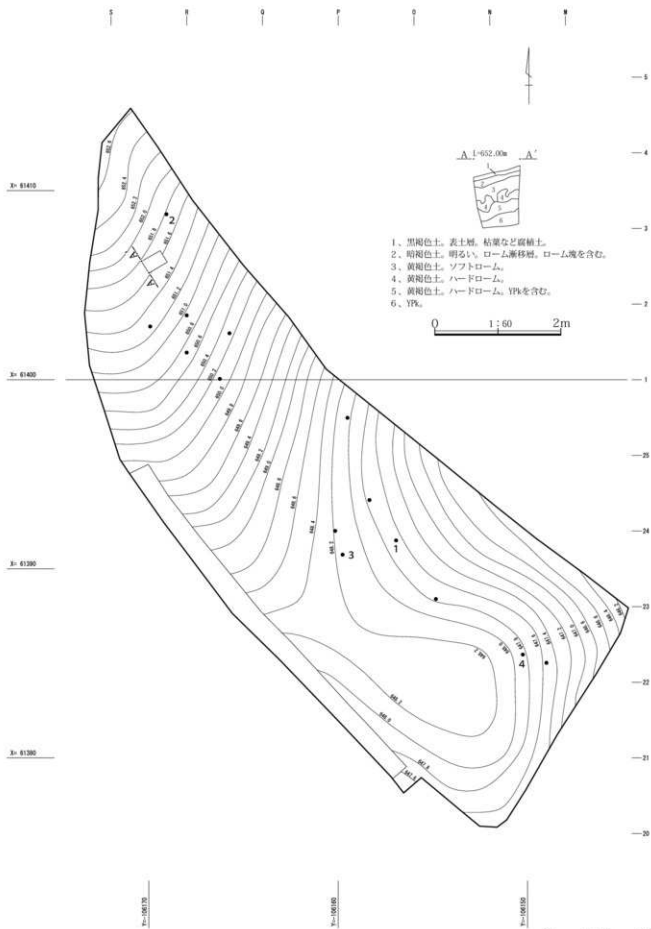
第10図 B区2号トレンチ



第11図 A区出土遺物(1)

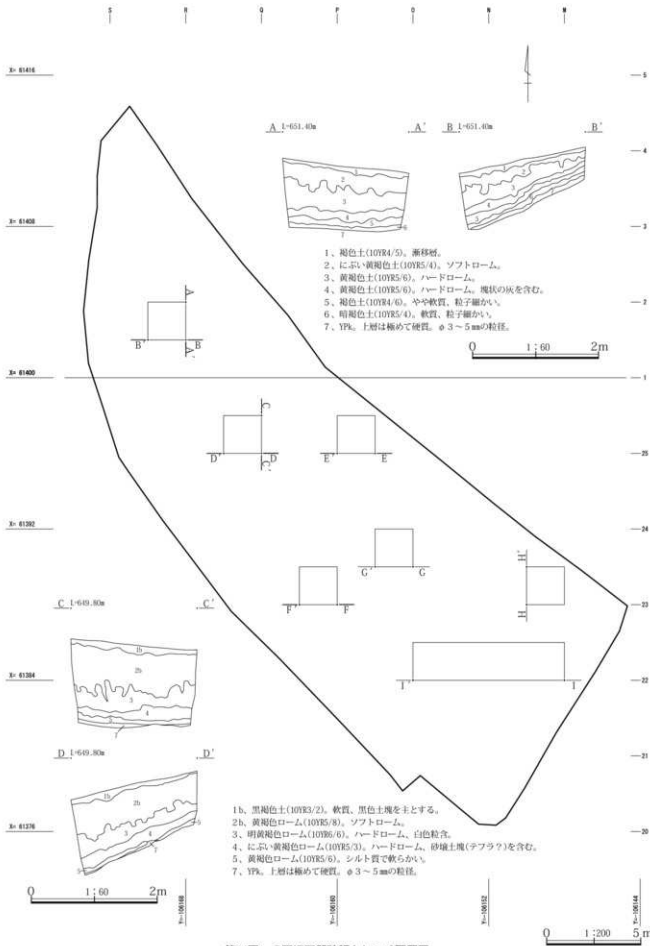


第12図 C区トレンチ位置図

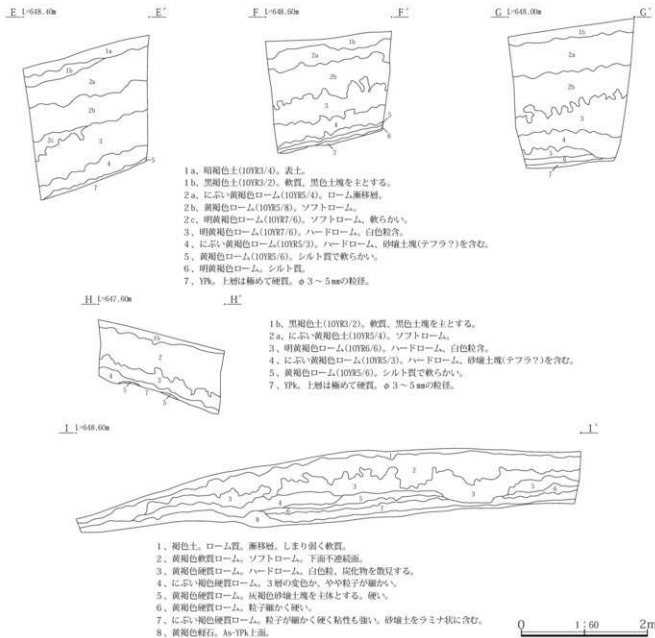


第13図 C区全体図

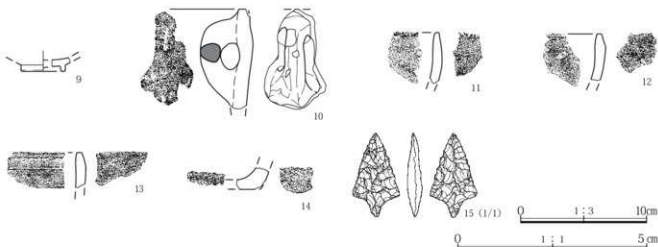
0 1:200 5m



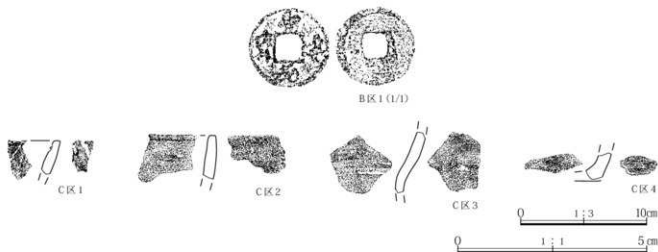
第14図 C区旧石器確認トレンチ配置図



第15図 C区旧石器確認トレンチ土層断面図



第16図 A区出土遺物(2)



第17図 B・C区出土遺物

第6節 調査の総括

長野原城は、吾妻川と白砂川の合流地点の尾根上に築かれた細長い城である。長野原城に関する研究は山崎一氏が『群馬県古城址の研究』下巻1978年「523長野原城（箱岩城）」の中で詳しい記述と図面を提示している。また『群馬県の中世城館跡』群馬県教育委員会1988年の中では、図面と一覧表を掲載している。金子康夫氏は「長野原城」『中世城郭研究 第5号』1991年の中で詳しい記述と図面を提示している。山崎氏の図面と県教育委員会で作成した縄張り図には今回発掘調査した場所は含まれていないが、現在県教育委員会が作成している遺跡地図と金子康夫氏の作成した地図には今回発掘調査した部分が長野原城として含まれている。

発掘調査の結果は、第5節 検出された遺構と遺物の中で詳しく報告した。

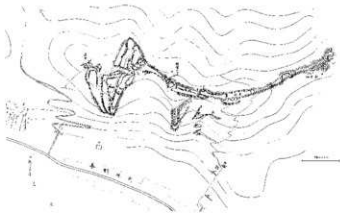
A区では北側に江戸時代天明3年の泥流と軽石に覆われた畑が2面検出された。南側にも元々畑があったものと思われるが、大きく削り取られて、畑や軽石は残っていなかった。出土遺物として、中世の内耳土器や17世紀から18世紀代の肥前系の磁器や瀬戸・美濃系の陶器等が出土している。

B区では3カ所のトレンチ調査を実施し、1号トレンチの調査により数度にわたり、この部分は道路として使われていたことが明らかとなった。江戸時代天明3年(1783)以前の土層から、判読はできないが、渡来銭と思われる銭が出土した。渡来銭は江戸時代寛文10年(1670)

に使用が禁止されている。銭の出土した面で明瞭な道路面の確認はできなかったが、中世においても、第1・3号トレンチ部分は、道路として使われていた可能性が指摘できる。

発掘前のC区は、調査区先端部に高まりがあり、城に関連した遺構の存在が想定されたが、明瞭な遺構は確認できなかった。出土遺物として、中世の在地産の内耳土器が調査区の広い範囲から4点出土した。長野原城が使われた時期は15世紀代とされているので、長野原城と同じ時期の城に関連した何らかの遺構があった可能性が指摘できそうである。

発掘調査の結果、調査区から長野原城に関連した明瞭な遺構を確認することはできなかった。しかし多くの中世遺物の出土から、城に関連した何らかの施設が存在していた可能性の高いことが指摘できそうである。



山崎一「群馬県古城址の研究」より引用

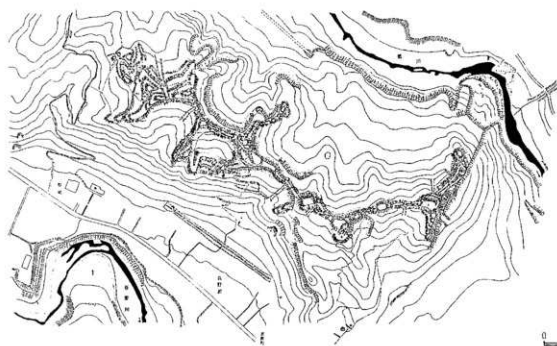
第18図 長野原城跡縄張り図(1)



発掘範囲

金子康夫『長野原城』より引用

第19図 長野原城跡縄張図(2)



群馬県教育委員会『群馬県の中世城館跡』より引用

第20図 長野原城跡略測図

表2 出土遺物観察表

A区		掲載番号	種別 器種	残存状態	計測値(cm)			胎土・焼成・色調	成形、調整の特徴など	備考
神岡番号 図版番号	①口径 ②底径 ③器高									
第11図 PL.3	1	染付 小杯小碗	口縁～胴部 30%	③(6.8)	良好。灰白色。	良好。灰白色。	小杯か端反小碗。肥前系。	17世紀後～ 18世紀中		
第11図 PL.3	2	染付 碗	口縁～胴部片	③(9.8)	良好。灰白色。	良好。灰白色。	肥前系。	17世紀末～ 18世紀		
第11図 PL.3	3	陶胎染付 碗	口縁～胴部片	③(11.0)	良好。黄灰色。	良好。黄灰色。	肥前系。	18世紀前		
第11図 PL.3	4	染付 碗	胴部片	③(3.9)	良好。灰白色。	良好。灰白色。	肥前系。	17世紀後～ 18世紀		
第11図 PL.3	5	陶器 灯火皿か	口縁部片	③(12.0)	良好。褐色。	良好。褐色。	志戸呂。	近世		
第11図 PL.3	6	陶器 碗	口縁部片	③(10.0)	良好。灰白色。	良好。灰白色。	天目茶碗。瀬戸・美濃系。	近世		
第11図 PL.3	7	陶器 碗	口縁～胴部片	③(10.8)	良好。黄灰色。	良好。黄灰色。	丸碗か尾呂茶碗。瀬戸・美濃系。	18世紀		
第11図 PL.3	8	陶器 すり鉢	口縁部片	③(30.0)	良好。灰黄褐色。	良好。灰黄褐色。	漆細の痕跡を残す。瀬戸。	建房5～7小 間か		
第16図 PL.3	9	陶器 碗	高台部片	②(3.4)	良好。浅黄褐色。	良好。浅黄褐色。	灰輪。小碗か。肥前系か。	近世以降		
第16図 PL.3	10	在壇土器 内耳上部	内耳部	③(7.9)	細砂粒多。焼し焼成。やや良好。にぶい黄褐色。	細砂粒多。焼し焼成。やや良好。にぶい黄褐色。	銅形。口縁端部平坦。外面横撫で。信濃型。	中世		
第16図 PL.3	11	在壇土器 内耳上部	口縁部片	③(3.9)	細砂粒多。酸化炎焼成。良好。灰黄褐色。	細砂粒多。酸化炎焼成。良好。灰黄褐色。	銅形。口縁端部、やや摩滅も平坦。内外面横撫で。	中世		
第16図 PL.3	12	在壇土器 内耳上部	口縁部片	③(3.6)	細砂粒多。酸化炎焼成。良好。褐色。	細砂粒多。酸化炎焼成。良好。褐色。	銅形。口縁端部、平坦でシャープ。内外面横撫で。	中世		
第16図 PL.3	13	在壇土器 内耳上部	口縁部片	③(2.9)	細砂粒多。酸化炎焼成。良好。褐色。	細砂粒多。酸化炎焼成。良好。褐色。	銅形。口縁端部、平坦でシャープ。内外面横撫で。	中世		
第16図 PL.3	14	在壇土器 内耳上部	底部片	③(1.6)	細砂粒多。酸化炎焼成。良好。にぶい黄褐色。	細砂粒多。酸化炎焼成。良好。にぶい黄褐色。	銅形。平底。	中世		
神岡番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態 出土位置	計測値(cm)			石材	成形、調整の特徴など		
第16図 PL.3	15	石鏝	完形 表土	①長さ ②幅 ③厚・高 ④重さ	①2.2 ②1.3 ③0.4 ④0.6	黒曜石	平基有基。調整良好。			

B区

神岡番号 図版番号	掲載番号	種別 銭種	残存状態	計測値(mm, g)					時期 備考
				①直径 ②内輪径 ③厚さ ④重さ					
第17図 PL.3	1	完形	21.80 22.00 19.00 19.00 1.00	1.7	判読不能。波来銭か。				

C区

神岡番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態	計測値(cm)			胎土・焼成・色調	成形、調整の特徴など	備考
				①口径 ②底径 ③器高					
第17図 PL.3	1	在壇土器 内耳上部	口縁部片	③(2.6)	細砂粒少。酸化炎焼成。良好。にぶい黄褐色。	細砂粒少。酸化炎焼成。良好。にぶい黄褐色。	銅形。口縁端部、平坦でシャープ。外面横撫で。内耳部分。	中世	
第17図 PL.3	2	在壇土器 内耳上部	口縁部片	③(3.4)	細砂粒含。焼し焼成。やや良好。にぶい黄褐色。	細砂粒含。焼し焼成。やや良好。にぶい黄褐色。	銅形。口縁端部、平坦でシャープ。内外面横撫で。	中世	
第17図 PL.3	3	在壇土器 内耳上部	口縁～頸部片	③(4.6)	細砂粒含。酸化炎焼成。良好。にぶい黄褐色。	細砂粒含。酸化炎焼成。良好。にぶい黄褐色。	銅形。内外面横撫で。	中世	
第17図 PL.3	4	在壇土器 内耳上部	胴～底部片	③(1.6)	細砂粒多。酸化炎焼成。良好。にぶい褐色。	細砂粒多。酸化炎焼成。良好。にぶい褐色。	銅形。平底か。内外面撫で。	中世	

第3章 林中原 I 遺跡

第1節 調査に至る経緯と経過

林中原 I 遺跡は、ハツ場ダム建設工事に伴う、林地区工事用道路進入路建設工事、国道林長野原線建設工事、町道建設工事に伴い発掘調査が実施された。

調査概要

平成16年度の調査概要 ハツ場ダム建設工事に伴う林地区工事用道路進入路建設工事に伴う発掘調査が平成16年5月に実施された。調査の結果縄文時代の土坑と1128年の浅間山噴火を起源とする「浅間柏川テフラ」と呼ばれる火山灰が部分的に確認された。遺物は、縄文土器と陶磁器片が出土している。

平成19年度の調査概要 国道林長野原線建設に伴う発掘調査が平成19年8月～12月まで実施された。調査の結果縄文時代の住居・土坑・竪穴、中近世の林城・堀・掘立柱建物・土坑・溝・墓・石垣・池等を調査。

平成20年度の調査概要 国道林長野原線建設に伴う発掘調査が平成20年4月～6月まで実施された。調査の結果縄文時代の土坑、中近世の林城・掘立柱建物・礎石建物・人骨・獣骨を出土した土坑・土取穴・溝・石垣・焼土・道等を調査。

平成21年度の調査概要 町道新設工事に伴う発掘調査が平成21年11月～12月まで実施された。調査の結果縄文時代の住居・竪穴状遺構・土坑、中近世の竪穴状遺構・掘立柱建物・礎石建物・土坑・溝等を調査。

調査経過

平成16年5月

- ・72・73・84区土坑調査、出土遺物として縄文土器と中近世の陶磁器出土。調査終了。

平成19年8月

- ・調査事務所設置予定地の52区北側を優先して調査開始。
- ・52区1号竪穴状遺構で内耳銅や漆紙等出土、1号落ち込み、土坑等調査。
- ・第1・3区画(54区)1～3号堀、土橋、池等調査。

平成19年9月

- ・調査事務所設置予定地の調査終了、埋め戻して調査事務所設置。
- ・52・53区1号竪穴状遺構の銅等調査。
- ・林城1・3号石垣、土坑、池、4～6号堀、第3区画の掘立柱建物調査。
- ・52・53区旧石器確認調査。

平成19年10月

- ・62区調査開始、ビット、土坑等調査終了。
- ・52・53区旧石器確認調査。
- ・林城1・3号石垣、土坑、1・2号池、4～6号堀、第3区画の掘立柱建物調査。
- ・52区中世の1号竪穴状遺構、53区縄文時代の1号住居調査。

平成19年11月

- ・52区縄文時代の1号住居、53区縄文時代の2・3号住居、土坑、53区掘立柱建物、53区1号墓、林城1号堀調査。
- ・第6区画(54区)掘立柱建物、土坑、ビット調査。11月13日空撮実施。11月25日現地説明会実施。

平成19年12月

- ・52区縄文時代の1号住居、中世の2・3号竪穴状遺構、掘立柱建物、土坑調査。
- ・53区掘立柱建物、52区縄文時代の3号住居、土坑調査。
- ・林城1号石垣、2・3号堀、1・2号池調査。
- ・第3区画2・3号石垣調査。
- ・第6区画旧石器確認調査実施。
- ・12月11日空撮実施。52・53・62区と54区一部の調査終了。

平成20年4月

- ・第1・2区画遺構面精査。

平成20年5月

- ・第1区画(44・45・54・55区)トレンチ調査、土坑、1号墓、5号石垣、1号礎石、削平面、スロープ、1号道調査。
- ・第2区画(45区)トレンチ調査、1号礎石建物、土取穴、1号墓、1～6号焼土、土坑調査。

平成20年6月

- ・第1区画(44・45・54・55区)ピット、土坑、1号石垣、1号道調査。
- ・第2区画(45区)1号礎石建物、土坑、土取穴、1・4号竪、1～5号馬、1～6号焼土調査。
- ・土取穴、ピット(45・55区)調査。
- ・空撮実施。第1・2区画(44・45・54・55区)調査終了。

平成21年11月

- ・54区表土掘削、土坑、ピット調査。
- ・53区1号竪穴状遺構、2・3号溝、土坑調査。
- ・54区1～6溝、土坑調査。
- ・63区土坑、ピット調査。

平成21年12月

- ・53区ピット、1号竪穴状遺構、土坑調査。
- ・54区縄文時代1号住居、土坑調査。
- ・第7区画(54区)掘立柱建物、2号竪穴状遺構、1・2号礎石建物、1～6号溝、ピット、土坑調査。
- ・53・54(第7区画含む)、63区調査終了。

第2節 調査の方法

発掘調査は、バックホーによる表土掘削を行い、作業員による遺構検出作業と精査により順次進めた。平成19年度調査では、橋脚工事及び工事用道路の施行との関係で、遺跡の東端から50mの範囲と調査区北側15m幅長さ200mの範囲を先行調査し、その後南半分の調査を実施することを要請され、そのように発掘を実施した。また工事との関係で北側の町道に関連する一部の調査も実施した。

平成20年度調査では、19年度に継続して西側20m範囲の調査を実施した。平成21年度調査では、調査対象である道路幅が狭く、調査区内に道路があり調査終了後迂回道路を作成し、現行の道路下の調査を実施した。さらに人家の出入口が調査区内にあり、迂回路を確保しながらの調査であった。このような状況から一度に広い面積の発掘は出来なかった。

遺構平面図測量は、測量業者委託によるデジタル測量で実施した。遺構写真については、平成16年度調査では現場担当者が35mm版白黒フィルムとカラースライドフィルムを用い、必要に応じて6×7版白黒フィルムで撮影した。平成19年度以降は、デジタル撮影と必要に応じて6×7版白黒フィルムで撮影した。

第3節 調査区の設定

平成6年から始まったハツ場ダム建設工事に伴う発掘調査においては、遺跡名称の略号やグリッドの設定などについて「ハツ場ダム関連埋蔵文化財発掘調査方法」に基づき進められている。以下本報告書でもそれに準拠し、必要部分について掲載する。

1. 遺跡番号 ハツ場ダムの略称はYD、つぎに長野原の大字5地区に 1:川原畑地区 2:川原湯地区 3:横壁地区 4:林地地区 5:長野原地区と番号を付ける。各地区に所在する遺跡に対しては、調査順に番号を付ける。林中原1遺跡は林地地区14番目で14となる。遺跡番号はYD4-14となる。

2. 座標軸 基準座標は、国家座標(2002年4月改正以前の日本測地系)に基づく日本平面直角座標第IX系を使用し、東吾妻町大字大柏木付近を原点(座標値X=+58000.0、Y=-97000.0)とした1km方眼を基点として60の区画を設定し、この大グリッドを「地区」と呼ぶ。本遺跡はNo27地区に所在する。

3. 1km方眼を南東隅から100m方眼の1～100に区画し、この中グリッドを「区」とする。南東隅を1とし、東から西へ連続する10単位を南から北に配列し、北西隅を100として完結するよう配置する。本遺跡の場合、国道部分(44・45・52・53・54・55区、町道部分(52・53・54・62・63区、工事用道路部分(72・73・84区)にあたる。基本的にそれぞれの遺跡の区毎に遺構名称・遺構番号を付けることになっている。遺跡内で遺構名と遺構番号が複数存在することがあるので注意が必要である。一方この基準とは別に、本遺跡では、林城に関する遺構を林城・第1区画～第7区画と区分しそれぞれの区画毎に遺構番号をつけた。この区画範囲に含まれない遺構及びピット番号は、従来の基準で遺構番号を付けた。林城の区画は堀・石垣・土橋・橋・虎口・池とし、遺跡全体

の中で番号を付けた。第1区画～第7区画の遺構番号は必要に応じて各区画の記述の前に全体図の中で示した。

4. 「区」の100m方眼は、さらに4m方眼で625区画に分割され、その4m方眼の小グリッドを「グリッド」と呼ぶ。なお、小グリッドの東西にはA～Yまでのアルファベットを、南北には1～25までの算用数字を用いながら、南東隅を基点としてグリッドを呼称する。また遺構図や本文中の記載において、特に混乱が予想されない場合は、地区番号を略して用いている。

第4節 遺跡の立地と基本土層

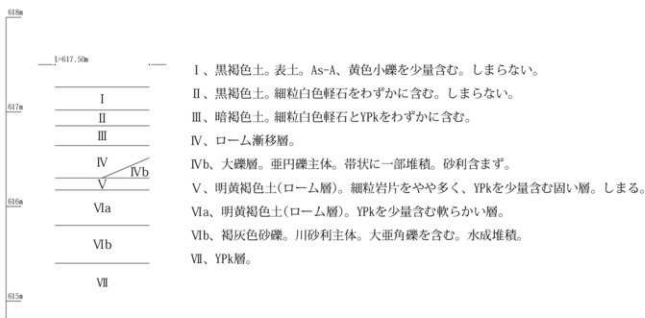
(1) 遺跡の立地

遺跡は、吾妻川左岸の最上位段丘面に立地する。調査は東西約280m南北約320mの範囲である。標高は北側の工事用道路部分が標高635m前後、中央部である町道部分では標高618m前後、最も南側の国道部分では標高612m前後と低い、工事用道路部分と国道部分との距離約280m間で23mほどの高低差がある。林城西側の第2区画では標高610m、段丘下の旧国道付近では標高550m前後となり、約60mの高低差がある。林城は段丘上に築か

れていることがわかる。

(2) 基本土層

調査区は、広く北側の工事用道路部分では、黒褐色土の堆積が薄く砂礫が多い。南側の国道部分では黒褐色土の堆積が厚く砂礫が少ない。また国道部分の44・54区には湧水があり、他の調査区の土層堆積と異なる。このように調査場所により土層堆積は少し異なっている、基本土層は遺構数が最も多い、国道部分の中央部54区グリッド内の土層とする。



第21図 林中原1遺跡基本土層

第5節 検出された遺構と遺物

第1項 縄文時代

今回報告する調査区では、縄文時代の住居5軒、竪穴状遺構1軒、土坑108基が確認された。

当遺跡の主体は林城とその周囲に構築された中世の遺構群であり、それらの施設造成に伴う切り盛りが各所に認められる。そのため、縄文時代の遺構の多くは上層を削平されており、失われた遺構もあったと想定される。遺構外出土遺物も量的には少なく、中世の遺構から伴出したものもある。

遺構外出土土器では、早期初頭と早期後半のものがわずかに認められた。早期初頭期の遺跡は林地区の楡木Ⅱ遺跡をはじめ、吾妻川左岸の日当たりのよい高位段丘上のいくつかの遺跡で確認されており、この地区がいち早く活動拠点として利用されたことが伺える。なお、52区1号住居からいわゆる穀磨石と呼ばれる特殊磨石(第25図11)が出土している。この種の石器は、長野県を中心に早期押型文系土器に伴うものとされている。同住居は早期初頭期のものであり、混在と考えるべきであろう。

前期は、本遺跡では住居4軒が検出されており、遺構

外出土土器もこの時期が最も多い。住居は前期初頭期が1軒、中葉期が2軒、後葉期が1軒であり、中世の削平で失われた遺構があったと想定しても、各住居の位置はかなり離れており、集落と呼ぶには心許ない。土器も前期初頭から終末までのものが出土してはいるが断片的な資料であり、断片的にこの地点が利用されたと理解したほうがよいだろう。

中期では、阿玉台1b式期の住居1軒と、加曾利E4式期の竪穴状遺構が検出されているが、遺構外出土遺物は前期と同様に断片的であり、同様の利用状況が続いていたと想定される。本遺跡の周囲には中期集落が点在しており、当遺跡はそれらの補足的な地区だったのである。

後期では前半期の土器が少量出土しているに留まり、堀之内2式期を最後に出土は認められなくなる。

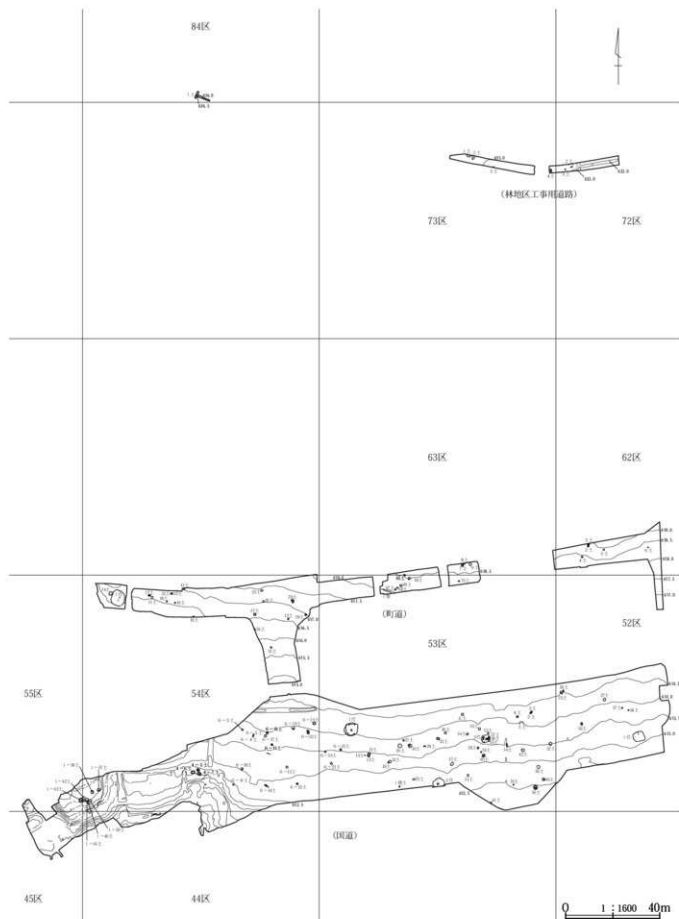
なお、弥生時代終末期の土器が1点のみであるが出土している。本地域は、県内で稲作農耕社会が本格化する弥生時代中期後半から集落が消失する地区にあっており、この時期の資料は稀少である。

以上が当遺跡調査区から得られた縄文時代の概要である。なお、当遺跡の北側を地元長野原町教育委員会が調査しており、時期によって増減は異なるが、ほぼ同様の時期の遺構・遺物が出土している。

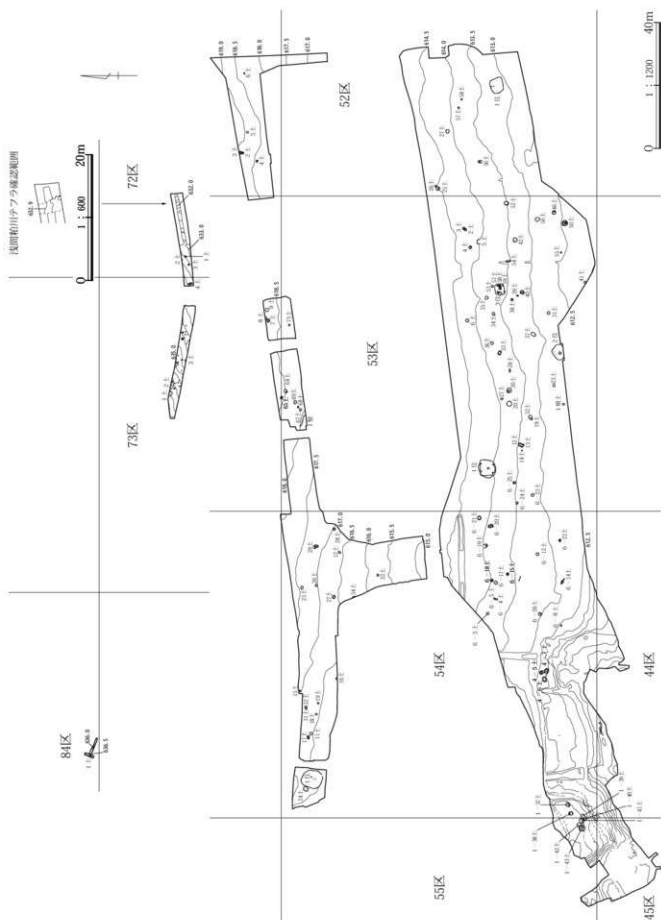
以下、縄文時代の遺構・遺物を報告する。

表3 縄文時代住居一覧表

住居番号	グリッド	時期	形状	長軸	短軸	深さ	炉	柱	切合関係	備考
52区1号住居	Q・R-8・9	前期初頭	隅丸方形	4.8m	4.3m	15cm	未確認	(5)	なし	花箱下層式期
53区1号住居	V・W-9・10	前期前半	隅丸方形	5.3m	5m	22cm	地床炉	6	なし	床状耳飾り出土
53区2号住居	L・M-3・4	前期前半	隅丸方形	4.5m	4.3m	11cm	地床炉	(3)	なし	
53区3号住居	H-8	阿玉台1b式期	隅丸方形	3.8m	3.16m	10cm	土器埋設炉	4	なし	炉内に土器2個体を埋設。
54区1号住居	U・V-22~24	諸磯式期	隅丸方形	6.6m	5.8m	22cm	地床炉	(1)	なし	
53区1号竪穴	R・S-24	加曾利E4式期	不明	—	—	40cm	—	—	なし	住居の可能性が高い。



第22図 縄文時代遺構全体図(1)



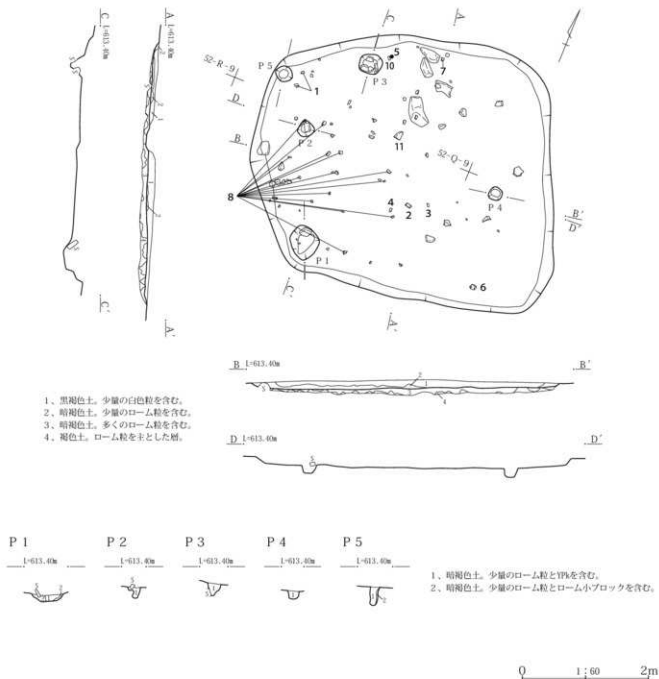
第23図 縄文時代遺構全体図(2)

1 住居

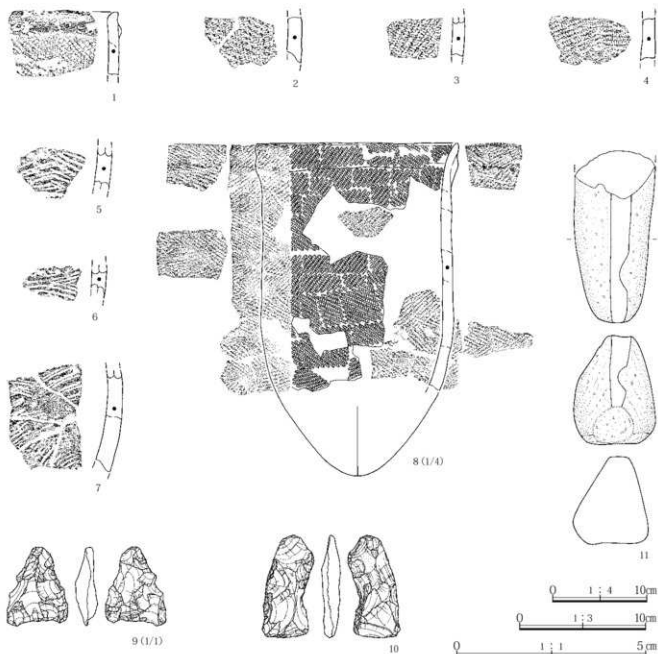
52区1号住居 (第24図: PL.4)

位置 国道部分の東端南側、52区P・Q-8・9グリッドに位置する。**重複** なし。**形状** 丸みのある隅丸方形を呈す。**規模** 4.8m×4.3m、壁高は残りの良い北壁面で15cm。**方位** N-23°-W。**床面** ほぼ平坦である。周溝は掘られていない。**炉** 確認出来なかった。**柱穴** 壁面付近に大きさや深さが不

揃いなピットが5個掘られていたが、柱穴になるのかは明らかでない。**埋裏** なし。**掘り方** ローム面まで掘り込み、厚さ約10cmの暗褐色土中にローム粒とロームブロックを多く含む土で床面としていた。**出土遺物** 住居覆土中から縄文土器8片と石器3点等が出土している。**時期・所見** 時期は縄文時代前期前半と思われる。



第24図 52区1号住居

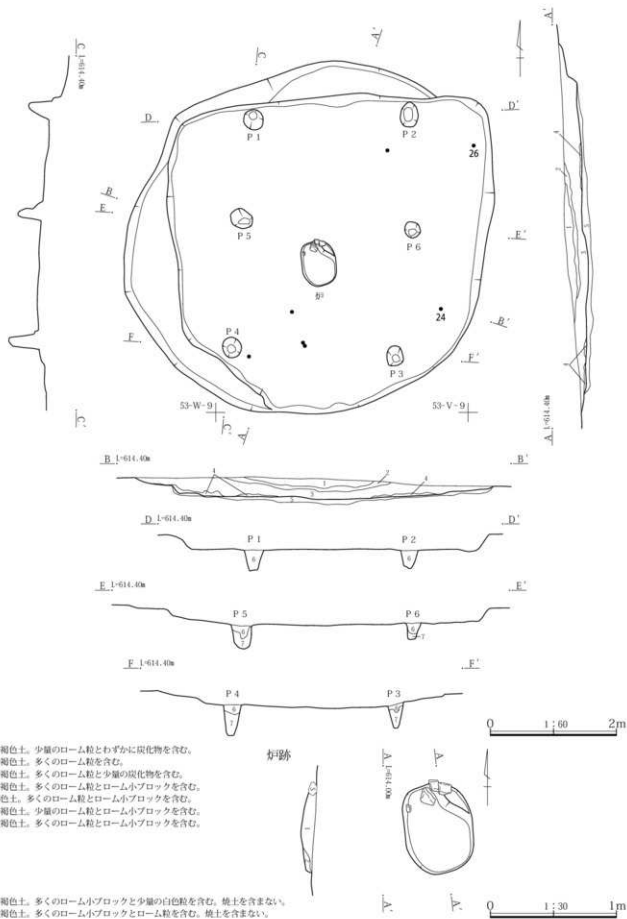


第25図 52区1号住居出土遺物

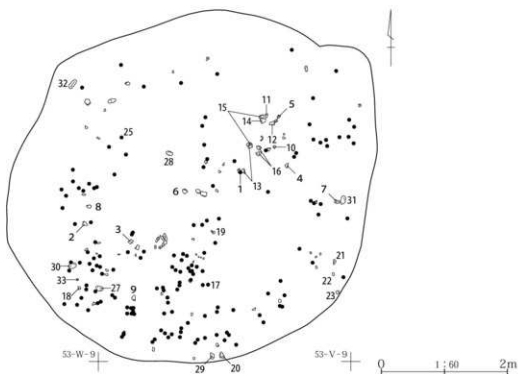
53区1号住居 (第26・27図：PL.4・5)

位置 国道部分の東端南端、52区V・W-9・10グリッドに位置する。**重複** なし。**形状** 丸みのある隅丸方形を呈す。**規模** 5.3m×5m、壁高は残りの良い北壁面で22cm。**方位** N-4°-W。**床面** ほぼ平坦である。床面中央部が全体的に低くなっている。周溝は掘られていない。**炉** 床面ほぼ中央部に造られている。炉の掘り方隅丸長方形を呈する。規模は東西方向55cm、南北方向73cm、炉石は北壁面には3個残っていた。炉は床面から約10cm掘り込まれていた。**柱穴**

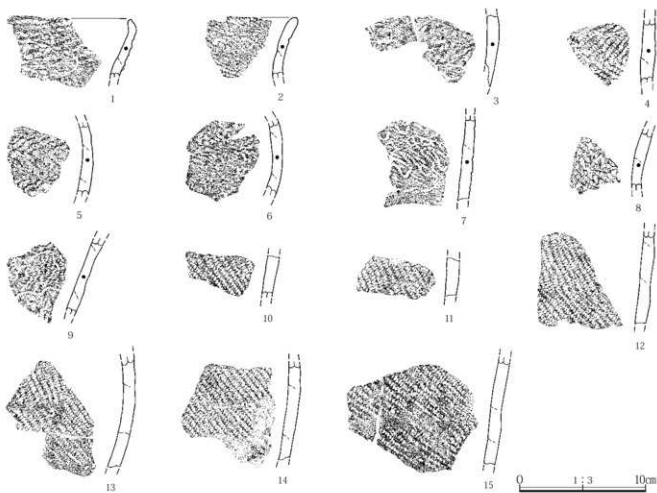
6本掘られている。**埋藏** なし。**掘り方** 床面周辺以外ほぼ全面にわたり、ローム面まで掘り込み、厚さ約3～6cmの暗褐色土中にローム粒とロームブロックを多く含む土で床面としていた。**出土遺物** 住居覆土中から縄文土器16片と石器17点等が出土している。**時期・所見** 住居平面形で見ると、西側と北側が浅く張り出している。張り出している部分の深さや出土遺物分布状況等からみて調査段階で一部掘りすぎている。時期は縄文時代前期前半と思われる。



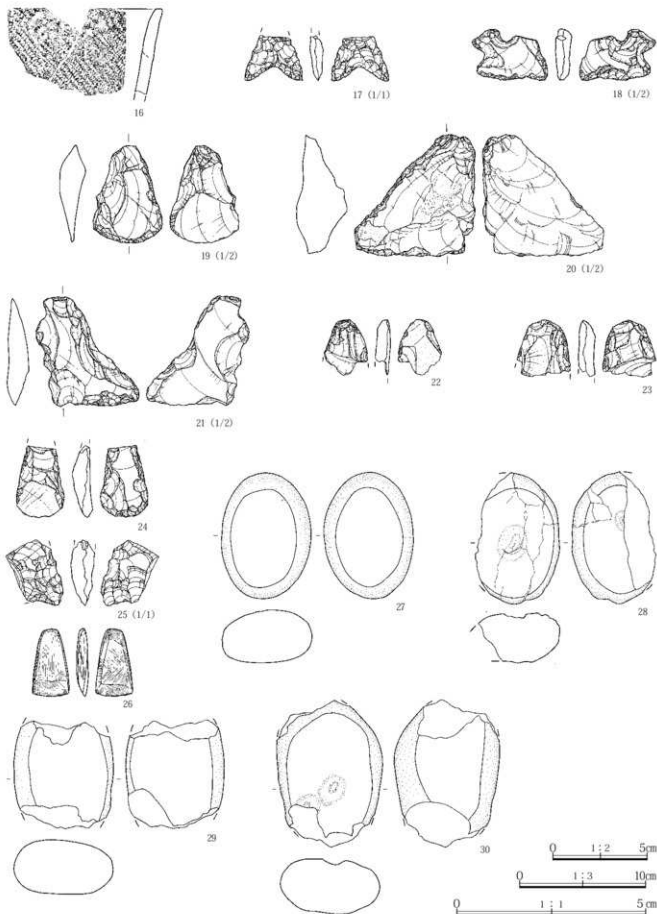
第26図 53区1号住居(1)



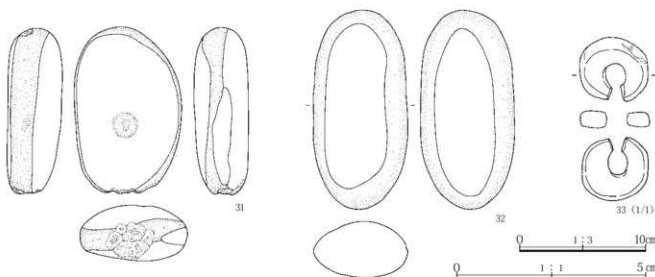
第27图 53区1号住居(2)



第28图 53区1号住居出土遺物(1)



第29図 53区1号住居出土遺物(2)



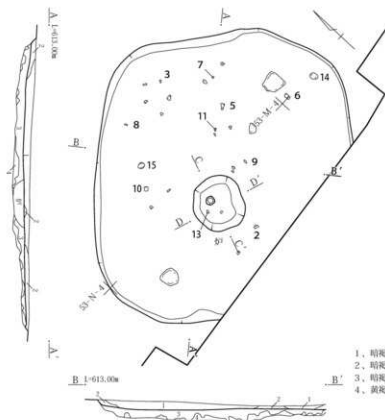
第30図 53区1号住居出土遺物(3)

53区2号住居 (第31・32図: PL.5)

位置 国道部分の東端南端、53区L・M-3・4グリッドに位置する。**重複** なし。**形状** 隅丸長方形。**規模** 4.5m×4.3m、壁高は残りの良い北西壁面で11cm。**方位** N-45°-E。**床面** ほぼ平坦である。周溝は掘られていない。**炉** 床面はほぼ中央部南寄りに造られている。掘り方は隅丸長方形を呈す

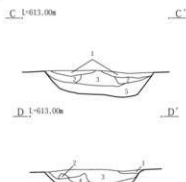
る。規模は長軸方向88cm、短軸方向80cm、炉石は使われていない。**柱穴** 壁面付近に大きさや深さが不揃いなピットが3個掘られていたが、柱穴になるのかは明らかでない。

埋篋 なし。**掘り方** ローム面まで掘り込み、厚さ約3～12cmの暗褐色土中にローム粒とロームブロックを多く含む土で床面としていた。住居北側に長軸290、



第31図 53区2号住居(1)

炉石



1. 暗褐色土。少量のYPKと炭をわずかに含む。
2. 暗褐色土。多くのローム粒と少量のローム小粒子を含む。
3. 暗褐色土。少量の炭を含む。
4. 暗褐色土。焼土小ブロックを含む。
5. 暗褐色土。多くのローム粒とローム小ブロックを含む。

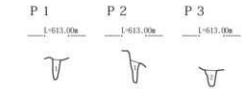
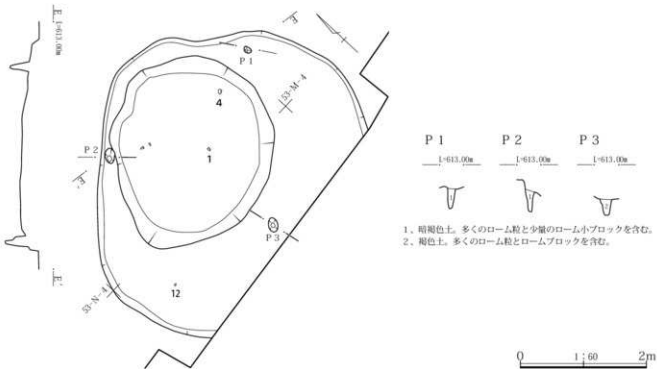
0 1:30 1m

1. 暗褐色土。少量のYPKを含む。
2. 暗褐色土。少量のローム粒を含む。
3. 暗褐色土。多くのローム粒を含む。
4. 黄褐色土。ロームブロックとローム粒を主とした層。

0 1:60 2m

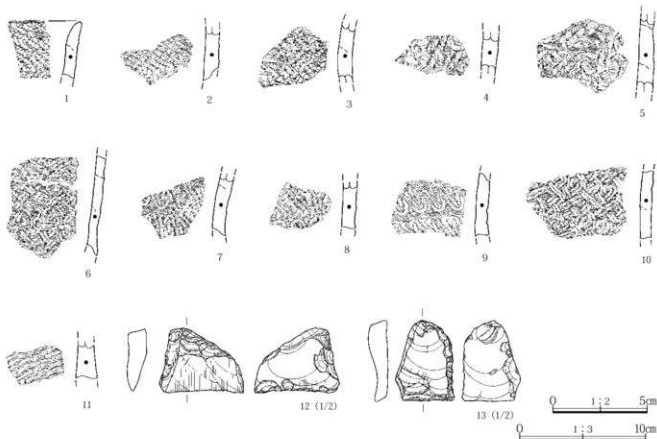
短軸260cm。床面からの深さ17cmほどの大きな床下土坑が掘られていた。 **出土遺物** 住居覆土中から縄文土器11片と石器4点等が出土している。 **時期・所見**

時期は縄文時代前期前半と思われる。住居南側は、調査区域外のため発掘調査出来なかった。

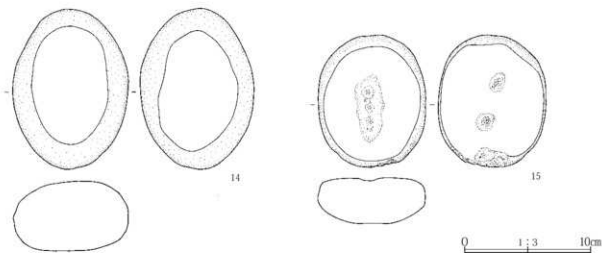


1. 暗褐色土。多くのローム粒と少量のローム小ブロックを含む。
2. 褐色土。多くのローム粒とロームブロックを含む。

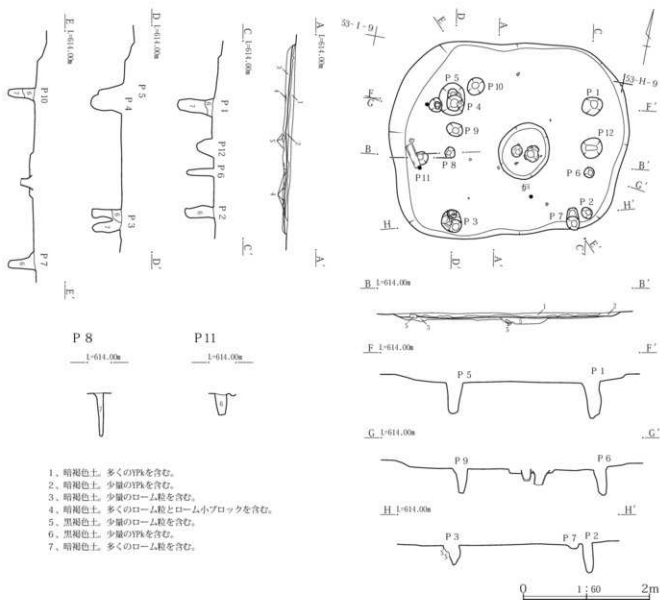
第32図 53区2号住居(2)



第33図 53区2号住居出土遺物(1)



第34図 53区2号住居出土遺物(2)



1. 暗褐色土。多くの碎珠を含む。
2. 暗褐色土。少量の碎珠を含む。
3. 暗褐色土。少量のローム殻を含む。
4. 暗褐色土。多くのローム殻とローム小ブロックを含む。
5. 黒褐色土。少量のローム殻を含む。
6. 黒褐色土。少量の碎珠を含む。
7. 暗褐色土。多くのローム殻を含む。

第35図 53区3号住居(1)

53区3号住居 (第35・36図: PL.5・6)

位置 国道部分の東側、53区H-8グリッドに位置する。

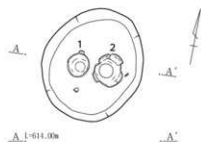
重複 なし。 **形状** 東西方向に長い隅丸長方形。

規模 3.8m×3.16m、壁高は残りの良い北西壁面で10cm。

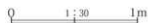
方位 N-7°-W。 **床面** ほぼ平坦である。周溝は掘られていない。 **炉** 床面ほぼ中央部やや南寄りに造られている。規模は長軸方向90cm、短軸方向80cm、炉石は使われていない。炉中央部に、口縁部を上にした甕2個が埋め込まれていた。甕の周辺部には、焼土粒と焼土ブロックがあった。 **柱穴** 東西壁面付近に12個のピットが掘られていた。一定の間隔や深さでないが、それらの多くは柱穴と思われる。 **埋塞**

なし。 **掘り方** ローム面まで掘り込み、厚さ約5~6cmの暗褐色土中にローム粒とロームブロックを多く含む土で床面としていた。 **出土遺物** 炉に使用された2個の縄文土器以外に出土遺物はなかった。 **時期・所見** 時期は縄文時代中期中葉と思われる。

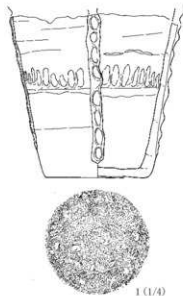
炉跡



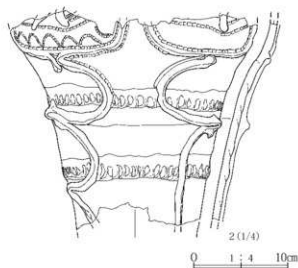
1. 暗褐色土。少量の焼土粒とローム粒を含む。
2. 褐色土。ロームブロックを主とした層。
3. 暗褐色土。少量の焼土ブロックを含む。
4. 暗褐色土。少量のローム粒とロームブロックを含む。
5. 褐色土。ロームを主とした層。



第36図 53区3号住居(2)



第37図 53区3号住居出土遺物



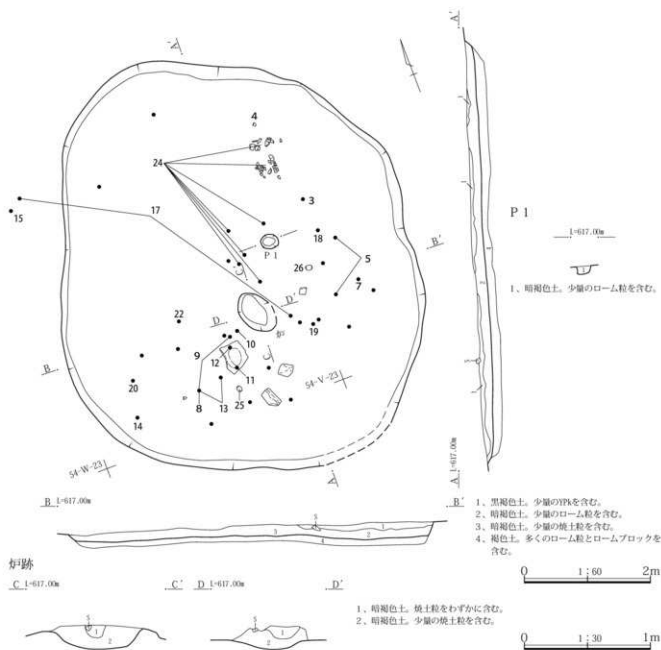
54区1号住居 (第38図: PL.6)

位置 国道部分の東側南端、54区U・V-22~24グリッドに位置する。 **重複** なし。 **形状** 丸みのある隅丸長方形を呈する。 **規模** 6.6m×5.8m、壁高は残りの良い北壁面で22cm。 **方位** N-22°-E。

床面 ほぼ平坦である。周溝は掘られていない。

炉 床面ほぼ中央部南寄りに造られている。規模は52cm

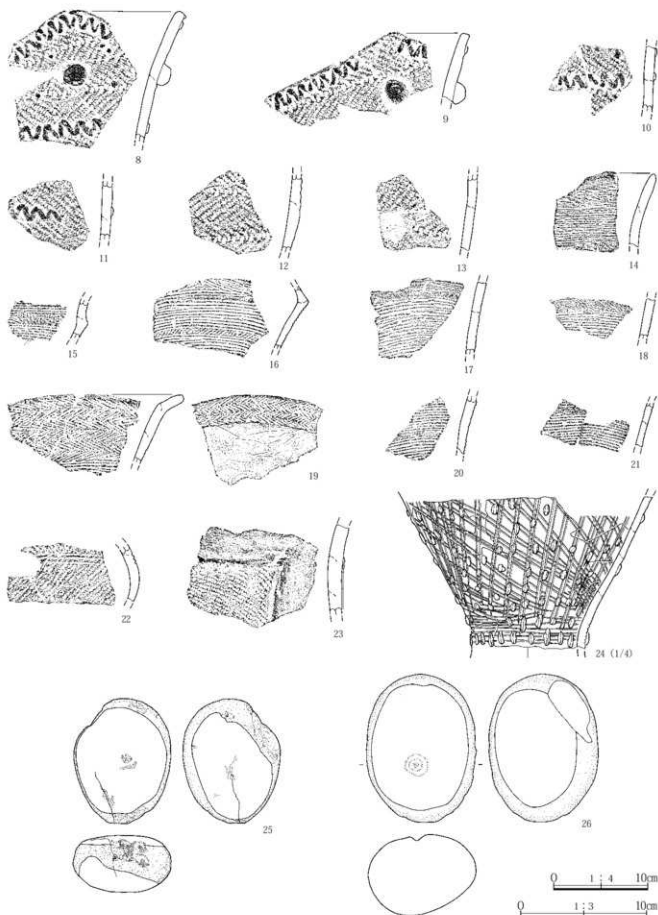
×70cm。 **柱穴** なし。 **埋塞** なし。 **掘り方** ローム面まで掘り込み、厚さ約6~15cmの暗褐色土中にローム粒とロームブロックを多く含む土で床面としていた。 **出土遺物** 住居覆土中から縄文土器片24個と石器2点が出土している。 **時期・所見** 時期は縄文時代前期後半と思われる。



第38図 54区1号住居



第39図 54区1号住居出土遺物(1)



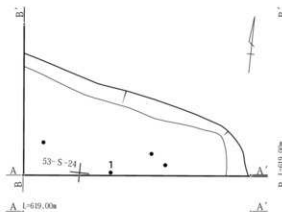
第40図 54区1号住居出土遺物(2)

2 竪穴状遺構

53区1号竪穴状遺構 (第41図: PL.6)

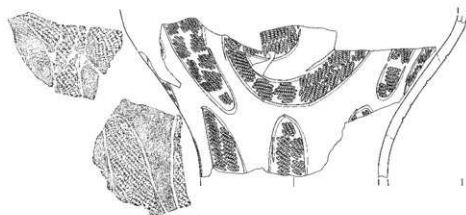
位置 町道部分の東端、53区R・S-24グリッドに位置する。**重複** なし。**形状** 不明。**規模** 不明、発掘調査出来た範囲で、東西3.6m、南北1.45m、壁高は残りの良い北壁面で40cm。**方位** 不明。**床面** 地山ローム面をほぼ床面としている。周溝は掘られていない。**炉** 調査範囲内になし。**柱穴** 調査範囲

内になし。**掘り方** なし。**出土遺物** 覆土中から縄文土器腹部が出土している。**時期・所見** 竪穴の大部分が調査範囲外となっている。規模が大きく遺構の掘り込みも深いので、住居の可能性も考えられるが、調査出来た範囲が狭く、炉等も確認されないのので、竪穴状遺構として報告する。時期は出土した甕から縄文時代中期末と思われる。



1. 暗褐色土。耕作土。少量のPKと多くの植物の根を含む。
2. 暗褐色土。多くのローム粒を含む。
3. 黒褐色土。ローム粒をほとんど含まない。
4. 暗褐色土。少量のローム粒とローム小ブロックを含む。
5. 褐色土。多くのローム粒を含む。
6. 暗褐色土。少量のローム粒を含む。4層に近いが固くしまっている。

第41図 53区1号竪穴状遺構



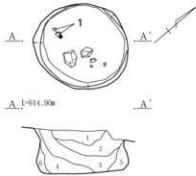
第42図 53区1号竪穴状遺構出土遺物

3 土坑 (第43～58図: PL.7～13)

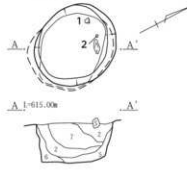
縄文時代に属すると思われる土坑が108基調査されている。縄文時代の遺物を出土している土坑は少ないが、調査段階で中近世の土坑と比較し、形態の特色や覆土の特色から縄文時代と判断したものが多く。検出された範囲は、全ての調査区であり、林中原1遺跡全体に縄文時代の遺構が存在していることが考えられる。

平成16年度に調査されて72・73・84区では、土坑が8基調査されており全て縄文時代に属すると考えられる。平成19～21年度に調査されて52～55・62・63区からも多くの土坑が調査されている。縄文土器を出土している土坑は、第1区画と53・54区にあり、第1区画では縄文時代後期の遺物が多く、53・54区では縄文時代前期の遺物が多く出土している。

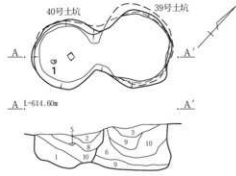
1-37号土坑



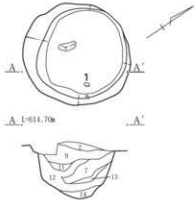
1-38号土坑



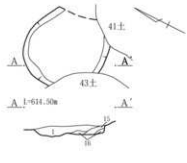
1-39・40号土坑



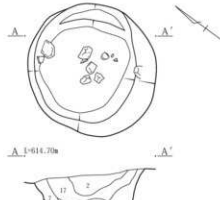
1-41号土坑



1-42号土坑



1-43号土坑



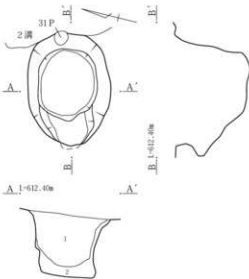
1. 黄褐色土。多くのローム粒とロームブロックを含む。
2. 暗褐色土。少量のローム粒とYPKを含む。
3. 暗褐色土。少量のローム小ブロックとYPKを含む。
4. 暗褐色土。多くのローム粒と少量のロームブロックを含む。
5. 暗褐色土。少量のローム小ブロックとYPKを含む。固くまとまっている。
6. 褐色土。多くのローム粒を含む。
7. 暗褐色土。多くのYPKと少量のローム粒を含む。
8. 暗褐色土。多くのローム粒と少量のYPKを含む。
9. 褐色土。多くのYPKとローム粒を含む。

10. 褐色土。多くのローム粒と少量のYPKを含む。
11. 褐色土。多くのYPKと少量の焼土粒を含む。
12. 黒褐色土。少量のローム粒とYPKを含む。
13. 暗褐色土。炭化物を含む。
14. 黄褐色土。多くのローム粒と少量のYPKを含む。
15. 黄褐色土。ロームを主とし、多くのYPKを含む。
16. 褐色土。少量のYPKとローム粒を含む。
17. 暗褐色土。少量のローム粒とYPKと炭化物を含む。

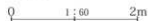
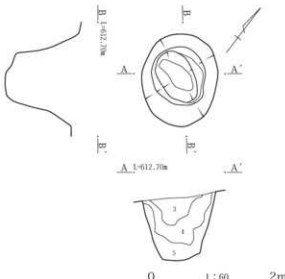


第43図 第1区画土坑

4-5号土坑

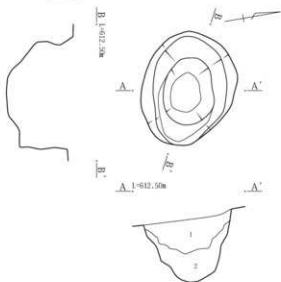


4-6号土坑



第44図 第4区画土坑(1)

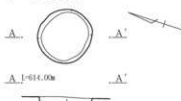
4-7号土坑



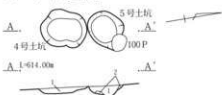
1. 暗褐色土。ほぼ均一に全体的にTPKを含む。
2. 褐色土。多くのローム粒と少量のTPKを含む。
3. 暗褐色土。少量のローム粒とTPKを含む。
4. 暗褐色土。多くのローム粒を含むがTPKはほとんど含まない。
5. 暗褐色土。より多くのローム粒を含むがTPKはほとんど含まない。

第45図 第4区画土坑(2)

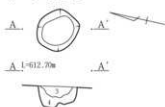
6-3号土坑



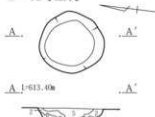
6-4・5号土坑



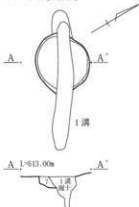
6-8号土坑



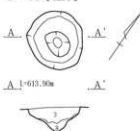
6-12号土坑



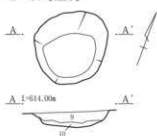
6-14号土坑



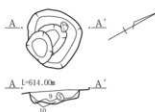
6-15号土坑



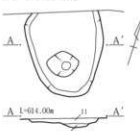
6-17号土坑



6-18号土坑



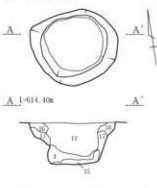
6-19号土坑



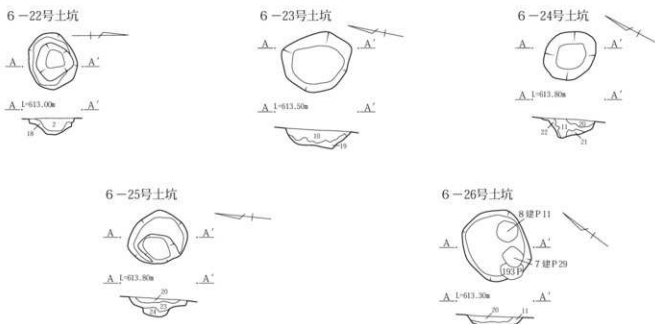
6-20号土坑



6-21号土坑



第46図 第6区画土坑(1)

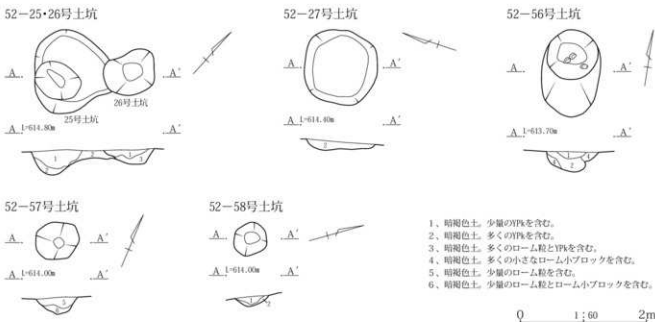


1. 暗褐色土。ほぼ均一に全体的にYPKを含む。
2. 暗褐色土。少量のローム粒とYPKを含む。
3. 暗褐色土。わずかにYPKを含む。
4. 暗褐色土。少量のYPKとローム小ブロックを含む。
5. 暗褐色土。少量のローム粒を含む。
6. 褐色土。多くのローム粒と少量のロームブロックを含む。
7. 暗褐色土。多くのローム粒を含む。
8. 暗褐色土。ローム粒と少量のロームブロックを含む。
9. 暗褐色土。多くのYPKを含む。
10. 暗褐色土。多くのYPKと少量のローム粒を含む。
11. 暗褐色土。少量のYPKとローム粒を含む。
12. 暗褐色土。少量のYPKと多くのローム粒・ローム小ブロックを含む。

13. 褐色土。少量のローム粒とYPKを含む。
14. 褐色土。多くのローム粒と少量のYPKを含む。
15. 褐色土。多くのローム粒を含む。
16. 暗褐色土。少量のYPKと多くのローム粒を含む。
17. 黄褐色土。ローム粒とロームブロックを主とした層。
18. 褐色土。ローム粒とローム小ブロックを主とした層。
19. 黄褐色土。ローム粒を主とし、多くのYPKを含む。
20. 暗褐色土。少量のYPKを含む。
21. 黄褐色土。多くのローム粒とロームブロックを含む。
22. 暗褐色土。多くのローム粒と少量のYPKを含む。
23. 暗褐色土。20層に近い、少量のローム粒を含む。
24. 暗褐色土。多くのローム粒とYPKを含む。

0 1:60 2m

第47図 第6区画土坑(2)

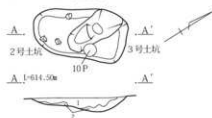


1. 暗褐色土。少量のYPKを含む。
2. 暗褐色土。多くのYPKを含む。
3. 暗褐色土。多くのローム粒とYPKを含む。
4. 暗褐色土。多くの小さなローム小ブロックを含む。
5. 暗褐色土。少量のローム粒を含む。
6. 暗褐色土。少量のローム粒とローム小ブロックを含む。

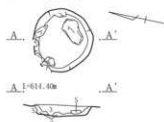
0 1:60 2m

第48図 52区土坑

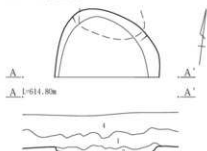
53-2・3号土坑



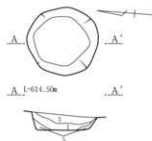
53-4号土坑



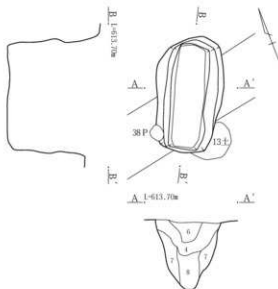
53-5号土坑



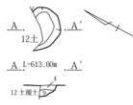
53-6号土坑



53-12号土坑



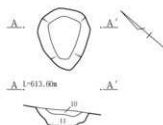
53-13号土坑



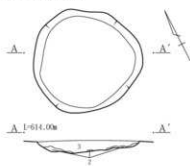
53-14号土坑



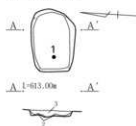
53-19号土坑



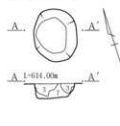
53-20号土坑



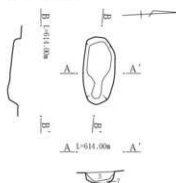
53-23号土坑



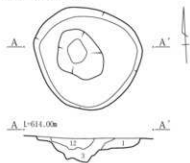
53-27号土坑



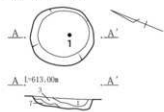
53-28号土坑



53-30号土坑



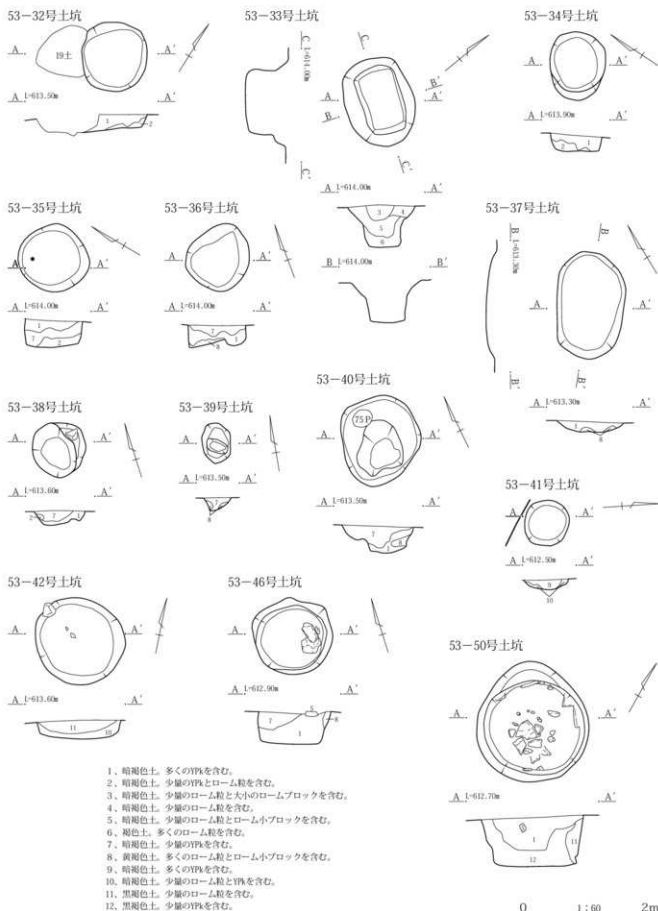
53-31号土坑



1. 暗褐色土。少量のYPsを含む。
2. 暗褐色土。少量のYPsとローム粒を含む。
3. 暗褐色土。多くのYPsを含む。
4. 暗褐色土。少量のローム粒を含む。
5. 暗褐色土。少量のローム粒と大小の石を含む。
6. 暗褐色土。少量のローム粒と大小のロームブロックを含む。
7. 黄褐色土。多くのローム粒とローム小ブロックを含む。
8. 暗褐色土。ローム粒をほとんど含まない。表土に近い。
9. 暗褐色土。少量のローム粒と炭化物を含む。
10. 暗褐色土。細粒黄色紅石を多く含む。
11. 暗褐色土。多くの細粒黄色紅石と少量のローム粒を含む。
12. 黒褐色土。少量のローム粒を含む。

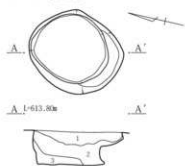
0 1:60 2m

第49図 53区土坑(1)

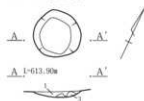


第50図 53区土坑(2)

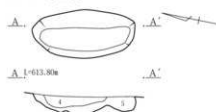
53-52号土坑



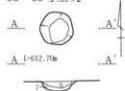
53-53号土坑



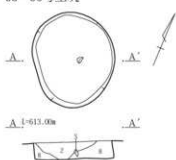
53-54号土坑



53-55号土坑



53-56号土坑



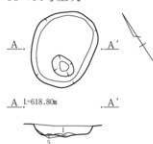
53-57号土坑



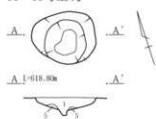
53-58・59号土坑



53-64号土坑



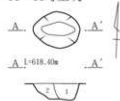
53-65号土坑



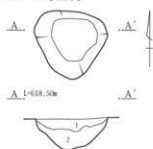
53-67号土坑



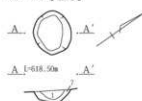
53-68号土坑



53-69号土坑



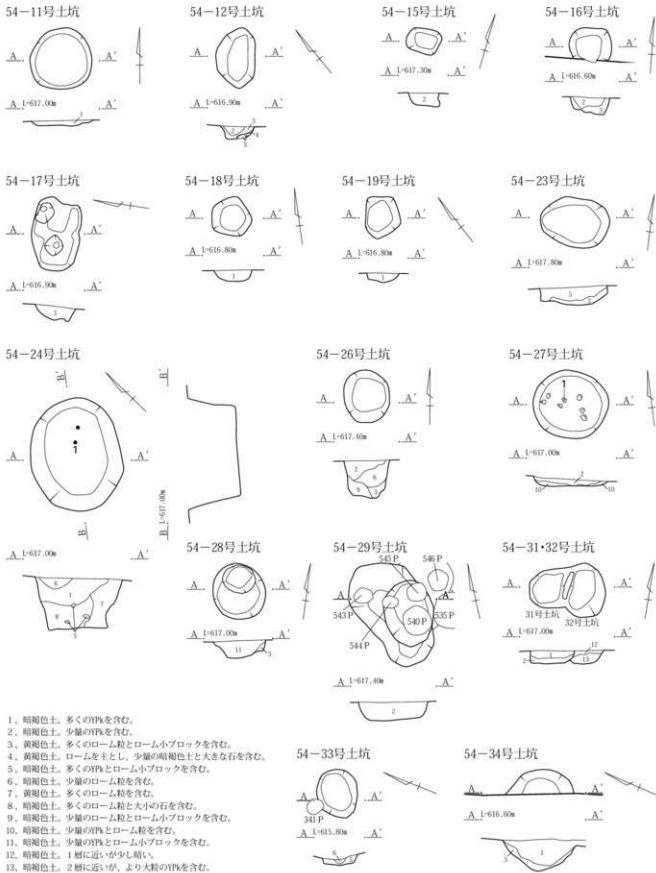
53-73号土坑



- 1、暗褐色土。少量のPⅨを含む。
- 2、暗褐色土。多くのPⅨを含む。
- 3、暗褐色土。少量のPⅨとローム小ブロックを含む。
- 4、黒褐色土。少量のローム粒とロームを含む。
- 5、暗褐色土。少量のローム粒とローム小ブロックを含む。
- 6、暗褐色土。多くのローム粒を含む。
- 7、黄褐色土。多くのローム粒とローム小ブロックを含む。
- 8、暗褐色土。少量のPⅨとローム粒を含む。

0 1:60 2m

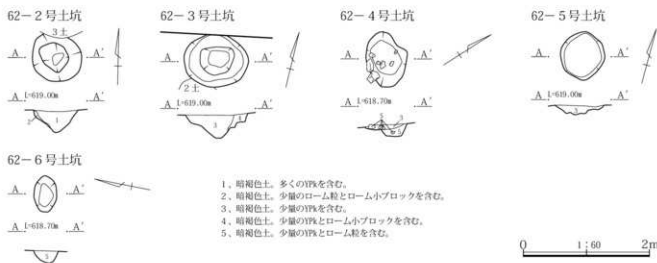
第51図 53区土坑(3)



1. 暗褐色土。多くのIPKを含む。
2. 暗褐色土。少量のIPKを含む。
3. 黄褐色土。多くのローム粒とローム小ブロックを含む。
4. 黄褐色土。ロームを主とし、少量の暗褐色土と大きな石を含む。
5. 暗褐色土。多くのIPKとローム小ブロックを含む。
6. 暗褐色土。少量のローム粒を含む。
7. 黄褐色土。多くのローム粒を含む。
8. 暗褐色土。多くのローム粒と大小の石を含む。
9. 暗褐色土。少量のローム粒とローム小ブロックを含む。
10. 暗褐色土。少量のIPKとローム粒を含む。
11. 暗褐色土。少量のIPKとローム小ブロックを含む。
12. 暗褐色土。1層に近いが少し薄い。
13. 暗褐色土。2層に近いが、より大粒のIPKを含む。

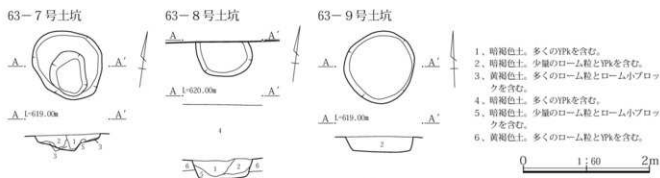
0 1:60 2m

第52図 54区土坑



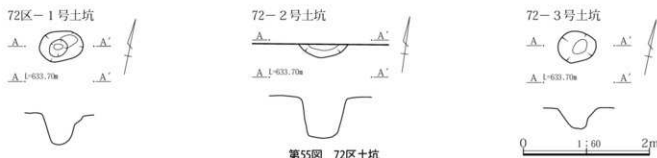
1. 暗褐色土。多くのIPkを含む。
2. 暗褐色土。少量のローム粒とローム小ブロックを含む。
3. 暗褐色土。少量のIPkを含む。
4. 暗褐色土。少量のIPkとローム小ブロックを含む。
5. 暗褐色土。少量のIPkとローム粒を含む。

第53図 62区土坑



1. 暗褐色土。多くのIPkを含む。
2. 暗褐色土。少量のローム粒とIPkを含む。
3. 黄褐色土。多くのローム粒とローム小ブロックを含む。
4. 暗褐色土。多くのIPkを含む。
5. 暗褐色土。少量のローム粒とローム小ブロックを含む。
6. 黄褐色土。多くのローム粒とIPkを含む。

第54図 63区土坑



第55図 72区土坑

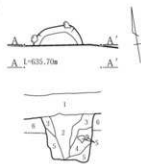


1. 暗褐色土。少量のIPkを含む。
2. 暗褐色土。多くのローム粒を含む。

1. 暗褐色土。少量のIPkを含む。小さな風化岩片を含む。
2. 暗褐色土。小さな風化岩片をやや多く含む。
3. 暗褐色土。少量のIPkと直径3～5cmの礫を少々含む。

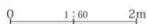
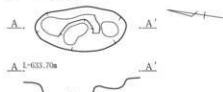
第56図 73区土坑(1)

73-3号土坑



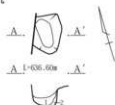
1. 暗褐色土。耕作土。わずかにIPKを含む。ローム粒を含まない。
2. 暗褐色土。少量のIPKを含む。
3. 暗褐色土。少量のローム粒を含む。
4. にぶい黄褐色土。多くのローム粒と少量のローム小ブロックを含む。
5. にぶい黄褐色土。多くのローム粒と少量の礫を含む。
6. 暗褐色土。少量のIPKとローム粒を含む。

73-4号土坑

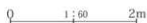


第57図 73区土坑(2)

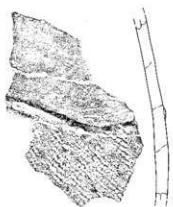
84-1号土坑



1. 黒褐色土。少量の小礫とわずかにローム粒を含む。
2. にぶい黄褐色土。多くのローム粒と少量の小礫を含む。



第58図 84区土坑



第1区画37号土坑1



第1区画38号土坑1



第1区画38号土坑2



第1区画40号土坑1



第1区画41号土坑1



第1区画43号土坑1



53区12号土坑1



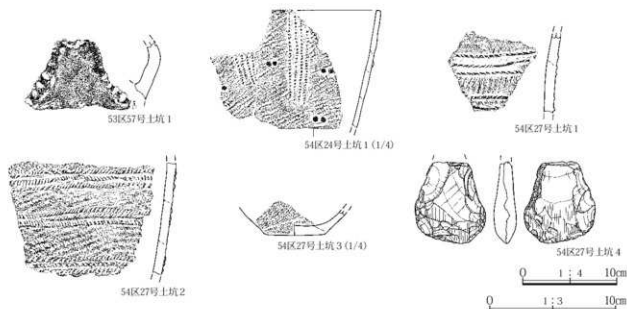
53区23号土坑1



53区31号土坑1



第59図 土坑出土遺物(1)



第60図 土坑出土遺物(2)

表4 縄文時代土坑一覧表

調査区	調査年度 (平成)	土坑 番号	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	方位	位置(グリッド)	形態	時代	遺物	備考
第1区画	20	37	1.52	1.35	0.70	N-44°-E	54-X-3	円形	縄文後期	後期初頭	
第1区画	20	38	1.35	1.16	0.61	N-22°-W	54-X・Y-2・3	円形	縄文後期	称名寺1式	
第1区画	20	39	1.24	-	0.73	N-44°-W	54-Y-1・2	円形	縄文か		
第1区画	20	40	1.10	-	0.53	N-32°-W	54-Y-1・2	円形	縄文	諸議h式	
第1区画	20	41	1.72	1.60	0.80	N-55°-E	54-Y-2	円形	縄文	諸議h式	
第1区画	20	42	1.36	-	0.17	N-20°-W	54-Y-2	-	縄文か		
第1区画	20	43	2.12	2.04	0.73	N-0°	54-Y-1・2 55-A-1・2	円形	縄文	称名寺1式	
第4区画	19	5	1.80	1.30	1.00	N-72°-E	54-N-5	楕円形	縄文か		陥穴
第4区画	19	6	1.46	1.20	0.99	N-25°-W	54-M-5	楕円形	縄文か		陥穴
第4区画	19	7	1.80	1.44	1.00	N-67°-W	54-M-4・5	楕円形	縄文か		陥穴
第6区画	19	3	0.87	0.85	0.14	N-16°-W	54-I-9	円形	縄文か		
第6区画	19	4	0.72	0.58	0.17	N-8°-E	54-G・H-8・9	不定形	縄文か		
第6区画	19	5	0.65	0.53	0.09	N-80°-E	54-G・H-9	不定形	縄文か		
第6区画	19	8	0.71	0.60	0.34	N-23°-W	54-I・J-4	楕円形	縄文か		
第6区画	19	12	1.02	0.96	0.21	N-9°-W	54-D-6	円形	縄文か		
第6区画	19	14	0.95	0.85	0.52	N-56°-W	54-F-3	円形	縄文か		
第6区画	19	15	0.93	0.85	0.38	N-68°-W	54-E・F-7・8	円形	縄文か		
第6区画	19	17	1.25	1.14	0.25	N-14°-E	54-F-8・9	円形	縄文か		
第6区画	19	18	0.96	(0.90)	0.23	N-80°-W	54-F-9	不定形	縄文か		
第6区画	19	19	(1.34)	1.20	0.15	N-19°-W	54-C-9	不定形	縄文か		
第6区画	19	20	1.70	1.10	0.26	N-10°-W	54-B-9	長円形	縄文か		
第6区画	19	21	1.41	1.21	0.64	N-59°-W	54-B-10	方形	縄文か		
第6区画	19	22	0.90	0.75	0.27	N-86°-E	54-C-3・4	楕円形	縄文か		
第6区画	19	23	1.13	0.90	0.27	N-34°-W	53-X-5・6	楕円形	縄文か		
第6区画	19	24	0.96	0.73	0.31	N-74°-E	53-Y-7	楕円形	縄文か		
第6区画	19	25	0.96	0.80	0.27	N-20°-W	53-W-7	円形	縄文か		
第6区画	19	26	1.10	1.00	0.14	N-34°-E	54-I-5	楕円形	縄文か		
52K	19	25	1.35	1.30	0.40	N-32°-W	52-Y-13	不整形	縄文か		
52K	19	26	0.85	(0.75)	0.24	N-5°-W	52-Y-13	-	縄文か		
52K	19	27	1.26	1.22	0.17	N-44°-E	52-T-12	円形	縄文か		
52K	19	56	1.40	0.92	0.32	N-9°-W	52-W-10	-	縄文か		
52K	19	57	0.72	0.62	0.28	N-32°-E	52-R・S-12	円形	縄文か		
52K	19	58	0.55	0.54	0.20	N-58°-W	52-R-11	円形	縄文か		
53K	19	2	1.50	0.80	0.22	N-41°-E	53-C-11	長円形	縄文か		
53K	19	3	(0.90)	0.45	0.17	N-0°	53-C-11	長円形か	縄文か		
53K	19	4	0.98	0.95	0.20	N-90°-E	53-E-11	円形	縄文か		
53K	19	5	1.65	(1.05)	0.67	-	53-D-10	-	縄文か		
53K	19	6	1.13	1.06	0.27	N-3°-W	53-J-11	円形	縄文か		
53K	19	12	1.85	1.08	1.40	N-28°-E	53-T-6・7	長円形	縄文か		
53K	19	13	0.65	(0.30)	(0.17)	N-60°-E	53-T-6	-	縄文	塚田式	

第5節 検出された遺構と遺物

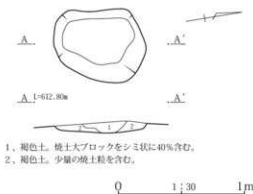
調査区	調査年度 (平成)	土坑 番号	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	方位	位置(グリッド)	形態	時代	遺物	備考
53K	19	14	0.35	0.35	0.13	N-0°	53-U-6	円形	縄文か		
53K	19	19	0.98	0.83	0.25	N-41°-E	53-R-6	不整形	縄文か		
53K	19	20	1.73	1.60	0.20	N-62°-W	53-O-7	円形	縄文か		
53K	19	23	1.00	0.70	0.10	N-84°-E	53-O・P-4	隅丸方形	縄文前期前半	前期前半	
53K	19	27	0.83	0.70	0.24	N-21°-W	53-O-8	円形	縄文か		
53K	19	28	1.06	0.50	0.17	N-85°-W	53-N-7	長円形	縄文か		
53K	19	30	1.66	1.60	0.37	N-43°-W	53-P-7・8	円形	縄文か		
53K	19	31	1.00	0.93	0.16	N-22°-W	53-J-4	円形	縄文前期前半	前期前半	
53K	19	32	1.10	1.04	0.25	N-31°-W	53-R-6	円形	縄文か		
53K	19	33	1.40	1.10	0.66	N-68°-W	53-M-8	楕円形	縄文か		
53K	19	34	1.10	0.86	0.26	N-57°-E	53-J-9	円形	縄文か		
53K	19	35	1.13	1.09	0.42	N-30°-W	53-I-9	円形	縄文か		
53K	19	36	1.05	0.95	0.35	N-55°-E	53-I-9	円形	縄文か		
53K	19	37	1.65	1.10	0.16	N-40°-E	53-K-6	楕円形	縄文か		
53K	19	38	0.85	0.85	0.23	N-18°-E	53-I-7	円形	縄文か		
53K	19	39	0.65	0.45	0.20	N-11°-E	53-H-7	楕円形	縄文か		
53K	19	40	1.45	1.30	0.41	N-33°-E	53-H-6	円形	縄文か		
53K	19	41	0.72	0.70	0.15	N-90°	53-G-1	円形	縄文か		
53K	19	42	1.45	1.35	0.30	N-55°-W	53-D-7	円形	縄文か		
53K	19	46	1.20	1.20	0.50	N-12°-E	53-B-4	円形	縄文か		
53K	19	50	1.91	1.78	0.80	N-31°-W	53-C-3	円形	縄文か		
53K	19	52	1.45	1.25	0.53	N-22°-E	53-A-8	円形	縄文か		
53K	19	53	0.75	0.75	0.10	N-34°-W	53-H-9	円形	縄文か		
53K	19	54	1.63	0.76	0.26	N-11°-W	53-F-7・8	長円形	縄文か		
53K	19	55	0.90	0.50	0.15	N-0°	53-E-3	円形	縄文か		
53K	19	56	1.51	1.30	0.28	N-26°-W	53-B-5	円形	縄文か		
53K	19	57	0.50	(0.40)	0.30	N-77°-E	53-H-8	円形	縄文中期前半	中期前半	
53K	19	58	(0.50)	0.50	0.15	-	53-B-8	-	縄文か		
53K	19	59	0.70	0.53	0.25	N-4°-W	53-B-8	隅丸方形	縄文か		
53K	21	64	1.24	1.00	0.18	N-50°-E	53-P-25	楕円形	縄文か		
53K	21	65	1.03	0.84	0.29	N-68°-W	53-P・Q-25	楕円形	縄文か		
53K	21	67	0.80	0.80	0.30	N-5°-W	53-O-24	円形	縄文か		
53K	21	68	0.75	0.56	0.26	N-88°-E	53-O-24	楕円形	縄文か		
53K	21	69	1.10	1.05	0.49	N-57°-W	53-O-24	不定形	縄文か		
53K	21	73	0.70	0.60	0.21	N-55°-W	53-K-25	円形	縄文か		
54K	21	11	1.04	0.96	0.09	N-40°-E	54-R-23	円形	縄文か		
54K	21	12	0.97	0.62	0.20	N-46.5°-E	54-D-21	楕円形	縄文か		
54K	21	15	0.52	0.40	0.22	N-87°-W	54-O-24	長円形	縄文か		
54K	21	16	0.70	0.65	0.27	N-53°-W	54-N-21	不定形	縄文か		
54K	21	17	1.15	0.76	0.23	N-88°-W	54-R-23	不定形	縄文か		
54K	21	18	0.65	0.63	0.18	N-48°-W	54-O-23	不定形	縄文か		
54K	21	19	0.70	0.60	0.15	N-61°-E	54-P-23	不定形	縄文か		
54K	21	23	1.10	0.75	0.28	N-89°-E	54-F・C-24	楕円形	縄文か		
54K	21	24	1.78	1.43	0.85	N-35°-E	54-Y・W-23・24	楕円形	縄文か	諸磯式	箱穴
54K	21	26	0.83	0.72	0.58	N-6°-E	54-F-23	楕円形	縄文か		
54K	21	27	1.20	1.10	0.13	N-0°	54-G-21	円形	縄文前期後半	諸磯式	
54K	21	28	0.90	0.83	0.28	N-47°-W	54-B-21	円形	縄文前期後半		
54K	21	29	1.80	1.07	0.29	N-23°-W	54-C-23	不定形	縄文前期後半		
54K	21	31	0.70	0.67	0.21	N-18°-E	54-P-23・24	不定形	縄文か		
54K	21	32	0.84	(0.53)	0.21	N-2°-E	54-P-23・24	不定形	縄文か		
54K	21	33	0.78	0.64	0.13	N-40°-E	54-F-18	楕円形	縄文か		
54K	21	34	1.08	(0.38)	0.50	-	54-G-20	-	縄文か		
62K	19	2	0.84	0.75	0.33	N-54°-W	62-V-4	円形	縄文か		
62K	19	3	1.02	0.83	0.37	N-83°-E	62-V-4	楕円形	縄文か		
62K	19	4	0.87	0.65	0.15	N-59°-W	62-W-2	不定形	縄文か		
62K	19	5	0.77	0.68	0.14	N-15°-W	62-T-3	円形	縄文か		
62K	19	6	0.58	0.37	0.19	N-80°-E	62-P-3	長円形	縄文か		
63K	21	7	1.22	1.05	0.26	N-52°-W	63-J-1・2	不定形	縄文か		
63K	21	8	0.94	(0.57)	0.29	N-79°-W	63-J-2	-	縄文か		
63K	21	9	1.15	1.06	0.24	N-8°-E	63-I・J-2	円形	縄文か		
72K	16	1	0.70	0.48	0.47	N-65°-E	72-X-19	楕円形	縄文か		
72K	16	2	(0.77)	(0.20)	0.64	-	72-X-19	-	縄文か		
72K	16	3	0.60	0.48	0.32	N-68°-E	72-X・Y-18	不定形	縄文か		
73K	16	1	1.64	(1.06)	0.32	N-82°-W	73-J-20	-	縄文か		
73K	16	2	(1.60)	1.45	0.68	-	73-I-20	-	縄文か		
73K	16	3	0.77	(0.30)	0.73	-	73-G-19	-	縄文か		
73K	16	4	1.45	0.72	0.30	N-10°-W	73-A-18	長円形	縄文か		
84K	16	1	0.63	0.50	0.30	N-8°-W	84-N・N-1	-	縄文か		

4 焼土

53区1号焼土 (第61図: PL.13)

位置 53区の南西部分で、53区Q-3グリッドに位置する。**重複** なし。**形状** 楕円形。**規模** 長軸0.74m、短軸0.58m。深さ0.08mと浅い。**出土遺物** なし。**時期** 遺物は出土していないが、覆土の特色から縄文時代の覆土に近いので、縄文時代として扱う。**所見** 焼土の表面が、部分的に固く焼けている。土層断面で観察すると、内部も熱を受けて、少量の焼土粒がある。

53-1号焼土



1、褐色土。焼土大ブロックをシミア状に40%含む。
2、褐色土。少量の焼土粒を含む。

第61図 53区1号焼土

5 遺構外出土遺物

ここでは、中世の遺構から出土した縄文時代の遺物も含めて、遺構外出土遺物として扱う。

土器は早期初頭から後期前半までのものが出土しており、長期にわたり本地区が利用されていることを示すが、各時期の詳細を検討すると断片的な資料が多く、出土量も少ない。このことは、本地区の主体が林域とそれに伴う中世の遺構群であり、それらの造成に伴う削平を受けている実情もあるが、それにも増して本地区が縄文時代においては集落の周辺にあたることを示していると考えらるべきであろう。住居をはじめとする遺構も検出されているが、出土遺物は断続的であり、必要に応じて断続的に利用された地区だと思われる。

第62図は早期の土器で、1は早期初頭の燃系文系土器である。吾妻川左岸の高位段丘面にあたる林地区では榎木II遺跡をはじめ、数カ所でこの時期の遺構・遺物が確認されている。52区1号住居出土の特殊磨石(第25図11)はこの時期に該当する可能性が高い。2は表裏に条痕文が施された早期後半期の土器で、この時期の土器も当地域では比較的良好に出土している。

第63図は前期前半期の一群で、胎土に繊維を多量に含

む。3・6・7は前期初頭の花積下層式期、4・5・8は二ツ木式～関山式期に比定されよう。9～25は関山式～黒浜式期に比定される土器で、長野県域に分布する神ノ木式や有尾式が主体の一群である。

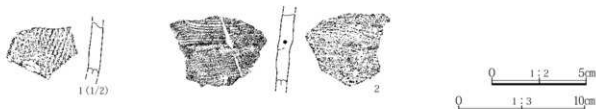
第64図26～33は前期後半の諸磯式土器で、前期終末期の土器の出土は少ない。

第64図34～第65図63は中期の一群で、阿玉台Ib式から加曾利E4式までの土器が出土しているが、この時期としてはかなり断片的な資料である。

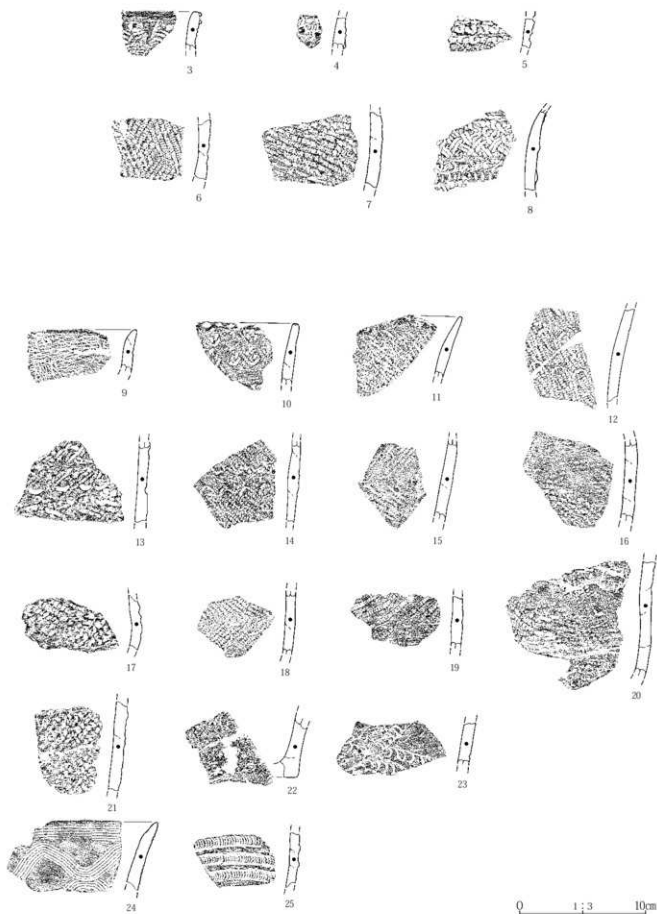
第65図64～71は後期前半期の一群である。72は腕輪形土製品で、本地域では後期Ⅲ之内式期に類例が多い。

第65図73は弥生時代終末期の土器である。本地域で集落が消滅する時期のものであり、地域特性を検討する上でも稀少な資料である。

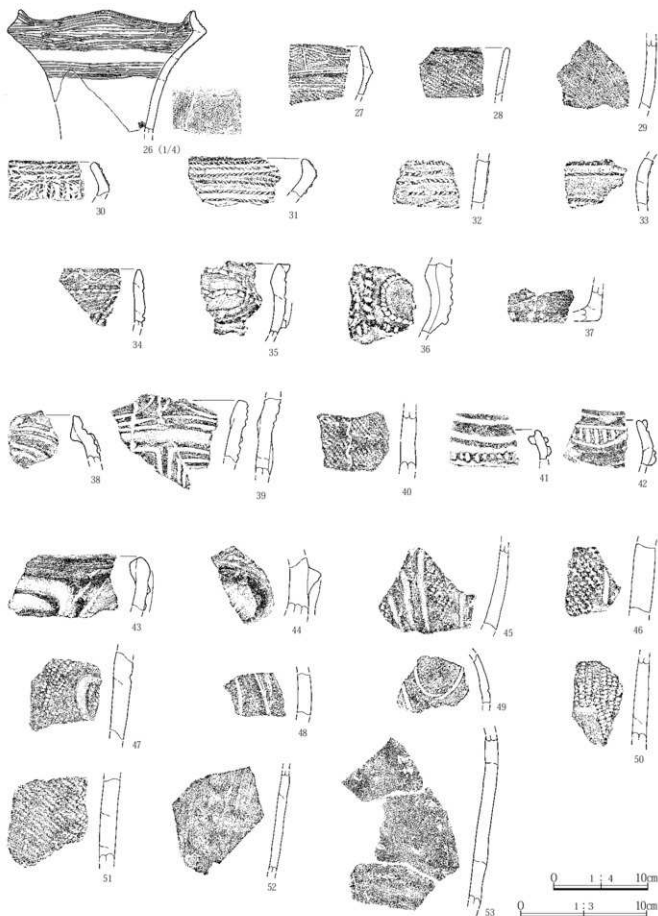
第65図74～第67図99に縄文時代の石器を一括した。74～80は石鏃で、平基無茎と凹基無茎とがあり、有茎タイプは出土していない。81は縦型の石匙で、調整が行きとどいた優品である。82・83は削器、84～86は打製石斧、87～99は磨石類である。縄文時代の主要石器は出土しているが、敲石や石皿などの大型品、石棒・多孔石などの非実用品の出土は認められなかった。



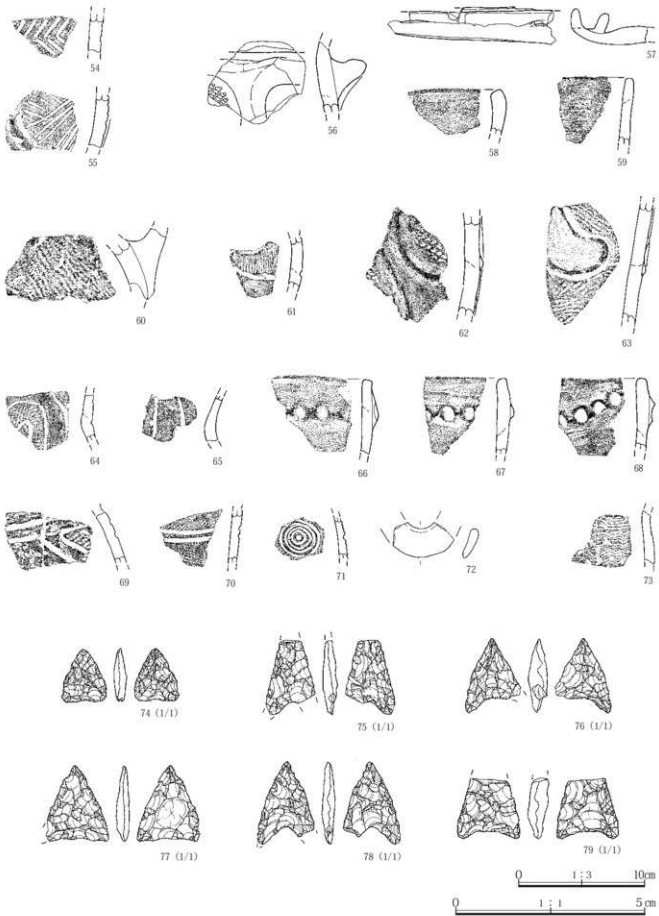
第62図 遺構外出土遺物(1)



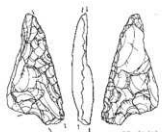
第63図 遺構外出土遺物(2)



第64図 遺構外出土遺物(3)



第65図 遺構外出土遺物(4)



80 (1/1)



81 (1/2)



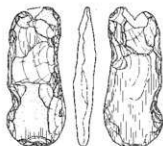
82 (1/2)



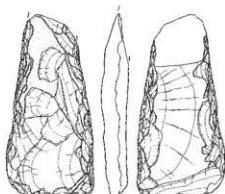
83 (1/2)



84



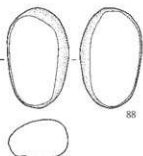
85



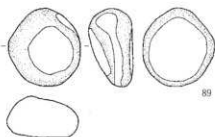
86



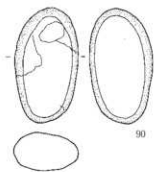
87



88



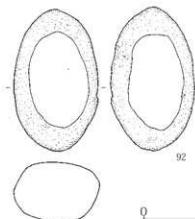
89



90



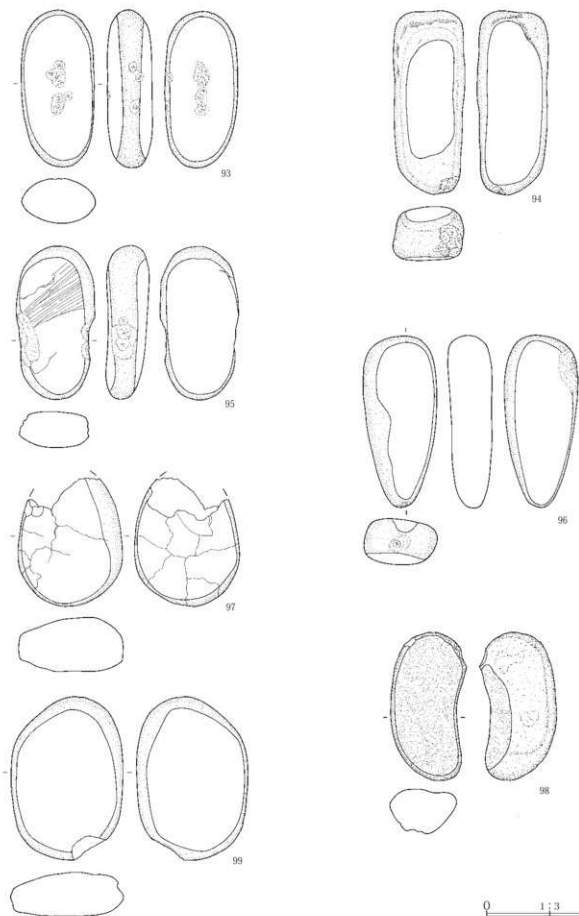
91



92



第66図 遺構外出土遺物(5)



第67図 遺構外出土遺物(6)

第2項 中近世

林中原1遺跡で検出された中近世の遺構について以下報告する。中近世の遺構は、平成16年度に調査された72・73・84区以外の調査区で、掘立柱建物や土坑を中心に多く検出されている。遺跡の特色は、林城を中心とした遺構の存在である。以下の報告では、林城に関連している遺構を最初に林城として、堀・石垣・橋・虎口・池を報告し、次に第1区画から第7区画及び中近世屋敷を中心に調査区ごとに報告する。その他として、これ以外の地域の中近世の遺構と墓や馬の骨等を出土した遺構及び旧石器の試掘調査結果を報告する。各調査区の内容は以下に詳しいが、ここでは検出した遺構数を中心に報告する。

林城

1～3・5～7号堀があり、第1区画から第7区画は、この堀を中心に分けている。1・2号堀の中間に土橋・2号石垣・1号橋がある。3号堀の北側に2号橋が、さらに北に虎口がある。第4区画の南に1・2号池がある。第1区画西に第2区画がある。第1区画と第3区画との間には1・2号堀があり、第3区画と第4区画の間には3号堀がある。第4区画の南は一段低くなっており、1・2号池の南の平坦面を第5区画とした。第6区画は第4区画との間に6号堀がある。第7区画は第6区画の北側にあり、区画する堀として5号堀と7号堀がある。

第1区画

林城の最高所に位置する。検出された遺構は、盛土とピット群、37基の土坑、1・5号石垣、最高所南にスロープと1号礎石、スロープ下に1号道、最高所南西部に削平面と1・2号溝がある。

第2区画

城の中心部と思われる第1区画西側に位置する。調査の結果ほぼ全域が土取穴として掘られていた。検出された遺構は、1号礎石建物、1～6号焼土、1～3号土坑、多くの土取穴である。

第3区画

第1区画と第4区画との間に位置する。検出された遺構は、3号石垣1基、掘立柱建物7棟、柱穴1列、遺物を出土したピット4基、焼土1基、土坑21基、溝6条である。

第4区画

第3区画と第6区画の間に位置し、南側下段に1・2号池を挟んで、第5区画がある。検出された遺構は、土坑4基、溝4条、焼土1基である。

第5区画

第4区画の下段に位置し、北に1・2号池がある。遺構量が少ないが、池との間に畦をもうけ、水の浸入に配慮が見られる。遺構は4号石垣があり、低い平地面から中世を中心とした多くの遺物が出土している。

第6区画

第4区画の東側、第7区画の南に位置する。検出された遺構は、掘立柱建物10棟、柱穴3列、配石1基、土坑9基、溝2条、焼土1基である。

第7区画

第6区画の北側に位置する。検出された遺構は、掘立柱建物11棟、遺物出土ピット2基、竪穴状遺構1軒、土坑11基、溝6条、礎石建物2棟である。

中近世屋敷

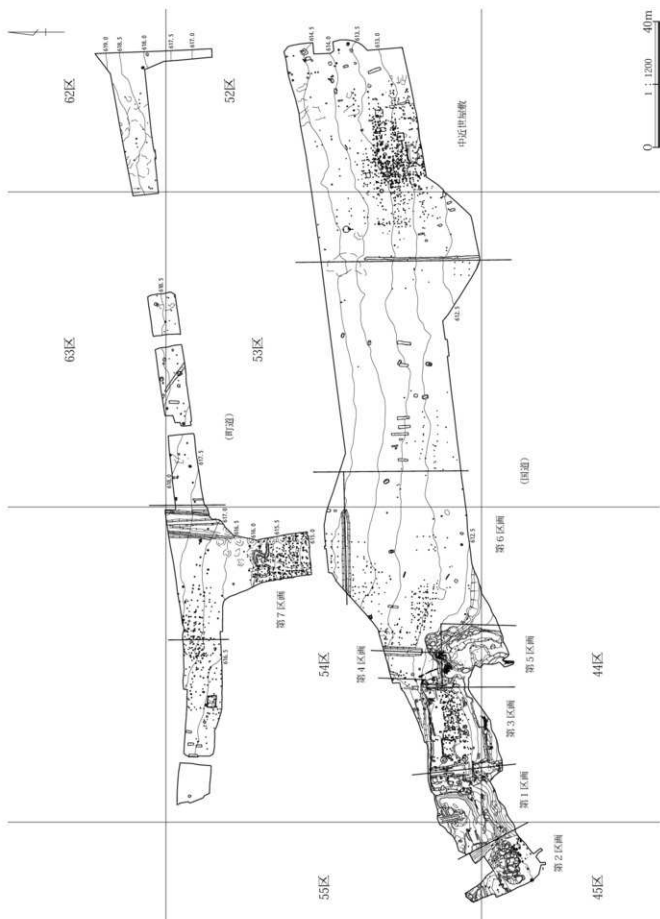
第6区画の東側に堀はないが、東側35mほど離れた場所に37棟の中近世の掘立柱建物が密集している。林城との関連が深いので、この地区を中近世屋敷とした。

検出された遺構は、掘立柱建物が52区で33棟、53区で4棟計37棟、柱穴が52区で1列、53区5列で計6列、遺物出土ピット2基、竪穴状遺構が52区で4軒と1号落ち込み1基、土坑が52区で47基、53区で7基計54基、溝が52区で3条、53区で1条計4条、焼土と井戸が52区で各1基である。

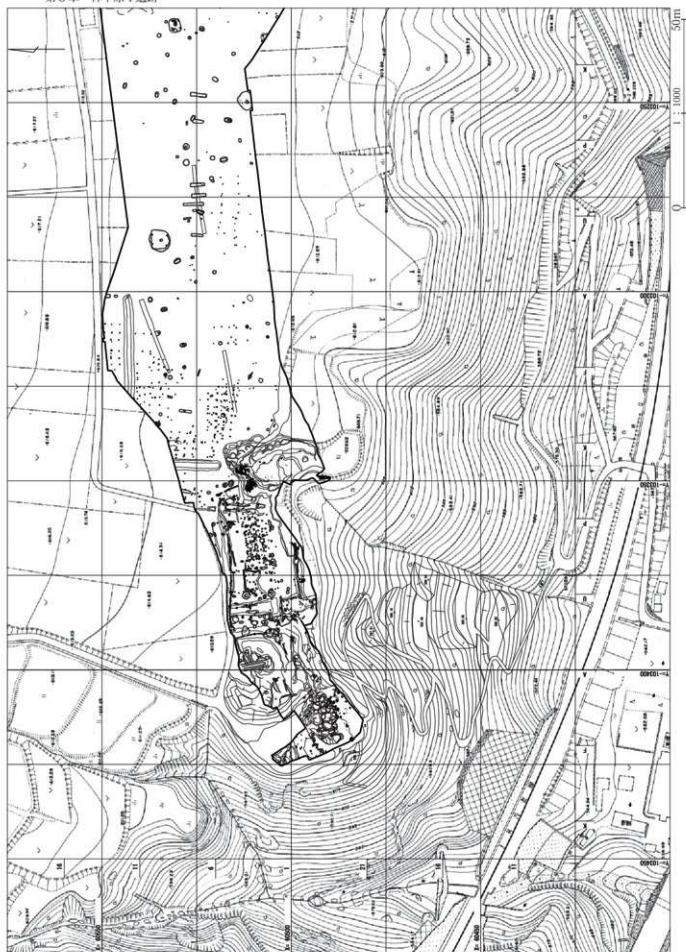
その他

検出された遺構は、掘立柱建物が53区で3棟、54区で1号竪穴状遺構、土坑が53区で23基、54区で8基、62区で3基、63区で6基合計40基、溝が53区2・3号溝の2条、遺物を出土したピットが、53区で1基、54区で3基である。

第1・2区画は、遺構面が複数あるので70～74図までの5枚の全体図で図示した。また遺構面が複数あり付図で掲載できなかったピットはこの5枚の全体図の中で図示した。



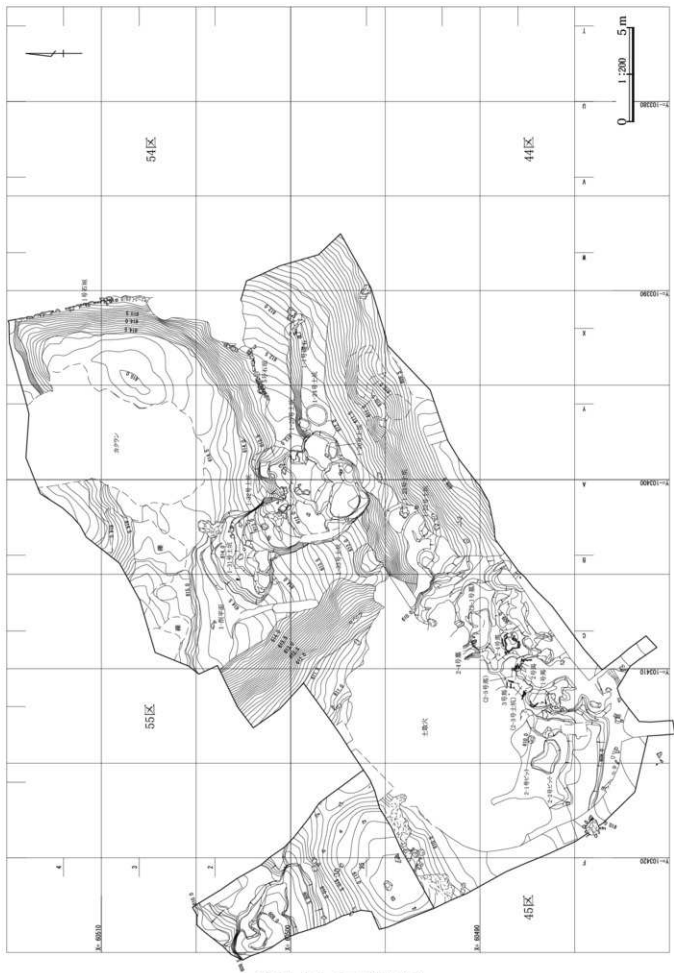
第68図 調査区図



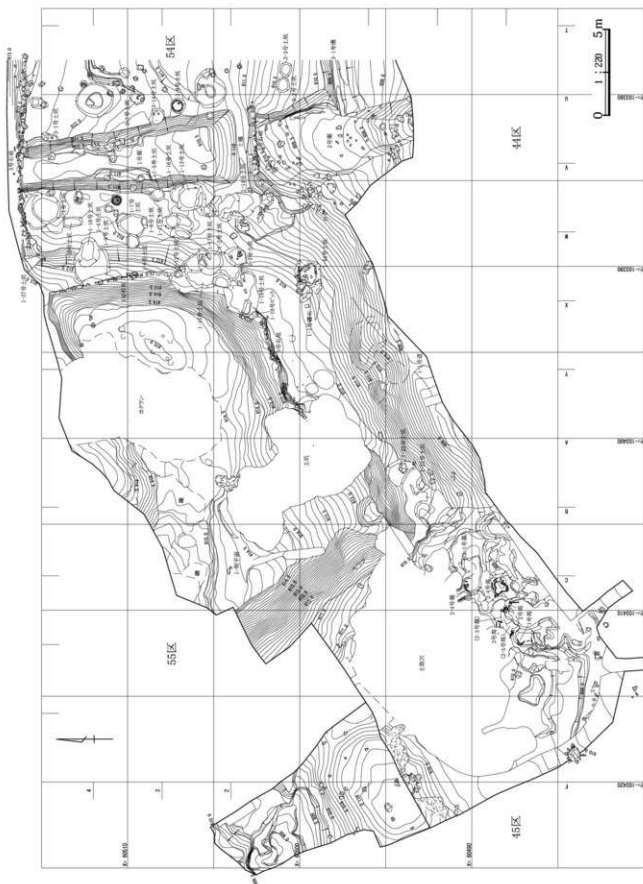
第69图 林城·第1~7区画周边地形图



第70图 第1·2区画全体图(1)



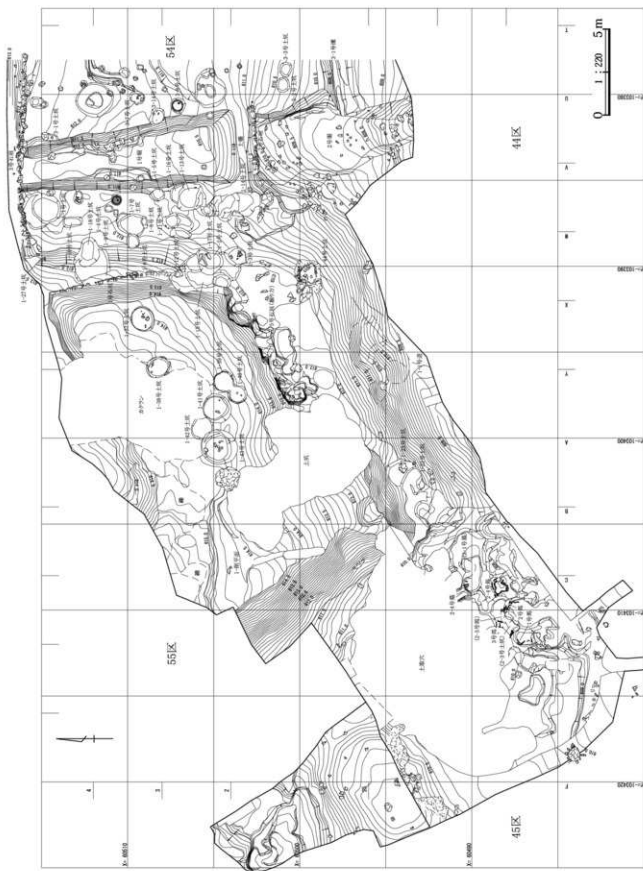
第71图 第1・2区画全体图(2)



第72図 第1・2区画全体図(3)



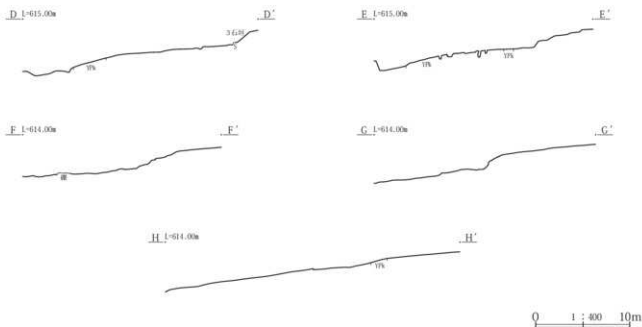
第73図 第1・2区画全体図(4)



第74図 第1・2区画全体図(5)



第75図 第1～6区画全体図・遺構断面図(1)



第76図 第1～6区画全体図・遺構断面図(2)

1 林城堀

林城に関連した堀が6本確認されている。第1区画と第2区画の間に堀はないが、他の区画はこの堀を境にして第1区画から第7区画とした。

1・2号堀は、第1区画と第3区画の間にある。1・2号堀は最初1本の堀で、北側に1号橋が造られていた。橋の柱穴が4本確認されている。その後堀の中央部南寄りに土橋が築かれた。おそらく橋は使われなくなっていたと思われる。土橋は、南側に石垣を持つが、北側に石垣は築かれない。土橋が出来た段階で堀は二分されたので、北側を1号堀、南側を2号堀と呼称した。

3号堀は、1・2号堀の東側にあり、第3区画と第4区画を分ける。堀の北側に2号橋が造られていた。

4号堀は調査段階で1・2号池中間の掘り込みを堀としたが、調査の結果堀でなかったので欠番とした。

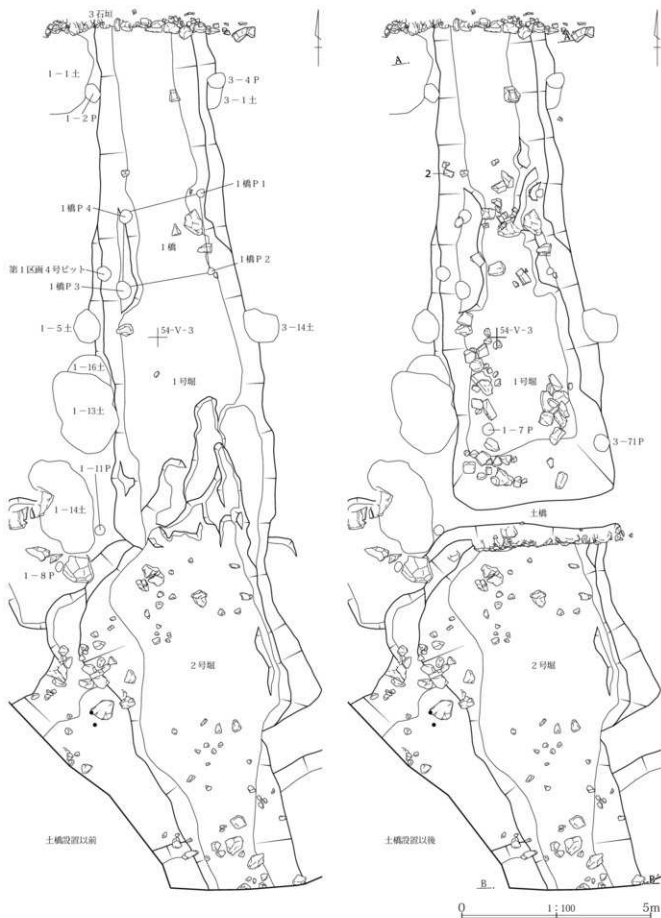
5号堀は、第6区画と第7区画の間にある。他の4本の堀は南北方向に掘られているが、5号堀は東西方向に掘られている。7号堀と共に堀の中で最も東側に位置する。

1・2号堀 (第77・78図：PL.14)

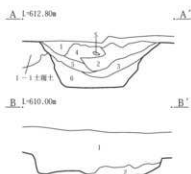
位置 第1区画と第3区画の間で、44区U・V-24・25、54区U・V-1～5グリッドに位置する。 **重複**

北側に1号堀、中央部に土橋と2号石垣、北端で3号石垣と重複している。石垣は1・2号堀の中央部付近を埋めて造られている。 **形状** 長方形。北側1号堀の残りが良好である。 **規模** 全長22.9m、幅は1号堀の残りが良好なので1号堀で計測する。上幅2.9～4.3m、下幅1.56～3.4m、深さは北側1.13m、中央部0.51m、2号堀の南側で0.50m、1号堀の北側が深く、土橋のある中央部から2号堀が浅い。 **方位** N-5°-W。わずかに西側に傾いている。 **出土遺物** 埋没土中から石臼、遺構確認面から江戸時代18世紀代肥前系染付碗出土。 **時期** 林城に伴う堀であり、中世と思われる。

所見 1・2掘は最初1本の堀で、北側に1号橋が造られていた。その後堀の中央部南寄りに土橋が築かれ、土橋が出来た段階で堀は二分され、北側を1号堀、南側を2号堀と呼称した。堀は、土橋が築かれた地点で地形が少し変化しているようであり、堀の深さに変化が見られる。土橋から北側は長さ12.81m間の底面の標高は611mでほぼ水平である。しかし土橋南側の2号堀の底面の標高は610mとなっており土橋を境に1mほど低くなっている。さらに6mほど南では609mと1m低くなっている。土橋と2号石垣は、1・2号堀の地形が低くなる変換点に築かれている。



第77図 1・2号堀(1)



1. 暗褐色土。ローム粒30%とYPS 5%含む。
2. 暗褐色土。ローム粒・YPS 10%含む。
3. 褐色土。ローム粒60%とローム小ブロック10%含む。
4. 黄褐色土。ロームを主とし、少量の暗褐色土を含む。
5. 黄褐色土。ローム小ブロックを主とし、少量の暗褐色土を含む。壁面からの流込が明確。
6. 黄褐色土。ローム小ブロックを主とし、内岸からロームブロックが陥没し落ち込み埋まっている。

1. 暗褐色土。多くの植物の根を含む。
2. 褐色土。多くのローム粒を含む固くしまった層。



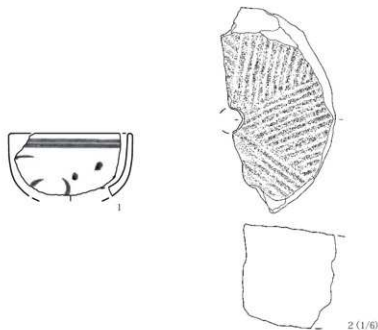
第78図 1・2号堀(2)

1号堀 (第77・78図：PL.14)

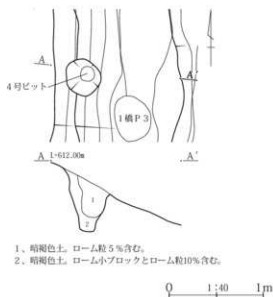
位置 第1区画と第3区画の間で、54区U・V-1～5グリッドに位置する。**重複** 北側に1号橋、南端に土橋と2号石垣、その南に2号堀が続く。北端で3号石垣と重複している。石垣は1号堀を埋めて造られている。**形状** 長方形。**規模** 全長12.81m、上幅2.9～4.3m、下幅1.56～3.4m、深さは北側1.13m、中央部0.71m、南側0.51m。北側が深く、土橋のある南側が浅い。**出土遺物** 埋没土中から石臼、遺構確認面から江戸時代18世紀代肥前系染付碗出土。**時期** 林城に伴う堀であり、中世と思われる。**所見** 1・2号堀は最初1本の堀で、北側に1号橋が造られていた。その後堀の南側に土橋が築かれ、土橋が出来た段階で堀は二分された。

2号堀 (第77・78図：PL.14)

位置 第1区画と第3区画の間で、44区U・V-24・25、54区U・V-1に位置する。**重複** 北側に2号石垣と土橋と重複している。**形状** 長方形。**規模** 全長9.2m、上幅2.64～6.3m、下幅1.48～3.6m、深さは北側0.46m、中央部0.80m、南側0.50m。中央部が深い。**出土遺物** なし。**時期** 林城に伴う堀であり、中世と思われる。**所見** 1・2号堀は最初1本の堀で、北側に1号橋が造られていた。その後堀の南側に土橋が築かれ、土橋が出来た段階で堀は二分された。



第79図 1号堀出土遺物



1. 暗褐色土、ローム粒5%含む。
2. 暗褐色土、ローム小ブロックとローム粒10%含む。

第80図 第1区画4号ピット

石垣

2号石垣 (第82・83図：PL.15)

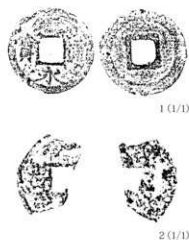
位置 54区U・V-1グリッドに位置する。**重複** 第3区画の西側を区画する1・2号堀を二分するように、土橋とともに築かれている。土橋の南側に2号石垣が積まれており、断面観察から同時期に造られている。**形状** 石垣は5段程度積み、最上部は1石のみ残り、残りは崩落する。規模は幅3.7m高さ1.35mである。積み方は布積で、横目地・縦目地とも揃っており、積み方として強度は弱い。小口積みと長手積みが混在する。裏込めはない。最下段は長手積みに近く、掘り込みはない。石の奥行きは最長で57cmである。石垣の傾斜は一定していない。西側の土層断面A-A'では10度の傾斜を持つが、土層断面B-B'及び土層断面C-C'の石垣は最下段の石より上の石は少し外側にせり出している。**規模** 南北方向で3.7m高さは1.35m。**方位** N-6°-W。**出土遺物** なし。**時期** 遺構からの出土はないが、林城の一部である土橋に伴う遺構であり、中世の可能性が高い。

土橋

土橋は、1号堀と2号堀の中間南寄りの堀の一部を埋めて2号石垣とともに造られている。造られている場所の特色等については、1・2号堀の説明で触れた。

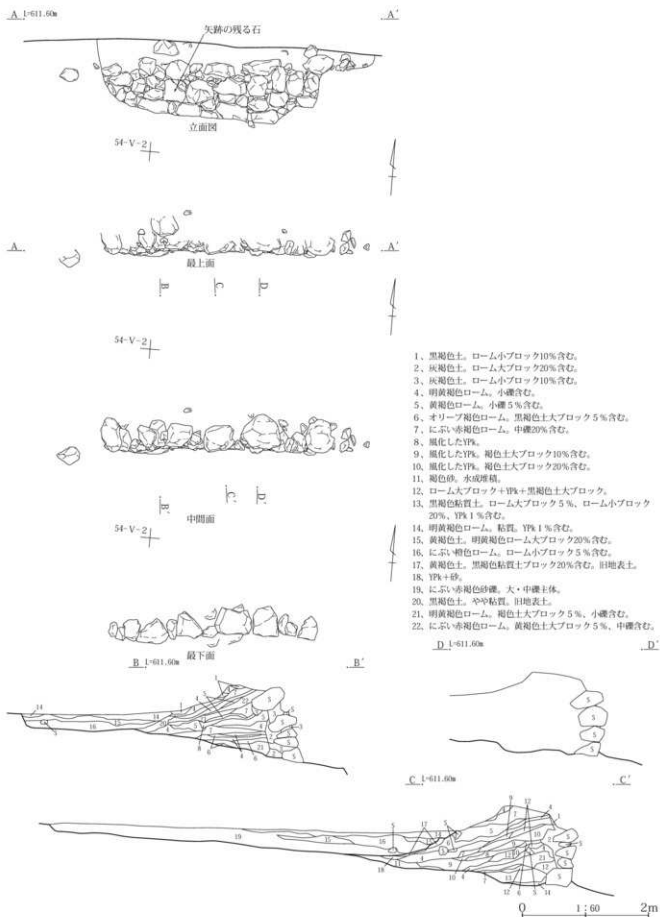
土橋 (第84図：PL.15)

位置 1号堀と2号堀の間で、54区U・V-1・2グリッ

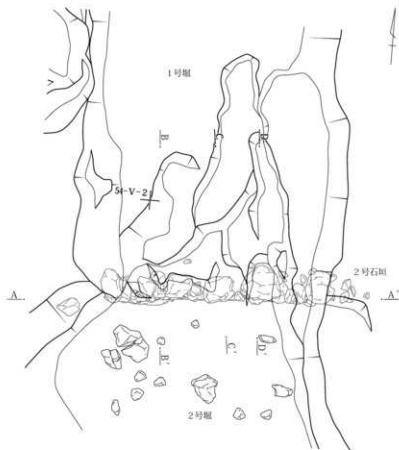


第81図 第1区画4号ピット出土遺物

ドに位置する。**重複** 北に1号堀・南に2号堀、土橋の南側に2号石垣が築かれている。**形状** 土橋は1・2号堀に直交して、断面台形に盛り土する。南側は石垣が築かれているが北側に石垣はない。壁面は北側が緩く、南側は石垣によりほぼ垂直に立ち上がる。残っていた土橋の上幅は0.45～0.9mで土橋の中央部は狭く両端部分が広く残っていた。下幅は明確ではないが盛土の範囲と考えると3m。堀の深さは土橋を境に南側が深く、北側が浅くなっているため、南側の高さが高く、石垣部分が高さ1.22～1.26mで、北側は石垣がなく高さは明瞭でない。土橋の造成土は、厚さ5cm程度で薄く層状に盛り上げる。最下部は黒褐色土の混入が顕著で、上位は徐々に北下がり傾斜する。中位はYPkが盛られ粘土化するが、使用した意図は不明である。上位に向かって埋没土に礫の混入が目立つ。石垣の最下部を土橋の盛り土が覆う部分や、中位の石垣でも同様な部分があり、土橋の盛り土と同時並行で石垣が積まれている。**出土遺物** なし。**時期** 遺構からの出土はないが、林城の一部であり、中世の可能性が高い。**所見** 土橋の土層断面を観察すると、石垣の根石設置段階で、土はほぼ水平に固めている。石垣が2～3段の段階に高くなると、盛られる土は石垣部分を高く、北側の堀の部分は低くなるように傾斜をつけて土を盛っている。盛り土の土層断面は15回前後まで確認出来る。

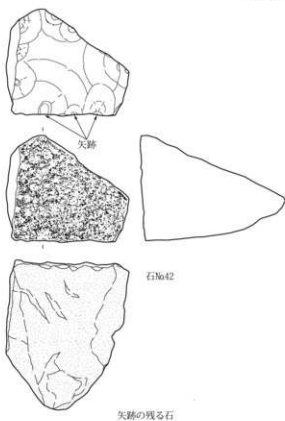


第82図 2号石垣(1)



1・2号堀と2号石垣との重複関係

0 1:60 2m



石No42

矢跡の残る石

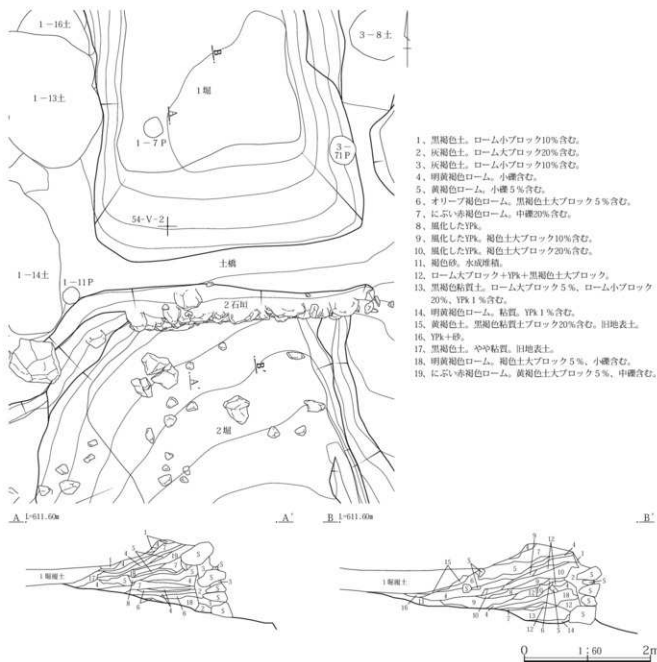
0 1:12 40cm



石の奥行き計測図(cm)

0 1:80 2m

第83図 2号石垣(2)



第84図 土橋

橋

林城に伴う遺構として堀・橋・土橋・石垣・池等がある。堀を渡る施設として橋があり、2基造られていた。1号橋は南北方向に掘られている1号堀の北側に、2号橋は同じく南北方向に掘られた3号堀に架けられた。2つの橋はいずれも堀を渡るために造られており、堀の規模に応じて大きさや造り方が少し異なっている。1号堀は、堀の上幅3.4m下幅2.3m深さ1.17m、2号堀は堀の上幅2.2m下幅1.3m深さ0.89mで堀の幅では1号堀が2号堀より約1m広く、堀の深さでは0.28m深い。橋を支える橋脚を建てたと思われる兩岸の柱穴間距離が、1号

橋は平均で2.24m、2号橋は平均で1.83mとなっており1号橋の柱穴間距離が0.41m長くなっている。橋を支える橋脚を建てたと思われる柱穴が掘られている位置も異なる。1号橋は1号堀の底部に4本とも掘られているが、2号橋は3号堀の底部ではなく斜面を掘り込んで造られていた。そのため橋脚を埋めた柱穴の深さも異なり、1号橋柱穴2本平均の深さ0.61m、2号橋柱穴2本平均の深さ0.35mで1号橋柱穴2本の平均深さが0.26mほど深くなっている。当然橋脚の高さや橋桁の長さも1号橋が長かったと思われる。

1号橋 (第85・86図: PL.16)

位置 1号堀の北側で、54区U・V-3グリッドに位置

する。重複 1号堀に架けられた橋である。橋脚のピット4本が堀底部に掘られている。

形状 長方形。

規模 表5のとおり。出土遺物 なし。1号橋P3に近接して4号ピットがある。4号ピットから新寛永通宝1枚と判読不能の古銭1枚が出土している。

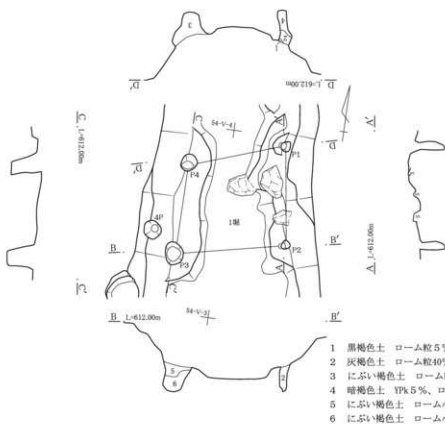
時期

林域に伴う堀であり、中世と思われる。所見 1

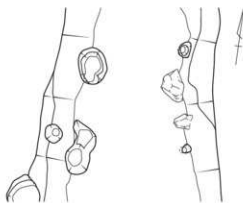
号橋は2号橋より大きいと思われる。

表5 1号橋計測表

ピット番号	規模			
	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	柱間寸法(m)
P 1	20	23	60	→ P 2 2.12
P 2	18	20	54	→ P 3 2.34
P 3	38	50	60	→ P 4 1.90
P 4	32	36	68	→ P 1 2.14



第85図 1号橋(1)



第86図 1号橋(2)

3号堀 (第87図: PL.14)

位置 1・2号堀の東側にあり、第3区画と第4区画を分ける。54区O-2～5グリッドに位置する。重複

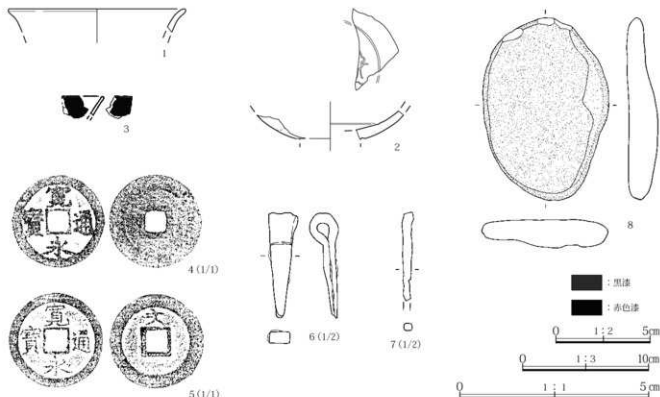
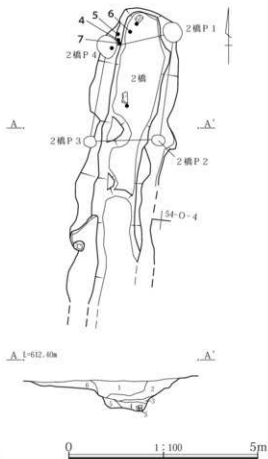
北側で2号橋と第4区画2号土坑と重複している。

形状 長方形。規模 確認出来る範囲で全長16m、上幅1.16～2.3m、下幅0.7～1.15m。深さは北側1m、中央部で0.8m。方位 ほぼ北である。出土遺物

15世紀を中心とした青磁と白磁及び堀西壁北側の上面から堀の埋没時期を示すと思われる新旧の寛永通宝各1枚等出土。時期 林城に伴う堀であり、中世と思われる。所見 平らな第3区画を1・2号堀と3号堀で区切っている。3号堀の北側に2号橋が造られている。東側は第4区画となっている。南側は、斜面で、やがて急傾斜地となっており、堀は南側の斜面部分で残りが悪く不明となっている。東側に接して1・2号池があり、その付近一帯が湧水地となっている。

1. 暗褐色土。Yp10%含む固くしまった層。
2. 暗褐色土。Yp5%含む固くしまった層。
3. 褐色土。多くのローム粒と少量のYpを含む。
4. 暗褐色土。少量のローム粒とYpを含む。底部に円礫を含む。
5. 暗褐色土。Yp10%と少量のローム小ブロックを含む固くしまった層。
6. 暗褐色土。Yp20%含む固くしまった層。

第87図 3号堀



第88図 3号堀出土遺物

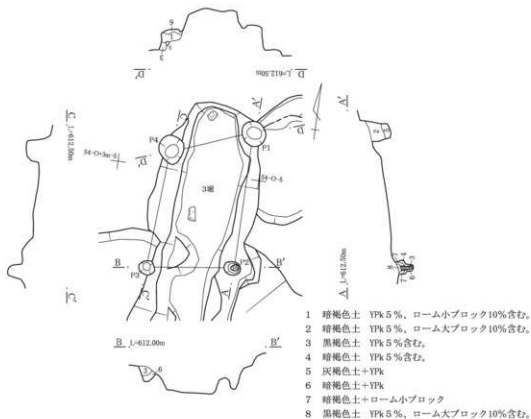
2号橋 (第89図：PL.16)

位置 3号堀の北側で、54区O-4・5グリッドに位置する。**重複** 3号堀に架けられた橋である。橋脚のビット4本が堀底部に掘られている。**形状** 長方形。

規模 表6のとおり。**出土遺物** なし。**時期** 近世と思われる。**所見** 2号橋の北側には元々土橋による通路がある。2号橋は3号堀を暗渠状に塞ぐもので、通路を広げる機能を持っている。おそらく第3区画が近世屋敷として使用されていた段階に設置されたものであろう。

表6 2号橋計測表

ビット番号	規模			
	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	柱間寸法(m)
P 1	50	53	40	→ P 2 2.92
P 2	28	36	40	→ P 3 1.84
P 3	30	36	30	→ P 4 2.48
P 4	53	56	28	→ P 1 1.82



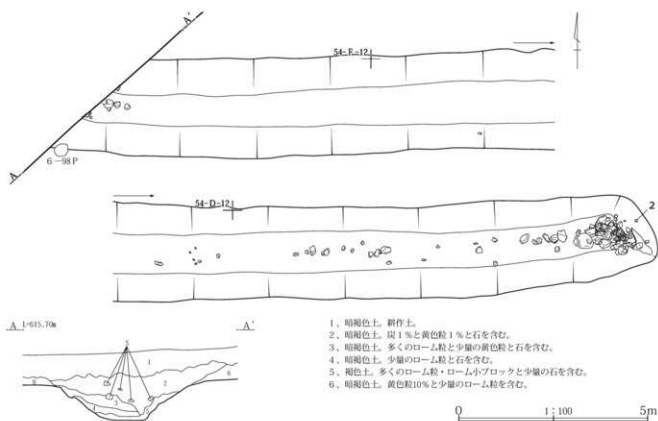
0 1:80 2m

第89図 2号橋

5号堀 (第90図: PL.14)

位置 第6区画と第7区画の間にある。他の4本の堀は南北方向に掘られているが、5号堀は東西方向に掘られている。7号堀と共に堀の中で最も東側に位置する。54区A~H-11、A~F-12グリッドに位置する。**重複** なし。**形状** 長方形。**規模** 全長27.7m、上幅2.26~2.6m、下幅0.8~1.06m。深さは西側0.94m、中央部で0.84m。西側の土層断面で観察すると堀の上幅は4.7m、深さは1.45mである。**方位** N-89°-E。

出土遺物 14~15世紀の青磁碗と中世在地系の内耳土器が出土。**時期** 林城に伴う堀であり、中世と思われる。**所見** 第6区画と第7区画を区画している。残りが良好で、幅や深さが一定している。大部分ロームを掘り込んで造られている。幅は2.5m前後で深さは1m前後である。堀を埋めている土は、大部分固くしまっており、覆土中にロームやロームブロックが含まれる量は極めて少ない。掘り上げた土で土塁等は築かれていなかったものと思われる。



- 1、暗褐色土。耕作土。
- 2、暗褐色土。炭1%と黄色粒1%と石を含む。
- 3、暗褐色土。多くのローム粒と少量の黄色粒と石を含む。
- 4、暗褐色土。少量のローム粒と石を含む。
- 5、褐色土。多くのローム粒・ローム小ブロックと少量の石を含む。
- 6、暗褐色土。黄色粒10%と少量のローム粒を含む。

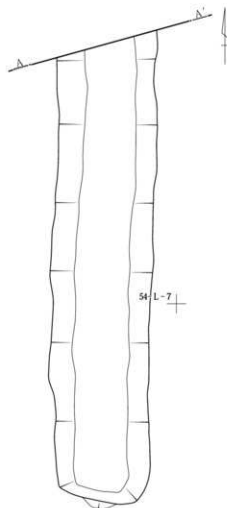
第90図 5号堀



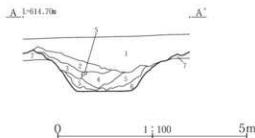
第91図 5号堀出土遺物

6号堀 (第92図：PL.14)

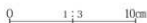
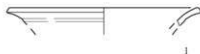
位置 第4区画と第6区画の間にある。54区L-5～8グリッドに位置する。**重複** なし。**形状** 長方形。**規模** 全長12.6m、上幅2.5～2.58m、下幅1.3～1.42m。深さは北側0.75m、南側0.64m。北側の土層断面で観察すると堀の上幅は3.55m、深さは1.1mである。**方位** N-1°-W。**出土遺物** 古瀬戸の花瓶が出土。**時期** 林城に伴う堀であり、中世と思われる。**所見** 第4区画と第6区画を区画している。6号堀の南側は、1・2号池のある傾斜面となり、堀は傾斜面手前で終わっている。6号堀には橋が造られていないので、第6区画から第4区画に移動するには、1・2号池のある低地の落ち込みとの間幅約1.5mの間を通過したと思われる。6号堀は5号堀同様に大部分ロームを掘り込んで造られている。幅2.5m前後で深さは0.7m前後である。堀を埋めている土は、大部分固くしまっており、覆土中にロームやロームブロックが含まれる量は極めて少ない。掘り上げた土で土塁等は築かれていなかったものと思われる。



- 1、暗褐色土。上層は耕作土でやや軟質。下層は固くしまっている。
- 2、暗褐色土。YPk 5%含む固い層。
- 3、暗褐色土。YPkを少し含むやや軟質な層。
- 4、暗褐色土。YPk 5%とローム粒5%含む。
- 5、黒褐色土。YPk 5%含む固い層。
- 6、黒褐色土。ローム小ブロック10%含む。YPkを少量含むやや軟質な層。
- 7、暗褐色土。黄色粒10%と少量のローム粒を含む。



第92図 6号堀

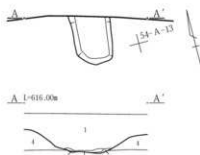


第93図 6号堀出土遺物

7号堀 (第94図: PL.14)

位置 第7区画の東側を区切る堀である。54区A-12・13グリッドに位置する。 **重複** なし。 **形状** 長方形。 **規模** 全長1.46m、上幅1.02m、下幅0.78m、深さは0.11m。北側の土層断面で観察すると堀の上幅は2.64m、深さは0.64mである。 **方位** N-6°-E。

出土遺物 なし。 **時期** 林城に伴う堀であり、中世と思われる。 **所見** 第7区画の東側を区切る堀である。北側は調査区域外である。7号堀の北延長上約35m地点で町道建設に伴う発掘により、中近世の54区2・3・5・6号溝4本を発掘調査している。4本の溝は7号堀と同じ南北方向の堀であり、重複関係や土層の特色等から、新旧関係が認められる。2→3号溝、6→5→3号溝の順である。出土遺物は2号溝からは古瀬戸後期15世紀代の陶器皿、6号溝からは14世紀前半の龍泉窯系青磁碗であり、2・6号溝は中世段階の堀と思われる。3号溝と5号溝は重複関係や出土遺物から近世と思われる。これらの状況から、7号堀は、北側に位置する同じ中世と思われる2号溝あるいは6号溝に繋がる可能性がある。



1. 暗褐色土。耕作土。植物の根を多く含む。
2. 褐色土。ロームブロック20%含む。
3. 暗褐色土。少量のローム粒を含む。
4. 灰褐色土。少量のローム粒とYP10%含む。



第94図 7号堀

虎口

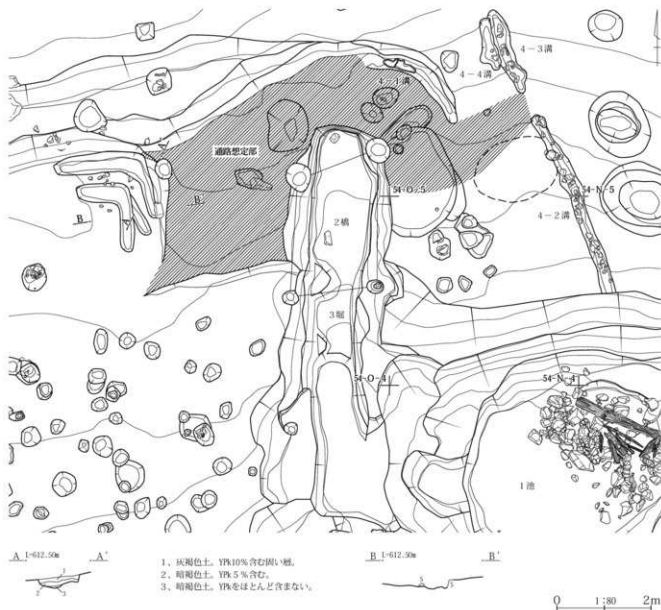
虎口 (第95図: PL.16)

位置 第3区画と第4区画の境部分で、54区N~P-4・5グリッドに位置する。 **規模** 通路想定部の範囲は東西方向7.7m南北4.7m、通路の幅は北側の斜面を丸く削り込んだらと3号堀との間の通路幅1.5m。

出土遺物 なし。 **時期** 城に伴う遺構で中近世。

所見 第3区画と第4区画を繋ぐ通路である。第95図トーン部分が通路として想定される。通路は北側の斜面を丸く削り込み、3号堀との間に約1.5mの幅員を確保する。折れ曲がる形態から故意に通行を妨げており、城に伴う虎口遺構と判断した。ローム面をほぼ平坦に削平している。硬化路面は確認できていない。東側の4-2・3号溝の間は50cm程の間隔があり、ここを通過したものと考える。この溝の底面にはビット状の凹みも確認でき、こぶし大の礫も多く出土する。塀などを埋め込ん

だ後、礫で両側を押さえるなどの作事が想定されよう。3号堀の西側はスロープ状に下り込む。南端は第3区画の建物に関連して削られる。通路段階では段差がなかった段階も想定される。同じく西側も四角く削り込まれており、これも第3区画屋敷敷地の造作に関わっている。通路段階では段差がなかった別の段階が想定される。つまり、スロープの先は、南側か西側かどちらかが通路として繋がっていたはずで、調査上の最終確認面で、両側とも掘削された状態となったにすぎない。ところで、3号堀の北端に2号橋が架けられている。ある段階で橋を架けることで通路を広げたものと考えられる。おそらく、3号堀の底面からも湧水があるため、故意に埋めなかったことが想定されよう。3号堀北端の埋設土の上位から寛永通宝が出土しており、近世に入ってから埋められたものとみられる。



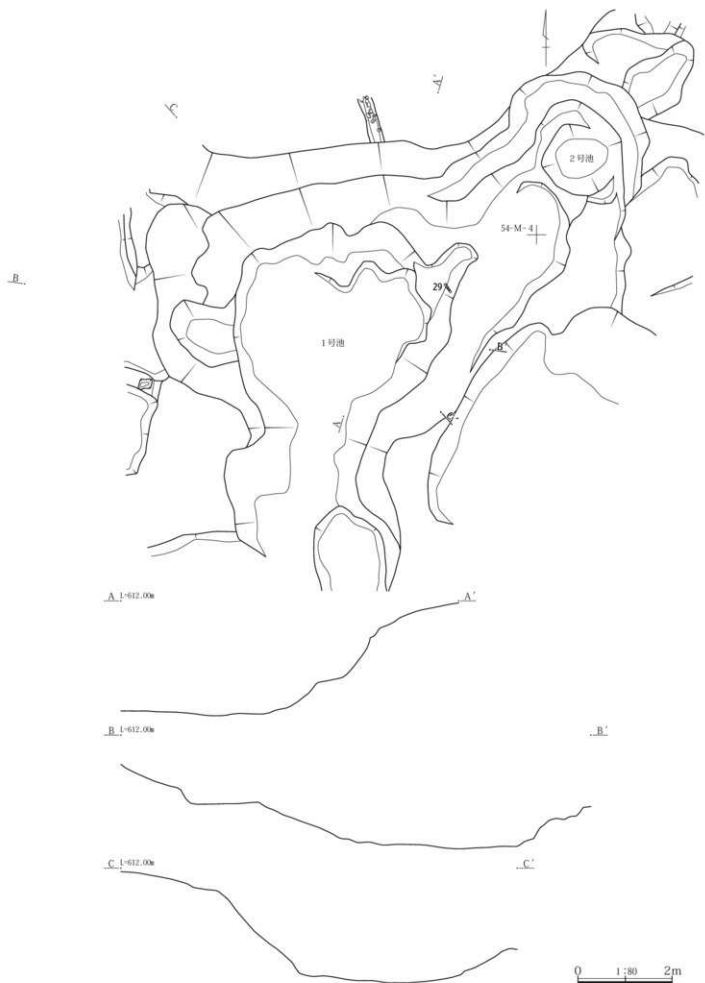
第95図 虎口

池

1号池 (第96～99図; PL.16・17)

位置 第4区画南側下段に築かれている。54区M・N-3・4グリッドに位置する。**重複** 北東で2号池と接しており2号池からの流水が流れ込むようになっている。**確認状況** 調査以前は埋没して水田の土手となっており、湧水が浸み出す水路が前面に巡っていた。重複により表土掘削した際、南側外縁付近に打ち込まれた杭を、土留めに使用された現代の杭と判断し除去して

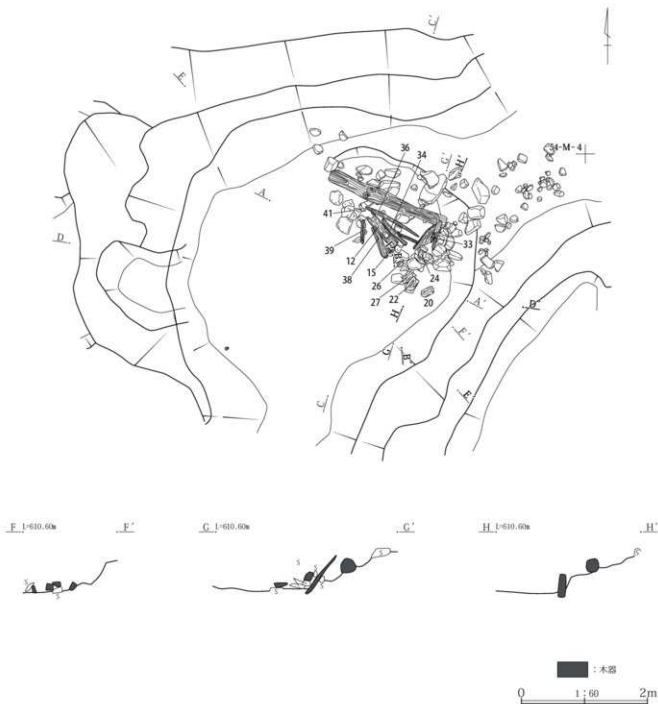
ある。池の南半部が石が分布しないのも表土掘削の際、除去したものである。そのために平面図南側に石が記録されていない。**形状** 池はつぶれた円形で、南側が開いて溝状に延びている。この出口付近の両側に杭が認められるため、堰などがあった可能性もある。池の北東部は上位にある2号池からの導水路が接続する。湧水は北壁からも湧出する。北東壁に残存長2mの丸太材(自然木のため、サンプリングに止める)が横方向に置かれ、下部にも同様な丸太・板材が3本程度並んでいた。これ



第96图 1·2号池



第97図 1号池(1)



第98図 1号池(2)

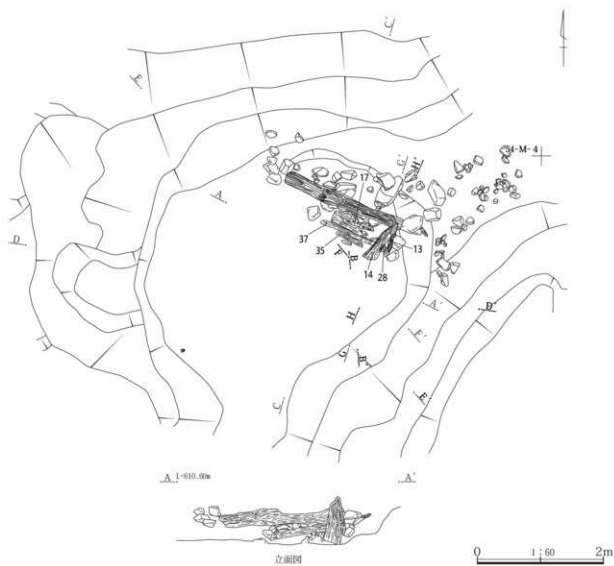
らの横木の前面を押さえるため、南側に杭が打たれており、堰状になっている。横木の下には石が詰まっているため、石と木材を組み合わせた堰状の施設とも思われる。

規模 長径4.7m短径4.3m深さ1.5mである。

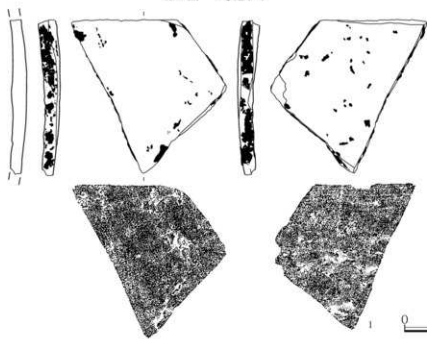
出土遺物 埋没土から古瀬戸瓶子(古瀬戸前期ⅢかⅣ・13世紀後半)、常滑甕(中世)を含む陶器8点、在地土器1点、割れている茶臼1個が出土した。また覆土中から馬の歯が4本出土している。2号池から水が流れ込む北

東部分から杭や板材等の多くの木製品が出土している。

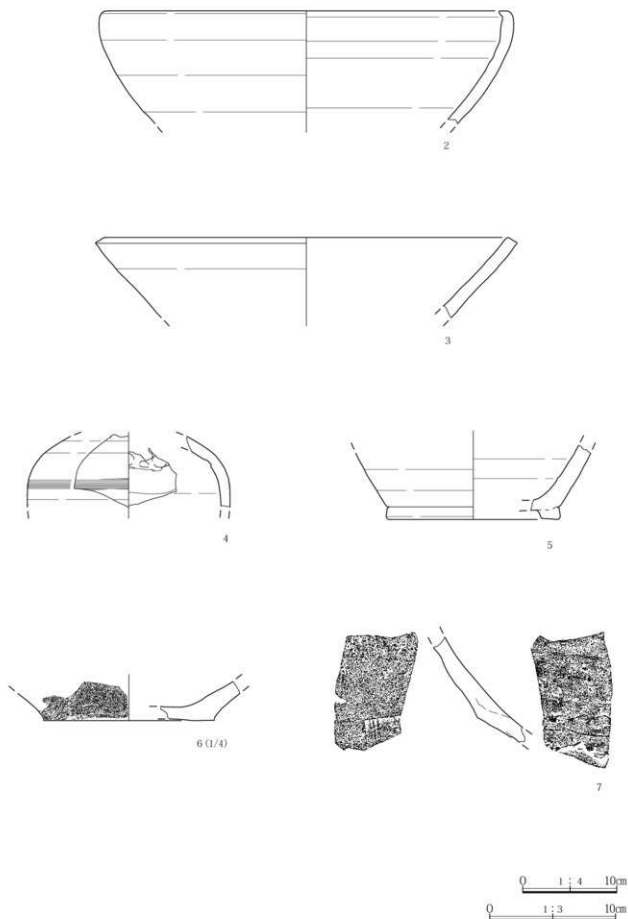
時期 出土遺物から15世紀前半には埋没したと推定される。**所見** 水を確保するために、自然の湧水地に手を加えて1・2号池を整備したと思われる。水をためるために、杭と木材と石を使用して堤等の施設があったと思われる。1号池と2号池は、水路によりつながっており、おそらく同時期に使用されていたものと思われる。



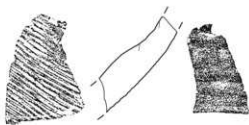
第99図 1号池(3)



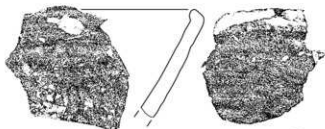
第100図 1号池出土遺物(1)



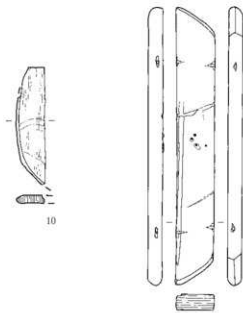
第101図 1号池出土遺物(2)



8

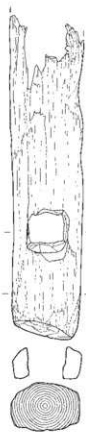


9

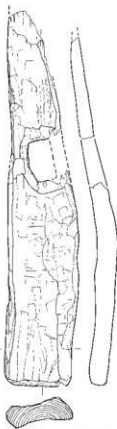


10

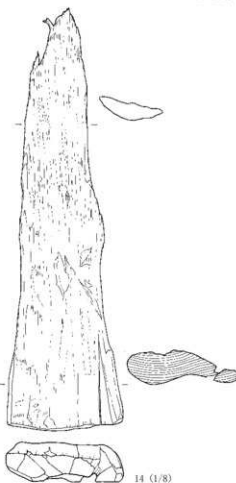
11 (1/6)



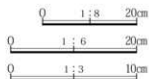
12 (1/8)



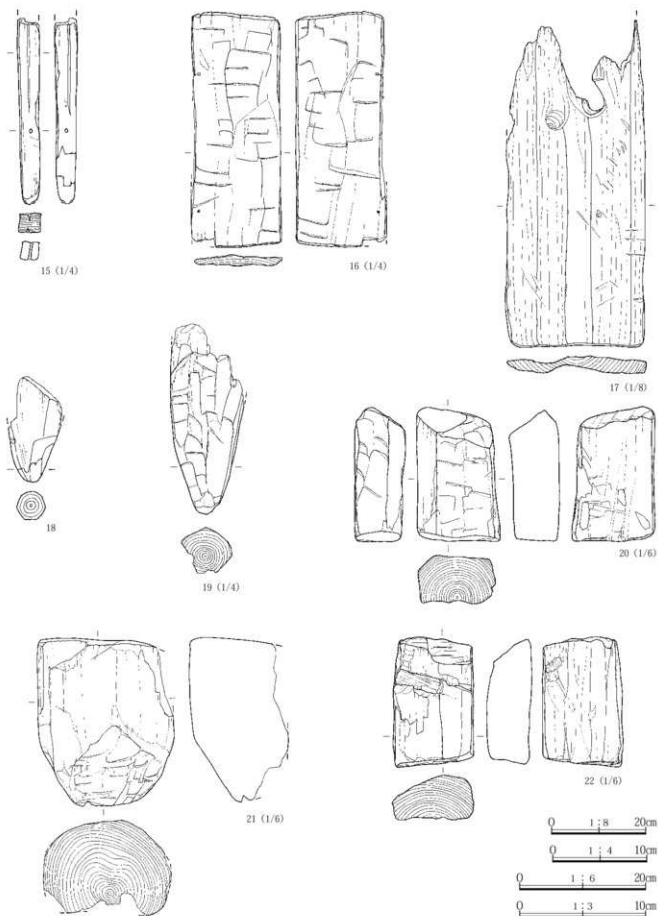
13 (1/8)



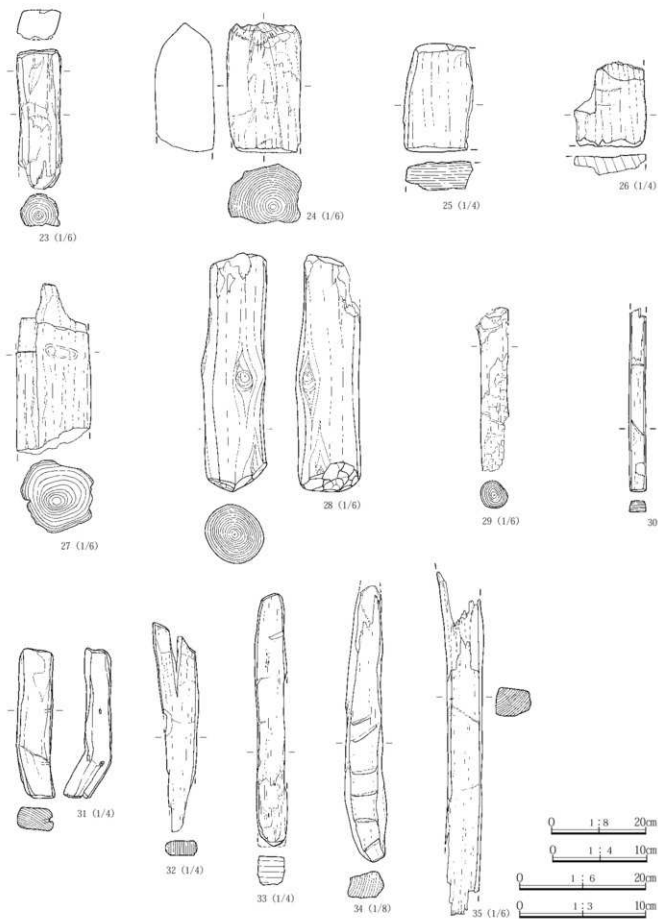
14 (1/8)



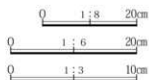
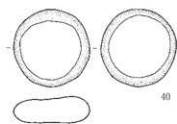
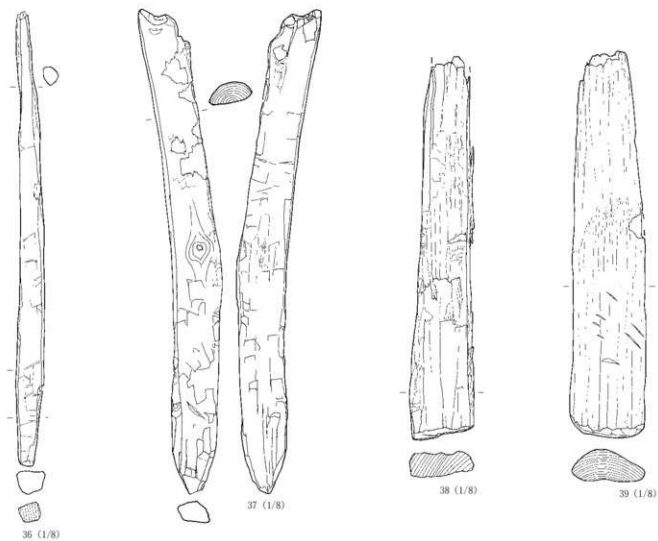
第102図 1号池出土遺物(3)



第103図 1号池出土遺物(4)



第104図 1号池出土遺物(5)



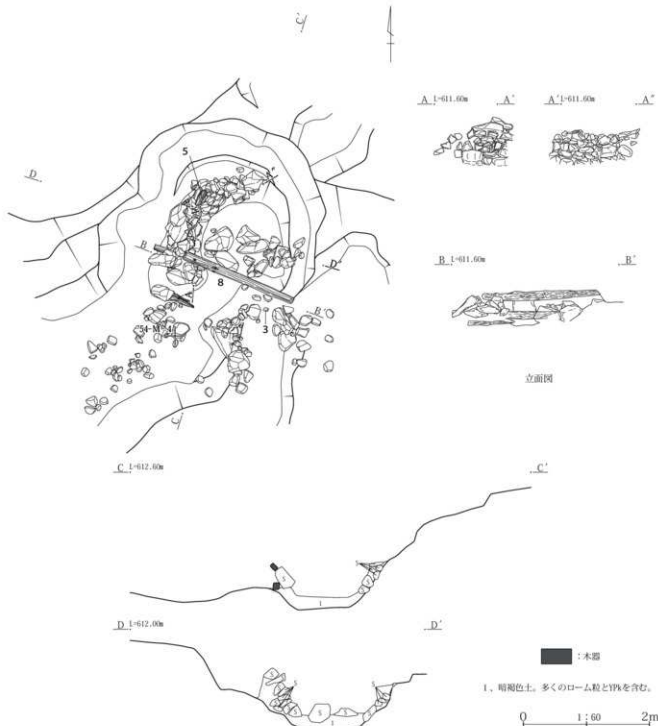
第105図 1号池出土遺物(6)

2号池 (第96・106・107図：PL.16・17)

位置 54区L・M-3・4グリッドに位置する。第4・6区画の境にあり、6号堀の南側下段に位置する。6号堀との間は通路であり、通行する幅員を狭める役目を果たしている。 **重複** 南西で1号池と接しており2号池からあふれた水は1号池に注ぐようになっている。

形状 掘り込みの平面形はほぼ円形で、底部はほぼ平らである。西半部に丸く石垣が積まれている。最も残り

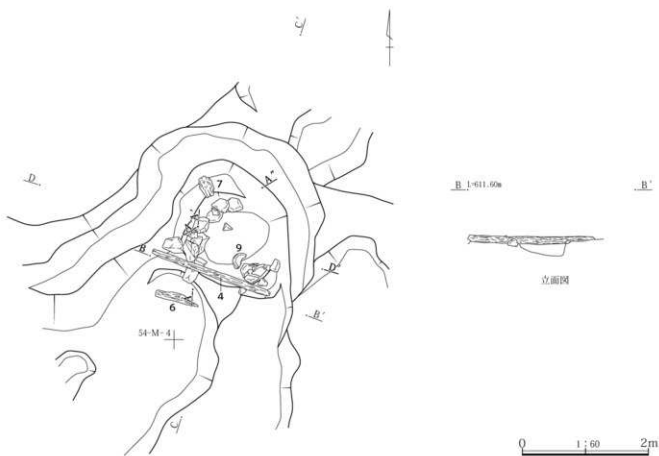
の良好なところで8段の石が積まれていた。東側半分は石垣は残りが悪い。良好な場所では4段の石が積まれていた。石材は人頭大の角礫が多く、残存高80cm程度である。石垣は底面から直接積み上げる。池の最下部は径1mの円形で、石垣の1・2段目は掘り込みの壁面に貼り付けて並べる。石垣の東半部は崩れたものと思われる。南側は柱材2本が横方向に渡され、これにより池の平面形は半円形となる。下の柱材には仕口が認められるため、



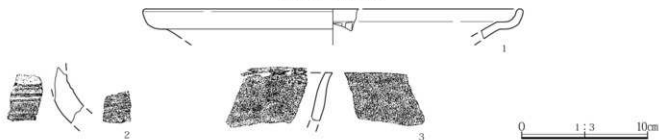
第106図 2号池(1)

建物の桁材か梁材を転用したものと考えられる。下の木材は側面を石で挟み込んで固定されるが、上の柱材との間に石は積まれていない。草木類で塞いで貯水し、水場としたと考えられる。 **規模** 石組みの規模は長径2.2m短径2.1m深さ1.0mで、掘り方の規模は長径3.3m短径3.3mである。 **出土遺物** 石垣の最下部で割れている石上白1点、石垣に挟み込まれて珠洲と思われる裏の胴部、埋没土から青磁盤(14世紀後～15世紀)が出土する。地形的に低くなる池の南東部で1号池に水が流れ出る部分に、木材と石を使って堤を築いている。その部分から木材が出土している。 **時期** 出土遺物から15世紀と思われる。 **所見** 水を確保するために、自然

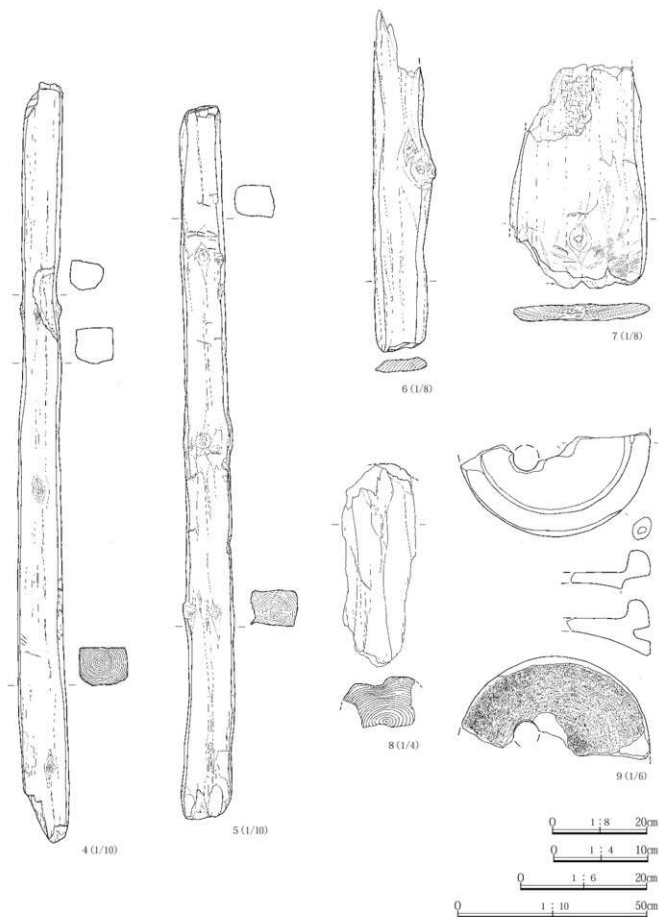
の湧水地に手を加えて1・2号池を整備したのと思われる。地形的に高い2号池北東部に多くの落ち込みが密集する。これは湧水により空洞化し、その後陥没したことにより出来たものと思われる。このように周辺は湧水地である。2号池は、地形的に最も低い部分を円形に深く掘り込み、壁面を石垣で築き、地形的に低い南西部分に木材と石で堤を築き、水を溜める構造とした。池の底からの湧水だけでなく、周辺の湧水の流れ込みもあったと思われる。地形的に上位である2号溝は谷筋が狭く、1号池より小さい。1号池と2号池は、水路により繋がっており、おそらく同時期に使用されていたものと思われる。



第107図 2号池(2)



第108図 2号池出土遺物(1)



第109図 2号池出土遺物(2)

第1区画

林城調査区の最高所に位置する。第1区画は付近の伝承で、「ジョウ」と呼ばれていた部分である。土坑37基、石垣2基、スロープ、1号礎石、1号道、削平面、溝2条、が検出される。現況の規模は上面で南北約18m、東西約20mである。北西端は10m程度L字状に伸びるが、北面が削り取られた残りである。本来の全体形は方形であったとみられる。上面は重機による攪乱が著しく、中央部は北側からほとんど壊される。中世と考えられる遺構は東端部に集中する。30～60cmの盛土層があり、底面から在地系内耳土器片が2点出土する。これと前後して馬歯を埋める36号土坑がある。関連する遺構は少ないが、盛土層により中世段階で生活面を造成していたと思われる。東側は1号堀により第3区画と分離し、1号橋または土橋により第3区画と連絡する。東側法下に1号石垣が2段程度積まれている。崩落した石材も少なく、法面全体に積まれたものではなく、掘石垣であろう。石垣から1号堀までは5m程の間隔があり、通路と考えることも可能である。南面は東側土橋から続くスロープ状の通路があり、法下に5号石垣が積まれる。両石垣とも江戸時代以降の所産である。前出する遺構として、江戸時代に掘られた土取穴が点在する。南斜面には1号道があり、第2区画と第3区画を連絡する。第2区画との間に分離する堀などはない。

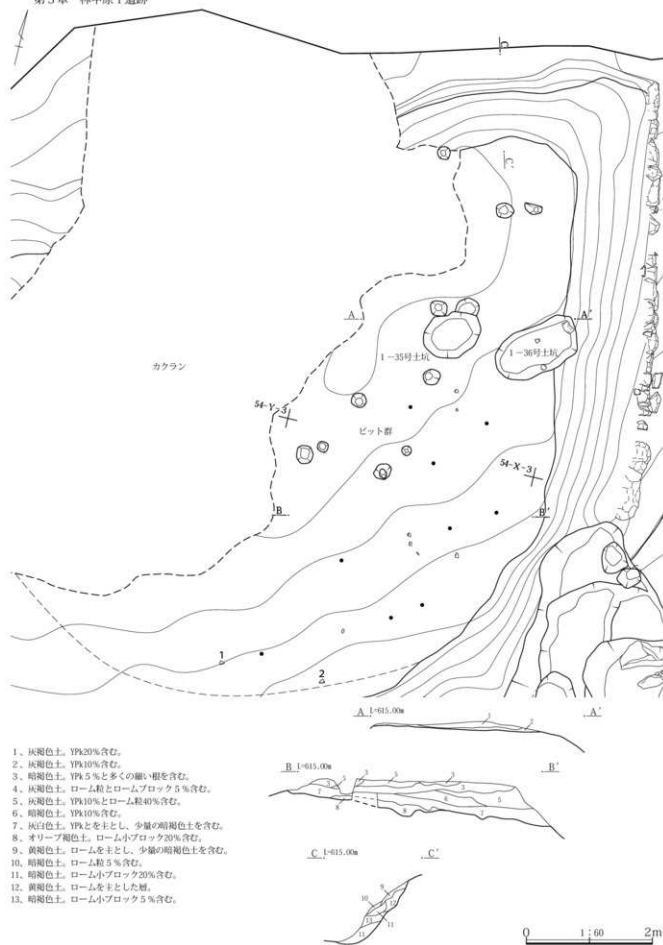
第1区画の北側調査区域外には、北西方向へ半島状に土壇の一部が延びている。その東部分は調査部分と同様に、重機による攪乱を著しく受けている。こうした状況から、第1区画は本来方形の土壇であったと思われる。重機により地形変更され、発掘調査以前にはすでにL字形になっていたと想像される。北辺に並行して現在農道が東西方向に走向している。1号堀は北側調査区域外で西に曲がり、この農道に並行して進み、西側の谷まで掘り切ったものと想像される。これにより、第1・2区画は一つの郭として区画されることとなる。

盛土下面

盛土下面 (第110図: PL.17)

位置 第1区画高台東端部で、54区X-1～4グリッドに位置する。**重複** 第1区画35・36号土坑、ピット群。**規模** 東西方向2～4m、南北方向で約10mの

範囲に盛土が残っていた。盛土の厚さは0.3～0.6mであり、中央部より端部が厚く盛土されていた。**出土遺物** 中世在地系銅の胴部破片が出土している。**時期** 林城造成段階の中世と思われる。**所見** 林城造成段階で第1区画高台部に平地面を確保するために、中央部を削り周辺部の盛土したものと思われる。造成後攪乱により造成面の多くは残りが悪い。高台東端部に造成面が残っていた。



1. 灰褐色土。YPr20%含む。
2. 灰褐色土。YPr10%含む。
3. 暗褐色土。YPr5%と多くの細い根を含む。
4. 灰褐色土。ローム粒とロームブロック5%含む。
5. 灰褐色土。YPr10%とローム粒40%含む。
6. 暗褐色土。YPr10%含む。
7. 灰白色土。YPrとを主とし、少量の暗褐色土を含む。
8. オリーブ褐色土。ローム小ブロック20%含む。
9. 灰褐色土。ロームを主とし、少量の暗褐色土を含む。
10. 暗褐色土。ローム粒5%含む。
11. 暗褐色土。ローム小ブロック20%含む。
12. 黄褐色土。ロームを主とした層。
13. 暗褐色土。ローム小ブロック5%含む。

第110図 盛土下面



第111図 盛土下面出土遺物

ピット群

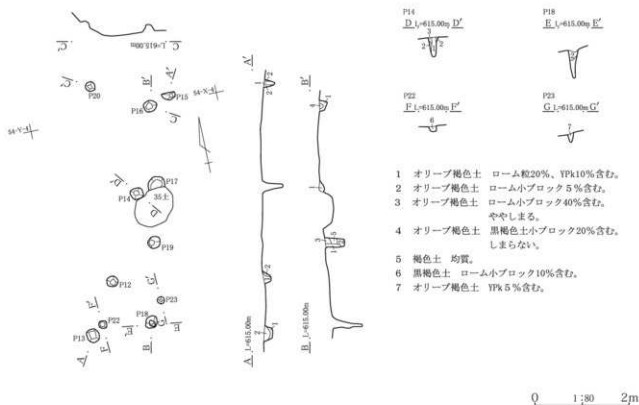
第1区画ピット群 (第112図: PL.17)

位置 第1区画高台東端部で、54区X-2~4グリッドに位置する。 **重複** 35号土坑と重複している。

規模 2列のピット列がある。A-A'間の距離5.35m、B-B'間の距離4.6m。ピット数とそれぞれの大きさ等は表7に示した。 **出土遺物** なし。 **時期** 林城造成前段階の中世と思われる。 **所見** 林城造成段階に盛土された土層撤去後確認された。林城建設時の造成面作成以前に、何らかの建物が建っていた可能性を示している。

表7 第1区画ピット群計測表

ピット番号	規模			旧ピット番号
	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	
P12	25	22	17	12
P13	28	25	18	13
P14	30	27	41	14
P15	29	17	24	15
P16	28	24	16	16
P17	38	30	11	17
P18	27	24	58	18
P19	27	24	42	19
P20	21	21	14	20
P22	19	17	11	22
P23	17	16	20	23



第112図 第1区画ピット群

土坑（第113～119図：PL.18・19）

土坑が37基調査されている。調査された場所は、1・2号堀の西側に23基と最も多く、第1区画中央の高い部分に4基、その南のスロープ周辺で7基、南西部に3基となっている。造られた時期は、盛土下から連続する11個のピットが確認されたピット群と同じ面を確認された。中世と思われる35・36号土坑以外は全て江戸時代以降と思われる。36号土坑は、隅丸の長方形に穴を掘って、土坑の底部を平らにして、土坑の南西端から馬の歯列がまとまって出土している。馬の歯以外骨の出土はない。分析した宮崎重雄氏の観察では、馬を埋めた段階では、頭をこの位置において、一頭分が丸ごと埋められ、歯以外は風化して消滅したものと指摘している。（第3章第6節第2項参照）

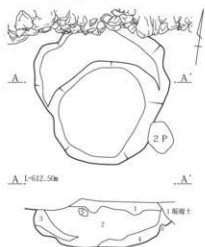
江戸時代以降の土坑は、大きく3種に分かれる。

最も多いのは、土取穴であり、20基が調査されている。造られた場所は、第1区画中央の高い部分以外の全ての場所に掘られていた。形や深さが一定せずに不定形を呈している。特に20・31・32・33号土坑は斜面に連なって掘られており、第2区画の大きな土取穴同様に、次々と土取穴が掘られていった結果、全体として大きな土坑となっている。土取穴の中で特に特徴的なのが、31号土坑である。この土坑は長軸5.1m短軸3m深さ0.38mの楕円形を呈した土坑である。土坑底面中央部が焼けて焼土化していた。その上にロームと多くの石が混在していた。さらにその上に10cm前後の大きさの石が大量に埋まっていた。石の上には焼土や炭の出土はほとんどない。土坑の性格は不明であるが、土取穴として掘られた後その土坑を利用して、何かを焼いたのではないかと思われる。なお南に接して掘られている32・33号土坑から焼土や炭は出土していない。次に多いのが4～9号土坑の6基である。この土坑は7・8号土坑が不定形を呈するが、他の4基は、円形又は楕円形を呈して底面に粘土が貼り付けてあった。桶等が埋められていたものと思われる。全て1・2号堀の西側にまとまって造られていた。その他に桶が埋められていたと思われる土坑として24号土坑がある。他の土坑は性格が不明である。

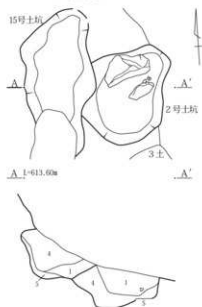
出土遺物は、土取穴や粘土を貼った土坑等から出土している。時期の特定される陶磁器で調べると、唯一中世の遺物として32号土坑から青磁碗B1類(13～14世紀)

の口縁部破片が出土している。他の土取穴や土坑から17～18世紀のすり鉢や18世紀後半の陶器等が出土しているが全て近世以降である。32号土坑隣の33号土坑から、18世紀後半から19世紀前半の染め付けの碗が出土している。32号土坑出土の青磁碗B1類(13～14世紀)の遺物は、古い段階の遺物が混入したものと思われる。このような状況から、第1区画から確認された縄文時代の土坑として報告した7基の37～43号土坑以外は、全て近世以降と思われる。

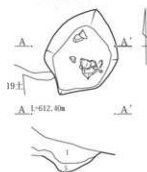
1-1号土坑



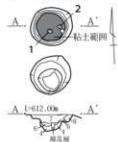
1-2・15号土坑



1-3号土坑



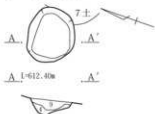
1-4号土坑



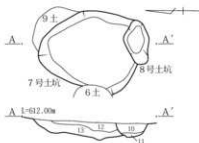
1-5号土坑



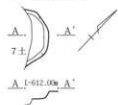
1-6号土坑



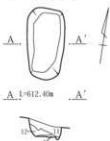
1-7・8号土坑



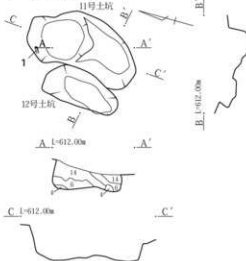
1-9号土坑



1-10号土坑



1-11・12号土坑

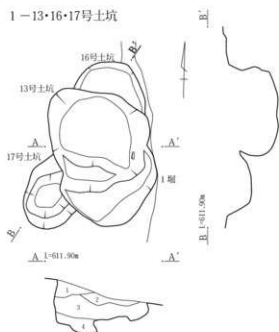


1. 暗褐色土。少量のローム粒とYPKを含む。
2. 黄褐色土。ロームを主とし、多くのYPKを含む。
3. 褐色土。多くのローム粒を含む。
4. 黄褐色土。多くのローム粒とロームブロックを含む。
5. 灰褐色土。腐化したYPK。
6. 灰褐色土。灰白色粘土を多く含む。
7. 灰褐色土。YPKを少量含む。
8. 灰褐色土。YPKを多く含む。
9. 褐色土。YPK、ローム小ブロック、灰色土の小ブロックを含む。
10. 暗褐色土。灰色土を少量含む。
11. 暗褐色土。灰色土を多く含む。
12. 暗褐色土。灰色土とローム小ブロックを含む。
13. 暗褐色土。灰色土とローム粒を含む。
14. 暗褐色土。多くのローム粒と少量のロームブロックを含む。

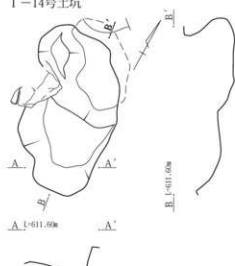
0 1:60 2m

第113図 第1区画土坑(1)

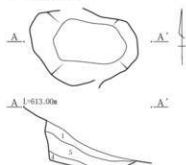
1-13・16・17号土坑



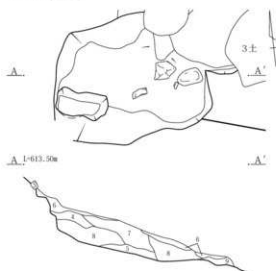
1-14号土坑



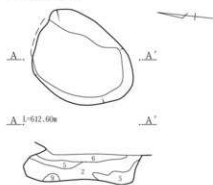
1-18号土坑



1-19号土坑



1-20号土坑

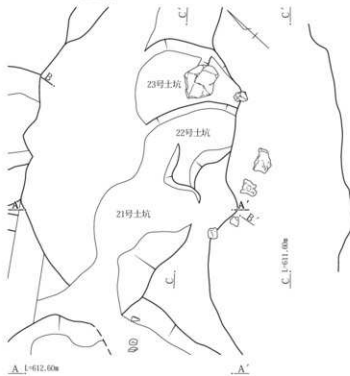


1. 暗褐色土。少量のローム粒とYFaを含む。
2. 灰褐色土。多くのYFaと少量のローム小ブロックを含む。
3. 暗褐色土。多くのYFaと少量のローム小ブロックを含む。
4. 暗褐色土。少量のローム粒とローム小ブロックを含む。
5. 灰白色土。YFaを主とした層。
6. 暗褐色土。灰色土を少量含む。
7. 暗褐色土。灰色土を多く含む。
8. 黒褐色土。少量のローム粒とYFaを含む。
9. 黄褐色土。多くのローム粒とロームブロックを含む。

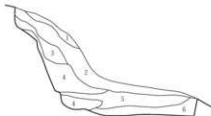
0 1:60 2m

第114図 第1区画土坑(2)

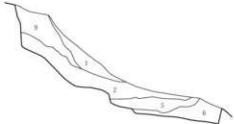
1-21 ~ 23号土坑



A 1-612.60m



B 1-612.60m



1-28号土坑



A 1-614.60m



B 1-614.60m



1-24号土坑



A 1-612.60m



1-25号土坑



A 1-613.00m



1-27号土坑



A 1-613.50m



1-29号土坑



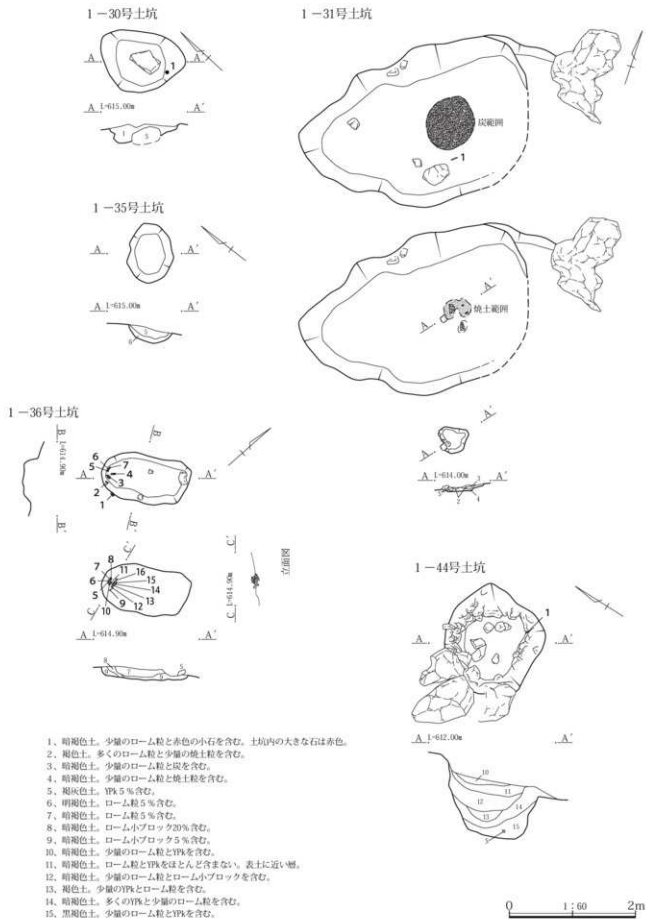
A 1-615.50m



1. 暗褐色土。少量のローム粒とYPKを含む。
2. 暗褐色土。少量のローム粒とローム小ブロックを含む。
3. 褐色土。多くのローム粒を含む。
4. 灰白色土。YPKを主とした層。
5. 灰褐色土。多くのYPKを含む。
6. 黒褐色土。少量のローム粒とYPKを含む。
7. 黄褐色土。多くのローム粒とロームブロックを含む。
8. 暗褐色土。灰色土を多く含む。
9. 暗褐色土。ローム粒とYPKをほとんど含まない。表土に近い。
10. 暗褐色土。多くのYPKと少量のロームローム小ブロックを含む。
11. 褐色土。少量のYPKとローム粒を含む。
12. 暗赤褐色土。赤色の礫を少量含む。
13. 暗赤褐色土。赤色の礫を多く含む。

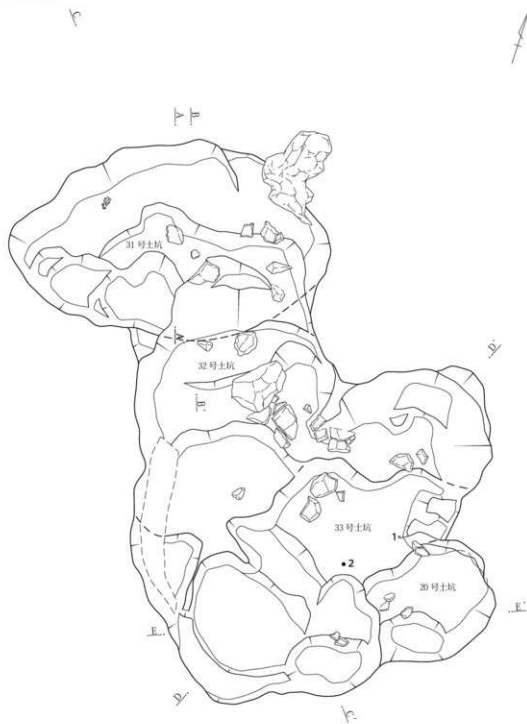
0 1:60 2m

第115図 第1区画土坑(3)



第116図 第1区画土坑(4)

I-31 ~ 33号土坑



A-J-614.80m

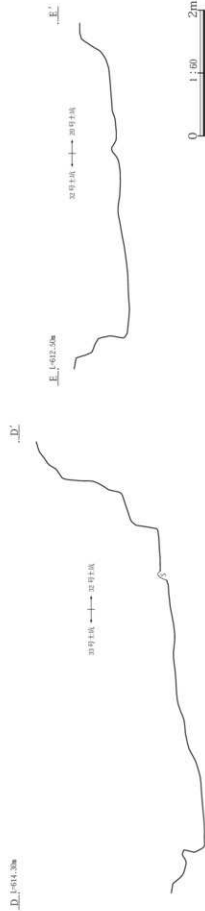
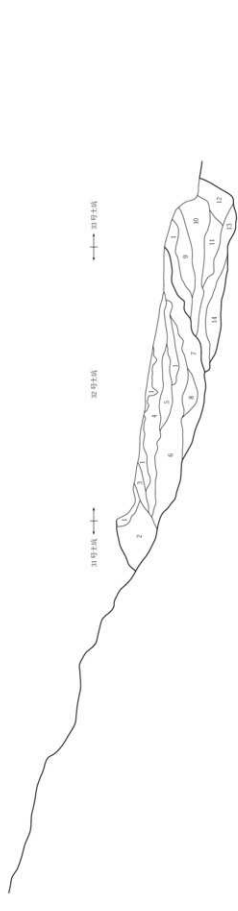
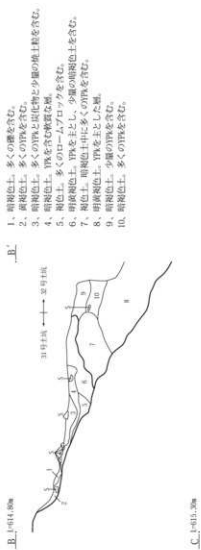


1. 褐色土。植物の根等を含む攪乱されている層。
2. 褐色土。多くのローム粒とロームブロックを含む。
3. 暗褐色土。少量のローム粒を含む軟質な層。
4. 暗褐色土。多くの炭と礫を含む。
5. 暗褐色土。全体に焼土を混を含む。
6. 褐色土。ロームを主とした層。
7. 明赤褐色土。焼土を中心とした層。
8. 明黄褐色土。TPKを主とした層。

0 1:60 2m

第117図 第1区画土坑(5)

1. 明礪色土、多くの珪石を含む。
2. 明礪色土、多くの珪石と少量のロームを含む。
3. 明礪色土、珪石を主とした層。
4. 明礪色土、珪石を主とした層、3層より薄い。
5. 明礪色土、珪石を主とした層、3層より薄い。
6. 明礪色土、珪石を主とした層、5層に薄いが0層より多くのロームと珪石を含む。
7. 明礪色土、珪石を主とした層、0層に薄い。
8. 明礪色土、珪石を主とした層、0層に薄い。
9. 明礪色土、珪石を主とした層、0層に薄い。
10. 明礪色土、珪石を主とした層、0層に薄い。
11. 明礪色土、珪石を主とした層、0層に薄い。
12. 灰白色、ロームを主とした層、珪石ほとんど含まない。
13. 明礪色土、ロームを主とし、少量の珪石を含む。
14. 明礪色土、珪石を主とし、少量の明礪色土を含む。



第118図 第1区面土坑(6)



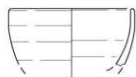
1. 暗褐色土。ローム粒と1%をほとんど含まない。表土に近い。
2. 暗褐色土。少量のローム粒を含む。
3. 黄褐色土。多くのローム粒とロームブロックを含む。
4. 暗褐色土。灰色土少量を含む。

0 1:60 2m

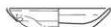
第119図 第1区画土坑(7)



1号土坑1



3号土坑1



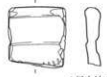
4号土坑1



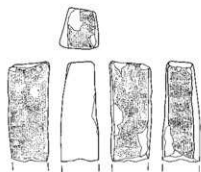
4号土坑3



10号土坑1 (1/2)



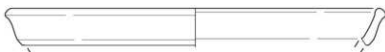
4号土坑2



11号土坑1



16号土坑1



27号土坑1



30号土坑1



32号土坑1



33号土坑1



33号土坑2 (1/2)



44号土坑1 (1/2)



31号土坑1 (1/2)

0 1:2 5cm
0 1:3 10cm

第120図 第1区画土坑出土遺物

表8 第1区画土坑一覧表

調査年度 (平成)	土坑 番号	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	方位	位置(グリッド)	形態	時代	遺物	備考
19	1	(2.18)	2.10	0.78	N-13°-W	54-V-4	不定形	江戸	すり鉢	土取穴
19	2	1.65	1.45	0.68	N-19°-E	54-W-2	不定形	江戸以降		土取穴
19	3	1.45	1.08	0.48~0.77	N-23°-E	54-W-1・2	不定形	江戸	腕	土取穴
19	4	0.68	0.62	0.37	N-63°-E	54-V-3	円形	江戸	石明皿・すり鉢	粘土貼り
19	5	0.89	0.70	0.30	N-4°-W	54-V-3	不定形	近世以降		粘土貼り
19	6	0.83	0.74	0.26	N-89°-W	54-W-3	楕円形	近世以降		粘土貼り
19	7	1.56	1.26	0.29	N-5°-E	54-V-3	不定形	近世以降		粘土貼り
19	8	0.70	0.40	0.22	N-80°-E	54-V-3	不定形	近世以降		粘土貼り
19	9	0.78	(0.35)	0.12	N-66°-W	54-V-3	—	近世以降		粘土貼り
19	10	1.13	0.60	0.25	N-4°-W	54-V-4	長円形	近世以降	曹石・鉄	長方形
19	11	1.80	0.86	0.44	N-5°-E	54-V-2	不定形	近世以降	砥石	土取穴
19	12	1.23	0.57	0.33	N-9°-E	54-V・W-3	長円形	近世以降		土取穴
19	13	2.33	1.58	0.74	N-26°-W	54-V-2	不定形	近世以降	曹石	土取穴
19	14	2.70	1.52	0.75	N-28°-W	54-V-1・2	不定形	近世以降		土取穴
19	15	1.65	1.10	0.80	N-10°-E	54-W-2	不定形	近世以降		土取穴
19	16	1.15	(0.50)	0.77	N-73°-W	54-V-2	—	江戸	すり鉢	土取穴
19	17	1.18	0.85	0.40	N-5°-E	54-V-2	—	近世以降		土取穴
19	18	1.75	1.20	0.20~0.59	N-77°-W	54-W-3・4	不定形	近世以降		土取穴
19	19	2.55	2.15	0.20~0.42	N-70°-W	54-X-1・2	不定形	—		土取穴
19	20	1.72	1.27	0.47	N-39°-E	44-Y-25	不定形	—		土取穴
19	21	—	—	0.42~1.20	—	45-A・B-24	—	近現代	—	土取穴
19	22	—	—	0.35~0.70	—	45-A-24	—	—	—	1くくり
19	23	1.74	(1.40)	0.27	—	45-A-24	—	—	—	—
19	24	1.23	1.03	0.08	N-34°-E	44-Y-25	楕円形	—		桶か
19	25	0.72	0.55	0.17~0.82	N-46°-E	44-Y-25	不定形	—		土取穴
19	27	—	—	0.36~0.57	—	54-W-4	—	江戸	すり鉢	土取穴
20	28	2.42	0.55	0.48~0.54	N-5°-W	45-B-25 55-B-1	長方形	—		へこみ
20	29	1.03	0.78	0.33	N-6°-E	55-B-2	楕円形	江戸		へこみ
20	30	1.29	0.96	0.28	N-42°-W	54-X-3	不定形	江戸	打輪貝	へこみ
20	31	5.10	3.00	0.38	N-71°-E	55-A・B-1	不定形	江戸以降	釘	繋穴状
20	32	—	—	0.72~0.85	—	55-A-1	不定形	—	腕	土取穴
20	33	—	—	0.56~1.05	—	45-A-25	不定形	近代	腕・銅製品	土取穴
20	35	0.93	0.74	0.22	N-43°-E	54-X-3	不定形	中世		
20	36	1.40	0.78	0.18	N-40°-E	54-W・X-3	長円形	中世	馬歯	
20	44	1.75	1.58	0.85	N-58°-E	44-W-25 54-W-1	—	不明	骨管	大形
20	45	0.77	0.55	0.20	N-89°-E	54-V-4	不定形	江戸		3Pから変更
20	46	0.52	0.43	0.13	N-2°-E	54-V-3	楕円形	近世以降		9Pから変更

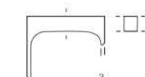
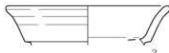
石垣

1号石垣 (第122・123図: PL.20)

位置 第1区画東斜面に築かれている。54区W-3・4グリッドに位置する。**重複** 石垣の下には3個の土取穴がある。土取穴をYpkが多く含む土で埋めた後、土取穴の底部から60cmほど高い位置に石垣が築かれている。**形状** 石垣は現状で2段まで確認出来る南北コーナー部分には大きな石が使われていた。**規模** 南北方向で7m高さは20cm前後で南側の大きな石の高さは70cmと大きい。**方位** N-12°-W。**出土遺物**

近世肥前系染付皿と美濃陶器皿と石製品の礎出土。

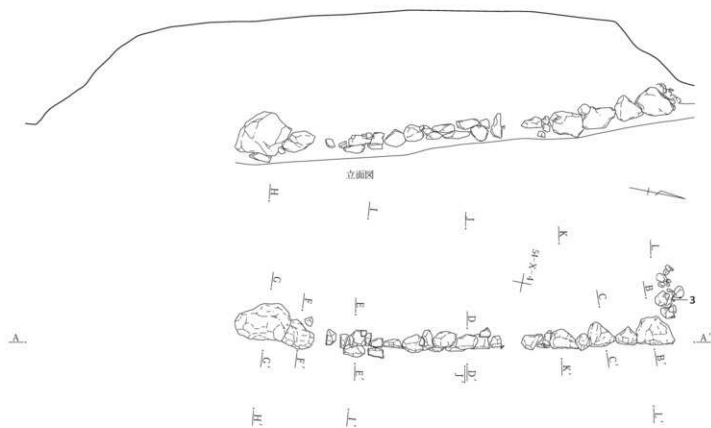
時期 掘り方から出土した美濃窯系反皿が、19世紀3・4四半期以降であり、3号石垣より新しいことが推定できる。**所見** 林城の中心部第1区画の東側に築かれた石垣である。石垣の下から大きな土取穴が3カ所掘られており、Ypk下のロームが掘られていた。土取穴を埋めた段階で石垣が築かれている。これらの土取穴は第2区画にも多く掘られている土取穴と共通するものと思われる。



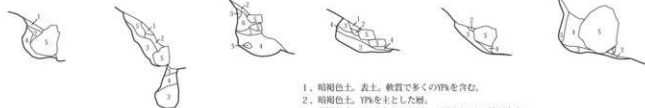
第121図 1号石垣出土遺物

A 1-615.0m

A'



B 1-614.70m B' C 1-614.70m C' D 1-614.00m D' E 1-614.00m E' F 1-614.00m F' G 1-614.00m G'



- 1、暗褐色土、表土、軟質で多くのYPKを含む。
- 2、暗褐色土、YPKを主とした層。
- 3、暗褐色土、YPKを主とした層、1層よりYPKの粒が大きい。
- 4、暗褐色土、YPK20%含む。
- 5、暗褐色土、多くのYPKを含む。
- 6、暗褐色土、多くのYPKを含む軟質な層。

H 1-615.00m

H'

I 1-615.00m

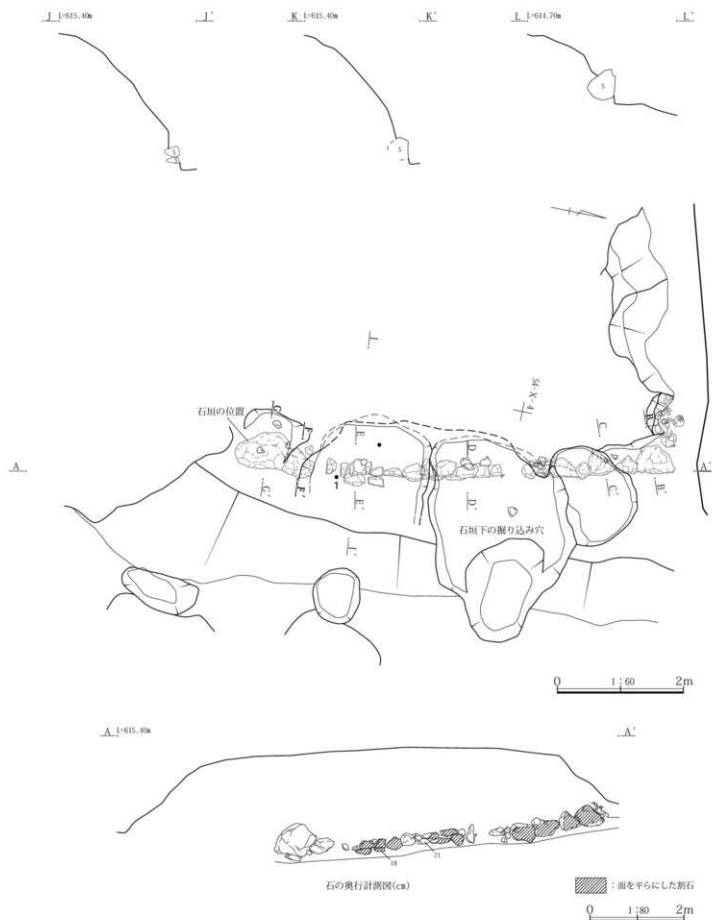
I'



0 1:60 2m

第122図 1号石垣(1)

第3章 林中原1遺跡

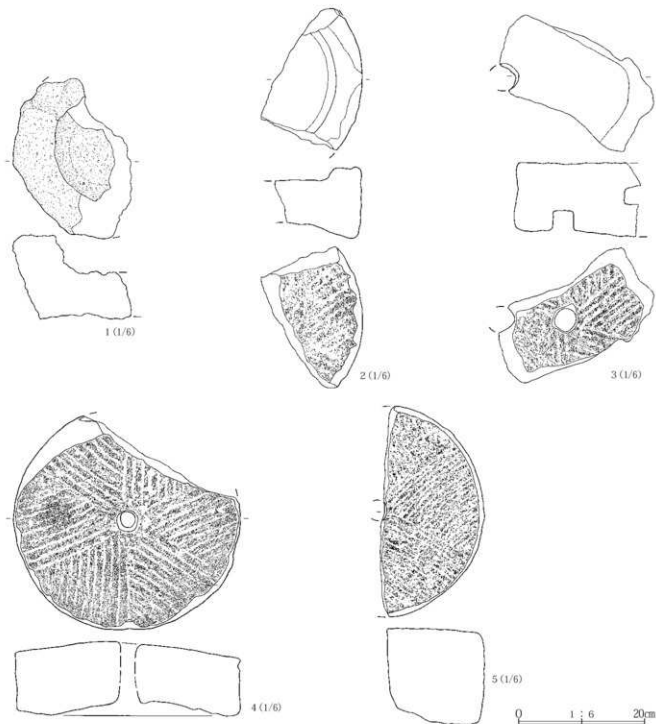


第123図 1号石垣(2)

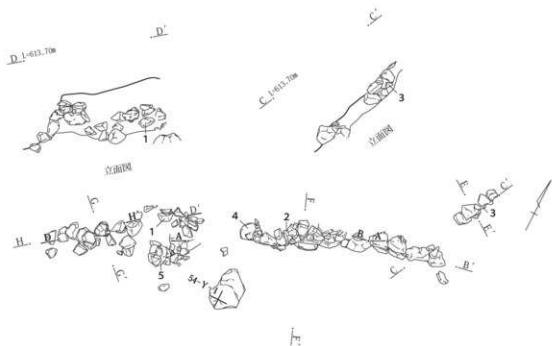
5号石垣 (第125図: PL. 20・21)

位置 第1区画南斜面に築かれている。54区X-1グリッドに位置する。**重複** 石垣の下には4個の掘り込み穴がある。**形状** 石垣は現状で5~6段まで確認出来る。**規模** 東西方向で6.1m高さは60cm前後である。**出土遺物** 割れている上下の石臼4個と石製の鉢が出土。**時期** 出土遺物から時期は特定できないが、1号石垣と同じ時期の江戸時代中期以降につく

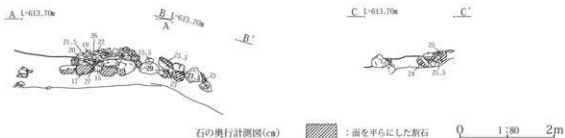
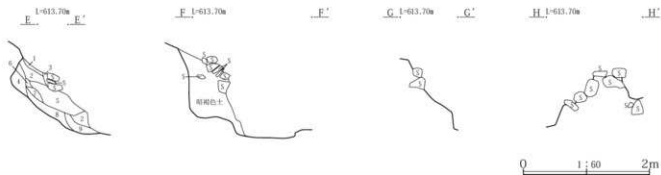
られたものと考えられる。**所見** 石垣の下には4個の掘り込み穴がある。1号石垣と同じように露頭を横方向に掘った深い掘込である。掘り込み穴を暗褐色土が中心とした土で埋めた跡、掘り込み穴の底部から70cmほど高い位置に石垣が築かれている。石垣の下となる掘り込み穴の土を入れ替えて地盤を叩き締めるような状態は確認出来なかった。また石垣の裏込はなかった。土留めとして造られたものと思われる。



第124図 5号石垣出土遺物



1. 暗褐色土。表土。植物の多くを含む。
2. 暗褐色土。ローム粒やYfKをほとんど含まない。
3. 暗褐色土。ローム粒やYfKをほとんど含まない軟質な層。
4. 暗褐色土。多くのローム粒を含む。
5. 暗褐色土。少量のローム粒とロームブロックを含む。
6. 暗褐色土。少量のローム粒を含む。
7. 明褐色土。ロームを主とした層。
8. 灰白色軽石土。YfKを主とした層。
9. 暗褐色土。多くのYfKを含む。



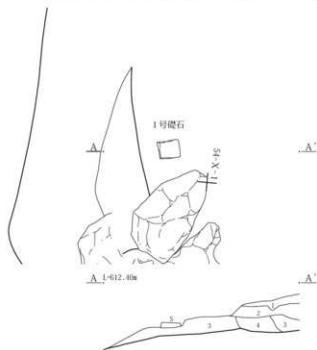
第125図 5号石垣

礎石

第1区画1号礎石 (第126図: PL.21)

位置 第1区画南部に位置し、44区X-25グリッドに位置する。重複 スロープ(第1区画南側傾斜面)。

形状 平らで長方形の石が1石のみ残存。規模



第126図 第1区画1号礎石

スロープ

スロープ(第1区画南側傾斜面) (第127～129図: PL.21)

位置 第1区画高台部南側に細長く東西方向平坦面で、44区V-Y-25、45区A・B-25、54区V-Y-1、55区A・B-1グリッドに位置する。重複 1号礎石、5号石垣、第1区画20・24・25・32・33・44号土坑。

規模 明瞭な範囲は明らかでない、ここでは東西方向の東側を1・2号堀と土橋・2号石垣の西端とし、西側を第1区画削平面までとした。南北方向は、土橋の幅から5号石垣南側の平坦面、さらに第1区画削平面までの傾斜面とした。東西方向23m、南北方向は5号石垣付近で2.2m、第1区画20・32・33号土坑と重複する西側で6mである。出土遺物 美濃連房5期以降、17世紀以降の陶器碗、肥前系の18世紀後半から19世紀以降の染付碗や磁器の瓶及び鉄製の鉄や煙管等出土。時期 江戸時代17世紀以降と思われる。所見 6段階の変遷が考えられる。

石の大きさ長軸0.22m・短軸0.18m・厚さ0.06m。

出土遺物 なし。時期 林城に伴う建物の礎石であることは、確認できない。時期不明。所見 北側には5号石垣が始まる地点にある。第1区画の入り口に伴う施設の基礎と考えられる。



- 1、暗褐色土。Yp&とローム粒5%含む。
- 2、暗褐色土。Yp&5%とローム小ブロック20%含む。
- 3、暗褐色土。Yp&とローム小ブロック10%含む。
- 4、褐色土。Yp&5%とローム粒20%含む。

第0段階

土橋から西へ第1区画の上面へ上る通路があったと推測される。その後、壊されてしまったので、状況証拠からの推測に過ぎない。この斜面は時期が異なり何度も掘られているので、最初の状態は推測するしかない。

第1段階

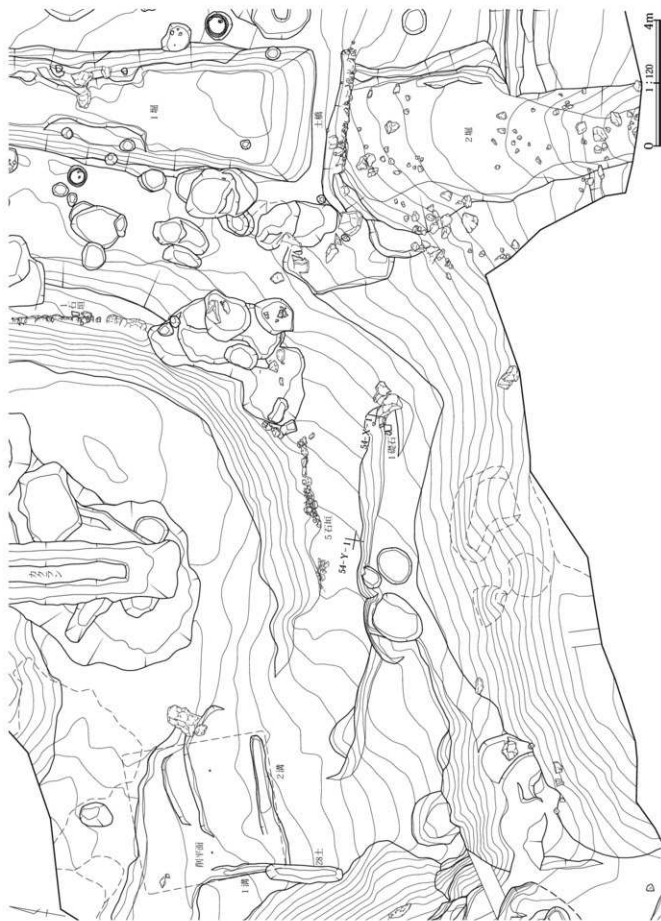
建設された当初は、土橋を渡って距離6mほど傾斜面を西に登り、5号石垣南の平坦面に繋がっていたと思われる。平坦面の幅は約2.4mある。おそらく土橋や5号石垣と同じ時期に造られたものであろう。

第2段階

5号石垣の東端付近から西側に向かい次第に盛土を開始し、7mほど西にある石垣の西端部分で1m前後盛土し第1区画高台部に繋がる通路を作成する。

第3段階

5号石垣前から第1区画20・32・33号土坑群までの土

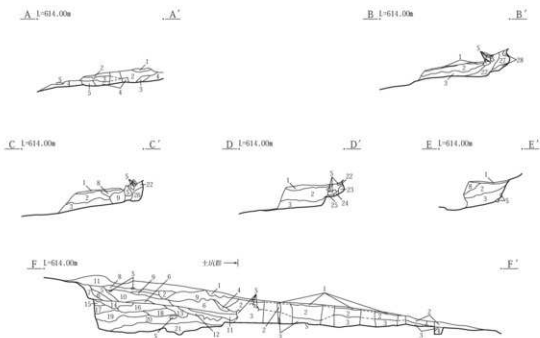


第127図 スロープ(1)

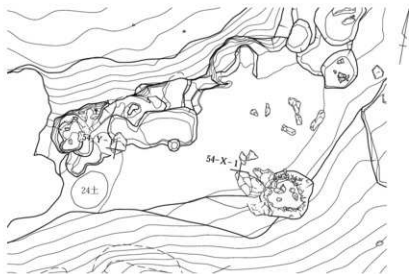


第128図 スロープ(2)

第3章 林中原1遺跡



- | | |
|---|--|
| <p>1. 暗褐色土。Ykとローム粒10%含む。
 2. 暗褐色土。Ykとローム粒5%含む。
 3. 暗褐色土。Yk5%とローム小ブロック20%含む。
 4. 暗褐色土。Ykとローム小ブロック10%含む。
 5. 褐色土。Yk5%とローム粒20%含む。
 6. 褐色土。Yk10%とローム小ブロック20%含む。
 7. 褐色土。ロームブロックを主とし、Yk5%含む。
 8. 灰白色土。Ykを主とし、暗褐色土5%含む。
 9. 暗褐色土。Yk10%含む。
 10. 灰白色土。Ykを主とし、暗褐色土10%含む。
 11. 暗褐色土。Yk5%含む。
 12. 暗褐色土。Yk15%含む。
 13. 褐色土。Ykと黄褐色軽石粒を含む。
 14. 黒褐色土。少量のローム粒を含む。</p> | <p>15. 黄褐色土。Yk20%含む。
 16. 明黄褐色土。Yk20%含む硬質な層。
 17. 褐色土。Ykを含む。
 18. 褐色土。Ykを含む軟質な層。
 19. 明黄褐色土。Yk20%含む。
 20. 黄褐色土。多くのロームブロックを含む。
 21. 黄褐色土。多くのローム粒とロームブロックを含む。
 22. 暗褐色土。表土。
 23. 暗褐色土。ローム粒10%含む。
 24. 暗褐色土。ローム粒40%含む。
 25. 褐色土。ローム小ブロック20%含む硬質な層。
 26. 暗褐色土。ローム大ブロック5%含む。層による崩壊あり。
 27. 灰白色土。Ykを主とした層。</p> |
|---|--|



第129図 スロープ(3)

層観察によると、5号石垣前で西側に向かい次第に厚く堆積しながら、ほぼ水平堆積で盛土されていた土層が、土坑群が掘られた場所ですべて水平堆積がなくなり、土坑の覆土となっている。土層の覆土は、上下で2段階に分かれているので、一度埋めて平らにした後でさらに盛土して削平面に繋がる通路を復元しているようである。第1区画高台部1に繋がる通路を作成後、何らかの事情で、石垣の西端を含む部分から北西方向に第1区画20・32・33号土坑群が掘られた。その土坑により5号石垣西端の一部がこわされた。

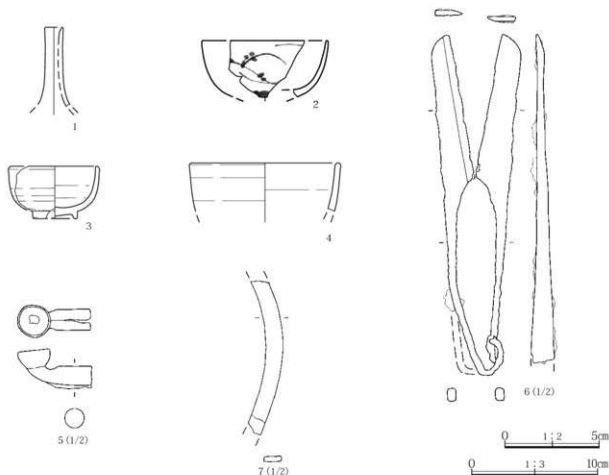
第4段階(土坑を埋めて第1区画高台部へ通じる通路が使えるようになる。しかし通路として使用されたかは不明。)

第1区画20・32・33号土坑群は、まとまって大きな群となっており、西側にある土取穴と形状が似ており、同じようにロームを採取したものと思われる。埋没土中にYPkが多く混じり、かなり土を動かしている。

また第1区画31号土坑では、底面に多くの炭化物がありその上に石がならべられていた。たき火のような痕跡で、中央の礫は埋める際に、投げ込んだものと思われる。これも土取穴の底面で行ったと思われる。これらの土坑群はやがて埋められた。

第5段階(埋められた土坑群の上が第1区画削平面となる。)

第1区画20・32・33号土坑群が埋められ、第1区画高台部に通じる通路が使えるようになる。土坑群の北西端部は、第1区画の最も高い場所となっている。最も高い部分の一部を削平し、埋められた土坑群の一部に盛土し、第1区画削平面が造られる。第1区画削平面に建物等が建っていた痕跡を確認出来なかったが、地元ではここに社があったと言い伝えが残っている。この第1区画削平面に通じる通路とした、スロープが使われたものと思われる。



第130図 スロープ出土遺物

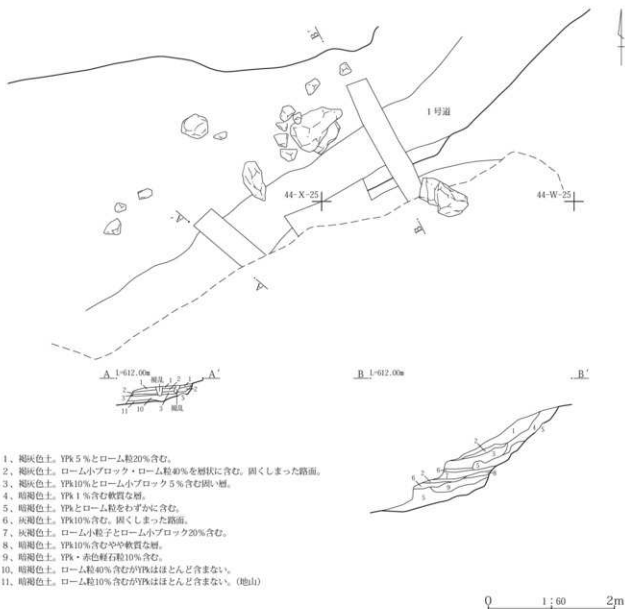
道

1号道 (第131図: PL.21)

位置 第1区画南傾斜面で、44区W・X-24・25グリッドに位置する。**重複** なし。**規模** 傾斜面にあり、確認出来る範囲で東西南方向7.5m、東端と西端との高低差は1.7m、道幅は0.9～1.1mである。**出土遺物** なし。**時期** 中近世以降。**所見** 土層断面を観察すると地山の暗褐色土を中心とした覆土中に厚さ5～6cm、幅70cm前後でロームやYPKを多く含み、固く踏み固められた道路面を確認することが出来た。土層

断面観察から使われた道路幅や道路位置は時期により少しずつ変わることがわかる。道路として整備し長い期間使われていたことを示している。

最近の地図上に第2区画中央部から、段丘下にある中近世の下田遺跡等に通じる道路を確認することが出来る。その地図に第1区画東側の1号石垣下に南北方向の道路は記録されているが、第1区画1号道は記録されていない。何らかの理由で第1区画1号道は現在記録されていないが、下田遺跡等に通じる道路として使われていた可能性をここでは指摘しておきたい。



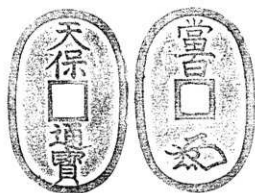
第131図 1号道

削平面

削平面 (第133図: PL.21)

位置 第1区画高台部東側で、55区A・B-1・2グリッドに位置する。**重複** 第1区画20・32・33号土坑群と重複する。**規模** 北側半分は、高台部を削って造られているので範囲を想定できるが、南側は低くなっており、土坑の埋没土により平面を造成し、その後削られているので範囲は不明である。東西規模と同じ距離を南北方向で想定した。東西南北方向4.5mの方形の範囲を想定。北側を削平した段差は0.22mである。**出土遺物** 天保通宝(初鑄1835年)の他に近現代の盃が出土している。**時期** 江戸時代19世紀以降。**所見** 第1区画20・32・33号土坑群を埋めた後に平らにしている。第1区画20・32・33号土坑群は、5号石垣を埋めて作られたスロープより新しい。新旧関係では5号石垣→スロープ→第1区画20・32・33号土坑→第1区画削平面となっており最も新しい。出土した天保通宝(初鑄1835年)に近い19世紀以降の時期と考えられる。削平面を造

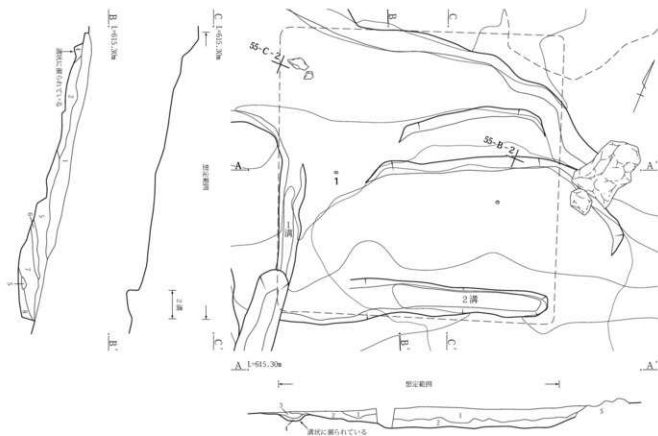
るにあたり北側を削り、浅い溝が掘られていたことが土層断面図から明らかである。



1(1/1)



第132図 削平面出土遺物



1. 暗褐色土。植物の根を多く含む軟質な層。YpK 5%含む。
2. 暗褐色土。ロームブロック10%をモザイク状に含む。
3. 暗褐色土。ロームブロック20%含む。
4. 黄褐色土。ローム粒とロームブロックを多く含む。

5. 暗褐色土。YpK 5%を含む。
6. 暗褐色土。YpK+ロームブロックの混入層。(盛土)
7. 黒褐色土。YpK 5%を含む軟質な層。(2号溝埋土)
8. 灰白色土。YpK層。(地山)



第133図 削平面

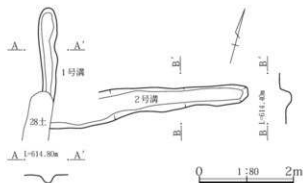
溝

第1区画1号溝 (第134図: PL.21)

位置 第1区画中央部西側、55区B-1グリッドに位置する。東側で2号溝と近接する。**重複** 南側で28号土坑と重複している。**形状** 直線的に掘られている。**規模** 長さは1.9mまで確認出来るが、南側で28号土坑と重複し、溝は不明となる。幅は0.28m×0.35m、深さは0.08～0.10m。**方位** N-17°-E。**出土遺物** なし。**時期・所見** 出土遺物はなく特定できない。周辺の遺構との関連で中近世段階に造られたものと思われる。

第1区画2号溝 (第134図)

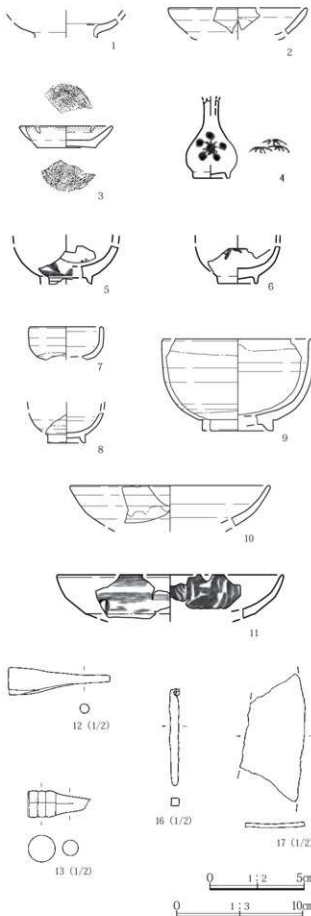
位置 第1区画中央部西側、55区A・B-1グリッドに位置する。西側で1号溝と近接する。**重複** 西側で28号土坑と重複している。**形状** 直線的に掘られている。**規模** 長さは4.25mまで確認出来るが、西側で28号土坑と重複し、溝は不明となる。幅は0.4m×0.64m、深さは0.03～0.06m。**方位** N-68°-E。**出土遺物** なし。**時期・所見** 出土遺物はなく特定できない。周辺の遺構との関連で中近世段階に造られたものと思われる。



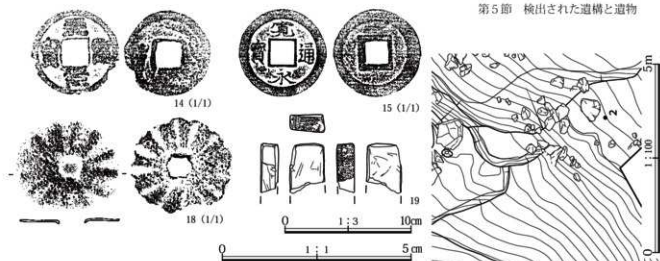
第134図 第1区画1・2号溝

遺構外出土遺物 (第137図)

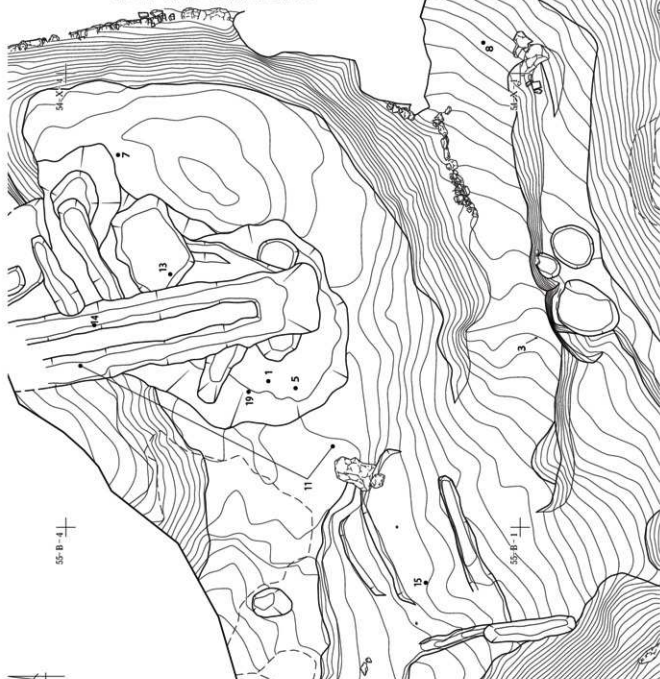
特定の遺構に伴わない遺物が第1区画から19個出土した。出土遺物は陶磁器11点、煙管2点、鉄釘1点、用途不明の鉄1点、銭として宋銭と新寛永通宝各1枚である。時期のわかる遺物として、陶磁器と銭がある。陶磁器は、中世15世紀代の中国製青磁碗、15世紀前後の古瀬戸陶器皿、在地産の皿がある。近世の遺物は、18世紀前後肥前系の染付碗と美濃の碗がある。銭は11世紀代の中国宋銭と新寛永通宝である。



第135図 第1区画遺構外出土遺物(1)



第136図 第1区面遺構外出土遺物(2)

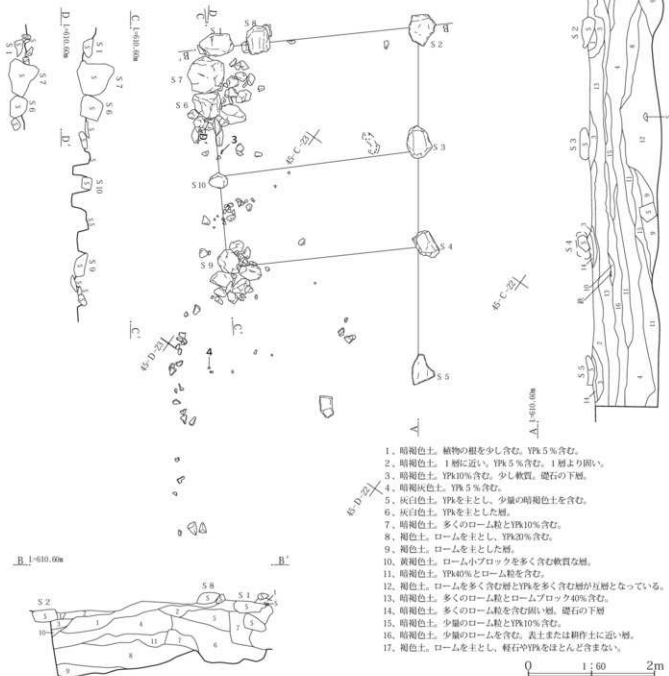


第137図 第1区面遺構外出土遺物平面図

第2区画

第2区画は、城の中心部と思われる第1区画の西側に位置し、西側は急峻な崖となっている段丘面先端部に位置している。城内と思われる区画である。調査を進めた結果、調査区ほぼ全域が土取穴として掘られており、林城に関する遺構は確認出来なかった。遺構面は土取穴が埋められた後に造られた第1面と土取穴の第2面に分かれる。第1面では、南端部分で1号礎石建物1棟、墓坑2基、土坑3基、焼土6基が検出された。第2面は、調査区北に張りだした調査区部分から、南側の調査区端ま

でほぼ全域が大規模な土取穴となっていた。第2面の土取穴の調査を進めると、南側で5頭の馬が土取穴を利用して埋められていたことが明らかとなった。2基の墓坑と5頭の馬については第3章第5節第2項3その他の中で、また分析結果は第6節第1項・第2項の中で報告した。



第138図 第2区画1号礎石建物



第139図 第2区画1号礎石建物及び1号景石

礎石建物(景石)

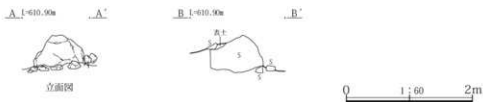
第2区画1号礎石建物及び1号景石 (第138～140図: PL.22)

位置 第2区画南東端部に近い、45区B・C-22・23グリッドに位置する。**重複** 多くの第2区画土取穴と第2区画1～6号馬。**規模** 1×3間の東西棟。

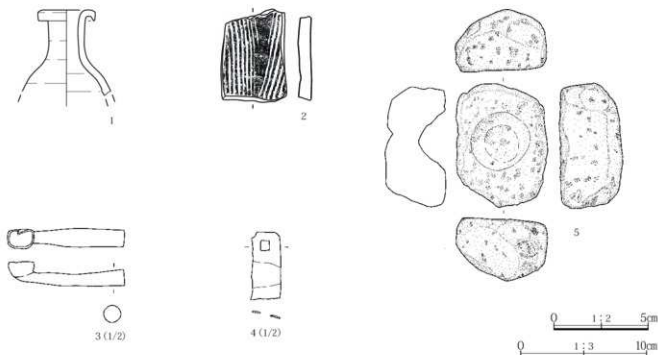
規模 桁行き5.5m、礎石の大きさ、幅0.45～0.5m、礎石の厚さ0.05～0.1m。礎石間の距離は桁行き方向で1.8～2.1mと一定していない。梁間3.2m。**方位** N-35°-E。**出土遺物** 18世紀美濃陶器徳利、16世紀瀬戸すり鉢、煙管、銅製品、石鉢出土。**時期** 出土遺物や第2区画1～6号馬より新しい遺構であることより、近世以降と思われる。**所見** 北側に高さや大きさが一定しない石が多くあるが、その中S9・S10・S1の石は高さが一定な扁平な礎石となっている。

第2区画1号礎石建物の約1m下には、北側から広がる多くの土取穴が掘られていた。第2区画1号礎石とほぼ重複する場所には、土取穴を利用して埋められたであろう第2区画1～6号馬が埋められていた。これらの土取穴や第2区画1～6号馬が埋められ平らに整地された後に、第2区画1号礎石建物建てられたものと思われる。

1m前後埋められた土を観察すると、ロームを中心とした層であるが、通常の層位と異なり、土層の一部に厚くYPkがまとまっているもの、またロームを多く含む層の中間に当時の表土や耕作土であったと思われる暗褐色土の層があり、人為的に埋められていることを示している。西端部に大きな石が置かれていた。1号景石と称し報告する。



第140図 第2区画1号景石



第141図 第2区画1号礎石建物出土遺物

焼土

第2区画1号焼土 (第142図：PL.22)

位置 第2区画南端部分で、45区C-22グリッドに位置する。周辺に6基の焼土遺構が集中している。 **重複** なし。 **形状** 楕円形。 **規模** 長軸0.43m、短軸0.35m。深さ0.06mと浅い。 **出土遺物** 6基の焼土遺構の中のどの遺構も特定できないが、18世紀から19世紀前半の碗(柳茶碗)が出土している。 **時期** 出土遺物から18世紀以降の江戸時代と思われる。 **所見** 6基の焼土遺構が土取穴南側斜面にまともて造られている。6基は遺構の残存状態により同じではないが、最下層に炭と焼土、中層に焼土粒と焼土小ブロック、上層に炭を主とした層となっている。規模もほぼ共通しており、おそらく江戸時代の同じ頃に造られたものと思われる。焼土の厚さが6cmほどあり大量に物が燃されたことを示している。造られた目的は不明である。

第2区画2号焼土 (第142図：PL.23)

位置 第2区画南端部分で、45区D-22グリッドに位置する。周辺に6基の焼土遺構が集中している。 **重複** なし。 **形状** 楕円形。 **規模** 長軸0.56m、短軸0.36m。深さ0.09mと浅い。 **出土遺物** 6基の焼土遺構の中のどの遺構も特定できないが、18世紀から19世紀前半の碗(柳茶碗)が出土している。 **時期** 出土遺物から18世紀以降の江戸時代と思われる。 **所見** 確認面で重なるように2カ所の焼土面があった。数回にわたり燃している中で、燃焼の中心地が異なったことにより出来た違いと思われる。

第2区画3号焼土 (第142図：PL.23)

位置 第2区画南端部分で、45区C-22グリッドに位置する。周辺に6基の焼土遺構が集中している。 **重複** 第2区画3号焼土の下から1号馬が出土している。 **形状** ほぼ円形。 **規模** 長軸0.26m。深さ0.03mと浅い。 **出土遺物** 6基の焼土遺構の中のどの遺構も特定できないが、18世紀から19世紀前半の碗(柳茶碗)が出土している。 **時期** 出土遺物から18世紀以降の江戸時代と思われる。 **所見** 1・2号焼土遺構より規模が小さい。残された面には他の焼土遺構で残っていた焼土面がないので飛ばされているものと思われる。基

本的に1・2号焼土遺構と同じと思われる。

第2区画4号焼土 (第142図：PL.23)

位置 第2区画南端部分で、45区C-23グリッドに位置する。周辺に6基の焼土遺構が集中している。 **重複** なし。 **形状** 50cm前後のほぼ円形を呈する4基の浅い掘り込みが重なり合いまとまっている。 **規模** 焼土遺構範囲 長軸1.07m、短軸0.88m、深さ0.05～0.16mと浅い。 **出土遺物** 6基の焼土遺構の中のどの遺構も特定できないが、18世紀から19世紀前半の碗(柳茶碗)が出土している。 **時期** 出土遺物から18世紀以降の江戸時代と思われる。 **所見** 50cm前後のほぼ円形を呈する4基の浅い掘り込みが重なり合いまとまっているので4号焼土とした。3基の浅い掘り込みから焼土や炭が出ている。

第2区画5号焼土 (第142図：PL.23)

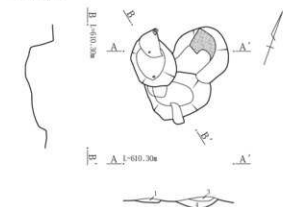
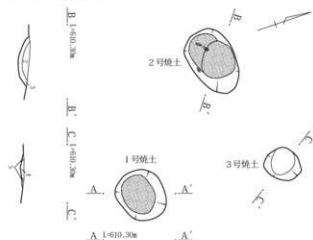
位置 第2区画南端部分で、45区B・C-22・23グリッドに位置する。周辺に6基の焼土遺構が集中している。 **重複** なし。 **形状** 50cm前後のほぼ円形を呈する3基の浅い掘り込みが重なり合いまとまっている。 **規模** 焼土遺構範囲 長軸0.94m、短軸0.86m、深さ0.06～0.14mと浅い。 **出土遺物** 6基の焼土遺構の中のどの遺構も特定できないが、18世紀から19世紀前半の碗(柳茶碗)が出土している。 **時期** 出土遺物から18世紀以降の江戸時代と思われる。 **所見** 50cm前後のほぼ円形を呈する3基の浅い掘り込みが重なり合いまとまっているので5号焼土とした。3基の浅い掘り込みから焼土や炭が出ている。表面全体に多くの炭が残っているが、まとまった焼土の固まりは残っていなかった。

第2区画6号焼土 (第142図: PL.23)

位置 第2区画南端部分で、45区D-22グリッドに位置する。周辺に6基の焼土遺構が集中している。**重複** なし。**形状** 50cm前後のほぼ円形を呈する3基の浅い掘り込みが重なり合いまとまっている。**規模** 焼土遺構範囲 長軸0.76m、短軸0.68m、深さ0.11~0.22mと浅い。**出土物** 6基の焼土遺構の中のと2-1~3号焼土

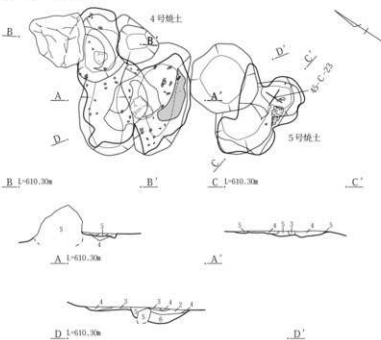
の遺構が特定できないが、18世紀から19世紀前半の碗(柳茶碗)が出土している。**時期** 出土遺物から18世紀以降の江戸時代と思われる。**所見** 50cm前後のほぼ円形を呈する3基の浅い掘り込みが重なり合いまとまっているので6号焼土とした。3基の浅い掘り込みから焼土や炭が出ている。表面に固まった焼土と炭が残っていた。部分的に使用後埋めたためか、残りが悪い。

2-6号焼土



1. 赤褐色土。焼土層。焼土小ブロックと焼土粒を中心とした層。
2. 赤褐色土。多くの焼土粒と少量の炭を含む。
3. 褐色土。焼土粒と炭を少量含む。
4. 黒色土。大量の炭と少量の焼土粒を含む。
5. 暗赤褐色土。多くの焼土粒と少量の炭を含む。
6. 黒褐色土。少量の炭と焼土粒を含む。

2-4・5号焼土



第142図 第2区画1~6号焼土





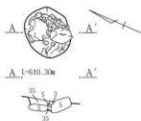
第143図 第2区画焼土出土遺物

土坑 (第144図: PL.23)

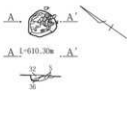
第2調査区南側で土取穴を埋めた面から近接した土坑3基が検出された。1・2号土坑からは、多くの石が出土した。遺物は出土していない。3号土坑では、土坑底

面に3個の石と全面にわたり少量の焼土と共に大量の炭が残っていた。炭を撤去した後に観察すると、壁面や底面は焼けていなかった。土坑内から永樂通宝1枚が出土している。

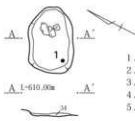
2-1号土坑



2-2号土坑



2-3号土坑



1. 暗褐色土。少量のローム粒と多くの植物の根を含む。
2. 褐色土。多くのローム粒を含む。
3. 暗褐色土。少量のローム粒とYPSと炭化物を含む。
4. 暗褐色土。ローム粒を主とし、多くの礫を含む。
5. 黒褐色土。大量の炭と少量の焼土粒を含む軟弱な層。

0 1:60 2m

第144図 第2区画土坑



第145図 第2区画土坑出土遺物

表9 第2区画土坑一覧表

調査年度 (平成)	土坑 番号	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	方位	位置(グリッド)	形態	時代	遺物	備考
19	1	0.80	0.69	0.16	N-10°-E	45-C-22・23	楕円形	江戸以降		
19	2	0.43	0.40	0.09	N-81°-W	45-C-23	円形	江戸以降		
19	3	1.05	0.68	0.11	N-59°-E	45-C-22・23	長円形	江戸	永樂銭	

土取穴

第2区画土取穴 (第146～148図: PL.24)

位置 第2区画中央部、45区B-22～24、C・D-21～25、E-21～24グリッドに位置する。重複 南側で第2区画1～6号馬が土取穴を利用したような状態で埋まっていた。また土取穴を1m前後埋めて平らになった段階で、第2区画1号礎石建物が建てられていた。

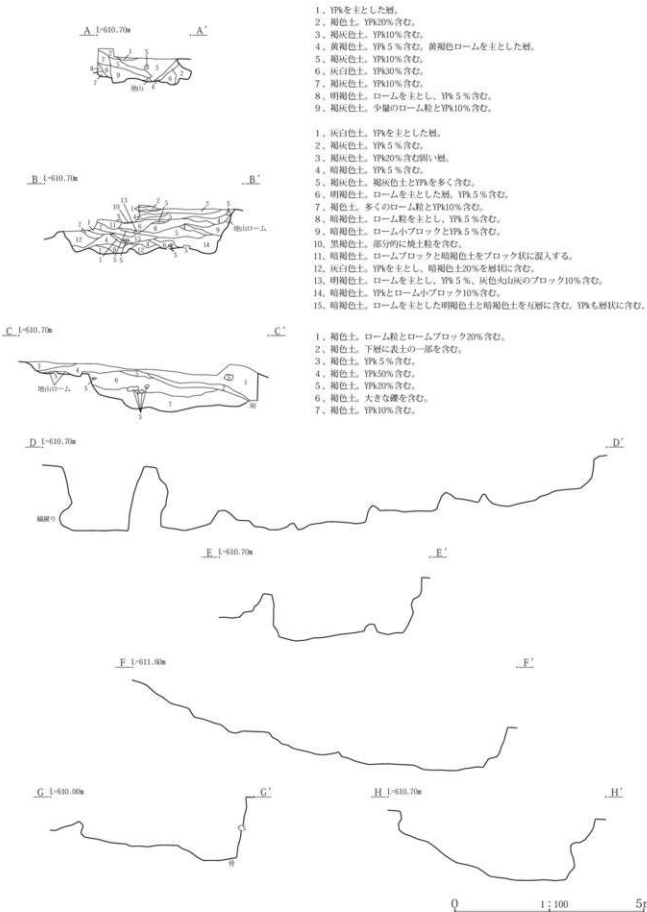
規模 第2区画中央部の大部分で連続して互いに重なり合いながら20個以上の土取穴が掘られている。全体で大きな楕円形の掘り込みとなっている。土取穴の範囲は東西方向15.5m南北方向12mである。土取穴は、お互いに重複しており、土坑の上端は重なって土坑1個体の

大きさは明瞭でない。残りの良い6号土取穴で計測すると1個の土坑の大きさは、直径1.8mで、深さは1.8mである。おそらくこの大きさの土取穴が重なり合いながら連続して掘られたものと思われる。出土遺物 寛永通宝、陶器の片口・碗・すり鉢、砥石、煙管等出土。

時期 出土遺物から江戸時代と思われる。所見 6号土取穴の掘断断面を観察すると、確認面から深さ1.2mから1.6mの0.4m幅の深さの部分で横方向にロームが掘り込まれている。おそらくこの幅0.4m範囲に存在する軽石を含む量の少ないロームを取ることを目的に連続して土坑状に掘られた穴ではないだろうか。



第146図 第2区面土取穴(1)

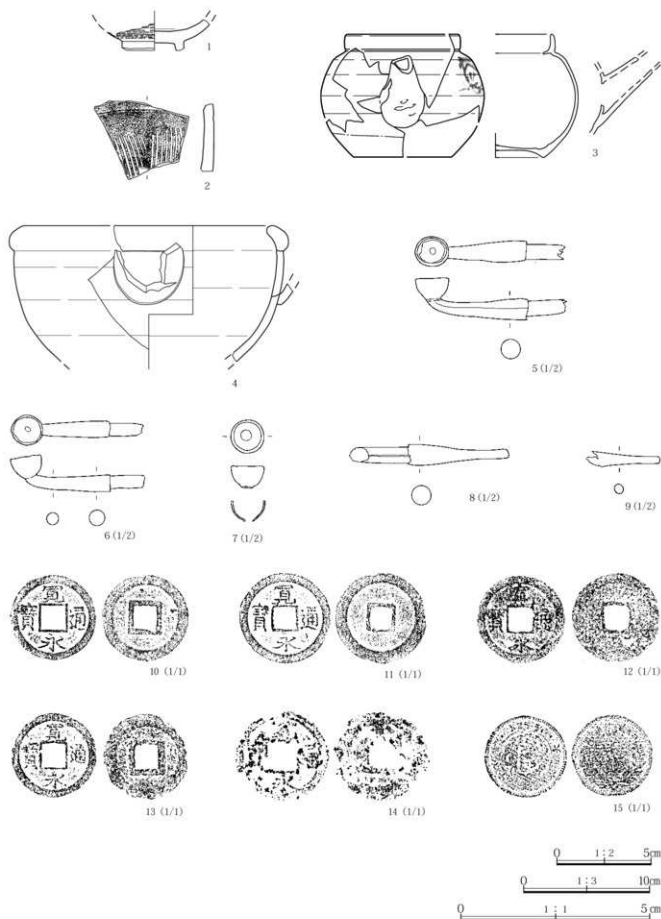


1. YPKを主とした層。
 2. 褐色土。YPK20%含む。
 3. 褐灰色土。YPK10%含む。
 4. 黄褐色土。YPK5%含む。黄褐色ロームを主とした層。
 5. 褐灰色土。YPK10%含む。
 6. 灰白色土。YPK10%含む。
 7. 褐灰色土。YPK10%含む。
 8. 明褐色土。ロームを主とし、YPK5%含む。
 9. 褐灰色土。少量のローム粒とYPK10%含む。
1. 灰白色土。YPKを主とした層。
 2. 褐灰色土。YPK5%含む。
 3. 褐灰色土。YPK20%含む(固い層)。
 4. 暗褐色土。YPK5%含む。
 5. 褐灰色土。褐灰色土とYPKを多く含む。
 6. 明褐色土。ロームを主とした層。YPK5%含む。
 7. 褐色土。多くのローム粒とYPK10%含む。
 8. 暗褐色土。ローム粒を主とし、YPK5%含む。
 9. 暗褐色土。ローム小ブロックとYPK5%含む。
 10. 黒褐色土。部分的に焼土粒を含む。
 11. 暗褐色土。ロームブロックと暗褐色土をブロック状に混入する。
 12. 灰白色土。YPKを主とし、暗褐色土20%を層状に含む。
 13. 明褐色土。ロームを主とし、YPK5%、灰色火山灰のブロック10%含む。
 14. 暗褐色土。YPKとローム小ブロック10%含む。
 15. 暗褐色土。ロームを主とした明褐色土と暗褐色土を互層に含む。YPKも層状に含む。
1. 褐色土。ローム粒とロームブロック20%含む。
 2. 褐色土。下層に表土の一部を含む。
 3. 褐色土。YPK5%含む。
 4. 褐色土。YPK50%含む。
 5. 褐色土。YPK20%含む。
 6. 褐色土。大きな礫を含む。
 7. 褐色土。YPK10%含む。

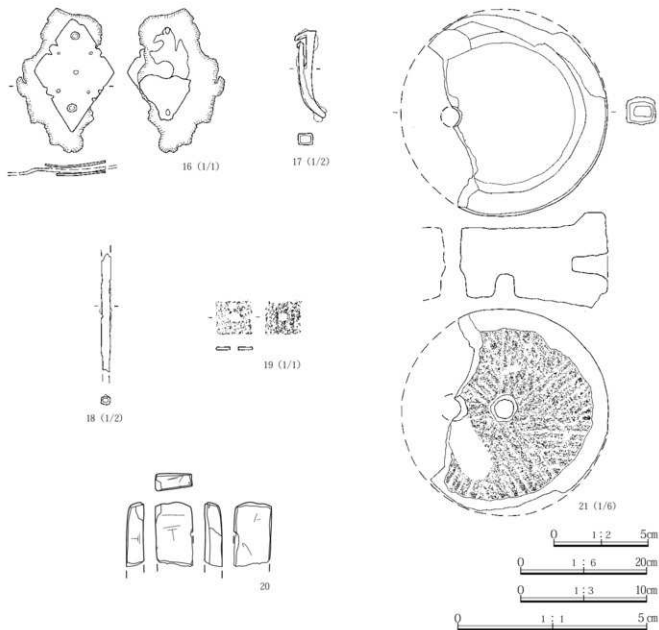
第147図 第2区面土取穴(2)



第148図 第2区面土取穴(3)



第149図 第2区画土取穴出土遺物(1)



第150図 第2区画土取穴出土遺物(2)

北側

北側 (第151・152図: PL.24)

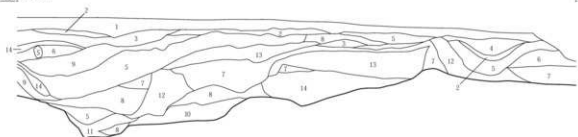
位置 調査区西端で、北側に延びている部分、45区E・F-24・25、55区F・G-1グリッドに位置する調査区である。**重複** なし。**調査範囲** 東西方向9m南北方向13m。最も標高が高い南側611.27m。**出土遺物** 鉄釘。**時期** 出土遺物や、第2区画の北側斜面を形成している部分であり、中近世と思われる。

所見 林城段階では第2区画南側を含めて平坦な郭面であったと思われる。後代に土取りによる著しい攪乱を受ける。調査区北側は土取りにより大部分掘り込まれており、底面は不整形形の落ち込みで凸凹していた。繰り返し土取りが行われている。南端は地盤が固かったためか、掘り込まれておらず、一部にYPkが見られた。ピット2基を検出した。中世段階に遡るとすれば、残っていた遺構はこのピットのみであろう。



第151図 第2区画北側(1)

A 1-612.00m



1. 暗褐色土。Yk 5%含む表土。
2. 赤褐色土。大梁泥流土主体。盛土。
3. 灰白色土。Ykを主とした層。
4. 暗灰色土。Yk 5%含む。Yk汚れている。
5. 暗灰色土。Yk 10%含む。
6. 暗褐色土。Yk 5%含む。
7. 灰白色土。Ykを主とし、ローム小ブロック20%含む。

8. 灰白色土。Ykを主とし、暗褐色土を小ブロック状に10%含む。
9. 褐色土。
10. 暗褐色土。褐色土の大ブロック20%含む。
11. 暗灰色土。Yk 5%含む。Yk 10%含む。
12. 暗灰色土。暗褐色土を含む明るい土層。
13. 暗灰色土。Yk 10%と大梁泥土の小ブロック10%含む。
14. 灰褐色土。Yk 10%含む。

B 1-612.00m



C 1-612.00m



D 1-612.00m D'

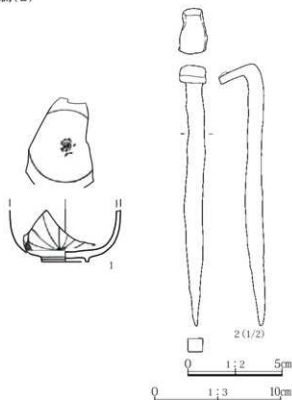


0 1:80 2m

第152図 第2区画北側(2)

遺構外出土遺物 (第151図)

特定の遺構に伴わない遺物が第2区画から2個出土した。出土遺物は18世紀後半から19世紀前半の肥前の染付碗と大きな鉄釘である。釘の頭部は細く折り曲げてある。



第153図 第2区画遺構外出土遺物

第3区画

第1区画、第4区画との間に位置する。石垣1基、掘立柱建物7棟、柱穴1列、遺物を出土したピット4基、焼土1基、土坑2基、溝6条が検出された。西側は1・2号堀で区画され、東側は3号堀により第4区画と分かれる。北辺は3号石垣が積まれ、その北側は傾斜地となり、上段は調査区域外となる。3号石垣は1号堀埋没後に積まれ、裏側から19世紀前半の美濃の陶器片が、また覆土中から16世紀後半の肥前の陶器皿が出土している。他に石臼4個と茶臼2個も出土している。

区画内の平坦な部分は、上下2段ある。上段東西方向の規模は、南東コーナー部分が一部欠けるが、北側25m南側21mと北側が広い。南北方向の規模は西側18m東側17mと西側が広い。やや台形に近い長方形を呈する。下段は狭く、上段との間に高さ0.4m前後の段差と1号溝を境として南に広がる狭い範囲である。東西方向の規模は、北側で16m、南北方向の規模は西側4mである。下段は南側にさらに広がるのが考えられ形態は不明である。地形の変化や高低差を示す遺構断面図は林城全体図の中で示した。掘立柱建物は、検討の結果、すべて江戸時代の所産となったため、近世には屋敷地であったこととなる。詳しい検討は第3章第7節第2項の中で行っている。中世段階の利用状況を示す遺構は乏しい。北側には3号石垣に沿って、幅約3.5mで帯状の無遺構空間が東西約21mに及ぶ。東端は折れて斜面が鍵の手になり、3号堀と関連して折れ曲がった通路となる。この部分は虎口と考えられる。通路は北側の斜面を丸く削り込み、3号溝との間に約1.5mの幅を確保している。折れ曲がる形態から故意に通行を妨げており、城の伴う虎口と考えられる。虎口の南に位置する3号堀には、2号橋がある。この橋は、おそらく第3区画が近世屋敷として使用された段階で、通路を広げるために設置されたものであろう。無遺構空間は建物との関係から通路と考えられる。西側は1号堀に突き当たるとやや南に折れて1号橋を渡ることとなる。また1号橋が廃絶され、2号堀との間に土橋が造られたと思われる。土橋の築造状況も近世の民家の造作としては、大がかりであり、中世の林城に関係すると考える方が妥当と思われる。

石垣

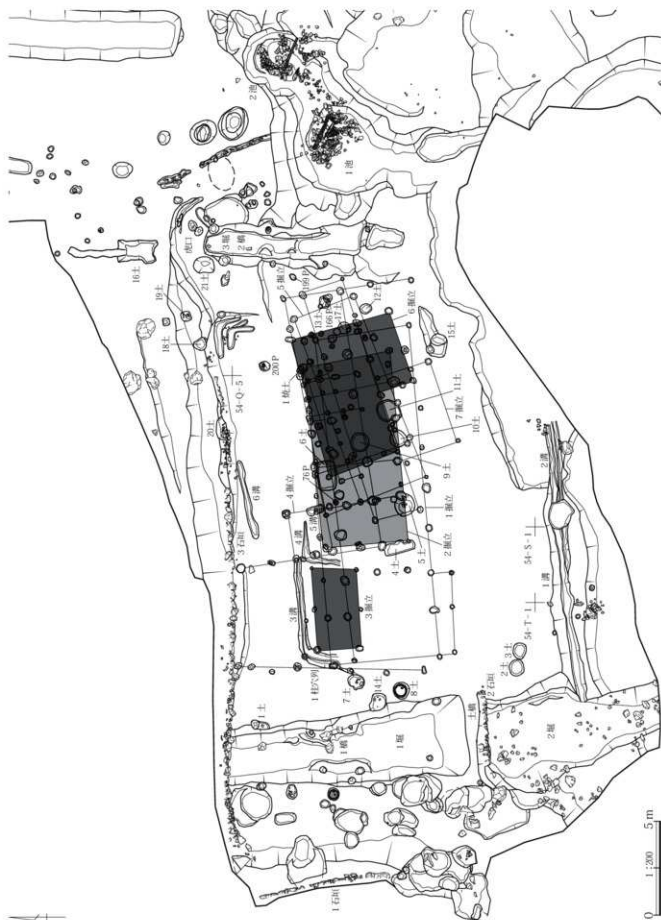
3号石垣 (第155～157図：PL.25)

位置 第1・3区画の調査区域北端で、54区P-W-4・5グリッドに位置する。 **重複** 第1区画1号土坑・1号堀と重複し、両遺構が埋まった後に石垣が築かれている。 **形状** 東西方向にほぼ直線的に築かれている。根石は幅40～50cmと大きい。石は2～4段程度積まれていた。石垣の傾斜は一定していないが、土層断面B-B'やJ-J'部分の石垣はほぼ垂直であった。 **規模** 東西端部分に小さな石がありその部分まで石垣があった可能性があるため、そこまでを範囲とする。東西規模25.2m高さは最も石垣が残っていた部分で0.6mである。

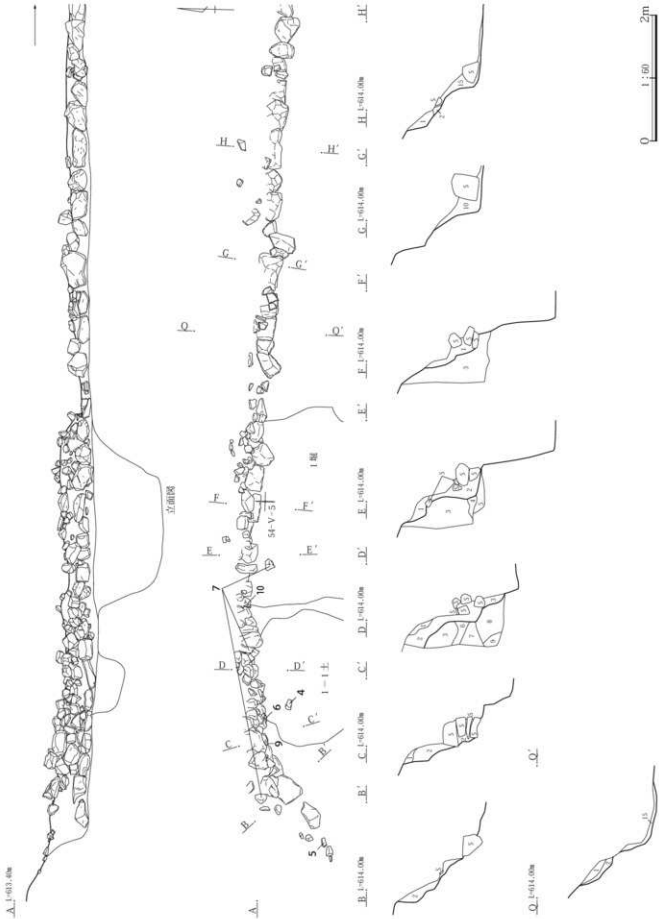
方位 ほぼ東西方向である。 **出土遺物** 茶臼・木挽き臼・江戸時代中頃の陶器等を出土している。

時期 遺構の特色や出土遺物から江戸時代。 **所見**

3号石垣は、1号石垣の北端から始まり、1号堀と3号堀の北側まで延びている。石垣は、急傾斜面に築かれており、石垣の南側には、7棟の江戸時代中頃の掘立柱建物が造られている。その北側を区画するように3号石垣が造られていた。



第154図 第3区画全体図



第155図 3号石垣(1)

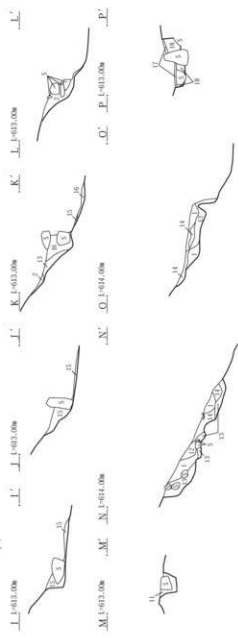


立面図

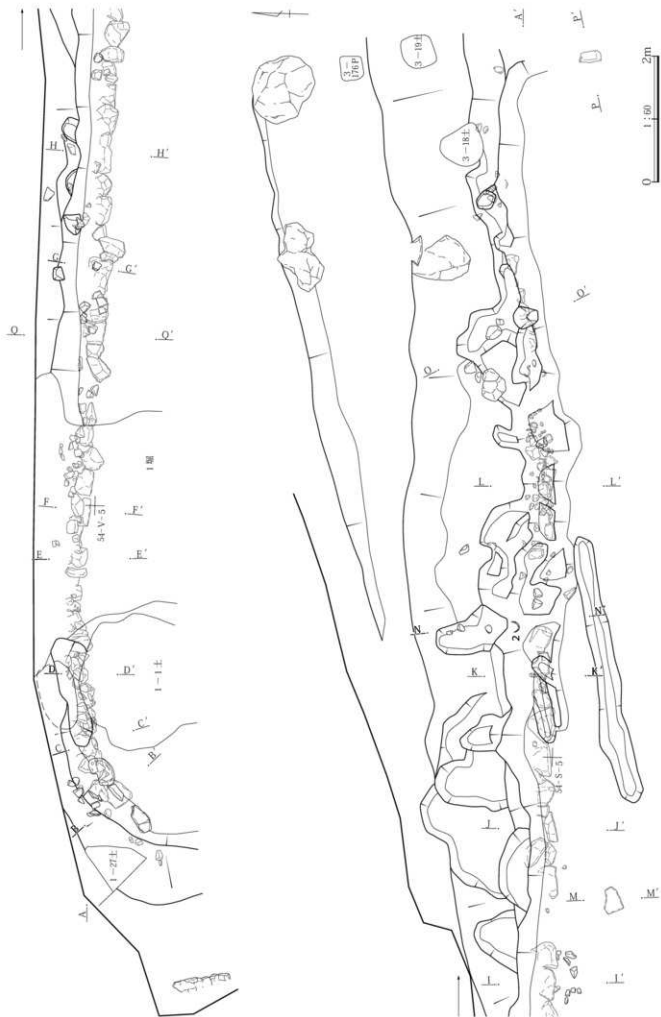


0 1:60 2m

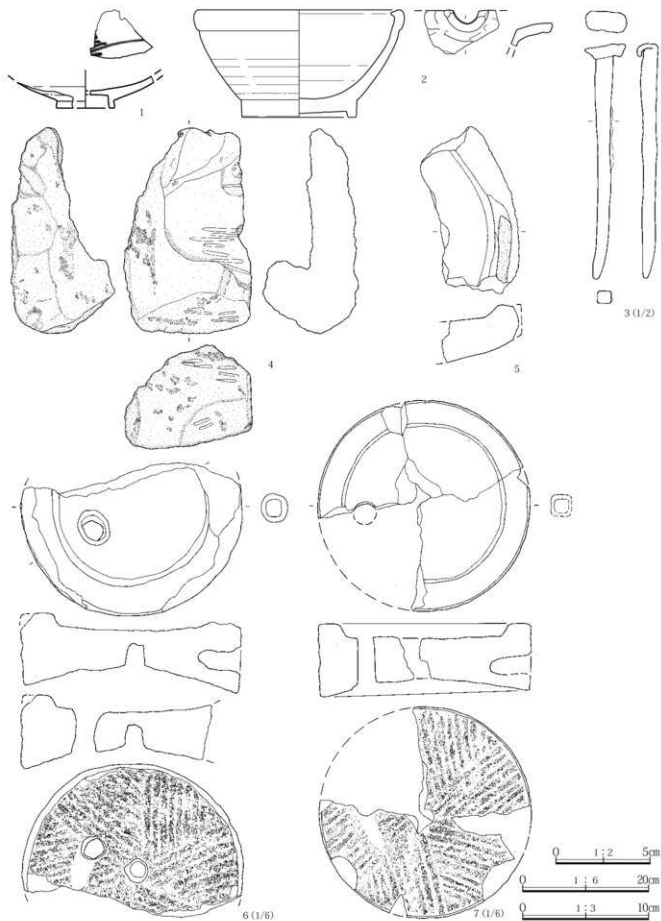
1. 暗褐色土、細作土に近い、植物の根を多く含む。
2. 暗褐色土、YPS 5% 含む軽硬な土。
3. 暗褐色土、少量のローム層とYPSを含む。(1号層土)
4. 暗褐色土、ローム層 5% 含む。(1号層土)
5. 褐色砂質土、ロームを主とした層。(1号層土)
6. 褐色土、ロームを主とした層。(1号層土)
7. 白色軽硬土、YPSを主とした層、風化して白化を呈する。(1号層土)
8. 褐色土、YPS 20%ほど含む。(1号層土)
9. 褐色土、YPS 40%とロームブロックを含む。(1号層土)
10. 暗褐色土、YPS 40%と多く含む。
11. 褐色土、多くのローム層とローム小ブロックを含む。
12. 褐色土、大きなロームブロックを含む。
13. 暗褐色土、多くのローム層とローム小ブロックを含む。
14. 暗褐色土、少量のローム層を含む。
15. 暗褐色土、YPS 40%と少量のローム層を含む。
16. 暗褐色土、YPS 5%を含むしまった層。
17. 暗褐色土、多くのローム小ブロックを含む。
18. 暗褐色土、ロームを主とし、少量の暗褐色土を含む。



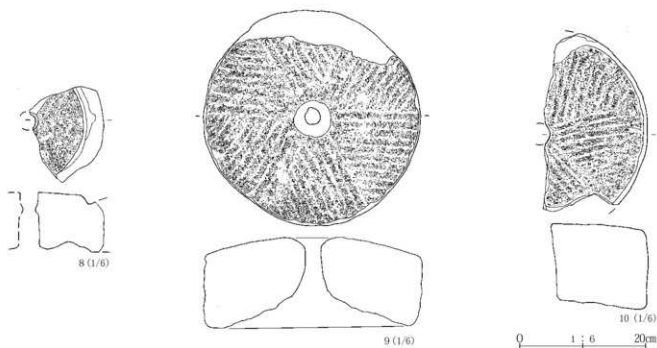
第156図 3号石垣(2)



第157图 3号石垣(3)



第158図 3号石垣出土遺物(1)



第159図 3号石垣出土遺物(2)

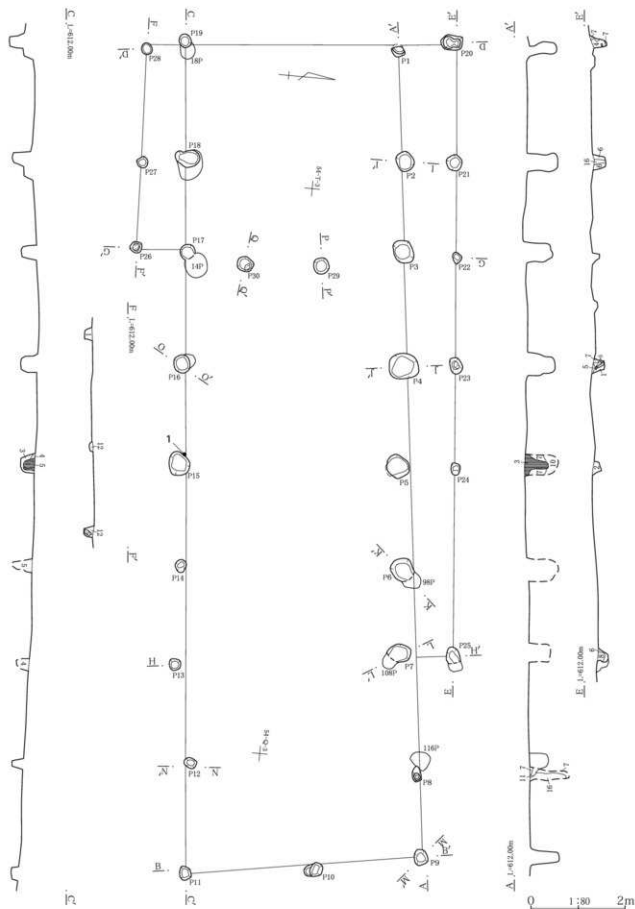
掘立柱建物

第3区画1号掘立柱建物 (第160・161図: PL.26)

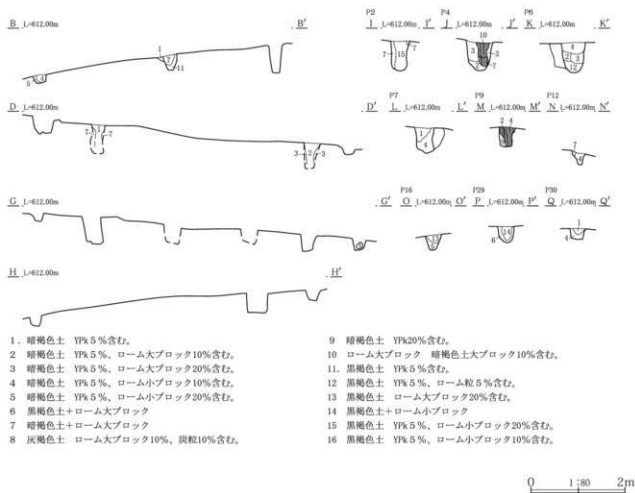
位置 1～7号掘立柱建物が集中する地区の中央部で、54区P～T・2・3グリッドに位置する。**重複** 2～7号掘立柱建物、4・5号溝、4・5・6・9・10・11・17号土坑。**形状** 2×8間の東西棟。**規模** 桁行1は17.14m、桁行2は17.72m、梁間1は5.00m、梁間2は4.55m。**面積** 99.89㎡。**方位** N-83°-85°-E。**出土遺物** 美濃徳利(連房第5か6小期・18世紀前後)。**時期** 江戸時代。**所見** 西側に接して第3区画1号柱穴列、さらに西に1号堀、東側に3号堀、北側は3号石垣、南側は第3区画1号溝、北東に虎口を持つ、限られた空間の中央部に位置する大きな掘立柱建物である。北側と南側に張出を持つ東西方向の建物である。

表10 第3区画1号掘立柱建物計測表

ピット番号	規模			柱間寸法(m)	目ピット番号
	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)		
P 1	30	23	64	→P 2 2.36	51
P 2	41	35	67	→P 3 1.93	45
P 3	51	41	62	→P 4 2.44	55
P 4	62	54	66	→P 5 2.13	32
P 5	51	45	68	→P 6 2.20	34
P 6	47	45	66	→P 7 1.75	96
P 7	49.5	38	56	→P 8 2.64	107
				→P 25 1.04	
P 8	32	18	78	→P 9 1.70	117
P 9	33	28.5	63	→P 10 2.23	147
P 10	31	20.5	38	→P 11 2.78	140
P 11	29.5	24.5	18	→P 12 2.48	159
P 12	26.5	21	32	→P 13 2.07	134
P 13	25	24.5	24	→P 14 2.12	165
P 14	27.5	23.5	43	→P 15 2.16	162
P 15	50	45	35	→P 16 2.13	164
P 16	48	33.5	41	→P 17 2.37	17
P 17	32	31.5	38	→P 18 2.02	23
P 18	65	54.5	46	→P 19 2.48	8
				→P 1 4.55	
P 19	29	24.5	54	→P 28 0.83	19
				→P 21 2.55	
P 20	46	32	40	→P 1 1.13	59
P 21	33.5	33	28	→P 22 2.00	58
P 22	25	19	38	→P 23 2.30	156
				→P 3 1.14	
P 23	35	24.5	28	→P 24 2.18	57
P 24	26	19	20	→P 25 4.00	99
P 25	32	29.5	24	→P 7 1.14	—
				→P 27 1.82	
P 26	24.5	24	20	→P 17 1.09	9
P 27	22.5	22	8	→P 28 2.41	155
P 28	25	22.5	19	→P 20 6.47	7
P 29	34	32	38	—	22
P 30	35	31	22	—	16



第160图 第3区画1号掘立柱建物(1)



第161図 第3区画1号掘立柱建物(2)

第3区画2号掘立柱建物 (第162図:PL.26)

位置 1～7号掘立柱建物が集中する地区の中央部やや東寄り、54区P～S-2・3グリッドに位置する。

重複 1・4～7号掘立柱建物。4・5・6・9・10・11・17号土坑、5号溝。形状 2×5間の東西棟。

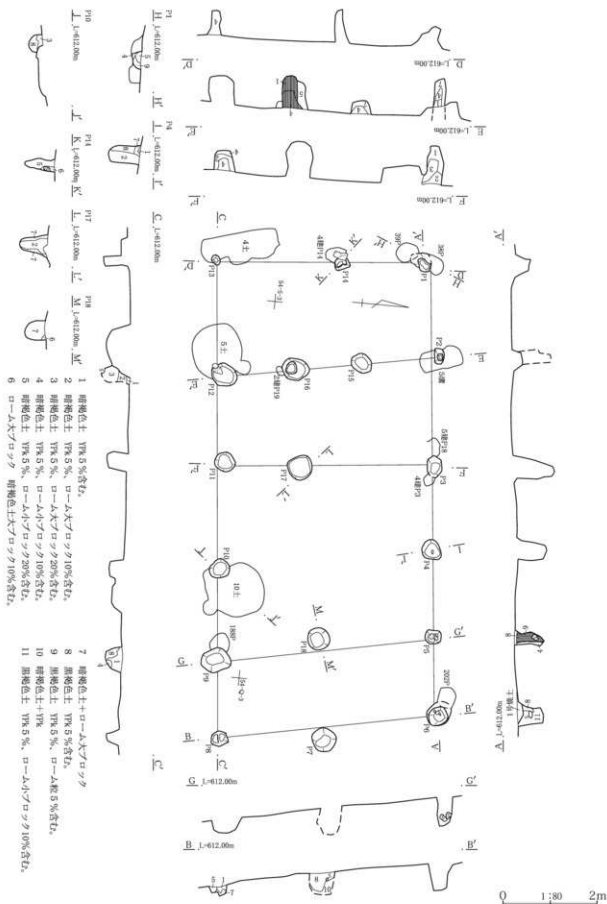
規模 桁行1は9.62m、桁行2は10.20m、梁間1は4.65m、梁間2は4.40m。面積 46.00㎡。

方位 N-84～85°-E。出土遺物 なし。

時期 江戸時代と思われる。所見 西側に接して3号掘立柱建物がある。

表11 第3区画2号掘立柱建物計測表

ピット番号	規模				旧ピット番号	
	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	柱間寸法(m)		
P 1	73	40	43	→P 2	2.00	38
P 2	32	21	79	→P 3	2.35	100
				→P 15	1.66	
P 3	47	31	88	→P 4	1.80	94
P 4	46	39	63	→P 5	1.86	102
P 5	33.5	29.5	60	→P 6	1.66	105
				→P 18	2.44	
P 6	55	46	58	→P 7	2.48	120
P 7	50.5	47.5	47	→P 8	2.20	138
P 8	35.5	32.5	26	→P 9	1.73	167
P 9	43	46.5	34	→P 10	1.92	171
P 10	44	39.5	33	→P 11	2.27	131
P 11	44	40	46	→P 12	1.66	85
				→P 17	1.60	
P 12	57	47	63	→P 13	2.50	74
P 13	22	17	55	→P 14	2.60	66
P 14	31	29	77	→P 1	1.78	64
P 15	47	37	26	→P 16	1.50	33
P 16	53	51	68	—	—	30
P 17	51	49	73	→P 3	2.85	81
P 18	47	46.5	42	→P 9	2.21	124



第162図 第3区画2号掘立柱建物

第3区画3号掘立柱建物 (第163図: PL.27)

位置 1～7号掘立柱建物が集まる地区の北西で、54区S・T-3、グリッドに位置する。重複 1号掘立柱建物。形状 1×2間の東西棟。規模 桁行1は4.37m、桁行2は4.18m、梁間1は2.36m、梁間2は2.26m。面積 9.83㎡。方位 N-86°-E。出土遺物 なし。時期 江戸時代と思われる。所見 小さな掘立柱建物であるが、西と北側に接して第3区画3号溝に囲まれている。東側に接して大きな2号掘立柱建物がある。位置関係から2号掘立柱建物と一連の建物である可能性が考えられる。

表12 第3区画3号掘立柱建物計測表

ピット番号	規模				目ピット番号	
	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	柱間寸法(m)		
P 1	37.5	37	36	→P 2	2.20	48
P 2	30	21	47	→P 3	2.20	44
P 3	17	14.5	43	→P 4	2.36	41
P 4	24	18	26	→P 5	2.13	60
P 5	21.5	19	22	→P 6	2.05	46
P 6	38.5	30.5	28	→P 1	2.26	49

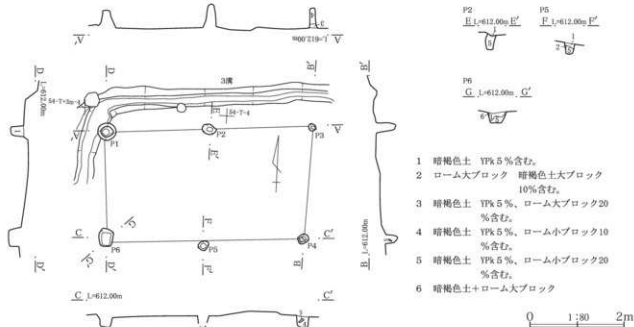
第3区画4号掘立柱建物 (第164図: PL.27)

位置 1～7号掘立柱建物が集まる地区の中央部やや東寄り、54区O-2～4、P-3・4、Q-3、R・S-3・4グリッドに位置する。重複 1・2・5～7号掘立柱建物、6・9・13・17号土坑、4・5号溝。形状 2×6間の東西棟。規模 桁行1は13.67m、桁行2は13.69m、梁間1は3.04m、梁間2は

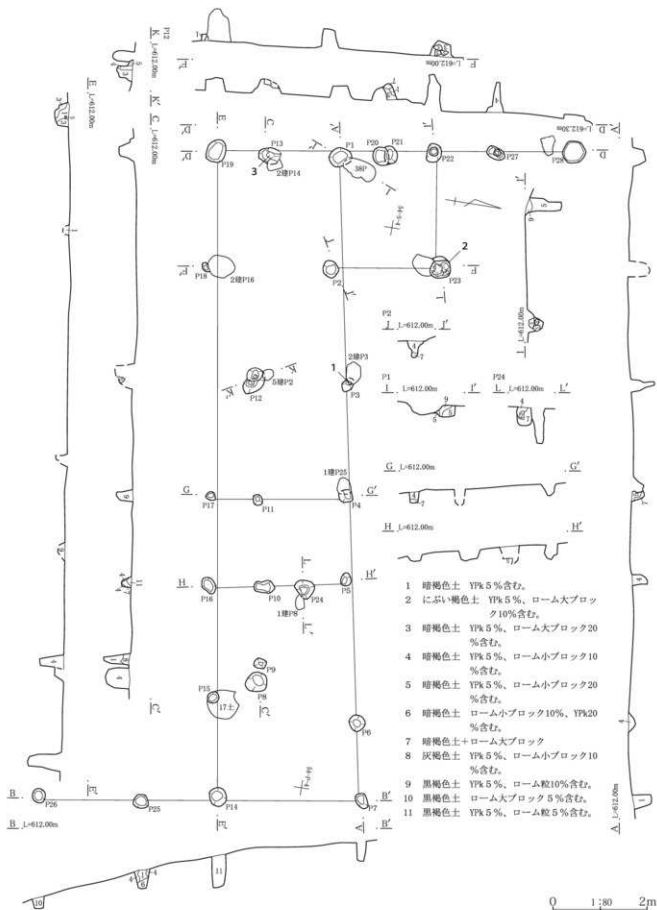
2.62m。面積 43.03㎡。方位 N-80～81°-E。出土遺物 美濃碗(連房5小期・17世紀末)、石臼の上下。時期 江戸時代。所見 西側の柱列が北側に、東側の柱列が南側に延びている。

表13 第3区画4号掘立柱建物計測表

ピット番号	規模				目ピット番号	
	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	柱間寸法(m)		
P 1	46	41	27	→P 2	2.83	39
P 2	38	32	41	→P 3	2.45	77
P 3	28	23	50	→P 4	2.42	95
P 4	33	21	24	→P 5	1.79	103
P 5	27.5	22.5	33	→P 6	3.05	118
P 6	35	35	15	→P 7	1.62	197
P 7	35	23.5	41	→P 14	3.04	189
P 8	44.5	41.5	55	→P 9	0.36	143
P 9	24.5	20.5	58	→P 10	1.62	142
P 10	44	27	22	→P 11	1.88	121
P 11	22.5	19	34	→P 12	2.47	111
P 12	56	33	30	→P 13	4.87	80
P 13	43	35	31	→	—	—
P 14	40	34.5	70	→	—	180
P 15	25.5	23.5	52	→P 16	2.40	149
P 16	47.5	27	12	→P 17	1.92	127
P 17	21	19.5	26	→P 18	4.85	114
P 18	21	12	13	→P 19	2.40	29
P 19	49	39	29	→	—	27
P 20	37	35	24	→P 1	0.90	40
P 21	37	27	39	→P 22	0.92	191
P 22	39	29.5	77	→P 23	2.47	42
P 23	46	43	36	→P 1	2.10	195
P 24	41.5	37	39	→P 2	0.87	116
P 25	32	31.5	39	→P 26	2.05	154
P 26	31	28	23	→	—	100
P 27	40	24	64	→P 28	1.70	194
P 28	49	46	15	→	—	—



第163図 第3区画3号掘立柱建物



- 1 暗褐色土 YPk 5%含む。
- 2 にぶい褐色土 YPk 5%、ローム大ブロック10%含む。
- 3 暗褐色土 YPk 5%、ローム大ブロック20%含む。
- 4 暗褐色土 YPk 5%、ローム小ブロック10%含む。
- 5 暗褐色土 YPk 5%、ローム小ブロック20%含む。
- 6 暗褐色土 ローム小ブロック10%、YPk20%含む。
- 7 暗褐色土+ローム大ブロック
- 8 灰褐色土 YPk 5%、ローム小ブロック10%含む。
- 9 黒褐色土 YPk 5%、ローム粒10%含む。
- 10 黒褐色土 ローム大ブロック5%含む。
- 11 黒褐色土 YPk 5%、ローム粒5%含む。

第164図 第3区画4号掘立柱建物

第3区画5号掘立柱建物 (第165図: PL.28)

位置 1～7号掘立柱建物が集中する地区の東寄りで、54区P-3、Q・R-2・3グリッドに位置する。

重複 1・2・4・6・7号掘立柱建物、6・9～11・17号土坑。形状 2×5間の東西棟であり、北側に張出を持つ。規模 桁行1は10.28m、桁行2は10.35m、梁間1は3.36m、梁間2は3.70m。面積 40.96㎡。方位 N-68°70' - E。出土遺物 なし。時期 江戸時代と思われる。所見 主軸方向が東西方向よりやや東方向に傾いている。

表14 第3区画5号掘立柱建物計測表

ピット番号	規模				旧ピット番号	
	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	柱間寸法(m)		
P 1	33	26	39	→P 2	2.22	128
P 2	25.5	22	39	→P 3	1.02	79
P 3	22.5	17	28	→P 4	0.70	174
P 4	26.5	26	30	→P 5	1.06	106
P 5	26	23.5	40	→P 6	1.12	109
P 6	25	21.5	30	→P 7	1.79	115
P 7	35.5	32.5	50	→P 8	1.18	145
P 8	36.5	31.5	67	→P 9	1.26	186
P 9	40	32	40	→P 10	3.36	198
P 10	40	33.5	42	→P 11	2.45	152
P 11	38.5	33	32	→P 12	1.62	181
P 12	32.5	28	35	→P 13	2.08	203
P 13	31.5	31	35	→P 14	2.24	91
P 14	30.5	28	50	→P 15	2.03	89
P 15	21	19	15	→P 16	1.36	130
P 16	23.5	17	27	→P 1	2.33	83
P 17	26	10.5	38	→P 18	2.24	184
P 18	(16)	21	20	→P 2	1.80	185
P 19	26	22	42	→P 2	1.95	87
				→P 14	1.32	

第3区画6号掘立柱建物 (第166図: PL.28)

位置 1～7号掘立柱建物が集中する地区の東寄りで54区P-2～4、54区Q-2・3、54区R-3グリッドに位置する。重複 1・2・4・5・7号掘立柱建物、6・9・10・17号土坑。形状 2×4間の東西棟であり、南側に張出を持つ。規模 桁行1は7.62m、桁行2は7.13m、梁間1は3.59m、梁間2は3.88m。面積 34.83㎡。方位 N-75°78' - E。出土遺物 14世紀後半～15世紀青磁碗出土。時期 江戸時代と思われる。所見 南側に大きな張出を持つ。

表15 第3区画6号掘立柱建物計測表

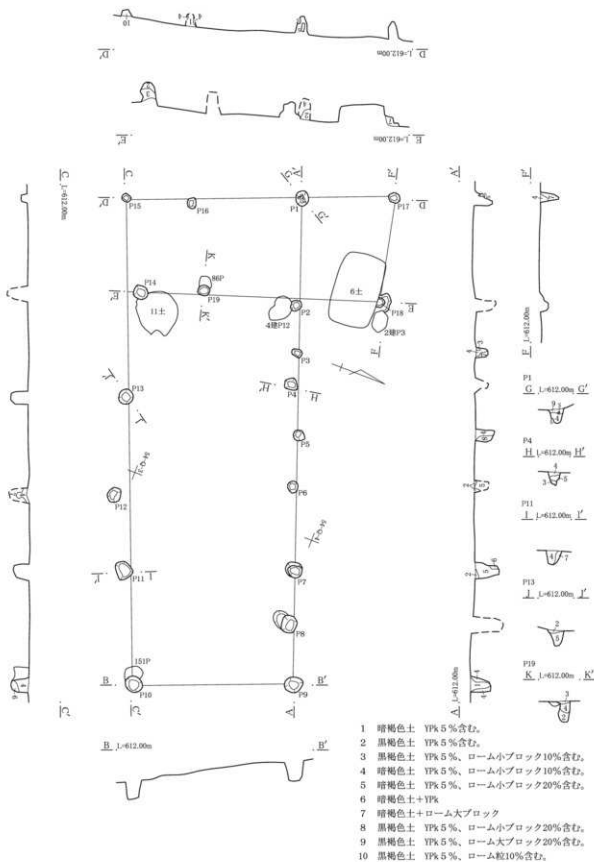
ピット番号	規模				旧ピット番号	
	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	柱間寸法(m)		
P 1	28.5	22	97	→P 2	1.88	37
P 2	32	28.5	64	→P 3	1.88	101
P 3	38.5	27	69	→P 4	1.90	104
P 4	44.5	36	76	→P 5	1.96	202
P 5	52	28.5	55	→P 6	1.65	106
P 6	27	25	39	→P 7	1.93	146
P 7	44	32	39	→P 8	2.00	141
				→P 12	1.82	
P 8	37	33	29	→P 9	1.99	136
P 9	40	28	27	→P 10	1.87	93
P 10	32.5	27	67	→P 11	1.27	90
P 11	25	21	32	→P 1	3.88	88
P 12	50	35.5	20	→P 13	2.25	158
P 13	40	39	38	→P 14	1.66	172
P 14	33	29.5	39	→P 15	0.62	133
P 15	33	31.5	38	→P 9	1.30	92
P 16	28.5	27	68	—	—	113

第3区画7号掘立柱建物 (第167図: PL.28・29)

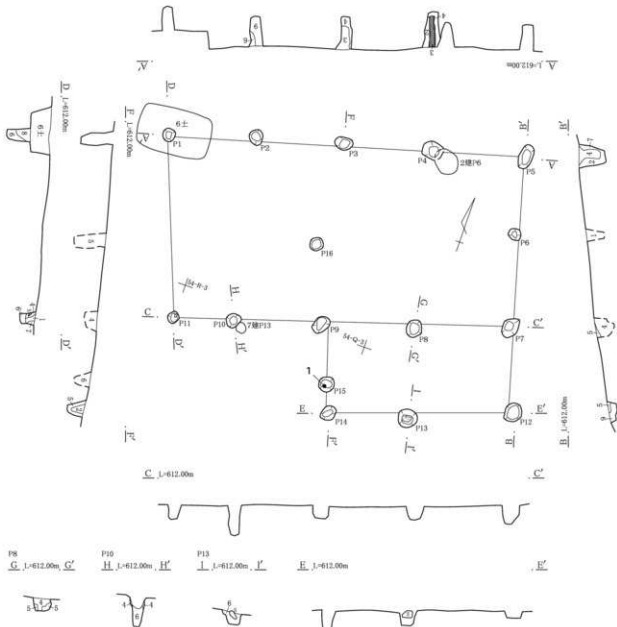
位置 1～7号掘立柱建物が集中する地区の東寄りで、54区O-3・4、54区P・Q・R-2・3グリッドに位置する。重複 1・2・4～6号掘立柱建物、5・9・10・13・17号土坑。形状 1×6間の東西棟であり、北と南側に張出を持つ。規模 桁行1は12.55m、桁行2は12.90m、梁間1は2.26m、梁間2は2.38m。面積 49.21㎡。方位 N-71°72' - E。出土遺物 なし。時期 江戸時代と思われる。所見 北・南側に大きな張出を持つ。

表16 第3区画7号掘立柱建物計測表

ピット番号	規模				旧ピット番号	
	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	柱間寸法(m)		
P 1	36	29	48	→P 2	2.45	31
P 2	23	20	23	→P 3	3.27	129
				→P 16	1.10	
P 3	32	27.5	38	→P 4	1.45	110
P 4	22	20	66	→P 5	1.27	—
P 5	42	39.5	51	→P 6	0.62	122
P 6	31	30.5	73	→P 7	1.41	123
P 7	34	31.5	68	→P 8	2.12	148
P 8	42	32.5	57	→P 9	2.26	183
P 9	18	16.5	8	→P 10	2.07	153
P 10	25.5	20	28	→P 11	1.35	190
P 11	32	23.5	62	→P 12	2.17	139
P 12	21	19.5	19	→P 13	2.62	126
P 13	23.5	21	19	→P 14	2.20	173
P 14	26	23	18	→P 15	2.54	84
P 15	32	31.5	42	→P 1	2.38	67
P 16	28.5	25.5	42	→P 17	1.72	78
P 17	—	36	56	→P 18	1.44	98
P 18	43.5	35	32	→P 19	2.50	187
P 19	25.5	25	36	→P 5	1.28	119
P 20	33	33	14	→P 21	4.45	135
				→P 12	2.80	
P 21	25.5	21	31	→P 14	2.90	163



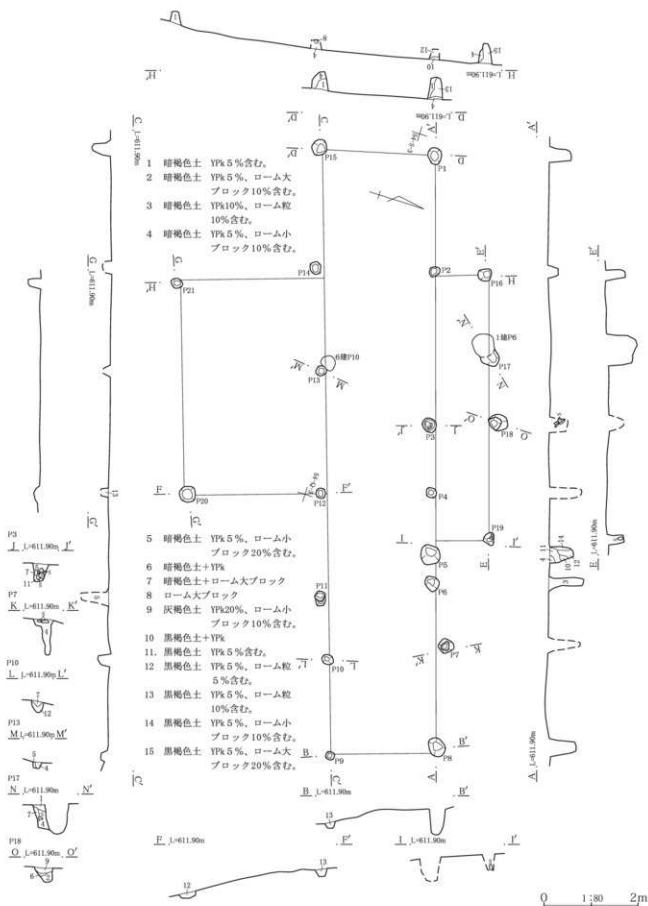
第165図 第3区画5号掘立柱建物



FR G, 1-612.00m, G' P10 H, 1-612.00m, H' P13 I, 1-612.00m, I' E, 1-612.00m, E'

- | | |
|--|---|
| <p>1 暗褐色土 YPk20%含む。</p> <p>2 暗褐色土 YPk 5%、ローム大ブロック10%含む。</p> <p>3 暗褐色土 YPk10%含む。</p> <p>4 暗褐色土 YPk 5%、ローム小ブロック10%含む</p> <p>5 黒褐色土 YPk 5%含む。</p> | <p>6 黒褐色土 YPk 5%、ローム小ブロック10%含む。</p> <p>7 暗褐色土+ローム大ブロック</p> <p>8 黒褐色土 YPk 5%、ローム大ブロック20%含む。</p> <p>9 黒褐色土 YPk 5%、ローム粒5%含む。</p> |
|--|---|

第166図 第3区画6号掘立柱建物



第167図 第3区画7号掘立柱建物

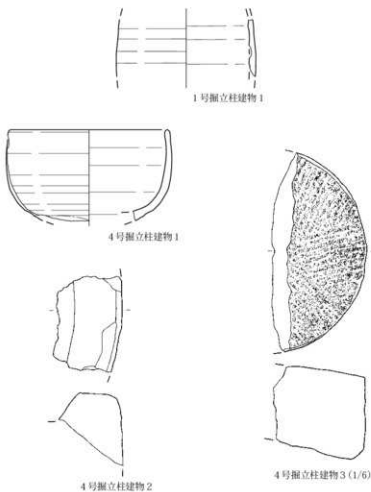
第3区画1号柱穴列 (第169図: PL.29)

位置 第3区画西北部で、54区T-2～4グリッドに位置する。重複なし。規模 南北方向9.9m。ビット数とそれぞれの大きさ等は以下の表に示した。

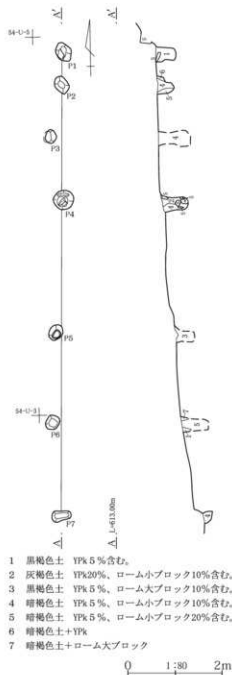
出土遺物 なし。時期 第3区画掘立柱建物群と同時期と考えられるので江戸時代と思われる。所見 北側は3号石垣に接し、西側には1号堀がある。東側に第3区画掘立柱建物群中最も規模が大きい1号掘立柱建物がある。おそらく1号掘立柱建物の西側を囲むための施設であったことが考えられる。

表17 第3区画1号柱穴列計測表

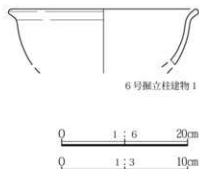
ビット番号	規模			柱間寸法(m)	目ビット番号	
	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)			
P 1	39	31	44	→ P 2	0.72	204
P 2	35.5	26.5	37	→ P 3	1.13	192
P 3	28.5	24	68	→ P 4	1.38	193
P 4	43	40	57	→ P 5	2.83	179
P 5	35	27	41	→ P 6	1.90	52
P 6	31.5	25.5	59	→ P 7	1.96	72
P 7	40.5	24	48	→ P 1	9.84	21



第168図 第3区画掘立柱建物出土遺物



第169図 第3区画1号柱穴列

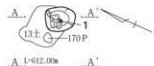


- 1 黒褐色土 YPr 5%含む。
- 2 灰褐色土 YPr 20%、ローム小ブロック10%含む。
- 3 黒褐色土 YPr 5%、ローム大ブロック10%含む。
- 4 暗褐色土 YPr 5%、ローム小ブロック10%含む。
- 5 暗褐色土 YPr 5%、ローム小ブロック20%含む。
- 6 暗褐色土+YPr
- 7 暗褐色土+ローム大ブロック

遺物出土ピット (第170図: PL.29)

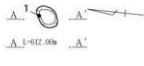
76・166・199・200号ピットから遺物が出土している。これらのピットは、掘立柱建物の一部ではないが、1・4・5・6号掘立柱建物の近くであり関連性が考えられるのでここで報告する。76号ピットからは砥石、166号ピットからは18世紀前後の瀬戸のすり鉢、199号ピットからは中世の内耳土器、200号ピットからは18世紀前半から後半の美濃の陶器碗と近世の瀬戸・美濃系陶器香炉と江戸時代の新寛永通宝が出土している。

3-166号ピット(54-O・P-3)



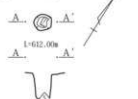
1. 暗褐色土。Y%20%含む。

3-199号ピット(54-O-4)

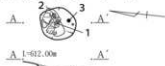


1. 暗褐色土。Y%50%含む。
2. 暗褐色土。Y%60%含む。

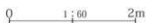
3-76号ピット(54-R-3)



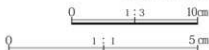
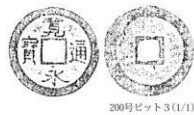
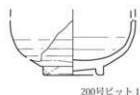
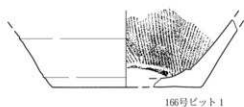
3-200号ピット(54-P-4)



1. 褐色土。ローム小ブロック20%含む。
2. 褐色土。ローム小ブロック10%含む。
3. 褐色土。大きな石を多く含む。



第170図 第3区画遺物出土ピット



第171図 第3区画ピット出土遺物

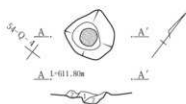
焼土

第3区画1号焼土 (第172図: PL.29)

位置 第3区画東側中央部付近で、54区P-4グリッドに位置する。
重複 2号掘立柱建物のP6と重複しており、P6が埋没後その上に1号焼土が造られている。(162図参照)
形状 少しゆがんでいるが、円形。

規模 直径40cm。深さ0.1m。 **出土遺物** なし。

時期 第3区画で確認されている掘立柱建物7棟を検討した結果、全て江戸時代中期以降と考えられている。その掘立柱建物より新しい1号焼土はそれ以降と思われる。
所見 固く焼けた焼土面が約9cmと厚い。長期間使われたものと思われる。



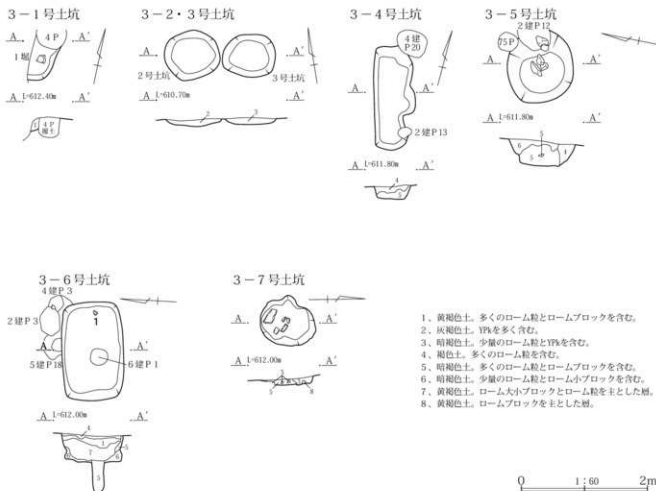
- 1、赤褐色土。粘土を主とした層、固く焼けている。
- 2、暗褐色土。わずかに焼土粒を含む。多くのY%を含む。

第172図 第3区画1号焼土

土坑（第173・174図：PL.30・31）

土坑が21基調査されている。調査された場所は、調査区ほぼ全域である。その中で7棟の掘立柱建物が建っていた上段の平坦な面に16基と最も多く、3号石垣や3号堀北に5基の土坑が掘られていた。8号土坑は、円形で底部に桶の輪状の輪郭が側面にタガの痕跡が残っている。桶が埋められていたものと思われる。10・20号土坑からは、大量の大小の石が埋められていた。出土した遺

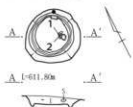
物は、6・8・10・14号土坑から石鉢・陶器・磁器・鉄釘が出土している。時期の特定出来る陶磁器として、6号土坑から17世紀後半18世紀前半の美濃陶器碗、8号土坑から17世紀後半18世紀代の肥前系陶器皿、14号土坑から19世紀前半から18世紀代の瀬戸磁器碗が出土している。いずれも江戸時代以降の遺物である。これらの結果から土坑の年代は、全て江戸時代以降と考えられる。



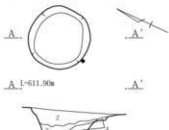
- 1、黄褐色土。多くのローム粒とロームブロックを含む。
- 2、灰褐色土。Y%を多く含む。
- 3、暗褐色土。少量のローム粒とY%を含む。
- 4、褐色土。多くのローム粒を含む。
- 5、暗褐色土。多くのローム粒とロームブロックを含む。
- 6、暗褐色土。少量のローム粒とローム小ブロックを含む。
- 7、黄褐色土。ローム大小ブロックとローム粒を主とした層。
- 8、黄褐色土。ロームブロックを主とした層。

第173図 第3区画土坑(1)

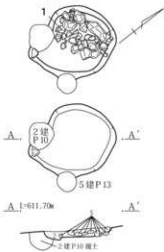
3-8号土坑



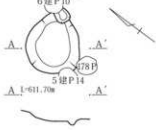
3-9号土坑



3-10号土坑



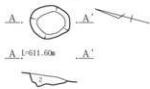
3-11号土坑



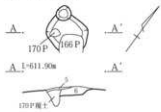
3-15号土坑



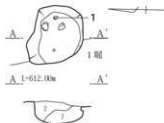
3-12号土坑



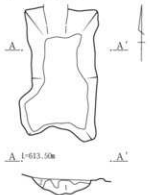
3-13号土坑



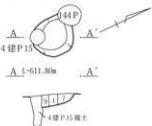
3-14号土坑



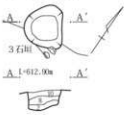
3-16号土坑



3-17号土坑



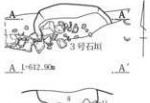
3-18号土坑



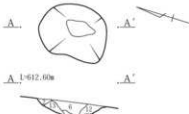
3-19号土坑



3-20号土坑



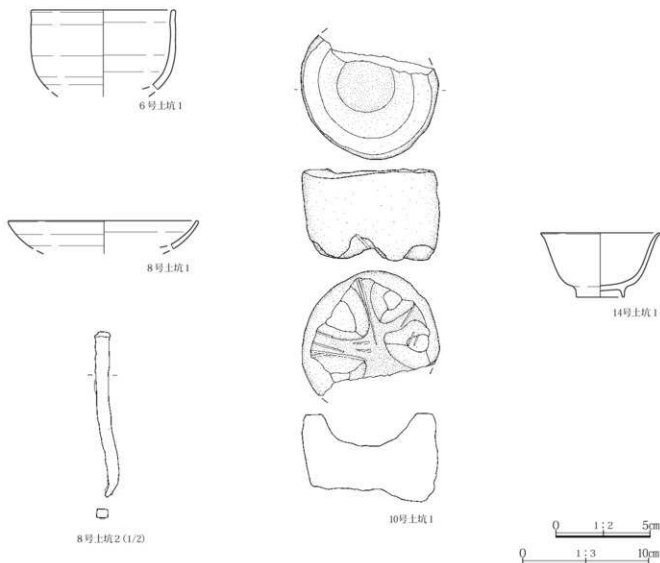
3-21号土坑



1. 暗褐色土。少量のローム小ブロックとYPKを含む。
2. 暗褐色土。少量のローム粒とYPKを含む。
3. 暗褐色土。少量のローム粒とローム小ブロックを含む。
4. 暗褐色土。少量のローム粒を含む。
5. 灰褐色土。YPKを少量含む。
6. 暗褐色土。多くのYPKを含む。
7. 黒褐色土。少量のローム粒とYPKを含む。
8. 暗褐色土。ローム粒とYPKをほとんど含まない。表土に近い。
9. 黄褐色土。ローム大小ブロックとローム粒を主とした層。
10. 暗褐色土。少量のローム粒と多くの植物の根を含む。
11. 褐色土。多くのYPKを含む。
12. 暗褐色土。多くのYPKと少量のローム粒を含む。
13. 灰白色土。YPKを主とした層。

0 1:60 2m

第174図 第3区画土坑(2)



第175図 第3区画土坑出土遺物

表18 第3区画土坑一覧表

調査年度 (平成)	土坑 番号	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	方位	位置 (グリッド)	形態	時代	遺物	備考
19	1	0.60	0.40	0.33	—	54-U-4	—	近世以降か		
19	2	0.90	0.80	0.10	N-64°-W	54-T-1	円形	近世以降か		
19	3	0.83	0.68	0.11	N-80°-W	54-T-1	円形	近世以降か		
19	4	1.65	0.65	0.22	N-15°-W	54-S-2	不定形	近世以降か		
19	5	1.15	1.03	0.40	N-69°-E	54-R-2	円形	近世以降か		
19	6	1.55	0.96	0.44	N-85°-E	54-R-3	長方形	江戸	碗	
19	7	0.90	0.80	0.10	N-17°-E	54-T・U-3	不定形	近世以降か		
19	8	0.86	0.85	0.13	N-35°-E	54-U-2	円形	江戸	皿・釘	桶か
19	9	1.00	0.95	0.46	N-65°-E	54-0-3	円形	江戸		
19	10	1.20	1.10	0.14	N-21°-W	54-0-2・3	方形	近世以降か	石鉢	多くの石出土
19	11	0.95	0.85	0.14	N-55°-E	54-0-2	楕円形	近世以降か		
19	12	0.60	0.52	0.19	N-40°-W	54-P-3	円形	近世以降か		
19	13	0.66	0.56	0.14	N-85°-W	54-0・P-3	方形	江戸		
19	14	0.90	0.86	0.36	N-0°	54-U-3	不定形	江戸	碗	
19	15	1.20	0.90	0.33	N-77°-W	54-P-2	長方形	江戸		
19	16	1.90	1.13	0.25	N-0°	54-0-6	不定形	江戸以降か		
19	17	0.65	0.64	0.19	N-29°-W	54-P-3	円形	江戸以降か		
19	18	0.68	0.63	0.31	N-14°-W	54-P-5	円形	江戸以降か		
19	19	0.62	0.55	0.22	N-29°-E	54-P-5	方形	江戸以降か		
19	20	1.22	0.56	0.28	N-85°-E	54-0-5	—	江戸以降か		多くの石出土
19	21	1.10	0.98	0.27	N-38°-E	54-0-5	楕円形	江戸以降か		

溝

第3区画1号溝（第176図：PL.31）

位置 第3区画南端部分、44区Q～U-5グリッドに位置する。東側で2号溝と平行している。**重複** 西側で2号堀、東側で2号溝と重複している。**形状** 直線的に掘られている。**規模** 長さは14.88mまで確認出来るが、西側で2号堀と重複し、東側は浅くなり途中で不明となっている。幅は0.3m×0.6m、深さは0.06～0.12m。**方位** N-84°-E。**出土遺物** なし。**時期・所見** 出土遺物はないが、第3区画の南側を区画する溝と思われ、中近世段階に造られたものと思われる。

第3区画2号溝（第176図：PL.31）

位置 第3区画南端部分、44区Q～S-25グリッドに位置する。1号溝と平行している。**重複** 西側で1号溝と重複している。**形状** 直線的に掘られている。

規模 長さは8.13mまで確認出来るが、西側で1号堀と重複し、東側は浅くなり途中で不明となっている。幅は0.4m、深さは0.06～0.17m。**方位** N-86°-E。**出土遺物** なし。**時期・所見** 出土遺物はないが、1号溝と共に第3区画の南側を区画する溝と思われ、中近世段階に造られたものと思われる。

第3区画3号溝（第176図：PL.31）

位置 第3区画北西部分、54区S・T-3・4グリッドに位置する。**重複** 東側で4号溝と重複し、西側は、第3区画59Pまで続くがその先は不明となる。1号掘立柱建物が溝の南側に造られ、3号掘立柱建物は、3・4号溝に囲まれた中に造られている。**形状** ほぼ東西方向の溝が、北西端部でほぼ直角に近い角度で南側に曲がっている。**規模** 東西方向で5.5m、南方向に掘られている西側は長さ1.8m、幅は0.4～0.5m、深さは0.08～0.29m。**方位** 不明。**出土遺物** なし。

時期・所見 出土遺物はないが、4号溝と共に3号掘立柱建物の東西と北側を囲むように掘られており、3号掘立柱建物の南側の浅い掘り込みと共に、雨落ち溝の可能性がある。この第3区画には江戸時代を中心とした掘立柱建物が7棟建てられている。その時期の溝と思われる。

第3区画4号溝（第176図：PL.31）

位置 第3区画北西部分、54区S-3・4グリッドに位置する。**重複** 北西部分で3号溝と重複する。西側は、第3区画56Pまで続くがその先は不明となる。1・4号掘立柱建物と重複し、4号溝は2号掘立柱建物の北東コーナー部分にあたる。**形状** ほぼ東西方向の溝が、北西端部でほぼ直角に近い角度で南側に曲がっている。**規模** 東西方向で2.02m、南方向に掘られている西側は長さ1.92m、幅は0.1～0.4m、深さは0.03～0.09m。**方位** 不明。**出土遺物** なし。**時期・所見** 出土遺物はないが、4号溝と共に3号掘立柱建物の東西と北側を囲むように掘られており、3号掘立柱建物の南側の浅い掘り込みと共に、雨落ち溝の可能性もある。また2号掘立柱建物の北西コーナー部分にあたる。この第3区画には江戸時代を中心とした掘立柱建物が7棟建てられている。その時期の溝と思われる。

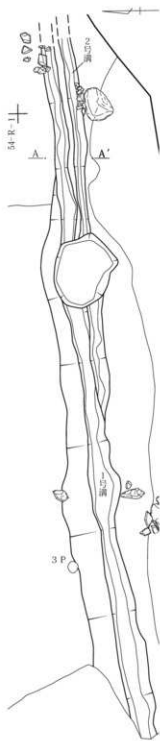
第3区画5号溝（第176図：PL.31）

位置 第3区画北西部分、54区R-3グリッドに位置する。**重複** 1・2・4号掘立柱建物と重複する。**形状** 土坑に近い長方形。**規模** 長さ0.92m、幅は0.40～0.46m、深さは0.18～0.36m。**方位** N-19°-W。**出土遺物** なし。**時期・所見** 出土遺物はなく時期は特定できない。この第3区画には江戸時代を中心とした掘立柱建物が7棟建てられている。それらの遺構の時期に近いと考えたい。

第3区画6号溝（第176図：PL.31）

位置 第3区画北西部分、54区R・S-4グリッドに位置する。**重複** なし。**形状** 細長い長方形。**規模** 長さ4.2m、幅は0.22～0.40m、深さは0.05～0.06m。**方位** N-7°-E。**出土遺物** 近世肥前の仏飯器脚部が出土している。**時期・所見** 北側に接して3号石垣がある。この石垣は19世紀第14半世紀以前と考えられる。またこの第3区画には江戸時代を中心とした掘立柱建物が7棟建てられている。それらの遺構の時期に近いと考えたい。

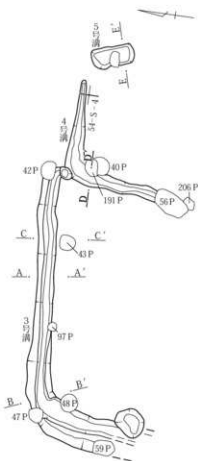
3-1・2号溝



A I-610.00m A'
1号溝 2号溝

1. 暗褐色土。ローム小ブロック5%ほど含む。
2. 褐色土。多くのローム粒とローム小ブロックを含む。

3-3~5号溝



A I-612.40m A'
B I-612.40m B'
C I-612.40m C'

1. 暗褐色土。ローム小ブロック5%ほど含む。
2. 褐色土。多くのローム粒とローム小ブロックを含む。
3. 黄褐色土。ロームを主とした層。
4. 褐色土。ロームを主とした層。
5. 暗褐色土。少量のローム粒を含む。
6. 褐色土。多くのローム粒を含む。

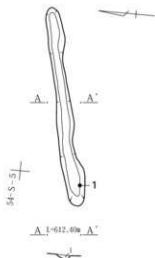
D I-612.20m D'
39P 雑土

1. 暗褐色土。YPk5%含む。

E I-612.20m E'
39P

1. 暗褐色土。YPk5%とローム小ブロック10%を含む。
2. 暗褐色土。多くのロームブロックを含む。

3-6号溝



A A'

A I-612.60m A'

1. 暗褐色土。YPk10%ほど含むしまった層。

0 1:80 2m

第176図 第3区画1~6号溝



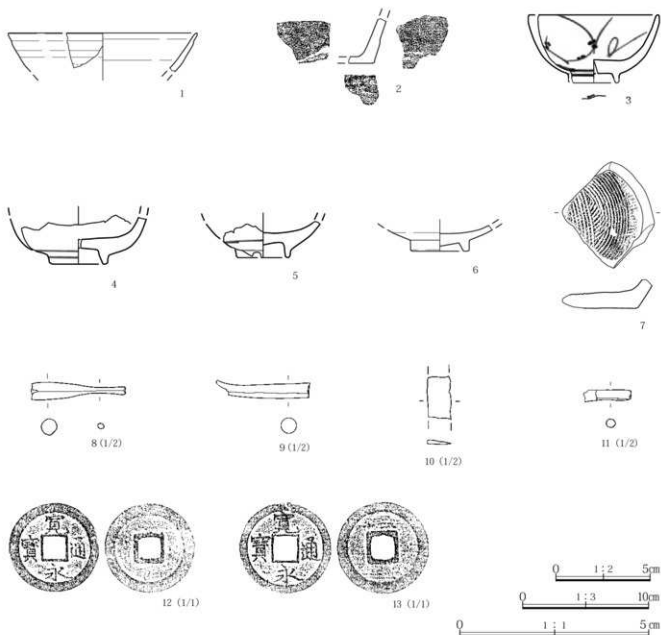
1



第177図 第3区画6号溝出土遺物

遺構外出土遺物

特定の遺構に伴わない遺物が第3区画から出土し、13個体を以下に図示した。出土遺物は陶磁器7点、煙管3点、銭として新寛永通宝2枚と刃物と思われる鉄製品1点である。時期の特定できる遺物として、陶磁器と銭がある。陶磁器は、中世の遺物として15世紀前後の古瀬戸碗と在地産の内耳土器がある。近世の遺物として、18世紀前半の肥前系の染付碗と瀬戸・美濃系の碗がある。銭は新寛永通宝であるので、17世紀後半以降と思われる。

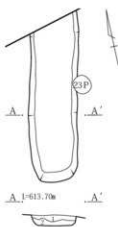


第178図 第3区画遺構外出土遺物

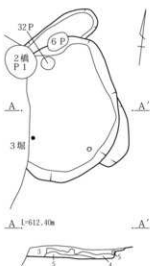
第4区画

第3区画と第6区画の間に位置し、南側下段に1・2号池を挟んで、第5区画がある。土坑4基、溝4条、焼土1基を検出した。6号堀は北側調査区外に延びており、第4区画も調査区外へへと延びる。西側は、一段高く、区画する溝等の施設はないが、別な区画と考えられる。遺構は北側に集中しており、南側は通路として使用されている。第6区画から6号堀の南側を通過すると、やや北側にずれて3号堀の北側を通り、第3区画に入る構造である。出入口口に工夫の見られる区画である。

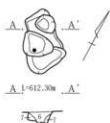
4-1号土坑



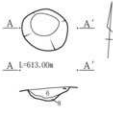
4-2号土坑



4-3号土坑



4-4号土坑



1. 暗褐色土。少量のローム粒とローム小ブロックを含む。
2. 暗褐色土。少量のローム粒と大きなロームブロックを含む。
3. 黄褐色土。多くのローム粒とロームブロックを含む。
4. 暗褐色土。多くのローム粒とロームブロックを含む。
5. 黄褐色土。ローム大小ブロックとローム粒を主とした層。
6. 暗褐色土。少量のローム粒とYFaを含む。
7. 褐色土。多くのローム粒を含む。
8. 暗褐色土。多くのYFaと少量のローム小ブロックを含む。

0 1:60 2m

第179図 第4区画土坑

表19 第4区画土坑一覧表

調査年度 (平成)	土坑 番号	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	方位	位置(グリッド)	形態	時代	遺物	備考
19	1	2.55	0.78	0.17	N-11°-E	54-N-7・8	長方形	中近世		縦丸長方形
19	2	2.33	(1.40)	0.19	N-5°-W	54-N-4・5	楕円形	中近世		長方形
19	3	0.91	0.60	0.19	N-42°-W	54-N-4	不定形	中近世		不整形円形
19	4	0.74	0.65	0.21	N-60°-W	54-N-5	円形	中近世		円形

溝

第4区画1号溝 (第180図)

位置 第4区画中央部南側、54区N・O-5グリッドに位置する。東側で3・4号溝、南東方向で2号溝と近接する。また南西部に2号堀が近接する。西側は浅くなり不明となっている。**重複** なし。**形状** 短く曲線状である。**規模** 長さは2.3mまで確認出来るが、西側は浅くなり不明となっている。幅0.2～0.32m、深さは0.01～0.06m。**方位** 曲線が不明。**出土遺物** なし。**時期・所見** 出土遺物はなく特定できない。周辺の遺構との関連で中近世段階に造られたものと思われる。

第4区画2号溝 (第180図: PL.32)

位置 第4区画中央部南側、54区M・N-4・5グリッドに位置する。溝の南端は1・2号池のある一段低い傾斜面上端までしか確認出来ない。北側に3・4号溝はあり、溝の方向がほぼ一致するので同じ溝であった可能性もある。**重複** なし。**形状** 直線的に掘られている。**規模** 長さは4.1mまで確認出来るが、溝の南端は1・2号池のある一段低い傾斜面上端までしか確認出来ない。幅0.2～0.3m、深さは0.03～0.04m。

方位 N-23°-W。**出土遺物** なし。**時期・所見** 出土遺物はなく特定できない。周辺の遺構との関連で中近世段階に造られたものと思われる。

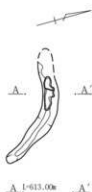
第4区画3号溝 (第180図: PL.32)

位置 第4区画中央部, 54区M-5グリッドに位置する。西に接して4号溝がある。南側に2号溝があり、溝の方向がほぼ一致するので同じ溝であった可能性もある。

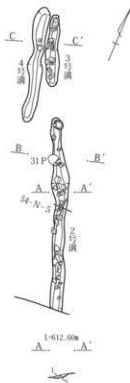
重複 西に接して4号溝がある。 **形状** 短く直線的に掘られている。 **規模** 長さは1.5m。幅0.2~0.3m、深さは0.06~0.08m。 **方位** N-22°-W。

出土遺物 なし。 **時期・所見** 出土遺物はなく特定できない。周辺の遺構との関連で中近世段階に造られたものと思われる。

4-1号溝



4-2~4号溝



1. 暗褐色土。YPK10%とローム粒を少し含む。

B 1:612.60m



C 1:612.90m



1. 暗褐色土。YPKとローム粒5%含む。
2. 黒褐色土。少量のローム粒含む。



第180図 第4区画1~4号溝

第4区画4号溝 (第180図: PL.32)

位置 第4区画中央部, 54区M-5グリッドに位置する。東に接して3号溝がある。 **重複** 東に接して3号溝がある。 **形状** 短く直線的に掘られている。 **規模** 長さは2.45m。幅0.2~0.32m、深さは0.01~0.07m。 **方位** N-14°-W。 **出土遺物** なし。

時期・所見 出土遺物はなく特定できない。周辺の遺構との関連で中近世段階に造られたものと思われる。

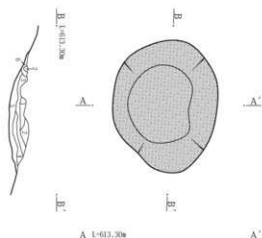
焼土

第4区画1号焼土 (第181図: PL.32)

位置 第4区画中央部付近で、54区N-6グリッドに位置する。 **重複** なし。 **形状** 少しゆがんでいるが円形。 **規模** 長軸1.06m、短軸0.83m、深さ0.15m。

出土遺物 なし。 **時期** 出土遺物や重複がなく、時期は特定できないが、江戸時代に属すると思われる。

所見 焼土は、土坑状に直径0.8m深さ0.15mほどの掘り込みを造り、その中に白色粘質土を持ち込み火床としたものと思われる。囲炉裏等の施設と想定したい。



1. 黄白色焼土。固くしまっている。
2. 赤褐色土。わずかに焼土化して赤色となっている。
3. 暗褐色土。多くの黄白色焼土と少量の焼土粒を含む。
4. 赤褐色土。赤褐色土を大きなブロック状に含む。
5. 暗褐色土。少量の黄白色焼土と焼土粒を含む。
6. 黒褐色土。少量の赤褐色土を含む。

■: 焼土範囲



第181図 第4区画1号焼土

第5区画

第4区画の下段に位置し、北側に1・2号池がある。遺構量が少ないが、池との間に畦を設け、水の進入に配慮が見られる。中世遺物が比較的多く出土した地点である。

第5区画 (第183図: PL.33)

位置 44区J～M-24・25、54区J-1・2、K～M-1～3グリッドに位置する。**重複** なし。**規模** 東西約13m南北約18mの範囲とする。この範囲内に平地部分がある。**出土遺物** 瀬戸・常滑の陶磁器、青磁碗等18点。木器・曲物等。陶磁器の年代は18点中12点が中世、6点が近世である。**時期** 陶磁器の約7割が中世であり、第5区画が使われ始めたのは、北に近接する1・2号池同様中世と思われる。6点の近世遺物の出土から、江戸時代も使われていたようである。

所見 1・2号池南に他の区画のように溝や石垣で区切られてはいないが、周辺部より一段低い平地面がある。区画内の東西約8m南北約15mの範囲内での比高差は約0.2mとほぼ平らである。この範囲を中心に陶磁器や木材・木製品が出土している。木製品の中には、曲物の部材等もある。掘立柱建物棟の建物は確認されていないが、林城や江戸時代の屋敷が使われていた時期に何らかの機能を備えた区画の可能性があり、第5区画として報告する。

石垣

4号石垣 (第182・184図: PL.33)

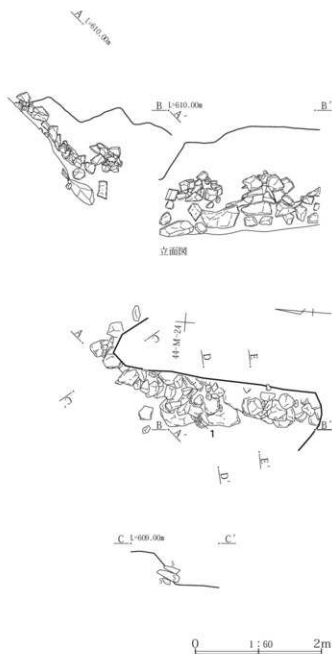
位置 第3区画と第6区画の接する調査区南端で、1号池と2号池南の側に築かれている。44区M-23・24グリッドに位置する。**重複** なし。**形状** 石垣は多くの部分で崩れており、現状で3～4段まで確認出来る。

規模 南北方向で3.8m高さは80cm前後である。

出土遺物 割れている上白1個出土。**時期** 湧水

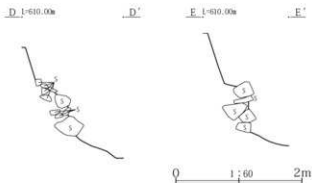
地である1号池と2号池の下流に位置する。調査範囲が狭く遺構の性格は不明であり、時期も特定できない。

所見 石垣の上部は崩れ落ちており、修復等はなされていなかった。西側にも石垣が積まれていたと思われるが調査区域外であった。石垣の南側は、急斜面となっており、1号池と2号池の湧水や、雨水が集まる場所での水の処理と地形の崩壊を防ぐ為に築かれた石垣であったと思われる。



第182図 4号石垣(1)

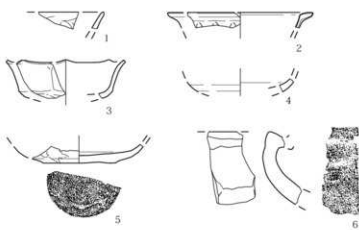




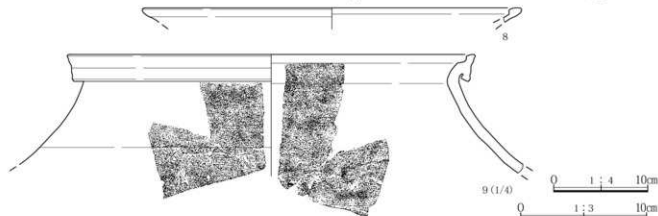
第184図 4号石垣(2)

遺構外出土遺物 (第183図)

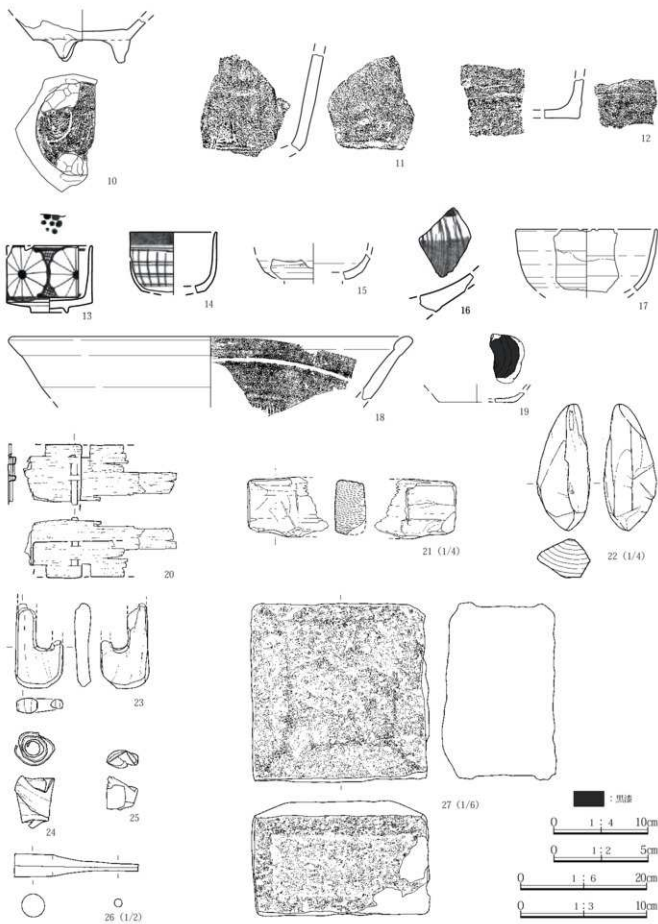
区画内より中近世を中心とした陶磁器・木製品・石製品が出土している。時期の明らかな陶磁器は、18点中12点が中世で、出土地点のわかる遺物は、12点中10点である。遺物の中心は中世であり、第5区画は中世段階を中心とした遺構と思われる。また、桜の皮2個と曲物の存在が注目される。桜の皮は、曲物に使用される材料と思われる、曲物を製作していた場所とも考えられる。



第185図 4号石垣出土遺物



第186図 第5区画遺構外出土遺物(1)



第187図 第5区画遺構外出土遺物(2)

第6区画

第4区画の東側、第7区画の南に位置する。5号堀の北側を第7区画、6号堀の西側が第4区画である。掘立柱建物10棟、柱穴3列、配石1基、土坑9基、溝2条、焼土1基が検出された。東側は開口されており、区画する堀はないが、掘立柱建物が整然と配置されている5号堀南で遺構の広がる範囲を第6区画とした。東側には37棟の掘立柱建物がある中近世屋敷があり、その間には掘立柱建物3棟や多くの土坑が存在する調査区がある。その地区はその他53区として報告する。

掘立柱建物

第6区画1号掘立柱建物（第189図：PL.34）

位置 1～10号掘立柱建物が建てられている地区の北西で、54区J-6～9、54区K-7・8グリッドに位置する。重複 1号配石。形状 2×2間の南北棟の総柱。規模 桁行1は4.50m、桁行2は4.34m、梁間1は3.40m、梁間2は3.70m。面積 17.30㎡。

方位 N-3～2°-E。出土遺物 なし。

時期 中近世と思われる。所見 西に下屋、東側の柱列は南北に延びる。

表20 第6区画1号掘立柱建物計測表

ピット番号	規模				旧ピット番号	
	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	柱間寸法(m)		
P 1	48	30	39	→P 2	2.13	136
P 2	38	34	18	→P 3	2.30	101
P 3	28	26	26	→P 4	1.80	22
P 4	36	25	20	→P 5	1.60	11
P 5	32	25	32	→P 6	2.03	14
P 6	36	35	54	→P 7	0.79	16
P 7	38	37	65	→P 8	1.70	18
P 8	26	25	20	→P 11	2.24	137
P 9	23	23	25	→P 10	4.52	13
P 10	28	28	21	→P 7	0.79	17
P 11	33	27	49	→P 4	2.18	23
P 12	38	36	56	→P 1	2.06	139
P 13	21	18	20	—	—	9
P 14	30	28	23	→P 15	0.80	10
P 15	25	25	13	—	—	8

第6区画2号掘立柱建物（第190図：PL.34）

位置 1～10号掘立柱建物が建てられている地区の北で、54区G・H-9・10グリッドに位置する。重複 なし。形状 2×2間の南北棟。規模 桁行1は5.56m、桁行2は5.04m、梁間1は4.24m、梁間2は4.66m。面積 23.02㎡。方位 N-2～1°-E。出土遺物 なし。時期 中近世と思われる。所見 東側の柱列は南に延びる。北側に接して3号柱穴列がありその北に5号堀がある。堀の北側は第7区画である。

表21 第6区画2号掘立柱建物計測表

ピット番号	規模				旧ピット番号	
	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	柱間寸法(m)		
P 1	34	33	45	→P 2	1.15	59
P 2	26	21.5	16	→P 3	2.40	60
P 3	30	23.5	42	→P 4	2.00	64
P 4	31	31	18	→P 5	2.10	51
P 5	23	23	26	→P 6	2.10	49
P 6	26	24	25	→P 7	2.60	43
P 7	24.5	22.5	28	→P 8	2.40	45
P 8	18	18	22	→P 9	2.30	46
P 9	30.5	25.5	23	→P 1	2.24	57
P 10	22	20	14	→P 4	2.12	53

第6区画3号掘立柱建物（第191図：PL.35）

位置 1～10号掘立柱建物が建てられている地区の北で、54区E-9、54区F-8～10、54区G-9・10グリッドに位置する。重複 なし。形状 1×2間の南北棟。規模 桁行1は4.36m、桁行2は3.80m、梁間1は3.66m、梁間2は3.34m。面積 14.03㎡。

方位 N-3～2°-W。出土遺物 なし。

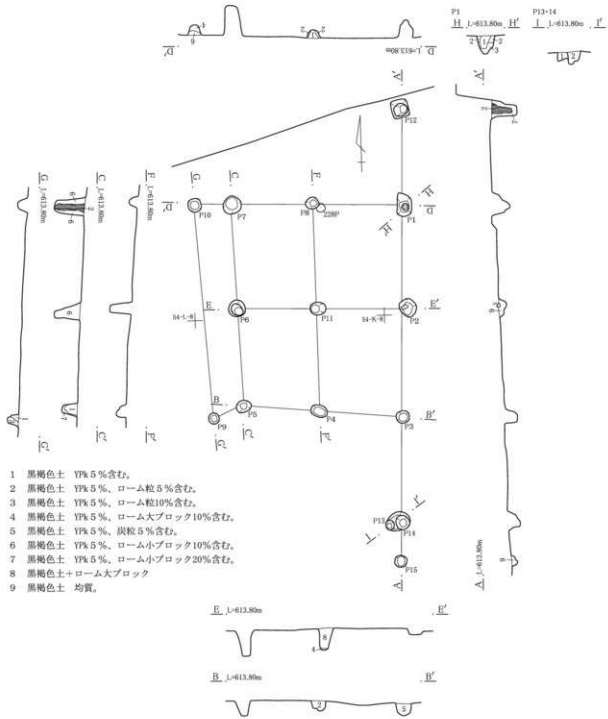
時期 中近世と思われる。所見 東側に柱列が伸びているので、別な建物があった可能性がある。

表22 第6区画3号掘立柱建物計測表

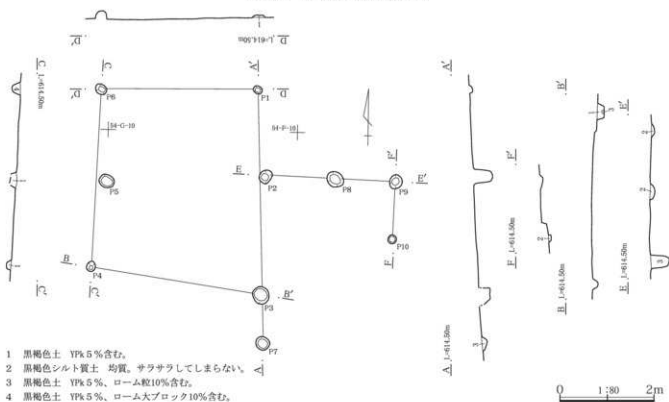
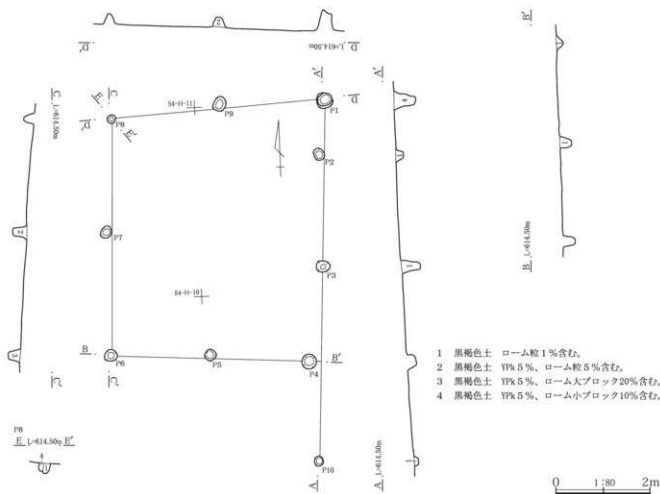
ピット番号	規模				旧ピット番号	
	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	柱間寸法(m)		
P 1	19	16	8	→P 2	1.80	93
P 2	29	25	42	→P 3	2.52	70
P 3	37	33	14	→P 4	3.75	86
P 4	22	19	12	→P 5	1.85	67
P 5	32	27	14	→P 6	1.90	66
P 6	25	20	18	→P 1	3.32	65
P 7	30	27	10	→P 3	1.40	87
P 8	35	32	12	→P 9	1.30	82
P 9	30	27	8	→P 2	1.50	81
P 10	18	18	6	→P 10	1.20	83
P 11	18	18	6	—	—	84



第188図 第6区画全体図



第189図 第6区画1号掘立柱建物



第6区画4号掘立柱建物 (第192図: PL.35)

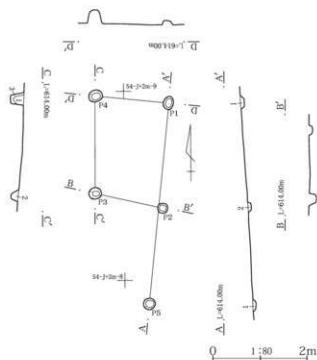
位置 1～10号掘立柱建物が建てられている地区の北西で、54区J-7・8グリッドに位置する。重複なし。形状 1×1間。規模 桁行1は2.20m、桁行2は2.06m、梁間1は1.46m、梁間2は1.55m。

面積 4.57㎡。方位 N-5°0′-E。出土遺物 なし。時期 中近世と思われる。所見 南側に柱列が伸びている。

表23 第6区画4号掘立柱建物計測表

ピット番号	規模			旧ピット番号
	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	
P 1	27	21.5	7	→P 2
P 2	21	20.5	8	→P 3
P 3	26	25	15	→P 4
P 4	30	25	30	→P 1
P 5	24.5	24.5	8	→P 2

- 1 黒褐色土 Yk 5%含む。
- 2 黒褐色土 Yk 5%、ローム小ブロック10%含む。
- 3 黒褐色土 Yk 5%、ローム小ブロック20%含む。



第192図 第6区画4号掘立柱建物

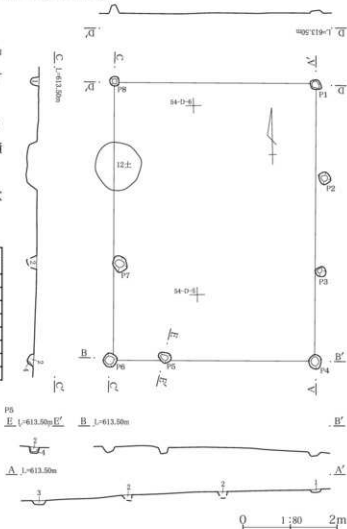
第6区画5号掘立柱建物 (第193図: PL.35)

位置 1～10号掘立柱建物が建てられている地区の中央部南寄りで、54区C・D-4～6グリッドに位置する。重複 6号掘立柱建物、12号土坑。形状 1×3間の南北棟。規模 桁行1は5.90m、桁行2は5.94m、梁間1は4.35m、梁間2は4.28m。面積 25.33㎡。方位 N-2°-E。出土遺物 なし。時期 中近世と思われる。所見 柱穴は一直線上でないものがある。

表24 第6区画5号掘立柱建物計測表

ピット番号	規模			旧ピット番号
	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	
P 1	21	20	7	→P 2
P 2	25.5	23	20	→P 3
P 3	21.5	21.5	12	→P 4
P 4	30	26	9	→P 5
P 5	28	22	14	→P 6
P 6	28	27.5	14	→P 7
P 7	35	28	22	→P 8
P 8	20	19	17	→P 1

- 1 黒褐色シルト質土 均質。サラサラしてしまらない。
- 2 黒褐色土 Yk 5%、ローム粒5%含む。
- 3 黒褐色土 暗褐色土小ブロック10%含む。
- 4 黒褐色土 Yk 5%、ローム小ブロック10%含む。



第193図 第6区画5号掘立柱建物

第6区画6号掘立柱建物 (第194図: PL.35・36)

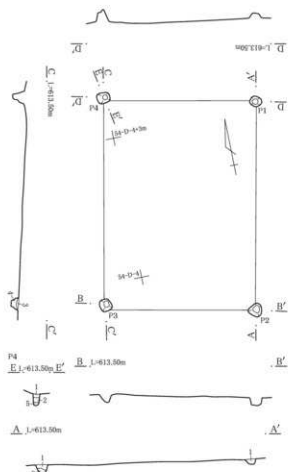
位置 1～10号掘立柱建物が建てられている地区の中央部南寄りで、54区C・D-3・4グリッドに位置する。

重複 5号掘立柱建物。 形状 1×1間。

規模 桁行1は4.50m、桁行2は4.40m、梁間1は3.20m、梁間2は3.24m。 面積 14.54㎡。 方位 N-12～11°-E。 出土遺物 なし。 時期 中近世と思われる。 所見 柱穴4本の掘立柱建物である。

表25 第6区画6号掘立柱建物計測表

ピット番号	規模			目ピット番号		
	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)			
P 1	25	21	12	→P 2	4.50	153
P 2	28	27	18	→P 3	3.20	154
P 3	26	24	18	→P 4	4.40	133
P 4	27	22.5	27	→P 1	3.24	147



- 1 黒褐色土 Y% 5% 含む。
- 2 黒褐色土 Y% 5%、ローム粒 5% 含む。
- 3 黒褐色シルト質土 均質。サラサラしてしまらない。
- 4 黒褐色土 Y% 5%、ローム小ブロック 10% 含む。
- 5 黒褐色土 ローム粒 5% 含む。固くしまる。

第194図 第6区画6号掘立柱建物

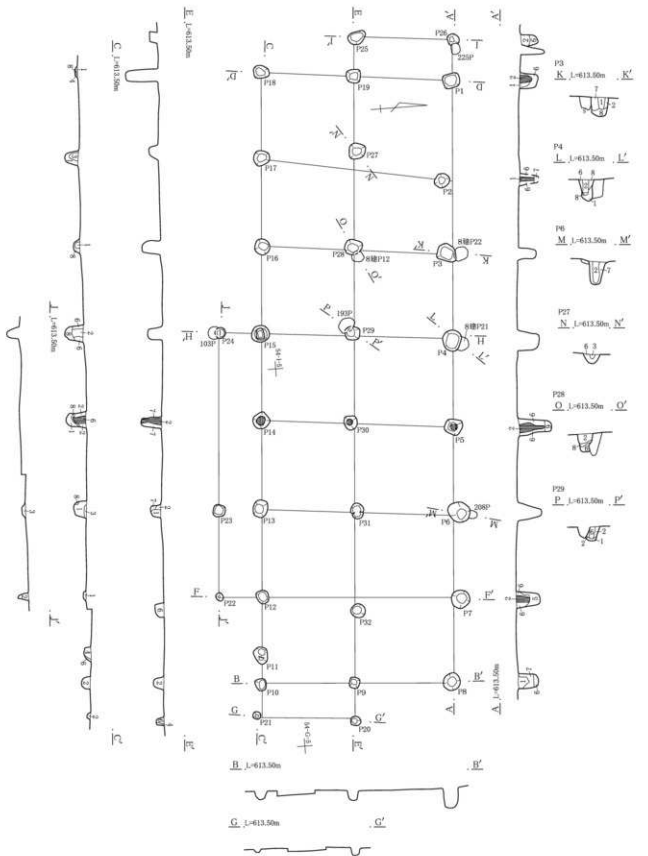
第6区画7号掘立柱建物 (第195・196図: PL.36)

位置 1～10号掘立柱建物 that 建てられている地区の中央部で、54区G・H・I-4・5、54区J-5・6グリッドに位置する。 重複 8～10号掘立柱建物、4号柱穴列、26号土坑。 形状 2×7間の東西棟、総柱で南・西へ突出を持つ。 規模 桁行1は12.80m、桁行2は13.00m、梁間1は4.10m、梁間2は4.40m。

面積 60.82㎡。 方位 N-86°-W。 出土遺物 なし。 時期 中近世と思われる。 所見 大きな竪と考えられる。

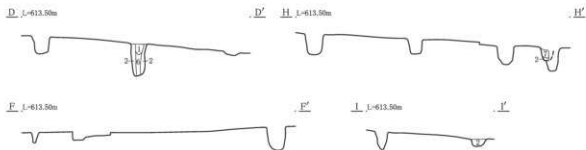
表26 第6区画7号掘立柱建物計測表

ピット番号	規模			目ピット番号		
	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)			
P 1	36	30	37	→P 2	2.12	162
P 2	30	29	48	→P 3	1.56	171
P 3	46	36	40	→P 4	1.86	177
P 4	43	38	46	→P 5	1.82	185
P 5	35	34	72	→P 6	1.80	203
P 6	46	42	54	→P 7	2.20	207
P 7	39	37	50	→P 8	1.86	212
P 8	38	35	44	→P 9	2.10	219
P 9	23	22	22	→P 10	2.00	123
P 10	25	23	18	→P 11	0.65	128
P 11	37	29	14	→P 12	1.20	127
P 12	28	25	7	→P 13	1.86	117
P 13	37	30	28	→P 14	1.86	107
P 14	34	32	44	→P 15	1.80	105
P 15	40	35	40	→P 16	1.85	104
P 16	32	31	16	→P 17	1.90	102
P 17	33	32	32	→P 18	1.80	166
P 18	32	26	8	→P 19	1.96	165
P 19	30	29	69	→P 1	2.08	164
P 20	22	19	17	→P 21	2.05	125
P 21	16	16	6	→P 10	0.72	129
P 22	18	15	21	→P 23	1.85	114
P 23	27	26	7	→P 24	3.76	106
P 24	23	—	26	→P 15	0.88	143
P 25	38	27	15	→P 26	2.04	163
P 26	—	23	37	→P 1	0.88	161
P 27	34	34	20	→P 28	2.04	173
P 28	34	31	38	→P 19	1.60	189
P 29	30	28	30	→P 17	2.00	189
P 30	29	28	45	→P 29	1.76	189
P 31	26	26	22	→P 3	2.00	189
P 32	29	29	19	→P 30	1.94	194
				→P 4	2.14	194
				→P 31	1.90	200
				→P 14	1.90	200
				→P 32	2.10	109
				→P 13	2.05	109
				→P 9	1.55	120
				→P 12	2.00	120



第195図 第6区画7号掘立柱建物(1)

第3章 林中原1遺跡



- 1 黒褐色土 Yk 5%含む。
- 2 黒褐色土 Yk 5%、ローム粒 5%含む。
- 3 黒褐色シルト質土 均質。サラサラしてしまらない。
- 4 暗褐色土 Yk 5%、ローム小ブロック10%含む。
- 5 黒褐色土 Yk 5%、ローム大ブロック20%含む。

- 6 黒褐色土 Yk 5%、ローム小ブロック10%含む。
- 7 黒褐色土 Yk 5%、ローム小ブロック20%含む。
- 8 黒褐色土+ローム大ブロック
- 9 黒褐色土 Yk 5%、ローム小ブロック 5%含む。

0 1:80 2m

第196図 第6区画7号掘立柱建物(2)

第6区画8号掘立柱建物 (第197図: PL.37)

位置 1～10号掘立柱建物が建てられている地区の中央部で、54区G・H・I-5・6グリッドに位置する。

重複 7・9・10号掘立柱建物、4号柱六列、26号土坑。

形状 2×5間の東西棟、南に張出を持つ。

規模 桁行1は9.00m、桁行2は9.12m、梁間1は4.20m、梁間2は4.20m。面積 43.53㎡。

方位 N-90°。出土遺物 なし。時期 中近世と思われる。所見 西側2間が総柱となっている。

表27 第6区画8号掘立柱建物計測表

ピット番号	掘柱			旧ピット番号
	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	
P 1	25	24	61	→P 2 1.90 36
P 2	23	23	53	→P 3 1.90 37
P 3	30	27	49	→P 4 1.10 182
P 4	33	26	13	→P 5 0.80 183
P 5	30	30	69	→P 6 1.80 206
P 6	28	27	53	→P 7 1.65 216
P 7	32.5	30	45	→P 8 4.20 217
P 8	27	26	22	→P 9 1.74 121
P 9	24	23	23	→P 10 1.82 110
P 10	26	25	29	→P 11 1.95 201
P 11	34	32	46	→P 12 1.90 195 →P 21 2.00
P 12	25	23	52	→P 13 1.85 190
P 13	21	19	40	→P 14 2.20 174
P 14	33	29	52	→P 1 1.95 168
P 15	23	22	21	→P 16 1.64 118 →P 8 0.80
P 16	21	20	22	→P 17 1.70 108
P 17	22	21	16	→P 18 0.70 199 →P 19 0.90
P 18	22	—	32	— — 197
P 19	28	26	38	→P 20 2.76 196
P 20	23	19	11	→P 12 0.90 176 →P 22 1.92
P 21	29	—	40	→P 3 2.15 186 →P 2 2.00
P 22	29	—	27	→P 12 2.20 178 →P 14 1.84

第6区画9号掘立柱建物 (第198図: PL.37)

位置 1～10号掘立柱建物が建てられている地区の中央部で、54区F・G-4・5、H・I-5グリッドに位置する。

重複 7・8・10号掘立柱建物、26号土坑。

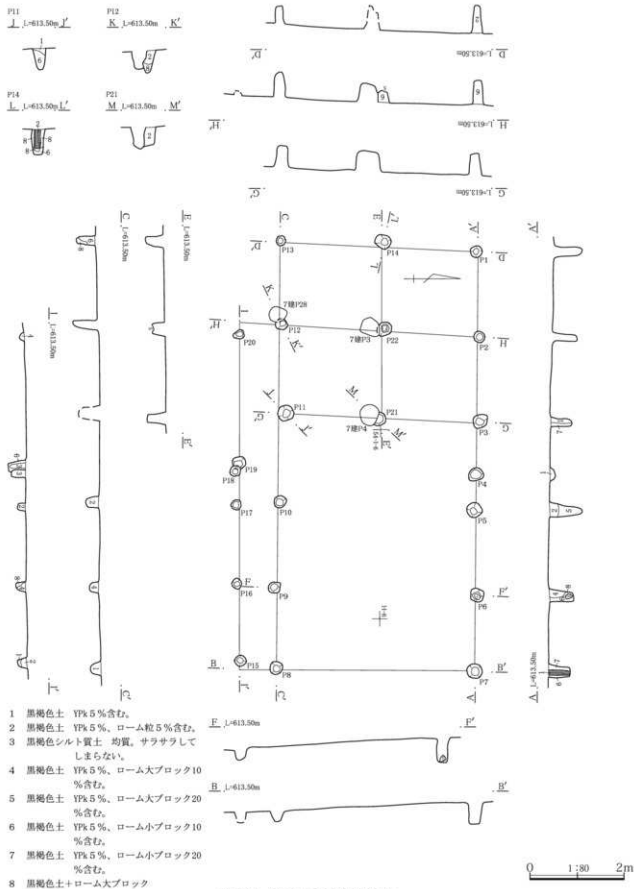
形状 1×6間の東西棟。規模 桁行1は

10.40m、梁間1は4.25m。面積 43.84㎡。方位 N-85～87°-W。

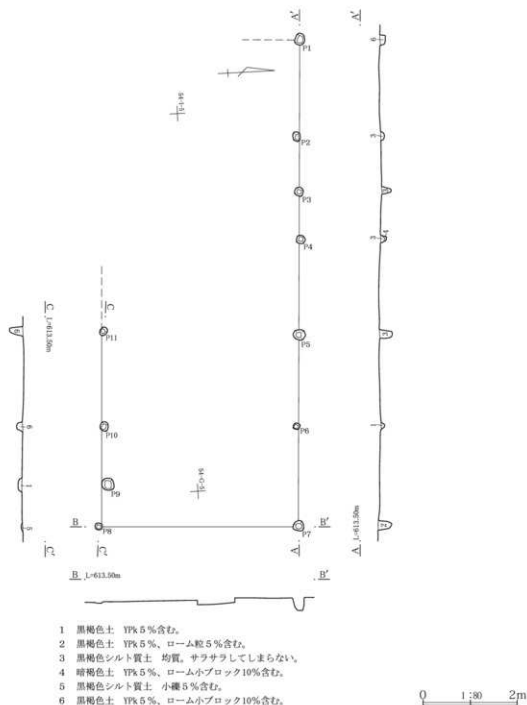
出土遺物 なし。時期 中近世と思われる。所見 南西部の柱穴確認出来なかった。

表28 第6区画9号掘立柱建物計測表

ピット番号	掘柱			旧ピット番号
	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	
P 1	24	20	11	→P 2 2.10 188
P 2	20	15	11	→P 3 1.15 202
P 3	18	17	21	→P 4 1.00 205
P 4	18	18	15	→P 5 2.05 209
P 5	26	22	26	→P 6 1.94 211
P 6	13.5	13	8	→P 7 2.14 124
P 7	22	22	28	→P 8 4.25 126
P 8	15	15	3	→P 9 0.95 132
P 9	26	26	9	→P 10 1.25 130
P 10	19	17	13	→P 11 2.05 116
P 11	18	15	30	— — 112



第197図 第6区画8号掘立柱建物



第198図 第6区画9号掘立柱建物

第6区画10号掘立柱建物 (第199図: PL.38)

位置 1～10号掘立柱建物が建てられている地区の中央部で、54区H～J-5・6グリッドに位置する。

重複 7～9号掘立柱建物、4号柱六列、26号土坑。

形状 1×3間の東西棟。規模 桁行1は6.35m、

桁行2は6.45m、梁間1は3.80m、梁間2は3.65m。

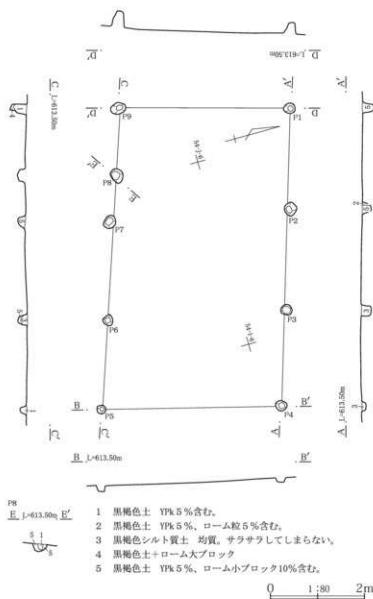
面積 23.75㎡。方位 N-73～71°-W。

出土遺物 なし。時期 中近世と思われる。所

見 梁間の中間に柱穴持たない。

表29 第6区画10号掘立柱建物計測表

ピット番号	規模			柱間寸法(m)	目ピット番号	
	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)			
P 1	24	22	25	→P 2	2.18	39
P 2	26	25	19	→P 3	2.14	181
P 3	23	22	23	→P 4	2.10	179
P 4	23	22	11	→P 5	3.84	204
P 5	19	18	13	→P 6	1.90	227
P 6	22	20	18	→P 7	2.10	192
P 7	30	25	19	→P 8	1.00	175
P 8	32	24	18	→P 9	1.44	172
P 9	32	24	36	→P 1	3.65	169



第199図 第6区画10号掘立柱建物

柱穴列

第6区画1号柱穴列 (第200図: PL.38)

位置 第6区画北部で、54区C-10・11グリッドに位置する。**重複** なし。**規模** 南北方向4.1m。ピット数とそれぞれの大きさ等は以下の表に示した。**出土遺物** なし。**時期** 第6区画1～10号掘立柱建物と同時期と考えられるので中近世と思われる。**所見** 北側は第7区画との境にある東西方向の5号堀に接している。第6区画1号柱穴列西には1～10号掘立柱建物群までの21mの間には造られていない。第6区画1～10号掘立柱建物の北と東を区切るための施設であったことが考えられる。

表30 第6区画1号柱穴列計測表

ピット番号	規模			旧ピット番号
	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	
P 1	26	24	22	→P 2 2.20
P 2	25	23	14	→P 3 2.00
P 3	28	21.5	12	—

第6区画3号柱穴列 (第200図: PL.38)

位置 第6区画北部で、54区E・F-11グリッドに位置する。**重複** なし。**規模** 東西方向9.3m。ピット数とそれぞれの大きさ等は以下の表に示した。**出土遺物** なし。**時期** 第6区画1～10号掘立柱建物と同時期と考えられるので中近世と思われる。**所見** 東西方向に掘られている第7区画との境にある5号堀の南側に接して造られている。第7区画と第6区画1～10号掘立柱建物を区切るための施設であったことが考えられる。

表31 第6区画3号柱穴列計測表

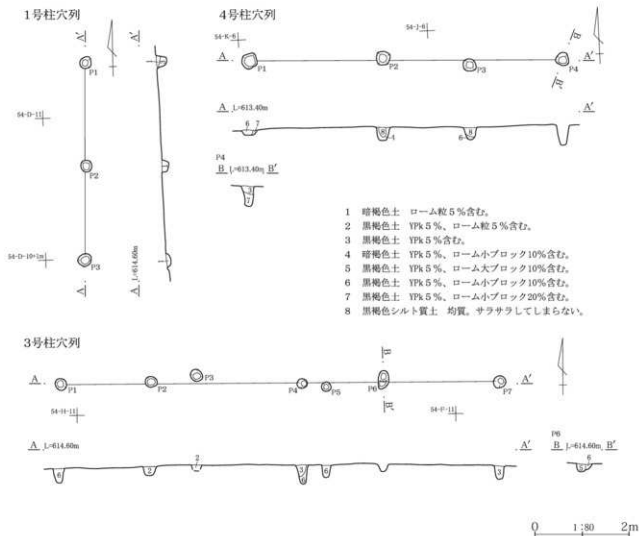
ピット番号	規模			旧ピット番号
	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	
P 1	26	23.5	32	→P 2 1.90
P 2	25	23	19	→P 3 0.96
P 3	27	23	12	→P 4 2.24
P 4	22	20	44	→P 5 0.50
P 5	20	19.5	27	→P 6 1.20
P 6	—	21	12	→P 7 2.50
P 7	26	25.5	33	—

第6区画4号柱穴列 (第200図: PL.38)

位置 第6区画南西部で、54区I・J-5グリッドに位置する。**重複** 7・8・10号掘立柱建物と重複している。**規模** 東西方向6.6m。ピット数とそれぞれの大きさ等は以下の表に示した。**出土遺物** なし。**時期** 第6区画掘立柱建物群と同時期と考えられるので中近世と思われる。**所見** 他の第6区画1・3号柱穴列と異なり、3棟の掘立柱建物と重複している。また他の柱穴列は掘立柱建物棟を区切るように造られていたが、掘立柱建物を区切る目的ではなさそうである。

表32 第6区画4号柱穴列計測表

ピット番号	規模			旧ピット番号
	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	
P 1	32	31	9	→P 2 2.84
P 2	29	28	32	→P 3 1.85
P 3	26	25	26	→P 4 2.00
P 4	28	28	42	—



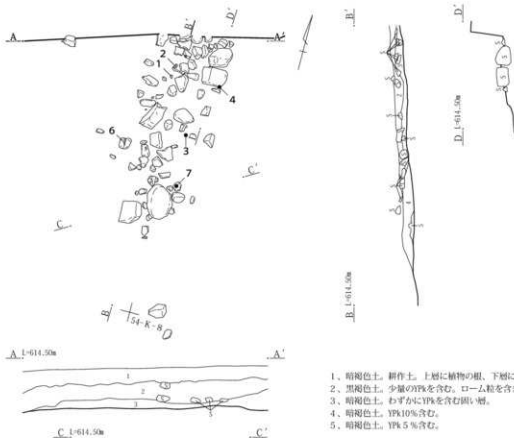
第200図 第6区画1・3・4号柱穴

配石

1号配石 (第201図: PL.39)

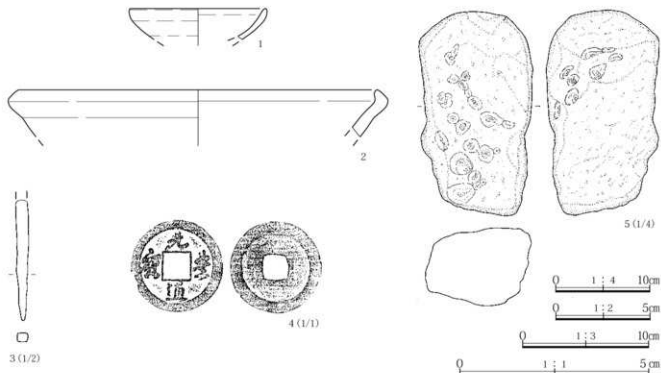
位置 第6区画北西部で、54区J・K-8・9グリッドに位置する。**重複** 第6区画1号掘立柱建物と重複し、掘立柱建物調査終了後下層で確認した。第6区画1号掘立柱建物より古い。**規模** 南北方向3.5m、東西方向1.4mの範囲に石が集中して出土している。石の多くは重なっていないが、重なっている部分でも2石程度であり石が出土する厚さ範囲は30cm以内である。

出土遺物 石の間から皿や中世の鉢、両面中央部に煤が残る平石、銭(元豊通宝・宋銭1078年初鑄)等、また覆土中からニホンジカの左の上顎白歯が3本以上出土している。**時期** 出土遺物から中世と思われる。**所見** 6堀の東側で、10棟調査されている掘立柱建物の北西部に位置する。石はさらに北側に続いていると思われる。石の出土状態から、企画性は認められない。一定の場所に石が集められたものと思われる。

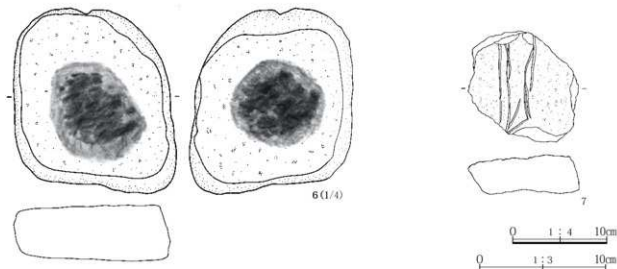


- 1、暗褐色土。耕作土。上層に植物の根、下層にYPKを少量含む。
- 2、黒褐色土。少量のYPKを含む。ローム粒を含まない。
- 3、暗褐色土。わずかにYPKを含む弱い層。
- 4、暗褐色土。YPK 10%含む。
- 5、暗褐色土。YPK 5%含む。

第201図 第6区画1号配石



第202図 第6区画1号配石出土遺物(1)



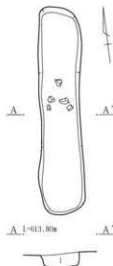
第203図 第6区画1号配石出土遺物(2)

土坑 (第204・205図: PL.39)

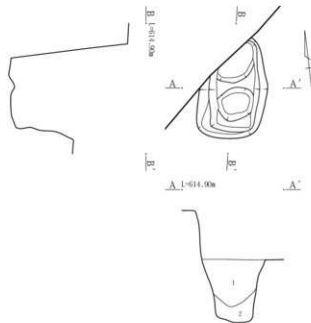
土坑25基が調査されており、その中の16基が縄文時代であり、9基が古代～中近世である。7棟の掘立柱建物の建てられていた区域ではなく、周辺部に多かった。土坑の中で2・6・7号土坑は、長方形で長軸1.3～1.93m、短軸1.05～1.26m、深さ0.97～1.40m、底面幅は

0.5～0.6mと細長く深く、底面が狭い構造となっている。7号土坑底面中央部はさらに深く掘られていた。この地域の縄文～古代に多く造られている陥穴である。出土遺物はなかったが、古代に属すると思われる。他の土坑は覆土等の特色から、中近世以降と思われる。

6-1号土坑



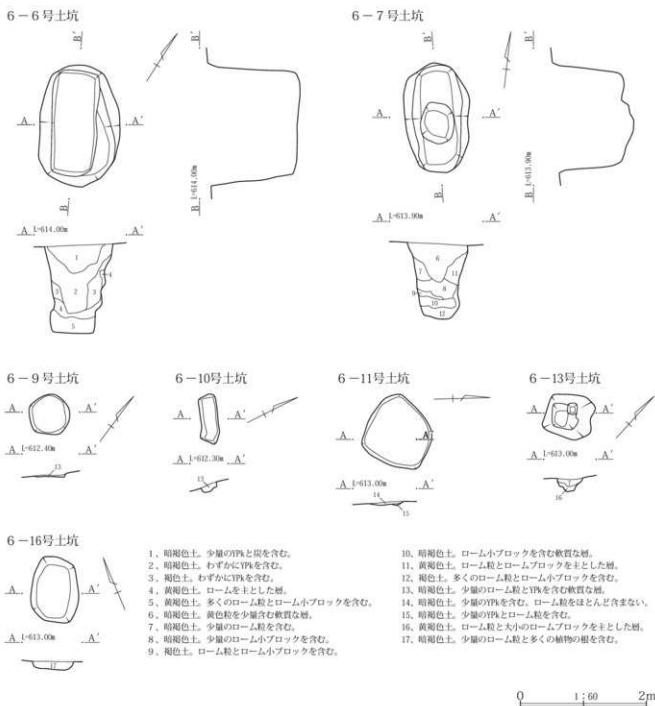
6-2号土坑



- 1、暗褐色土。ほぼ均一に全体的にVPを含む。
- 2、暗褐色土。多くのローム粉を含むがVPはほとんど含まない。



第204図 第6区画1号土坑(1)



第205図 第6区画1号土坑(2)

表33 第6区画土坑一覧表

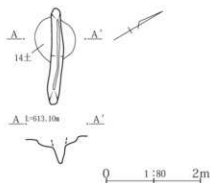
調査年度 (平成)	土坑 番号	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	方位	位置(グリッド)	形態	時代	遺物	備考
19	1	3.30	0.73	0.32	N-6°-E	54-H・I-7・8	長方形	中世か		
19	2	1.30	1.10	0.97	N-8°-E	54-I-9・10	—	古代以降		陥穴
19	6	1.93	1.26	1.40	N-31°-W	53-F・X-8	長円形	古代以降		陥穴
19	7	1.75	1.05	1.32	N-14°-W	54-D-7・8	長円形	古代以降		陥穴
19	9	0.65	0.63	0.04	N-6°-E	54-J-2	円形	中近		
19	10	0.80	0.30	0.14	N-73°-W	54-I-2	長方形	中近		
19	11	1.20	1.12	0.06	N-78°-E	54-E・G-2・3	方形	中近		
19	13	0.88	0.80	0.19	N-25°-E	54-C・D-2	方形	近現代		
19	16	1.02	0.75	0.17	N-26°-E	54-C-2	長円形	中近		

溝

第6区画1号溝 (第206図: PL.39)

位置 第6区画中央部南側、54区F-3グリッドに位置する。**重複** 溝の中央から北西部で14号土坑と重複している。**形状** 直線的に掘られている。**規模** 長さは2.08m。幅は0.18m×0.26m、深さは0.55m。

方位 N-57°-W。**出土遺物** なし。**時期・所見** 短く深い溝である。出土遺物はなく特定できない。周辺の遺構との関連で中近世段階に造られたものと思われる。



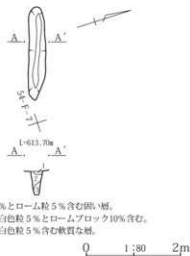
第206図 第6区画1号溝

第6区画2号溝 (第207図: PL.39)

位置 第6区画中央部、54区F-7グリッドに位置する。**重複** なし。**形状** 直線的に掘られている。

規模 長さは1.98m。幅は0.34m×0.36m、深さは0.53m。**方位** N-70°-W。**出土遺物** なし。

時期・所見 短く深い溝である。出土遺物はなく特定できない。周辺の遺構との関連で中近世段階に造られたものと思われる。



1. 暗褐色土。Yp%5%とローム粒5%含む微細な層。
2. 暗褐色土。Yp%と白色粒5%とロームブロック10%含む。
3. 暗褐色土。Yp%と白色粒5%含む軟質な層。

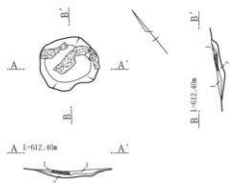
第207図 第6区画2号溝

焼土

第6区画1号焼土 (第208図: PL.39)

位置 第6区画南西端部で、54区I-2グリッドに位置する。**重複** なし。**形状** 少しゆがんでいるが円形。**規模** 直径0.46m、深さ0.08m。**出土遺物** なし。**時期** 出土遺物や重複等なく、時期は特定できない。周辺の遺構との関連で中近世と思われる。

所見 上部に炭が厚く堆積し、炭の下は、厚さ2~3cmの焼土となっている。焼土が厚く安定しているので、長期間使われたものと思われる。



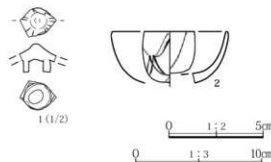
1. 暗褐色土。ローム粒・ローム小ブロック・焼土粒を含む。
2. 赤褐色焼土。全体が焼けて焼土化している。砂質。



第208図 第6区画1号焼土

遺構外出土遺物 (第188図)

特定の遺構に伴わない遺物が、第6区画から2個体出土している。磁器の水注の蓋のつまみ部分と18世紀後半代の肥前の染付碗の破片である。



第209図 第6区画遺構外出土遺物

第7区画

第6区画の北側に位置する。平成19年度国道部分の調査範囲は東西約20m南北約4mと狭かった。5号堀を南の第6区画との境、東側は7号堀、西側は、調査範囲が狭く区画する堀はなかったが、調査範囲までとして第7区画とした。調査の結果、掘立柱建物2棟、土坑1基が検出された。平成21年度に第7区画北側町道部分の発掘調査を行った。調査範囲は東西40m、南北43mの範囲であった。調査は第7区画北側で、町道と国道を繋ぐ道路部分の発掘調査も行われ、その範囲から9棟の掘立柱建物・遺物出土ピット2基・2号竪穴状遺構・土坑10基・溝6条・2棟の礎石建物が検出された。この範囲は他の第3・6・7区画と同じように多くの掘立柱建物を含む区画である。区画の東は1～6号溝、西側は9号掘立柱建物、北側は調査範囲までとした。

掘立柱建物

第7区画1号掘立柱建物（第211図：PL.40）

位置 町道部分の中央部、国道と繋がる南北方向の調査区、54区D～F-17・18グリッドに位置する。1～8号掘立柱建物が集中している。**重複** 2号掘立柱建物、2号竪穴状遺構、1号溝、10・13・20・21・30・33号土坑と重複している。造られた時期は近接すると思われる、新旧関係は明らかでない。**形状** 東西方向に長い2×4間である。**規模** 桁行1は8.40m、桁行2は8.36m、梁間1は3.60m、梁間2は3.10m。**面積** 28.42㎡。**方位** N-86°88' -W。**出土遺物** なし。**時期** 中近世と思われる。**所見** 東西方向の建物である。

表34 第7区画1号掘立柱建物計測表

ピット番号	規模				旧ピット番号	
	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	柱間寸法(m)		
P 1	28	20	44	→P 2	2.52	517
P 2	46	43	44	→P 3	2.08	179
				→P 9	3.42	
P 3	33	29	66	→P 4	4.10	169
P 4	94	74	50	→P 5	1.98	13土坑
P 5	25	19	44	→P 6	1.66	195
P 6	28	27	54	→P 7	2.10	196
P 7	28	28	71	→P 8	1.94	157
P 8	27	19	63	→P 9	2.13	164
P 9	40	34	50	→P 10	2.14	174
P 10	33	28	47	→P 11	1.56	502
P 11	29	28	54	→P 1	1.85	496

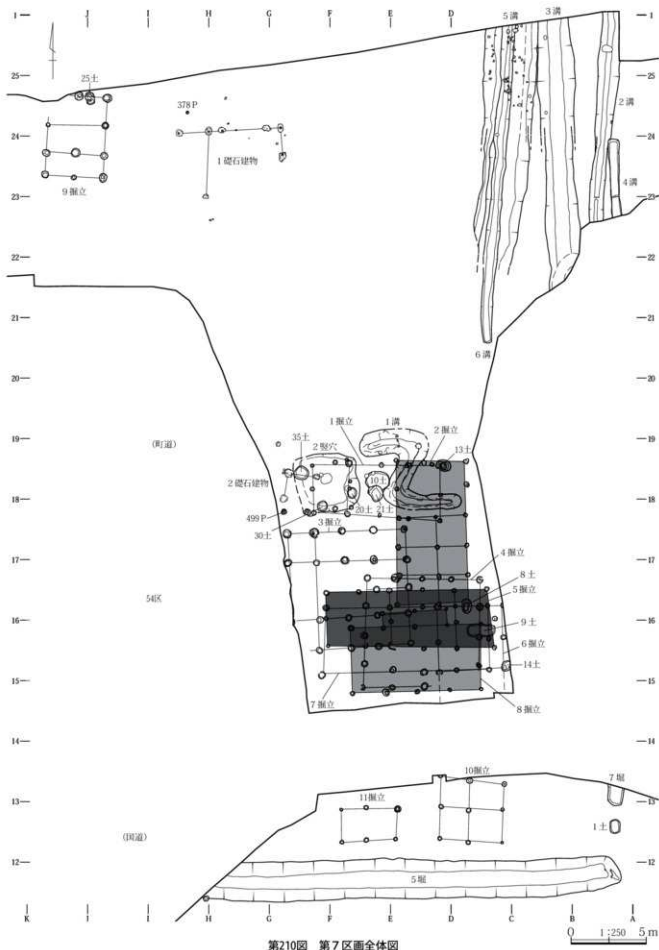
第7区画2号掘立柱建物（第212図：PL.40）

位置 町道部分の中央部、国道と繋がる南北方向の調査区、54区C・D-16～18グリッドに位置する。1～8号掘立柱建物が集中している。**重複** 1・3～6号掘立柱建物、1号溝、8・13号土坑と重複している。造られた時期は近接すると思われる、新旧関係は明らかでない。P 8は6号掘立柱建物のP 2と同じ柱穴である。

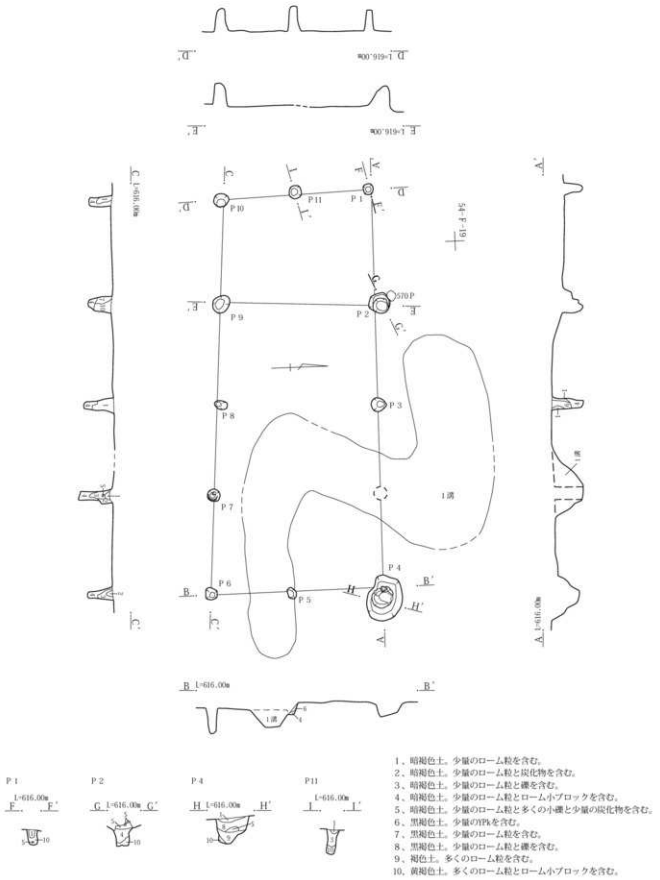
形状 南北方向に長い2×5間である。**規模** 桁行1は9.20m、桁行2は9.56m、梁間1は4.72m、梁間2は4.52m。**面積** 44.96㎡。**方位** N-0°2' -W。**出土遺物** なし。**時期** 中近世と思われる。**所見** 南北方向の建物である。南側は、2×3間の総柱であるが、北側壁2間は調査段階で中央に柱を持たない構造としたが、整理段階でP 2を柱穴として追加報告する。

表35 第7区画2号掘立柱建物計測表

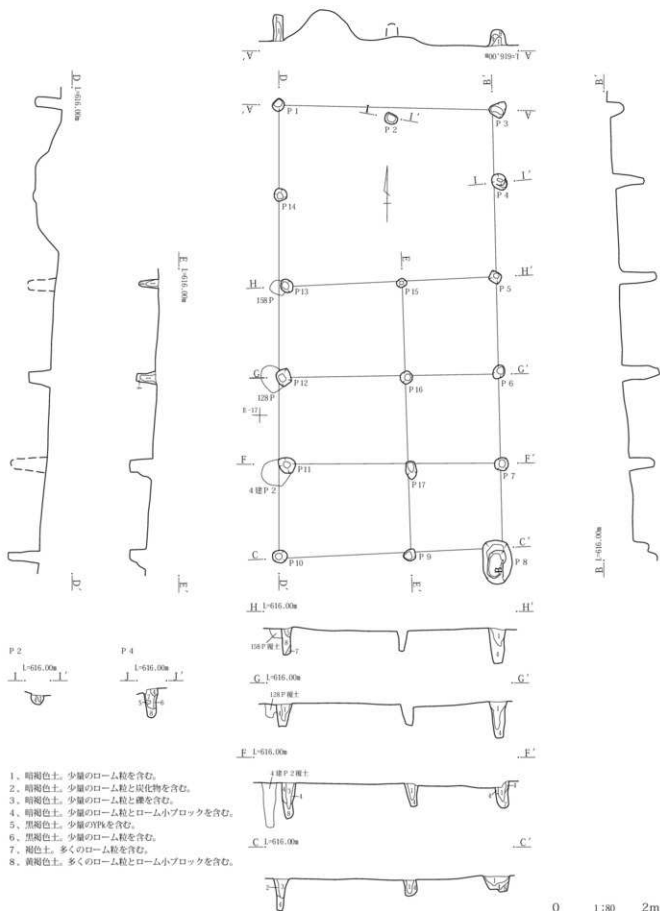
ピット番号	規模				旧ピット番号	
	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	柱間寸法(m)		
P 1	26	23	55	→P 2	2.42	309
P 2	27	22	28	→P 3	2.27	166
P 3	37	33	34	→P 4	1.50	167
P 4	38	30	62	→P 5	2.02	172
P 5	25	23	73	→P 6	2.02	126
P 6	32	24	77	→P 7	1.96	122
P 7	29	28	54	→P 8	2.04	303
P 8	93	61	50	→P 9	1.84	8土坑
P 9	27	24	34	→P 10	2.74	159
P 10	31	27	68	→P 11	1.95	119
P 11	38	33	76	→P 12	1.84	133
P 12	34	30	48	→P 13	1.95	127
P 13	31	28	58	→P 14	1.92	182
P 14	27	27	56	→P 1	1.98	329
P 15	20	18	42	→P 5	2.00	311
				→P 13	2.46	
P 16	28	26	30	→P 6	1.96	301
				→P 12	2.65	
P 17	40	23	48	→P 7	1.93	140
				→P 11	2.61	



第210图 第7区画全体图



第211図 第7区画1号掘立柱建物



1. 暗褐色土。少量のローム粒を含む。
2. 暗褐色土。少量のローム粒と炭化物を含む。
3. 暗褐色土。少量のローム粒と礫を含む。
4. 暗褐色土。少量のローム粒とローム小ブロックを含む。
5. 黒褐色土。少量の骨片を含む。
6. 黒褐色土。少量のローム粒を含む。
7. 褐色土。多くのローム粒を含む。
8. 黄褐色土。多くのローム粒とローム小ブロックを含む。

第212図 第7区画2号掘立柱建物

第7区画3号掘立柱建物 (第213図: PL.41)

位置 町道部分の中央部、国道と繋がる南北方向の調査区、54区D～F-15～17グリッドに位置する。1～8号掘立柱建物が集中している。 **重複** 2・4・5・7・8号掘立柱建物と重複している。造られた時期は近接すると思われる、新旧関係は明らかでない。 **形状** 西側が調査区域外となっており、全体を調査することが出来なかった。東西方向にさらに広がる可能性が考えられる。調査出来た範囲で4×4間である。 **規模** 桁行1は7.56m、桁行2は7.74m、梁間1は6.04m、梁間2は5.96m。 **面積** 59.55㎡以上。 **方位** N-2～3°-W。 **出土遺物** 9世紀後半須恵器底部出土。

時期 中近世と思われる。 **所見** 南北方向4×4間の建物で、中心部の柱穴3本が掘られていないが、ほぼ総柱の建物と思われる。現状では西側の側柱中央部がないので、西側にさらに柱列が延びることが考えられる。

表36 第7区画3号掘立柱建物計測表

ピット番号	規模			目ピット番号	
	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)		
P 1	60	56	100	→P 2 1.86	564
P 2	64	60	94	→P 3 1.80	500
P 3	46	46	99	→P 4 2.08	308
P 4	47	46	96	→P 5 2.04	162
P 5	45	38	75	→P 6 2.03	310
P 6	50	42	95	→P 7 1.84	306
P 7	49	42	70	→P 8 1.68	118
P 8	44	39	63	→P 18 2.04	121
P 9	40	35	40	→P 11 1.81	431
P 10	45	42	55	→P 12 2.08	438
P 11	44	42	45	→P 20 2.02	436
P 12	44	38	44	→P 14 1.90	563
P 13	52	44	91	→P 15 1.90	497
P 14	40	37	68	→P 16 1.94	178
P 15	53	51	87	→P 6 2.15	129
P 16	56	48	75	→P 7 2.14	143
P 17	42	41	94	→P 19 1.90	317
P 18	39	38	63	→P 21 1.75	465
P 19	42	39	64	→P 13 3.90	—
P 20	46	42	84		
P 21	(37)	(11)	(81)		

第7区画4号掘立柱建物 (第214図: PL.41)

位置 町道部分の中央部、国道と繋がる南北方向の調査

区、54区C～E-14～16グリッドに位置する。1～8号掘立柱建物が集中している。 **重複** 2・3・5～8号掘立柱建物、8・9号土坑と重複している。造られた時期は近接すると思われる、新旧関係は明らかでない。

形状 南東コーナー部分の2本の柱穴が確認されていないが、東西方向に長い4×4間と思われる。

規模 桁行1は4.44m以上、桁行2は7.44m、梁間1は5.96m以上、梁間2は7.22m。 **面積** 53.70㎡以上。

方位 N-88～90°-W。 **出土遺物** なし。

時期 中近世と思われる。 **所見** 東西方向4×4間の建物と思われる。内側の柱穴は確認されていない。

表37 第7区画4号掘立柱建物計測表

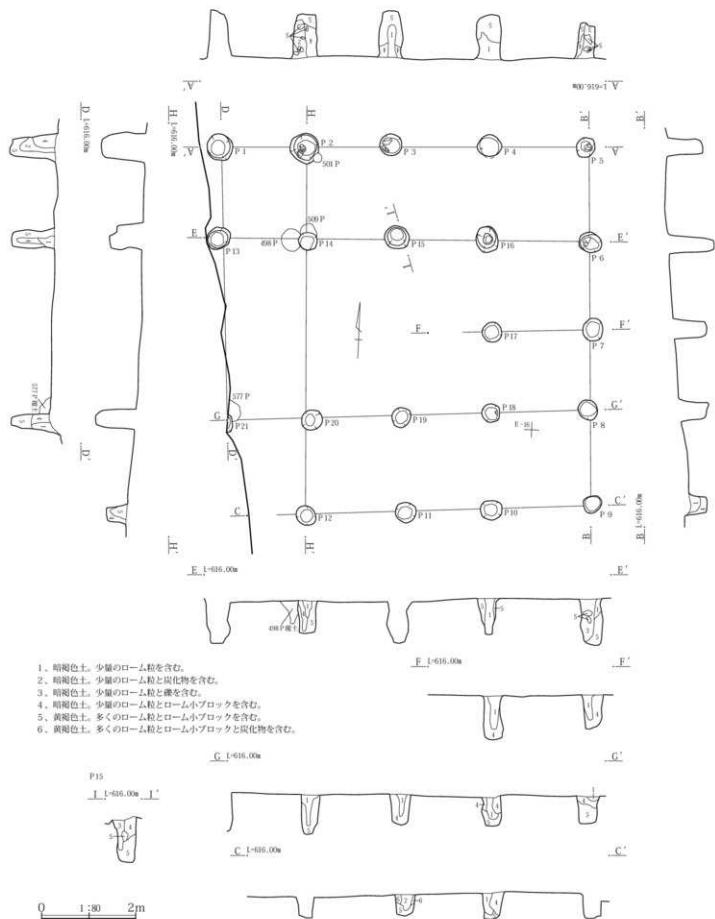
ピット番号	規模				目ピット番号
	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	柱間寸法(m)	
P 1	44	42	64	→P 2 1.76	177
P 2	52	49	92	→P 3 1.85	134
P 3	35	30	70	→P 4 1.91	135
P 4	34	31	63	→P 5 1.90	142
P 5	44	41	76	→P 6 1.84	187
P 6	50	43	62	→P 7 1.96	132
P 7	37	36	59	→P 8 1.90	149
P 8	39	24	48	—	124
P 9	49	41	38	→P 10 2.14	429
P 10	40	32	46	→P 11 1.90	523
P 11	31	(28)	35	→P 12 1.64	486
P 12	41	39	31	→P 13 1.84	519
P 13	46	40	36	→P 14 2.00	484
P 14	40	40	62	→P 1 1.82	112

第7区画5号掘立柱建物 (第215図: PL.42)

位置 町道部分の中央部、国道と繋がる南北方向の調査区、54区C～F-15・16グリッドに位置する。1～8号掘立柱建物が集中している。 **重複** 2・4・6～8号掘立柱建物と重複している。造られた時期は近接すると思われる、新旧関係は明らかでない。 **形状** 西側が調査区域外となっており、全体を調査することが出来なかった。東西方向にさらに長い2×5間と思われる。

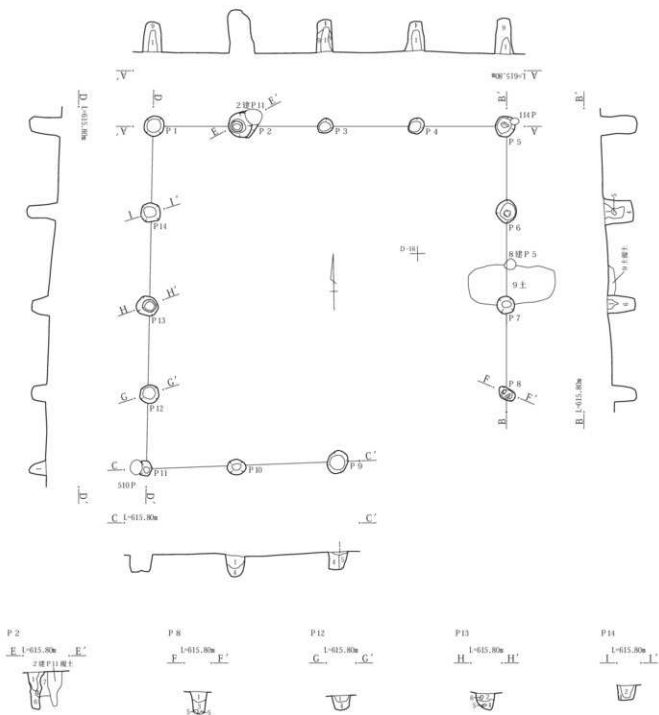
規模 桁行1は10.64m、桁行2は11.00m、梁間1は3.86m、梁間2は3.52m。 **面積** 39.67㎡。 **方位** N-89°-W。 **出土遺物** なし。 **時期** 中近世と思われる。

所見 外柱は、ほぼ2m前後の間隔で柱を持つ。内部は二間と思われる。東端のP 7の柱は、少し外側に張り出しているが、柱穴が内側に向かって傾斜しており、掘立柱建物に伴う柱穴と思われる。



1. 暗褐色土。少量のローム粒を含む。
2. 暗褐色土。少量のローム粒と炭化物を含む。
3. 暗褐色土。少量のローム粒と礫を含む。
4. 暗褐色土。少量のローム粒とローム小ブロックを含む。
5. 黄褐色土。多くのローム粒とローム小ブロックを含む。
6. 黄褐色土。多くのローム粒とローム小ブロックと炭化物を含む。

第213図 第7区画3号掘立柱建物



1. 暗褐色土。少量のローム粒を含む。
2. 暗褐色土。少量のローム粒と炭化物を含む。
3. 暗褐色土。少量のローム粒と礫を含む。
4. 暗褐色土。少量のローム粒とローム小ブロックを含む。
5. 黒褐色土。少量のローム粒を含む。
6. 黄褐色土。多くのローム粒とローム小ブロックを含む。
7. 地土。

0 1:80 2m

第214図 第7区画4号掘立柱建物

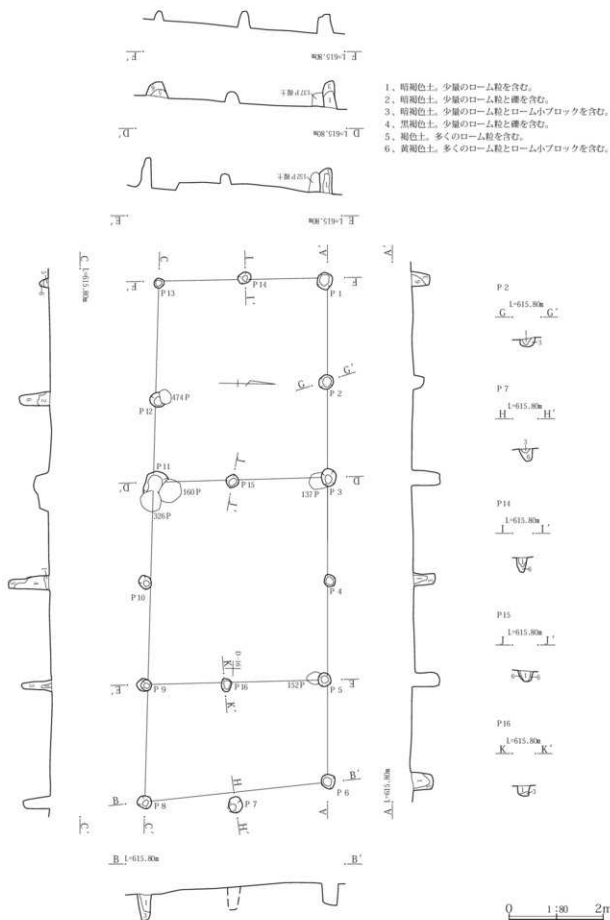
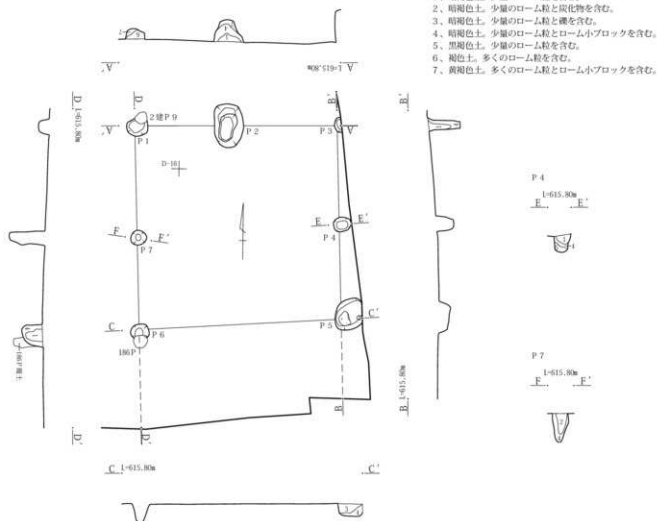


表38 第7区画5号掘立柱建物計測表

ピット番号	規模				旧ピット番号	
	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	柱間寸法(m)		
P 1	34	32	39	→ P 2	2.16	459
P 2	32	28	22	→ P 3	2.07	192
P 3	38	32	60	→ P 4	2.14	138
P 4	27	24	45	→ P 5	2.08	117
P 5	28	27	55	→ P 6	2.16	153
P 6	32	31	45	→ P 7	2.00	113
P 7	34	29	(46)	→ P 8	1.90	352
P 8	29	27	56	→ P 9	2.48	321
P 9	31	27	64	→ P 10	2.16	314
P 10	28	24	86	→ P 11	2.08	163
P 11	(50)	(48)	32	→ P 12	1.78	161
P 12	32	29	64	→ P 13	2.49	440
P 13	22	22	19	→ P 14	1.39	505
P 14	26	26	36	→ P 1	1.12	472
P 15	26	25	23	→ P 3	2.02	108
				→ P 11	1.64	
				→ P 9	1.70	
P 16	27	21	21	→ P 5	2.08	151



- 1、暗褐色土。少量のローム粒を含む。
- 2、暗褐色土。少量のローム粒と炭化物を含む。
- 3、暗褐色土。少量のローム粒と礫を含む。
- 4、暗褐色土。少量のローム粒とローム小ブロックを含む。
- 5、黒褐色土。少量のローム粒を含む。
- 6、褐色土。多くのローム粒を含む。
- 7、黄褐色土。多くのローム粒とローム小ブロックを含む。

第216図 第7区画6号掘立柱建物

第7区画6号掘立柱建物 (第216図: PL.42)

位置 町道部分の中央部、国道と繋がる南北方向の調査区、54区C・D-15・16グリッドに位置する。1～8号掘立柱建物が集まっている。**重複** 2・4・5・7・8号掘立柱建物、8・9・14号土坑と重複している。造られた時期は近接すると思われる、新旧関係は明らかでない。**形状** 全体は不明である。現状で2×2間まで確認出来る。**規模** 桁行1は4.08m以上、桁行2は4.32m以上、梁間1は4.24m、梁間2は4.24m。**面積** 17.98㎡以上。**方位** N-2°-W。**出土遺物** なし。**時期** 中近世と思われる。**所見** さらに南側に延びる南北方向に長い建物と思われる。しかし南側が調査区域外となっており、全体は不明である。

表39 第7区画6号掘立柱建物計測表

ビット番号	規模				旧ビット番号	
	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	柱間寸法(m)		
P 1	46	38	22	→P 2	1.90	184
P 2	92	62	47	→P 3	2.42	8土坑
P 3	(30)	(29)	68	→P 4	2.10	320
P 4	37	30	37	→P 5	1.88	313
P 5	75	62	24	→P 6	4.48	14土坑
P 6	39	(30)	44	→P 7	2.00	102
P 7	32	31	76	→P 1	2.36	103

第7区画7号掘立柱建物 (第217図: PL.43)

位置 町道部分の中央部、国道と繋がる南北方向の調査区、54区C～E-15・16グリッドに位置する。1～8号掘立柱建物が集まっている。**重複** 3～6・8号掘立柱建物、8・9号土坑と重複している。造られた時期は近接すると思われる、新旧関係は明らかでない。**形状** 東西方向に長い2×5間と思われる。**規模** 桁行1は10.92m、桁行2は10.68m、梁間1は4.24m、梁間2は4.20m。**面積** 45.86㎡。**方位** N-89°-E。**出土遺物** なし。**時期** 中近世と思われる。**所見** 2×5間の建物と思われる。

表40 第7区画7号掘立柱建物計測表

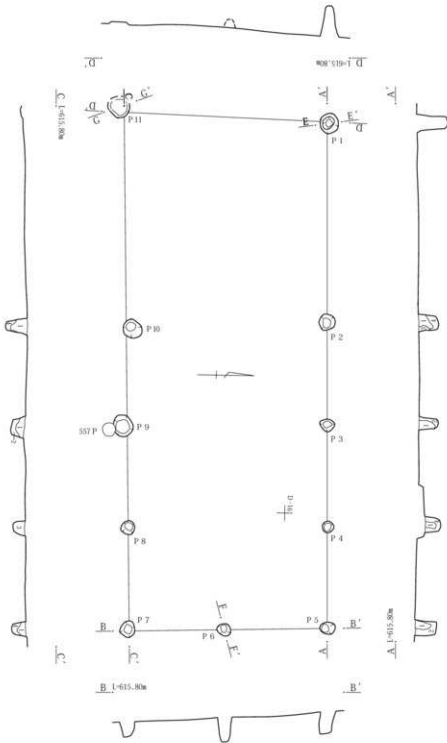
ビット番号	規模				旧ビット番号	
	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	柱間寸法(m)		
P 1	41	36	62	→P 2	4.34	464
P 2	35	34	43	→P 3	2.13	116
P 3	32	27	42	→P 4	2.16	109
P 4	25	25	36	→P 5	2.16	123
P 5	32	26	46	→P 6	2.14	131
P 6	30	26	52	→P 7	2.02	105
P 7	34	31	31	→P 8	2.18	147
P 8	29	28	33	→P 9	2.10	101
P 9	47	40	29	→P 10	2.13	344
P 10	42	36	46	→P 11	1.94	428
P 11	50	44	36	→P 1	4.33	526

第7区画8号掘立柱建物 (第218図: PL.43)

位置 町道部分の中央部、国道と繋がる南北方向の調査区、54区C～E-14～16グリッドに位置する。1～8号掘立柱建物が集まっている。**重複** 3～7号掘立柱建物、8・9号土坑と重複している。造られた時期は近接すると思われる、新旧関係は明らかでない。**形状** 東西方向に長い2×4間で北側に2間幅の張出を持つ。**規模** 桁行1は8.60m、桁行2は8.48m、梁間1は4.32m、梁間2は4.28m。**面積** 38.91㎡。**方位** N-88°-E。**出土遺物** なし。**時期** 中近世と思われる。**所見** 2×4間の北側に3間幅の庇を持つ建物と思われる。

表41 第7区画8号掘立柱建物計測表

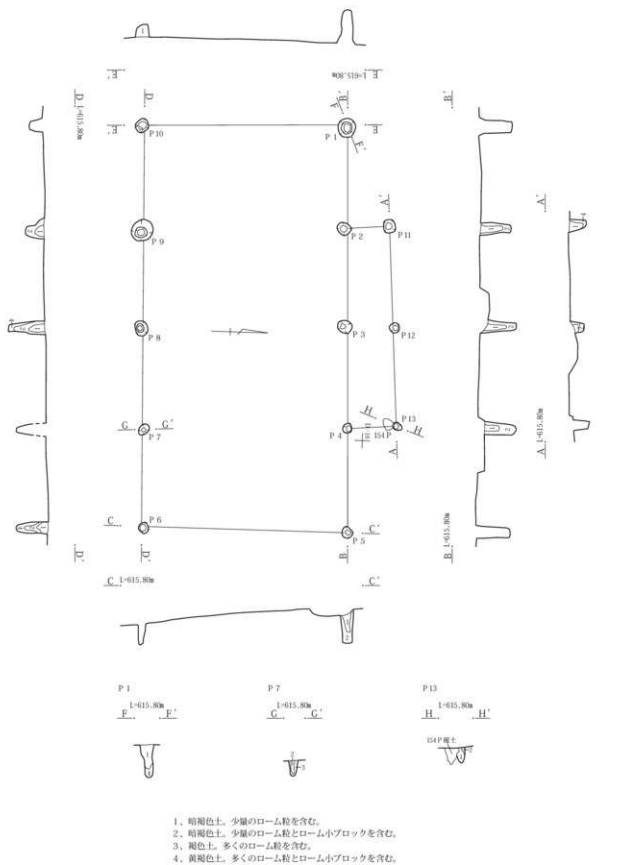
ビット番号	規模				旧ビット番号	
	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	柱間寸法(m)		
P 1	40	36	70	→P 2	2.13	456
P 2	29	25	64	→P 3	2.06	120
P 3	31	26	78	→P 4	2.16	106
P 4	22	20	66	→P 5	2.20	107
P 5	26	24	72	→P 6	2.76	130
P 6	23	22	44	→P 7	2.08	319
P 7	28	19	35	→P 8	2.16	586
P 8	33	26	78	→P 9	2.02	504
P 9	48	43	40	→P 10	2.26	433
P 10	31	28	26	→P 11	3.00	492
P 11	28	25	36	→P 12	2.17	111
P 12	21	21	32	→P 13	2.08	191
P 13	21	16	36	→P 4	1.02	155



- 1、暗褐色土。少量のローム粒を含む。
- 2、暗褐色土。少量のローム粒とローム小ブロックを含む。
- 3、灰褐色土。少量のローム粒を含む。
- 4、黄褐色土。多くのローム粒とローム小ブロックを含む。

0 1:80 2m

第217図 第7区画7号掘立柱建物



第218図 第7区画8号掘立柱建物

第7区画9号掘立柱建物 (第219図: PL.44)

位置 町道部分の中央部、西側の調査区、重複して造られている1～8号掘立柱建物群の北西に位置する。54区1・J-23・24グリッドに位置する。**重複** 25号土坑と重複している。**形状** 南北方向に長い2×3間。

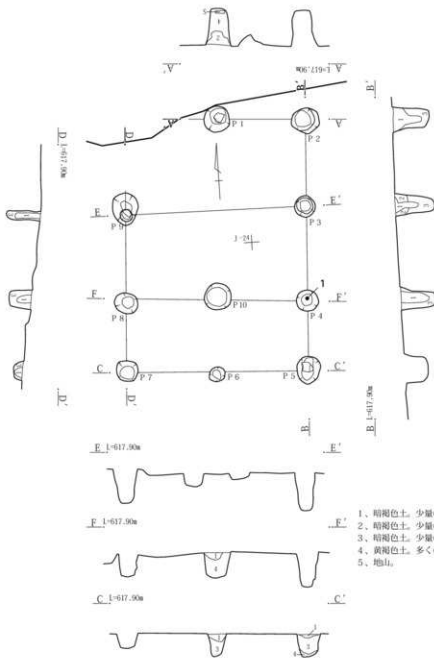
規模 桁行1は5.36m、桁行2は3.86m以上、梁間1は3.84m、梁間2は2.44m以上。**面積** 20.45㎡。

方位 N-3°~4°-E。**出土遺物** 中世内耳土器小破片出土。**時期** 中近世と思われる。**所見** 南北方向に長い2×3間の建物と思われるが北側は、調査区域外である。さらに北側に延びる可能性があ

る。北西コーナーに想定される柱穴は調査区域外となっているので、確認出来なかった。

表42 第7区画9号掘立柱建物計測表

ピット番号	規模			柱間寸法(m)	目ピット番号
	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)		
P 1	56	56	76	→P 2	396
P 2	59	52	78	→P 3	397
P 3	46	44	84	→P 4	398
P 4	46	45	73	→P 5	395
P 5	59	50	46	→P 6	389
P 6	36	31	48	→P 7	393
P 7	44	44	30	→P 8	414
P 8	50	42	46	→P 9	415
P 9	26	24	72	→P 3	3.80
P 10	58	56	54	→P 4	1.92
				→P 8	1.87



第219図 第7区画9号掘立柱建物

- 1、暗褐色土。少量のローム粒を含む。
- 2、暗褐色土。少量のローム粒と炭化物を含む。
- 3、暗褐色土。少量のローム粒とローム小ブロックを含む。
- 4、黄褐色土。多くのローム粒とローム小ブロックを含む。
- 5、地山。

第7区画10号掘立柱建物(旧第7区画1号掘立柱建物)

(第220図：PL.44)

位置 国道部分と町道部分の交わる国道部分北端、54区C・D-12・13グリッドに位置する。**重複** なし。

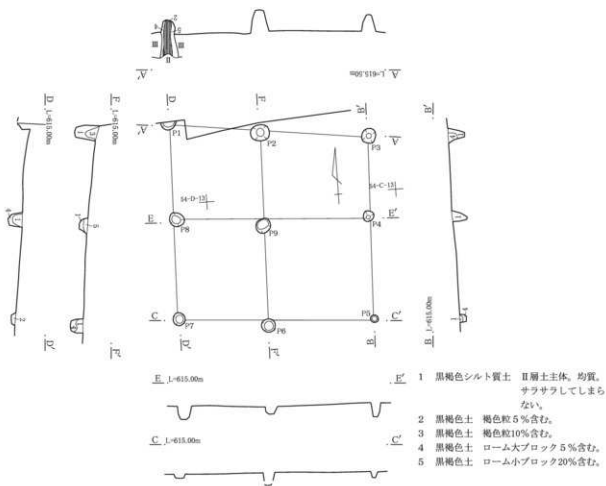
形状 2×2間の竪柱。**規模** 桁行1は4.15m、桁行2は4.25m、梁間1は3.85m、梁間2は4.15m。

面積 16.57㎡。**方位** N-83°~86°-W。

出土遺物 なし。**時期** 中近世と思われる。**所見** 南に5号堀があり、堀を境に堀の南側は第6区画であり、北側が第7区画である。第7区画には11棟の掘立柱建物がありその中で最も南に位置する。西に接して第7区画11号掘立柱建物がある。

表43 第7区画10号掘立柱建物計測表

ピット番号	規模				旧ピット番号
	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	柱間寸法(m)	
P 1	—	33.5	30	→P 2	1.95
P 2	40	33.5	47	→P 3	2.30
P 3	31	29.5	36	→P 4	1.70
P 4	22.5	22	34	→P 5	2.15
P 5	16	16	13	→P 6	2.25
P 6	29	28	28	→P 7	1.90
				→P 9	2.13
P 7	27	25.5	8	→P 8	2.10
				→P 9	1.85
P 8	32	28.5	30	→P 1	2.05
				→P 4	2.25
P 9	31.5	30	18	→P 2	1.90



0 1:80 2m

第220図 第7区画10号掘立柱建物

第7区画11号掘立柱建物(旧第7区画2号掘立柱建物)
(第221図: PL.44)

位置 国道部分と町道部分の交わる国道部分北端、54区D・E-12グリッドに位置する。 **重複** なし。

形状 1×2間の東西棟。 **規模** 桁行1は3.55m、桁行2は3.70m、梁間1は2.01m、梁間2は2.16m。

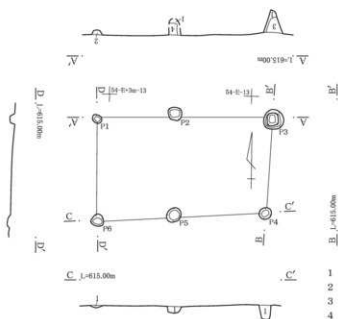
面積 7.70㎡。 **方位** N-86°-89°-E。

出土遺物 なし。 **時期** 中近世と思われる。 **所見** 南に5号堀があり、堀を境に堀の南側は第6区画で

あり、北側が第7区画である。第7区画には11棟の掘立柱建物がありその中で最も南に位置する。東に接して第7区画10号掘立柱建物がある。

表44 第7区画11号掘立柱建物計測表

ピット番号	規模			柱間寸法(m)	目ピット番号	
	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)			
P.1	20	17	10	→P.2	1.64	2
P.2	28	27	37	→P.3	2.07	5
P.3	42	41.5	48	→P.4	2.01	8
P.4	26	24	31	→P.5	1.93	9
P.5	33	28	15	→P.6	1.62	4
P.6	26	25	7	→P.1	2.16	3



第221図 第7区画11号掘立柱建物

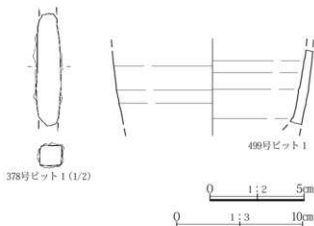
遺物出土ピット (第223図)

9号掘立柱建物に近い378号ピットと1号掘立柱建物または3号掘立柱建物に近い499号ピットから遺物が出土している。これらのピットは、掘立柱建物の一部では7(54区)-378号ピット(54-H-24)



第223図 第7区画遺物出土ピット

ないが、関連性が考えられるのでここで報告する。378号ピットからは用途がわからない鉄、499号ピットからは近世以降の陶器壺または徳利が出土している。



第224図 第7区画ピット出土遺物

- 1 黒褐色シルト質土 均質。サラサラしてしまらない。
- 2 黒褐色土 褐色粒5%含む。
- 3 黒褐色土 褐色粒10%含む。
- 4 黒褐色土 ローム大ブロック5%含む。



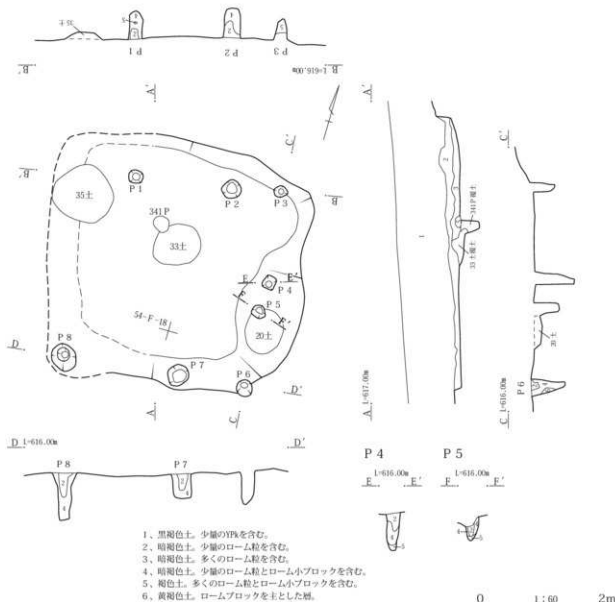
竪穴状遺構

第7区画(54区)2号竪穴状遺構 (第225図: PL.45)

位置 町道部分の西端、54区E・F-17・18グリッドに位置する。**重複** 1号掘立柱建物、20・33・35号土坑、床面から15cm前後上面に第7区画(54区)2号礎石建物が造られている。また、多くのピットと重複している。**形状** 少しゆがんでいるが正方形に近い。**規模** 4.1m×3.9m、壁高は残りの良い北壁面で15cm。柱穴の規模: P 1 長径22cm、短径20cm、深さ45cm、P 2 長径20cm、短径19cm、深さ42cm、P 3 長径20cm、短径18cm、深さ35cm、P 4 長

径21cm、短径19cm、深さ60cm、P 5 長径21cm、短径20cm、深さ40cm、P 6 長径28cm、短径27cm、深さ53cm、P 7 長径36cm、短径30cm、深さ38cm、P 8 長径43cm、短径36cm、深さ75cm。**方位** N-16°-W。**床面** 地山ローム面をほぼ床面としている。

炉 なし。**柱穴** 柱穴の大きさは20~40cm前後、深さは40~60cmと一定していない。**掘り方** なし。**出土遺物** なし。**時期・所見** 残りが悪く、不明な点が多い。時期は中世と想定したい。

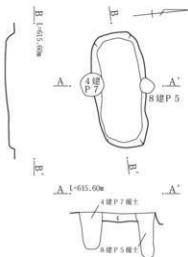


第225図 第7区画2号竪穴状遺構

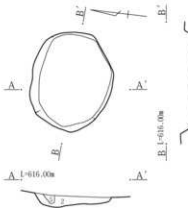
土坑 (第226図: PL.45・46)

第7区画ほぼ全域から土坑11基が調査されている。出土遺物は、25号土坑から13世紀後半から14世紀前半の龍泉窯系の青磁碗の口縁部破片1個が出土している。他に出土遺物はなかった。土坑は覆土等の特色から、中近世以降と思われる。

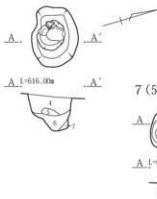
7(54区)-9号土坑



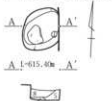
7(54区)-10号土坑



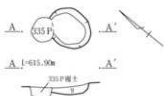
7(54区)-13号土坑



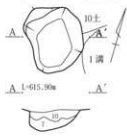
7(54区)-14号土坑



7(54区)-20号土坑



7(54区)-21号土坑



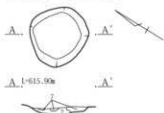
7(54区)-25号土坑



7(54区)-30号土坑



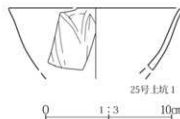
7(54区)-35号土坑



1. 暗褐色土。ローム粒とY%をほとんど含まない。表土に近い。
2. 暗褐色土。少量のローム粒を含む。
3. 灰褐色土。多くの粘性を持つ灰褐色土を含む。
4. 暗褐色土。ローム粒をほとんど含まない。表土に近い。
5. 暗褐色土。少量のローム粒とローム小ブロックを含む。
6. 黒褐色土。少量のローム粒と礫を含む。
7. 暗褐色土。多くのローム粒とローム小ブロックを含む。
8. 暗褐色土。少量のローム粒と礫を含む。
9. 暗褐色土。少量のローム粒と灰化物を含む。
10. 褐色土。多くのローム粒を含む。

第226図 第7区画土坑

0 1:60 2m



第227図 第7区画土坑出土遺物

表45 第7区画土坑一覧表

調査区	調査年度 (平成)	土坑 番号	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	方位	位置(グリッド)	形態	時代	遺物	備考
第7区画	19	1	0.90	0.66	0.13	N-3°-E	54-A-12	楕円形	中近世		
54区	21	8	0.92	0.62	0.38	N-1°-E	54-C-16	楕円形	中近世か		
54区	21	9	1.84	0.85	0.13	N-87°-E	54-C-15	長円形	近世以降か		
54区	21	10	1.58	1.27	0.20	N-6°-E	54-E-18	楕円形	中近世か		
54区	21	13	0.97	0.73	0.54	N-87°-E	54-D-18	楕円形	近世以降か		
54区	21	14	0.75	0.65	0.15	N-36°-E	54-C-15	楕円形	中近世か		
54区	21	20	0.71	0.58	0.13	N-0°	54-E-18	楕円形	中近世か		
54区	21	21	1.07	1.00	0.30	N-1°-E	54-E-18	不定形	中近世か		
54区	21	25	0.82	0.60	0.18	N-11°-E	54-I-24	不定形	近世以降か	青磁碗	
54区	21	30	0.72	0.65	0.15	N-30°-E	54-F-17	円形	中近世か		
54区	21	35	0.97	0.92	0.12	N-75°-E	54-F-18	円形	中近世か		

溝

第7区画1号溝 (第229図: PL.46)

位置 町道部分の中央部、国道と繋がる南北方向の調査区。54区D-18・19グリッドに位置する。 **重複** 1・2号掘立柱建物と重複している。 **形状** Z字状に掘られている。 **規模** 長さは中心線で測定10.7m、幅は0.9m。深さは0.30～0.38mである。 **方位** 不明。

出土遺物 なし。 **時期・所見** Z字状に掘られている溝で、溝中2カ所に20～30cmの大きな石が大量に埋められていた。時期は土層観察から中近世の遺構覆土に近いため、中近世と想定したい。

第7区画2号溝 (第228・230図: PL.46)

位置 町道部分の中央部、南北方向に平行して掘られている。2・3・5・6号溝の最も東側に掘られている。54区A-22～25グリッドに位置する。 **重複** 4号溝と一部重複している。 **形状** 直線的に掘られている。 **規模** 長さ13.9m、幅は0.9～1.4m。深さは65～90cmである。 **方位** N-5°-E。 **出土遺物** 古瀬戸後期15世紀代の陶器皿と鉄釘が出土している。 **時期・所見** 3・5・6号溝とともにほぼ南北方向に掘られている大きな溝である。土層等の特色から、4本の溝には新旧関係があり、6→5→3号溝、2→3号溝の順に掘られており、3号溝が最も新しいと思われる。遺構の時期は、出土遺物や土層観察から、中世と思われる。

第7区画3号溝 (第228・230図: PL.46)

位置 町道部分の中央部、南北方向に平行して掘られている。2・3・5・6号溝の中央に位置する。54区B-22～25グリッドに位置する。 **重複** 5号溝と一部重複し、3号溝は5号溝覆土を掘り込んでいる。 **形状** 直線的に掘られている。 **規模** 長さ17.9m、幅は1.8～2.5m。深さは75～86cmである。 **方位** N-2°-E。 **出土遺物** 用途不明の鉄製品1点が出土している。 **時期・所見** 2・5・6号溝とともにほぼ南北方向に掘られている大きな溝である。土層等の特色から、4本の溝には新旧関係があり、6→5→3号溝、2→3号溝の順に掘られており、3号溝が最も新しいと思われる。遺構の時期は、出土遺物や土層観察から

、近世と思われる。

第7区画4号溝 (第228・230図: PL.46)

位置 町道部分の中央部、南北方向に平行して掘られている。2・3・5・6号溝の東端2号溝の東側に位置する。54区A-22・23グリッドに位置する。 **重複** 2号溝と一部重複し、2号溝より新しい。 **形状** 直線的に掘られており、壁面はほぼ垂直である。 **規模** 長さ6m、幅は0.5～0.7m。深さは59～79cmである。

方位 N-3°-E。 **床面** 地山ローム面をほぼ床面としている。 **出土遺物** なし。 **時期・所見** 2・3・5・6号溝とともにほぼ南北方向に掘られている溝である。規模が小さく、側壁がほぼ垂直に掘られている。溝の掘込面耕作土下からであり、溝として扱ったが、耕作に伴い掘り込まれた土坑に近い遺構と思われる。時期は近世以降と思われる。

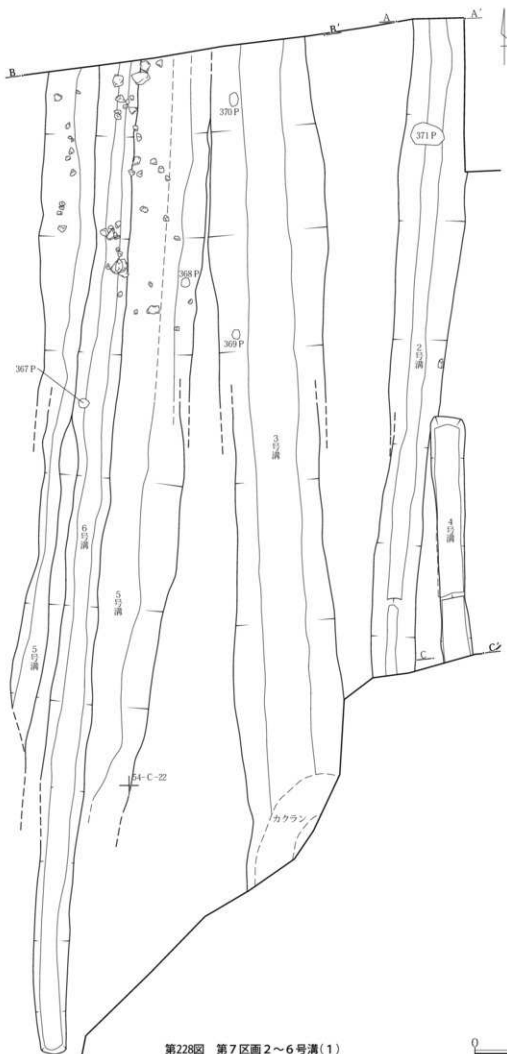
第7区画5号溝 (第228・230図: PL.46・47)

位置 町道部分の中央部、南北方向に平行して掘られている。2・3・5・6号溝の西端に位置する。54区B・C-22～25グリッドに位置する。 **重複** 3・6号溝と重複し、6号溝上に造られている。 **形状** 直線的に掘られている。 **規模** 長さ16m、幅は3.0～3.5m。深さは48cmである。 **方位** N-6°-E。 **出土遺物** 18世紀後半～19世紀初頭の肥前系染付碗が出土している。 **時期・所見** 6号溝と重複し、6号溝の上に造られている。5号溝は、耕作土下から掘り込んでいる3号溝より古い。遺構の時期は近世と思われる。

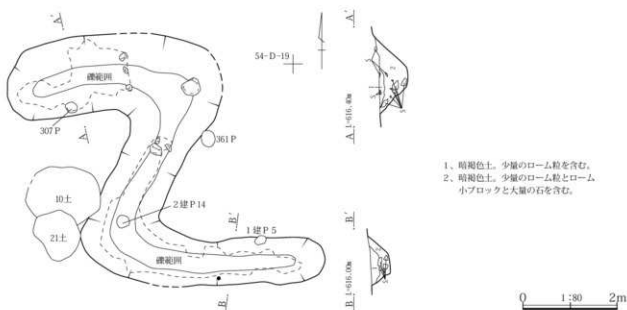
第7区画6号溝 (第228・230図: PL.46・47)

位置 町道部分の中央部、南北方向に平行して掘られている。2・3・5・6号溝の中央に位置する。54区B・C-22～25グリッドに位置する。 **重複** 5号溝と重複し、溝上部は5号溝により削り取られて残っていない。

形状 直線的に掘られている。 **規模** 長さ16m、幅は1.8～2.5m。深さは40cmである。 **方位** N-6°-E。 **出土遺物** 14世紀前半と思われる龍泉窯系青磁碗が出土している。 **時期・所見** 5号溝と重複し、溝上部は5号溝に削り取られて残っていない。6号溝は、5号溝より古い。遺構の時期は中世と思われる。



第228図 第7区画2~6号溝(1)



第229図 第7区画1号溝

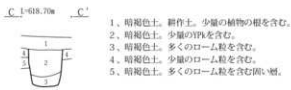
- 1、暗褐色土。少量のローム粒を含む。
- 2、暗褐色土。少量のローム粒とローム小ブロックと大塊の石を含む。

7-2号溝



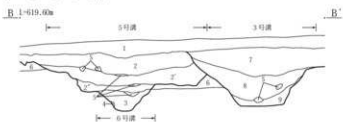
- 1、暗褐色土。耕作土。少量の植物の根を含む。
- 2、暗褐色土。少量のYPKを含む。
- 3、暗褐色土。少量の石を含む。
- 4、暗褐色土。粒子が粗く砂粒を含む。
- 5、暗褐色土。(地山)。多くのローム粒を含む。

7-4号溝



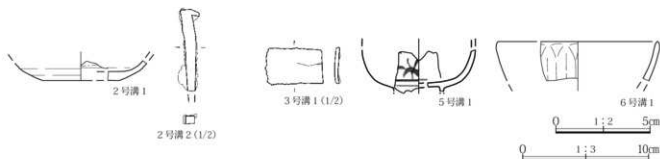
- 1、暗褐色土。耕作土。少量の植物の根を含む。
- 2、暗褐色土。少量のYPKを含む。
- 3、暗褐色土。多くのローム粒を含む。
- 4、暗褐色土。少量のローム粒を含む。
- 5、暗褐色土。多くのローム粒を含む硬い層。

7-3・5・6号溝



- 1、暗褐色土。耕作土。少量の植物の根を含む。
- 2、暗褐色土。少量のYPKを含む。粘性の強い層。
- 2'、暗褐色土。わずかにYPKを含む。粘性の強い層。
- 2''、暗褐色土。YPKを含まない。粘性の強い層。
- 3、暗褐色土。粒子が粗く砂粒を含む。
- 4、黄褐色土。ロームブロックを含む。
- 5、暗褐色土。多くのローム粒を含む。
- 6、暗褐色土。(地山)。少量のYPKを含む。
- 7、暗褐色土。少量のYPKを含む。やや粘性あり。
- 8、暗褐色土。わずかにYPKと小石を含む。
- 9、暗褐色土。粒子が粗く砂粒と大小の礫を含む。

第230図 第7区画2～6号溝(2)

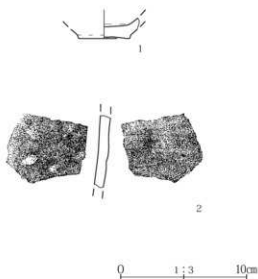


第231図 第7区画溝出土遺物

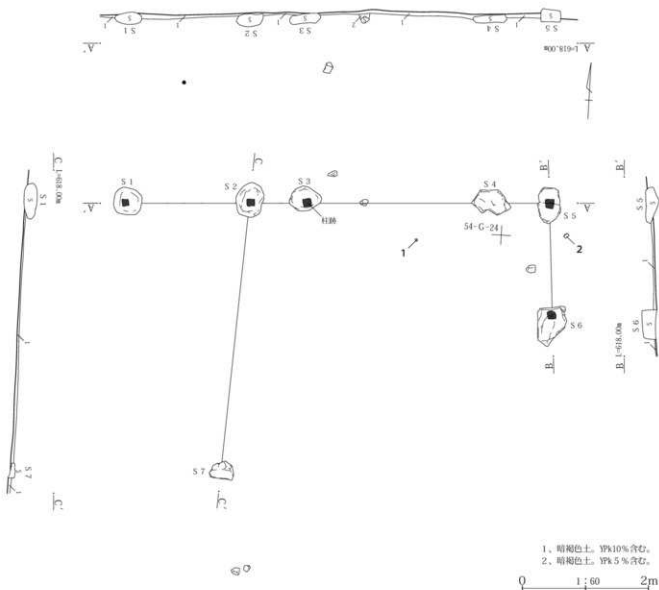
第7区画1号礎石建物 (第232図: PL.47)

位置 町道部分の中央部、54区9号掘立柱建物の東約4mに位置し、54区F-23・24、G-24、H-22～24グリッドに位置する。**重複** なし。**規模** 高さが一定な扁平な礎石が7石残っていたが、礎石間の距離が0.9、1.1、8、4.5mと一定していない。石は平石で大きさは0.3～0.6m、厚さは0.11～0.2mであった。**出土遺物** 中世の在地系の内耳土器と平安時代の須恵器坏出土。

時期 中近世と思われる。**所見** 一定の大きさの平石がほぼ水平に並ぶので、礎石建物があったものと思われる。しかし残っていた7石の礎石は、配置や礎石間の距離が一定でない。攪乱を受けて多くの礎石が残っていないかっただと思われる。



第233図 第7区画1号礎石建物出土遺物

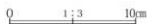
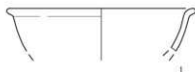


第232図 第7区画1号礎石建物

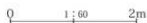
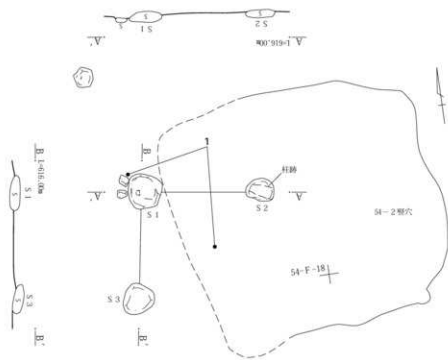
- 1. 暗褐色土。Wk10%含む。
- 2. 暗褐色土。Wk5%含む。

第7区画2号礎石建物 (第234図: PL.47)

位置 町道部分の中央部、国道と繋がる南北方向の調査区、54区F-17・18グリッドに位置する。**重複** 第7区画(54区)2号竪穴状遺構と重複し、2号竪穴の上約15cmに2号礎石建物が造られていた。**規模** 礎石は3石残っていた。礎石の距離は、東西南北とも1.8m前後であった。石は平石で大きさは0.55m前後、厚さは0.13～0.18mとほぼ一定であった。**出土遺物** 15世紀代の龍泉窯系青磁碗が出土。**時期** 出土遺物から中世と思われる。**所見** 礎石は3石残っていただけであるが、石の大きさや置かれていた間隔等均一であり、本来もっと大きな礎石建物が存在していたものと思われる。



第235図 第7区画2号礎石建物出土遺物



第234図 第7区画2号礎石建物

2 中近世屋敷

第6区画の東端から、東側に約35m離れた場所に長さ19m弱で南北方向に掘られている53区1号溝がある。第6区画の東端から1号溝までの間には、掘立柱建物3棟、土坑14基等があるが、遺構密度は低い。1号溝から東側の調査区東端までの約35mの範囲には掘立柱建物が52区で33棟、53区で4棟計37棟、柱穴が52区で1列、53区5列で計6列。遺物出土ピット2基、竪穴状遺構が52区で4軒と1号落ち込み1基、土坑が52区で47基、53区で7基計54基、溝が52区で3条、53区で1条計4条、焼土と井戸が52区で各1基検出された。掘立柱建物の数は、当遺跡では最も多い地区である。この地区は、第1から7区画のように、堀により区画されていないが、中近世の掘立柱建物が多く造られている中近世の屋敷である。さらにこの地区には竪穴状遺構が4軒検出されている。注目される遺物として1号竪穴状遺構の炉内に、ほぼ完形の内耳土器が置かれていた。炉の北西床面に半折りされた紙が出土している。時期は内耳土器の年代観から15～16世紀と思われる。掘立柱建物については、第3章第7節第3項の中で詳しい検討を行っている。

掘立柱建物

52区1号掘立柱建物 (第239図: PL.48・49)

位置 国道部分東側の調査区、52区V-6、W・X-5・6グリッドに位置する。1～33号掘立柱建物が集中する地区の中央部南側に位置する。 **重複** 26号掘立柱建物、1号落ち込みと重複している。 **形状** 2×4間の東西棟。 **規模** 桁行1は10.48m、桁行2は10.20m、梁間1は3.50m、梁間2は3.78m。 **面積** 38.30㎡。 **方位** N-82°～83°-E。 **出土遺物** なし。 **時期** 中世と思われる。 **所見** 2×4間・東西棟。西側に下屋をもつ東西方向の建物である。

表46 52区1号掘立柱建物計測表

ピット番号	規模			柱間寸法(m)	旧ピット番号	
	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)			
P 1	30	26	56	→P 2	2.77	118
P 2	40	36	61	→P 3	1.31	81
				→P 18	1.10	
P 3	26	22	48	→P 4	1.30	136
				→P 28	1.93	
P 4	37	29	62	→P 5	1.39	48
P 5	26	21	57	→P 6	1.18	46
P 6	29	24	55	→P 7	1.66	138
P 7	25	23	35	→P 8	0.87	31
P 8	53	50	63	→P 9	0.97	30
P 9	24	21	46	→P 10	1.50	33
P 10	27	21	24	→P 11	1.04	675

ピット番号	規模			柱間寸法(m)	旧ピット番号	
	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)			
P 11	36	29	59	→P 12	2.67	35
P 12	38	36	48	→P 13	1.30	52
P 13	22	18	16	→P 14	1.22	146
P 14	36	32	50	→P 15	2.46	58
P 15	34	30	45	→P 16	2.55	92
P 16	42	34	35	→P 17	1.83	103
P 17	37	35	27	→P 1	1.99	110
P 18	25	25	31	→P 19	1.36	83
P 19	23	20	50	→P 15	1.25	89

52区2号掘立柱建物 (第240・241図: PL.48・49)

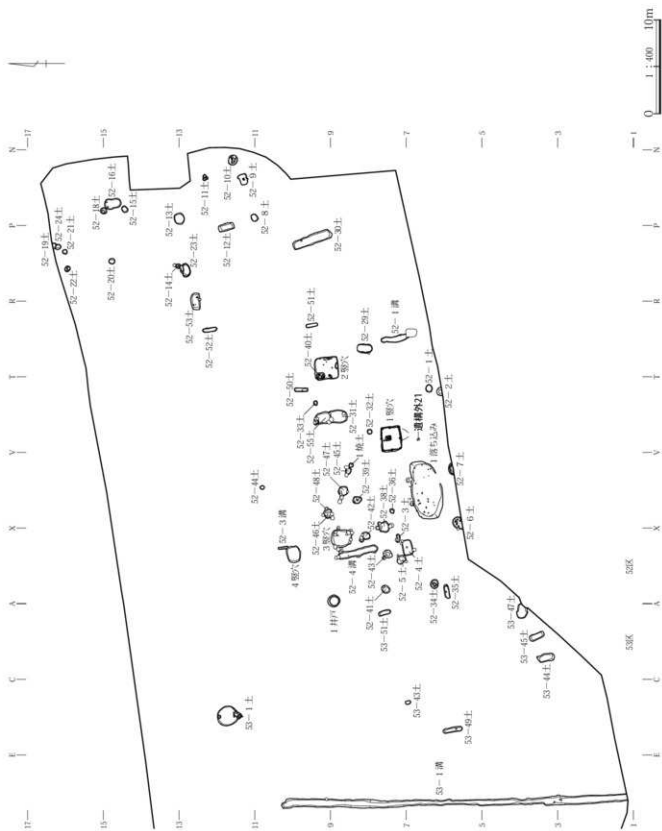
位置 国道部分東側の調査区、52区T-8・9・U-W-7～9グリッドに位置する。1～33号掘立柱建物が集中する地区の中央部東側に位置する。 **重複** 5・8・11・14・22・27・29・31号掘立柱建物、31・39・47号土坑と重複している。 **形状** 2×6間の東西棟。

規模 桁行1は12.65m、桁行2は12.30m、梁間1は3.99m、梁間2は3.95m。 **面積** 68.81㎡。

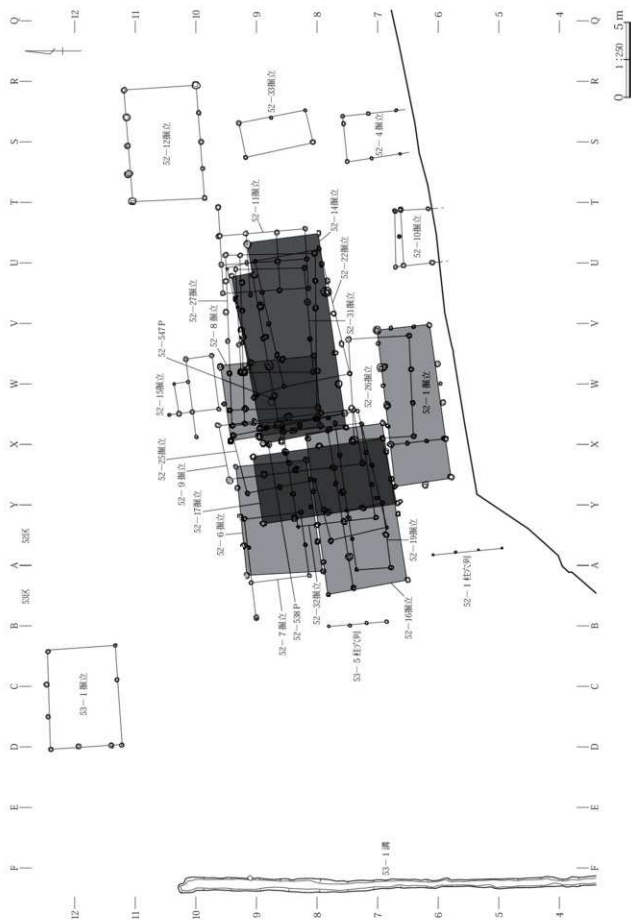
方位 N-85°-E。 **出土遺物** 銅製品の円環と煤が付着した平らな石が出土している。 **時期** 中近世と思われる。 **所見** 2×6間・東西棟。北と東に下屋をもつ東西方向の建物である。

表47 52区2号掘立柱建物計測表

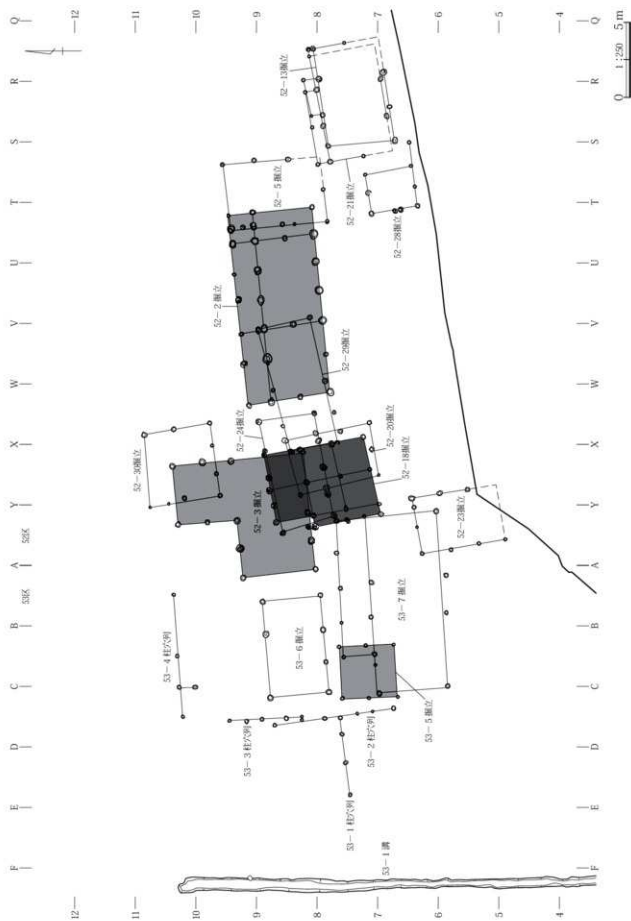
ピット番号	規模			柱間寸法(m)	旧ピット番号	
	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)			
P 1	42	41	57	→P 2	2.60	546
P 2	24	16	64	→P 3	2.27	—
P 3	53	40	58	→P 4	1.92	611
P 4	57	40	44	→P 5	1.94	255
P 5	49	46	48	→P 6	1.99	278
P 6	50	45	56	→P 7	0.87	267
				→P 27	2.00	
P 7	—	34	28	→P 8	1.02	268
P 8	40	32	25	→P 9	3.99	633
P 9	34	28	22	→P 10	1.77	217
P 10	64	52	34	→P 11	1.82	219
P 11	50	45	24	→P 12	1.96	230
P 12	52	52	30	→P 13	2.01	32土坑
P 13	50	47	34	→P 14	2.25	253
P 14	30	26	45	→P 15	2.50	369
P 15	49	40	37	→P 16	1.96	318
P 16	36	30	48	→P 1	1.99	370
P 17	37	28	54	→P 18	2.85	598
				→P 1	1.48	
P 18	48	38	36	→P 19	1.96	559
P 19	23	23	57	→P 20	2.26	616
				→P 3	1.54	
P 20	46	35	49	→P 21	1.66	260
P 21	21	20	46	→P 22	2.03	290
P 22	44	38	28	→P 23	1.05	33土坑
				→P 6	1.47	
P 23	55	46	14	→P 24	0.87	271
				→P 25	0.78	
P 24	24	21	13	→P 8	1.62	629
P 25	33	31	31	→P 7	0.72	269
P 26	30	29	22	→P 7	1.91	242
P 27	34	28	23	→P 10	1.96	244
P 28	38	37	24	→P 13	1.96	372



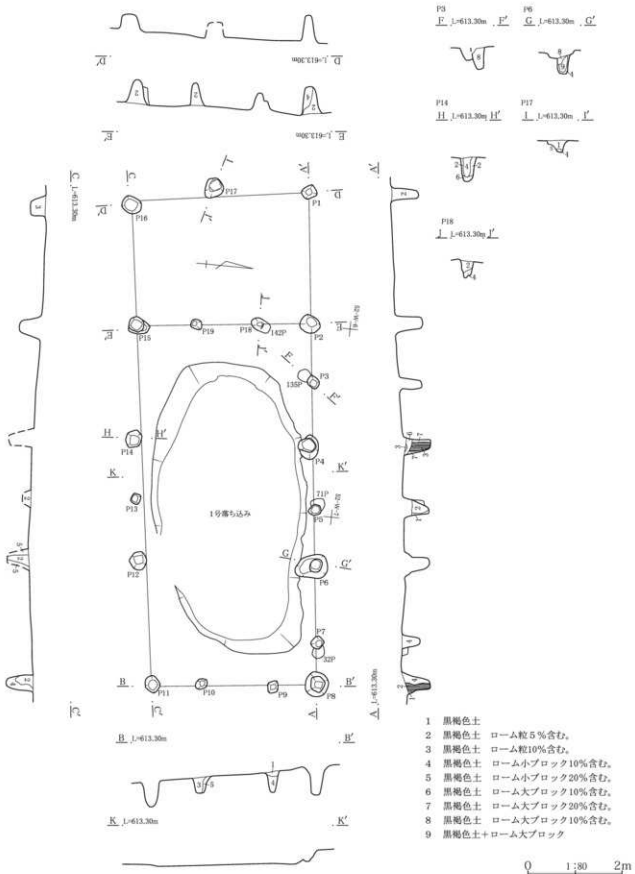
第236図 中近世屋敷全体図(据立柱建物・柱穴列除く)



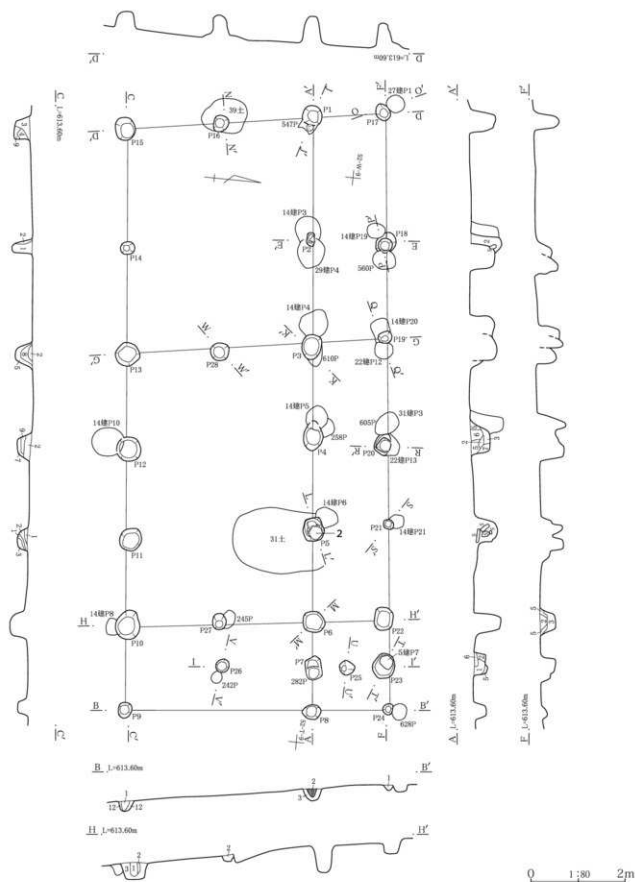
第237図 中近世屋敷据立柱建物・柱穴列(1)



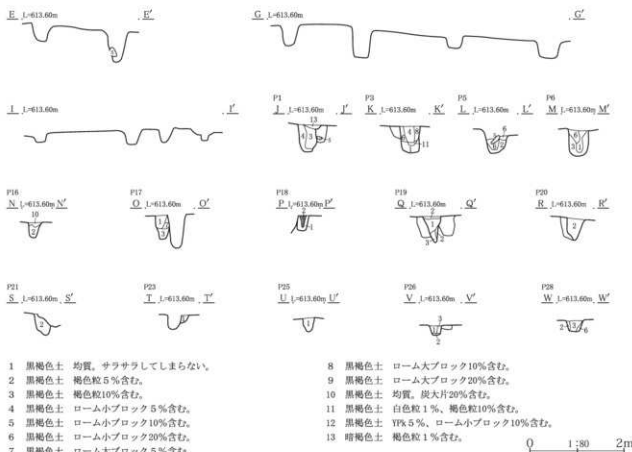
第238図 中近世屋敷掘立柱建物・柱穴列(2)



第239図 52区1号掘立柱建物



第240图 52区2号掘立柱建物



第241図 52区2号掘立柱建物土層断面図

52区3号掘立柱建物 (第242図: PL.48 ~ 50)

位置 国道部分東側の調査区、52区X・Y-8~10、53区A-8・9グリッドに位置する。1~33号掘立柱建物が集中する地区の中央部北西側に位置する。
重複 6・7・9・17・18・24・25・30・32号掘立柱建物、1号井戸、3・4号竪穴状遺構、3・4号溝と重複している。
形状 4×4間のL字棟。
規模 桁行1は8.74m、梁間1は7.78m。
面積 52.82㎡。

方位 N-4°-W。
出土遺物 石白の下白が出土。
時期 中近世と思われる。
所見 4×4間・L字棟。東側で北方向L字に広がっている建物である。

表48 52区3号掘立柱建物計測表

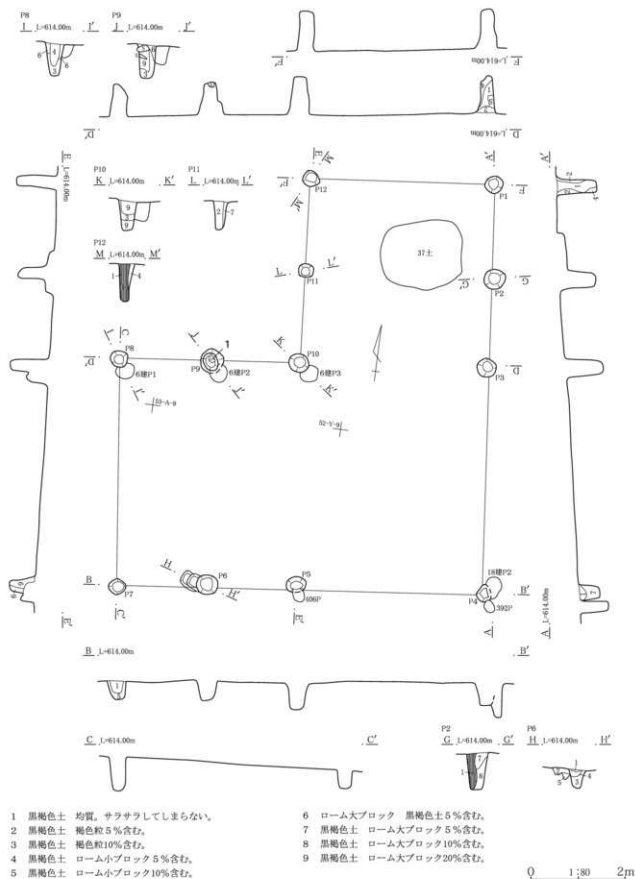
ビット番号	規模			目ビット番号
	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	
P 1	40	36	84	→P 2 2.04 484
P 2	47	42	74	→P 3 1.88 456
P 3	40	38	78	→P 4 4.80 459
P 4	37	30	43	→P 5 4.00 393
P 5	42	33	55	→P 6 1.90 408
P 6	46	41	44	→P 7 1.87 381
P 7	33	31	39	→P 8 4.82 53<156
P 8	37	37	69	→P 9 1.97 53<193
P 9	50	46	68	→P 10 1.89 426
P 10	43	38	81	→P 11 1.90 434
P 11	32	27	60	→P 12 2.00 443
P 12	37	32	83	→P 1 3.90 440

52区4号掘立柱建物 (第243図: PL.48・50)

位置 国道部分東側の調査区、52区R・S-6・7グリッドに位置する。1~33号掘立柱建物が集中する地区の中央部南東側に位置する。
重複 13・21号掘立柱建物、1号溝、1号墓と重複している。
形状 1×2間以上となる南北棟。
規模 桁行1は3.54m以上、桁行2は3.54m以上、梁間1は3.04m。
面積 12.78㎡以上。
方位 N-6°~8°-W。
出土遺物 なし。
時期 中世と思われる。
所見 1×2以上間・南北棟。建物はさらに調査区域外の南に延びるものと思われる。

表49 52区4号掘立柱建物計測表

ビット番号	規模			目ビット番号
	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	
P 1	24	24	21	→P 2 1.72 193
P 2	26	24	28	→P 3 1.82 194
P 3	22	18	9	→P 4 2.88 198
P 4	18	14	16	→P 5 1.90 374
P 5	21	18	10	→P 6 1.65 182
P 6	26	25	20	→P 7 2.53 184
P 7	24	20	8	→P 1 0.48 192



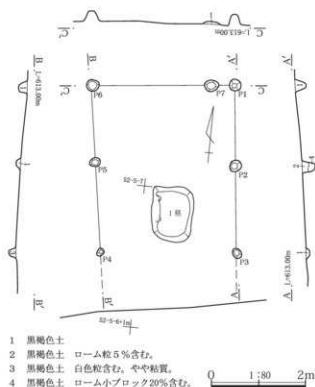
第242図 52区3号掘立柱建物

52区5号掘立柱建物 (第244図: PL.48・50・51)

位置 国道部分東側の調査区, 52区S・T-7~9グリッドに位置する。1~33号掘立柱建物が集中する地区の中央部東側に位置する。**重複** 2号掘立柱建物、2号竪穴、29号土坑と重複している。**形状** 2×3間の南北棟。**規模** 桁行1は4.30m以上、桁行2は6.48m、梁間1は4.48m **面積** 28.16㎡。**方位** N-4~6°-W。**出土遺物** なし。**時期** 中近世と思われる。**所見** 2×3間・南北棟。南東コーナー部分の柱穴は、29号土坑と重複しており、確認出来なかった。

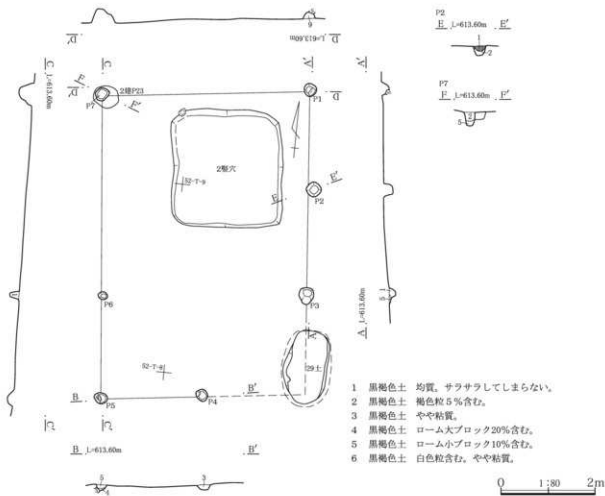
表50 52区5号掘立柱建物計測表

ピット番号	規模				副ピット番号	
	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	柱間寸法(m)		
P 1	26	26	14	→P 2	2.10	640
P 2	30	30	21	→P 3	2.22	635
P 3	35	30	17	—	—	235
P 4	24	22	13	→P 5	2.12	190
P 5	29	23	11	→P 6	2.18	16
P 6	20	17	23	→P 7	4.30	241
P 7	30	25	33	→P 1	4.48	272



- 1 黒褐色土
- 2 黒褐色土 ローム粒5%含む。
- 3 黒褐色土 白色粒含む。やや粘質。
- 4 黒褐色土 ローム小ブロック20%含む。

第243図 52区4号掘立柱建物



- 1 黒褐色土 均質。サラサラしてしまらない。
- 2 黒褐色土 褐色粒5%含む。
- 3 黒褐色土 やや粘質。
- 4 黒褐色土 ローム大ブロック20%含む。
- 5 黒褐色土 ローム小ブロック10%含む。
- 6 黒褐色土 白色粒含む。やや粘質。

第244図 52区5号掘立柱建物

52区6号掘立柱建物 (第245図: PL.48・51)

位置 国道部分東側の調査区、52区X・Y-8・9、53区A-8・9グリッドに位置する。1～33号掘立柱建物が集中する地区の中央部西側に位置する。 **重複**

3・7・9・17・18・20・24・25・32号掘立柱建物、1号井戸、3号竈状遺構、4号溝と重複している。

形状 1×4間の東西棟。 **規模** 桁行1は7.33m、桁行2は7.50m、梁間1は4.72m、梁間2は5.05m。

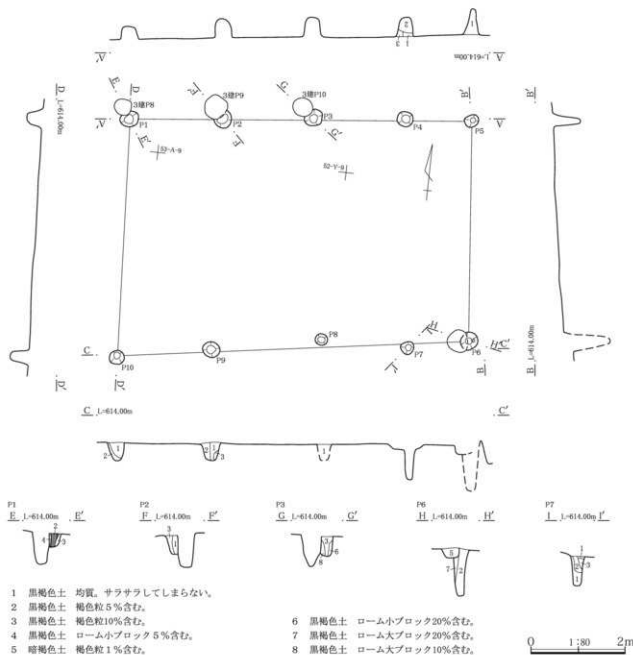
面積 35.86㎡。 **方位** N-82°~84°-E。

出土遺物 なし。 **時期** 中世と思われる。 **所見**

1×4間・東西棟。

表51 52区6号掘立柱建物計測表

ピット番号	規模			柱間寸法(m)	目ピット番号
	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)		
P 1	38	33	30	→P 2	2.00 53区194
P 2	37	37	40	→P 3	2.13 425
P 3	37	34	44	→P 4	1.95 433
P 4	32	32	42	→P 5	1.43 449
P 5	30	25	56	→P 6	4.72 457
P 6	47	45	23	→P 7	1.30 391
P 7	27	25	61	→P 8	1.85 593
P 8	26	24	43	→P 9	2.37 407
P 9	37	32	34	→P 10	2.00 380
P 10	32	29	40	→P 1	5.05 53区155



第245図 52区6号掘立柱建物

52区7号掘立柱建物 (第246図: PL.51)

位置 国道部分東側の調査区、52区Y-8・9、53区A-8・9グリッドに位置する。1～33号掘立柱建物が集中する地区の中央部西側に位置する。 **重複** 3・6・17・24号掘立柱建物、1号井戸と重複している。

形状 1×2間の方形。 **規模** 桁行1は4.24m、桁行2は4.25m、梁間1は3.75m、梁間2は3.86m。

面積 15.93㎡。 **方位** N-82°～84°-E。

出土遺物 なし。 **時期** 中世と思われる。 **所見**

1×2間・東西棟。西側にさらに広がる可能性あり。

表52 52区7号掘立柱建物計測表

ピット番号	規模				旧ピット番号
	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	柱間寸法(m)	
P 1	27	25	12	→P 2	2.36 53K173
P 2	21	16	10	→P 3	1.88 424
P 3 (32)	22	18	→P 4	3.75 432	
P 4	32	28	25	→P 5	2.20 415
P 5	22	20	27	→P 6	2.04 409
P 6	24	24	21	→P 1	3.86 53K157
P 7	35	30	10	→P 1	2.33 53K171

52区8号掘立柱建物 (第247図: PL.48・52)

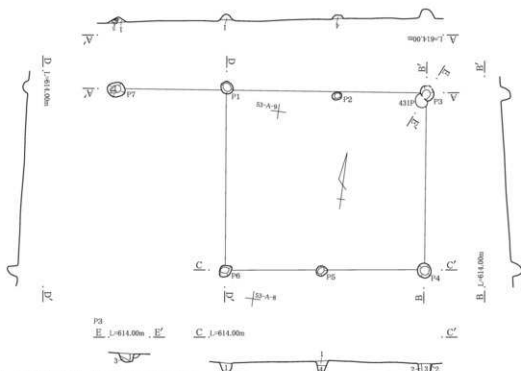
位置 国道部分東側の調査区、52区V-W-7～9グリッドに位置する。1～33号掘立柱建物が集中する地区の中央部に位置する。 **重複** 2・9・14・22・24・25・27・29・31号掘立柱建物、39・46・47・48号土坑と重複している。

形状 2×3間南北棟。 **規模** 桁行1は6.26m、桁行2は6.06m、梁間1は4.68m、梁間2は5.06m。 **面積** 29.97㎡。 **方位** N-6°～9°-W。

出土遺物 表面の一部に黒が塗られている用途不明の細長い石が出土。 **時期** 中世と思われる。 **所見** 2×3間・南北棟。

表53 52区8号掘立柱建物計測表

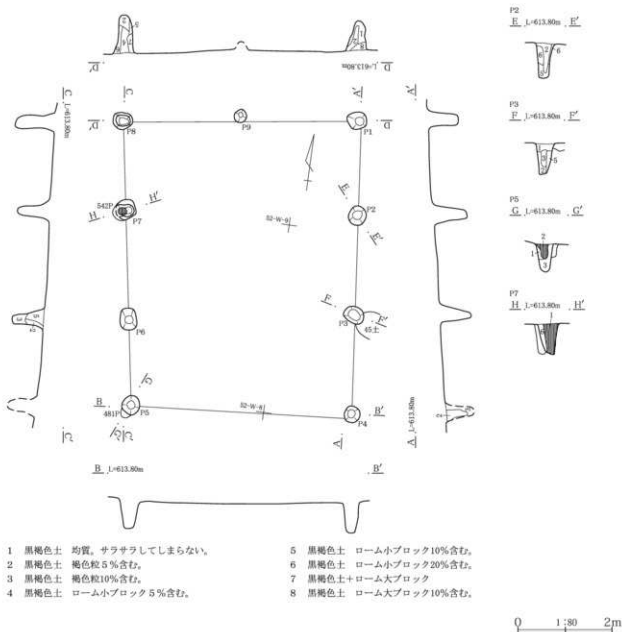
ピット番号	規模				旧ピット番号
	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	柱間寸法(m)	
P 1	38	37	66	→P 2	2.00 569
P 2	40	36	74	→P 3	2.13 558
P 3	43	34	65	→P 4	2.12 530
P 4	36	34	61	→P 5	4.68 371
P 5	41	37	61	→P 6	1.80 482
P 6	46	35	68	→P 7	2.30 360
P 7	—	30	70	→P 8	1.90 543
P 8	41	36	87	→P 9	2.52 509
P 9	29	27	13	→P 1	2.56 514



- 1 黒褐色土 均質。サラサラしてしまらない。
- 2 黒褐色土 褐色粒5%含む。
- 3 黒褐色土 褐色粒10%含む。
- 4 黒褐色土 ローム小ブロック5%含む。

0 1:80 2m

第246図 52区7号掘立柱建物



第247図 52区8号掘立柱建物

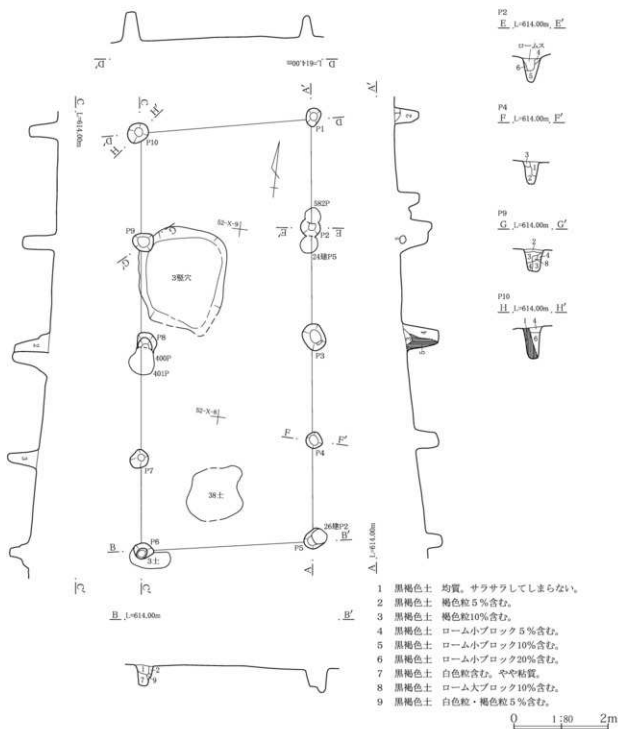
52区9号掘立柱建物 (第248図: PL.52)

位置 国道部分東側の調査区、52区W・X-7~9グリッドに位置する。1~33号掘立柱建物が集中する地区の中央部に位置する。 **重複** 3・6・8・14・16~18・20・24・25・27・29・32号掘立柱建物、3号竪穴状遺構、38・42号土坑と重複している。 **形状** 1×4間の南北棟。 **規模** 桁行1は9.06m、桁行2は8.97m、梁間1は3.62m、梁間2は3.75m。 **面積** 32.31㎡。 **方位** N-7°-W。 **出土遺物** なし。

時期 中近世と思われる。 **所見** 1×4間・南北棟。

表54 52区9号掘立柱建物計測表

ピット番号	規模				柱間寸法(m)	目ピット番号
	長さ(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	柱間寸法(m)		
P 1	40	29	52	→P 2	2.32	463
P 2	—	41	54	→P 3	2.35	672
P 3	54	44	69	→P 4	2.20	480
P 4	33	32	50	→P 5	2.14	335
P 5	—	38	32	→P 6	3.62	—
P 6	42	34	45	→P 7	2.04	332
P 7	40	35	62	→P 8	2.42	418
P 8	—	40	76	→P 9	2.20	402
P 9	44	37	48	→P 10	2.33	505
P 10	47	40	66	→P 1	3.75	451



第248図 52区9号掘立柱建物

52区10号掘立柱建物 (第249図; PL.52・53)

位置 国道部分東側の調査区、52区T・U-6グリッドに位置する。1～33号掘立柱建物が集中する地区の中央部南側に位置する。**重複** 1・2号土坑と重複している。**形状** 2×1間以上の南北棟。**規模** 桁行1は3.74m以上、梁間1は1.94m以上。**面積** 9.38㎡以上。**方位** N-3°~6°-W。**出土遺物** なし。**時期** 中世と思われる。**所見** 2×

1間以上・南北棟。北側に下屋を持つ。調査区南側に建物が延びていると思われる。

表55 52区10号掘立柱建物計測表

ピット番号	層様				目ピット番号	
	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	柱間寸法(m)		
P 1	35	31	46	→P 2	1.84	9
P 2	27	23	46	—	—	12
P 3	34	30	38	→P 4	1.94	25
P 4	30	29	42	→P 6	0.55	23
P 5	24	24	26	—	—	14
P 6	29	25	29	→P 7	3.68	22
P 7	34	27	32	→P 1	0.40	8

52区11号掘立柱建物 (第250図: PL.53)

位置 国道部分東側の調査区、52区T・U-8・9グリッドに位置する。1～33号掘立柱建物が集中する地区の中央部東側に位置する。**重複** 2・14・22・27・31号掘立柱建物、31・55号土坑と重複している。**形状**

2×3間の南北棟総柱である。**規模** 桁行1は5.69m、桁行2は5.69m、梁間1は3.93m、梁間2は3.84m。**面積** 22.18㎡以上。**方位** N-4～5°

一W。**出土遺物** なし。**時期** 中世と思われる。

所見 2×3間・南北棟。総柱建物である。

表56 52区11号掘立柱建物計測表

ピット番号	規模				旧ピット番号
	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	柱間寸法(m)	
P 1	42	34	46	→P 2	273
P 2	32	28	39	→P 3	270
P 3	33	31	26	→P 4	248
P 4	32	26	31	→P 5	218
P 5	29	28	41	→P 6	233
P 6	29	28	19	→P 7	227
P 7	31	31	31	→P 8	228
P 8	29	22	28	→P 9	259
P 9	29	28	46	→P 10	277
P 10	32	28	52	→P 11	275
P 11	34	20	30	→P 12	—
P 12	37	32	21	→P 5	311
P 13	35	33	30	→P 1	630

52区12号掘立柱建物 (第251図: PL.53・54)

位置 国道部分東側の調査区、52区R・S-9～11グリッドに位置する。1～33号掘立柱建物が集中する地区の中央部北東側に位置する。**重複** なし。**形状** 1×4間の東西棟。**規模** 桁行1は7.47m、桁行2は7.55m、梁間1は4.79m、梁間2は4.82m。

面積 35.77㎡。**方位** N-86°-E。**出土遺物** なし。**時期** 中世と思われる。**所見** 1×4間・東西棟。

表57 52区12号掘立柱建物計測表

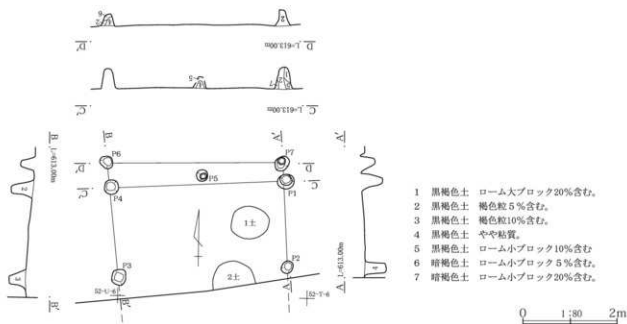
ピット番号	規模				旧ピット番号
	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	柱間寸法(m)	
P 1	47	43	39	→P 2	1.84
P 2	54	42	38	→P 3	1.90
P 3	35	35	28	→P 4	1.86
P 4	48	46	30	→P 5	1.85
P 5	36	34	42	→P 6	4.79
P 6	52	47	17	→P 7	1.89
P 7	30	27	6	→P 8	1.95
P 8	35	34	11	→P 9	1.76
P 9	26	23	15	→P 10	1.96
P 10	32	28	16	→P 1	4.86

52区13号掘立柱建物 (第252図: PL.54)

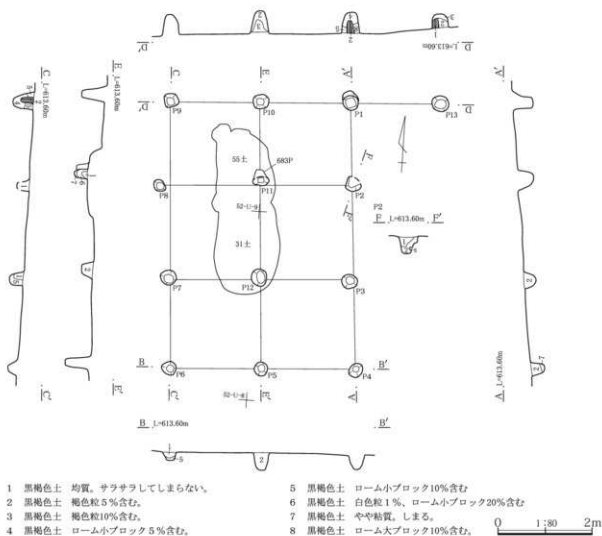
位置 国道部分東側の調査区、52区Q・R-6～8グリッドに位置する。1～33号掘立柱建物が集中する地区の中央部南東側に位置する。**重複** 4・21号掘立柱建物、1号溝、1号墓と重複している。**形状** 2×3間の東西棟。北側に張出を持つ。**規模** 桁行1は6.55m、桁行2は4.69m以上、梁間1は2.12m以上、梁間2は4.43m。**面積** 31.93㎡。**方位** N-80～81°-E。**出土遺物** なし。**時期** 中近世と思われる。**所見** 2×3間・東西棟。発掘調査段階では、北側に2間幅の張出を持つ建物としたが、整理段階で北側中央部に1間の張出を持つ構造に変更した。南東コーナー部分の柱穴は確認出来なかった。

表58 52区13号掘立柱建物計測表

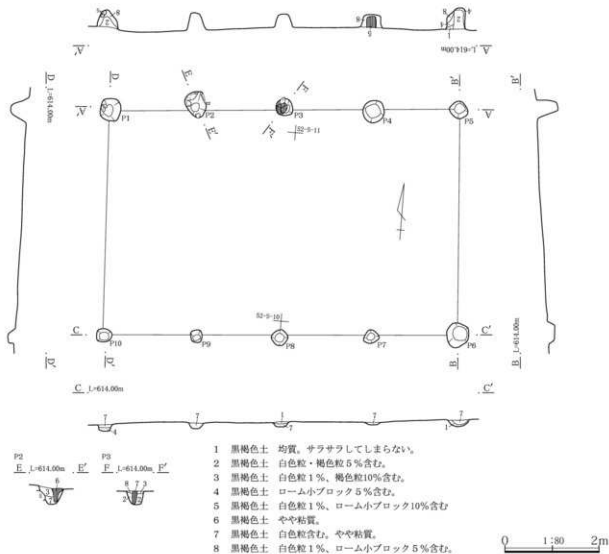
ピット番号	規模				旧ピット番号
	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	柱間寸法(m)	
P 1	34	27	45	→P 2	2.10
P 2	31	30	57	→P 3	2.42
				→P 9	0.71
P 3	39	39	22	→P 4	2.00
P 4	33	31	20	→P 5	2.12
P 5	20	20	10	—	211
P 6	44	38	23	→P 7	2.38
P 7	33	24	32	→P 8	2.30
P 8	42	32	28	→P 1	4.43
P 9	17	17	17	→P 10	2.45
P 10	23	23	14	→P 3	1.03



第249図 52区10号掘立柱建物



第250図 52区11号掘立柱建物



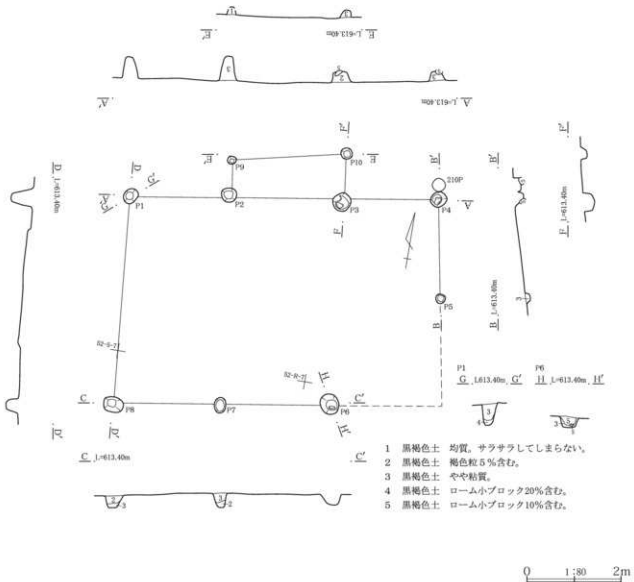
第251図 52区12号掘立柱建物

52区14号掘立柱建物 (第253・254図; PL.54・55)

位置 国道部分東側の調査区、52区T~W-7~9グリッドに位置する。1~33号掘立柱建物が集中する地区の中央部に位置する。 **重複** 2・8・9・11・22・24・25・27・29・31号掘立柱建物、31・39・47・55号土坑、1号焼土と重複している。 **形状** 1×6間の東西棟。北側に張出、西側に下屋を持つ。 **規模** 桁行1は13.37m、桁行2は13.06m以上、梁間1は4.37m、梁間2は4.82m。 **面積** 74.70㎡。 **方位** N-80~82°-E。 **出土遺物** なし。 **時期** 中近世と思われる。 **所見** 1×6間・東西棟。西に下屋、北に張出。

表59 52区14号掘立柱建物計測表

ピット番号	規模			柱間寸法(m)	旧ピット番号	
	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)			
P 1	66	52	61	→P 2	1.92	535
P 2	36	36	57	→P 3	1.92	548
P 3	—	50	63	→P 4	1.95	553
P 4	56	30	54	→P 5	2.12	612
P 5	52	45	53	→P 6	2.12	256
P 6	49	45	44	→P 7	2.13	279
P 7	53	44	50	→P 8	4.82	251
P 8	34	24	16	→P 9	2.16	220
P 9	32	26	42	→P 10	2.02	224
P 10	69	60	43	→P 11	4.06	36
P 11	39	28	46	→P 12	2.04	367
P 12	40	24	14	→P 13	2.06	316
P 13	42	37	63	→P 14	0.96	351
P 14	37	34	31	→P 15	4.40	396
P 15	43	39	78	→P 1	1.16	475
P 16	41	38	60	→P 17	1.24	661
P 17	43	39	62	→P 18	2.07	544
P 18	32	30	63	→P 19	2.02	577
P 19	38	32	49	→P 20	2.08	557
P 20	—	36	49	→P 21	4.14	615
P 21	(32)	(28)	(42)	→P 6	1.52	309



第252図 52区13号掘立柱建物

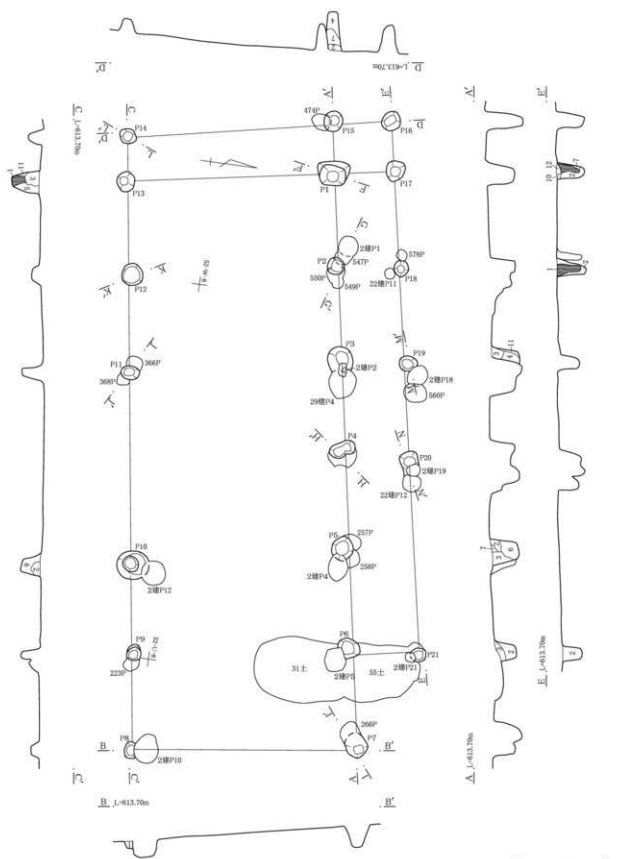
52区15号掘立柱建物 (第255図: PL.54・55)

位置 国道部分東側の調査区、52区V・W-9・10、グリッドに位置する。1～33号掘立柱建物が集中する地区の中央部北側に位置する。重複なし。形状 1×2間の東西棟で、北側に張出を持つ。規模 桁行き3.53～3.58m、梁間1.74～1.76m。面積 8.02㎡。方位 N-82～83°-E。出土遺物 なし。

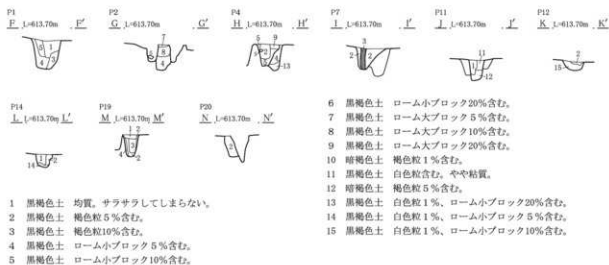
時期 中世と思われる。所見 1×2間・東西棟。北側に張出を持つ。

表60 52区15号掘立柱建物計測表

ピット番号	規模			柱間寸法(m)	目ピット番号
	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)		
P 1	30	30	50	→P 2 2.02 →P 6 0.88	470
P 2	21	21	23	→P 3 1.51	473
P 3	32	30	54	→P 4 1.74	575
P 4	31	30	41	→P 5 3.58	570
P 5	28	24	50	→P 1 1.76	512
P 6	33	30	16	→P 7 2.00	471
P 7	21	15	5	→P 2 0.93	574
P 8	22	20	22	→P 6 0.64	489
P 9	26	22	35	→P 1 1.70	462

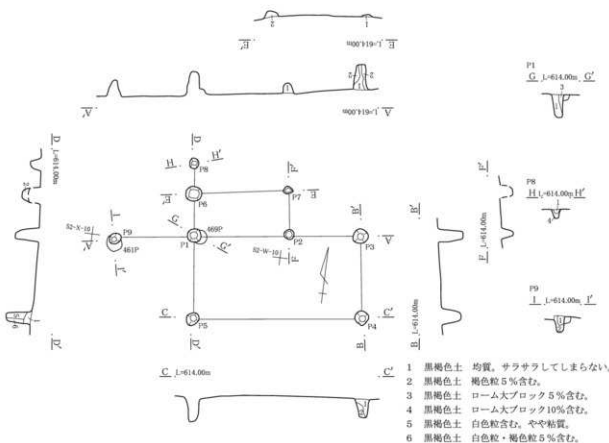


第253図 52区14号掘立柱建物



0 1:80 2m

第254図 52区14号掘立柱建物土層断面図



0 1:80 2m

第255図 52区15号掘立柱建物

52区16号掘立柱建物 (第256図: PL.54・56)

位置 国道部分東側の調査区、52区W・X-6~8、Y-6・7、53区A-6・7グリッドに位置する。1~33号掘立柱建物が集中する地区の中央部西側に位置する。

重複 9・17~20・24~26・29・32号掘立柱建物、4号溝、4・5・38・41~43・51号土坑と重複している。
形状 1×5間の東西棟で、北側に下屋を持つ。
規模 桁行1は10.60m、桁行2は10.58m、梁間1は3.55m、梁間2は3.69m。
面積 56.14㎡。

方位 N-80~81°-E。
出土遺物 近世の陶器壺と転用砥石出土。
時期 江戸時代。
所見 1×5間・東西棟。北側に下屋を持つ。

表61 52区16号掘立柱建物計測表

ピット番号	規模				旧ピット番号	
	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	柱間寸法(m)		
P 1	32	31	67	→P 2	2.07	53区150
P 2	47	42	63	→P 3	2.39	329
P 3	41	32	55	→P 4	2.60	338
P 4	32	23	28	→P 5	3.55	385
P 5	-	29	28	→P 6	3.55	354・355
P 6	33	32	42	→P 7	1.94	69
P 7	35	30	36	→P 8	1.80	82
P 8	45	33	38	→P 9	2.40	122
P 9	30	28	48	→P 10	4.45	302
P 10	33	28	37	→P 1	3.69	53区92
P 11	26	25	34	→P 12	2.19	53区152
				→P 1	1.72	
P 12	31	29	38	→P 13	2.48	378
P 13	36	32	36	→P 14	2.25	621
P 14	29	27	59	→P 15	3.50	403
P 15	33	29	68	→P 5	1.56	338

52区17号掘立柱建物 (第257図: PL.56・57)

位置 国道部分東側の調査区、52区X・Y-7・8、Zグリッドに位置する。1~33号掘立柱建物が集中する地区の中央部西側に位置する。

重複 3・6・7・9・16・18・20・24・25・32号掘立柱建物、3号竪穴状遺構、4号溝、4・5・38・42・43号土坑と重複している。

形状 1×4間の南北棟。
規模 桁行1は8.69m、桁行2は9.04m、梁間1は4.40m、梁間2は4.50m。

面積 39.20㎡。
方位 N-8~9°-W。

出土遺物 なし。
時期 中近世と思われる。
所見 1×4間・南北棟。

表62 52区17号掘立柱建物計測表

ピット番号	規模				旧ピット番号	
	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	柱間寸法(m)		
P 1	38	34	64	→P 2	2.17	506
P 2	42	38	73	→P 3	2.29	521
P 3	42	-	41	→P 4	2.25	586
P 4	42	35	72	→P 5	2.00	350
P 5	33	29	41	→P 6	4.40	77
P 6	53	30	39	→P 7	2.33	-
P 7	45	29	35	→P 8	2.32	340
P 8	44	36	59	→P 9	2.28	623
P 9	41	40	60	→P 10	2.12	416
P 10	41	32	59	→P 1	4.50	429

52区18号掘立柱建物 (第258図: PL.57)

位置 国道部分東側の調査区、52区X・Y-7・8、グリッドに位置する。1~33号掘立柱建物が集中する地区の中央部西側に位置する。

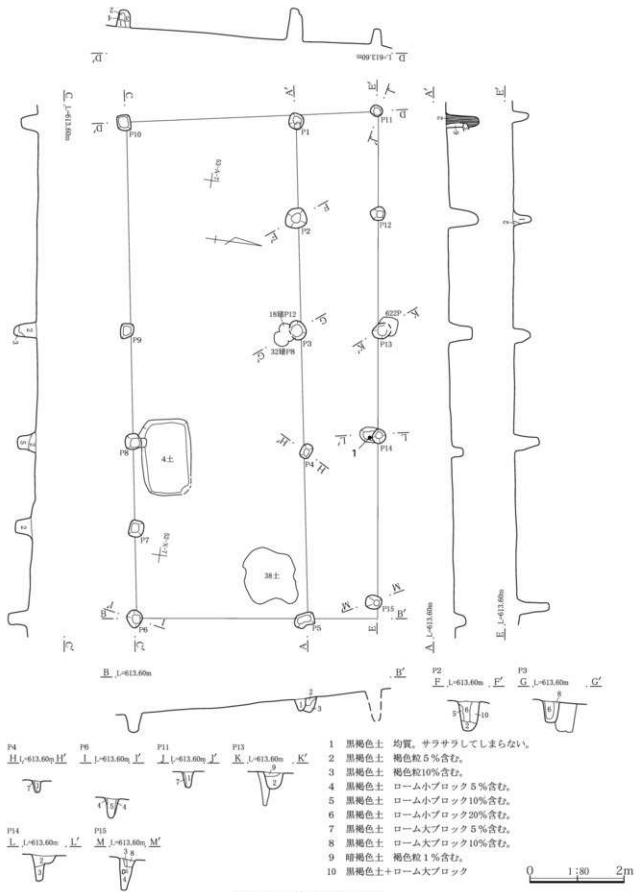
重複 3・6・9・16・17・19・20・24・25・32号掘立柱建物、3号竪穴状遺構、4号溝、5・38・42・43号土坑と重複している。
形状 2×3間南北棟の総柱で、西側に張出を持つ。

規模 桁行1は6.76m、桁行2は7.03m、梁間1は4.58m、梁間2は4.54m。
面積 34.03㎡。

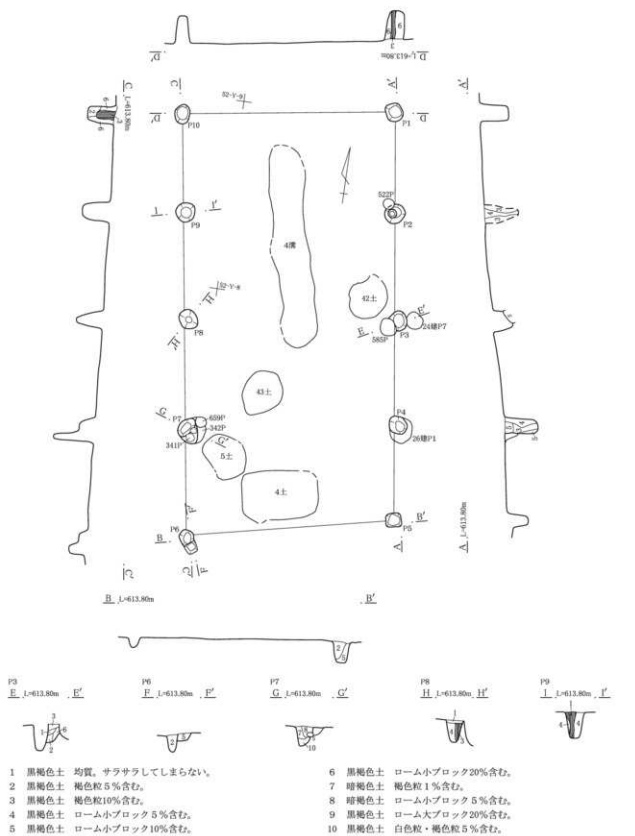
方位 N-10°-W。
出土遺物 17世紀前半瀬戸・美濃陶器碗出土。
時期 江戸時代。
所見 2×3間・南北棟。総柱で、西側に張出を持つ。

表63 52区18号掘立柱建物計測表

ピット番号	規模				旧ピット番号	
	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	柱間寸法(m)		
P 1	32	28	49	→P 2	2.44	555
P 2	47	32	67	→P 3	2.15	410
P 3	42	38	59	→P 4	2.19	588
P 4	31	28	40	→P 5	2.21	73
P 5	24	23	20	→P 6	2.37	140
P 6	24	20	47	→P 7	2.25	127
				→P 11	0.66	
P 7	30	24	43	→P 8	2.23	330
P 8	32	32	72	→P 9	2.55	405
P 9	33	33	74	→P 10	2.13	493
P 10	39	36	78	→P 14	2.56	501
P 11	31	28	54	→P 12	2.24	129
P 12	40	-	62	→P 13	2.18	658
P 13	38	37	75	→P 8	0.81	622
P 14	37	33	53	→P 15	2.27	594
P 15	31	24	55	→P 5	2.00	388



第256図 52区16号掘立柱建物



0 1:80 2m

第257図 52区17号掘立柱建物

52区19号掘立柱建物 (第259図: PL.57)

位置 国道部分東側の調査区、52区Y-6・7、53区A-6・7グリッドに位置する。1～33号掘立柱建物が集中する地区の中央部西側に位置する。**重複** 16・18・25・32号掘立柱建物と重複している。**形状** 1×2間の東西棟。**規模** 桁行1は3.98m、桁行2は4.30m、梁間1は2.42m、梁間2は2.29m。**面積** 9.55㎡。**方位** N-81°-(83)°-E。**出土遺物** なし。**時期** 中近世と思われる。**所見** 1×2間・東西棟。梁間は1間であり2.42m間に柱穴を持たない。

表64 52区19号掘立柱建物計測表

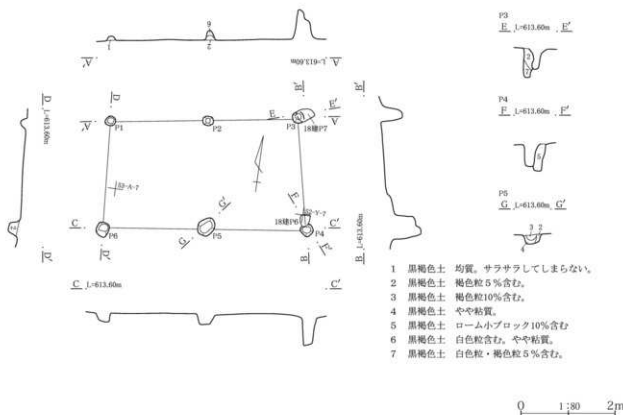
ピット番号	規模				旧ピット番号	
	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	柱間寸法(m)		
P 1	23	22	9	→P 2	2.06	53区112
P 2	23	20	21	→P 3	1.93	326
P 3	24	23	63	→P 4	2.42	330
P 4	24	24	58	→P 5	2.14	128
P 5	41	32	22	→P 6	2.16	303
P 6	30	26	20	→P 1	2.29	53区99

52区20号掘立柱建物 (第260図: PL.58)

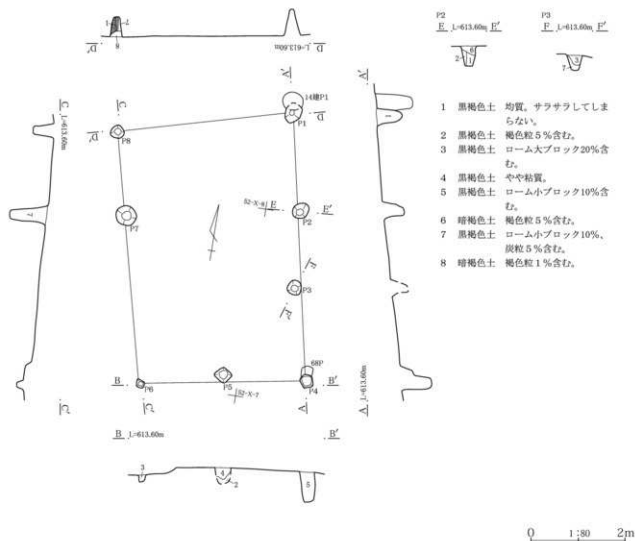
位置 国道部分東側の調査区、52区W・X-7・8グリッドに位置する。1～33号掘立柱建物が集中する地区の中央部に位置する。**重複** 6・9・16～18・24～26・29・32号掘立柱建物、4号溝、4・38・42号土坑と重複している。**形状** 2×3間の南北棟。**規模** 桁行1は5.73m、桁行2は5.42m、梁間1は3.50m、梁間2は3.70m。**面積** 20.02㎡。**方位** N-12°~14°-W。**出土遺物** なし。**時期** 中近世と思われる。**所見** 2×3間・南北棟。

表65 52区20号掘立柱建物計測表

ピット番号	規模				旧ピット番号	
	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	柱間寸法(m)		
P 1	39	33	57	→P 2	2.14	474
P 2	37	32	48	→P 3	1.64	334
P 3	30	29	31	→P 4	1.99	525
P 4	28	24	65	→P 5	1.77	67
P 5	28	27	30	→P 6	1.74	76
P 6	17	15	15	→P 7	3.60	147
P 7	43	42	80	→P 8	1.82	390
P 8	27	27	43	→P 1	3.70	419



第259図 52区19号掘立柱建物



第260図 52区20号掘立柱建物

52区21号掘立柱建物 (第261図: PL.58)

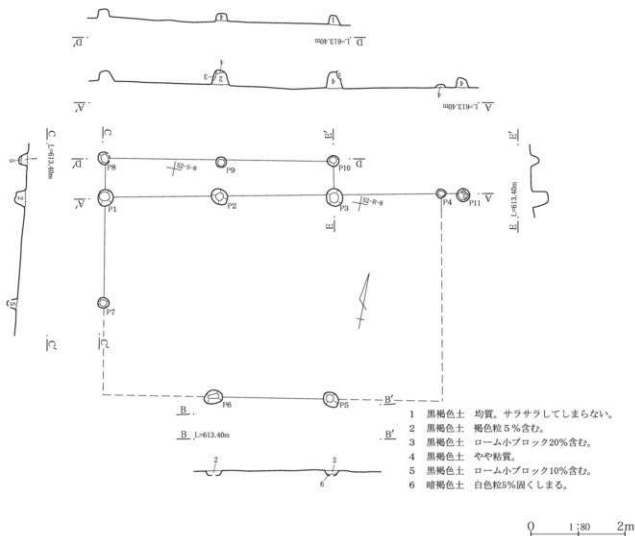
位置 国道部分東側の調査区、52区Q-7・8、R-6
~8、S-6・7グリッドに位置する。1~33号掘立
柱建物が集中する地区の中央部南東側に位置する。

重複 4・13号掘立柱建物、1号溝、1号墓と重複して
いる。
形状 2×3間の東西棟。北側に張出を持つ。

規模 桁行1は7.17m、桁行2は2.47m以上、梁間
1は2.26m以上。
面積 34.50㎡。
方位 N-78~80°-E。
出土遺物 なし。
時期 中近
世と思われる。
所見 2×3間の東西棟。北側に張
出を持つ。

表66 52区21号掘立柱建物計測表

ピット番号	規模				目ピット番号
	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	柱間寸法(m)	
P 1	35	33	23	→P 2 2.44 →P 8 0.82	185
P 2	38	31	33	→P 3 2.43	204
P 3	37	35	39	→P 4 2.29	207
P 4	20	19	7	→P 11 0.46	215
P 5	37	30	14	→P 6 2.47	200
P 6	38	28	14	—	216
P 7	23	23	18	→P 1 2.26	183
P 8	26	22	17	→P 9 2.47	236
P 9	22	22	17	→P 10 2.39	203
P 10	24	24	21	→P 3 0.80	376
P 11	28	28	17	—	210



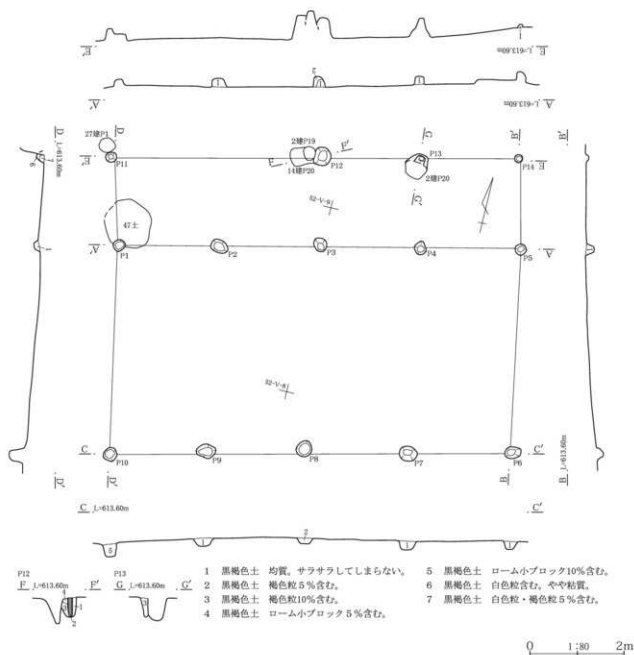
第261図 52区21号掘立柱建物

52区22号掘立柱建物 (第262図: PL.58・59)

位置 国道部分東側の調査区、52区T-8、U・V-7・8グリッドに位置する。1～33号掘立柱建物が集中する地区の中央部に位置する。 **重複** 2・8・11・14・27・29・31号掘立柱建物、1号焼土、31・47・55号土坑と重複している。 **形状** 1×4間の東西棟。北側に張出を持つ。 **規模** 桁行1は8.52m、桁行2は8.52m、梁間1は4.34m、梁間2は4.46m。 **面積** 53.63㎡。 **方位** N-76°-77°-E。 **出土遺物** なし。 **時期** 中世と思われる。 **所見** 1×4間の東西棟。北側に張出を持つ。

表67 52区22号掘立柱建物計測表

ピット番号	規模				旧ピット番号
	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	柱間寸法(m)	
P 1	25	23	17	→P 2 2.12 →P 11 1.90	552
P 2	38	26	20	→P 3 2.15	532
P 3	31	26	22	→P 4 2.12	609
P 4	26	23	18	→P 5 2.12	254
P 5	24	24	19	→P 6 4.34	310
P 6	35	25	16	→P 7 2.20	231
P 7	38	31	19	→P 8 2.18	225
P 8	33	32	15	→P 9 2.10	37
P 9	42	32	16	→P 10 2.04	315
P 10	29	28	29	→P 1 4.46	39
P 11	23	21	22	→P 12 4.50	576
P 12	38	33	42	→P 13 2.10	617
P 13	-	41	45	→P 14 2.06	281
P 14	18	17	5	→P 5 1.90	685



第262図 52区22号掘立柱建物

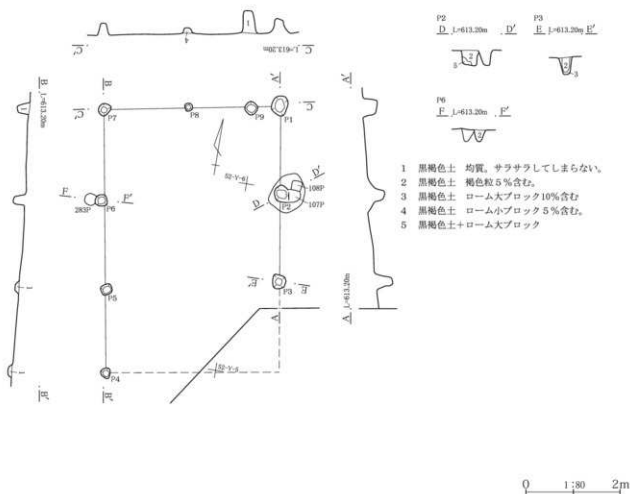
52区23号掘立柱建物 (第263図: PL.54・59)

位置 国道部分東側の調査区、52区X・5・6、Y・4～6グリッドに位置する。1～33号掘立柱建物が集中する地区の中央部南西側に位置する。 **重複** 34・35号土坑と重複している。 **形状** 2×3間の南北棟。

規模 桁行1は5.12m、梁間1は3.75m、梁間2は3.74m。 **面積** 20.91㎡以上。 **方位** N-10°-W。 **出土遺物** なし。 **時期** 中近世と思われる。 **所見** 2×3間・南北棟。南東コーナー部分は調査区域外となっており、その部分に想定される柱穴は確認出来なかった。

表68 52区23号掘立柱建物計測表

ピット番号	規模				目ピット番号	
	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	柱間寸法(m)		
P 1	40	33	30	→P 2	1.89	119
P 2	35	29	42	→P 3	1.87	106
P 3	29	27	41	—	—	100
P 4	22	20	12	→P 5	1.78	292
P 5	23	22	10	→P 6	1.91	288
P 6	24	23	26	→P 7	1.92	284
P 7	26	24	27	→P 8	1.79	286
P 8	17	16	14	→P 9	1.34	296
P 9	26	25	49	→P 1	0.60	298



第263図 52区23号掘立柱建物

52区24号掘立柱建物 (第264図: PL.59・60)

位置 国道部分東側の調査区、52区W-8、X・Y-7・8グリッドに位置する。1～33号掘立柱建物が集中する地区の中央部西側に位置する。重複 3・6～9・14・16～18・20・25・27・29・32号掘立柱建物、3号竪穴状遺構、2・4号溝、42号土坑と重複している。

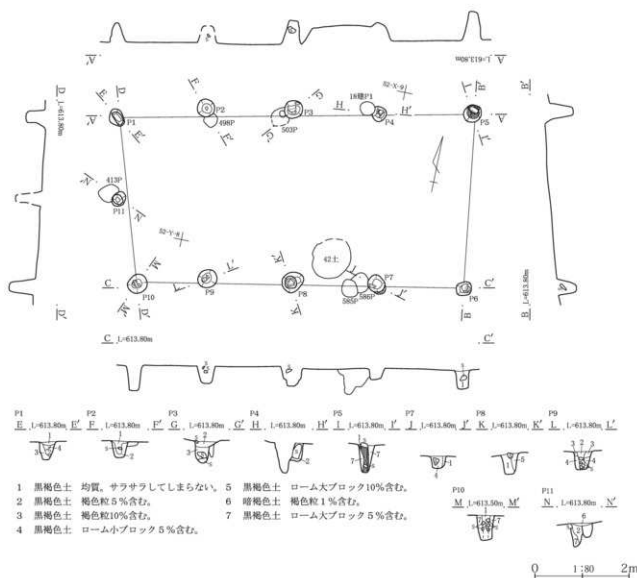
形状 2×4間の東西棟。規模 桁行1は7.58m、桁行2は7.34m、梁間1は3.74m、梁間2は3.66m。

面積 27.14㎡。 **方位** N-78～79°-E。

出土遺物 なし。 **時期** 中近世と思われる。 **所見** 2×4間・東西棟。

表69 52区24号掘立柱建物計測表

ピット番号	規模				目ピット番号	
	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	柱間寸法(m)		
P 1	—	28	40	→P 2	1.92	491・492
P 2	37	37	38	→P 3	1.86	497
P 3	40	38	52	→P 4	1.82	502
P 4	30	28	37	→P 5	2.00	664
P 5	40	37	59	→P 6	3.74	545
P 6	32	28	42	→P 7	1.86	356
P 7	43	35	22	→P 8	1.80	587
P 8	47	39	40	→P 9	1.80	357
P 9	41	38	41	→P 10	1.40	389
P 10	42	38	54	→P 11	1.90	346
P 11	33	26	53	→P 1	1.76	412



第264図 52区24号掘立柱建物

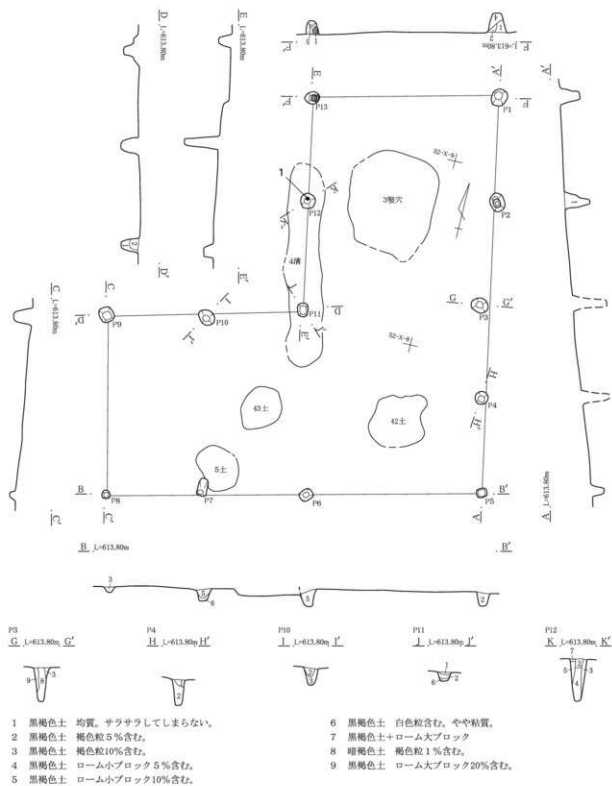
52区25号掘立柱建物 (第265図: PL.60)

位置 国道部分東側の調査区、52区W・X-7~9、Y-6・7グリッドに位置する。1~33号掘立柱建物が集中する地区の中央部に位置する。**重複** 3・6・8・9・14・16~20・24・32号掘立柱建物、3号竪穴、4号溝、5・38・42・43号土坑と重複している。**形状** 4×4間のL字棟。**規模** 桁行1は8.46m、桁行2は7.96m、梁間1は3.80m、梁間2は3.94m。

面積 49.22㎡。**方位** N-11°-W。**出土遺物** 古瀬戸後期IV期(1450年前後)の陶器碗出土。**時期** 中世。**所見** 4×4間・L字棟。東側で北方向L字に広がっている建物である。

表70 52区25号掘立柱建物計測表

ピット番号	規模			柱間寸法(m)	目ピット番号	
	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)			
P 1	36	32	44	→P 2	2.28	510
P 2	38	30	53	→P 3	2.18	537
P 3	36	31	73	→P 4	2.00	361
P 4	27	27	60	→P 5	2.00	526
P 5	22	19	28	→P 6	3.70	65
P 6	28	23	36	→P 7	2.23	141
P 7	32	20	25	→P 8	2.00	126
P 8	18	18	13	→P 9	3.80	304
P 9	33	30	37	→P 10	2.10	333
P 10	37	30	40	→P 11	2.06	624
P 11	28	21	22	→P 12	2.32	592
P 12	31	31	90	→P 13	2.18	523
P 13	31	26	30	→P 1	3.94	450



第265図 52区25号掘立柱建物

52区26号掘立柱建物 (第266図: PL.60・61)

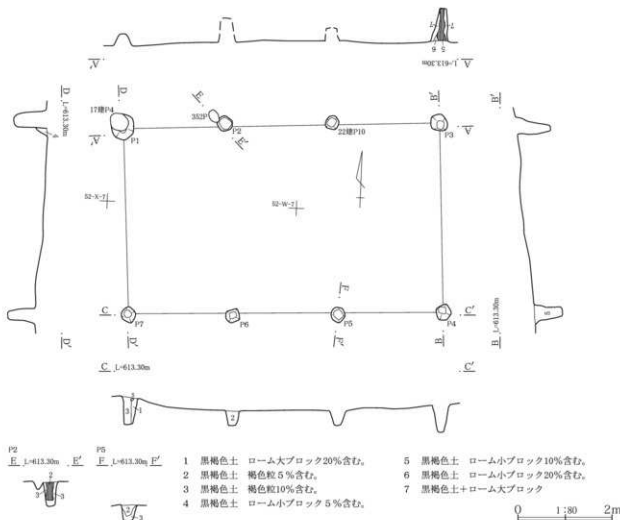
位置 国道部分東側の調査区、52区V・W-6・7グリッドに位置する。1～33号掘立柱建物が集中する地区の中央部南側に位置する。**重複** 1・16・20・32号掘立柱建物、1号落ち込みと重複している。**形状** 1×3間の東西棟。**規模** 桁行1は6.74m、桁行2は6.67m、梁間1は3.95m、梁間2は4.00m。**面積** 26.55㎡。**方位** N-87°-E。**出土遺物** なし。**時期** 中世と思われる。**所見** 1×3間・東西棟。

表71 52区26号掘立柱建物計測表

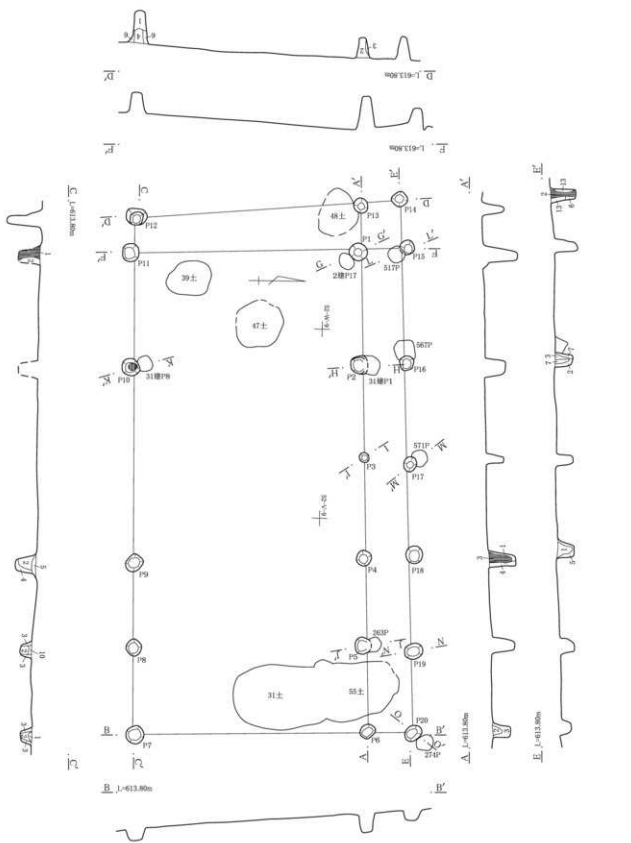
ピット番号	規模			柱間寸法(m)	目ピット番号	
	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)			
P 1	55	46	26	→ P 2	2.20	657
P 2	32	32	50	→ P 3	4.56	353
P 3	40	34	75	→ P 4	3.95	27
P 4	31	31	62	→ P 5	2.20	34
P 5	33	29	34	→ P 6	2.24	26
P 6	29	25	36	→ P 7	2.22	62
P 7	30	28	61	→ P 1	4.00	85

52区27号掘立柱建物 (第267・268図: PL.61)

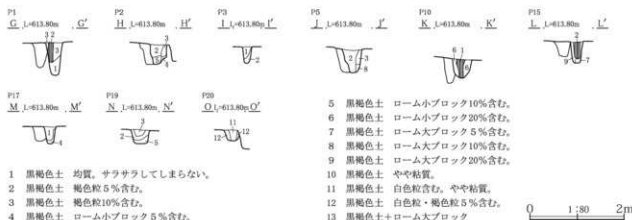
位置 国道部分東側の調査区、52区T～W-8・9グリッドに位置する。1～33号掘立柱建物が集中する地区の中央部に位置する。**重複** 2・8・9・11・14・22・24・29・31号掘立柱建物、1号焼土、31・39・46～48・55号土坑と重複している。**形状** 1×5間の東西棟で、北側と西側に下屋を持つ。**規模** 桁行1は10.20m、桁行2は10.22m、梁間1は4.95m、梁間2は4.85m。**面積** 64.77㎡。**方位** N-0°。**出土遺物** なし。**時期** 中世と思われる。**所見** 1×5間・東西棟。



第266図 52区26号掘立柱建物



第267図 52区27号掘立柱建物



第268図 52区27号掘立柱建物土層断面図

表72 52区27号掘立柱建物計測表

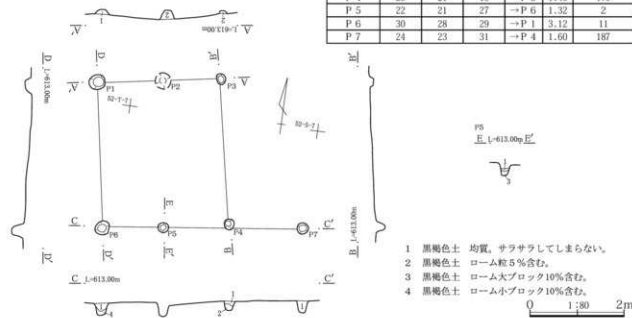
ビット番号	規模			柱間寸法(m)	目ビット番号	
	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)			
P 1	37	37	73	→P 2	2.40	597
P 2	38	33	43	→P 3	1.98	561
P 3	21	20	35	→P 4	2.15	608
P 4	32	30	58	→P 5	1.86	602
P 5	37	35	52	→P 6	1.82	262
P 6	33	28	38	→P 7	4.95	265
P 7	38	38	26	→P 8	1.84	232
P 8	36	33	20	→P 9	1.82	226
P 9	37	31	46	→P 10	4.15	252
P 10	37	37	44	→P 11	2.43	527
				→P 12	0.75	
P 11	37	35	41	→P 1	4.85	336
P 12	45	34	71	→P 13	4.78	625
P 13	32	28	45	→P 14	0.82	583
P 14	32	30	49	→P 15	1.07	511
P 15	30	30	46	→P 16	2.45	516
P 16	30	29	38	→P 17	2.13	568
P 17	30	27	35	→P 18	1.92	572
P 18	37	35	35	→P 19	2.02	600
P 19	38	32	30	→P 20	1.74	276
P 20	39	30	26	→P 6	0.94	670

52区28号掘立柱建物 (第269図: PL.61)

位置 国道部分東側の調査区、52区S・T-6・7グリッドに位置する。1～33号掘立柱建物が集中する地区の中央部南東側に位置する。重複なし。形状 1×2間。規模 桁行1は3.08m、桁行2は3.10m、梁間1は2.54m、梁間2は2.66m。面積 8.03㎡。方位 N-80～83°-E。出土遺物 なし。時期 中近世と思われる。所見 1×2間。発掘段階では1×2間の建物であるが、一部柱穴が東側に延びているので、建物はさらに東側に広がる可能性がある。

表73 52区28号掘立柱建物計測表

ビット番号	規模			柱間寸法(m)	目ビット番号	
	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)			
P 1	34	31	15	→P 2	1.40	5
P 2	35	34	19	→P 3	1.20	1
P 3	23	19	11	→P 4	3.16	180
P 4	23	21	18	→P 5	1.40	176
P 5	22	21	27	→P 6	1.32	2
P 6	30	28	29	→P 1	3.12	11
P 7	24	23	31	→P 4	1.60	187



第269図 52区28号掘立柱建物

52区29号掘立柱建物 (第270図: PL.61・62)

位置 国道部分東側の調査区、52区V・W-7・8グリッドに位置する。1～33号掘立柱建物が集中する地区の中央部に位置する。重複 2・8・9・14・16・

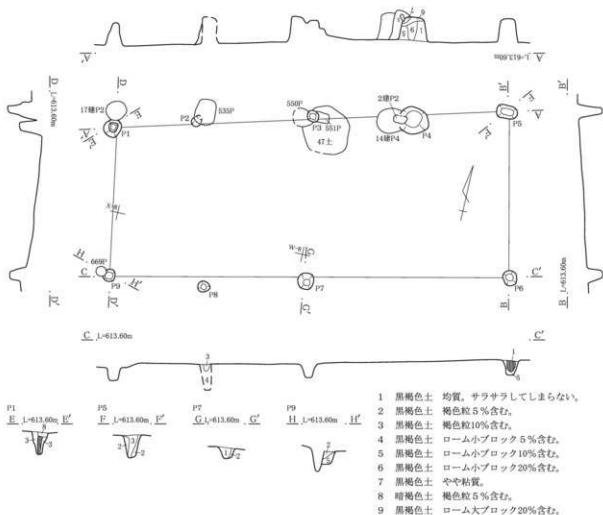
20・22・24・27・31・33号掘立柱建物、1号焼土、39・47号土坑と重複している。形状 1×4間の東西棟。

規模 桁行1は8.40m、桁行2は8.50m、梁間1は3.54m、梁間2は3.20m。面積 28.35㎡。方位 N-73～77°-E。

出土遺物 なし。時期 中近世と思われる。所見 1×4間・東西棟。

表74 52区29号掘立柱建物計測表

ピット番号	規模			目ピット番号
	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	
P.1	38	33	47	→P.2
P.2	—	—	—	→P.3
P.3	23	23	48	→P.4
P.4	63	57	53	→P.5
P.5	44	27	53	→P.6
P.6	32	28	35	→P.7
P.7	—	—	—	→P.8
P.8	32	28	55	→P.9
P.9	25	25	43	→P.1



0 1:80 2m

第270図 52区29号掘立柱建物

52区30号掘立柱建物 (第271図: PL.62)

位置 国道部分東側の調査区、52区W・X-9・10グリッドに位置する。1～33号掘立柱建物が集中する地区の中央部北側に位置する。**重複** 3号掘立柱建物、3号溝、4号竪穴状遺構と重複している。**形状** 2×3間の東西棟。**規模** 桁行1は4.88m、桁行2は4.85m、梁間1は4.44m、梁間2は4.77m。**面積** 22.36㎡。**方位** N-10°-W。**出土遺物** なし。

時期 中近世と思われる。**所見** 2×3間・正方形。北側の桁方向の柱穴は、東西2本以外確認出来なかった。

表75 52区30号掘立柱建物計測表

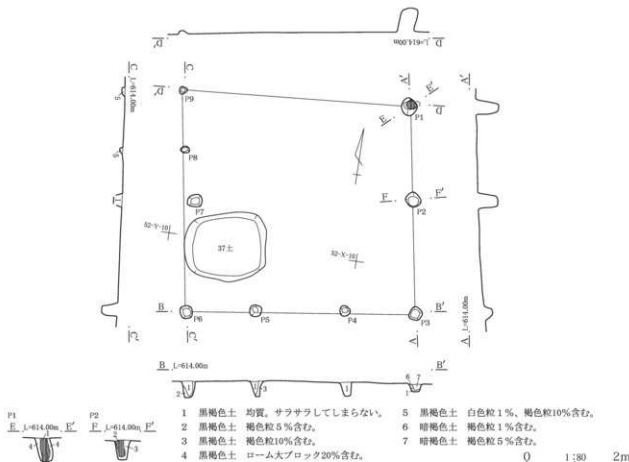
ピット番号	規模				目ピット番号	
	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	柱間寸法(m)		
P 1	37	34	48	→P 2	2.04	488
P 2	31	28	42	→P 3	2.40	487
P 3	26	25	18	→P 4	1.50	464
P 4	22	22	29	→P 5	1.92	460
P 5	24	24	35	→P 6	1.46	453
P 6	26	25	35	→P 7	2.37	448
P 7	31	26	21	→P 8	1.13	446
P 8	20	18	4	→P 9	1.27	445
P 9	17	16	8	→P 1	4.85	444

52区31号掘立柱建物 (第272図: PL.62)

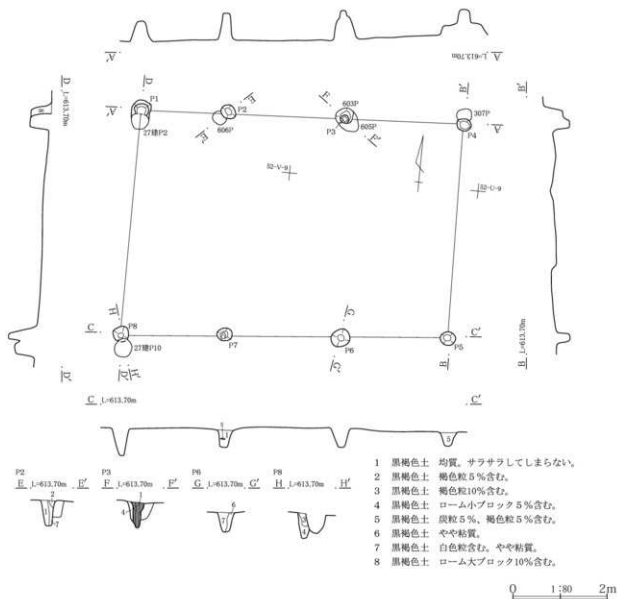
位置 国道部分東側の調査区、52区U・V-8・9グリッドに位置する。1～33号掘立柱建物が集中する地区の中央部に位置する。**重複** 2・8・11・14・22・27・29号掘立柱建物、1号焼土、31・55号土坑と重複している。**形状** 1×3間の東西棟。**規模** 桁行1は6.90m、桁行2は6.94m、梁間1は4.60m、梁間2は4.80m。**面積** 32.40㎡。**方位** N-85°(87)°-E。**出土遺物** なし。**時期** 中世と思われる。**所見** 1×3間・東西棟。整理段階で、北側の柱穴を変更した。

表76 52区31号掘立柱建物計測表

ピット番号	規模				目ピット番号	
	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	柱間寸法(m)		
P 1	—	40	44	→P 2	1.84	562
P 2	33	28	58	→P 3	2.48	607
P 3	38	34	59	→P 4	2.60	604
P 4	30	25	27	→P 5	4.60	306
P 5	32	29	32	→P 6	2.24	234
P 6	41	36	43	→P 7	2.50	373
P 7	32	27	39	→P 8	2.20	323
P 8	32	32	57	→P 1	4.80	528



第271図 52区30号掘立柱建物



第272図 52区31号掘立柱建物

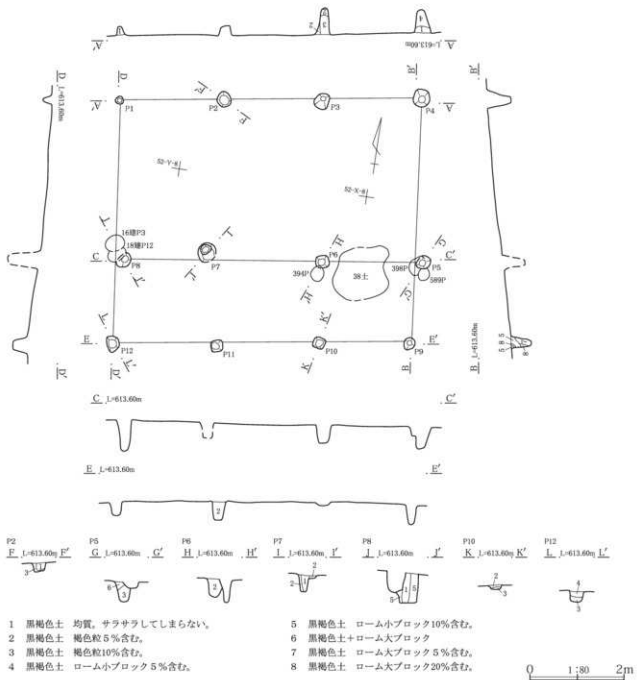
52区32号掘立柱建物 (第273図: PL.62・63)

位置 国道部分東側の調査区、52区W~Y-7・8グリッドに位置する。1~33号掘立柱建物が集中する地区の中央部西側に位置する。**重複** 3・6・9・16~20・24~26・29号掘立柱建物、4号溝、5・38・42・43号土坑と重複している。**形状** 1×3間の東西棟。

規模 桁行1は6.40m、桁行2は6.31m、梁間1は3.50m、梁間2は3.40m。**面積** 32.93㎡。**方位** N-82°-E。**出土遺物** なし。**時期** 中近世と思われる。**所見** 1×3間・東西棟。

表77 52区32号掘立柱建物計測表

ピット番号	規模				目ピット番号	
	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	柱間寸法(m)		
P 1	16	16	20	→P 2	2.20	417
P 2	33	30	21	→P 3	2.10	400
P 3	33	27	56	→P 4	2.10	524
P 4	37	35	49	→P 5	3.50	476
P 5	33	26	47	→P 6	2.13	399
				→P 9	1.76	
P 6	28	27	39	→P 7	2.44	395
P 7	23	19	36	→P 8	1.74	383・386
P 8	34	25	63	→P 1	3.40	337
P 9	27	23	42	→P 10	1.90	678
P 10	25	23	8	→P 11	2.20	145
P 11	24	24	41	→P 12	2.20	125
P 12	35	26	29	→P 8	1.84	679



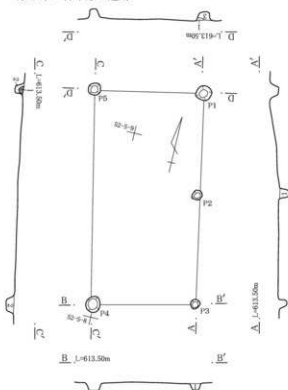
第273図 52区32号掘立柱建物

52区33号掘立柱建物 (第274図:PL.63)

位置 国道部分東側の調査区、52区R・S-8・9グリッドに位置する。1～33号掘立柱建物が集中する地区の中央部東側に位置する。**重複** なし。**形状** 1×2間の南北棟。**規模** 桁行1は4.54m、桁行2は4.60m、梁間1は2.20m、梁間2は2.34m。**面積** 10.30㎡。**方位** N-10°-14°-W。**出土遺物** なし。**時期** 中世と思われる。**所見** 1×2間・南北棟。

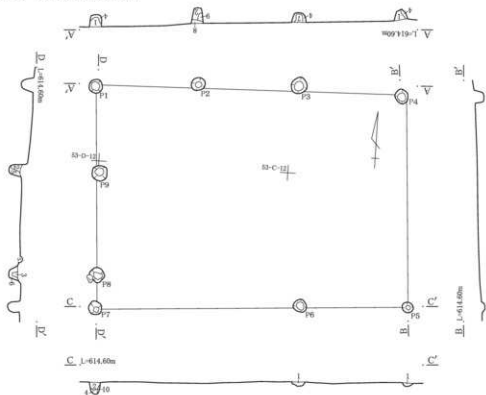
表78 52区33号掘立柱建物計測表

ピット番号	規模			柱間寸法(m)	目ピット番号	
	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)			
P 1	34	32	19	→P 2	2.20	638
P 2	21	20	16	→P 3	2.34	691
P 3	21	20	16	→P 4	2.20	238
P 4	34	31	19	→P 5	4.60	201
P 5	25	25	16	→P 1	2.34	636



- 1 黒褐色土 均質。サラサラしてしまらない。
- 2 黒褐色土 褐色粒5%含む。
- 3 黒褐色土 白色粒含む。やや粘質。

第274図 52区33号掘立柱建物



- | | |
|------------------------------|-----------------------|
| 1 黒褐色土 | 6 黒褐色土 ローム大ブロック10%含む。 |
| 2 黒褐色土 ローム粒5%含む。 | 7 黒褐色土 ローム大ブロック20%含む。 |
| 3 黒褐色土 ローム粒10%、炭粒1%含む。 | 8 暗褐色土 ローム大ブロック10%含む。 |
| 4 黒褐色土 ローム小ブロック10%含む。 | 9 黒色土 |
| 5 黒褐色土 ローム小ブロック10%、YPK 5%含む。 | 10 黒褐色土 YPK 5%含む。 |

第275図 53区1号掘立柱建物

53区1号掘立柱建物 (第275図: PL.63)

位置 中近世屋敷の北西端部、53区B・C-11・12グリッドに位置する。1～33号掘立柱建物が集中する中近世屋敷の中の1棟である。 **重複** 1～3号土坑。

形状 2×3間の東西棟。 **規模** 桁行1は6.50m、桁行2は6.64m、梁間1は4.50m、梁間2は4.80m。

面積 32.13㎡。 **方位** N-87°-89°-E。

出土遺物 なし。 **時期** 中世と思われる。 **所見**

2×3間・東西棟。中近世屋敷の北西端部に位置する。

南側に4号柱穴列がある。

表79 53区1号掘立柱建物計測表

ピット番号	規模			柱間寸法(m)	目ピット番号	
	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)			
P 1	29	28	26	→P 2	2.20	4
P 2	30	27	33	→P 3	2.10	3
P 3	36	32	22	→P 4	2.20	2
P 4	31	27	17	→P 5	4.44	1
P 5	25	23	7	→P 6	2.30	6
P 6	28	26	10	→P 7	4.30	8
P 7	29	28	25	→P 8	0.72	9
P 8	29	29	25	→P 9	2.22	18
P 9	33	32	37	→P 1	1.80	5

53区5号掘立柱建物 (第276図: PL.63・64)

位置 国道部分東側、中近世屋敷の西端で、53区B・C-6・7グリッドに位置する。重複 7号掘立柱建物。形状 1×2間の正方形。規模 桁行1は3.61m、桁行2は3.70m、梁間1は3.50m、梁間2は3.42m。面積 12.62㎡。方位 N-2~4°-E。出土遺物 なし。時期 中近世と思われる。

所見 1×2間・正方形。37棟の中近世屋敷の中で最も西側に位置する1棟である。西には掘立柱建物はなく、1・2号柱六列、東に5号柱六列がある。

表80 53区5号掘立柱建物計測表

ピット番号	規模				旧ピット番号
	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	柱間寸法(m)	
P 1	26	22	33	→P 2	144
P 2	25	23	12	→P 3	1.85
P 3	20	20	17	→P 4	3.50
P 4	20	19	4	→P 5	1.94
P 5	23	21	21	→P 6	1.76
P 6	26	22	25	→P 1	3.40

53区6号掘立柱建物 (第278図: PL.64)

位置 国道部分東側、中近世屋敷の西端で、53区A~C-7・8グリッドに位置する。重複 52号土坑。形状 1×3間の東西棟。規模 桁行1は6.36m、桁行2は6.40m、梁間1は3.85m、梁間2は3.90m。面積 24.69㎡。方位 N-85~86°-E。

出土遺物 なし。時期 中近世と思われる。所見 1×3間・東西棟。37棟の中近世屋敷の中で最も西側に位置する1棟である。西には掘立柱建物はなく、1・2号柱六列、北に東西方向の4号柱六列がある。

表81 53区6号掘立柱建物計測表

ピット番号	規模				旧ピット番号
	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	柱間寸法(m)	
P 1	38	36	58	→P 2	4.20
P 2	43	38	64	→P 3	2.16
P 3	35	30	47	→P 4	3.84
P 4	30	29	43	→P 5	2.30
P 5	40	34	31	→P 6	2.10
P 6	29	27	39	→P 7	2.00
P 7	38	34	32	→P 1	3.90

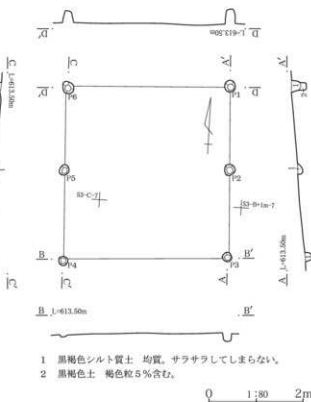
53区7号掘立柱建物 (第277図: PL.64)

位置 国道部分東側、中近世屋敷の西端で、52区Y-6・7、53区A・B-5~7、C-6グリッドに位置する。重複 52区16・19・23・25号掘立柱建物、52区1号柱六列、52区34・41号土坑、53区5号掘立柱建物、53区

5号柱六列。形状 1×5間の東西棟である。北側に下屋を持つ。規模 桁行1は11.76m、桁行2は11.80m、梁間1は4.76m、梁間2は4.50m。面積 54.38㎡。方位 N-84~85°-E。出土遺物 なし。時期 中近世と思われる。所見 1×5間・東西棟、北側に下屋を持つ。37棟の中近世屋敷の中で最も西側に位置する1棟である。西には掘立柱建物はなく、南に53区5号柱六列と重複する。

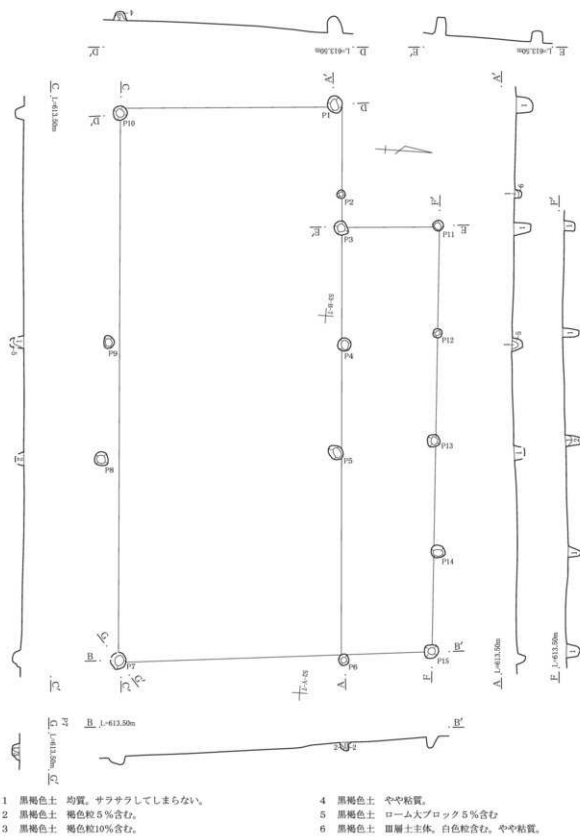
表82 53区7号掘立柱建物計測表

ピット番号	規模				旧ピット番号
	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	柱間寸法(m)	
P 1	34	31	37	→P 2	1.86
P 2	18	17	15	→P 3	0.70
P 3	31	27	37	→P 4	2.50
P 4	28	27	24	→P 5	2.30
P 5	34	28	23	→P 6	4.40
P 6	23	23	18	→P 7	4.76
P 7	(35)	32	15	→P 8	4.30
P 8	30	30	16	→P 9	2.50
P 9	28	23	27	→P 10	4.86
P 10	31	30	19	→P 1	4.55
P 11	24	22	23	→P 12	2.30
				→P 3	2.06
P 12	19	19	34	→P 13	2.30
P 13	26	25	34	→P 14	2.36
P 14	30	27	26	→P 15	2.10
P 15	29	28	26	→P 6	1.86



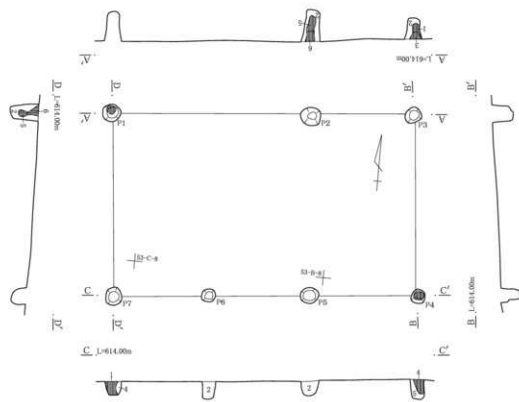
- 1 黒褐色シルト質土 均質。サラサラしてしまわない。
- 2 黒褐色土 褐色粒5%含む。

第276図 53区5号掘立柱建物



0 1:80 2m

第277図 53区7号掘立柱建物



- 1 黒褐色シルト質土 Ⅱ層土主体、均質。サラサラしてしまらない。 4 黒褐色土 ローム大ブロック5%含む。
 2 黒褐色土 褐色粒5%含む。 5 黒褐色土 ローム大ブロック10%含む。
 3 黒褐色土 褐色粒10%含む。 6 黒褐色土 ローム小ブロック20%含む。

0 1:80 2m

第278図 53区6号掘立柱建物

柱穴列

52区1号柱穴列 (第279図)

位置 52区から53区にかけて37棟の掘立柱建物群が集中する中近世屋敷の中であり、52区Y-4・5・6グリッドに位置する。**重複** 53区7号掘立柱建物、35号土坑。**規模** 南北方向4.6m。ピット数とそれぞれの大きさ等は以下の表に示した。**出土遺物** なし。

時期 52区から53区にかけて集中する37棟の掘立柱建物群とほぼ同じ時期の中近世と思われる。**所見** 37棟の掘立柱建物は、調査担当が第3章第7節第3項の中で詳しく検討し、数段階の変遷を考えている。検討結果をもとに、大きく前半後半の2段階に分けて52区1号柱穴列の持つ意味について検討する。前半段階(16棟A・B

2・C・E 2類)で、この52区1号柱穴列から西側には北東方向に離れて造られている53区1号掘立柱建物以外造られていない。後半段階(21棟B1・D1・D2・D3・E1類)になると、52区1号柱穴列より西側に53区5・6・7号と3棟の掘立柱建物が造られるようになる。52区1号柱穴列は、前半段階における掘立柱建物の西側を囲むための施設として造られていたことが考えられる。

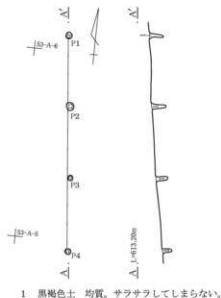
表83 52区1号柱穴列計測表

ピット番号	規模				柱間寸法(m)	目ピット番号
	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	柱間寸法(m)		
P 1	13	13	30	→P 2	1.50	285
P 2	17	15	31	→P 3	1.54	291
P 3	22	21	25	→P 4	1.60	289
P 4	12	12	23	—	—	290

53区1号柱穴列 (第280図: PL.64)

位置 52区から53区にかけて37棟の掘立柱建物群が集中する中近世屋敷の西端にあり、53区C・D-7グリッドに位置する。**重複** 東端で南北方向に建てられている53区2号柱穴列と接する。**規模** 東西方向5.2m。ビット数とそれぞれの大きさ等は以下の表に示した。

出土遺物 なし。**時期** 52区から53区にかけて集中する37棟の掘立柱建物群とはほぼ同じ時代と考えられ、中近世と思われる。**所見** 37棟の掘立柱建物は、調査担当が第3章第7節第3項の中で詳しく検討し、数段階の変遷を考えている。検討結果をもとに、大きく前半後半の2段階に分け、53区1号柱穴列の持つ意味について検討する。53区1号柱穴列は、後半段階に多くの掘立柱建物が造られる中近世屋敷西側の西端に位置している。西端を区画するための柱穴列であることが考えられる。しかしなぜ南北方向でなく、東西方向なのか不明である。



第279図 52区1号柱穴列

表84 53区1号柱穴計測表

ビット番号	規模				旧ビット番号
	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	柱間寸法(m)	
P 1	26	21	25	→P 2	2.16
P 2	31	25	35	→P 3	1.94
P 3	31	24	33	→P 4	1.10
P 4	27	25	12	—	1.36

53区2号柱穴列 (第280図)

位置 52区から53区にかけて37棟の掘立柱建物群が集中する中近世屋敷の西端にあり、53区C-6～8グリッドに位置する。**重複** 東側で東西方向に建てられている53区1号柱穴列と接する。**規模** 東西方向8.0m。ビット数とそれぞれの大きさ等は以下の表に示した。

出土遺物 なし。**時期** 52区から53区にかけて集中する37棟の掘立柱建物群とはほぼ同じ時代と考えられ、中近世と思われる。**所見** 37棟の掘立柱建物は、調査担当が第3章第7節第3項の中で詳しく検討し、数段階の変遷を考えている。検討結果をもとに、大きく前半後半の2段階に分け、53区2号柱穴列の持つ意味について検討する。53区2号柱穴列は、後半段階に多くの掘立柱建物が造られる中近世屋敷西側の西端に位置している。53区2号柱穴列は、後半段階において53区5～7号掘立柱建物の西側を囲むための施設として造られていたことが考えられる。

表85 53区2号柱穴計測表

ビット番号	規模				旧ビット番号
	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	柱間寸法(m)	
P 1	25	25	16	→P 2	1.86
P 2	21	21	19	→P 3	1.54
P 3	30	26	14	→P 4	2.16
P 4	22	15	4	→P 5	1.04
P 5	18	15	8	→P 6	1.44
P 6	30	25	6	—	1.13

53区3号柱穴列 (第280図)

位置 52区から53区にかけて37棟の掘立柱建物群が集中する中近世屋敷の西端にあり、53区C-7～9グリッドに位置する。**重複** 南側で南北方向ほぼ並行する53区2号柱穴列と接する。**規模** 東西方向4.8m。ピット数とそれぞれの大きさ等は以下の表に示した。**出土遺物** なし。**時期** 52区から53区にかけて集中する37棟の掘立柱建物群とほぼ同じ時代と考えられ、中近世と思われる。**所見** 37棟の掘立柱建物は、調査担当が第3章第7節第3項の中で詳しく検討し、数段階の変遷を考えている。検討結果をもとに、大きく前半後半の2段階に分け、53区3号柱穴列の持つ意味について検討する。53区3号柱穴列は、後半段階に多くの掘立柱建物が造られる中近世屋敷西側の西端に位置している。53区5～7号掘立柱建物は1m東近接して建てられている。この結果から53区3号柱穴列は、53区2号柱穴列同様に後半段階において掘立柱建物の西側を囲むための施設として造られていたことが考えられる。

表86 53区3号柱穴列計測表

ピット番号	規模				目ピット番号	
	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	柱間寸法(m)		
P 1	24	21	10	→P 2	1.14	187
P 2	(27)	23	11	→P 3	1.04	184
P 3	27	24	13	→P 4	1.64	179
P 4	28	28	13	→P 5	1.05	164
P 5	18	17	8	—	—	160

53区4号柱穴列 (第280図: PL.64)

位置 52区から53区にかけて37棟の掘立柱建物群が集中する中近世屋敷の北西部にあり、53区A～C-1グリッドに位置する。**重複** なし。**規模** 東西方向4.8m。ピット数とそれぞれの大きさ等は以下の表に示した。**出土遺物** なし。**時期** 52区から53区にかけて集中する37棟の掘立柱建物群とほぼ同じ時代と考えられ、中近世と思われる。**所見** 37棟の掘立柱建物は、調査担当が第3章第7節第3項の中で詳しく検討し、数段階の変遷を考えている。検討結果をもとに、大きく前半後半の2段階に分け、53区4号柱穴列の持つ意味に

ついて検討する。53区4号柱穴列は、後半段階に多くの掘立柱建物が造られる中近世屋敷西側の北端に位置している。53区4号柱穴列の北には、北東方向に離れて造られている53区1号掘立柱建物以外造られていない。53区4号柱穴列は、53区3号柱穴列とともに37棟の掘立柱建物の北西端を区画するために造られたものと考えたい。

表87 53区4号柱穴列計測表

ピット番号	規模				目ピット番号	
	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	柱間寸法(m)		
P 1	25	21	8	→P 2	1.95	189
P 2	30	26	23	→P 3	2.06	190
P 3	25	22	19	→P 4	4.10	191
P 4	24	19	14	—	—	200
P 5	33	25	20	→P 2	1.06	192

53区5号柱穴列 (第280図)

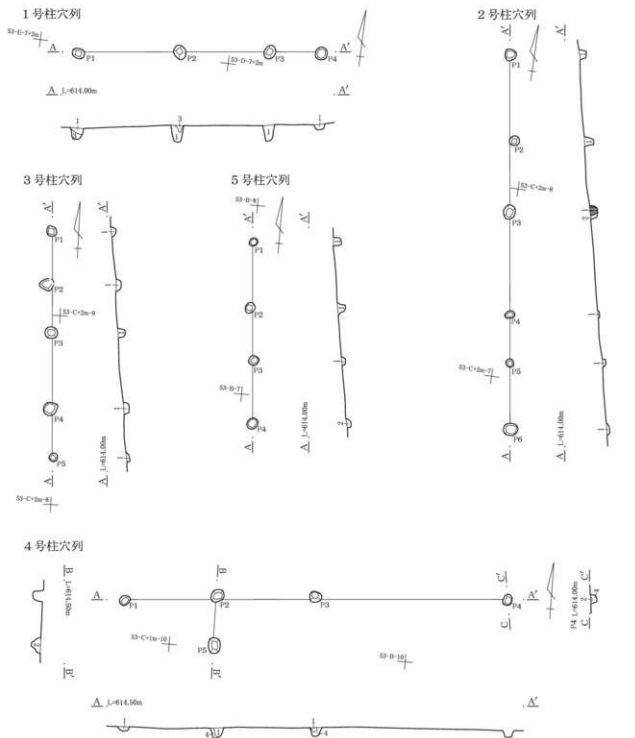
位置 52区から53区にかけて37棟の掘立柱建物群が集中する中近世屋敷の東側にあり、53区C-6・7グリッドに位置する。**重複** 53区7号掘立柱建物と重複している。**規模** 南北方向2.8m。ピット数とそれぞれの大きさ等は以下の表に示した。**出土遺物** なし。

時期 52区から53区にかけて集中する37棟の掘立柱建物群とほぼ同じ時代と考えられ、中近世と思われる。

所見 37棟の掘立柱建物は、調査担当が詳しく検討し、数段階の変遷を考えている。検討結果をもとに、大きく前半後半の2段階に分け、53区5号柱穴列の持つ意味について検討する。53区5号柱穴列は、後半段階の7号掘立柱建物と重複し、北側に6号掘立柱建物が造られている。他の53区1から4号柱穴列は、掘立柱建物と重複することはなく、柱穴列より西側に掘立柱建物は建てられていない。しかし53区5号柱穴列は、52区1号掘立柱建物と同じように後半段階に造られたと思われる掘立柱建物と重複し、柱穴列より西側に掘立柱建物の柱穴が造られている。このように状況から、53区5号柱穴列は、52区1号柱穴列同様に前半段階における掘立柱建物の西側を囲むための施設として造られていたことが考えられる。

表88 53区5号柱穴列計測表

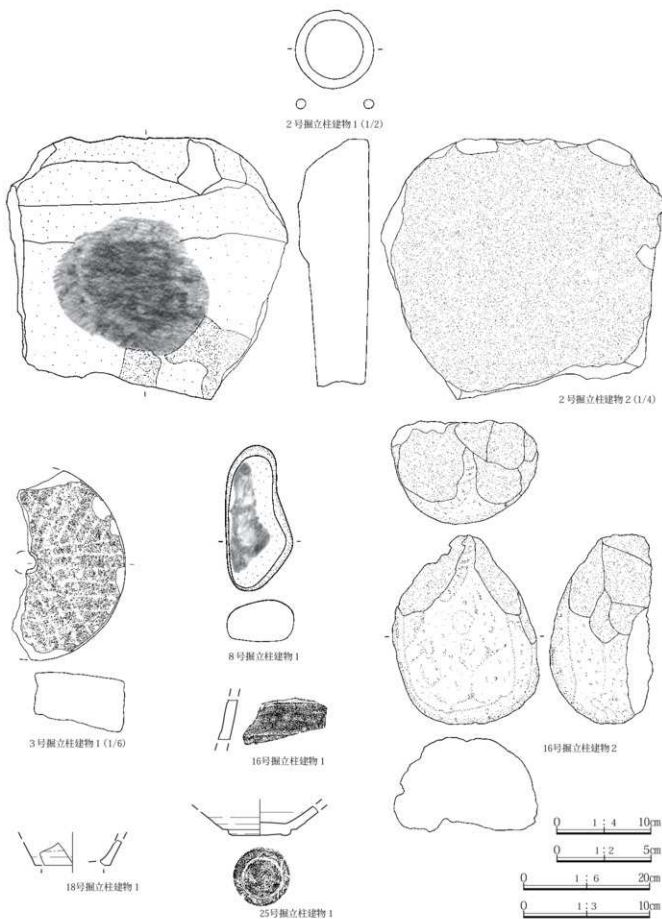
ピット番号	規模				目ピット番号	
	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	柱間寸法(m)		
P 1	19	17	15	→P 2	1.40	147
P 2	25	20	15	→P 3	1.12	145
P 3	22	20	12	→P 4	1.34	126
P 4	25	22	12	—	—	125



- 1 黒褐色土 均質。サラサラしてしまらない。
- 2 黒褐色土 褐色粒5%含む。
- 3 黒褐色土 褐色粒10%含む。
- 4 黒褐色土 ローム大ブロック5%含む。

0 1.80 2m

第280図 53区1～5号柱穴列



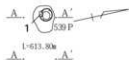
第281図 52区掘立柱建物出土遺物

遺物出土ピット (第282図)

3・8・14・17・18号掘立柱建物に近い538号ピット
と2・8・14・22・27・29号掘立柱建物に近い547号ピット
から遺物が出土している。これらのピットは、掘立柱

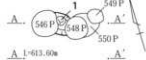
建物の一部ではないが、関連性が考えられるのでここで
報告する。538号ピットからは中世常滑の甕、547号ピット
からは近世と思われる砥石が出土している。

52-538号ピット (52-W-X-8)

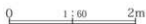


1. 暗褐色土。ローム粒5%含む。

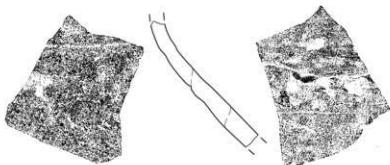
52-547号ピット (52-W-8)



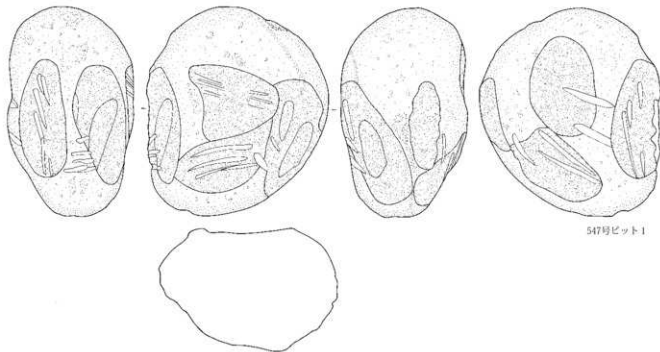
1. 暗褐色土。ローム粒10%と石を含む。



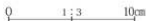
第282図 52区遺物出土ピット



538号ピット1



547号ピット1



第283図 52区ピット出土遺物

竪穴状遺構

52区1号竪穴状遺構 (第284・285図：PL.65・66)

位置 52区U-7グリッドに位置する。**重複** 西辺から西方へ溝状の痕跡が延びていたが、直接の重複関係は不明である。この痕跡は非常に浅く、直線的であるため、北側に所在する掘立柱建物の雨落ち溝と考えられ、本遺構との直接的な関係は想定できない。**形態** 整った長方形。**規模** 南北2.2m、東西2.7m、深さ50cm。**方位** N-6°-W。**1号炉** 中央部北壁寄りに位置する。規模は長軸62cm短軸51cm深さ10cmである。中央南寄りにほぼ完形の内耳土器が正置されていた。底部は炉底面に直接置かれている。土器の回りは炭を含む黒褐色土で埋まり、焼土はほとんど含まれない。囲炉裏のように灰が埋める状況でもない。土器の底部際側面には小穴(3cm×8cm)があり、その部分の破片も出土しないため、使用時は開口した通風口であった可能性が高い。土器の内面は灰や焼土で顕著に埋まっており、炉体土器として使用されたと考えられる。内部の土を分析したところ、炉内から鳥類の末節骨が、土器内部に中型獣類四肢骨が含まれていた(第3章第6節参照)。

2号炉 1号炉の前段階である。竪穴状遺構の中央に設けられる。規模は長軸68cm短軸65cm深さ10cmである。にぶい黄褐色土で埋められ、表面は床面となり堅く締まっていた。炉内に鳥類/小型獣類四肢骨が含まれていた(第3章第6節参照)。**柱穴** 使用面での柱穴はP1-8の8基であり、4隅と各辺中央に設けられる。古い段階の柱穴はP9-15の7基である。全て人為的に埋められる。P12とP13は重複し、後者が後出する。南西隅も柱穴が3時期ある。柱穴は2回立て直されている。P13には柱痕が残る。柱穴の状況から、竪穴状遺構は全方向に一回り拡張されたと考えられる。東西辺中央の柱穴は掘り直しがなかったため、古い段階ではなかった可能性が高い。柱穴の規模：P1長径15cm、短径15cm、深さ40cm、P2長径16cm、短径13cm、深さ48cm、P3長径20cm、短径15cm、深さ38cm、P4長径18cm、短径13cm、深さ25cm、P5長径20cm、短径17cm、深さ38cm、P6長径22cm、短径18cm、深さ40cm、P7長径14cm、短径13cm、深さ35cm、P8長径18cm、短径15cm、深さ27cm、P9長径33cm、短径25cm、深さ45cm、P10長径38cm、短径30cm、深さ48cm、P11長径(20)cm、短径20cm、深さ

32cm、P12長径30cm、短径25cm、深さ38cm、P13長径21cm、短径20cm、深さ38cm、P14長径28cm、短径27cm、深さ43cm、P15長径30cm、短径(20)cm、深さ45cm。

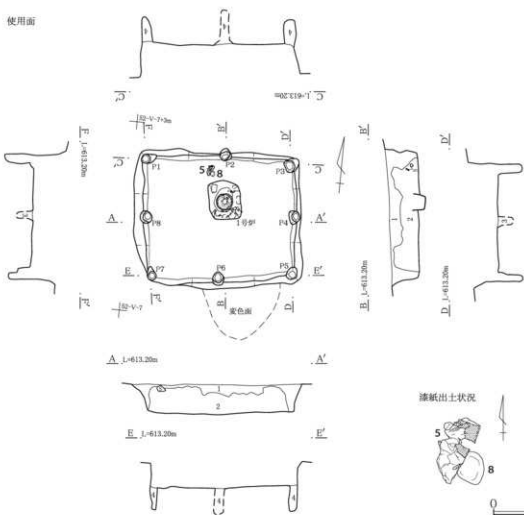
床 ローム面が床面であり、硬化面はなく、やや凸凹する。炉の北西隅に円盤が埋め込まれ、これに重なって半折りされた紙が置かれていた。**施設** 南辺中央東寄り外側に、半円形で淡色に変色する範囲が認められた。断ち割り調査を行ったが掘り込みはなかった。硬化した部分もないが、竪穴状遺構への出入りに関連する痕跡と考えられる。**掘り方** 全体を掘り込む状況はなく、古い段階の炉や柱穴の上面を黄褐色土で覆い、締め固める程度である。**埋没状況** 埋没土はロームブロックを多量に含み人為埋没である。壁際に沿って埋没土1層が下方へ流入し、一部は底面まで達している。おそらく、埋没当初は壁材とした草木類が残っており、ほぼ埋没した段階で腐ったため、上位の埋没土が流入したと考えられる。**出土遺物** 炉内にほぼ完形の内耳土器が置かれる。炉の北西床面で出土した紙は半折りされ、文字は認められない。埋没土層から白磁碗V類と白磁皿V類が出土する。1号炉周辺から炭が出土している。分析の結果3点ともコナラ属コナラ亜属コナラ節であった。種実として1号炉からカキノキ属の種子、銅の中からカキノキ属の種子とオオムギの胚乳、2号炉内よりオオムギの胚乳とカキノキ属の種子が出土している。(第3章第6節第3項参照)。**時期** 内耳土器の年代観から、15～16世紀に比定される。

52区2号竪穴状遺構 (第288図：PL.66)

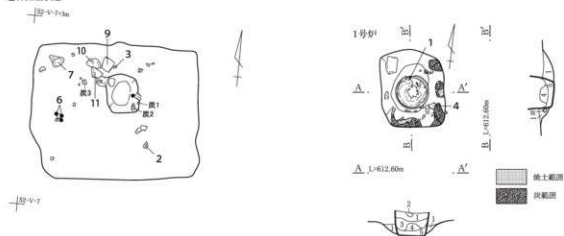
位置 国道部分の東端、52区S-8・9グリッドに位置する。**重複** 5号掘立柱建物、40号土坑。土坑が竪穴より古い。**形状** 丸みのある隅丸方形を呈す。**規模** 2.5m×2.4m、壁高は残りの良い北壁面で10cm。柱穴の規模：P1長径11cm、短径9cm、深さ8cm、P2長径14cm、短径10cm、深さ18cm、P3長径11cm、短径10cm、深さ13cm。**方位** N-6°-W。**床面** ほぼ平坦である。周溝は掘られていない。

炉 なし。**柱穴** ビットが3本掘られていたが、小さくて浅いために柱穴でない可能性が高い。**掘り方** なし。**出土遺物** なし。**時期・所見** 規模が小さく炉も造られていない。52区1号竪穴状遺構に近接しており、ほぼ同じ時期の中世と思われる。

使用面



遺物出土状態



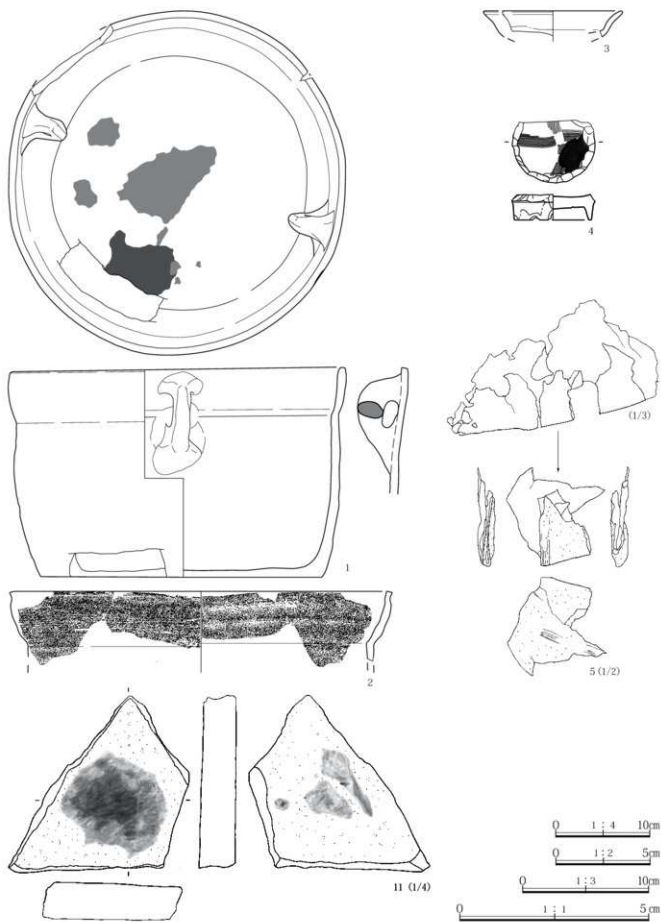
- 1 黒褐色土 ローム粒10%含む、ややしまる。
- 2 暗褐色土 ローム大ブロック10%、ローム小ブロック20%含む、しまらない。
- 3 黒褐色土 ローム小ブロック10%、ローム粒10%含む。
- 4 黒褐色土 ローム粒10%、炭粒5%含む、しまらない。

- 1号伊
- 1 黒褐色土 ローム粒20%、炭細片10%含む、しまらない。
- 2 ローム大ブロック
- 3 黒褐色土+オリーブ灰色灰 炭大片10%、焼土わずか含む。
- 4 暗赤褐色焼土大ブロック しまらない、焼け悪い。
- 5 オリーブ灰色灰 しまる。

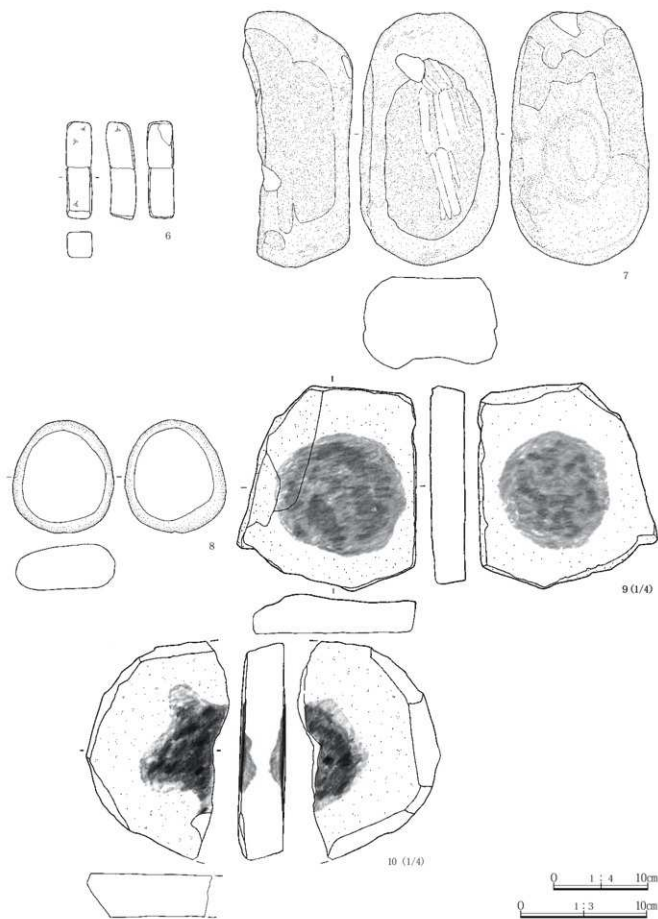
0 1:60 2m

0 1:30 1m

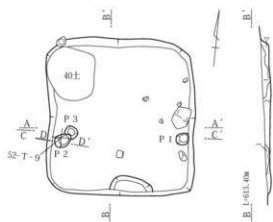
第284図 52区1号竪穴遺構(1)



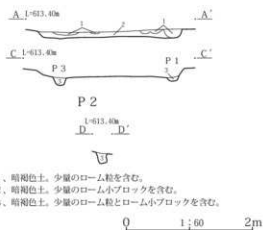
第286図 52区1号竪穴状遺構出土遺物(1)



第287図 52区1号竪穴状遺構出土遺物(2)



第288図 52区2号竪穴状遺構



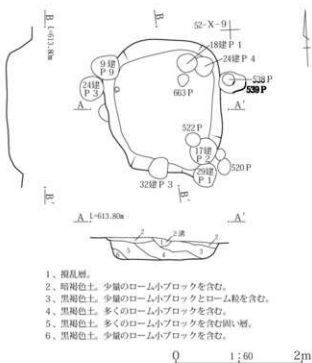
52区3号竪穴状遺構 (第289図: PL.66)

位置 国道部分の東端, 52区X-8グリッドに位置する。

重埋 3・6・9・11・17・18・24・25号掘立柱建物、2号溝、多くのピット。形状 不定形の丸みのある隅丸方形を呈す。規模 2.5m×2.4m、壁高は残りの良い東壁面で46cm。方位 N-2°-W。

床面 ほぼ平坦である。周溝は掘られていない。

炉 なし。柱穴 なし。掘り方 なし。出土遺物 なし。時期・所見 規模が小さくがも造られていない。52区1号竪穴に近接しており、ほぼ同じ時期の中世と思われる。



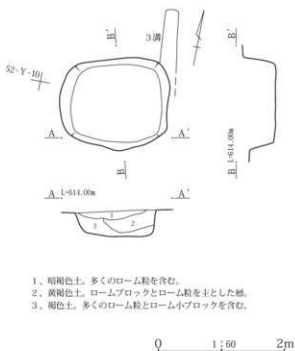
第289図 52区3号竪穴状遺構

52区4号竪穴状遺構 (第290図: PL.66)

位置 国道部分の東端, 52区X-9・10グリッドに位置する。

形状 不定形の丸みのある隅丸方形を呈す。規模 1.7m×1.45m、壁高は残りの良い南壁面で39cm。方位 N-14°-W。床面 ほぼ平坦である。周溝は掘られていない。炉 なし。柱穴 なし。掘り方 なし。出土遺物 なし。時期・所見 規模が小さくがも造られていない。52区1号竪穴状遺構に近接しており、ほぼ同じ時期の中世と思われる。

炉 なし。柱穴 なし。掘り方 なし。出土遺物 なし。時期・所見 規模が小さくがも造られていない。52区1号竪穴状遺構に近接しており、ほぼ同じ時期の中世と思われる。



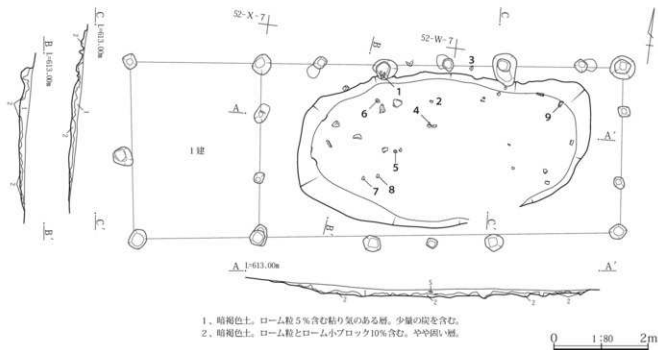
第290図 52区4号竪穴状遺構

落ち込み

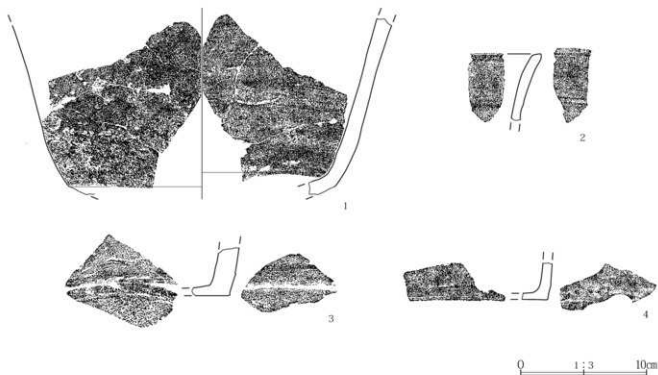
52区1号落ち込み (第291図: PL.67)

位置 調査区東側の中近世屋敷の南端部分で、52区V・W-6グリッドに位置する。**重複** 中近世屋敷52区1号掘立柱建物と多くのピットと重複している。**規模** 東西方向6.1m、南北方向3.53m。深さ0.3m。

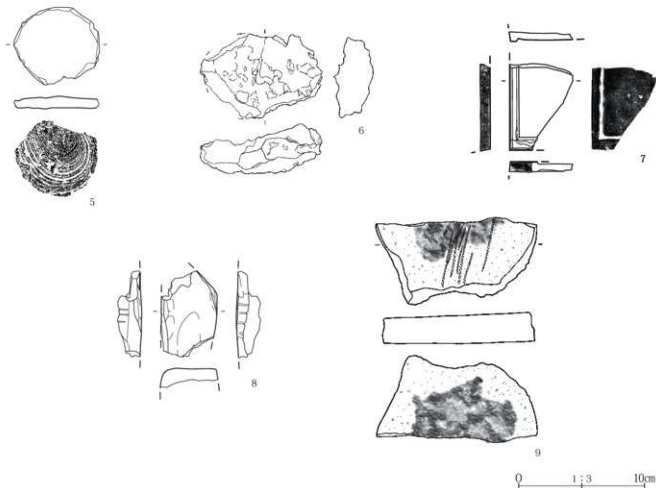
出土遺物 中世在地土の内耳鍋・碗・砥石や平石の中央部に円形に煤がついた石等。**時期** 出土遺物から中世。**所見** 中近世屋敷52区1号掘立柱建物に伴う可能性があることを指摘しておく。



第291図 52区1号落ち込み



第292図 52区1号落ち込み出土遺物(1)



第293図 52区1号落ち込み出土遺物(2)

土坑 (第294～297図: PL.67～71)

土坑が54基調査されている。調査区は52区で47基、53区で7基である。調査された場所は、区画全域であるが、37棟の掘立柱建物の建てられていた区域に圧倒的に多い。その中でも52区の掘立柱建物群の建てられていた場所が特に多かった。掘立柱建物の密集している52区の東側と北東部分は少なく、北側は縄文時代の土坑があるが、中近世の土坑はなかった。

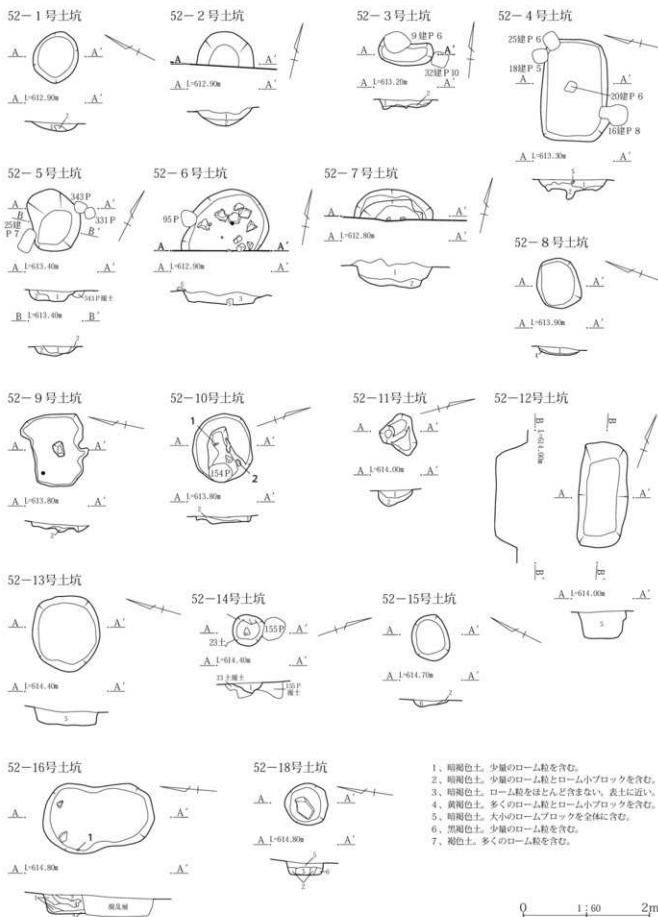
土坑からの出土遺物は少なく、中近世の土坑を中世と近世に分けることは難しい。しかし発掘段階での土層の特色や数少ない出土遺物から、中世と思われる27基、近世以降と思われる27基に区分して土坑について検討した。

中世の土坑の大部分は、中世を中心とした37棟の掘立柱建物の建てられた場所とほぼ一致する。その中で、近

世以降の土坑と思われる3・4号が掘立柱建物群や中世を中心とする土坑群の中にある。その土坑とほぼ重複する所には、近世江戸時代と思われる18号掘立柱建物がある。このように中近世の掘立柱建物群と土坑群はほぼ同じ場所に造られていたようである。近世土坑が多いのは、掘立柱建物の多い地区の東側と北東側、及び西側であり、密集する掘立柱建物群を避けるように造られていた。

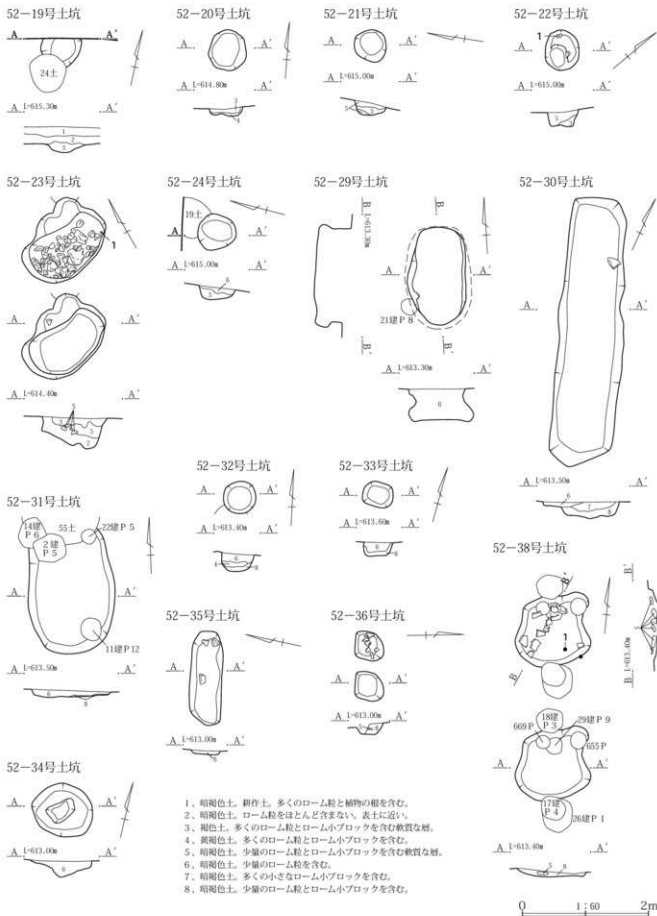
出土遺物は10・16・22・23・38・39・53土坑から8個出土している。10号土坑から中世14世紀白磁の皿が出土しているが、他は全て17世紀から18世紀代江戸時代以降の陶磁器である。他に38号土坑から長方形の鉄製品、39号土坑から石鉢が出土している。

36・39号土坑から炭化材が出土している。分析の結果36号土坑はクリであり、39号土坑は、マツであった。



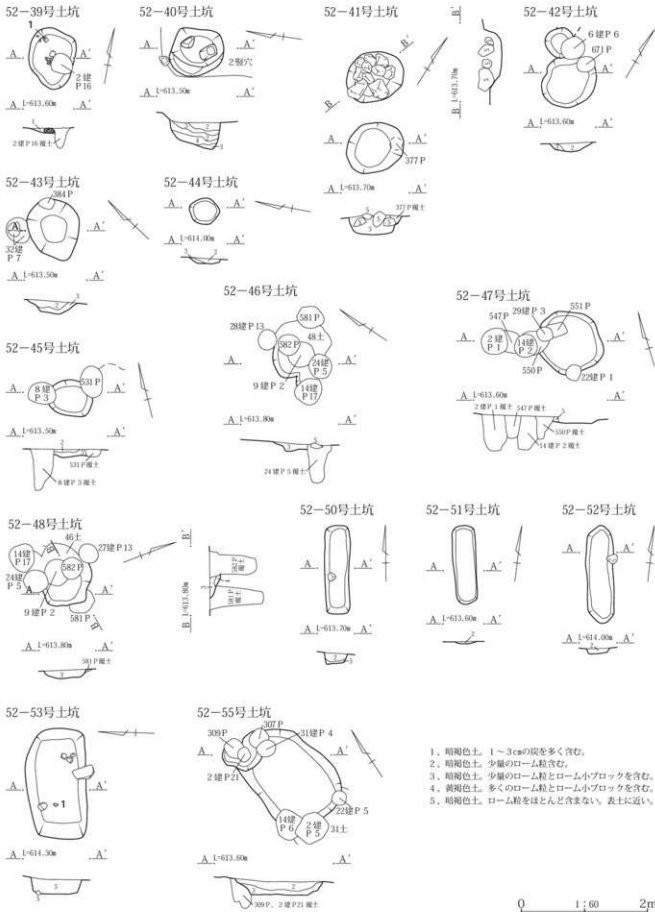
第294図 52区土坑(1)

- 1、暗褐色土。少量のローム粒を含む。
- 2、暗褐色土。少量のローム粒とローム小ブロックを含む。
- 3、暗褐色土。ローム粒をほとんど含まない。表土に近い。
- 4、黄褐色土。多くのローム粒とローム小ブロックを含む。
- 5、黄褐色土。多くのローム粒とローム小ブロックを含む。
- 6、黒褐色土。少量のローム粒を含む。
- 7、褐色土。多くのローム粒を含む。



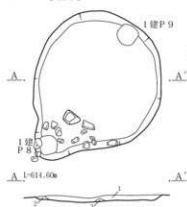
1. 暗褐色土。耕作土。多くのローム粒と植物の根を含む。
2. 暗褐色土。ローム粒をほとんど含まない。表土に近い。
3. 褐色土。多くのローム粒とローム小ブロックを含む軟質な層。
4. 黄褐色土。多くのローム粒とローム小ブロックを含む。
5. 暗褐色土。少量のローム粒とローム小ブロックを含む軟質な層。
6. 暗褐色土。少量のローム粒を含む。
7. 暗褐色土。多くの小さなローム小ブロックを含む。
8. 暗褐色土。少量のローム粒とローム小ブロックを含む。

第295図 52区土坑(2)

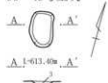


第296図 52区土坑(3)

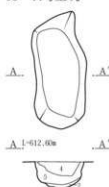
53-1号土坑



53-43号土坑



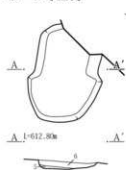
53-44号土坑



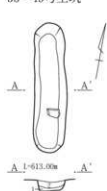
53-45号土坑



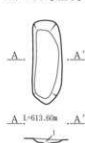
53-47号土坑



53-49号土坑



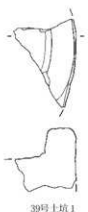
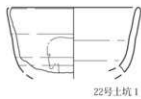
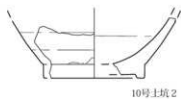
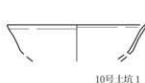
53-51号土坑



1. 暗褐色土。少量のローム粒を含む。
2. 暗褐色土。少量のローム粒とローム小ブロックを含む。
3. 暗褐色土。ローム粒をほとんど含まない。表土に近い。
4. 暗褐色土。多くのYPkを含む。
5. 暗褐色土。少量のローム粒とYPkを含む。
6. 暗褐色土。少量のローム粒を含む。

0 1:60 2m

第297図 53区土坑



0 1:2 5cm
0 1:3 10cm

第298図 52区土坑出土遺物

表89 52・53区土坑一覧表

調査区	調査年度 (平成)	土坑 番号	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	方位	位置(グリッド)	形態	時代	遺物	備考
52K	19	1	0.83	0.70	0.13	N-72°-E	52-T-6	円形	中近世		
52K	19	2	0.92	(0.55)	0.25	—	52-T-6	—	中近世		
52K	19	3	0.88	0.35	0.15	N-90°	52-X-7	長円形	中近世		
52K	19	4	1.60	1.05	0.18	N-80°-E	52-X-6・7	長方形	中近世		
52K	19	5	1.02	0.85	0.16	N-65°-W	52-X-7	長円形	中近世		
52K	19	6	1.20	(0.96)	0.22	—	52-W-5	—	江戸		
52K	19	7	1.25	(0.50)	0.35	—	52-V-5	—	中近世		
52K	19	8	0.80	0.67	0.15	N-58°-E	52-0-11	長円形	中近世		
52K	19	9	1.15	1.00	0.16	N-77°-E	52-N-11	不整形	江戸		
52K	19	10	1.05	0.95	0.13	N-85°-W	52-N-11	円形	近現代	片口・皿	
52K	19	11	0.68	0.55	0.26	N-90°	52-N-12	不整形	中近世		
52K	19	12	1.68	0.80	0.50	N-15°-W	52-P-11	長方形	中近世		
52K	19	13	1.20	1.07	0.30	N-68°-E	52-0-12・13	円形	中近世		
52K	19	14	(0.54)	0.50	0.25	N-15°-E	52-0-13	円形	中近世		
52K	19	15	0.72	0.58	0.13	N-48°-E	52-0-14	円形	中近世		
52K	19	16	1.07	(0.65)	0.32	—	52-0-14	—	中近世	鏡	
52K	19	18	0.68	0.68	0.22	N-41°-E	52-0-15	円形	中近世		
52K	19	19	0.61	(0.45)	0.15	—	52-P-16	—	中近世		
52K	19	20	0.65	0.60	0.16	N-11°-W	52-P-14	円形	中近世		
52K	19	21	0.52	0.50	0.23	N-57°-E	52-P-16	円形	中近世		
52K	19	22	0.63	0.53	0.26	N-55°-W	52-0-15	円形	江戸	鏡	
52K	19	23	1.42	1.02	0.52	N-77°-E	52-0-12	不整形	江戸	鏡	
52K	19	24	0.62	0.58	0.23	N-6°-E	52-P-16	円形	中近世		
52K	19	29	1.63	1.05	0.53	N-0°	52-S-8	長円形	中世か		
52K	19	30	4.28	1.05	0.25	N-18°-W	52-P-9	長円形	中世か		
52K	19	31	(1.74)	1.38	0.12	N-0°	52-U-8	—	中世か		
52K	19	32	0.54	0.52	0.32	N-40°-E	52-U-7・8	円形	中世か		
52K	19	33	0.50	0.40	0.23	N-88°-W	52-T-9	長円形	中世か		
52K	19	34	0.95	0.84	0.25	N-58°-W	52-Y-6	円形	中世か		
52K	19	35	1.50	0.50	0.10	N-79°-E	52-Y-5	長円形	中世か		
52K	19	36	0.56	0.46	0.17	N-43°-E	52-W-7	円形	中世か		炭化材分析タリ
52K	19	38	1.40	1.17	0.15	N-29°-E	52-W-7	不整形	中世か	鉄製品	
52K	19	39	0.98	0.78	0.10	N-24°-W	52-W-8	不整形	中世か	石鉢	炭化材分析マツ
52K	19	40	0.90	0.82	0.42	N-47°-W	52-S-9	円形	中世か		
52K	19	41	0.93	0.80	0.30	N-32°-E	52-Y-7	円形	中世か		
52K	19	42	0.91	0.81	0.15	N-26°-E	52-X-8	円形	中世か		
52K	19	43	1.01	0.82	0.21	N-18°-E	52-Y-7	円形	中世か		
52K	19	44	0.48	0.41	0.10	N-2°-W	52-V-10	円形	中世か		
52K	19	45	0.70	0.60	0.12	N-43°-W	52-V-8	円形	中世か		
52K	19	46	—	—	0.16	—	52-W-9	—	中世か		
52K	19	47	1.05	0.97	0.10	N-29°-W	52-V・W-8	円形	中世か		
52K	19	48	0.87	(0.40)	0.12	—	52-W-9	—	中世か		
52K	19	50	1.40	0.40	0.20	N-0°	52-T-9	長方形	中世か		
52K	19	51	1.25	0.37	0.04	N-10°-W	52-R-9	長円形	中世か		
52K	19	52	1.55	0.43	0.10	N-10°-W	52-R-12	長円形	中近世		
52K	19	53	1.75	0.95	0.25	N-87°-E	52-0・E-12	長方形	江戸	鏡	
52K	19	55	(1.30)	1.25	0.30	N-7°-W	52-U-9	長円形	中世か		
53K	19	1	2.55	2.10	0.09	N-0°	53-C・D-11	不整形	中世か		
53K	19	43	0.55	0.39	0.04	N-7°-W	53-C-6	楕円形	中世か		
53K	19	44	1.78	0.82	0.43	N-11°-W	53-B-3	長円形	中世か		
53K	19	45	1.63	0.68	0.38	N-20°-E	53-A-3	長円形	中世か		
53K	19	47	1.55	1.15	0.13	N-84°-W	53-A-3	不定形	中世か		
53K	19	49	2.05	0.50	0.16	N-10°-W	53-D-5	長円形	江戸		
53K	19	51	1.33	0.47	0.08	N-16°-E	53-A-7	長円形	中世か		

溝

52区1号溝 (第299図: PL.71)

位置 国道部分の東側、52区R-6・7、S-7グリッドに位置する。**重複** 4・13・21号掘立柱建物、南端で1号墓と重複している。**形状** 直線的に掘られている。**規模** 長さ3mまで確認出来るが、南端で1号墓と重複し全体の長さは不明。幅は1.0m×1.2m、深さは0.7～0.9m。**方位** N-10°-W。**出土遺物** なし。**時期・所見** 出土遺物はないが、覆土の大部分が軟質であり、他の近世とされる土坑と共通しているため、近世と想定したい。

52区3号溝 (第299図: PL.71)

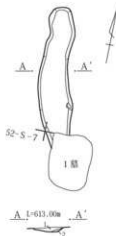
位置 国道部分の東側、52区X-10グリッドに位置する。**重複** 3・30号掘立柱建物、南端で4号竪穴状遺構と重複している。**形状** 直線的に掘られている。**規模** 長さ1.2mまで確認出来るが、南端で4号竪穴

状遺構と重複し全体の長さは不明。幅は0.20～0.26m、深さは0.6～0.8m。**方位** N-5°-W。**出土遺物** なし。**時期・所見** 出土遺物はないが、近世以降と想定したい。

52区4号溝 (第299図: PL.71)

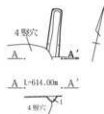
位置 国道部分の東側、52区X-7・8グリッドに位置する。**重複** 3・6・16～18・20・24・25・32号掘立柱建物、多くのピットと重複している。土層観察により確認出来るピットとの新旧関係は、全て4号溝がピットより新しい。**形状** 直線的に掘られている。**規模** 4.3m。幅は0.6～0.7m、深さは0.14～0.17m。**方位** N-13°-W。**出土遺物** なし。**時期・所見** 出土遺物はないが、覆土の大部分が軟質であり、他の近世とされる土坑と共通しているため、近世と想定したい。

52-1号溝



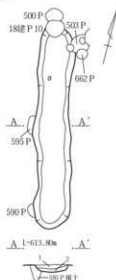
1. 暗褐色土。多くのローム粒を含む。
2. 黄褐色土。ローム粒を主とした層。

52-3号溝



1. 暗褐色土。少量のローム粒とローム小ブロックを含む。

52-4号溝



1. 暗褐色土。少量のローム粒を含む。
2. 暗褐色土。少量のローム粒を含む軟質な層。

0 1:80 2m

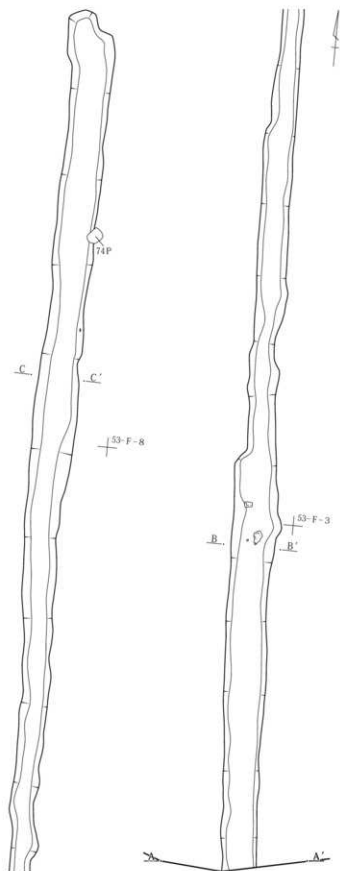
第299図 52区1・3・4号溝

53区1号溝 (第300図: PL.71)

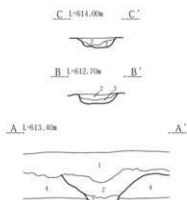
位置 国道部分の東側、53区F-1～10グリッドに位置する。**重複** なし。**形状** 直線的に掘られている。**規模** 36.56m、幅は0.8～1.2m。深さは0.06～0.12mであるが、南壁面での土層断面では70cmと深

い。**方位** 東西方向に多少ふれているが、ほぼ北である。**出土遺物** なし。**時期・所見** 出土遺物はないが、耕作土下から溝の掘割が始まっており、覆土の大部分が軟質である。近世以降と想定したい。

第5節 検出された遺構と遺物



第300図 53区1号溝



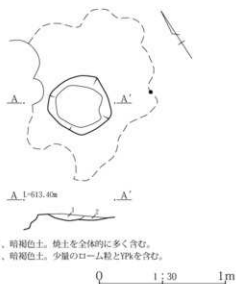
1. 暗褐色土。上半部 耕作土。軟質で植物の根を含む。
下半部 少量のY7kを含む。
2. 暗褐色土。ローム粒をほとんど含まない軟質な層。
3. 暗褐色土。少量のローム粒とローム小ブロックを含むやや粘質な層。
4. 暗褐色土。ローム粒をわずかに含む粘質で固い層。(地山)

0 1:80 2m

焼土

52区1号焼土 (第301図: PL.71)

位置 52区の南西部分で、52区V-8グリッドに位置する。
重複 14・22・27・29・31号掘立柱建物と重複している。
形状 ほぼ円形。 **規模** 直径0.48m、深さ0.05mと浅い。 **出土遺物** なし。 **時期** 5棟の掘立柱建物と重複しており、いずれかの建物に伴う焼土遺構と考えられ、中近世と思われる。 **所見** 焼土の表面が、部分的に固く焼けている。土層断面で観察すると、内部も熱を受けて、多くの焼土粒がある。



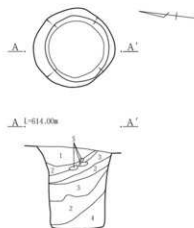
1. 暗褐色土。焼土を全体的に多く含む。
2. 暗褐色土。少量のローム粒とY7kを含む。

第301図 52区1号焼土

井戸

52区1号井戸 (第302図: PL.71)

位置 52区と53区の境界部分で、52区Y-8・9、53区A-8・9グリッドに位置する。**重複** 53区3・6・7号掘立柱建物と重複する。**規模** 確認面で東西方向1.26m、南北方向1.3m、井戸中絶で直径0.9mの円形。深さ1.32m。**出土遺物** なし。**時期** 近世以降と思われる。**所見** 遺跡内より井戸の出土は、この1号井戸1基であった。



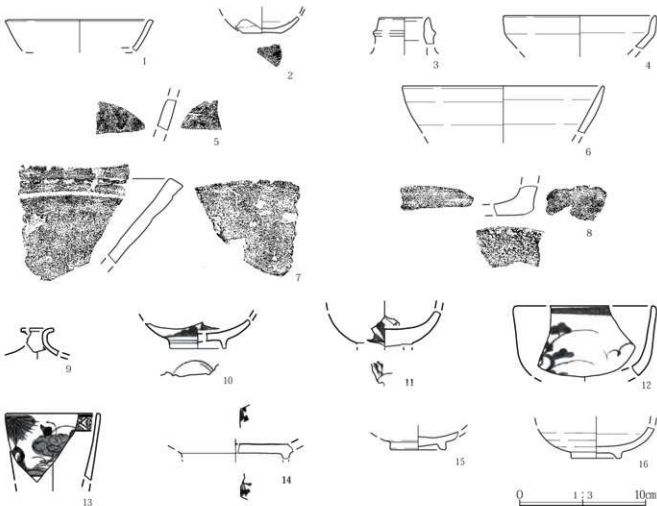
遺構外出土遺物 (第303図)

区内より中近世を中心とした陶磁器・銭貨・石製品が21個出土している。時期の明らかな陶磁器は、16点中半分の8点が中世である。中世の陶磁器は中国産の陶器の茶入れや、古瀬戸の瓶子等含む。近世の遺物は肥前の染付や瀬戸、美濃の陶器がある。ほかに宋銭や石製の石鉢等が出土している。

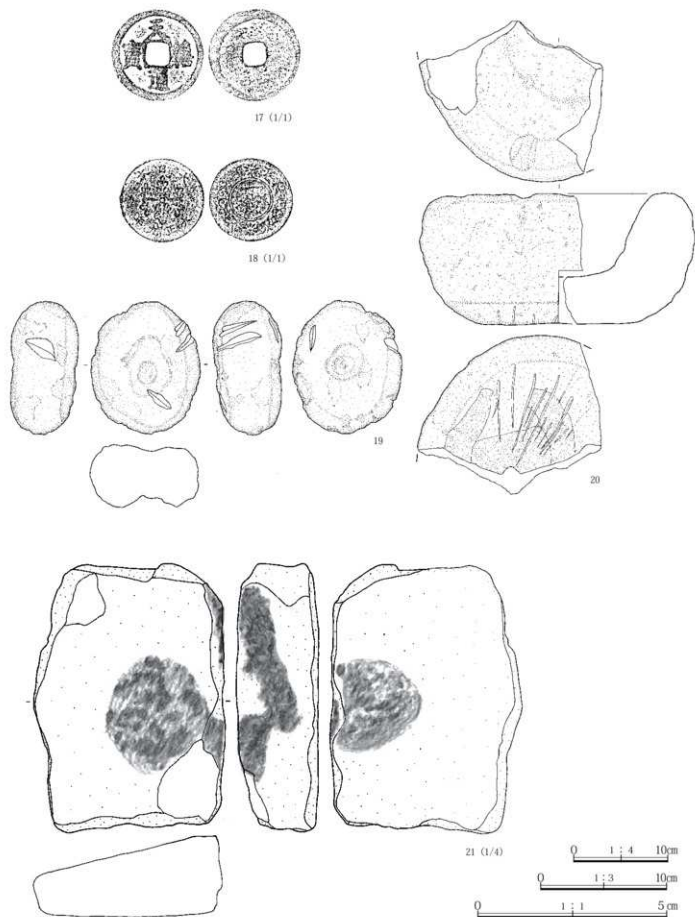
1. 褐色土。ローム小ブロック20%、暗褐色土20%含む。
2. 暗褐色土。ローム小ブロック10%、砂10%含む。
3. 黄色土。ローム粒とロームブロックを主とした層。
4. 暗褐色土。黄色砂20%含む。

0 1:60 2m

第302図 52区1号井戸



第303図 遺構外出土遺物(1)



第304図 遺構外出土遺物(2)

3 その他

林中原1遺跡は、縄文時代の遺構と林城を中心とした中世から近世の遺跡である。報告は、これまで縄文時代を第3章第5節第1項として報告し、中近世を第2項として報告した。中近世の中で、林城に関連している遺構として、堀・石垣・土橋・橋・虎口を報告し、堀により囲まれた区域を中心として、第1区画から第7区画、また中世を中心とした掘立柱建物がまがもっていた52区と53区の東側の地区を中近世屋敷として報告した。この区分に含まれない調査区が、第6区画と中近世屋敷との間53区の一部と町道部分の53区と54区の北側及び62区と63区の南側である。

この範囲で調査された遺構は、掘立柱建物が53区2～4号で3棟、54区1号竪穴状遺構、土坑が53区で23基、54区で8基、62区で3基、63区で6基で合計40基、溝が53区2・3号溝の2条、遺物を出土したピットが、53区で1基、54区で3基ありそれを報告する。最後に旧石器の試掘調査結果を報告する。平成16年度に発掘調査した72・73・84区は、縄文時代の遺構で、第5節第1項で報告したので、その他の中では、報告していない。

国道部分の調査範囲から人骨が7カ所、馬を中心とした獣骨が9カ所で確認されている。以下骨についての出土位置を図面で示し、出土した遺構の概要と出土物についてまとめて報告する。なお馬を出土した第1区画36号土坑については、第1区画の中で既に報告したので以下の説明では省いた。専門的な立場から墓から出土した骨や歯及びそれを含めた観察結果、馬の骨や歯及びそれを含めた観察結果及び分析結果は、第6節の中で「第1項 林中原1遺跡出土人骨」「第2項 林中原1遺跡出土の獣骨」として報告した。

掘立柱建物

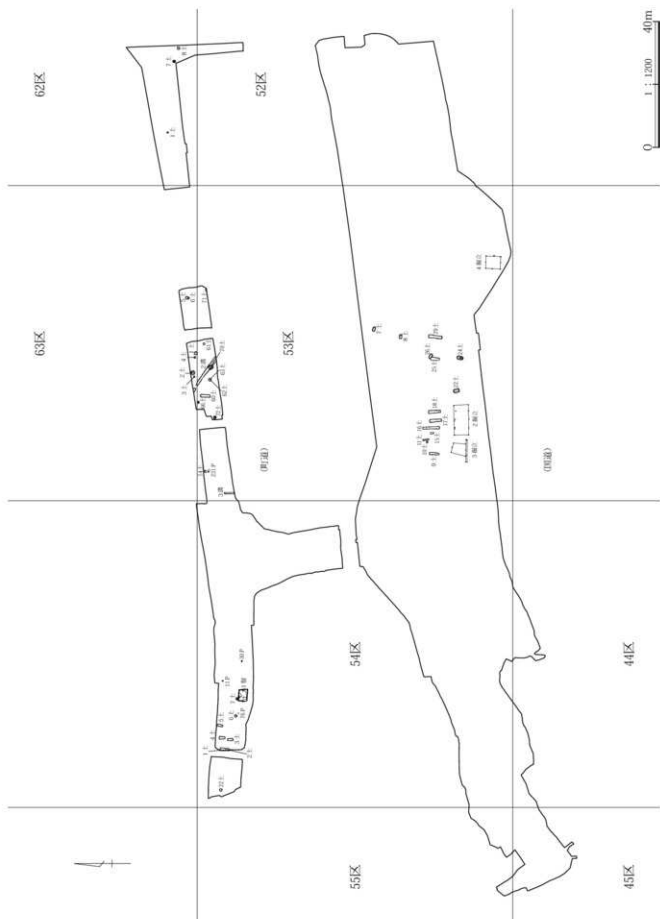
53区2号掘立柱建物（第306図：PL.74）

位置 国道部分中央部、53区R～T-4・5グリッドに位置する。 **重複** なし。 **形状** 1×4間の東西棟。 **規模** 桁行1は9.49m、桁行2は9.70m、梁間1は4.70m、梁間2は4.50m。 **面積** 43.39㎡。

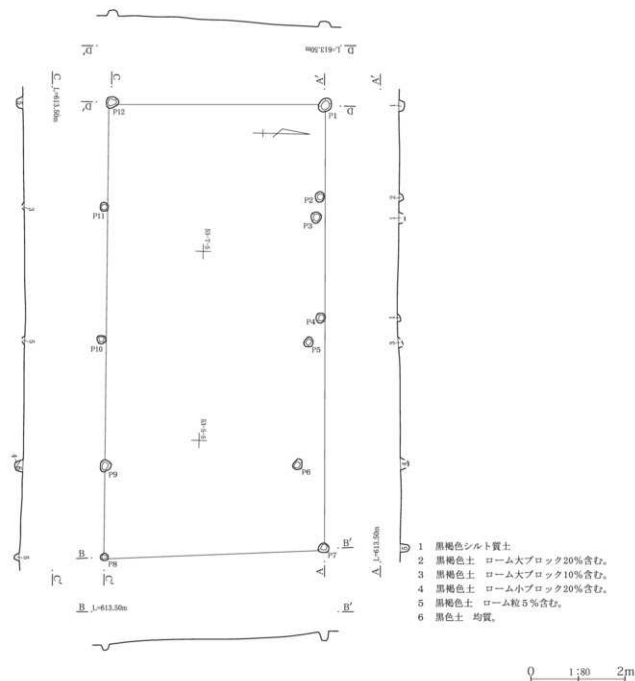
方位 N-90°。 **出土遺物** なし。 **時期** 中近世と思われる。 **所見** 1×4間・東西棟。東側に37棟の中近世屋敷、西側の第6区画に10棟の掘立柱建物がある。その中間約100mの間には散在的に53区2・3・4号掘立柱建物が建てられていた。

表90 53区2号掘立柱建物計測表

ピット番号	規模				目ピット番号	
	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	柱間寸法(m)		
P 1	32	26	13	→P 2	1.92	36
P 2	23	19	10	→P 3	0.45	44
P 3	25	22	13	→P 4	2.14	45
P 4	22	19	7	→P 5	0.56	46
P 5	22	19	9	→P 6	2.62	47
P 6	24	19	15	→P 7	1.80	48
P 7	23	20	13	→P 8	4.70	50
P 8	18	16	10	→P 9	1.95	52
P 9	26	24	18	→P 10	2.70	51
P 10	20	19	5	→P 11	2.80	43
P 11	19	17	5	→P 12	2.25	42
P 12	28	24	12	→P 1	4.50	40



第305図 その他の遺構全体図



- 1 黒褐色シルト質土
- 2 黒褐色土 ローム大ブロック20%含む。
- 3 黒褐色土 ローム大ブロック10%含む。
- 4 黒褐色土 ローム小ブロック20%含む。
- 5 黒褐色土 ローム粒5%含む。
- 6 黒色土 均質。

第306図 53区2号掘立柱建物

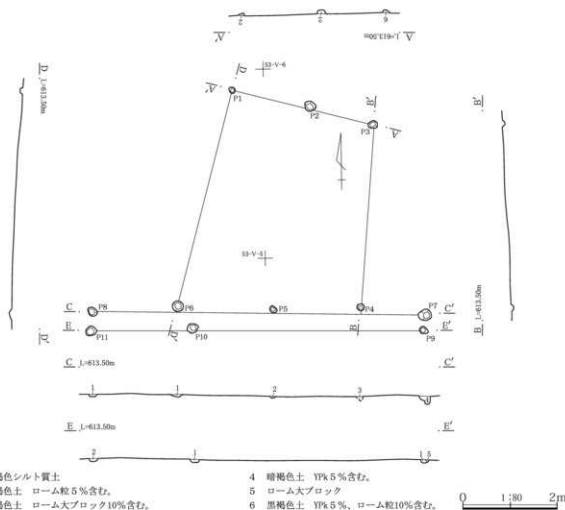
53区3号掘立柱建物 (第307図: PL.74)

位置 国道部分中央部、53区U・V-4・5グリッドに位置する。**重複** なし。**形状** 1×2間の東西棟。**規模** 桁行1は3.90m、桁行2は4.74m、梁間1は3.10m、梁間2は3.90m。**面積** 15.12㎡。

方位 N-75°-W。**出土遺物** なし。**時期** 中近世と思われる。**所見** 1×2間・東西棟。53区2号掘立柱建物の西側に近接する。

表91 53区3号掘立柱建物計測表

ビット番号	柱屋			柱間寸法(m)	目ビット番号	
	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)			
P 1	14	13	5	→P 2	1.70	33
P 2	25	21	8	→P 3	1.40	34
P 3	18	18	6	→P 4	3.90	35
P 4	16	15	5	→P 5	1.85	28
P 5	16	12	4	→P 6	2.05	39
P 6	23	22	5	→P 1	4.74	21
P 7	28	25	19	→P 4	1.45	31
P 8	22	18	5	→P 6	1.80	26
P 9	20	16	7	→P 10	4.90	30
P 10	25	21	9	→P 11	2.15	22
P 11	25	20	5	—	—	27



第307図 53区3号掘立柱建物

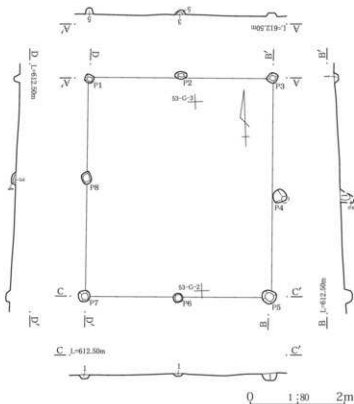
53区4号掘立柱建物 (第308図: PL.74・75)

位置 国道部分東側、中近世屋敷の西南で、53区F・G-1～3グリッドに位置する。重複なし。形状 2×2間の南北棟。規模 桁行1は4.65m、桁行2は4.60m、梁間1は3.86m、梁間2は3.90m。面積 18.00㎡。方位 N-87°～88°-W。出土遺物 なし。時期 中近世と思われる。所見 2×2間・南北棟。南北方向の1号溝を隔てた西側にある。

表92 53区4号掘立柱建物計測表

ピット番号	規模			柱間寸法(m)	目ピット番号	
	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)			
P 1	19	17	13	→P 2	1.91	63
P 2	26	16	10	→P 3	1.95	64
P 3	21	20	8	→P 4	2.50	65
P 4	30	30	31	→P 5	2.14	69
P 5	30	28	16	→P 6	1.94	70
P 6	20	18	5	→P 7	1.96	68
P 7	24	23	8	→P 8	2.50	67
P 8	25	29	10	→P 1	2.14	66

- 1 黒褐色シルト質土
2 暗褐色土 YPk 5%含む。
3 黒褐色土 YPk 5%含む。
4 暗褐色土 YPk 5%、ローム小ブロック10%含む。
5 黒褐色土 YPk 5%、ローム粒10%含む。



第308図 53区4号掘立柱建物

竪穴状遺構

54区1号竪穴状遺構 (第309図: PL.75)

位置 町道部分の東端, 54区P-22グリッドに位置する。

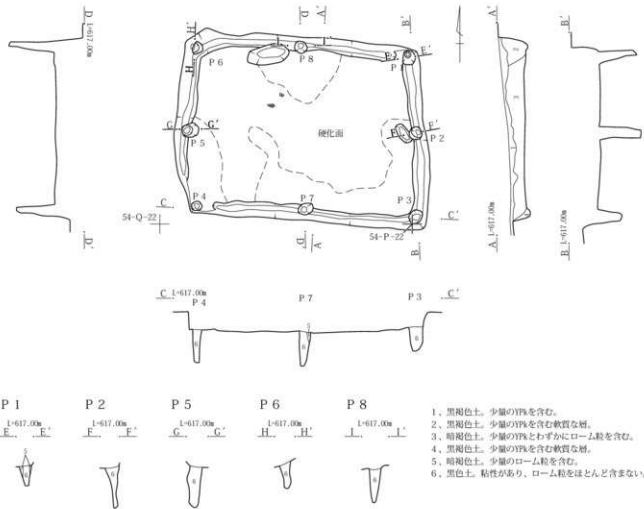
重複 なし。形状 少しゆがんだ長方形。

規模 4.1m×2.9m、壁高は残りの良い東壁面で29cm。
柱穴の規模: P 1 長径22cm、短径20cm、深さ33cm、P 2 長径20cm、短径20cm、深さ63cm、P 3 長径23cm、短径20cm、深さ36cm、P 4 長径16cm、短径15cm、深さ49cm、P 5 長径26cm、短径22cm、深さ66cm、P 6 長径21cm、短径16cm、深さ36cm、P 7 長径25cm、短径18cm、深さ50cm、P 8 長径20cm、短径19cm、深さ54cm。 方位

N-5°-W。床面 地山ローム面をほぼ床面とし、多くの面が硬化している。周溝はほぼ全面にわたり掘られている。炉 なし。柱穴 壁面に接した周溝上に8本掘られている。南北方向各3本の柱穴と東西方向の北側の3本の柱穴の中央の柱穴が外側にせり出している。南北方向中央部の柱穴は、建物内側に傾斜して掘られている。柱穴の大きさはほぼ20cm前後、深さは30~50cmとほぼ一致している。掘り方 なし。

出土遺物 中世と思われる在地土器皿が出土している。

時期・所見 52区1号竪穴状遺構によく似た構造であり、ほぼ同じ時期の中世と思われる。



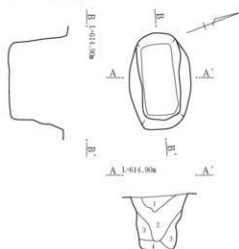
1. 黒褐色土、少量のYfKを含む。
2. 黒褐色土、少量のYfKを含む軟質な層。
3. 暗褐色土、少量のYfKとわずかにローム粒を含む。
4. 黒褐色土、少量のYfKを含む軟質な層。
5. 暗褐色土、少量のローム粒を含む。
6. 黒色土、粘性があり、ローム粒をほとんど含まない。

第309図 54区1号竪穴状遺構

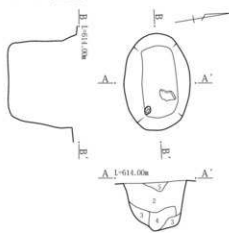


第310図 54区1号竪穴状遺構出土遺物

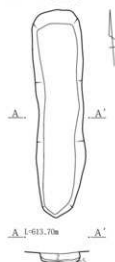
53-7号土坑



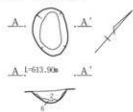
53-8号土坑



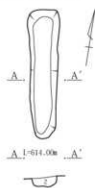
53-9号土坑



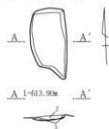
53-10号土坑



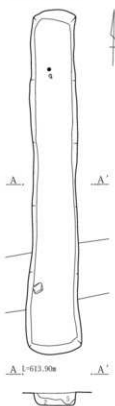
53-11号土坑



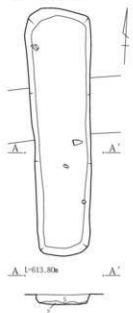
53-15号土坑



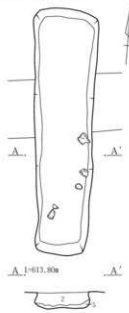
53-16号土坑



53-17号土坑



53-18号土坑

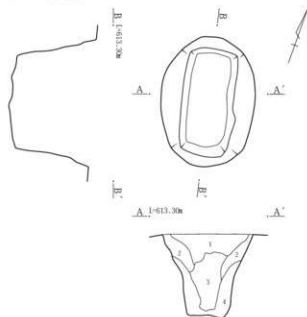


- 1、暗褐色土。少量のローム粒と大小のロームブロックを含む。
- 2、暗褐色土。少量のローム粒を含む。
- 3、黄褐色土。多くのローム粒とローム小ブロックを含む。
- 4、褐色土。多くのローム粒を含む。
- 5、暗褐色土。少量のローム粒とローム小ブロックを含む。
- 6、暗褐色土。少量のローム粒と礫を含む。

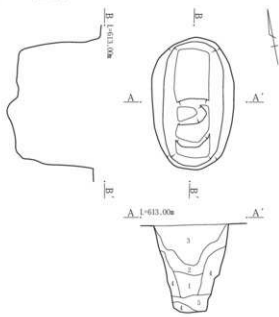
0 1:60 2m

第311図 53区土坑(1)

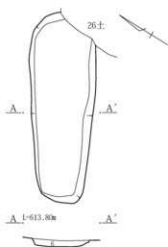
53-22号土坑



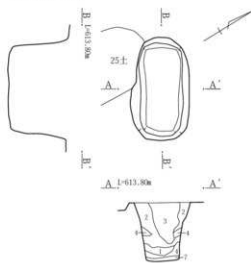
53-24号土坑



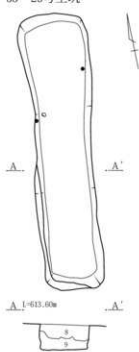
53-25号土坑



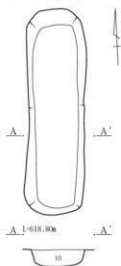
53-26号土坑



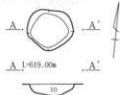
53-29号土坑



53-60号土坑



53-61号土坑

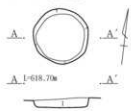


1. 暗褐色土。少量のローム粒とローム小ブロックを含む。
2. 暗褐色土。少量のローム粒を含む。
3. 暗褐色土。少量のローム粒と大小のロームブロックを含む。
4. 黄褐色土。多くのローム粒とローム小ブロックを含む。
5. 黄褐色土。多くのローム粒を含む。
6. 黒褐色土。少量のローム粒を含む。
7. 褐色土。多くのローム粒を含む。
8. 暗褐色土。大小のロームブロックを全体に含む。
9. 暗褐色土。多くのローム小ブロックと少量のローム粒を含む。
10. 暗褐色土。ローム粒をほとんど含まない。表土に近い。

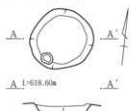
0 1:60 2m

第312図 53区土坑(2)

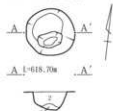
53-62号土坑



53-63号土坑



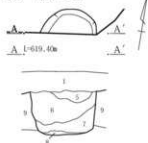
53-66号土坑



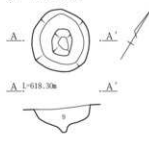
53-70号土坑



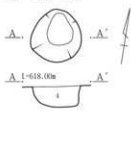
53-71号土坑



53-72号土坑



53-74号土坑



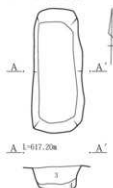
1. 暗褐色土。ローム粒をほとんど含まない。表土に近い。
2. 暗褐色土。少量のローム粒を含む。
3. 黄褐色土。多くのローム粒とローム小ブロックを含む。
4. 暗褐色土。多くのYPKを含む。
5. 黒褐色土。ローム粒とYPKを含まない。

6. 黒褐色土。軽石粒をわずかに含む。
7. 暗褐色土。ローム粒をわずかに含む。
8. 暗褐色土。多くのローム粒を含む。
9. 暗褐色土。少量のYPKを含む。

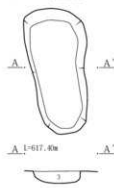
0 1:60 2m

第313図 53区土坑(3)

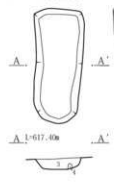
54-3号土坑



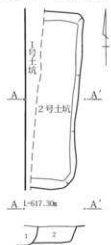
54-4号土坑



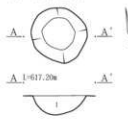
54-5号土坑



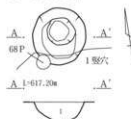
54-1・2号土坑



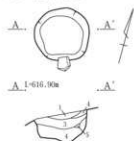
54-6号土坑



54-7号土坑



54-22号土坑



1. 暗褐色土。ローム粒をほとんど含まない。表土に近い。
2. 暗褐色土。ローム粒をわずかに含む。
3. 暗褐色土。少量のローム粒を含む。
4. 暗褐色土。少量のローム粒とローム小ブロックを含む。

0 1:60 2m

第314図 54区土坑

62-1号土坑

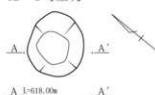


62-7号土坑



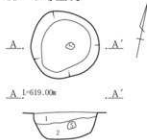
1. 暗褐色土。少量のローム粒を含む。
2. 黄褐色土。多くのローム粒とローム小ブロックを含む。
3. 黒褐色土。少量のYPSを含む。
4. 暗褐色土。少量のYPSとローム粒を含む。

62-8号土坑

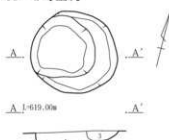


第315図 62区土坑

63-1号土坑



63-2号土坑



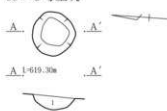
63-3号土坑



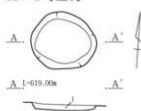
63-4号土坑



63-5号土坑



63-6号土坑



1. 暗褐色土。ローム粒をほとんど含まない。表土に近い。
2. 暗褐色土。少量のローム粒とYPSを含む。
3. 黄褐色土。多くのローム粒とローム小ブロックを含む。
4. 黄褐色土。多くのローム粒とYPSを含む。
5. 褐色土。多くのローム粒を含む。



第316図 63区土坑

土坑 (第311～316図: PL.76～79)

土坑が40基調査されている。調査区は53区で23基、54区で8基、62区で3基、63区で6基であり合計40基である。53区南側の国道部分では、土坑の他に3棟の掘立柱建物があったが、北側の町道部分では、2・3号溝以外は、土坑が検出されただけであった。また62・63区も土坑だけであった。54区でも、第7区画以外の西側の遺構は縄文時代の住居が1軒と1号竪穴状遺構1基のほかは土坑だけであった。土坑の特色として古代以降の陥穴が

53区から7・8・22・24・26号と5基検出されている。陥穴の大きさは、長軸1.53～2.1m、短軸0.95～1.5m 深さは0.9～1.4mと細長く深い。ほかに中近世の土坑が25基、江戸以降の土坑が1基、近世以降の土坑が9基検出されている。土坑の形は、円形・楕円形・長円形である。出土遺物は、53区17号土坑から縄文時代の叢石が出土している。中世の土坑の遺物ではないので、第3章第5節第1項5の縄文時代の遺構外出土遺物90として掲載した。他に出土遺物はなかった。

表93 53・54・62・63区土坑一覧表

調査区	調査年度 (平成)	土坑 番号	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	方位	位置(グリッド)	形態	時代	遺物	備考
53K	19	7	1.53	1.00	0.90	N-72°-W	53-L-11・12	長円形	古代以降		陥穴
53K	19	8	1.54	1.05	1.05	N-85°-W	53-L-9	楕円形	古代以降		陥穴
53K	19	9	3.30	0.78	0.15	N-5°-E	53-V-7	長円形	中近世		
53K	19	10	0.75	0.55	0.20	N-45°-W	53-U-7	楕円形	近世以降か		
53K	19	11	2.05	0.50	0.15	N-8°-W	53-U-7	長円形	中近世		
53K	19	15	0.95	0.58	0.06	N-0°	53-T-7	不整形	中近世		
53K	19	16	5.45	0.85	0.20	N-0°	53-T-7	長方形	中近世		
53K	19	17	3.90	1.05	0.15	N-5°-W	53-S-7	長方形	中近世		
53K	19	18	3.90	1.00	0.25	N-3°-W	53-R-7	長方形	中近世		
53K	19	22	2.05	1.50	1.35	N-13°-W	53-Q-5	長円形	古代以降		陥穴
53K	19	24	2.10	1.30	1.40	N-12°-E	53-N-5	長円形	古代以降		陥穴
53K	19	25	3.00	1.05	0.10	N-59°-E	53-N-7	長円形	中近世		
53K	19	26	1.65	0.95	0.95	N-60°-W	53-N-7	長円形	古代以降		陥穴
53K	19	29	4.40	0.95	0.40	N-7°-E	53-L-7	長方形	中近世		
53K	21	60	3.26	0.95	0.26	N-0°	53-Q-25	長方形	中近世		
53K	21	61	0.74	0.65	0.19	N-85°-E	53-M-25	円形	中近世		
53K	21	62	0.89	0.88	0.15	N-17°-W	53-P-24・25	円形	中近世		
53K	21	63	1.00	0.95	0.15	N-84°-E	53-P-24・25	円形	中近世		
53K	21	66	0.75	0.75	0.30	N-7°-W	53-R-25	円形	中近世か		
53K	21	70	1.80	1.35	0.50	N-27°-W	53-O-24	楕円形	中近世か		
53K	21	71	0.90	—	0.65	—	53-I-25	—	江戸以降か		
53K	21	72	0.90	0.82	0.38	N-42°-W	53-S-24	円形	中近世か		
53K	21	74	0.84	0.80	0.33	N-10°-W	53-W-25	円形	中近世か		
54K	21	1	—	—	(0.32)	—	54-T-23・24	—	近世以降か		
54K	21	2	2.80	(0.70)	0.26	N-4°-E	54-T-23・24	長円形	近世以降か		
54K	21	3	1.97	0.83	0.35	N-2°-W	54-S・T-23	長円形	中近世		
54K	21	4	2.00	0.97	0.20	N-1°-W	54-S-23・24	長円形	中近世		
54K	21	5	1.82	0.79	0.18	N-10°-E	54-R-24	長円形	中近世		
54K	21	6	0.90	0.88	0.30	N-14°-W	54-R-22	円形	近世以降か		
54K	21	7	0.90	0.85	0.33	N-6°-E	54-P-22	円形	近世以降か		
54K	21	22	0.90	0.87	0.45	N-70°-W	54-W-24	円形	中近世か		
62K	19	1	0.57	0.48	0.19	N-12°-E	62-U-3	楕円形	中近世か		
62K	19	7	0.98	0.80	0.20	N-46°-E	62-P-2	楕円形	近世以降か		
62K	19	8	1.02	0.90	0.30	N-46°-E	62-O-2	楕円形	近世以降か		
63K	21	1	1.10	1.07	0.43	N-43°-W	63-N-1	円形	中近世か		
63K	21	2	1.38	1.27	0.30	N-75°-W	63-O-1	円形	中近世か		
63K	21	3	0.60	0.55	0.23	N-78°-E	63-P-1	円形	中近世か		
63K	21	4	0.72	0.62	0.34	N-86°-E	63-N-1	不整形	中近世か		
63K	21	5	0.70	0.67	0.22	N-79°-E	63-I-1	円形	近世以降か		
63K	21	6	1.05	0.91	0.10	N-85°-W	63-I-1	楕円形	近世以降か		

人骨及び獣骨について

調査区域から下表のとおり、7カ所から人骨(墓)と9カ所から獣骨(馬8カ所・ニホンジカ1カ所)が出土している。人骨は墓坑から出土しているので墓として報告する。

墓は第1区画1基、第2区画2基の計3基、52・53区の掘立柱建物が多い地区で4基造られている。時期は第1・2区画の3基は近世で52・53区の4基は中世である。時代によって造られた場所が異なっている。52・53区の墓は中近世屋敷の西に位置し、関連がうかがえる。

馬の骨は馬捨て場と考えられる第2区画から6体(第2区画1～6号馬)、第1区画から馬を土坑に埋めた1体(第1区画36号土坑)が出土した。後者は何らかの祭祀に関係する可能性もある。馬の歯4本が1号池から、第6区画1号配石からは、ニホンジカの左の上顎白歯が3本出土している。時期は、第2区画1～6号馬が近世、第1区画36号土坑は中世の可能性がある。1号池と第6区画1号配石遺構は中世と考えられる。時代によって埋められた場所と埋葬の方法が異なるかもしれない。

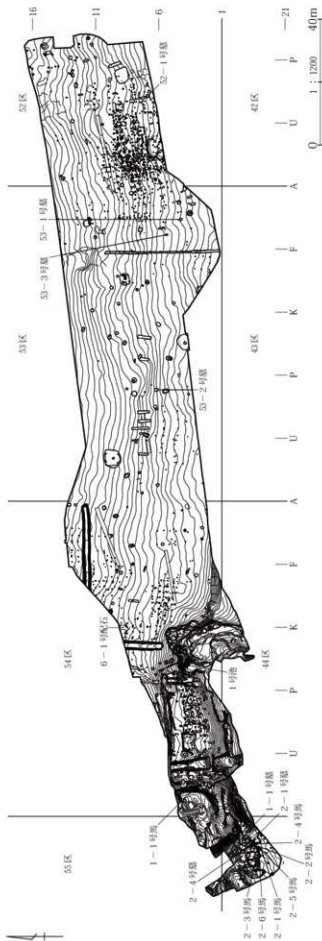
人骨(墓)

第1区画1号墓 (第318図: PL.79)

位置 第1区画南西部で第2区画との境付近である。人骨が埋められていた3基の近世墓と馬の骨が埋められていた地区の東端に位置し45区B-24グリッドに位置する。**重複** なし。**形状** 不定形な長方形。**規模** 長軸1.56m、短軸0.93m、深さ0.45m。**出土遺物** 陶器碗・漆椀・銭(新寛永通宝)・煙管。**時期** 出土遺物から近世と思われる。**所見** 傾斜面に造られている。

第2区画1号墓 (第318図: PL.79)

位置 第2区画南東部で、人骨が埋められていた3基の近世墓と馬の骨が埋められていた地区の南東部に位置し45区B-23グリッドに位置する。**重複** なし。**形状** 不定形な円形。**規模** 直径1m前後、深さ0.75m。**出土遺物** 銭(新寛永通宝)・煙管・火打ち金。**時期** 出土遺物から近世と思われる。**所見** 北西部に大きな石があり、その南側に穴を掘り埋められたようである。



第317図 人骨・獣骨出土遺構位置図

表04 人骨(墓)一覧表

報告遺構名 (旧遺構名)	グリッド	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	特色	伴出遺物	時期
第1区画1号墓 (1部1号墓)	45-B-24	1.56	0.93	0.45	骨の計測不能、頭位は北東、埋葬、女性約40代から50代、1個体。	寛永通宝(1668)・煙管・近世陶器・漆桶	近世
第2区画1号墓 (2部1号墓)	45-B-23	(1.00)	(1.00)	0.75	頭位は北、改葬して再埋葬か、男性約50歳、1個体。	寛永通宝(1668)・煙管・火打ち金	近世
第2区画4号墓 (2部4号墓)	45-C-23	1.08	(0.90)	0.48	頭位は北、埋葬、性別不明、頭蓋骨片が非常に薄く未成年の可能性あり、死亡年齢不明、1個体。	寛永通宝(1668)・開元通宝(821)・古寛永(1636)	近世
52区1号墓 (52区28号土坑)	52-T-6	1.18	0.86	0.29	頭位は北、5～6歳、仰臥葬の可能性あるが、埋葬の可能性もある。女性(女児)であると推定、死亡年齢約5～6歳、1個体。	政和通宝(1111)・元元聖宝(1023)	中世
53区1号墓	53-C-4	1.07	0.76	0.04	頭位は南、性別不明、死亡年齢不明、1個体。	開元通宝(621)・元祐通宝(1086)・宣徳通宝(1433)	中世
53区2号墓 (53区21号土坑)	53-Q-6	1.22	1.08	0.20	頭位は北と推定、埋葬又は座葬、女性、死亡年齢約30～40歳代、1個体。	永樂通宝(1408)	中世
53区3号墓 (53区48号土坑)	53-D-5	0.86	0.64	0.08	頭位は北、埋葬、5～6歳、男性(男児)、1個体。	なし	中世か

第2区画4号墓 (第318図：PL.79)

位置 第2区画南西部で、人骨が埋められていた3基の近世墓と馬の骨が埋められていた地区の南部に位置し45区C-23グリッドに位置する。**重複** なし。**形状** 楕円形。**規模** 長軸1.08m、短軸0.9m、深さ0.48m。**出土遺物** 銭(古寛永通宝)(新寛永通宝)(開元通宝)。**時期** 出土遺物から近世と思われる。唐銭(渡来銭)と新旧の寛永通宝が同時に埋葬されていることから、渡来銭の使用が禁止された、寛文10年(1670)以降間もない時期が想定される。**所見** 攪乱等により土坑の残りが悪い。

52区1号墓(旧52区28号土坑) (第318図：PL.79)

位置 52区調査区東端部分で、52区R-6グリッドに位置する。**重複** 52区4・13・21号掘立柱建物。**形状** 長方形。**規模** 長軸1.18m、短軸0.86m、深さ0.29m。**出土遺物** 銭(政和通宝・宋銭1111年初鑄)(天聖通宝・宋銭1023年初鑄)。**時期** 出土遺物から中世と思われる。**所見** 52・53区に、中世を中心とする37棟52区(33棟)・53区(4棟)の中近世屋敷の掘立柱建物がまぎらわって建てられていた。墓坑はそれらの掘立柱建物の密集地を避けるように東西に4基造られていた。掘立柱建物と重複しているのは52区1号墓だけである。

53区1号墓 (第318図：PL.79)

位置 53区調査区東側部分で、52区に近い53区C-4グリッドに位置する。**重複** なし。**形状** ゆがんでいる長方形。**規模** 長軸1.07m、短軸0.76m、深さ0.04m。**出土遺物** 銭(元祐通宝・宋銭1086年初鑄)

(開元通宝・唐銭621年初鑄)(宣徳通宝・明銭1433年初鑄)

等。**時期** 出土遺物から中世と思われる。**所見** 52・53区に、中世を中心とする37棟52区(33棟)・53区(4棟)の中近世屋敷の掘立柱建物がまぎらわって建てられていた。墓坑はそれらの掘立柱建物の密集地を避けるように東西に4基造られていた。53区1号墓は、52・53区の掘立柱建物が密集する南西に位置する。

53区2号墓(旧53区21号土坑) (第319図：PL.79)

位置 53区調査区中央西寄で、53区Q-6グリッドに位置する。**重複** なし。**形状** 長方形。**規模** 長軸1.22m、短軸1.08m、深さ0.2m。**出土遺物** 銭(永樂通宝・明銭1408年初鑄)他2枚(判読不明・渡来銭か)等。**時期** 出土遺物から中世と思われる。

所見 52・53区に、中世を中心とする37棟52区(33棟)・53区(4棟)の中近世屋敷の掘立柱建物がまぎらわって建てられていた。墓坑はそれらの掘立柱建物の密集地を避けるように東西に4基造られていた。53区2号墓は、53区の掘立柱建物が密集する東端に位置する。

53区3号墓(旧53区48号土坑) (第319図：PL.79)

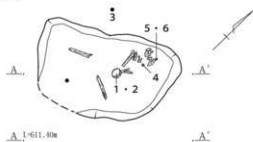
位置 53区調査区東側部分で、52区に近い53区D-5グリッドに位置する。**重複** なし。**形状** 長方形。**規模** 長軸0.86m、短軸0.64m、深さ0.08m。

出土遺物 なし。**時期** 出土遺物はないが、近接する53区1号墓をはじめ他の3基の墓が中世であるので、同じように中世と思われる。**所見** 52・53区に、中世を中心とする37棟52区(33棟)・53区(4棟)の中近世屋敷の掘立柱建物がまぎらわって建てられていた。墓坑はそれらの掘立柱建物の密集地を避けるように東西に4基造

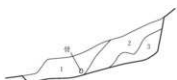
られていた。53区3号墓は、53区1号墓とともに52区の掘立柱建物が密集する場所の西端に位置する。

52-1号墓

1-1号墓

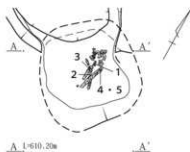


A 1.611.00m

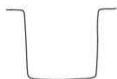


1. にぶい褐色土。ローム小ブロックとYPK5%含む。
2. にぶい褐色土。ローム小ブロック10%とYPK20%含む。
3. にぶい褐色土。YPK5%含む。

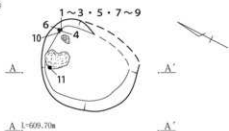
2-1号墓



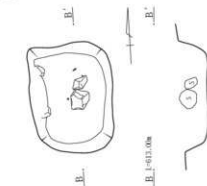
A 1.610.20m



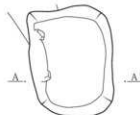
2-4号墓



A 1.609.70m



B 1.613.00m

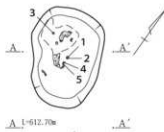


A 1.613.00m



1. 暗褐色土。ローム小ブロック5%と小礫5%含む。
2. 暗褐色土。ローム小ブロック10%含む。
3. 暗褐色土。ローム小ブロック20%含む。

53-1号墓



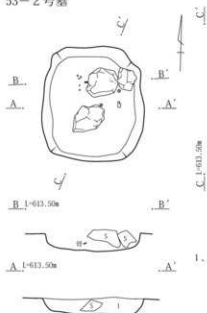
A 1.612.70m



1. 暗褐色土。白色軽石粒5%含む。
2. 暗褐色土。ローム小ブロック20%含む。

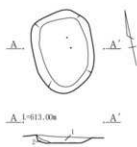
0 1:40 1m

53-2号墓

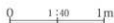


1. 暗褐色土。少量のローム粒を含む。

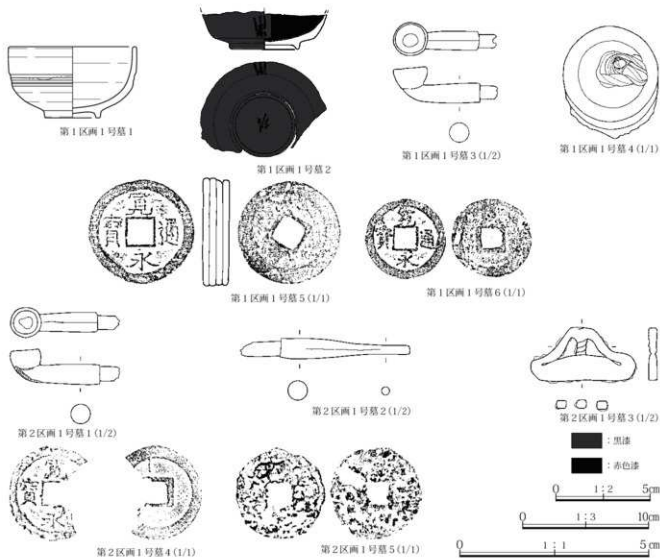
53-3号墓



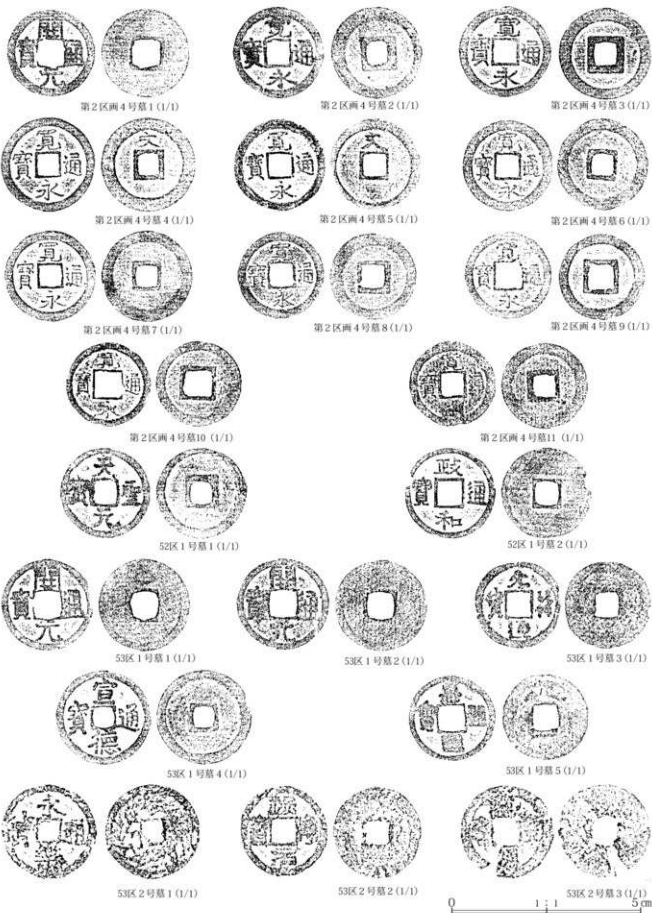
1. 暗褐色土。ローム粒をほとんど含まない。表土に近い。
2. 暗褐色土。少量のローム粒を含む。



第319図 墓(2)



第320図 墓出土遺物(1)



第321回 墓出土遺物(2)

獣骨(馬・ニホンジカ)

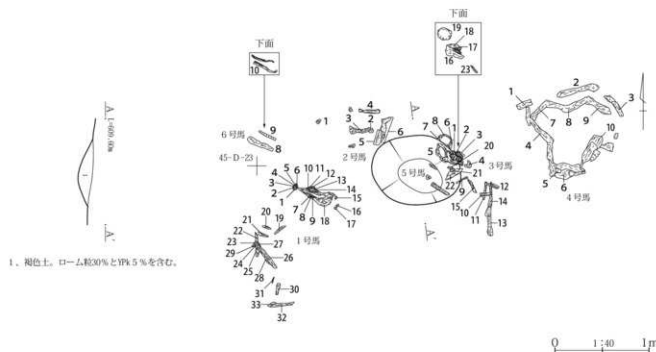
第2区画1～6号馬(旧2郭1～3号馬・2郭2号墓・2郭3号墓・2郭5号土取穴) (第322図: PL.80)

位置 第2区画南部、45区B・C-22・23、45区D-23グリッドに位置する。重複 第2区画4号墓土、5号土取穴。形状 明瞭な掘込面は不明。規模 1～3・5・6号馬の埋められた範囲、東西方向4m、

南北方向2.3m。出土遺物 なし。時期 出土遺物はないが、覆土の特色等から近世以降のものと思われる。所見 1～6号馬は、すべて土取穴の底部付近から出土している。馬の骨を埋めるための土坑が掘られているのではなく、馬捨て場として土取穴が使われたものと思われる。

表95 獣骨一覧表

報告遺構名 (土遺構名)	グリッド	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	特色	伴出遺物	時期	備考
第1区画36号土坑	54-F-X -3・4	1.40	0.75	0.22	馬歯1頭分出土。当初は1頭分まで埋められ、歯以外は風化消失か。中型在来馬。幼齡馬2.5歳前後。	なし	中近世	土坑に埋められている。
第2区画1号馬 (2郭1号馬)	45-B-D -22・23	東西方向4m、 南北方向2.3m の範囲			1頭分の馬骨が出土している。出土部位はほぼ全身であるが、完存部位は歯。出土時の実測面から、前肢・後肢は、手根部・足根部付近で交差しており、ここに棒を通して埋蔵部まで運び込んだものと思われる。老齡馬。小型在来馬相当。	なし	近世	馬捨て場。土取穴の中 にまともって埋められて いた。 土坑等の明瞭な掘込面 なし。
第2区画2号馬 (2郭2号馬)					1頭分の馬骨が出土している。出土部位はほぼ全身であるが、保存は極めて不良である。老齡馬。小型～中型在来馬相当。			
第2区画3号馬 (2郭3号馬)					1頭分の馬骨が出土している。ただし前肢部の出土はない。老齡馬。小型在来馬相当。調査段階で2郭3号墓として取り上げた骨3本は、第2区画3号馬の骨の一部であったものと思われる。			
第2区画4号馬 (2郭2号墓)					後肢骨(成馬)、上顎歯(老齡馬)。小型在来馬相当。			
第2区画6号馬 (2郭5号土取穴)					馬の全ての上顎臼歯と下顎の臼歯が出土している。20歳前後の老齡馬。やや小型の中型在来馬相当。			
第6区画1号配石 (6郭1号配石)	54-J-R -8・9	不明			ニホンジカの左の上顎臼歯が少なくとも3本出土している。	元登壇宝(1078)	中世	ニホンジカの左の上顎臼歯が覆土中より出土。
1号池 (1号溜池)	54-B-N -3・4	不明			4本の馬歯が出土している。3～4歳ほどの幼齡馬。中型在来馬相当。	木材・すり鉢・陶器類・陶器遺	中世	馬の歯が覆土中より出土。



第322図 第2区画獣骨

溝

53区2号溝 (第323図: PL.80)

位置 町道部分の東側、53区N-24、O-24・25、P-25グリッドに位置する。**重複** なし。**形状** 直線的に掘られている。北西部で溝が浅くなり部分的に溝が消えている。**規模** 13.7m、幅は0.7~1.4m。深さは0.06~0.42mである。**方位** N-54°-W。

出土遺物 なし。**時期・所見** 出土遺物はないが、覆土の大部分が軟質である。近世以降と想定したい。

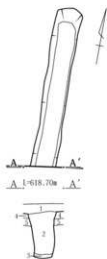
53区3号溝 (第323図: PL.80)

位置 町道部分の中央部、南北方向に掘られている。53区Y-23グリッドに位置する。**重複** なし。**形状** 直線的に掘られている。壁面はほぼ垂直である。

規模 3.48m、幅は0.5m。深さは0.7mである。

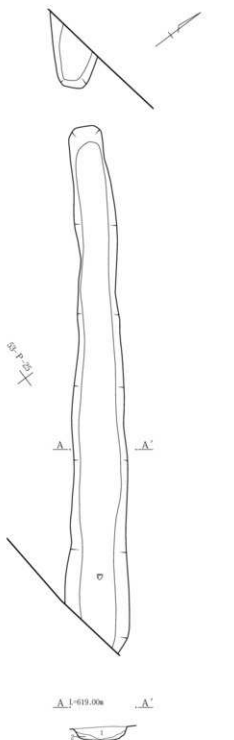
方位 ほぼ北である。**出土遺物** なし。**時期・所見** 出土遺物はない。溝の掘込面は耕作土下からであり、時間的に最も新しい。近接する54区4号溝も同じように壁面が垂直で影込面が耕作土下からである。溝として扱ったが、耕作に伴い彫り込まれた土坑に近い遺構と思われる。時期は近世以降と想定したい。

53-3号溝



1. 暗褐色土。耕作土。少量の植物の根を含む。
2. 暗褐色土。少量のIPkを含む軟質な層。
3. 暗褐色土。多くのローム粒を含む。
4. 暗褐色土。少量のローム粒を含む。(地山)
5. 暗褐色土。多くのローム粒を含む固い層。(地山)

53-2号溝



1. 暗褐色土。少量のIPkを含む軟質な層。
2. 暗褐色土。少量のローム粒を含む。

0 1:80 2m

第323図 53区2・3号溝

遺物出土ピット (第324図: PL.80)

53区231号ピット、54区11・30・76号ピットから遺物が出土している。これらのピットは、掘立柱建物の一部や掘立柱建物の近くではないので、別に取り上げてここで報告する。4ピットともほぼ円形を呈しており、規模は21～38cm深さ28～51cmと小さい。53区231号ピットは、225号ピットを一部掘り込んで造られていた。ピット内

に石が2個出土した。方形に加工した厚さ20.2cm、重さ25kgの大きな石が、水平でなく凹凸を持つ面を上にして埋められていた。その石の下には、石の位置を整えるように、薄く平らな石が置かれていた。

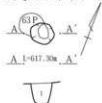
54区11号ピットからは中世の磁器皿、54区30号ピットからは中世の内耳土器、54区76号ピットからは古代9世紀～10世紀前半の須恵器碗が出土している。

53-231号ピット(53-W-25)



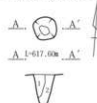
1. 暗褐色土。ローム粒20%含む。

7(54区)-30号ピット(54-M-22)



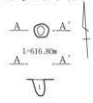
1. 暗褐色土。ロームブロックとローム粒10%含む。

7(54区)-11号ピット(54-O-23)



1. 暗褐色土。ローム粒10%含む。
2. 暗褐色土。ローム粒をほとんど含まない軟質な土。

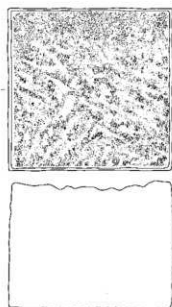
7(54区)-76号ピット(54-S-22)



1. 暗褐色土。ローム粒を含まない軟質な土。



第324図 53・54区遺物出土ピット



53区231号ピット1(1/6)



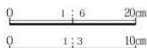
54区11号ピット1



54区30号ピット1



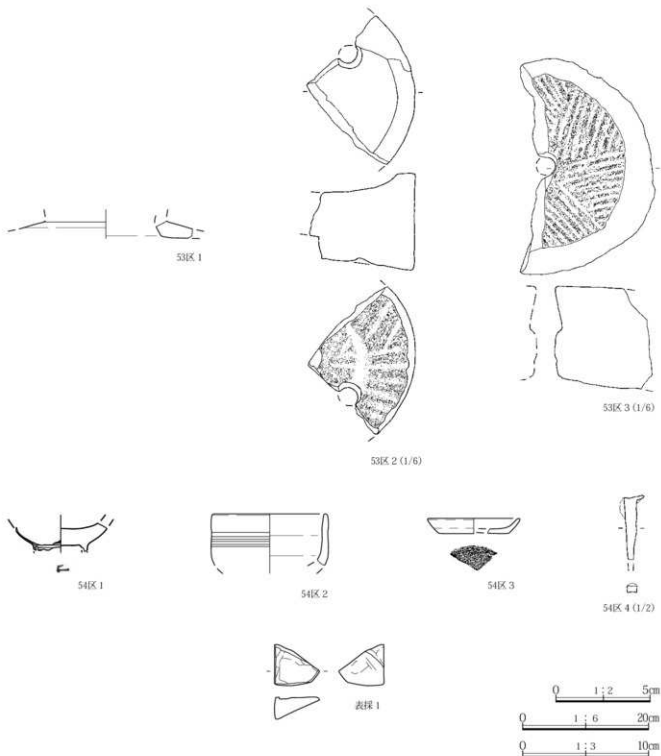
54区76号ピット1



第325図 53・54区ピット出土遺物

遺構外出土遺物

53区遺構外から13世紀代の古瀬戸の陶器壺と石臼2個体、54区から18世紀後半～19世紀初の染付碗、瀬戸・美濃系の陶器碗、中世在地土器の皿、鉄製の釘が出土している。

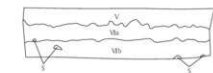
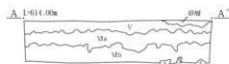


第326図 53・54区遺構外・表採出土遺物

旧石器時代確認調査

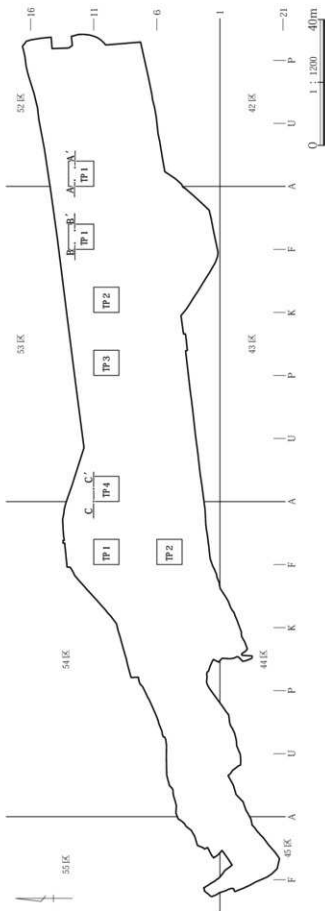
旧石器時代確認調査 (第327図)

縄文時代以降の調査終了後、旧石器時代確認調査を行う。52～54区に別図のように7カ所に4m四方グリッドによる深掘調査を行う。調査の結果旧石器時代石器等の出土はなかった。



V、明黄褐色土(ローム層)。細粒岩片をやや多く、YFsを少量含む弱い地。しまる。
Ma、明黄褐色土(ローム層)。YFsを少量含む軟らかい地。
Mb、褐灰色砂礫。川砂利主体。大歪角礫を含む。水成堆積。

0 1:80 2m



第327図 旧石器確認調査

第6節 自然科学分析

遺跡内において7基の墓坑及び土坑が調査され、多くの人骨が出土した。人骨の①埋葬状態②人骨の出土部位③被葬者の個体数④被葬者の性別⑤被葬者の死亡年齢等について調べることを目的として橋崎修一郎氏に分析を委託した。分析結果は以下のとおりである。

第1項 林中原1遺跡出土人骨

はじめに

林中原1遺跡は、群馬県長野原町大字林字中原に位置する。(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団による発掘調査が、平成19(1997)年～平成20(1998)年にかけて行われた。本遺跡は、中世城郭と推定されている林城跡である。本遺跡の第1区画・第2区画・52区・53区から中近世の人骨が検出されたので、以下に報告する。

なお、出土人骨は水洗後、観察・計測・写真撮影を実施した。出土骨の計測方法は、藤田の方法を用いた(藤田 1949)。

1. 第1区画出土人骨

第1区画では、1号墓から近世の人骨が検出されている。根がからまり、腐食が激しいため計測はできなかった。

(1)第1区画1号墓出土人骨[1郭1号墓]

①人骨の埋葬状態

人骨は、長軸(北東～南西)約156cm・短軸(北西～南東)約93cmの不整長方形土坑に埋葬されている。頭位は、人骨の出土位置から北東であると推定される。また、屈葬で埋葬されたと推定される。

②副葬品

副葬品は、銭貨の寛永通宝(1668年)・煙管・近世陶器・漆椀が検出されている。

③人骨の出土部位

頭蓋骨片・下顎骨片・歯・右上腕骨・左右大腿骨が同定された。

④被葬者の個体数

出土人骨には、重複部位が認められないため、被葬者の個体数は1個体であると推定される。

⑤被葬者の性別

左側頭骨の乳様突起は破損しているが、比較的大きい。



写真1. 第1区画1号墓出土人骨[下顎骨]



写真2. 第1区画1号墓出土人骨[左上腕骨]



写真3. 第1区画1号墓出土人骨[左右大腿骨]

しかしながら、上腕骨及び大腿骨は小さく華奢であるため、被葬者の性別は女性であると推定される。

⑥被葬者の死亡年齢

残存している下顎左第2大白歯(M2)の咬耗度を観察すると、象牙質が点状及び面状に露出しているマルティンの2度から3度の状態である。被葬者の死亡年齢は、約40から50歳代であると推定される。

2. 第2区画出土人骨

第2区画では、1号墓・4号墓の2基から近世の人骨が検出されている。

(1)第2区画1号墓出土人骨〔2郭1号墓〕

①人骨の埋葬状態

本土坑は、一部擾乱を受けているため、土坑の規模は不明である。しかしながら、少なくとも、歯が北部から出土しているため、頭位は北である可能性が高い。しかしながら、人骨の出土状況を見ると、改葬して再埋葬した可能性が高い。人骨は腐食が激しく、歯は咬耗が激しいため、計測はできなかった。

②副葬品

副葬品は、銭貨の寛永通宝(1668年)・煙管・火打金が検出されている。

③人骨の出土部位

頭蓋骨片・遊離歯・左右大腿骨等が同定された。

④被葬者の個体数

出土人骨には、重複部位が認められないため、被葬者の個体数は1個体であると推定される。

⑤被葬者の性別

左右大腿骨は大きく頑丈であるため、被葬者の性別は男性であると推定される。

⑥被葬者の死亡年齢

出土遊離歯の咬耗度を観察すると、上下左第1大白歯は、象牙質が全面に露出するマルティンの3度の状態である。切歯は、歯を使って皮をなめすなどの作業を行ったためと推定される。したがって、大白歯の咬耗度から、被葬者の死亡年齢は約50歳であると推定される。

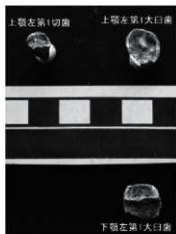


写真4. 第2区画1号墓出土人骨〔遊離歯咬合面観〕



写真5. 第2区画1号墓出土人骨〔下顎左〕



写真6. 第2区画1号墓出土人骨〔左右大腿骨〕



写真7. 第2区画1号墓出土人骨〔右胫骨〕

(3)第2区画4号墓出土人骨〔2部4号墓〕

①人骨の埋葬状態

本土坑は、一部攪乱を受けているため、土坑の正確な規模は不明である。推定規模で長軸(南北)約108cm・短軸(東西)約90cmである。しかしながら、少なくとも、頭蓋骨片が北部から出土しているため、頭位は北である可能性が高い。恐らく、屈葬であると推定される。

②副葬品

副葬品は、銭貨の寛永通宝(1668年)と開元通宝(621年)が検出されている。

③人骨の出土部位

頭蓋骨片が数点出土している。

④被葬者の個体数

恐らく、1個体であると推定される。

⑤被葬者の性別

被葬者の性別は、不明である。

⑥被葬者の死亡年齢

頭蓋骨片が非常に薄いため、未成年である可能性が高い。しかしながら、正確な死亡年齢は不明である。

3.52区出土人骨

52区では、1号墓から中世の人骨が検出されている。

(1)52区1号墓出土人骨〔52区28号土坑〕

①人骨の埋葬状態

人骨は、長軸(南北)約118cm・短軸(東西)約86cm・深さ約29cmの隅丸長方形土坑に埋葬されている。頭位は、人骨の出土位置から北であると推定される。被葬者は、約5歳から6歳と推定されている。1975年の日本人児童身長統計によると、5歳男児及び女児は約108cm・6歳男

児及び女児は約113cm～114cmである。土坑の規模から、伸展葬で埋葬された可能性もあるが、屈葬である可能性もある。

②副葬品

副葬品は、銭貨の政和通宝(1111年)と天元聖宝(1023年)が検出されている。

③人骨の出土部位

人骨は、遊離歯(永久歯)の歯冠部のみ出土している。

④被葬者の個体数

遊離歯には、重複部位が認められないため、被葬者の個体数は1個体であると推定される。

⑤被葬者の性別

永久歯の歯冠計測値が比較的小さいため、被葬者の性別は、女性(女児)であると推定される。

⑥被葬者の死亡年齢

出土遊離歯は、すべて歯根が破損しており、歯冠部のみである。しかしながら、上下第2大臼歯(M2)は歯冠が形成過程にあるため、被葬者の死亡年齢は、約5歳から6歳であると推定される。

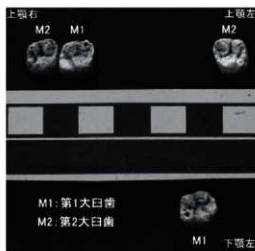


写真8. 52区1号墓出土人骨〔遊離歯咬合面観〕

4.53区出土人骨

53区では、1号墓・2号墓・3号墓の3基から中世の人骨が検出されている。

(1)53区1号墓出土人骨

①人骨の埋葬状態

人骨は、長軸(北西から南東)約107cm・短軸(北東から南西)約76cm・深さ約3～4cmの隅丸長方形土坑に埋葬されている。No.5に、歯冠破片が同定されたため、頭位は南にして埋葬された可能性が高い。

②副葬品

副葬品は、銭貨の開元通宝(621年)・元祐通宝(1086年)・宣徳通宝(1433年)が検出されている。

③人骨の出土部位

人骨は、残存状態が非常に悪い歯冠破片及び骨片である。同定はできなかったが、歯冠破片から、人骨であることは間違いない。遺構が検出された状態で、深さが約3～4cmしかないためかなりの部分が削られた可能性が高い。

④被葬者の個体数

人骨の残存状態が非常に悪いため不明であるが、恐らく1個体であると推定される。

⑤被葬者の性別

人骨の残存状態が非常に悪いため、被葬者の性別は不明である。

⑥被葬者の死亡年齢

人骨の残存状態が非常に悪いため、被葬者の死亡年齢は不明である。

(2)53区2号墓出土人骨[53区21号土坑]

①人骨の埋葬状態

人骨は、長軸(南北)約122cm・短軸(東西)約108cm・深さ約20cmの方形土坑に埋葬されている。頭位は、人骨の出土位置から北であると推定される。恐らく、屈葬で埋葬されたと推定されるが、座葬の可能性もある。

②副葬品

副葬品は、銭貨の永業通宝(1408年)が検出されている。

③人骨の出土部位

人骨は、遊離歯(永久歯)のみ出土している。

④被葬者の個体数

出土遊離歯には、重複部位が認められないため、被葬者の個体数は1個体であると推定される。

⑤被葬者の性別

出土遊離歯の歯冠計測値は、比較的小さいため、被葬者の性別は女性であると推定される。

⑥被葬者の死亡年齢

出土遊離歯の咬耗度を観察すると、象牙質が点状に露出する程度のマルティンの2度の状態である。被葬者の死亡年齢は、約30歳代から40歳代であると推定される。

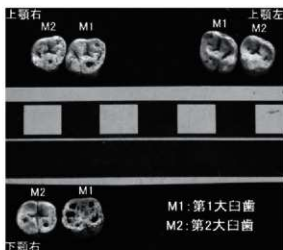


写真9. 53区2号墓出土人骨[遊離歯咬合面観]

(3)53区3号墓出土人骨[53区48号土坑]

①人骨の埋葬状態

人骨は、長軸(南北)約86cm・短軸(東西)約64cmの楕円形土坑に埋葬されている。頭位は、人骨の出土位置から北であると推定される。被葬者は、約5歳から6歳と推定されている。1975年の日本人児童身長統計によると、5歳男児及び女児は約108cm・6歳男児及び女児は約113cm～114cmである。土坑の規模から、屈葬で埋葬されたと推定される。

②副葬品

副葬品は、検出されていない。

③人骨の出土部位

人骨は、遊離歯(永久歯)の歯冠部のみ出土している。

④被葬者の個体数

遊離歯には、重複部位が認められないため、被葬者の個体数は1個体であると推定される。

⑤被葬者の性別

永久歯の歯冠計測値が比較的大きいため、被葬者の性別は、男性(男児)であると推定される。

⑥被葬者の死亡年齢

出土遊離歯は、すべて歯根が破損しており、歯冠部のみである。しかしながら、出土歯には咬耗が全く認められないため萌出過程か萌出してすぐであると推定されることから、被葬者の死亡年齢は約5歳から6歳であると推定される。

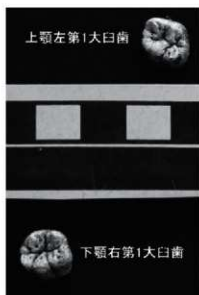


写真10. 53区3号墓出土土人骨「遊離歯咬合面観」

まとめ

群馬県長野原町に所在する、林中原1遺跡の第1区画・第2区画・52区・53区から中近世の土人骨が出土した。表96にまとめを、表97に歯冠計測値を示した。

引用文献

藤田恒太郎 1949 「歯の計測基準について」『人類学雑誌』、61:1-6。

権田和良 1959 「歯の大きさの性差について」『人類学雑誌』、67:151-163。

MATSUMURA, Hirofumi 1995 A microevolutional history of the Japanese people as viewed from dental morphology. National Science Museum Monographs No.9, National Science Museum

表96 林中原1遺跡出土土人骨まとめ

区名	墓坑名	時代	個体数	性別	死亡年齢
第1区画	1号墓	近世	1個体	女性	40歳～50歳代
第2区画	1号墓	近世	1個体	女性	50歳代
	4号墓	近世	1個体?	不明	不明
52区	1号墓	中世	1個体	女性(女兒)	約5歳～6歳
53区	1号墓	中世	1個体?	不明	不明
	2号墓	中世	1個体	女性	約30歳～40歳代
	3号墓	中世	1個体	男性(男児)	約5歳～6歳

表97 林中原1遺跡出土土人骨歯冠計測値及び比較表

歯種	計測項目	林中原1遺跡						中世時代人* Matsumura, 1995		江戸時代人* Matsumura, 1995		現代人** 権田, 1959		
		52区1号墓		53区2号墓		53区3号墓		♂	♀	♂	♀	♂	♀	
		右	左	右	左	右	左							
上顎	M1	MD	10.0	9.9	10.0	10.0	—	10.9	10.45	10.09	10.61	10.18	10.68	10.47
		BL	11.1	11.1	11.0	11.2	—	11.3	11.81	11.30	11.87	11.39	11.75	11.40
	M2	MD	—	—	9.0	9.3	—	—	9.65	9.42	9.88	9.48	9.91	9.74
		BL	—	—	10.8	10.6	—	—	11.72	11.19	12.00	11.52	11.85	11.31
下顎	M1	MD	—	10.7	11.0	—	11.5	—	11.56	11.06	11.72	11.14	11.72	11.32
		BL	—	10.3	10.5	—	11.3	—	11.00	10.49	11.15	10.62	10.89	10.55
	M2	MD	—	—	10.7	—	—	—	11.06	10.65	11.39	10.78	11.30	10.89
		BL	—	—	10.0	—	—	—	10.55	9.97	10.75	10.21	10.53	10.20

註1. 計測値の単位は、すべて、「mm」である。

註2. 歯種は、M1(第1大白歯)・M2(第2大白歯)を意味する。

註3. 計測項目は、MD(歯冠近遠心径)・BL(歯冠唇舌径)を意味する。

註5. 「*」は、MATSUMURA(1995)より引用。なお、MATSUMURA(1995)には、第3大白歯のデータは無い。

註6. 「**」は、権田(1959)より引用。

遺跡内の9カ所から獣骨が出土した。出土した獣骨の①個体数②出土部位③年齢④馬格⑤疾患等について調べることが目的として宮崎重雄氏に分析を委託した。分析結果は以下のとおりである。

第2項 林中原1遺跡出土の獣骨

I 第1区画36号土坑(1郭36号土坑) 表98

長径140cm、短径75cmの長方形に近い楕円形の土坑から馬歯が1頭分出土した。馬歯は土坑の西南端に歯列をなしてまとまっていたことから、当初は頭をこの位置において1頭分まるごとが埋められ、歯以外の部位は風化・消失したと思われる。

年齢：幼齢馬(2.5才前後)

2歳頃に萌出するとされる上顎第2後臼歯にわずかに咬耗がみられ、一方、3才頃に萌出するとされる上顎第3前臼歯がまだ萌出してなく、乳臼歯に覆われている。下顎第3前臼歯も乳臼歯に覆われている。この状況から馬齢を2.5才前後の幼齢馬と推定した。

馬格：中型在来馬相当

個々の歯の大きさは中型在来馬の大きさを思わせる。



写真1 第1区画36号土坑出土歯

II 第2区画1号馬(2郭1号馬) 表99

1頭分の馬骨が出土している。出土部位はほぼ全身にわたっているが、現状では完存部位は歯以外に存在しない。下顎骨は比較的保存がよい。出土時の実測図のみみると、前肢・後肢は手根部・足根部付近で交叉している。



写真2 第2区画1号馬出土歯

ここに棒を通して埋葬地まで運び込んだものと思われる。



写真3 第2区画1号馬出土頭

III 第2区画2号馬(2郭2号馬)

1頭分の馬歯・馬骨が出土している。出土部位はほぼ全身にわたっているが、保存は極めて不良である。

現状で確認できるのは、頭蓋、下顎骨、環椎、右肩甲骨、左・右上腕骨、左・右橈骨、左中手骨、左・右寛骨、左・右大腿骨、右脛骨、右距骨、右中心足根骨、左基節骨、左中節骨、左末節骨などである。

年齢：老齢馬

歯の咬耗はかなり進み、かなりの老齢馬であることを示している。特に右上顎第1後臼歯では歯冠部を全く失し、歯根が近心根と遠心根に分離する直前まで咬耗が達している。

馬格：小型～中型在来馬相当

橈骨の全長は326.0mmで、中手骨の全長は207.8mmである。西中川・松元(1991)の示す現生在来馬と比べると、橈骨は御崎馬(325.9mm)に近く、中手骨は与那国馬(208.5mm)に近い。このことから出土した馬はやや小さめの中型在来馬相当と思われる。



写真4 第2区画2号馬出土骨

IV 第2区画3号馬(2郭3号馬) 表100

1頭分の馬歯・馬骨が出土している。ただし、前肢部の出土はない。現状で確認できるのは、頭蓋、下顎骨、左寛骨、左大腿骨、左・右脛骨、左距骨、左・右中足骨などである。

年齢：老齢馬

歯の咬耗が極度に進んでいて、歯冠高が低く、切歯では咬耗面に黒窩を消失している。かなりの老齢馬である
馬格：小型在来馬相当

この馬の距骨内側長さが47.0mmあり、西中川・松元(1991)の示す小型在来馬・トカラ馬の50.0mmよりさらに小さい。また、寛骨白緑の長さが50.0mmであり、トカラ馬では55.9mmある。また、前臼歯列長72.0mm、後臼歯列長77.0mmあり、トカラ馬のそれが79.5mm、78.1mmであるのと比べるとかなりの小型馬ということができよう。

疾患：異常咬耗

右上顎第2後臼歯、右上顎第3後臼歯ではひどい異常咬耗していて、前者では咬耗面中央で最も高く、近心・遠心の両側へ急傾斜で低くなっている。後者では近心側のみに歯冠部が残り、遠心部では咬耗しつくされ、咬耗面が歯根に達し、急傾斜している。

この歯に対応する右下顎の歯でも異常咬耗が発生しているはずであるが、クリーニング未了で観察されない。

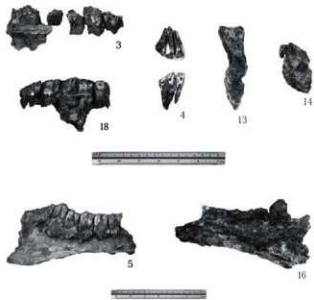


写真5 第2区画3号馬出土歯・顎

V 第2区画4号馬(29号号盤) 表101

後肢骨のみが出土している。

確認されるのは、左・右寛骨白、右大腿骨、右脛骨である。左大腿骨の一部と思われる骨片も存在する。

年齢：成馬

骨の大きさ及び大腿骨骨端部が骨体部と癒合していることから、成馬と判断される。

馬格：小型在来馬相当

信頼のできる計測値が得られたのは寛骨白緑長56.0mmだけである。これは西中川・松元(1991)のトカラ馬の55.9mmに極めて近く、小型在来馬相当である。

年齢：老齢馬

切歯・臼歯ともに咬耗は極度に進み、ほとんどの臼歯で、歯根近くまでか、歯根にまで咬耗が達している。なかでも、上顎の左(?)第1後臼歯では最も咬耗が進み、歯冠部を失い、歯根が3根に分離している。切歯も咬耗がはなはだしく、すでに咬耗面では黒窩を消失し相当な老齢馬であることを示している。

右上顎第2前臼歯には、咬合面に11.1×3.7mmの深い空洞が開いて、蝕蝕されているように観察される。

咬耗面が大きく傾斜する異常咬耗のはなはだしい歯も幾本かある。

このような歯では食料を十分に咀嚼することができず、慢性的な栄養用失調の上、高齢とあって、この馬はすでに役畜としては役立っていないかのように思われる。

馬格：小型在来馬相当

わずかに得られた計測値を現生在来馬(西中川・松元、1991)と比較してみると、小型馬に相当している。

中手骨体幅は28.0(29.0)mm、寛骨白緑長51.4(55.9)、距骨最大高49.0(50.0)mm、距骨内側滑車長44.2mm。下顎歯においては、全臼歯列長150.2(148.0)mm、前臼歯列長78.6(79.5)mm、後臼歯列長71.8(78.6)mmである。()内は小型在来馬のトカラ馬の計測値を示す。

この他、下顎骨の計測値を記しておく。下顎長(2)360.4mm、下顎枝幅(3)135.0mm、下顎枝高(20)197.6mm、下顎高(22a)88.0mm、下顎高(22b)60.7mmである。()内はDriesch(1976)の計測番号を示す。

疾患：右の踵骨と距骨は関節部で癒合し、滑動できない状態となっている。歩行は自由にできず、跛行していたものと思われる。



写真6 第2区画4号馬出土歯



写真7 第2区画4号馬出土骨・顎

VI 第2区画5号馬(2郭3号墓)

2区画5号馬 (2郭3号墓)の一部であり同一馬。

VII 第2区画6号馬(2郭5号土取穴)表102

馬のすべての上顎白歯と下顎の白歯が出土している。

年齢：老齢馬(20歳前後)

白歯の咬耗が著しく進み、歯冠高が低くなっている。西中川・松元(1991)による年齢推定法によれば、20才前後の老齢馬であることがわかる。切歯の咬合面の様子も黒窩が消失し、20歳前後の老齢馬として矛盾はない。

馬格：やや小型の中型在来馬相当

馬では咬耗が進むと、同一個体でも歯の計測値が小さくなる。このことを考慮しても、歯の計測値から推定される馬格は、やや小型の中型在来馬相当である。



写真8 第2区画6号馬出土歯・顎

VIII 第6区画1号配石(6郭1号配石)

ニホンジカの左上顎白歯が少なくとも3本出土している。

完存しているのは第3後白歯で、歯冠長18.1mm、歯冠幅17.7mm、歯冠高20.0mmを計測する。

他に、歯冠高23.4+mmの第2後白歯片と歯冠高16.0mmの第1後白歯片で、歯冠長14.0mm、歯冠高13.2mmの第3又は第4前白歯片が観察される。

この歯は、現生のニホンジカとオス比べるとやや小さめで、メスジカの可能性がある。



写真9 第6区画1号配石出土歯

IX 1号池(1号溜池)表103

右下顎第3前白歯、右上顎第四前白歯、右上顎第1後白歯、左上顎第2後白歯の4本の馬歯が出土している。すべてバラバラの状態出土した。

年齢：3～4歳ほどの幼齢馬

歯冠高が高く、咬耗が進んでいない。3～4歳ほどの幼齢馬と推定される。

馬格：中型在来馬相当

歯の大きさから推定される馬格は中型在来馬相当である。



写真10 1号池出土歯

X まとめ

- 1 本遺跡からは7頭の馬と、1頭のシカの歯・骨が出土している。
- 2 7頭の馬のうち、4頭がかなりの老齢馬で、天寿を全うし、自然死した可能性が最も高い。なかには老齢である上に肢の不自由な馬もあり、当時の人たちが最後まで大事に飼育していた様子がうかがえる。
- 3 7頭のうち2頭は幼齢馬である。事故死・病死したものであろうが、食された痕跡は見あたらない。

第3章 林中原1遺跡

- 4 小型在来馬相当の馬が多く、まだ荷車の発達していない近世では、荷を馬の背に乗せて運搬する都合で、小型馬が好まれて飼育されていたことを示している。
- 5 老齢馬では、咬耗が歯根又はその近くまで及んでいるものもあり、咀嚼が十分にできず、健康を害していた個体もいたと思われる。

林田重幸・山内忠平(1957)馬における骨長より体高の推定法「鹿兒島大学農学部学術報告」。6、122-126。

宮崎重雄(1989)上栗須遺跡の馬骨「上栗須遺跡・下塚遺跡・中大塚遺跡」。群馬県教育委員会・群馬県埋蔵文化財調査事業団、655-673。

西中川駿・松元(1991)遺跡出土骨同定のための基礎的研究「西中川駿編：古代遺跡から見たわが国の牛、馬の渡来時期とその経路に関する研究」。平成2年度文部省科学研究費補助金(一般研究B)研究成果報告書。164-188。

主な参考・引用文献

Driess, A. von den. (1976) A Guide to the Measurement of Animal Bone from Archaeological Sites. Peabody Museum Bulletin in 1. Harbard: Peabody Museum.

野村晋一(1977)「概説馬学」西川書店。

表98 第1区画36号土坑馬歯計測値 (1郭36号土坑)

上顎白歯	第3前臼歯		第1後臼歯		第2後臼歯	
	右	右乳臼歯	右	左	右	
歯冠近遠心径	29.0	29.0	26.7	26.6	26.4	
歯冠幅	19.6*	24.4	25.2	25.1	22.8	
原歯幅		8.8	10.3	10.6	11.6	
歯冠高相側	37.0*	4.2	77.0*	78.0*	69.6	
歯冠高舌側				74.4*		
咬合面の傾斜			95°	93°	100°	
中歯歯幅		3.9	3.7	3.4	3.7	

下顎白歯

	第2前臼歯		第3前臼歯		第4前臼歯		第1後臼歯		第2後臼歯	
	左	右	左乳臼歯	右	左	右	左	右	左	右
歯冠近遠心径	20.0*	30.9	31.0	28.5	31.2	28.0	28.0	30.1	30.2	30.2
歯冠幅		15.1	14.8	14.6	15.3	14.6	13.6	13.8	13.2	13.2
歯冠高相側	45.6*	51.0	8.0	36.0*	49.0*	80.5*	81.8*	66.0*	66.2*	66.2*
歯冠高舌側					50	84.8*	83.1*	67.0*	67.7*	67.7*
下後歯舌長			7.6			9.1	9.2	9.3	9.0	9.0
下内歯舌長			6.8			10.3	10.3	11.0	11.8	11.8
歯冠傾斜角		17.6	17.1	15.6	17.4	15.2	15.2	14.0	14.6	14.6
咬合面の傾斜						106°	105°	102°	100°	100°
下内歯幅			4.1			4.7	4.5	3.7	3.8	3.8

単位: mm

表99 第2区画1号馬歯計測値 (2郭1号馬)

上顎白歯計測値	第2前臼歯		第3前臼歯		第4前臼歯?		第1後臼歯?		上顎臼歯	
	左	右	右	左	右?	左?	右?	?	?	?
歯冠近遠心径	27.3	25.6	22.7	20.4	歯冠部なし		20.8	17.3	21.8	
歯冠幅	18.4*	22.4	22.4	27.6			31.6	22.8	16	
原歯幅	10.0	9.0	9.0							
歯冠高相側	14.2	6.4	3.0	3.6			3.0			

単位: mm

表100 第2区画3号馬歯計測値 (2郭3号馬)

上顎白歯	第2前臼歯		第3前臼歯		第4前臼歯		第1後臼歯		第2後臼歯		第3後臼歯半2	
	右	左	右	左	右	左	右半1	左	右	左	右	左
歯冠近遠心径	26.2*	33.2	23.7	24.8	21.0	24.6	20.0	19.2	21.7	19.8		17.0*
歯冠幅	19.0*	19.8	22.8	22.4	18.8	25.0	20.0	24.0	22.4	23.0		21.0
原歯幅		8.2	9.6	10.1		11.6		11.5	11.0	11.5		
歯冠高相側	7.0	14.4	9.6	25.0	13.6	18.8		14.6	8.2	14.6		18.0
中歯歯幅				5.0		5.4		4.5		4.8		4.3

下顎臼歯

	第2前臼歯		第3前臼歯		第4前臼歯		第1後臼歯		第2後臼歯		第3後臼歯	
	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左
歯冠近遠心径	27.0*	26.0	23.4	23.6	22.9*	23.6	21.8	21.3	22.0	22.0	11.7*	30.0
歯冠幅径	12.8	12.4	13.8	13.0	13.8	13.3	13.2	12.4	13.3	12.8	10.4	
歯冠高径	9.6	12.0	7.2	10.0	10.9		10.0*		15.2	21.0		23.0
下後脰径			8.0*						5.7	5.6		
下内脰径	9.4	10.0	7.6	8.2	6.3	5.8	5.3	5.3	9.6	6.6		
shob-leknot 径	12.4		14.5	14.8	14.6	14.1	14.5	11.9	11.6	12.0	11.4	11.4
下脰径	6.7	6.3	6.7	6.2	6.4	6.5	5.6	5.4	6.0	5.3		
咬耗の様子									異常咬耗		異常咬耗	

単位: mm

表101 第2区画4号馬歯計測値 (2郭2号墓)

上顎臼歯

	第3前臼歯		第4前臼歯		第1後臼歯		第2後臼歯		第3後臼歯	
	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左
歯冠近遠心径	22.5	19.9	18.0	19.0	23.8					
歯冠高径	5.1	5.1	2.0							7.0

第4前臼歯～第3後臼歯: 106.6

第1後臼歯～第3後臼歯: 61.8

下顎臼歯

	第2前臼歯		第3前臼歯		第4前臼歯		第1後臼歯		第2後臼歯		第3後臼歯	
	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左
歯冠近遠心径	20.2*		19.0	20.8	19.7	19.0	29.0					
歯冠高径			3.0	5.7	1.0	2.5	4.0					

単位: mm

表102 第2区画6号馬歯計測値 (2郭5号土取穴)

上顎臼歯

	第2前臼歯		第3前臼歯		第4前臼歯		第1後臼歯		第2後臼歯		第3後臼歯	
	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左
歯冠近遠心径	28.8*	31.2	27.0	26.2	25.0	24.7	21.3	22.2	22.0	22.3	28.8	29.2
歯冠幅径	20.4*	31.0*	25.8	25.7	26.0	26.4	24.7	24.6	25.0	25.0	21.8	21.8
磨砕幅	20.0*	20.0	11.1	11.0	11.1	10.5	11.6	11.3	13.6	13.0	14.5	15.3
歯冠高径		13.3	12.1	16.8	15.8	18.2	15.1	14.6	15.3	17.0	16.0	19.0
歯冠高径		15.2		19.8								
中脰径			4.4	4.6	3.9	4.1	3.8	3.6	4.3	3.5	4.3	

下顎臼歯

	第2前臼歯		第3前臼歯		第4前臼歯		第1後臼歯		第2後臼歯		第3後臼歯	
	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左
歯冠近遠心径	25.4*	27.0*	24.2	24.1	23.8	23.3	20.8	20.4	21.7	21.7	33.5	33.7
歯冠幅径	13.5	13.5	13.0*	14.3	14.9		14.1		13.0		11.2	
歯冠高径			10.0	12.3	12.0		7.5					
歯冠高径				8.0							6.2	
shob-leknot 径		9.2							12.5	12.6	12.2	13

単位: mm

右下顎前臼歯列長: 155.3+

左下顎第4前臼歯～第1後臼歯: 101.4

表103 1号池歯計測値 (1号溜池)

上顎臼歯計測値

	第3前臼歯		第4前臼歯		第1後臼歯		第2後臼歯	
	右				左			
歯冠近遠心径	28.0	26.3	25.3		26.0			
歯冠幅径	26.2	24.6	25.4		25.5			
磨砕幅	13.3	13.9	14.6		14.6			
歯冠高径	74.7	75.6	67.2		67.6			
中脰径	4.4	4.0	3.5		4.4			

単位: mm

表104 馬切歯計測値

		第2区画1号馬			第2区画2号馬			第2区画3・5号馬			
		歯冠長	歯冠幅	歯冠高	歯冠長	歯冠幅	歯冠高	歯冠長	歯冠幅	歯冠高	
上顎切歯	右	第2切歯	14.2	10.4	47						
		第1切歯	14.4	10.4	47						
	左	第2切歯	14.9	10.8	50.6	13.3	9.8*	39.3*			
		第1切歯	14.0	12.0	32.4*	14.8	12.2	33.8*	11.0*	43.9*	
下顎切歯	右	第2切歯	13.6	11.6	32.8*	15.4		49.5			
		第1切歯	13.8	9.7*	49.2*				14.1	8.4	36.2*
		第2切歯	13.1	10.2	51.1	12.4	9.6	45.0*			
	左	第1切歯	12.3	10.5	45.6*	13.4	9.3	45.1			
		第1切歯	12.4	10.4	44.2*	13.1	9.4	50.6	11.1	10.6*	41.5*
		第2切歯	12.3	10.7	49.0*	13.2	9.4	55.9	11.9	9.2*	48.8
第3切歯	10.8*	11.8	45.4	12.8	9.3	51.3	12.6	9.0*	43.0		

単位: mm

遺跡内の池を中心に出土した木製品や建築部材の樹種同定、52区1号竪穴状遺構が内から出土した炭化材の年代、52区1号竪穴状遺構が内外出土種別の種類等を調べることを目的としてバリノ・サーヴェイ株式会社に分析を委託した。分析結果は以下のとおりである。

第3項 林中原1遺跡の自然科学分析

はじめに

林中原1遺跡(群馬県吾妻郡長野原町大字林)は、吾妻川左岸に位置しており、発掘調査の結果、縄文時代の住居跡や中世の山城、屋敷跡などが確認されている。本報告では、山城や屋敷跡から出土した木材(炭化材)や種実遺体、動物遺存体の種類や建物跡の年代の検討を目的として自然科学分析調査を実施する。

1. 木製品・炭化材

1. 試料

試料は、堀跡や溜池、郭等から出土した木製品等46点と、中世の屋敷跡付近から検出された竪穴建物(1号竪穴状遺構)内やが内、土坑から出土した炭化材5点である。これらの試料のうち、木製品および炭化材全点を対象に樹種同定、1号竪穴建物跡から出土した炭化材(Na17)を対象に放射性炭素年代測定を行う。

2. 分析方法

(1) 放射性炭素年代測定

試料は、前処理(超音波洗浄、酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸1.2N、水酸化ナトリウム1N、塩酸1.2N))により不純物を除去した後、グラファイトを合成し、測定用試料とする。測定機器は、NEC製コンパクトAMS 1.5SDHを使用する。放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。また、測定年代は1950年を基点とした年代(BP)であり、誤差は標準偏差(One Sigma;68%)に相当する年代である。暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV5.02 (Copyright 1986-2005 M Stuiver and PJ Reimer)を用い、誤差として標準偏差(One Sigma)を用いる。

暦年較正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が5568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、及び半減期の違い(^{14}C の半減期 5730 ± 40 年)を較正することである。暦年較正に関しては、本来10年単位での表記が慣例であるが、将来的に暦年較正プログラムや暦年較正曲線の改正があった場合の再計算、再検討に対応するため、1年単位で表している。また、暦年較正結果は、測定誤差 σ 、 2σ 双方の値を示す。 σ は統計的に真の値が約68%の確率で存在する範囲、 2σ は真の値が約95%の確率で存在する範囲である。また、表中の相対比は、 σ ・ 2σ の範囲をそれぞれとした場合、その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。

(2) 樹種同定

木製品は、木材組織観察用プレパラートが作成済であったことから、生物顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察する。炭化材試料は、自然乾燥させた後、3断面の断面を作製して実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察する。

各試料の観察で確認された特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類を同定する。木材組織の名称や特徴等は、島地・伊東(1982)、Wheeler他(1998)、Richter他(2006)を参考にする。また、各分類群の組織配列については、林(1991)や伊東(1995,1996,1997,1998,1999)を参考にする。

3. 結果

(1) 放射性炭素年代測定

結果を表105・106に示す。1号竪穴遺構のが内より出土した薪?状の炭化材(Na17)は、径約5cmを呈する芯持丸木の炭化材片である。試料は、観察範囲内で最も辺材部に近い箇所より採取している。この炭化材試料の同位体効果による補正を行った測定結果(補正年代)は $315 \pm 25\text{BP}$ である。また、暦年較正結果(σ)は、calAD1,521-1,640であり、最も相対比(確立分布)の高い値の年代はcalAD1,521-1,576 (69.1%)を示す。

表105 放射性炭素年代測定結果

区	遺構名	遺物%	種類	補正年代 BP	$\delta^{13}C$ (‰)	Code No.	Measurement No
52	1号竪穴状遺構	炉	炭化材(コナラ節)	315±25	-29.52±0.25	10109-1	PLD-11214

表106 暦年校正結果

区/遺構名/遺物%	補正年代 (BP)	暦年校正年代(cal)				相対比	Code No.		
52区1号竪穴状遺構 炉	315±23	0	cal AD 1,521	- cal AD 1,576	cal BP 429	- 374	0.691	10109-1	
			cal AD 1,582	- cal AD 1,591	cal BP 368	- 359	0.086		
		20	cal AD 1,622	- cal AD 1,640	cal BP 328	- 310	0.223		0.782
			cal AD 1,491	- cal AD 1,602	cal BP 459	- 348	0.218		
				cal AD 1,613	- cal AD 1,645	cal BP 337	- 305		

(2) 樹種同定

結果を表107・108に示す。木製品46点は、針葉樹5分類群(マツ属複雑管束亜属・モミ属・スギ・ヒノキ・ヒノキ科)と広葉樹6分類群(オニグルミ・クリ・ケヤキ・ヤマグワ・カツラ・サクラ属スモモ亜属)に同定された。一方、1号竪穴建物跡および土坑から出土した炭化材は、針葉樹1分類群(マツ属複雑管束亜属)と広葉樹2分類群(コナラ属コナラ亜属コナラ節・クリ)に同定された。以下に、各分類群の解剖学的特徴等を記す。

・マツ属複雑管束亜属(*Pinus* subgen. *Diploxylon*) マツ科

軸方向組織は仮道管と垂直樹脂道で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は急～やや緩やかで、晩材部の幅は広い。垂直樹脂道は晩材部に認められる。放射組織は、放射仮道管、柔細胞、水平樹脂道、エビセリウム細胞で構成される。分野壁孔は窓状となる。放射仮道管内壁には顕著な鋸歯状の突起が認められる。放射組織は単列、1～15細胞高。

・モミ属(*Abies*) マツ科

軸方向組織は仮道管のみで構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は比較的緩やかで、晩材部が比較的広い試料と狭い試料とがある。放射組織は柔細胞のみで構成される。柔細胞壁は粗く、垂直壁にはじゅず状の肥厚が認められる。分野壁孔はスギ型で1分野に1～4個。放射組織は単列、1～20細胞高。

・スギ(*Cryptomeria japonica* (L. f.) D. Don) スギ科スギ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は比較的広い。樹脂細胞はほぼ晩材部に認められる。放射

組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はスギ型で、1分野に2～4個。放射組織は単列、1～10細胞高。

・ヒノキ(*Chamaecyparis obtusa* (Sieb. et Zucc.) Endlicher) ヒノキ科ヒノキ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか～やや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞は晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はヒノキ型～トウヒ型で、1分野に1～3個。放射組織は単列、1～10細胞高。

・ヒノキ科(*Cupressaceae*)

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やかで、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞は晩材部付近に認められ、水平壁にはじゅず状の肥厚が認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はスギ型に見えるが、保存状態が悪い。放射組織は単列、1～10細胞高。

分野壁孔がスギ型に見えることから、サワラの可能性があるが、全体的に保存状態が悪く、十分な観察が行えなかったことからヒノキ科とした。

・オニグルミ(*Juglans mandshurica* Maxim. subsp. *sieboldiana* (Maxim.) Kitamura) クルミ科クルミ属

散孔材で、道管径は比較的大径、単独または2～3個が放射方向に複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織はほぼ同性、1～3細胞幅、1～40細胞高。

実-24①、②の2点は、放射組織が渦状になる特徴等から節部分と考えられ、参-5.6と比較すると道管径や道管の分布密度に違いが認められる。

・コナラ属コナラ亜属コナラ節(*Quercus* subgen.

表107 樹種同定結果(木製品・建築部材)

整理番号	地区	遺構名	遺物No.	木器No.	器種	樹種
実-1	林地区	2号溜池	No.1	W-1	角柱材	マツ属複雑管束亜属
実-2	林地区	2号溜池	No.3	W-2	角材	マツ属複雑管束亜属
実-3	林地区	2号溜池	No.4	W-3	板片	クリ
実-4	林地区	2号溜池	No.5	W-4	板片	クリ
実-5	林地区	1号溜池	No.6	W-5	柱	クリ
実-6	林地区	1号溜池	No.17	W-6	床板	クリ
実-7	林地区	1号溜池	No.8	W-7	礎板	クリ
実-8	林地区	1号溜池	No.9	W-8	礎板	クリ
実-9	林地区	1号溜池	No.18	W-9	板片	クリ
実-10	林地区	1号溜池	No.19	W-10	杭	クリ
実-11	林地区	1号溜池	No.15	W-11	柱?	クリ
実-12	林地区	1号溜池	No.16	W-12	杭	クリ
実-13	林地区	1号溜池	No.13	W-13	板片	クリ
実-14	林地区	1号溜池	No.14	W-14	柱片	クリ
実-15	林地区	1号溜池	No.11	W-15	棒片?	クリ
実-16	林地区	1号溜池	No.7	W-17	柱片	クリ
実-17	林地区	1号溜池	No.10	W-18	棒片	モミ属
実-18	林地区	1号溜池	No.1	W-19	杭	クリ
実-19	林地区	1号溜池	No.2	W-20	板材?	クリ
実-20	林地区	1号溜池	No.3	W-21	はり材	クリ
実-21	林地区	1号溜池	No.4	W-22	棒材?	クリ
実-22	林地区	1号溜池	No.5	W-23	板?	クリ
実-23	林地区	1号溜池	No.21	W-24	杭?	クリ
実-24①	林地区	1号溜池	No.20	W-25①	柱	オニグルミ
実-24②	林地区	1号溜池	No.20	W-25②	棒材	オニグルミ
実-25	林地区	2号溜池	No.2	W-26	杭の先?	マツ属複雑管束亜属
実-26	林地区	1号溜池	一括	W-27	杭の先	クリ
実-27	林地区	1号溜池	一括	W-28	柱材?	スギ
実-28	林地区	1号溜池	一括	W-31	棒材	カツラ
実-29	林地区	1号溜池	一括	W-33	杭?	クリ
実-30	林地区	1号溜池	一括	W-34	棒材	モミ属
実-31	林地区	1号溜池	一括	W-35	板?	クリ
実-32	林地区	1号溜池	一括	W-36	底板	スギ
実-33	林地区	1号溜池	一括	W-37	板	モミ属
実-34	林地区	1号溜池	一括	W-38	底板	スギ
実-35	第5部		No.14	W-39	板材	ヒノキ科
実-36	第5部		No.24	W-40	底板?	クリ
実-39	第5部		表土一括	W-45	曲物側	ヒノキ
実-41	第5部		表土一括	W-47	不明木器	ケヤキ
実-42	第5部		表土一括	W-48	不明木器	ヤマグワ
参-1	林地区	1号溜池	No.12	W-16	杭片?	クリ
参-2	林地区	1号溜池	一括	W-29	(木片)	サクラ属スモモ亜属
参-3	林地区	1号溜池	一括	W-30	(木片)	スギ
参-4	林地区	1号溜池	一括	W-32	(木片)	サクラ属スモモ亜属
参-5	林地区	3号堀	一括	W-43	(木片)	オニグルミ
参-6	林地区	3号堀	一括	W-44	(木片)	オニグルミ

表108 樹種同定結果(炭化材)

地区	遺構名	遺物No.	形状等	樹種
52区	1号竪穴状遺構 甲	16	棒状	コナラ属コナラ亜属コナラ節
52区	1号竪穴状遺構 甲	17	薪?状	コナラ属コナラ亜属コナラ節
52区	1号竪穴状遺構	19	板状 芯持丸木	コナラ属コナラ亜属コナラ節
52区	36号土坑		薪?状	クリ
52区	39号土坑		薪?状	マツ属複雑管束亜属

Quercus sect. Prinus) ブナ科

環孔材で、孔圏部は1～3列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～20細胞高のものど複合放射組織とがある。

・クリ(*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.) ブナ科クリ属

環孔材で、孔圏部は2～4列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～15細胞高。

・ケヤキ(*Zelkova serrata* (Thunb.) Makino) ニレ科ケヤキ属

環孔材で、孔圏部は1～2列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、塊状に複合して接線・斜方向に紋様状あるいは帯状に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1-6細胞幅、1-50細胞高。放射組織の上下縁辺部を中心に結晶細胞が認められる。

・ヤマグワ(*Morus australis* Poiret) クワ科クワ属

環孔材で、孔圏部は3～5列、孔圏外への移行は緩やかで、晩材部では単独または2～3個が複合して接線・斜方向に配列し、年輪界に向かって管径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1～5細胞幅、1～50細胞高で、しばしば結晶を含む。

・カツラ(*Cercidiphyllum japonicum* Sieb. et Zucc.) カツラ科カツラ属

散孔材で、管孔はほぼ単独で散在し、年輪界に向かって管径を漸減させる。道管の分布密度は高い。道管は階段穿孔を有する。放射組織は異性、1～2細胞幅、1～30細胞高。

・サクラ属スモモ亜属(*Prunus*) バラ科

環孔性を帯びた散孔材で、道管の始めにやや大型の道管が3～4列配列した後、やや急激に管径を減じ、晩材部では単独または希に2～3個が複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、内壁にはらせん肥厚が認められる。

放射組織は異性、1～6細胞幅、1～50細胞高。放射組織には帯状の組織が認められる。参-2では傷害ゴム道が認められる。

スモモ亜属には、アズ、スモモ、ウメの2属3種が含まれる。本試料は、ウメに似るが、保存状態が悪いことや生長が悪い部分が含まれていること等から確定するには至らず、スモモ亜属とした。

4. 考察

(1) 木製品

木製品は、柱材や杭材等の建築・土木材とみられる部材が主体であり、その多くは林地区の1号溜池から出土している。この他では、第5郭から出土した曲物側板や不明木器等も含まれている。これらの木製品46点からは、針葉樹5分類群、広葉樹6分類群の計11分類群が認められ、特に落葉広葉樹のクリが多いという傾向を示した。

確認された分類群の木材の特徴は、針葉樹のマツ属複雑管束亜属は、比較的強度が高く、樹脂を多く含むために保存性も比較的高い。スギやヒノキ、ヒノキ科は、割裂性が高く、加工が容易であり、耐水性も比較的高い。モミ属も割裂性が高く加工が容易であるが、保存性は低いとされる。広葉樹では、クリやケヤキ、ヤマグワは、重硬で強度が高いため加工はやや困難であるが、耐朽性は比較的高い。オニグルミやスモモ亜属も比較的硬硬で強度が高い。カツラは、強度・耐朽性が高くないが、木理が直通で均質なため加工が容易である。

道構別・器種別の検出状況を見ると、1号溜池は、柱や床板、礎板、杭、板等にクリの利用が多く認められた。クリ以外では、スギ(柱材?・底板)、モミ属(棒材・棒材板)、オニグルミ(柱・棒材)、カツラ(棒材)が確認された。以上の結果から、土木材・建築材とみられる部材には強度の高いクリやオニグルミ、強度より加工性を必要とする用途(底板・板・棒材)にスギやモミ属、カツラが利用される傾向が窺われる。2号溜池は、板片にクリが利用されるという1号溜池と類似する特徴が認められる一方、角柱や角材、杭にマツ属複雑管束亜属が利用されるという異なる特徴も指摘される。

第5郭から出土した木製品では、不明木器にはケヤキとヤマグワが確認され、強度・耐朽性の高い木材の利用が推定される。また、底板？はクリであり、不明木器と同様に強度・耐朽性の高い木材であった。一方、曲物側はヒノキ、板材はヒノキ科が認められ、加工性や耐水性を考慮したとみられる木材利用も窺われる。

なお、今回の分析結果で検出された分類群のうち、クリはコナラ節と共に本地域の落葉広葉樹林を形成する樹木である。また、オニグルミやカツラ、ヤマグワ、ケヤキは、河畔等の水分の多い土地を中心に分布・生育しており、現在でも遺跡周辺に自生している。このことから、出土した木製品の製作地や樹木の入手・伐採地の推定は困難であるが、いずれも周辺より入手が可能であったと考えられる。

(2)炭化材

炭化材は、1号竪穴状遺構内(遺物No.19)と炉内(遺物No.16・17)から出土した3点、土坑から出土した2点である。1号竪穴状遺構内から出土した炭化材については、いずれも複数の炭化材が認められ、遺物No.19では板状と芯持丸木状の炭化材が認められたことから計4点を対象に調査を行った。

これらの炭化材は、出土位置や形状等に関わらず、全て落葉広葉樹のコナラ節であった。コナラ節には、二次林(雑木林)を構成するコナラや、山地で森林を形成するミズナラ等が含まれ、本地域で現在も普通に認められる種類である。これらは、薪炭材として優良であり、古くから利用されてきた種類でもある。これらの結果から、少なくとも炉内から出土したコナラ節は燃料材として利用されていたことが推定される。一方、土坑から出土した炭化材は、マツ属複雑管束亜属(39号土坑)とクリ(36号土坑)であった。現時点では遺構の性格や不明であるため、これらの木材の用途や樹種の違いの検討については今後の課題である。

11.種実遺体

1.試料

試料は、52区1号竪穴状遺構の炉・2号炉・炉(ナベの中/ナベの外)と、第11郭3号土坑から検出された種実遺体である。試料の詳細は、結果と共に表109に示す。

表109 種実同定結果

地区	試料		日付	分類群	部位	状態	個数	計測値(mm)			備考				
	遺構名							長さ	幅	厚さ					
52区	1号竪穴状遺構	炉 ¹	07.9.4	カキノキ属	種子	完形 炭化	1	8.35	4.56	3.31					
			07.10.2	カキノキ属	種子	破片 炭化	1	6	4	-					
52区	1号竪穴状遺構	炉(ナベの中)	07.9.12	カキノキ属	種子	完形 炭化	1	9.03	5.33	3.16					
			07.9.20	オオムギ	胚乳	完形 炭化	1	6.16	3.29	2.76					
		炉(ナベの外)	07.9.27	カキノキ属	種子	完形 炭化	10	9.73	5.14	3.89	状態良好な6個計測				
								8.81	5.1	3					
								8.71	5.03	2.9					
								7.59	4.63	2.83					
								8	4.58	3					
								7.79	4.97	2.77					
								破片 炭化	1						
								オオムギ	胚乳	炭化	1	6.71	2.81	2.25	
52区	1号竪穴状遺構	2号炉 ¹	07.10.9	オオムギ	胚乳	破片 炭化	2	4.07	3.07	2.42	接合し1個体				
			+2.14												
					07.10.9	カキノキ属	種子	完形 炭化	1	6.3	4.2	2.73			
										9.56	5.22	3.27			
										8.58	5.01	3.06			
										8.17	4.68	2.55			
										7.64	4.81	2.23			
										7.64	4.81	2.23			
								オオムギ	胚乳	炭化	1	5.63	2.83	2.45	
								炭化材	破片 炭化	1					
第11郭	3号土坑	スミサンプル中	08.6.11			炭化材	破片 炭化	1							
									土の塊						

2. 分析方法

試料を双眼実体顕微鏡下で観察する。現生標本および石川(1994)、中山ほか(2000)等の図鑑との対照から、種実の種類と部位を同定し、個数を数えて表示する。分析後は、種実を種類毎に容器に入れ保管する。

3. 結果

結果を表109に示す。52区1号竪穴状遺構の炉等からは、栽培植物のカキノキ属の種子19個、オオムギの胚乳5個が検出され、全て炭化した状態であった。一方、第11郭3号土坑試料は、炭化材および土塊が検出されたのみであり、種実は検出されなかった。以下に、同定された種実の形態的特徴等を記す。

・カキノキ属(*Diospyros*) カキノキ科

種子が検出された。炭化しており黒色、長さ6-9.73mm、幅4-5.33mm、厚さ2.73-3.89mm程度の扁平な非対称倒尖楕円形(状態良好な個体の計測値を表に示した)。種子には縦に1周する稜があり、背面は丸みを帯び、腹面は直線状。腹面基部に1mm程度の楕円形の孔がやや突出する。種皮は薄く硬く、表面は粗面。2枚からなる子葉が半割した内面には、縦長の繊維が放射状に配列する。

日本に分布するカキノキ属は、中国より渡来したとされる栽培種のカキノキ(*D. kaki* Thunb.)、マメガキ(*D. Lotus* L.)と、野生種4種(関東以西に分布する落葉高木のリュウキュウマメガキ(*D. japonica* Sieb. et Zucc.)、伊豆半島以西に分布する常緑小高木のトキワガキ(*D. morrisiana* Hance)、奄美大島以南に分布する常緑高木のリュウキュウガキ(*D. maritima* Blume.)、沖縄に分布する常緑小高木のリュウキュウコクタン(*D. ferrea* (Willd.) Bakh. var. *buxifolia* (Rottb.) Bakh.)がある。1号竪穴状遺構の炉から検出されたカキノキ属は、

分布を考慮すると栽培種のカキノキかマメガキのいずれかと考えられる。

・オオムギ(*Hordeum vulgare* L.) イネ科オオムギ属

胚乳が検出された。炭化しており黒色、長さ5.63-6.71mm、径3-3.5mm程度のやや扁平な紡錘状長楕円体(計測値を表に示した)。胚乳両端は尖る。腹面は正中線上にやや太く深い縦溝があり、背面は基部正中線上に胚の痕跡があり丸く窪む。表面はやや平滑。

4. 考察

52区1号竪穴状遺構の1・2号炉からは、栽培種の可能性があるカキノキ属(カキノキまたはマメガキ)の種子と栽培種のオオムギの胚乳が検出された。これらは可食種実であることや、いずれも炭化した状態で検出されたことから、当該期における栽培や植物質食糧としての利用や、火を受け炭化したことによって残存した状況が指摘される。

本遺跡周辺での栽培植物の検出例では、天明三年の浅間山噴火による埋没家屋からオオムギが多量出土したとされている(児玉, 1982)ほか、上郷岡原遺跡(東吾妻町)の泥流下の2号建物からカキノキの莢が1個確認され、供伴した多量のモモと共に栽培の可能性が指摘されている(新山, 2007)。

III. 動物遺存体

1. 試料

試料は、52区1号竪穴状遺構の炉(炉ナベ内)・2号炉から出土した骨片である。いずれの試料も、微細な骨片類が複数認められる。

表110 骨同定結果

試料		試料		分類群	部位	部分	数量	被熱	
地区	遺構	位置	日付						
52区	1号竪穴状遺構	炉	07.10.2	鳥類	末節骨	遠位端欠	1	○	
					不明	不明	破片	15+	○
					中型獸類	四肢骨	破片	2	○
		炉ナベ内	07.9.12	不明	不明	破片	0.49g	○	
			07.9.20	不明	不明	破片	0.31g	○	
			07.9	不明	不明	破片	0.12g	○	
			07.10.9	鳥類/小型獸類	四肢骨	破片	1	○	
		不明	不明	破片	17+	○			

2.分析方法

試料を肉眼およびルーペで観察し、その形態的特徴から、種と部位の同定を行う。

3.結果

結果を表110に示す。検出された骨は、いずれも微細で白色を呈しており、焼骨の特徴を示す。大半が種類・部位不明の破片であった。以下に、同定結果を示す。

・1号竪穴状遺構 炉(07.10.2)

鳥類の末節骨が検出される。残存長約0.3cmで、遠位端が欠損しており、種類の同定には至らない。この他に、微細で種類の同定が不可能な骨片が15片以上認められる。

・1号竪穴状遺構 炉ナベ内(07.9.12)

中型獣類の四肢骨片が2点確認される。いずれも幅が約0.5cmで、残存長は約0.6cmと約0.8cmである。いずれも小片で両端が欠損しており、保存状態も悪いために種類の同定には至らない。この他、微細で種類の同定が不可能な骨片が30片以上(0.49g)認められる。

・1号竪穴状遺構 炉ナベ内(07.9.20)

骨片が25片以上(0.31g)認められるが、いずれも微細骨片で、種類・部位の同定可能な骨片は認められない。

・1号竪穴状遺構 炉ナベ内(07.9)

骨片が約20片(0.12g)認められるが、いずれも微細骨片で、種類・部位の同定可能な骨片は認められない。

・1号竪穴状遺構 2号炉(07.10.9)

鳥類あるいは小型獣類の四肢骨片が1点確認される。残存長約1cmであるが、両端が欠損しており種類の同定には至らない。この他、微細で種類の同定が不可能な骨片が17片以上認められる。

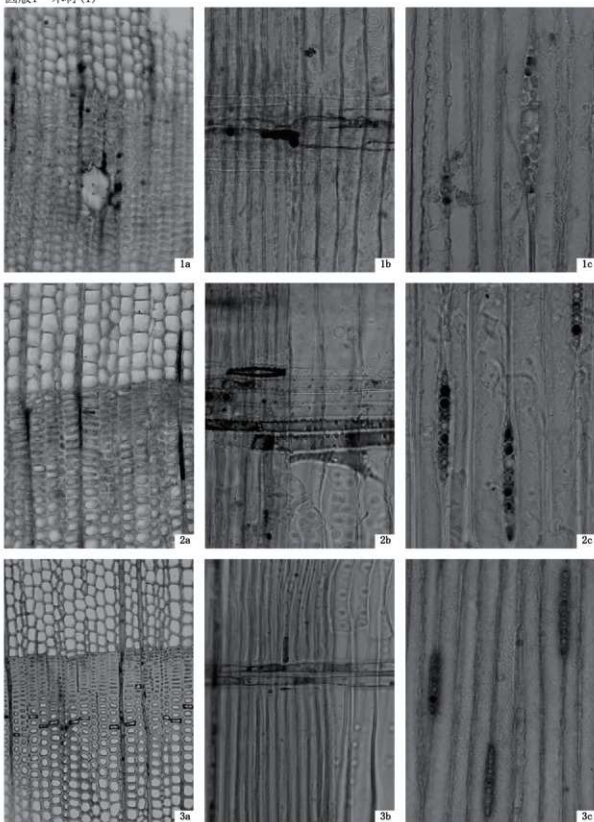
4.考察

1号竪穴状遺構の炉(炉ナベ内)から出土した骨片は、いずれも焼骨の特徴が認められた。骨片の多くが微細骨片であり種類の特定には至らなかったが、鳥類の末節骨、鳥類/小型獣類の四肢骨、中型獣類の四肢骨が確認され、少なくとも鳥類と小〜中型獣類の利用が推定される。また、骨片の出土状況を考慮すると、利用後の残渣をがんに廃棄したことなども推定される。

引用文献

林 昭三,1991,日本産木材 顕微鏡写真集,京都大学木質科学研究所。
 石川茂雄,1994,原色日本植物種子写真図鑑,石川茂雄図鑑刊行委員会,328p。
 伊東隆夫,1995,日本産広葉樹材の解剖学的記載I.木材研究・資料,31,京都大学木質科学研究所,81-181。
 伊東隆夫,1996,日本産広葉樹材の解剖学的記載II.木材研究・資料,32,京都大学木質科学研究所,66-176。
 伊東隆夫,1997,日本産広葉樹材の解剖学的記載III.木材研究・資料,33,京都大学木質科学研究所,83-201。
 伊東隆夫,1998,日本産広葉樹材の解剖学的記載IV.木材研究・資料,34,京都大学木質科学研究所,30-166。
 伊東隆夫,1999,日本産広葉樹材の解剖学的記載V.木材研究・資料,35,京都大学木質科学研究所,47-216。
 児玉幸多(編),1982,天明3年(1783年)浅間山大噴火による埋没村落(謙原村)の発掘調査,昭和56年度科学研究費補助金(総合研究A)研究成果報告書,学習院大学。
 中山至大・井之口香秀・南谷志志,2000,日本植物種子図鑑,東北大学出版会,642p。
 新山雅宏,2007,種実同定分析,「上郷岡原遺跡(1)―第4分冊:自然科学分析編―」,(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第410集,八ツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第16集,財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団29-40。
 Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.(編),2006,針葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト,伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部 久・内海泰弘(日本語版監修),海青社,70p。
 [Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.(2004) IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification] 。
 島地 謙・伊東隆夫,1982,図説木材組織,地球社,176p。
 Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.(編),1998,広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト,伊東隆夫・藤井智之・佐伯 浩(日本語版監修),海青社,122p。[Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.(1989) IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification] 。

図版1 木材(1)



1. マツ属複維管束亜属(実-1;W-1)

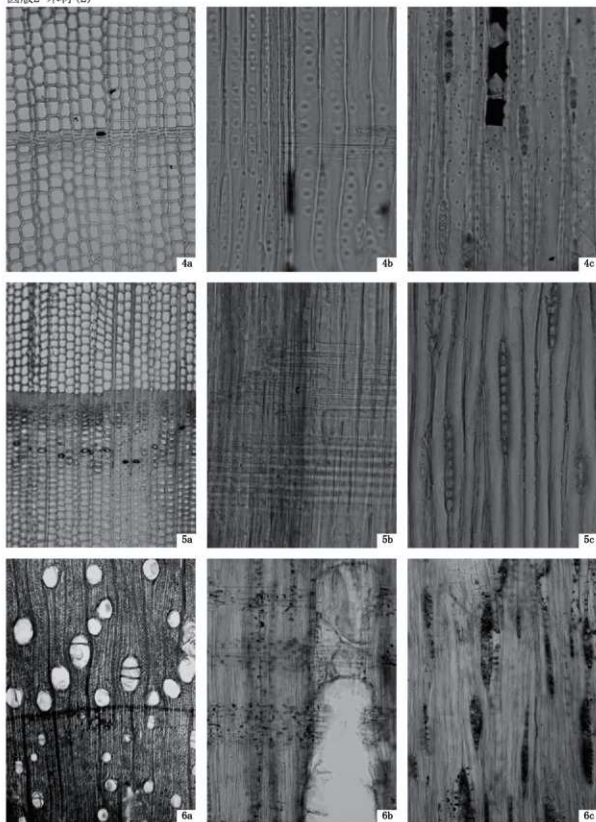
2. モミ属(実-17;W-18)

3. スギ(実-32;W-36)

a:木口, b板目, c:板目

200 μ m: a
100 μ m: b, c

図版2 木材(2)



4. ヒノキ(実-39;W-45)
 5. ヒノキ科(実-35;W-39)
 6. オニグルミ(叢-6;W-44)
 a:木口, b:柎目, c:板目

300 μ m: 6a
 200 μ m: 4-5a, 6b, c
 100 μ m: 4-5b, c

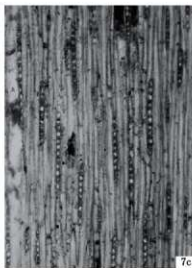
図版3 木材(3)



7a



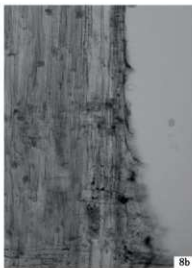
7b



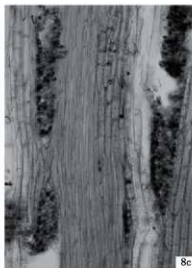
7c



8a



8b



8c



9a



9b



9c

7. クリ(実-4;W-4)

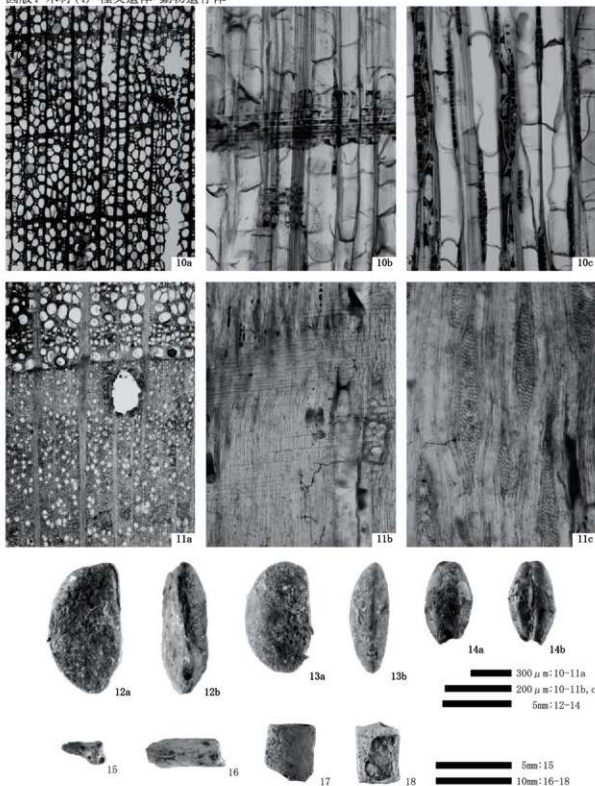
8. ケヤキ(実-41;W-47)

9. ヤマグワ(実-42;W-48)

a:木口,b:縦目,c:板目

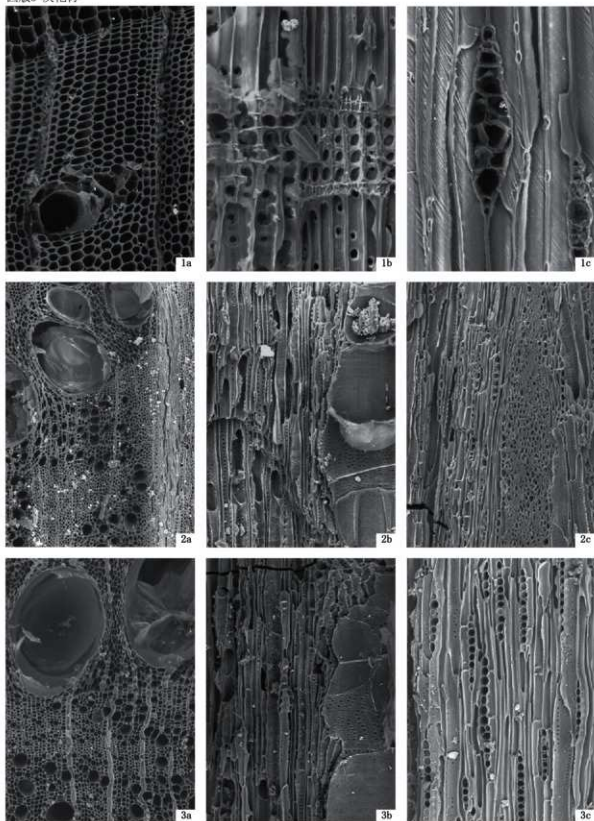
300 μ m:a
200 μ m:b,c

図版4 木材(4)・種実遺体・動物遺存体



10. カツラ(実-28;W-31)
 11. サクラ属スモモ亜属(参-2;W-29)
 a:木口, b:柃目, c:板目
 12. カキノキ属 種子(1号堅穴状遺構;2号炉)
 13. カキノキ属 種子(1号堅穴状遺構;炉)
 14. オオムギ 胚乳(1号堅穴状遺構;炉)
 15. 鳥類 末節骨(1号堅穴状遺構;炉07, 10, 2)
 16. 鳥類/小型獣類 四肢骨(1号堅穴状遺構;2号炉07, 10, 9)
 17. 中型獣類 四肢骨(1号堅穴状遺構;炉ナベ内07, 9, 12)
 18. 中型獣類 四肢骨(1号堅穴状遺構;炉ナベ内07, 9, 12)

図版5 炭化材



1. マツ属複雑管束亜属(39号土坑)
 2. コナラ属コナラ亜属コナラ節(1号整穴状遺構;No.16)
 3. クリ(36号土坑)
- a:木口, b:柀目, c:板目

200 μ m: 2-3a
 200 μ m: 1a, 2-3b, c
 100 μ m: 1b, c

第7節 調査の総括

第1項 まとめ

本報告書で報告する林中原1遺跡で調査された遺構は、縄文時代の住居や土坑、中世の林城と掘立柱建物、近世の掘立柱建物や土坑・墓坑等である。

縄文時代は、前期の住居が4軒、中期の住居が1軒と竪穴遺構が1軒調査されている。長野原町では縄文時代前期の遺跡は少ないが、時間幅をもって中期まで断続するようである。

林城の調査では堀・石垣・池・土坑と多くの掘立柱建物、近世の土坑と多くの掘立柱建物や墓坑等が調査されている。発掘の結果、林城は段丘面先端部の地形を巧みに利用し、水場の確保と防御の機能を備えた城であることがわかった。城が使われなくなった江戸時代以降になると、城の中心部は大きな土取場となり、大きく攪乱されている。その一角には馬がままとまって捨てられていた。集落の中でそのような場所として認識されていたようである。

第2項 林城第3区画の建物と変遷

(1) 建物の分類と時期

第3区画では掘立柱建物(以下、建物)は7棟検出された。ピットの総数は209基であり、このうち建物・柱穴列の柱穴と認定したのは412基で、全体の68%にあたる。大部分が建物として復原できたことになり、建物自体の妥当性も比例して高いものとする。

建物は主軸方位の違いにより、1～3類の3つに分類できる。分類は真北方向に対して、主軸方位または直交する方位が、西へ傾く方向に比例する順位となっている。

表112に分類順に計測値を示したが、数値としては1類

表111 掘立柱建物新旧表

第3区画	1建	p 8	不明	4建	p 2 4
	2建	p 3	不明	4建	p 3
	2建	p 1 0	→	1 0 土	
	4建	p 1 9	→	2建	p 1 6
	5建	p 2	→	4建	p 1 2
	5建	p 1 8	不明	2建	p 3
	5建	p 1 8	→	6 土	
	1 7 土		→	4建	p 1 6

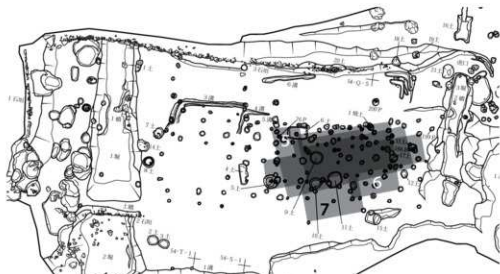
表112 屋敷建物総括表

棟別	3類			2類			1類			*変遷順	
	計	比率		計	比率		計	比率			
東西棟	3	1	3	7	100.0%						
計	3	1	3	7							
規模	3類			2類			1類			計	比率
1×2間				1	1	14%					
2×4間	1						1	1	14%		
2×5間	1						1	2	29%		
1×6間	1						1	1	14%		
2×6間			1				1	1	14%		
2×8間							1	1	14%		
計	3	1	3	7							
面積㎡	3類			2類			1類			計	比率
～10				1	1	14%					
30～40	1						1	1	14%		
～50	2	1	1	4	57%						
90～100				1	1	14%					
計	3	1	3	7							
桁行平均柱間(尺)	3類			2類			1類			計	比率
～6.2	1						1	1	17%		
～6.7							1	1	17%		
～7.2	2			1	3	50%					
～7.7			1	1	17%						
計	3	1	2	6							

表113 第3区画建物計測表

NO	種別	主軸方位	面積㎡	桁行(平均)	桁行平均柱間	寸尺	梁間(平均)	規格	下屋など
1	1	N-83～85°-E	99.89	17.43	2.179	7.2	4.78	2×8間・東西棟	北・南張出
2	1	N-84～85°-E	46.00	9.91	1.982	6.5	4.53	2×5間・東西棟	
3	1	N-86°-E	9.83	4.28			2.31	1×2間・東西棟	
4	2	N-80～81°-E	43.03	13.68	2.28	7.5	2.83	2×6間・東西棟	北張出
5	3	N-68～70°-E	40.96	10.32	2.064	6.8	3.53	2×5間・東西棟	北張出
6	3	N-75～(78)°-E	34.83	7.38	1.845	6.1	3.74	2×4間・東西棟	南張出
7	3	N-71～72°-E	49.21	12.73	2.122	7.0	2.32	1×6間・東西棟	北・南張出

3類



2類



1類



第328図 第3区画建物変遷案

が西へ4度から7度まで傾く数値幅の3棟。2類は西へ9度から10度傾く数値幅の1棟。3類は西へ15度から22度傾く数値幅の3棟である。3類はやや数値幅があるが、数量が少なく形態も似るため一括した。

建物は柱穴同士の新旧関係により、3棟の関係が判明している。詳細は表111のとおりで、5号建物→4号建物→2号建物の順で、建てられている。分類で言えば、3類→2類→1類の順である。配置は第328図のとおりである。

柱穴からの出土遺物では、1類の1号建物から美濃窯系徳利(登窯5か6:18世紀第1・2四半期)、2類の4号建物から美濃窯系丸碗(登窯5:18世紀第1四半期)がある。3類の6号建物の場合、中世の中国青磁端反碗も出土するが、非掲載遺物に近世陶磁器(時期不確定)がある。新旧関係から3類建物群が最古段階となるため、18世紀以前であり、上限は17世紀である。

以上により、第3区画で検出された建物7棟は全て江戸時代中期以前の建物で、一部に17世紀代に遡る可能性があることが判明した。

(2) 建物の特徴

建物の計測値を表113のとおり項目ごとに集計した。主軸方位は全て東西棟である。規模は大きいものも多く、最小となる1類3号建物は2号建物に附属する建物とみなされる。面積も同様である。桁行平均柱間は7尺前後が多いが、全体に数値は多様である。

建物の平面形態は全体に細長い傾向にある。2・3類は顕著である。1類段階では、建物の間仕切りが多くなる。2・3号建物の敷地は整地されており、2号建物の北西角には4号溝、3号建物の北から西側にかけては3号溝がめぐる。雨落ち溝を兼ねた排水溝として機能していたと考えられる。3号溝の西側に並行して1号柱穴列が北側斜面まで延びて、敷地を囲んでいる。この関係を参考にすれば、4号建物に対して6号溝も排水機能を想定することができる。

第3区画と建物の主軸方位との関係を見ると、1類段階の建物は3号石垣によって北側を区画された敷地に一致している。ただし、3号石垣は掘り方から出土した遺物によって、19世紀第1四半期以降に積まれたことが判明している。

2類の建物は区画の東側に偏った位置にあり、主軸方位も若干西に傾いて異なる。ただし、西壁面は北側斜面まで崩壊に延びており、斜面際まで使用されていたことがわかる。東辺は3号堀に近く、堀の北側にある通路が狭く、通行に無理がある。3号堀はすでに埋まっていたことも想定される。

3類段階の建物は、2類より更に主軸方位が西に傾き、敷地とのズレが著しい。

2・3類の建物状況から、区画の北辺はもう少し方位が西へ傾き、北側斜面自体が南側へ若干せり出していた可能性が高くなる。3類建物の北辺を西方に延長した線上近くに、1・2号堀の土橋がある。中世における区画内の状況は不明だが、土橋の位置は元来区画の中軸線上にあった可能性も出てこよう。

(3) 第3区画の変遷

第3区画を林城内で規定するのは、西側を区画する1・2号堀や、東側を区画する3号堀と1・2号池の存在、更には北側調査区域外に広がる一段高い区画と考えられる。1号堀では覆土上面から18世紀前半代肥前系の染付碗が出土している。3号堀では15世紀代を下限とする中国白磁・青磁が1点ずつ出土するが、最上層で寛永通宝も出土する。1号池では15世紀代の古瀬戸窯系陶器がやや多く出土し、南面の第5区画では、13世紀後半から15世紀前半までの中国陶磁器がややまとまって出土する。1・2号池を取り巻く周辺が、中世段階で広く機能していたことは間違いない。したがって、第3区画も同じ環境にあったと言える。その場合、1・2号堀の遮断機能は群を抜いており、第1・2区画を囲む意識の高さを示している。区画施設で大きく変化するのも、この1・2号堀である。

1号堀には1号橋があり、5m南に位置する土橋及び2号石垣は後出と考えるのが妥当であろう。土層観察の結果、土橋が機能していた段階で、1号堀は埋没していないことも確認できている。土橋も出土遺物がなく正確な年代は不明である。しかし、堀が機能している段階は、林城が機能していた段階とするのが理解しやすい。

では、1号堀はいった埋められたのだろうか。3号石垣は1号堀埋没後に積まれている。しかも、最下部の石を据える際、上面をならしたり、整地したりした痕跡はな

い。堀は埋めることに注意が払われ、埋没後の表面は意識していない。したがって、堀の埋没と石垣の積み上げの間には時間差が存在している。3号石垣の成立は、掘り方の出土遺物から19世紀第1四半期以降である。

ところで、1号堀の周辺には土坑が点在している。第3区画では14号土坑が1号堀埋没後に作られ、19世紀第2四半期の瀬戸窯系系統を伴っている。また、桶を埋設した土坑として、1号堀に接して8号土坑があり、17世紀後半から18世紀の肥前系陶器皿が出土している。この時期は1類建物の時期と一致する。1号堀を挟んだ第1区画側にも幅約5mの細長い平場があり、土坑が密集している。第1区画4号土坑(以下、1-と略す)も桶を埋設した土坑であり、18世紀第2四半期の瀬戸窯系すり鉢が出土する。建物の存在と桶を埋設した土坑の分布を考慮すれば、1号堀は既に埋められ、敷地は一体として使われていたと考えた方が妥当であろう。また、1-16号土坑では17世紀代の瀬戸窯系すり鉢が出土する。1号堀と直接重複しないが、埋没後である可能性は高いだろう。

第1区画では、このほか土取りをした穴とみられる土坑が多く存在する。中でも1-1・27号土坑では18世紀第2四半期、1-3号土坑では同第3・4四半期の遺物が出土している。こうした状況の末、第1区画画面の崩落を防ぐため、1号石垣が成立する。時期は掘り方から出土した登窯第11小期瀬戸窯系片口鉢(非掲載)から、19世紀第3・4四半期以降であることがわかり、3号石垣よりも新しく想定できる。

(4) 総括

検討の結果、本区画で検出された建物はすべて江戸時代前期～中期であり、1号堀もその頃は埋められ、一体の敷地として使用されていたことが判明した。この敷地を区画する1・3号石垣は更に新しく19世紀代となった。一方、土橋及び2号石垣は出土遺物もなく、正確な時期は不明となったが、施工形態は1・3号石垣とは異なっている。1号堀の埋没が17世紀代とすれば、それ以前であることは確実である。林域に関連する中世遺物は、確実に15世紀後半以降となるものはみられないため、この頃を下限と考えて良いだろう。

第3区画の全体形態は、近世の屋敷2類～1類段階で北側の斜面西側が北側へ削り込まれていた。中世の全体

形態は、主軸方位が西へ傾き、6号溝の走向方位に近かったと言える。したがって、北側壁面の延長線上に1号堀に架かる1号橋が位置し、西端の虎口と直線的につながる様相となる。第3区画の北端に直線的な通路があったと言える。しかも、1号橋が変わって、土橋が1号堀南端に造られたことにより、通路は南へ折れることになった。土橋の構築には、第3区画内の通行を抑制する機能が付加されていたことになる。調査では明確にできなかったが、通路の折れに対応する扉や柵などの遮断施設があったことも想定される。

林域における第3区画の位置として重要な点は、東に隣接して1・2号池という水場施設があることである。この部分が城郭用語における、いわゆる「水の手」であったため、通路が確保されたとも言える。1号池と2号池中間の掘り込み(旧4号堀)から2号堀を結ぶ通路は、通路を狭めて通行を抑制する機能を持つ。一方、1号池と2号池中間の掘り込み(旧4号堀)が2号池へ接続しないことで、水みちを断たない配慮もうかがえる。3号堀が短く、北側へ延びない点も同様であろう。調査範囲が狭く状況が不明となった第5区画も、1号池と2号池中間の掘り込み(旧4号堀)西側の北側城域から1・2号池へつながる機能を備えている。城内における「水の手」は通例奥まった位置にある。林域では第7区画で大型の建物が発見されており、北側に居住域が広がっていたことが想定される。

林域における正面観(大手筋)を考えると、北側であることはほぼ間違いない。城郭形態としても段丘崖を利用した崖端域の分類に含まれる。北側を東西方向に区画する6号堀の延長部は不明だが、これにより区画される領域が第1区画の北側に広がるのが想定できる。通例、この区画と正面通路が関わるのが想像される。一方、第1区画および第2区画の南方斜面には、崖下へ下る通路が確認できる。これを裏手への通路(搦め手)と見なすことも可能であろう。

第3項 中近世屋敷(52・53区)の

掘立柱建物の検討

(1) 建物の分類

中近世屋敷の内部で、掘立柱建物(以下、建物)は52区で33棟、53区で4棟、計37棟を認定できた。建物の柱穴として認定できたピットが429基であり、内部の全ピット842基の51%を占める。このため、建物は概ね屋敷の傾向を示すと考えて良いだろう。

建物は主軸方位(側柱両辺で計測)の違いにより、A～E類の5つに分類できた。しかし、数値は僅差であり、建物の数量が本事例のように多くなければ、通例分類しない数値の違いである。したがって、大枠では妥当と考

えるが、小規模な建物ほど不確かで不安定な分類となっている。本建物群の限界と言える。

分類は真北方向に対して、主軸方位またはその直交する方位が、西へ傾く方向に比例する方位となっている。表114に分類順に計測値を示したが、数値としてはA類が真北から西へ3度まで傾く数値幅の3棟。B類は重複や相互の位置関係を考慮して2つの群に分けた(以下同じ)が、同じく西へ4度から6度まで傾く数値幅の10棟。C類は同じく西へ6度から8度傾く数値幅の6棟。D類は3つの群に分かれ、同じく西へ8度から10度傾く数値幅の11棟。E類は2つの群に分かれ、同じく西へ10度から14度傾く数値幅の7棟である。

表114 52・53区掘立柱建物一覧表

52区

NO	種別	主軸方位	面積㎡	桁行1	桁行2	桁行(平均)	桁行平均柱間	寸尺	梁間1	梁間2	梁間(平均)	梁間平均柱間	寸尺	規格
26	A	N-87°-E	26.55	6.74	6.67	6.71	2.237	7.4	3.95	4.00	3.98			1×3間・東西棟
27	A	N-0°	64.77	10.20	10.22	10.21	2.042	6.7	4.95	4.85	4.90			1×3間・東西棟
2	B	N-85°-E	68.81	12.65	12.30	12.48	2.08	6.9	3.99	3.95	3.97			2×6間・東西棟
3	B	N-4°-W	52.82	8.74		8.74	2.185	7.2	7.78		7.78	1.95	6.4	4×4間・L字棟
5	B	N-4~6°-W	28.16	4.30以上	6.48	6.48	2.16	7.1	4.48		4.48			2×3間・南北棟
10	B	N-3~6°-W	9.38以上	3.74以上			1.84以上	1.94以上						2×1以上間・南北棟
11	B	N-4~5°-W	22.18	5.69	5.69	5.69	1.897	6.3	3.93	3.84	3.89			2×3間・南北棟・総柱
12	B	N-86°-E	35.77	7.47	7.55	7.51	1.878	6.2	4.79	4.82	4.81			1×4間・東西棟
31	B	N-85~(87°)-E	32.40	6.90	6.94	6.92	2.307	7.6	4.60	4.80	4.70			1×3間・東西棟
1	C	N-82~83°-E	38.30	10.48	10.20	10.34	2.585	8.5	3.50	3.78	3.64			2×4間・東西棟
4	C	N-6~8°-W	12.78以上	3.54以上	3.54以上			3.04		3.04				1×2以上間・南北棟
6	C	N-82~84°-E	35.86	7.33	7.50	7.42	1.855	6.1	4.72	5.05	4.89			1×4間・東西棟
7	C	N-82~84°-E	15.93	4.24	4.25	4.25		3.75	3.86	3.81				1×2間・方形
8	C	N-6~9°-W	29.97	6.26	6.06	6.16	2.053	6.8	4.68	5.06	4.87			2×3間・南北棟
15	C	N-82~83°-E	8.02	3.53	3.58	3.56		1.74	1.76	1.75				1×3間・東西棟
14	D	N-80~82°-E	74.70	13.37	13.06	13.22	2.203	7.3	4.37	4.82	4.60			1×3間・東西棟
19	D	N-81~(83°)-E	9.55	3.98	4.30	4.14		2.42	2.29	2.36				1×3間・東西棟
13	D	N-80~81°-E	31.93	6.55	4.69以上	6.55	2.183	7.2	2.12以上	4.43	4.43			2×3間・東西棟
23	D	N-10°-W	34.03	6.76	7.03	6.90	2.3	7.6	4.58	4.54	4.56			2×3間・南北棟
18	D	N-10°-W	20.91以上	5.12		5.12	1.707	5.6	3.75	3.74	3.75			2×3間・南北棟
28	D	N-80~(83°)-E	8.03	3.10	3.08	3.09		2.66	2.54	2.60				1×2間
30	D	N-10°-W	22.36	4.88	4.85	4.87	1.623	5.4	4.44	4.77	4.61			2×3間・正方形
9	D	N-7°-W	32.31	9.06	8.97	9.02	2.255	7.4	3.62	3.75	3.69			1×4間・南北棟
16	D	N-80~81°-E	56.14	10.60	10.58	10.59	1.118	7.0	3.55	3.69	3.62			1×5間・南北棟
17	D	N-8~9°-W	39.20	8.69	9.04	8.87	2.218	7.3	4.40	4.50	4.45			1×4間・南北棟
32	D	N-82°-E	32.93	6.40	6.31	6.36	2.12	7.0	3.50	3.40	3.45			1×3間・東西棟
20	E	N-12~14°-W	20.02	5.73	5.42	5.58	1.86	6.1	3.50	3.70	3.60			2×3間・南北棟
21	E	N-78~80°-E	34.50	7.17	2.47以上	7.17	2.39	7.9	2.26以上					2×3間・東西棟
24	E	N-78~79°-E	27.14	7.58	7.34	7.46	1.865	6.2	3.74	3.66	3.70			2×4間・東西棟
29	E	N-73~77°-E	28.35	8.40	8.50	8.45	2.113	7.0	3.54	3.20	3.37			1×4間・東西棟
22	E	N-76~77°-E	53.63	8.52	8.52	8.52	2.13	7.0	4.34	4.46	4.40			1×4間・東西棟
25	E	N-11°-W	49.22	8.46	8.46	2.115	7.0	7.96	7.96	1.99	6.6			4×4間・L字棟
33	E	N-10~14°-W	10.30	4.54	4.60	4.57		2.20	2.34	2.27				1×2間・南北棟

53区

NO	種別	主軸方位	面積㎡	桁行1	桁行2	桁行(平均)	桁行平均柱間	寸尺	梁間1	梁間2	梁間(平均)	梁間平均柱間	寸尺	規格
1	A	N-87~89°-E	32.13	6.50	6.64	6.57	2.19	7.2	4.50	4.80	4.65			2×3間・東西棟
5	B	N-2~4°-E	12.62	3.61	3.70	3.66		3.50	3.42	3.46				1×2間・正方形
6	B	N-85~86°-E	24.69	6.36	6.40	6.38	2.127	7.0	3.85	3.90	3.88			1×3間・東西棟
7	B	N-84~85°-E	54.38	11.76	11.80	11.78	2.356	7.8	4.76	4.50	4.63			1×5間・東西棟

(2) 建物の新旧関係と変遷

表115に52区建物の柱穴同士の新旧関係をまとめた。これらは断面観察で確定したものであり、信頼性が高く最も優先される。したがって、この順位に逆らう変遷は成立しない。なお、観察面が有効でなく、不明となったものも合わせて掲載した。

この新旧関係をもとに、建物分類別に図化したのが第329図である。新旧関係の連鎖は3通りに分かれてしまい、一筋の変遷図としてはまとめられなかった。そこで、実際に建物構成を比較しながら、矛盾しないように並べたのが、第330図である。変遷を方向付けするのは、主屋の存在である。A類の27号建物、E2群の22号建物、D1群の14号建物、B1群の2号建物の4棟は、同じ敷地に繰り返し建てられた同規模の建物である。変遷として連続するはずである。しかも、B2類の31号建物も規模は小さいが、同じ系統に結びつく。この系統の主屋はB1類が最後となる。A類とE2類の前後は不明確である。

D2・D3類の順位は、D2類13号建物とE1類21号建物の連続性により決めた。D3類は4棟が重複して4時期となる。D1・D2類を加えても、この重複関係は変わらないため、D類は小規模ながら6時期程度が存在することとなる。D2類とした建物のうち、13・18号建物以外は附属屋であり、D1・D3類と並存する余地も残っている。

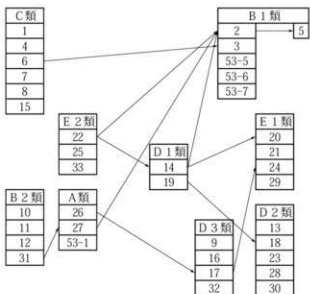
これに出土遺物の情報を加える。中世遺物はE2類25号建物柱穴から古瀬戸平碗(後IV古段階)が出土する。15世紀中頃に比定され、変遷時期の参考となる。近世遺物ではB1類53-7号建物(53区のみ53を付ける)柱穴から近世の瀬戸・美濃陶器、D3類16号建物柱穴から近世の地方窯陶器、D2類18号建物柱穴から瀬戸・美濃陶器天目茶碗(登窯1～2期：17世紀第1・2四半期)、E1類24号建物柱穴から近世の肥前系陶器が出土する。これら5棟はほぼ同じ地点に重複しており、建物の変遷と一致している。したがって、E2類25号建物の遺物は年代的に開きがあるので、検討が必要である。ただし、屋敷周辺の遺構外出土遺物で、古瀬戸前期～後期段階の天目茶碗、盤類、瓶類、梅瓶、壺が出土しており、25号建物が15世紀代であったとしても違和感はない。

以上の検討により、分類から導いた変遷は、時期区分

と読み替えて良いと考える。最終段階は概ね17世紀代となると考える。

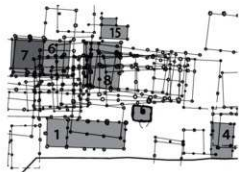
表115 掘立柱建物新旧表

5 2 区	2建	P 2 3	→	5建	P 7
	3建	P 4	不明	1 8建	P 4
	6建	P 1	→	3建	P 8
	6建	P 2	→	3建	P 9
	6建	P 3	→	3建	P 10
	9建	P 2	不明	2 4建	P 5
	9建	P 5	不明	2 6建	P 2
	1 4建	P 1	→	2 0建	P 1
	1 4建	P 4	→	2建	P 2
	1 4建	P 5	→	2建	P 3
	1 4建	P 6	→	2建	P 4
	1 4建	P 7	→	5 5土	
	1 4建	P 1 1	不明	2建	P 1 2
	1 4建	P 1 9	→	2建	P 1 8
	1 4建	P 2 0	→	2建	P 1 9
	1 7建	P 3	→	2 4建	P 7
	1 8建	P 1 2	不明	3 2建	P 8
	1 9建	P 3	→	1 8建	P 7
	1 9建	P 4	→	1 8建	P 6
	2 2建	P 1 2	→	2建	P 1 9
	2 2建	P 1	→	4 7土	
	2 2建	P 1 1	→	1 4建	P 1 8
	2 6建	P 1	→	1 7建	P 4
	2 7建	P 1	→	2建	P 1 7
	3 1建	P 1	→	2 7建	P 2
	3 1建	P 8	→	2 7建	P 1 0

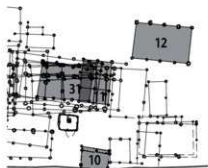


第329図 建物新旧関係図

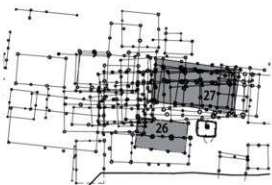
C類



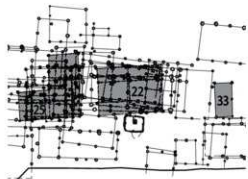
B 2類



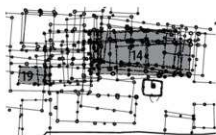
A類



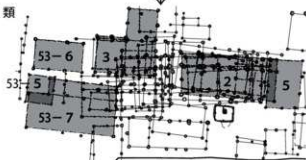
E 2類



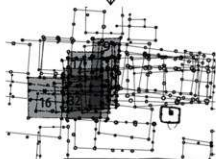
D 1類



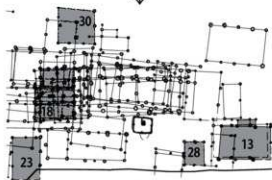
B 1類



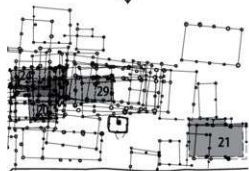
D 3類



D 2類



E 1類



第330圖 中世屋敷建物変遷案

(3) 建物の全体的な傾向

これまでの変遷案をもとに、屋敷内の建物構成を検討する。表116は項目ごとに集計したものである(変遷順)。建物の主軸方位では、東西棟が半数以上で、次いで南北棟が約3割を占める。主屋は概ね東西棟であるためである。各分類もD2類を除き、同じ構成である。

規模では、A類からD3類までのうち、E2類を除く

4時期で桁行5間を越え、更にD1・B1類では主屋が桁行6間となる。面積も同様な傾向を示す。

桁行平均柱間もまた同様な傾向がある。A類からD3類の間は、8尺を越える突飛な例を除けば、概ね7尺前後の数値で占められる。言い換えれば、C・B2・D2・E1類段階は、小規模な建物で煩雑に構成されることにより、桁行平均柱間も不揃いな傾向が読み取れる。

表116 屋敷建物総括表

棟別	C類	B2類	A類	E2類	D1類	B1類	D3類	D2類	E1類	計	比率
東西棟	3	2	3	1	2	3	2	1	3	20	54.1%
南北棟	2	2		1		1	2	3	1	12	32.4%
L字形				1		1				2	5.4%
正方形・方形	1					1		1		3	8.1%
計	6	4	3	3	2	6	4	5	4	37	
規模	C類	B2類	A類	E2類	D1類	B1類	D3類	D2類	E1類	計	比率
1×2間	2			1	1	1		1		4	11%
1×3間		1	1			1	1			4	11%
2×3間	1	1	1			1		4	2	9	26%
1×4間	1	1		1			2		1	5	14%
2×4間	1								1	1	3%
4×4間				1		1				2	6%
1×5間			1			1	1			3	9%
1×6間					1					1	3%
2×6間						1				1	3%
計	5	3	3	3	2	6	4	5	4	35	
面積㎡	C類	B2類	A類	E2類	D1類	B1類	D3類	D2類	E1類	計	比率
～10	1				1			1		2	6%
～20	1			1		1				2	6%
～30	1	1	1			2		2	3	9	26%
～40	2	2	1				3	2	1	9	26%
～50				1						1	3%
～60				1		2	1			4	11%
～70			1			1				2	6%
～80					1					1	3%
計	5	3	3	3	2	6	4	5	4	35	
桁行平均柱間 (尺)	C類	B2類	A類	E2類	D1類	B1類	D3類	D2類	E1類	計	比率
～5.8								2		2	7%
～6.3	1	2							2	4	14%
～6.8	1		1							1	3%
～7.3			1	2	1	4	3	1	1	13	45%
～7.8		1	1				1	1		4	14%
～8.3						1			1	2	7%
～8.8	1									1	3%
計	3	3	3	2	1	5	4	4	4	29	

(4) 各時期の様相

C類段階は重複を除き5棟程度で構成され、6号建物が主屋である。1号建物は内部に1号落ち込みがあり、厩屋の可能性が高い。1号竪穴状遺構は主軸方位から、この時期に伴う可能性が高い。建物はコの字形に配置され、正面を西側と考えると、1号竪穴状遺構は裏手となる。床面に置かれた紙の存在から、漆との関係を想定して作業空間と考えれば、位置として相応しい。

B2類段階は、2棟程度で構成される。31号建物はA類以降の主屋と敷地が一致して、連続性がある。重複する11号建物が前出とするのが妥当だろう。この場合、主屋は12号建物となるか。この位置は以後、建物敷地として使われていない。

A類段階は、27号建物が主屋である。桁行5間の東西棟が出現して画期となる。屋敷の北西端に53-1号建物が離れて存在する。この位置はその後建物敷地として使われていない。B2類から本時期は屋敷の北側を使う傾向で一致する。

E2類段階は、前段階から継続する位置に、主屋の22号建物がある。西側にL字形で大規模な25号建物もあり、南辺が一致して並存した可能性が高い。

D1類段階も、B2段階以降から継続する位置に、主屋の14号建物がある。この建物は、本屋敷で最大規模を持つ。なお、D2類とした建物のうち、周辺に点在する13・23・28・30号建物は、本時期やD3類と組み合わせることも可能である。

B1類段階は重複が2棟あり、最低でも2時期が存在する。主屋はB2段階以降から継続する位置に、2号建物がある。西側にL字形で大規模な3号建物もE2類の例から、並存としても良いだろう。ところで、本段階では2号建物より後出として5号建物が出現する。B2類段階以降の系統が途切れる点で、大きな画期となる。あわせて、主屋として53-7号建物が出現したと考えると、それ以降の段階で、建物が西側に集まる傾向に合致することとなる。

D3類段階は、4棟が相互に重複している。中でも16号建物は規模の大きな東西棟で、位置は異なるが前段階の2・53-7号建物の系統に含まれる。その点で、当初の建物と考えることもできる。

D2類は南北棟の18号建物を主屋と考えれば、前段階

から継続している。東西棟の13号建物も主屋級の建物であるが、この位置に大きな建物が建つのは初めてとなる。西側の3棟とも間隔が開きすぎており、別の屋敷として分立した可能性も考えられる。

E1類段階でも、建物群が前段階同様、東西に分かれる。東側の21号建物がやや大きいが、西側も同じ程度の建物が3棟重複する。

(5) 総括

本屋敷では、建物変遷から9時期を系統づけた。しかし、各時期で重複もある。それを考慮する必要もあるが、いずれにしても不確実な部分は残るため詳述しない。

大きな流れとして、当初段階のC類では建物の中心は西側に偏在し、西方を正面としてコの字形に建物が配置される。大型の厩屋らしい建物や、紙が出土した作業場風の竪穴状遺構など、やや多様な構成となっていた。

B2類以降、大きな主屋が出現し始め、B1類段階まで5時期にわたって継続される。D3類以降は建物が西側にまとまり、D2類以降は東側に別の建物群が現れる。屋敷が分割された様相を示していた。

存続時期は、C類に1号竪穴状遺構が含まれることから、出土した在地系内耳土器の年代観が採用される。編年作業は検討途上にあるが、とりあえず15-16世紀としておく。B1類以降は近世の遺物が出土するが、時期は不明なものが多い。18号建物から17世紀第1～2四半期の瀬戸・美濃系天目茶碗が出土したため、概ね17世紀代まで存続したものと考えたい。問題はE2類25号建物の年代である。出土遺物から15世紀中頃とすると、近世となるB1類との時代差が大きい。継続するとすれば、大窯段階の遺物が出土しないのも齟齬がある。したがって、E2類からB1類間に断絶が想定される。むしろ、大きな画期はB1類段階中にあったと言えよう。2号建物の位置に選地してきた主屋の系統が途切れ、53-7号建物の位置へ系統が変化する。以下、近世の出土遺物はすべて西側部分で出土する。つまり、B1類段階で1世紀近い断絶期間があったことが想定されることとなる。

表117 ヒット一覧表

単位cm

第1区画							
C→No	T→長径	T→短径	F→長径	F→短径	深さ	形態	備考
1	42	31	24	17	20	六角形	
1	42	30	23	15	20	楕円形	
2	50	41	24	19	33	五角形	
2	50	40	24	20	33	五角形	
3	77	56	62	35.5	17	多角形	
3	76	54	62	34	17	楕丸方形	
4	39	36	15.5	15	62	五角形	
4	39	36	15	15	62	五角形	
5	37	35	26	17	63	不整正円形	1楕-P4
5	36	36	25	21	57	不整正円形	
6	48	38	31	30	55	楕正円形	1楕-P3
6	48	38	30	30	55	楕丸方形	
7	33	31.5	18.5	16	11	五角形	
7	32	32	18	16	11	不整正円形	
7	32	31	18	15	11	不整正円形	
8	27.5	19.5	9	6.5	37	楕正円形	
8	28	19	9	7	37	楕正円形	
9	52	44	36.5	29.5	16	多角形	
9	51	43	36	30	16	五角形	
10							
10	52	33	26	18	24	長方形	
11	27.5	27	13	12	24	不整正円形	
11	26	26	14	12	24	正円形	
12	23	23	12	11	18	不整正円形	
13	28	26	16	13	19	五角形	
14	26	25	11	11	44	楕丸方形	
15	28	15	8	7	24	楕正円形	
16	28	24	14	13	16	五角形	
17	(35)	(24)	(19)	(18)	10	不整正円形	35土坑と重複
18	29	24	15	12	65	楕正円形	
19	27	25	12	12	42	五角形	
20	22	21	10	8	9	不整正円形	
21	43	33	31	26	33	楕正円形	
22	16	16	10	9	12	楕丸方形	
23	14	14	6	4	20	正円形	
24	37	37	21	19	38	楕丸方形	

第2区画							
C→No	T→長径	T→短径	F→長径	F→短径	深さ	形態	備考
1	41	34	19	15	15	楕丸方形	
2	21	19	8	5	29	楕正円形	
3	22	18	9	6	33	楕丸方形	
4	53	40	25	23	23	楕丸方形	

第3区画							
C→No	T→長径	T→短径	F→長径	F→短径	深さ	形態	備考
1	25	23	13.5	13.5	17	楕円形	
2	29	24.5	11	10	26	楕丸方形	
3	24	21.5	14	13.5	12	楕円形	
4	48	40	18	16	49	五角形	
4	48	40	17	15.5	49	五角形	
5	29	25.5	12	11	58	楕丸方形	
6	29	24	21	15.5	34	不整円形	
7	25	22.5	19.5	15	19	正円形	1楕立-28
8	65	54.5	40	23.5	46	不整形	2楕？ 1楕立-18
9	24.5	24	16	14.5	20	五角形	1楕立-26
10	44.5	34.5	30	24	9	不整円形	
11	32	26	21	15	15	五角形	
12	20	20	13	11	43	不整円形	
13	35	34	13	9.5	30	六角形	
14	53.5	49	43	38	36	(不整正円形)	
15	25	21	15.5	12	19	楕円形	
16	35	31	26	21	32	五角形	1楕立-30
17	48	33.5	26.5	23.5	41	不整円形	1楕立-16
18	37	33	26	22.5	23	(楕円形)	
19	29	24	19	17	54	不整円形	1楕立-19
20	23	17	10	9	40	不整円形	
21	40.5	24	29	11	48	楕丸長方形	1柱列-7
22	34	32	23	22	38	正円形	1楕立-29

C→No	T→長径	T→短径	F→長径	F→短径	深さ	形態	備考
23	32	31.5	27	23	38	正円形	1楕立-17
24	27.5	20	16	13	31	六角形	
25	29	27.5	20	16	24	六角形	
26	32	30.5	22.5	16.5	19	五角形	
27	49	39	36.5	25	29	楕円形	4楕立-19
28	39	34	24	21	16	五角形	
29	21	12	11	7	13	楕円形	4楕立-18
30	53	51	20	17.5	68	六角形	2楕立-16
31	36	29	21.5	16	48	五角形	7楕立-1
32	62	54	44	39.5	66	楕丸長方形	1楕立-4
33	47	37	30	21	26	多角形	2楕立-15
34	51	45	44	39	68	多角形	1楕立-5
35	28.5	22	17	12	30	六角形	
36	24	23.5	17	12	17	(正円形)	
37	28.5	22	15	12	97	五角形	6楕立-1
38	73	40	22.5	11	34	不整形	2楕？ 2楕立-1
39	46	41	27	21	27	五角形	4楕立-1
40	37	35	26	—	24	不整円形	4楕立-20
41	42	35	14	13	45	五角形	
41	17	14.5	8.5	7	43	五角形	3楕立-3
42	39	29.5	12	11	77	六角形	4楕立-22
43	33.5	32	12.5	11	39	楕円形	
44	30	21	12.5	8.5	47	不整形	3楕立-2
45	41	35	31	25	67	楕丸長方形	1楕立-2
46	21.5	19	11	11	22	楕円形	3楕立-5
47	32.5	30	21	21	37	六角形	
48	37.5	37	15	13	36	正円形	3楕立-1
49	38.5	30.5	29	19.5	28	五角形	3楕立-6
50	24.5	21	16	11.5	22	楕円形	
51	30	23	23	15	64	楕丸長方形	1楕立-1
52	35	27	15	11	41	楕円形	1柱列-5
53	33	29.5	14.5	11	67	多角形	
54	41.5	21.5	33	20	15	五角形	
55	51	41	31	33	62	楕丸長方形	1楕立-3
56	25.5	23.5	19.5	17.5	17	六角形	
57	35	24.5	18	12	28	五角形	1楕立-23
58	33.5	33	21.5	20	28	五角形	1楕立-21
59	46	32	22.5	17	35	五角形	1楕立-20
60	24	18	14.5	9.5	26	六角形	3楕立-4
61	45	36.5	31	26	21	楕丸長方形	
62	35	27	23	16	13	楕丸長方形	
63	38	35.5	22	20	31	五角形	
64	31	29	14	7	77	(多角形)	2楕立-14
65	28.5	25.5	17	15	19	楕円形	
66	22	17	10	8	55	楕円形	3楕立-13
67	32	31.5	20	16	42	五角形	7楕立-15
68	(50)	(36)	(36)	(19)	33	楕正円形	
68	93	50	—	20	33	楕円形	
69	21	19	19	11	74	楕丸長方形	
69	23	21	16	15	74	三角形	1楕立-9
70	19	19	12	9	55	三角形	
70	18	17.5	14.5	13	55	三角形	1楕立-2
71	47	42	310.	26	75	楕正円形	
71	47	41	31	26	75	不整円形	
72	315	25.5	17	16.5	59	六角形	1柱列-6
73	18	16.5	8.5	8.5	25	不整円形	
74	57	47	44	33	63	六角形	2楕立-12
75	31	29	20	15.5	18	楕丸長方形	
76	50	35	35	27	56	五角形	
76	28.5	26	16	14	42	五角形	
77	38	32	23	20	41	六角形	4楕立-2
78	28.5	25.5	14	13	42	五角形	7楕立-16
79	22.5	22	13	13	39	五角形	5楕立-2
80	56	33	—	20	30	長正円形	4楕立-12
81	51	49	45.5	43	73	六角形	2楕立-7
82	19.5	16.5	11	8	12	五角形	
83	23.5	17	12	8	27	五角形	5楕立-16
84	26	23	17	13	18	六角形	7楕立-14
85	44	40	30	28	46	五角形	2楕立-11

第3章 林中原1遊跡

C→No.	↑・長径	↑・短径	↓・長径	↓・短径	深さ	形態	備考
86	—	25.5	—	17.5	12	(六角形)	
87	26	22	20	14	47	楕円形	5層立-19
88	25	21	18	14	32	楕円形	6層立-11
89	30.5	28	18	14	50	五角形	5層立-14
90	32.5	27	18	15.5	67	六角形	6層立-10
91	31.5	31	17.5	16.5	35	不整正円形	5層立-13
92	33	31.5	23	17	38	五角形	6層立-15
93	40	28	28	17	27	楕円長方形	6層立-9
94	47	31	24	18.5	88	六角形	2層立-3
95	28	23	—	11.5	50	(五角形)	4層立-3
96	47	45	—	31	66	不整正円形	1層立-6
97	38	31	18	17	27	五角形	
97	19	18.5	12.5	10	22	正円形	
98	—	36	—	15	56	(不整形)	7層立-17
99	26	19	13	10	16	楕円長方形	1層立-24
100	20	20	17	17	40	不整正円形	
100	32	21	8.5	6	79	楕円長方形	2層立-2
101	32	28.5	21	18	64	五角形	6層立-2
102	46	39	31	29	63	三角形	2層立-4
103	33	27	—	16	24	六角形	4層立-4
104	38.5	27	21	17	69	多角形	6層立-3
105	33.5	29.5	19	11	60	五角形	2層立-5
106	26.5	26	16.5	12	30	楕円形	5層立-4
107	49.5	38	—	31	42	楕円形	1層立-7
108	—	31	—	21	46	(不整形)	
109	26	23.5	14	11	40	不整正円形	5層立-5
110	32	27.5	22	21.5	38	楕円形	7層立-3
111	22.5	19	10	8.5	34	楕円長方形	4層立-11
112	31.5	27	24.5	18	67	楕円形	
113	28.5	27	20	18	68	五角形	6層立-16
114	21	19.5	13	9	26	三角形	4層立-17
115	25	21.5	13.5	12	30	不整正円形	5層立-6
116	42	33	23	21	39	楕円形	
116	41.5	37	23	21	39	三角形	4層立-24
117	38	30	13	12	80	楕円形	
117	32	18	7	6	78	三角形	1層立-8
118	27.5	22.5	11	9	33	楕円形	4層立-5
119	25.5	25	12.5	8	36	三角形	7層立-19
120	55	45	22	21	53	六角形	2層立-6
121	44	27	31	18.5	22	双円形	4層立-30
122	42	29.5	23	15.5	51	六角形	7層立-5
123	31	30.5	18	15	73	六角形	7層立-6
124	47	46.5	30.5	25.5	62	正円形	2層立-18
125	32.5	26	20	12	38	五角形	
126	21	19.5	14	9	19	楕円形	7層立-12
127	47.5	27	27	17	12	(不整形)	4層立-16
128	33	26	10	8.5	39	楕円形	5層立-1
129	23	20	20	11	23	六角形	7層立-2
130	19	21	11	9.5	15	楕円長方形	5層立-15
131	44	39.5	32	25	33	多角形	2層立-10
132	55	425	32	24	29	五角形	
133	33	29.5	23	115	39	楕円長方形	6層立-14
134	26.5	21	16	12	27	楕円長方形	1層立-12
135	33	33	22.5	19.5	10	五角形	7層立-20
136	37	33	25	19	29	六角形	6層立-8
137	33	26	22.5	12	18	六角形	
138	50.5	47.5	33	21	47	五角形	2層立-7
139	32	23.5	15	9.5	62	双円形	7層立-11
140	31	20.5	21	11	34	五角形	1層立-10
141	44	32	19.5	16	39	五角形	6層立-7
142	24.5	20.5	9	7	58	楕円長方形	4層立-9
143	44.5	41.5	25.5	18	55	五角形	4層立-8
144	37	33	25	17.5	19	楕円形	
145	35.5	32.5	21	14.5	50	六角形	5層立-7
146	27	25	19	11	39	六角形	6層立-6
147	33	28.5	19	28.5	63	六角形	1層立-9
148	34	31.5	13	9	68	五角形	7層立-7
149	25.5	23.5	18	13.5	52	正円形	4層立-15
150	25.5	20	11	8	26	六角形	7層立-10

C→No.	↑・長径	↑・短径	↓・長径	↓・短径	深さ	形態	備考
151	39	29	25	18	33	(五角形)	
152	38	33	23	21	35	楕円形	5層立-10
153	18	16.5	10	8	8	楕円形	7層立-9
154	32	31.5	27	19.5	39	五角形	4層立-25
155	22.5	22	14.5	13.5	8	五角形	1層立-27
156	25	19	14	9	38	三角形	1層立-22
157	28	25	12.5	8	46	五角形	
158	50	35.5	31	24.5	16	多角形	6層立-11
159	29.5	24.5	19	14	18	六角形	1層立-12
160	31	28	20	17	28	正円形	4層立-26
161	58.5	52	46	30	15	楕円長方形	
162	27.5	23.5	15	11	43	五角形	1層立-14
163	25.5	21	15	10	31	楕円形	7層立-21
164	50	45	34	30.5	35	不整正円形	1層立-15
165	25	24.5	16	15	24	五角形	1層立-13
166	48	37	30	26	24	五角形	
167	35.5	32.5	16	11	26	多角形	2層立-8
168	62.5	53	30	25	53	楕円形	2層-P4
170	16.5	12.5	8	6	22	三角形	
171	63	46.5	48	22	34	五角形	2層立-9
172	40	39	23	18	38	不整正円形	6層立-13
173	23.5	21	13	12.5	19	五角形	7層立-13
174	22.5	17	12.5	10	28	楕円長方形	5層立-3
175	35	30	22	15	29	六角形	2層-P3
176	39	35	22	19	23	楕円形	
177	21	16.5	12	9	11	楕円長方形	
178	32	29	18.5	16.5	25	六角形	
179	43	40	23.5	22	57	不整円形	1柱列-4
180	40	34.5	23	21	71	六角形	4層立-14
181	38.5	33	33.5	20	32	五角形	5層立-11
182	37	26.5	20	14	14	五角形	
183	42	32.5	21	17.5	57	五角形	7層立-8
184	26	10.5	14	11	38	六角形	5層立-17
185	(16)	21	(12)	13	20	多角形	5層立-18
186	36.5	31.5	23	15	67	六角形	5層立-8
187	43.5	35	14.5	13	32	多角形	7層立-18
188	46	41	15	11	29	(多角形)	
189	35	23.5	19	14.5	41	五角形	4層立-7
190	58	42	44	31	28	五角形	
191	37	27	22	14	39	楕円形	4層立-21
192	35.5	26.5	17	11.5	37	楕円長方形	1柱列-2
193	28.5	24	22.5	16	68	楕円形	1柱列-3
194	40	24	8	7	64	長円形	4層立-27
195	46	43	—	—	21	不整円形	4層立-23
196	52	28.5	32	16.5	55	長円形	6層立-5
197	35	35	18	14.5	15	不整正円形	4層立-6
198	40	33.5	20	17	42	五角形	5層立-9
199	39	28.5	29	225	28	五角形	
200	59	51	47	20.5	53	六角形	
201	31.5	27.5	—	10	47	六角形	
202	445	36	23	23	76	六角形	6層立-4
203	32.5	28	19	14	35	六角形	5層立-12
204	39	31	23.5	13	44	五角形	1柱列-1
205	42.5	34.5	25	21	24	楕円形	
206	56	35	16	16	41	楕円形	
206	28.5	19.5	22	15	7	(五角形)	
Noなし	32	29.5	—	17.5	24	六角形	1層立-P25
Noなし	49	46	41	38	15	六角形	4層立-28
Noなし	43	35	—	18	31	(六角形)	4層立-P13

第4区画

C→No.	↑・長径	↑・短径	↓・長径	↓・短径	深さ	形態	備考
1	35	28	7	4.5	35	楕円形	2層-P2
2	54	48	31.5	25.5	69	不整円形	2層-P1
3	49	39	16	13	47	楕円形	
4	26.5	26	13.5	12	34	五角形	
5	—	42	—	22	21	不整円形	
6	36	24	21	14	27	長円形	
7	62	48	20	—	34	双円形	
8	45	36.5	32	24	21	五角形	

C+No.	上・長径	上・短径	下・長径	下・短径	深さ	形態	備考
9	26	22	19	13	27	五角形	
10	28.5	27	20	17	24	六角形	
11	(17)	25	(9)	16	52	楕圓方形	
12	39	33.5	24	17.5	23	楕円形	
13	31.5	22.5	15	13.5	14	楕円形	
14	29.5	20.5	10.5	8	20	楕円形	
15	38	30	21	11.5	26	楕圓長方形	
16	28	26	16	14	23	五角形	
17	62.5	45	11.5	8	32	短円形	
18	34.5	32.5	20	20	18	五角形	
19	33	20.5	22	8.5	19	長円形	
20	34	27	17	10.5	20	楕円形	
21	35	27.5	21	16	13	楕円形	
22	32.5	28	21	19	13	不整形	
23	29.5	28	16	11	23	正円形	
24	19	18	11.5	8.5	10	楕圓方形	
25	23.5	21	14	10	11	五角形	
26	29	27	15	14	37	不整形	
27	52	39	33.5	26	18	楕円形	
28	—	40.5	—	30	10	楕圓長方形	2個?
29	24	13	16	7	23	短円形	
30	—	43	—	22	23	不整形	
31	22	22	-12	-8	51	正円形	
31	22	22	—	—	—	正円形	
32	21.5	21	15	14	26	正円形	
33	33.5	33	25	20.5	17	五角形	
34	36	27	24	15.5	15	三角形	
35	26.5	20	19.5	12	11	楕圓長方形	

第6区画

C+No.	上・長径	上・短径	下・長径	下・短径	深さ	形態	備考
1	25	22	17.5	16	14	三角形	
2	34	32	9	9	34	楕圓方形	
3	40	27	18.5	13	20	三角形	
4	28	27	18	17.5	11	不整形	
5	25	23	16	15	7	不整形	
6	29	25	21	18	8	楕円形	
7	24	22	10	10	14	楕圓方形	
8	25	25	20	15	13	六角形	1個立-15
9	21	18	11	9	6	楕円形	1個立-13
10	30	28	16	15	23	不整形	1個立-14
11	36	25	25	15	14	楕円形	1個立-4
12	26	22	20	15	13	楕円形	
13	23	23	13	12	35	正円形	1個立-9
14	32	25	15	14	32	楕円形	1個立-5
15	33	30	27	17	25	楕円形	
16	36	35	18	16	54	正円形	1個立-6
17	18	18	18	18	21	楕圓方形	1個立-10
18	38	37	26	25	65	不整形	1個立-7
19	29	29	17	16	37	正円形	
20	23	22	15	15	18	不整形	
21	30	28	19	15	20	楕圓方形	
22	28	26	18	17	26	不整形	1個立-3
23	33	27	22	21	49	楕円形	1個立-11
24	22	21	13	28	28	正円形	
25	23	20	16	13	12	長方形	
26	23	19	13	12	29	楕円形	
27	31	28	24	16	20	楕円形	
28	26	25	15	11	15	不整形	4個立-3
29	30	25	19	14	30	楕円形	4個立-4
30	27	21	19	13.5	7	楕円形	4個立-1
31	20	19	17	13	7	楕円形	
32	35	35	24	24	15	正円形	
33	17	16	13	11	7	正円形	
34	24.5	24.5	17	15	8	正円形	4個立-5
35	21	20	15	1105	8	楕圓方形	4個立-2
36	25	24	13	11	61	不整形	8個立-1
37	23	23	15	13	53	不整形	8個立-2
38	24	24	7	7	67	不整形	
39	24	22	12	10	25	不整形	10個立-1

C+No.	上・長径	上・短径	下・長径	下・短径	深さ	形態	備考
40	19	18	11	10	11	正方形	
41	25	24	13	13	9	正方形	
42	19	17	12	10	9	不整形	
43	26	24	12	12	25	不整形	2個立-6
44	20	16	10	8	18	楕圓長方形	
45	245	22.5	15	13	28	楕円形	2個立-7
46	18	1830	9	9	22	楕円形	2個立-8
47	24.5	21	14	12	22	五角形	
48	35	34	25	23	56	三角形	
49	23	23	7	6	35	正円形	2個立-5
50	22	18	15	13	23	楕圓長方形	
51	31	31	30	19	18	正円形	2個立-4
52	28	25.5	18	16	13	楕円形	
53	20	19	13	13	10	楕圓方形	2個立-10
54	21	20	9.5	9	16	楕圓方形	
55	27	26	14	14	27	不整形	
56	26	23.5	14	13.5	32	楕円形	3柱列-1
57	30.5	25.5	20	14	23	五角形	2個立-9
58	25	23	16.5	14	19	不整形	3柱列-2
59	34	33	21.5	18	45	正円形	2個立-1
60	26	21	17	14	16	楕圓長方形	2個立-2
61	23.5	22.5	16	13	12	楕円形	
62	29	24	15	14	26	不整形	
63	30	28	19	18	32	正円形	
64	30	23.5	11.5	10	42	五角形	2個立-3
65	25	20	15	10	18	楕円形	3個立-6
66	32	27	54	22	14	楕円形	3個立-5
67	22	19	9	7	12	楕円形	3個立-4
68	24	22	16	13	9	楕圓方形	
69	23	19	13	12	24	五角形	
70	39	25	15	15	42	楕圓長方形	3個立-2
71	29	25	8	7	39	楕円形	
72	22	20	11	10	38	不整形	
73	21.5	21	13	13	14	不整形	
74	31.5	25	18	14.5	18	五角形	
75	26	22	19	13	12	楕円形	
76	27.5	27	18	17	9	正円形	
77	26	25.5	13	10	33	不整形	3柱列-7
78	—	21	—	14	12	楕円形	3柱列-6
79	23	21	—	11	19	楕円形	
80	20	19.5	12	10	27	正円形	3柱列-5
81	22	20	12	11	44	正円形	3柱列-4
82	35	32	25	25	12	楕圓方形	3個立-8
83	30	27	17	14	5	楕円形	3個立-9
84	18	18	13	12	6	正円形	3個立-10
85	28.5	19.5	13.5	12	29	六角形	
86	37	33	27	24	14	楕円形	3個立-3
87	30	27	21	17	10	楕圓長方形	3個立-7
88	43	40	38	27	22	三角形	
89	22	22	9.5	9	36	不整形	
90	22	13	16	8	14	長円形	
91	25	23	15.5	14	14	五角形	1柱列-2
92	29	21.5	18	16	12	五角形	1柱列-3
93	19	16	12	9	5	楕円形	3個立-1
94	19	19	10	10	7	楕円形	
95	27	23	19	14	12	楕円形	3柱列-3
96	16	14	14	12	3	楕円形	
97	26	24	13	13	22	楕圓方形	1柱列-1
98	36	32	20	16.5	87	五角形	
99	21	18	14	12	17	三角形	
100	29	22.5	15	9	23	楕円形	
101	38	34	24	20	15	楕圓長方形	1個立-2
102	32	31	19	15	16	不整形	7個立-16
103	27	—	17	14	48	不整形	
104	48	35	14	10	40	不整形	7個立-15 柱状
105	34	32	18	16	44	楕圓方形	7個立-14 柱状
106	37	26	19	17	7	楕圓方形	7個立-23
107	37	60	19	17	28	楕圓長方形	7個立-13
108	21	20	12	10	22	楕圓方形	8個立-16

第3章 林中原1遊跡

C*№	上・長径	上・短径	下・長径	下・短径	深さ	形態	備考
109	26	26	16	—	22	圓丸方形	7層立-31
110	24	23	16	14	23	圓丸方形	8層立-9
111	23	—	14	—	21	楕円形	
112	18	15	9	9	30	楕円形	9層立-11
113	20	16	6	2	20	圓丸長方形	
114	18	15	5	4	21	圓丸方形	7層立-22
115	17	16	10	7	8	圓丸方形	
116	19	17	13	9	13	圓丸長方形	9層立-10
117	28	25	20	16	7	圓丸方形	7層立-12
118	23	22	13	12	21	圓丸方形	8層立-15
119	23	22	17	14	11	圓丸方形	
120	29	29	19	17	19	圓丸方形	7層立-32
121	27	26	15	14	22	圓丸方形	8層立-8
122	20	18	11	10	20	圓丸方形	
123	23	22	17	11	22	圓丸方形	7層立-9
124	13.5	13	9	9	8	圓丸方形	9層立-6
125	22	19	12	10.5	17	五角形	7層立-20
126	22	22	13	12	28	三角形	9層立-7
127	37	29	13	9	14	五角形	7層立-11
128	25	23	15	13	18	圓丸長方形	7層立-10
129	16	16	7	7	6	圓丸方形	7層立-21
130	26	26	17	13	9	圓丸方形	9層立-9
131	26	19	5	3	21	圓丸長方形	
132	15	15	9	8	3	圓丸方形	9層立-8
133	36	24	13	11	18	圓丸方形	6層立-3
134	18	16	9	8	13	圓丸方形	
135	20.5	15	9	6.5	12	圓丸長方形	
136	48	30	9	6	39	不整形	1層立-1
137	26	25	14	14	20	圓丸方形	1層立-8
138	25	19	14	13	49	圓丸長方形	
139	38	36	16	15	56	正方形	1層立-12
140	22	21	16	14	9	不整形	
142	34	26	15	11	60	五角形	
143	33	—	16	—	26	正円形	7層立-24
144	28	27.5	17.5	17	11	五角形	5層立-6
145	35	28	18	15	22	五角形	5層立-7
146	31	18.5	10	7	14	五角形	
147	27	22.5	10	10	27	圓丸長方形	6層立-4
148	28	22	16.5	11	14	五角形	5層立-5
149	30	26	18	16	9	五角形	5層立-4
150	21.5	21.5	17	9	12	不整形	5層立-3
151	25.5	23	14	12	20	圓丸方形	5層立-2
152	30	20	15	10	18	楕円形	
153	25	21	13	12	12	五角形	6層立-1
154	28	27	14	14	18	五角形	6層立-2
155	34	31.5	12	10.5	74	五角形	
156	46.5	44	19	12.5	27	六角形	
157	28	27	18	16	14	五角形	
158	46	27	16	13	33	五角形	
159	42	40	11	9	38	五角形	
160	32	31	22	22	9	五角形	4柱列-1
161	—	23	11	8	37	五角形	7層立-26
162	36	30	25	22	37	圓丸長方形	7層立-1
163	38	27	27	17	15	三角形	7層立-25
164	30	29	17	15	69	圓丸方形	7層立-19
165	32	26	18	17	8	圓丸長方形	7層立-18
166	33	32	20	17	32	五角形	7層立-17
167	29	28	16	16	32	五角形	4柱列-2
168	33	29	14	14	52	五角形	8層立-14 柱庭
169	32	24	14	11	36	正円形	10層立-9
170	26	25	14	13	26	圓丸方形	4柱列-3
171	30	29	15	14	48	圓丸方形	7層立-2
172	30	25	18	18	19	不整形	10層立-8
173	34	34	19	17	20	圓丸方形	7層立-27
174	21	19	12	10	40	六角形	8層立-13
175	29	24	18	12	15	不整形	10層立-7
176	23	19	14	10	11	三角形	8層立-20
177	51	36	33	23	40	五角形	7層立-3
178	29	—	17	16	27	不整形	8層立-22

C*№	上・長径	上・短径	下・長径	下・短径	深さ	形態	備考
179	23	22	16	15	23	不整形	10層立-3
180	29	28	17	14	77	五角形	
181	26	25	15	12	19	圓丸方形	10層立-2
182	30	27	16	14	49	圓丸方形	8層立-3
183	33	26	21	19	13	楕円形	8層立-4
184	31	27	9	9	33	圓丸方形	
185	43	38	32	24	46	五角形	7層立-4 柱庭
186	29	—	20	—	40	不整形	8層立-21
187	28	28	17	15	42	不整形	4柱列-4
188	24	20	16	12	11	圓丸長方形	9層立-1
189	34	31	24	23	38	不整形	7層立-28
190	25	23	13	12	52	不整形	8層立-12
191	27	26	16	16	9	五角形	
192	22	20	17	15	18	五角形	10層立-6
193	35	—	25	—	24	不整形	
194	30	28	16	16	30	圓丸方形	7層立-29 柱庭
195	33	31	18	15	44	六角形	8層立-11
196	28	26	17	14	31	不整形	8層立-19
197	22	—	13	12	62	不整形	8層立-18
198	24	23	17	13	11	不整形	
199	22	21	14	13	16	不整形	8層立-17
200	29	28	13	13	45	圓丸方形	7層立-20 柱庭
201	26	25	15	15	29	不整形	8層立-10
202	20	15	12	7	11	圓丸長方形	9層立-2
203	35	34	19	17	69	圓丸方形	7層立-5 柱庭
204	23	22	13	12	11	不整形	10層立-4
205	18	17	9	9	21	五角形	9層立-3
206	30	30	14	13	69	圓丸方形	8層立-5
207	46	42	22	18	54	五角形	7層立-6
208	—	17	—	9	10	楕円形	
209	18	18	10	9	15	五角形	9層立-4
210	26	21	15	13	16	五角形	
211	26	22	11	11	26	六角形	9層立-5
212	39	37	21	20	50	不整形	7層立-7
213	45	—	—	24	11	楕円形	
214	44	—	33	—	17	圓丸長方形	
215	35	—	26	—	12	五角形	
216	28	27	16	15	53	圓丸方形	8層立-6
217	32.5	30	17	15	45	五角形	8層立-7
218	19	17	12	10	5	圓丸方形	
218	19	18	11	10	5	圓丸方形	
219	38	35	20	18	44	不整形	7層立-8
220	19	19	13	12	14	五角形	
221	20	18	11	8	13	五角形	
222	20	19	14	9.5	17	五角形	5層立-8
223	210	20	14	14	7	不整形	5層立-1
224	27	25	16	13	6	三角形	
225	23	18	10	8	49	圓丸長方形	
226	23	19	12	11	22	五角形	
227	19	18	9	8	13	不整形	10層立-5
228	18	18	12	9	15	多角形	
229	33.5	22	—	—	14	五角形	
230	20	17	8	6	14	圓丸方形	
231	20	15	10	7	8	長方形	
232	27	26	14	12	21	三角形	

第7区画

C*№	上・長径	上・短径	下・長径	下・短径	深さ	形態	備考
1	24	17	7	6	18	楕円形	
2	20	17	12	11	10	圓丸方形	2層立-1
3	26	25	17	13	14	三角形	
4	33	28	22	20	15	楕円形	2層立-5
5	28	27	20	16	37	圓丸方形	2層立-2
6	25	24	15.5	14	13	楕円形	2層立-6
7	18.5	18	16	14	6	五角形	
8	42	41	16.5	13	48	五角形	2層立-3
9	26	24	16	13	31	楕円形	2層立-4
10	17	15	10	7	6	楕円形	
11	32	28	20	16	30	五角形	1層立-8
12	27	25.5	17.5	16	8	楕円形	1層立-7

C+No.	上・長径	上・短径	下・長径	下・短径	深さ	形態	備考
13	40	33.5	18	16	47	圓丸長方形	1層立-2
14	31	30	24	18	18	五角形	1層立-9
15	29	28	19	18.5	28	不整形円形	1層立-6
16	31	29.5	11	10.5	55	五角形	1層立-3
17	22.5	22	9	7.5	31	五角形	1層立-4
18	16	16	11	10	13	正円形	1層立-5
19	—	33.5	—	25	22	楕円形	1層立-1

第7区画(54区)

C+No.	上・長径	上・短径	下・長径	下・短径	深さ	形態	備考
1	31	28	20	18	19	五角形	
2	34	22	19	12	38	不整形円形	
3	63	60	41	39	22	円形	
4	41	35	29	22	13	楕円形	
5	39	32	22	17	18	不整形円形	
6	43	31	29	25	16	不整形円形	
7	37	31	26	21	18	不整形円形	
8	30	26	21	17	9	楕円形	
9	32	26	17	12	18	圓丸長方形	
10	31	28	21	19	9	圓丸方形	
11	36	36	17	12	51	五角形	
12	36	33	17	15	22	五角形	
13	42	37	25	23	39	不整形円形	
14	40	32	23	21	48	五角形	
15	34	(24)	24	23	33	—	
16	32	31	21	19	10	圓丸方形	
17	48	47	35	35	14	五角形	
18	36	34	14	11	33	五角形	
19	30	28	21	17	19	六角形	
20	31	30	15	9	27	圓丸方形	
21	42	37	31	27	20	六角形	
22	37	35	22	18	41	不整形円形	
23	32	31	16	10	13	圓丸方形	
24	31	23	10	9	23	不整形円形	
25	30	25	14	11	59	不整形円形	
26	29	(24)	20	17	20	—	
27	46	41	29	26	27	不整形円形	
28	25	20	15	9	16	不整形円形	
29	37	34	22	18	30	不整形円形	
30	38	33	23	16	43	六角形	
31	31	25	18	12	23	不整形円形	
32	37	37	26	23	17	円形	
33	27	22	13	12	18	不整形円形	
34	51	31	35	33	20	不整形円形	
35	51	42	33	29	82	不整形円形	
36	37	32	19	19	43	不整形円形	
37	32	27	20	18	36	不整形円形	
38	29	23	19	16	19	円形	
39	41	35	35	27	34	不整形円形	
40	30	24	18	15	26	不整形円形	
41	28	27	17	15	34	圓丸方形	
42	42	27	28	17	19	楕円形	
43	43	43	15	12	59	円形	
44	54	47	38	31	73	不整形円形	
45	47	37	37	32	37	楕円形	
46	32	24	21	14	9	不整形円形	
47	29	24	15	14	18	不整形円形	
48	28	28	16	12	44	圓丸方形	
49	38	27	26	15	36	圓丸長方形	
50	19	16	11	10	12	不整形円形	
51	21	19	15	12	39	圓丸方形	
52	33	24	22	12	35	楕円形	
53	27	27	15	11	16	三角形	
54	17	16	11	9	8	不整形円形	
55	25	18	13	11	26	圓丸長方形	
56	19	14	7	5	29	楕円形	
57	36	35	20	16	41	圓丸方形	
58	20	17	13	12	26	三角形	
59	40	32	26	20	46	三角形	
60	46	27	31	14	39	楕円形	

C+No.	上・長径	上・短径	下・長径	下・短径	深さ	形態	備考
61	40	27	14	9	34	長円形	
62	32	30	22	21	58	不整形円形	
63	38	(23)	(20)	20	34	—	
64	41	32	10	9	76	不整形円形	
65	40	35	17	14	48	不整形円形	
66	27	25	19	15	32	圓丸方形	
67	50	28	12	11	38	圓丸長方形	
68	22	22	11	9	31	円形	
69	(39)	47	37	27	36	—	
70	29	20	15	12	33	長円形	
71	30	28	15	12	36	不整形円形	
72	35	30	22	16	19	不整形円形	
73	23	21	15	11	24	圓丸方形	
74	23	23	16	15	15	圓丸方形	
75	24	23	15	13	17	不整形円形	
76	23	21	14	11	28	圓丸方形	
77	23	17	9	8	20	不整形円形	
78	28	20	15	13	18	不整形円形	
79	20	19	13	10	16	不整形円形	
80	27	23	15	12	14	長円形	
81	30	28	21	17	14	円形	
82	22	19	9	8	18	圓丸方形	
83	29	27	16	14	26	円形	
84	28	28	15	15	30	圓丸方形	
85	37	34	18	16	35	五角形	
86	34	32	18	17	26	圓丸方形	
87	19	18	9	6	12	不整形円形	
88	25	21	15	(12)	14	—	
89	27	18	15	10	18	不整形円形	
90	30	29	16	15	39	不整形円形	
91	30	28	18	17	19	円形	
92	32	30	20	18	25	不整形円形	
93	29	27	15	13	33	不整形円形	
94	22	17	8	7	21	不整形円形	
95	34	29	23	20	34	不整形円形	
96	32	28	17	9	31	多角形	
97	45	42	21	19	34	不整形円形	
98	22	20	14	13	17	円形	
99	28	24	20	14	10	円形	
100	19	17	12	11	12	円形	
101	30	30	18	15	33	円形	7層立-8
102	40	(23)	(16)	16	41	—	6層立-6
103	34	32	14	11	76	不整形円形	6層立-7
104	19	19	10	10	55	円形	
105	30	26	16	13	54	不整形円形	7層立-6
106	31	27	12	11	77	不整形円形	8層立-3
107	22	19	12	10	66	不整形円形	8層立-4
108	26	25	17	12	26	圓丸方形	5層立-15
109	32	28	19	14	46	不整形円形	7層立-3
110	40	37	33	31	38	不整形円形	3層立-9
111	29	25	14	13	38	圓丸方形	8層立-11
112	41	39	27	23	62	不整形円形	4層立-14
113	29	28	19	18	47	圓丸方形	5層立-6
114	19	14	11	8	43	楕円形	
115	27	22	16	11	19	圓丸方形	
116	34	33	20	15	44	五角形	7層立-2
117	27	24	18	16	46	圓丸方形	5層立-4
118	48	42	33	28	69	楕円形	3層立-7
119	31	28	14	14	66	不整形円形	2層立-10
120	30	26	14	14	67	圓丸方形	8層立-2
121	46	40	35	30	60	不整形円形	3層立-8
122	32	24	16	15	79	不整形円形	2層立-6
123	25	25	19	14	36	圓丸方形	7層立-4
124	38	24	24	20	51	長円形	4層立-8
125	27	25	15	13	19	圓丸方形	
126	30	26	12	11	78	不整形円形	2層立-5
127	38	35	21	13	46	圓丸方形	2層立-12
128	57	46	43	19	32	—	
129	54	46	15	12	75	圓丸長方形	3層立-16

第3章 林中原1遺跡

C+No.	上・長径	上・短径	下・長径	下・短径	深さ	形態	備考
130	33	31	13	10	85	圓丸方形	
131	33	24	18	16	48	長円形	7釧立-5
132	50	43	37	31	58	不整形円形	4釧立-6
133	38	32	15	13	77	不整形円形	2釧立-11
134	53 (44)	15	13	95	—	4釧立-2	
135	35	30	25	20	71	不整形円形	4釧立-3
136	42	40	26	24	37	不整形	
137	37	29	18	13	56	—	
138 (26)	34	(24)	21	32	円形	5釧立-3	
139	18	17	10	7	60	圓丸方形	
140	38	23	22	12	49	不整形	2釧立-17
141	26	24	15	13	61	三角形	
142	37	32	27	22	63	不整形円形	4釧立-4
143	43	41	39	27	93	円形	3釧立-17
144	21	19	12	9	53	円形	
145	30	27	18	15	30	円形	
146	27	25	17	17	22	圓丸方形	
147	34	30	20	17	31	五角形	7釧立-7
148	41	26	24	15	32	圓丸長方形	
149	37	37	20	14	59	円形	4釧立-7
150	24	21	12	8	73	不整形	8釧立-5
151	27	21	19	14	23	—	5釧立-16
152 (25)	27	15	12	46	—	—	
153	29	28	16	15	60	円形	5釧立-5
154	26	21	16	13	37	三角形	
155	21	16	13	10	36	三角形	8釧立-13
156	30	20	9	7	60	長円形	
157	28	26	13	11	65	円形	1釧立-7
158	34 (25)	23 (17)	21	—	—	—	
159	27	25	17	16	35	不整形	2釧立-9
160	50	45	36	29	31	圓丸長方形	
161 (40)	(34)	(35)	(32)	37	—	5釧立-11	
162	53	45	45	40	97	不整形円形	3釧立-4
163	30	25	13	12	86	五角形	5釧立-10
164	28	20	11	10	66	長円形	1釧立-8
165	25	20	9	7	46	楕円形	
166	28	22	19	15	29	圓丸方形	2釧立-2
167	35	33	28	14	40	三角形	2釧立-3
168	30	27	12	10	68	不整形	
169	33	29	17	13	68	三角形	1釧立-3
170	32	28	18	16	25	不整形円形	
171	28	26	21	17	24	不整形円形	
172	32	30	13	6	70	不整形	2釧立-4
173	26	24	13	12	46	円形	
174	40	34	23	17	50	楕円形	1釧立-9
175	27	25	15	15	19	五角形	
176	27	24	12	8	54	楕円形	
177	44	41	31	29	66	円形	4釧立-1
178	52	50	27	25	90	不整形円形	3釧立-15
179	46	43	24	19	45	五角形	1釧立-2
180	29	25	29 (10)	17	不整形円形		
181	29	22	13	9	36	五角形	
182	30	26	19	14	59	楕円形	2釧立-13
183	37	33	18	16	29	—	
184	46 (44)	34	24	23	—	6釧立-1	
185	27	23	14	10	40	五角形	
186	30	26	21	20	61	六角形	
187	43	41	33	28	76	六角形	4釧立-5
188	36	26	16	15	45	—	
189	31	29	22	17	14	圓丸方形	
190	23	20	12	11	17	五角形	
191	22	21	11	11	31	五角形	8釧立-12
192	33	28	22	18	20	楕円形	5釧立-2
193	36	34	23	20	40	不整形	
194	30	27 (20)	(15)	25	五角形		
195	25	18	16	12	44	不整形	1釧立-5
196	28	27	12	11	53	不整形	1釧立-6
197	38	27	28	18	51	五角形	
198	42	37	18	16	42	不整形円形	

C+No.	上・長径	上・短径	下・長径	下・短径	深さ	形態	備考
199	42	40	31	28	18	不整形	
200	61	52	20	17	40	楕円形	
201 (19)	18	12	10	25	—	—	
202	29	24	16	14	26	不整形円形	
203	30 (17)	16	15	19	—	—	
204	31	27	13	13	28	五角形	
205	30	28	19	12	25	四角形	
206	29	28	18	15	25	五角形	
207	28	25	17	16	21	双円形	
208	32	28	20	15	13	不整形円形	
209	33	29	20	15	26	不整形円形	
210	31	26	19	17	26	五角形	
211	38	37	19	18	28	多角形	
212	30	29	20	19	16	不整形円形	
213	29	27	15	13	15	不整形円形	
214	31	28	18	16	48	不整形円形	
215	28	26	10	6	26	不整形	
216	27	18	15	8	16	不整形円形	
217	27	25	17	13	13	不整形円形	
218	27	27	16	11	34	多角形	
219	22	20	14	12	14	圓丸方形	
220	26	21	14	12	12	圓丸方形	
221	50	45	33	20	21	長円形	
222	32	28	23	21	12	不整形円形	
223	29	23 (12)	(11)	71	圓丸方形		
224	28	23	6	5	44	五角形	
225	25	21	14	12	32	圓丸方形	
226	23	21	13	11	32	圓丸方形	
227	75	56	33	22	51	不整形	
228	25	21	15	11	21	楕円形	
229	43	28	26	19	17	不整形	
230	35	27	12	11	43	不整形円形	
231	33	28	21	19	30	五角形	
232	27	26	18	15	13	圓丸方形	
233	47	43	23	16	19	不整形円形	
234	20	20	12	9	10	圓丸方形	
235	26	25	16	14	10	圓丸方形	
236 (14)	21 (7)	11	27	—	—	—	
237	22	20	11	10	19	円形	
238	19	17	10	8	29	圓丸方形	
239	38	34 (23)	18	25	—	—	
240	42	39	34	30	25	不整形円形	
241	38	32	24	23	11	不整形円形	
242	41	38	29	25	25	不整形円形	
243	34	27	14	8	27	不整形円形	
244	25	20	19	11	52	五角形	
245	27	24	20	15	18	五角形	
246 (26)	(20)	(16)	(10)	9	—	—	
247 (28)	28	13	10	14	—	—	
248	28	25	15	12	11	圓丸方形	
249	33	27	19	17	19	不整形円形	
250	41	38	27	27	19	不整形円形	
251	47	45	34	31	30	不整形円形	
252	34	27	13	8	24	長円形	
253	48	46	30	27	27	楕円形	
254	33	28	23	26	27	圓丸方形	
255	43	40	33	30	18	不整形円形	
256	44	40	36	30	22	円形	
257	41	40	35	33	32	円形	
258	23	23	18	16	20	円形	
259	30	25	20	15	30	楕円形	
260	39	35	30	26	21	不整形円形	
261	20	20	9	7	25	三角形	
262	35	28	19	16	36	圓丸長方形	
263	24	23	13	13	30	円形	
264	48	42	31	26	31	不整形円形	
265	38	25	17	16	40	長円形	
266	21	19	16	13	17	圓丸方形	
267	22	18	11	9	17	圓丸方形	

C+No.	上・長径	上・短径	下・長径	下・短径	深さ	形態	備考	
268	28	24	12	10	55	圓丸方形		
269	48	39	28	19	22	—		
270	17	16	9	8	27	圓丸方形		
271	25	25	17	13	31	圓丸方形		
272	31	25	17	9	31	圓丸方形		
273	39	35	28	(23)	38	円形		
274	20	20	11	11	23	圓丸方形		
275	29	26	18	16	22	圓丸方形		
276	22	17	12	8	15	楕円形		
277	36	25	22	14	11	楕円形		
278	37	31	18	14	25	不整形		
279	28	21	13	10	30	五角形		
280	11	9	3	3	33	圓丸方形		
281	22	22	6	6	31	圓丸方形		
282	20	20	13	11	18	円形		
283	23	15	9	8	31	楕円形		
284	24	23	15	14	11	円形		
285	36	34	17	15	51	円形		
286	39	28	20	16	30	不整形円形		
287	32	32	20	17	30	五角形		
288	17	16	10	9	42	圓丸方形		
289	29	24	13	12	34	五角形		
290	37	31	22	17	20	五角形		
291	12	10	5	4	14	不整形円形		
292	32	26	20	13	20	圓丸方形		
293	35 (20)	18	10	27	—	—		
294	54	43	25	24	35	長円形		
295	27	26	17	15	22	五角形		
296	34	30	18	12	30	不整形円形		
297	32	28	21	19	30	六角形		
298	42	31	25	19	38	五角形		
299	33	25	7	6	45	楕円形		
300	26	24	17	12	26	五角形		
301	26	26	13	13	43	六角形	2側立-16	
302 (21)	37	20	(10)	30	—	—		
303	29	29	16	14	54	五角形	2側立-7	
304	19	19	5	4	25	圓丸方形		
305	27	23	20	15	22	五角形		
306	50	42 (23)	25	98	楕円形	3側立-6		
307	26	22	13	13	17	五角形		
308	47	47	38 (32)	95	円形	3側立-3		
309	27	23	18	15	55	不整形	2側立-1	
310	41	39	26	22	73	六角形	3側立-5	
311	20	18	9	8	42	圓丸方形	2側立-15	
312	28	25	15	13	50	五角形		
313	37	30	24	17	38	楕円形	6側立-4	
314	31	27	12	11	65	楕円形	5側立-9	
315	20	20	13	10	44	圓丸方形		
316	30	23	21	13	27	不整形		
317	39	39	29	26	63	五角形	3側立-18	
318 (30)	35 (23)	26	26	44	—	—		
319	24	21	15	13	44	圓丸方形	8側立-6	
320	32 (15)	21 (9)	67	—	—	—	6側立-3	
321	30	27	14	9	56	五角形	5側立-8	
322	38	32 (8)	10	30	五角形	円形		
323	49 (33)	34 (28)	32	—	—	—		
324	33	23	11	9	27	楕円形		
325	26	26	11	8	25	円形		
326 (45)	45 (37)	25	25	—	—	—		
327	28	21	10	9	28	楕円形		
328	30	27	16	14	49	五角形		
329	26	26	14	11	56	五角形	2側立-14	
330	30	26	20	15	17	楕円形		
331	35	29	25	20	14	不整形		
332	34	34	25	22	34	円形		
333	25	22	14	12	20	五角形		
334	25	20	12	11	22	不整形円形		
335	38	35	26	23	18	—		
336	24	22	10	8	45	五角形		

C+No.	上・長径	上・短径	下・長径	下・短径	深さ	形態	備考	
337	28	27	17	13	19	圓丸方形		
338	28	27	19	15	21	五角形		
339	34	33	20	19	30	三角形		
340	22	21	12	9	34	五角形		
341	28	23	22	18	29	不整形		
342	22	19	10	10	31	六角形		
343	39	32	22	21	24	六角形		
344	47 (38)	30	30	12	不整形円形	7側立-9		
345 (60)	46 (47)	31	23	—	—	—		
346	44	37	23	17	32	不整形		
347	30	30	12	10	34	五角形		
348	34	25	16	13	19	六角形		
349	30	22	13	8	20	楕円形		
350	40	32	20	18	20	五角形		
351	42	36	30	24	21	六角形		
352	35	30	20	19 (46)	楕円形	5側立-7		
353	21 (13)	15 (12)	13	—	—	—		
354	30	29	18	15	50	圓丸方形		
355	28	22 (17)	(8)	49	楕円形			
356	26	23	11	10	33	楕円形		
357	24	22	15	13	19	圓丸方形		
358	36	31	17	15	20	楕円形		
359	37	32	14	14	27	五角形		
360	45	38	32	27	20	不整形		
361	36	29	22	20	28	楕円形		
362	33 (24)	16 (10)	32	—	—	—		
363	30	30	20	20	30	五角形		
364	44	36	30	27	21	不整形		
365	52	48	38	31	31	円形		
366	36	32	21	14	41	長円形		
367	27	20	15	10	20	五角形		
368	20	17	13	10	31	不整形円形		
369	19	17	15	11	20	不整形円形		
370	31	28	17	16	38	不整形		
371	71	46	56	30	41	多角形		
372	34	29	22	16	11	不整形円形		
373	49 (37)	34 (27)	11	—	—	—		
374	44 (24)	(19)	(16)	11	—	—		
375	—	—	—	—	—	—		
376	60	48	47	25	16	長円形		
377 (38)	(24)	20	13	30	—	—		
378	17	16	12	7	11	円形		
379	36	36	25	22	51	不整形円形		
380	69	63	45 (13)	23	不整形円形			
381	35	30	20	18	32	楕円形		
382	65	54	50	45	18	不整形円形		
383	57	56	43	39	55	円形	9側立-10	
384	26	19	13	11	39	多角形		
385	45	40	38	28	31	不整形		
386	36	33	14	10	52	不整形円形		
387	30	28	18	16	17	不整形円形		
388	39	38	33	30	23	圓丸方形		
389	59	50	48	26	50	長円形	9側立-5	
390	25	23	15	13	29	不整形円形		
391	34	31	27	22	17	不整形円形		
392	34	30	23	15	18	五角形		
393	35	31	23	16	41	不整形円形	9側立-6	
394	29	25	21	17	22	不整形円形		
395	46	44	26	24	73	円形	9側立-4	
396	54	53	33	33	81	円形	9側立-1	
397	58	53	35	33	76	多角形	9側立-2	
398	45	44	23	23	83	円形	9側立-3	
399	37	33	19	12	44	不整形円形		
400	24	21	15	8	15	三角形		
401	45	42	36	30	23	楕円形		
402	30	25	20	15	29	楕円形		
403	33	27	25	17	29	楕円形		
404	35	35	18	18	43	円形		
405	43	42	30	27	28	不整形円形		

第3章 林中原1遺跡

C+N	上・長径	上・短径	下・長径	下・短径	深さ	形態	備考
406	50	48	30	10	29	円形	
407	43	43	20	20	75	円形	
408	21	15	8	6	9	扁円形	
409	32	26	23	14	21	扁円形	
410	22	18	8	4	21	不整形	
411	25	24	19	8	16	三角形	
412	27	22	12	12	21	楕円形	
413	49	42	28	7	40	不整形	
414	49	46	31	30	31	楕円方形	9層立-7
415	50	42	26	25	52	楕円形	9層立-8
416	68	52	35	21	72	不整形	
417 (22)	50	(16)	29	76	-	-	
418	33	30	27	24	25	楕円方形	
419	33	30	27	15	20	不整形	
420	27	25	14	11	20	五角形	
421	26	24	15	11	15	五角形	
422	32	25	20	15	22	楕円方形	
423	47	38	28	20	25	不整形	
424	27	26	15	12	46	不整形	
425	26	23	15	13	31	円形	
426	29	26	17	16	32	円形	
427	40	36	30	19	34	六角形	
428	42	36	21	19	48	楕円形	7層立-10
429	50	40	32	31	39	楕円形	4層立-9
430	32	30	20	18	17	六角形	
431	47	42	27	25	55	六角形	3層立-10
432	36	28	23	20	24	楕円形	
433	48	43	15	12	40	楕円形	8層立-9
434	40	38	25	15	45	不整形	
435	36	35	24	23	32	円形	
436	45	38	27	26	44	円形	3層立-12
437	38	36	24	21	23	五角形	
438	45	45	32	28	45	不整形	3層立-11
439	27 (11)	17	(9)	68	-	-	
440	34	29	18	18	66	-	5層立-12
441	33	30	24 (18)	19	19	六角形	
442	33	28	17	9	38	不整形	
443	65	56	46	36	81	楕円形	
444	43	40	28	25	66	不整形	3層立-19
445	25	21	14	12	30	不整形	
446	28	23	15	14	23	五角形	
447	27	23	14	12	52	五角形	
448	25	22	13	12	27	楕円形	
449	34	32	18	11	54	五角形	
450	44	36	35	24	23	不整形	
451	26	25	18	15	12	五角形	
452	32	29	19	15	44	楕円方形	
453	31	30	14	13	46	五角形	
454	38	38	17	16	50	五角形	
455	25	22	17	13	22	楕円形	
456	40	37	18	13	73	円形	8層立-1
457	24	24	13	13	18	円形	
458	39	33	15	15	33	-	
459	34	31	24	21	40	五角形	5層立-1
460	32	28	16	16	46	五角形	
461	31 (19)	18	(13)	43	-	-	
462	35	29	12	10	77	楕円長方形	
463	38	33	26	22	20	六角形	
464	41	40	17	14	66	六角形	7層立-1
465	44	42	24	20	87	不整形	3層立-20
466	30	23	22	15	34	楕円長方形	
467	29	24	13	13	45	五角形	
468	40	33	25	15	58	不整形	
469	34	33	22	20	18	五角形	
470	48	43	32	23	25	六角形	
471	40	38	24	18	39	六角形	
472	30	23	11	10	33	楕円形	5層立-14
473	34	28	18	14	63	不整形	
474	31	24	16	16	64	六角形	

C+N	上・長径	上・短径	下・長径	下・短径	深さ	形態	備考
475 (37)	41	23	18	39	-	-	
476	43	42	21	15	23	円形	
477	20	15	11	9	7	不整形	
478	32	30	17	(10)	10	不整形	
479	34	28	22	13	21	不整形	
480	28	20	15	10	21	-	
481	28	27	14	12	37	(五角形)	
482	22	(12)	(3)	(8)	16	-	
483	32	28	18	15	52	不整形	
484	47	40	21	19	34	六角形	4層立-13
485	28	23	14	9	46	五角形	
486	34	(20)	13	12	34	-	4層立-11
487	21	20	11	10	20	円形	
488	17	17	7	7	15	楕円方形	
489	35	28	20	15	14	不整形	
490	23	22	13	11	21	円形	
491	34	28	19	17	18	多角形	
492	29	25	18	16	28	楕円方形	8層立-10
493	33	28	20	15	21	不整形	
494	25	22	14	12	10	不整形	
495	34	32	18	18	16	円形	
496	26	26	15	14	50	五角形	1層立-11
497	39	36	30	25	68	不整形	3層立-14
498	48	(36)	10	9	51	-	
499	36	35	11	7	19	不整形	
500	65	61	37	32	95	不整形	3層立-2
501	19	19	10	8	46	五角形	
502	30	28	18	(17)	50	不整形	1層立-10
503	43	38	23	19	77	六角形	
504	33	26	11	10	77	楕円方形	8層立-8
505	22	21	13	13	21	六角形	5層立-13
506	21	20	11	11	33	三角形	
507	39	32	28	20	22	五角形	
508	40	38	30	28	11	円形	
509 (19)	35	(11)	16	56	-	-	
510	32	26	19	15	36	楕円形	
511	30	(16)	20	(12)	22	楕円形	
512	31	28	14	12	58	五角形	
513	18	17	7	7	30	円形	
514	29	25	15	13	72	五角形	
515	30	29	12	11	50	楕円方形	
516	24	23	13	9	37	円形	
517	23	22	13	11	46	楕円方形	1層立-1
518	28	24	10	10	36	五角形	
519	43	40	25	25	31	円形	4層立-12
520	28	25	10	10	45	五角形	
521	23	20	10	7	21	不整形	
522	32	30	16	14	51	楕円形	
523	40	34	20	13	42	楕円方形	4層立-10
524	22	22	10	(4)	19	楕円方形	
525	47	40	11	11	76	不整形	
526 (47)	(45)	(35)	(34)	35	(三角)	(三角)	7層立-11
527	48	41	32	23	17	不整形	
528	61	51	23	(7)	37	不整形	
529	54	48	27	21	34	楕円形	
530	26	25	17	17	18	楕円形	
531	22	(11)	11	(4)	57	-	
532	27	22	12	10	32	五角形	
533	37	30	16	16	49	五角形	
534	33	29	23	16	26	不整形	
535	62	57	40	38	27	円形	
536	33	29	23	20	18	五角形	
537	64	55	38	38	22	不整形	
538	43	35	25	21	42	不整形	
539	50	35	31	23	26	不整形	
540	47	44	27	25	23	円形	
541	66	50	54	25	29	長円形	
542	48	40	38	28	12	不整形	
543	30	24	19	14	19	不整形	

C+N	上・長径	上・短径	下・長径	下・短径	深さ	形態	備考
544	25	20	10	9	18	楕円形	
545	31	29	16	12	20	不整形円形	
546	34	32	19	19	17	五角形	
547	27	26	15	15	56	五角形	
548	26	25	13	13	55	六角形	
549	17	15	9	5	26	楕丸方形	
550	23	20	13	11	35	不整形	
551	23	20	12	10	31	不整形円形	
552	35	30	12	11	63	六角形	
553	18	18	13	12	28	楕丸方形	
554	16	15	9	7	37	楕丸方形	
555	30	25	16	12	20	五角形	
556	46	38	28	12	28	不整形	
557	29	27	20	13	72	六角形	
558	21	20	10	10	64	楕丸方形	
559	40	(22)	(12)	11	65	—	
560	46	40	19	13	38	楕円形	
561	67	59	34	25	29	楕円形	
562	25	(16)	15	(11)	43	—	
563	32	28	12	12	31	不整形	3脚立-13
564	59	55	33	29	104	不整形円形	3脚立-1
565	42	40	18	17	69	不整形円形	
566	60	60	34	31	31	円形	
567	20	19	13	12	14	楕丸方形	
568	48	35	18	11	29	不整形	
569	53	44	30	27	86	不整形	
570	22	19	9	8	42	楕丸方形	
571	34	31	20	17	53	不整形円形	
572	39	30	24	18	56	不整形円形	
573	35	(25)	23	23	13	—	
574	(22)	(18)	12	8	30	—	
575	32	23	(22)	22	42	—	
576	(26)	(32)	(22)	(24)	20	—	
577	(36)	(12)	(15)	(4)	79	—	
578	32	25	19	15	9	不整形	
579	18	(8)	12	(4)	50	—	
580	(17)	(8)	(12)	(5)	42	—	
581	35	(23)	20	(13)	19	—	
582	26	25	12	9	51	六角形	
583	34	28	16	13	33	不整形	
584	40	34	27	22	13	六角形	
585	55	55	43	39	51	円形	
586	27	19	9	8	35	楕円形	8脚立-7
587	31	29	15	14	22	不整形円形	
588	38	37	30	23	29	不整形円形	
589	29	17	7	6	53	五角形	
590	59	59	39	32	45	円形	

52区

C+N	上・長径	上・短径	下・長径	下・短径	深さ	形態	備考
1	35	34	8	8	19	正円形	28脚立-2
2	22	21	13	11	27	正円形	28脚立-5
3	35	30	27	21	15	楕円形	
4	25	25	18	16	14	楕丸方形	
5	34	31	22	20	15	正円形	28脚立-1
6	33	28	11	11	28	正円形	
7	38	32	27	20	13	楕丸方形	
8	34	27	11	11	32	楕円形	10脚立-7
9	35	31	16	16	46	楕円形	10脚立-1
10	29	25	10	10	30	楕丸方形	
11	30	28	18	16	29	楕丸方形	28脚立-6
12	27	23	16	15	46	楕円形	10脚立-2
13	24	24	21	14	27	楕丸方形	
14	24	24	9	8	26	正円形	10脚立-5
15	30	24	23	18	10	楕丸方形	
16	29	23	20	17	11	楕丸方形	5脚立-5
17	25	22	17	16	10	正円形	
18	27	22	21	16	6	楕丸方形	
19	33	30	24	22	13	楕丸方形	
20	32	30	28	21	13	楕丸方形	

C+N	上・長径	上・短径	下・長径	下・短径	深さ	形態	備考
21	28	27	20	19	13	不整形円形	
22	29	25	18	15	29	不整形円形	10脚立-4
23	30	29	18	17	42	不整形円形	10脚立-6
24	27	24	14	12	37	不整形円形	
25	34	30	18	18	38	楕円形	10脚立-3
26	33	29	20	18	34	五角形	26脚立-5
27	34	34	17	16	75	五角形	26脚立-3
28	30	28	22	18	17	楕丸方形	
29	23	20	13	10	51	楕丸方形	
30	53	50	16	14	63	不整形円形	1脚立-8
31	25	23	13	12	35	楕丸方形	1脚立-7
32	—	25	—	12	13	(不整形円形)	
33	24	21	11	10	46	楕丸方形	1脚立-9
34	31	31	18	14	62	不整形	26脚立-4
35	36	29	22	18	59	楕円形	1脚立-11
36	69	60	23	23	43	楕円形	14脚立-10
37	33	32	24	22	15	不整形円形	22脚立-8
38	34	29	18	14	36	不整形円形	22脚立-10
39	29	28	19	16	29	不整形円形	
40	26	21	16	13	26	楕円形	
41	45	43	32	31	9	不整形	
42	28	25	12	11	51	不整形	
43	20	18	14	12	14	五角形	
44	19	16	11	8	29	楕丸方形	
45	33	23	15	15	48	不整形	
46	26	21	18	16	57	不整形	1脚立-5
47	17	17	11	9	41	楕丸方形	
48	37	39	27	23	62	不整形	1脚立-4
49	23	21	16	11	34	楕丸方形	
50	24	24	18	17	24	五角形	
51	35	28	27	21	13	楕円形	
52	38	36	17	17	48	不整形	1脚立-12
53	25	25	15	15	33	不整形	
54	37	36	15	14	16	不整形円形	
55	22	22	16	11	27	不整形	
56	25	23	15	14	39	不整形	
57	22	20	12	9	43	不整形	
58	36	32	20	18	50	六角形	1脚立-14
59	35	25	18	16	25	五角形	
60	28	26	18	18	22	五角形	
61	21	20	14	12	13	楕丸方形	
62	29	25	14	13	36	不整形	26脚立-6
63	25	20	14	13	24	楕丸方形	
64	25	20	8	6	38	不整形	
65	22	19	15	15	28	楕丸方形	25脚立-5
66	37	32	27	21	33	不整形	
67	28	24	20	19	65	五角形	20脚立-4
68	—	23	—	14	31	(楕丸方形)	
69	33	32	18	17	42	楕丸方形	16脚立-6
70	18	18	8	7	32	楕丸方形	
71	29	—	16	—	46	不整形	
72	46	28	16	16	52	不整形	
73	31	28	22	17	40	楕丸方形	18脚立-4
74	25	24	13	13	61	不整形円形	
75	25	23	15	15	19	楕丸方形	
76	28	27	17	17	30	楕丸方形	20脚立-5
77	33	29	24	24	41	楕丸方形	17脚立-5
78	25	25	16	15	36	楕丸方形	
79	30	29	18	17	30	楕丸方形	
80	26	24	11	10	51	楕丸方形	
81	40	36	22	17	61	不整形	1脚立-2
82	35	30	19	16	42	楕丸方形	16脚立-7
83	25	25	10	8	31	不整形円形	1脚立-18
84	31	25	—	—	28	楕円形	
85	30	28	17	15	61	楕丸方形	26脚立-7
86	28	25	11	10	39	不整形円形	
87	31	26	16	12	17	不整形	
88	21	18	11	10	30	楕丸方形	
89	23	20	11	8	50	楕丸方形	1脚立-19

第3章 林中原1遊跡

C+N	上・長径	上・短径	下・長径	下・短径	深さ	形態	備考
90	29	25	16	13	28	圓丸方形	
91	33	29	22	20	250	圓丸方形	
92	34	30	20	20	45	不整形	18獨立-15
93	41	27	12	—	34	不整形	
94	40	37	13	12	29	不整形	
95	28	26	15	13	35	不整形	
96	35	35	12	11	36	五角形	
97	23	19	13	9	36	不整形	
98	23	22	17	13	28	不整形	
99	25	23	16	13	29	圓丸方形	
100	29	27	19	19	41	不整形	23獨立-3
101	29	27	16	15	14	不整形	
102	34	30	18	16	13	不整形	
103	42	34	26	22	35	不整形	1獨立-16
104	38	34	16	16	30	不整形	
105	36	32	12	11	46	圓丸方形	
106	35	29	20	17	42	不整形	23獨立-2
107	27	19	12	12	45	不整形	
108	22	21	6	6	44	圓丸方形	
109	33	30	12	12	58	不整形	
110	37	35	12	—	27	不整形	1獨立-17
111	29	23	12	10	17	圓丸方形	
112	47	41	37	30	20	圓丸方形	
113	33	33	14	14	45	不整形	
114	26	25	13	11	34	不整形	
115	33	27	14	12	36	楕円形	
116	32	31	18	16	23	不整形	
117	28	28	17	17	17	圓丸方形	
118	30	26	13	12	56	圓丸方形	1獨立-1
119	40	33	27	20	30	圓丸方形	23獨立-1
120	22	21	15	12	24	圓丸方形	
121	53	30	15	14	39	不整形	17獨立-6
122	45	33	19	19	38	不整形	16獨立-8
123	32	27	15	15	35	楕円形	
124	24	22	19	16	19	圓丸方形	
125	24	24	17	14	41	圓丸方形	32獨立-11
126	32	30	12	9	25	圓丸長方形	25獨立-7
127	24	20	17	13	47	不整形	18獨立-6
128	24	24	17	13	58	圓丸方形	19獨立-4
129	31	28	13	13	54	圓丸方形	18獨立-11
130	18	16	8	6	33	圓丸方形	
131	21	20	14	14	20	圓丸方形	
132	27	20	21	16	13	圓丸長方形	
133	18	16	13	10	12	圓丸方形	
134	42	40	35	27	13	不整形	
135	—	25	13	13	30	不整形	
136	26	22	14	13	48	圓丸方形	1獨立-3
137	22	20	14	13	24	圓丸方形	
138	68	51	42	27	55	不整形	1獨立-6
139	17	17	11	10	40	圓丸方形	
140	24	23	18	13	20	圓丸方形	18獨立-5
141	28	23	13	12	36	圓丸方形	25獨立-6
142	22	—	16	—	27	不整形	
143	22	21	14	13	12	圓丸方形	
144	22	21	13	12	60	圓丸方形	
145	25	23	15	14	8	圓丸方形	32獨立-10
146	22	18	16	12	16	圓丸方形	1獨立-13
147	17	15	10	8	31	圓丸方形	20獨立-6
148	20	17	8	8	19	楕円形	
149	48	39	20	10	31	圓丸方形	
150	55	50	16	11	27	圓丸方形	
151	34	34	21	20	15	圓丸方形	
152	41	35	26	26	18	圓丸方形	
153	43	35	28	20	17	多角形	
154	37	30	24	17	35	多角形	
155	41	35	17	15	35	多角形	
156	46	45	24	21	20	不整形	
157	32	28	16	16	15	圓丸方形	
158	44	38	11	11	15	圓丸方形	

C+N	上・長径	上・短径	下・長径	下・短径	深さ	形態	備考
159	40	34	20	15	20	圓丸方形	
160	50	40	28	24	29	圓丸方形	
161	37	35	30	15	18	不整形	
162	57	45	45	28	25	楕円形	
163	40	34	20	18	14	圓丸方形	
164	48	38	40	27	17	圓丸方形	
165	20	17	10	9	14	楕円形	
166	25	23	15	14	16	楕円形	
167	32	30	15	8	19	不整形	
168	24	24	15	15	18	正円形	
169	47	38	35	18	31	楕円形	
170	34	27	24	19	17	圓丸方形	
171	25	23	15	7	22	(五角形)	
172	25	23	8	8	22	圓丸方形	
173	35	29	13	4	19	圓丸方形	
174	46	46	27	22	21	不整形	
175	32	26	18	16	25	楕円形	
176	23	21	13	11	18	圓丸方形	28獨立-4
177	—	27	—	17	9	(楕円形)	
178	—	27	22	15	16	(楕円形)	
179	18	16	11	10	16	正円形	
180	23	19	15	12	11	圓丸方形	28獨立-3
181	40	21	20	13	14	圓丸方形	
182	21	19	14	11	11	圓丸方形	4獨立-5
183	23	23	15	14	18	正円形	21獨立-7
184	26	25	18	18	20	正円形	4獨立-6
185	35	33	22	19	23	正円形	21獨立-1
186	42	32	17	16	28	圓丸方形	13獨立-8
187	24	23	16	14	31	正円形	28獨立-7
188	20	20	13	12	16	正円形	
189	24	23	16	14	9	正円形	
190	24	22	23	15	13	不整形	
191	21	20	12	12	7	正円形	
192	24	20	19	14	8	楕円形	4獨立-7
193	24	24	10	9	21	正円形	4獨立-1
194	26	24	13	13	28	正円形	4獨立-2
195	26	26	18	16	20	正円形	
196	23	22	14	13	18	正円形	
197	34	27	20	18	45	楕円形	13獨立-1
198	22	18	13	11	9	楕円形	4獨立-3
199	33	24	25	17	32	楕円形	13獨立-7
200	37	30	16	16	14	楕円形	21獨立-5
201	34	31	29	20	19	圓丸方形	33獨立-4
202	22	19	12	12	12	圓丸方形	
203	22	22	14	14	17	正円形	21獨立-9
204	38	31	16	16	33	楕円形	21獨立-2
205	31	30	18	18	57	圓丸方形	13獨立-2
206	15	15	17	16	10	不整形	
207	37	35	21	19	39	不整形	21獨立-3
208	39	39	28	27	22	不整形	13獨立-3
209	33	31	20	19	20	圓丸方形	13獨立-4
210	28	28	20	18	17	正円形	21獨立-11
211	20	20	13	13	10	不整形	13獨立-5
212	31	26	15	13	14	楕円形	
213	54	38	24	23	23	長円形	13獨立-6
214	23	23	14	14	14	正円形	13獨立-10
215	20	19	14	11	7	正円形	41獨立-4
216	38	28	23	9	14	楕円形	21獨立-6
217	34	28	18	18	22	圓丸方形	3獨立-9
218	32	26	14	13	31	圓丸方形	11獨立-4
219	62	51	38	35	36	楕円形	2獨立-10 柱礎
220	36	—	23	20	19	圓丸方形	14獨立-8
221	42	35	26	23	13	楕円形	
222	27	24	19	14	9	不整形	
223	33	28	20	18	23	楕円形	
224	32	26	20	17	42	不整形	14獨立-9
225	38	31	19	11	19	楕円形	22獨立-7
226	36	33	22	21	20	圓丸方形	27獨立-8
227	29	28	16	15	19	圓丸方形	11獨立-6

C+No.	↑-長径	↑-短径	↓-長径	↓-短径	深さ	形態	備考
228	31	31	20	20	31	圓丸方形	11個立-7
229	30	26	19	14	14	正円形	
230	50	45	37	33	24	圓丸方形	2個立-11
231	35	25	19	13	16	楕円形	22個立-6
232	38	38	27	23	26	正円形	27個立-7
233	29	28	15	15	41	正円形	11個立-5
234	32	29	16	13	32	圓丸方形	31個立-5
235	35	30	18	14	17	楕円形	5個立-3
236	26	22	18	14	17	圓丸方形	21個立-8
237	24	23	17	16	25	正円形	
238	21	20	13	12	16	圓丸方形	33個立-3
239	26	21	16	10	11	圓丸方形	
240	20	18	12	1	12	正円形	
241	20	17	11	9	23	正円形	5個立-6
242	30	29	19	19	22	正円形	2個立-26
243	25	24	16	14	10	正円形	
244	34	28	15	15	23	圓丸方形	2個立-27
245	37	26	22	13	20	楕円形	
246	25	25	12	11	25	正円形	
247	21	21	14	13	15	正円形	
248	33	31	18	17	24	正円形	11個立-3
249	28	24	17	15	17	圓丸方形	
250	34	30	14	13	32	圓丸方形	
251	53	44	20	17	50	(圓丸方形)	14個立-7
252	37	31	28	21	46	圓丸方形	27個立-9
253	50	47	33	31	34	圓丸方形	2個立-13
254	26	23	14	13	18	圓丸方形	22個立-4
255	57	40	39	32	44	楕円形	2個立-4
256	52	45	30	28	53	圓丸方形	14個立-5 柱直
257	-	37	-	15	48	(楕円形)	
258	-	-	-	17	48	(圓丸方形)	
259	29	22	17	16	28	楕円形	11個立-8
260	46	35	23	23	49	圓丸方形	2個立-20
261	26	25	20	18	52	圓丸方形	
262	37	35	32	23	52	圓丸方形	27個立-5
263	-	30	-	18	51	不整形	
264	40	36	27	26	30	圓丸方形	
265	33	28	23	16	38	圓丸方形	27個立-6
266	-	43	-	30	60	(不整形円形)	
267	50	45	45	44	56	圓丸方形	2個立-6 柱直
268	-	34	23	-	28	(不整形円形)	2個立-7
269	33	31	13	9	31	不整形円形	2個立-25 柱直
270	32	28	-	15	39	不整形円形	11個立-2
271	55	46	40	36	14	圓丸方形	2個立-23
272	30	25	20	17	33	圓丸方形	5個立-7
273	42	34	20	20	46	楕円形	11個立-1
274	36	31	23	13	43	圓丸方形	
275	32	28	15	14	52	圓丸方形	11個立-10
276	38	32	25	19	30	楕円形	27個立-19
277	29	28	16	16	46	圓丸方形	11個立-9
278	49	46	18	18	48	圓丸方形	2個立-5
279	49	45	28	28	44	圓丸方形	14個立-6
280	21	20	13	13	46	圓丸方形	2個立-21
281	-	41	-	9	45	不整形	22個立-13
282	33	28	24	21	30	(不整形円形)	
283	24	24	10	10	40	不整形円形	
284	24	23	16	15	26	圓丸方形	23個立-6
285	13	13	7	6	30	正円形	1柱列-1
286	26	24	12	12	27	不整形円形	23個立-7
287	36	32	24	22	18	楕円形	
288	23	22	17	13	10	圓丸方形	23個立-5
289	11	10	6	5	25	正円形	1柱列-3
290	12	12	7	4	23	正円形	1柱列-4
291	17	15	9	8	31	正円形	1柱列-2
292	22	20	13	12	12	三角形	23個立-4
293	35	-	21	-	19	不整形	
294	35	32	19	18	15	不整形	53x7個立-7
295	13	13	6	6	28	正円形	
296	17	16	9	9	14	不整形円形	23個立-8

C+No.	↑-長径	↑-短径	↓-長径	↓-短径	深さ	形態	備考
297	26	17	19	10	10	三角形	
298	26	25	18	16	49	圓丸方形	23個立-9
299	35	15	25	11	19	圓丸長方形	
300	24	21	15	13	19	不整形	
301	27	20	17	12	19	楕円形	
302	30	28	19	17	48	楕円形	16個立-9
303	41	32	29	18	22	楕円形	19個立-5
304	18	18	11	11	13	正円形	25個立-8
305	-	18	-	9	15	(不整形円形)	
306	30	25	21	17	27	圓丸方形	31個立-4
307	31	24	20	15	46	圓丸方形	
308	32	29	21	18	41	圓丸方形	14個立-21
310	24	24	14	10	19	正円形	22個立-5
311	37	32	25	17	21	圓丸方形	11個立-12
312	32	28	17	15	35	楕円形	29個立-6
313	29	27	17	15	17	圓丸方形	
314	26	24	27	14	14	圓丸方形	
315	42	32	29	18	16	不整形	22個立-9
316	46	45	36	35	22	正円形	14個立-12
317	18	18	10	10	26	正円形	
318	49	40	31	27	37	不整形円形	2個立-15
319	18	17	8	8	18	不整形円形	
320	33	29	21	17	23	楕円形	
321	29	27	14	10	42	圓丸方形	
322	38	37	23	21	18	不整形円形	
323	32	27	16	15	39	不整形円形	31個立-7
324	19	17	13	11	11	圓丸方形	
325	29	27	15	13	24	圓丸方形	
326	23	20	10	9	21	不整形円形	19個立-2
327	23	23	13	12	18	不整形円形	53x7個立-6
328	15	15	7	7	17	不整形円形	
329	47	42	28	27	63	不整形円形	16個立-2 柱直
330	24	23	14	12	63	圓丸方形	19個立-3
331	20	18	7	6	41	圓丸方形	
332	42	34	16	15	45	不整形	9個立-6
333	33	30	17	17	37	圓丸方形	25個立-9
334	37	32	16	13	48	楕円形	20個立-2
335	33	32	22	17	50	圓丸方形	9個立-4
336	37	35	23	21	41	圓丸方形	27個立-11
337	34	25	15	13	63	(楕円形)	32個立-8
338	41	32	23	23	55	不整形円形	16個立-3
339	30	24	-	13	43	長方形	18個立-7
340	45	29	25	13	35	楕円形	17個立-7
341	18	17	9	8	88	不整形円形	
342	48	-	24	-	20	[不整形円形]	
343	20	18	13	10	13	不整形円形	
344	20	15	7	7	26	不整形円形	
345	29	28	15	15	26	圓丸方形	53x7個立-15
346	42	38	21	18	54	不整形円形	24個立-10
347	40	39	15	12	40	楕円形	
348	34	33	15	14	48	正円形	
349	30	27	21	15	26	不整形円形	53x7個立-14
350	42	35	24	19	72	不整形円形	17個立-4
351	42	37	17	17	63	不整形円形	14個立-13
352	26	19	11	10	20	楕円形	
353	33	30	24	22	50	楕円形	26個立-2
354	-	29	-	14	28	不整形	16個立-5 35504-
355	-	27	-	14	31	不整形円形	16個立-5 35404-
356	32	28	20	18	42	圓丸方形	24個立-6
357	47	39	18	17	40	楕円形	24個立-8
358	33	29	13	12	68	圓丸方形	16個立-15 柱直
359	29	25	13	13	40	圓丸方形	
360	46	35	17	16	68	圓丸長方形	8個立-6
361	36	31	15	14	73	楕円形	25個立-3
362	24	20	12	10	37	不整形円形	
363	34	34	14	14	27	圓丸方形	29個立-7
364	27	24	15	13	51	圓丸方形	
365	30	26	16	16	12	不整形円形	
366	35	32	15	13	35	(圓丸方形)	

第3章 林中原1遊跡

C+N	上・長径	上・短径	下・長径	下・短径	深さ	形態	備考
367	39	28	22	17	46	楕円形	14個立-11
368	28	20	11	9	19	不整形	
369	30	26	12	12	45	圓丸方形	2個立-14
370	36	30	18	18	48	圓丸方形	2個立-16
371	36	34	17	16	61	不整形	8個立-4 柱遺
372	38	37	23	23	34	圓丸方形	2個立-28 柱遺
373	41	36	15	13	43	圓丸方形	31個立-6
374	17	14	8	7	16	不整形	4個立-4
375	17	17	9	8	17	正円形	13個立-9
376	24	24	15	13	21	正円形	21個立-10
377	-10	-	(9)	-	-	一	
378	31	29	14	13	38	不整形	16個立-12
379	23	22	14	13	11	正円形	
380	37	32	19	18	34	不整形	6個立-9
381	45	40	37	35	44	不整形	3個立-6
382	33	24	24	14	9	圓丸方形	
383	23	19	14	12	36	楕円形	32個立-7 3896号一
384	25	17	11	9	32	楕円形	
385	32	23	16	10	28	長方形	16個立-4
386	41	34	25	-	8	圓丸方形	32個立-7 383号一
387	28	22	13	12	62	楕円形	
388	31	24	14	12	55	長方形	18個立-15
389	41	38	21	18	41	正円形	24個立-9
390	43	42	20	18	80	正円形	20個立-7
391	47	45	30	26	23	不整形	6個立-6
392	27	20	15	8	58	楕円形	
393	37	30	20	-	43	不整形	3個立-4
394	32	27	11	10	50	楕円形	
395	28	27	14	14	39	圓丸方形	32個立-6
396	37	34	20	18	31	楕円形	14個立-14
397	26	22	11	10	30	圓丸方形	
398	42	30	-	15	23	長方形	
399	33	26	14	13	47	楕円形	32個立-5
400	-	50	-	20	72	不整形	
401	-	42	-	-	19	不整形	
402	-	40	-	14	76	不整形	9個立-8
403	29	27	15	14	59	不整形	16個立-14
404	34	26	12	11	68	楕円形	
405	32	32	13	12	72	正円形	18個立-8
406	-	24	-	13	29	楕円形	
407	26	24	16	13	43	正円形	6個立-8
408	42	33	26	17	55	楕円形	3個立-5
409	22	20	15	12	27	不整形	7個立-5
410	47	32	32	13	67	(楕円形)	18個立-2
411	29	29	22	17	24	不整形	
412	33	26	10	8	53	楕円形	24個立-11
413	52	40	15	10	34	不整形	
414	30	29	13	13	28	不整形	
415	32	28	18	18	25	不整形	7個立-4
416	41	40	22	22	60	正円形	17個立-9
417	16	16	9	9	20	正円形	32個立-1
418	40	35	15	14	62	楕円形	9個立-7
419	27	27	13	13	43	不整形	20個立-8
420	33	30	21	18	21	不整形	32個立-2
421	21	18	9	6	25	不整形	
422	19	15	7	7	24	不整形	
423	36	30	22	16	22	楕円形	
424	21	16	13	10	10	楕円形	7個立-2
425	37	37	24	17	40	不整形	6個立-2
426	50	48	25	16	68	楕円形	3個立-9
427	24	21	14	13	16	三角形	
428	13	12	5	5	33	正円形	
429	41	32	26	23	59	楕円形	17個立-10
430	25	21	18	13	10	不整形	
431	40	33	13	11	33	圓丸方形	
432	-	22	-	16	18	不整形	7個立-3
433	37	34	18	17	44	楕円形	6個立-3
434	43	38	24	22	81	不整形	3個立-10
435	25	18	12	11	21	楕円形	

C+N	上・長径	上・短径	下・長径	下・短径	深さ	形態	備考
436	24	18	16	-	9	不整形	
437	23	23	15	15	12	不整形	
438	19	15	10	10	12	不整形	
439	28	27	11	11	32	不整形	
440	37	32	23	19	83	五角形	3個立-12
441	20	18	13	11	11	楕円形	
442	23	23	16	16	8	圓丸方形	
443	32	27	18	18	60	圓丸方形	3個立-11
444	17	16	8	8	8	三角形	30個立-9
445	20	18	13	8	14	楕円形	30個立-8
446	31	26	18	14	21	圓丸方形	30個立-7
447	15	12	8	6	13	不整形	
448	26	25	16	15	35	圓丸方形	30個立-6
449	32	32	17	17	42	正円形	6個立-4
450	31	26	16	13	30	楕円形	25個立-13
451	47	40	18	16	27	楕円形	9個立-10
452	18	15	9	6	14	楕円形	
453	24	24	13	10	35	不整形	30個立-5
454	35	28	23	18	13	楕円形	
455	33	27	10	10	53	楕円形	
456	47	42	24	24	74	不整形	3個立-2
457	30	25	11	11	56	楕円形	6個立-5
458	34	32	25	21	15	不整形	
459	40	38	23	18	78	不整形	3個立-3
460	22	22	13	10	29	不整形	30個立-4
461	34	32	19	-	17	(圓丸方形)	
462	26	22	10	10	35	楕円形	15個立-9
463	40	29	16	16	52	楕円形	9個立-1
464	26	25	18	18	18	不整形	30個立-3
465	28	22	12	10	24	楕円形	
466	31	26	16	15	18	楕円形	
467	25	21	18	15	11	圓丸方形	
468	20	20	12	11	28	正円形	
469	30	-	-	-	13	楕円形	
470	30	30	15	15	50	双円形	15個立-1
471	33	30	21	18	16	圓丸方形	15個立-6
472	30	28	17	16	35	圓丸方形	
473	21	21	13	13	23	正円形	15個立-2
474	39	33	10	10	57	不整形	20個立-1
475	43	39	22	21	78	不整形	14個立-15
476	37	35	15	14	49	楕円形	32個立-4
477	29	29	18	17	45	正円形	
478	21	20	13	9	39	不整形	
欠479	-	39	-	19	57	楕円形	
480	-	44	-	18	69	楕円形	9個立-3
481	-	22	-	11	32	不整形	
482	41	37	18	17	61	不整形	8個立-5
483	26	23	17	16	8	不整形	
484	40	36	22	20	84	不整形	3個立-1
485	19	16	13	8	15	不整形	
486	27	27	16	14	34	三角形	
487	31	28	21	19	42	圓丸方形	30個立-2
488	37	34	24	18	48	不整形	30個立-1 柱遺
489	22	20	12	8	22	不整形	15個立-8
490	18	18	11	11	10	正円形	
491	-	28	-	9	40	不整形	24個立-1 4829号一
492	-	26	-	9	41	不整形	24個立-1 4814号一
493	33	33	16	15	74	正円形	18個立-9
494	30	-	18	12	24	不整形	
495	44	32	8	8	57	楕円形	
496	25	25	18	15	28	圓丸方形	
497	37	37	20	20	38	正円形	24個立-2
498	28	28	18	17	17	不整形	
499	29	28	24	21	22	正円形	
500	37	-	20	15	31	(楕円形)	
501	39	36	17	23	78	不整形	18個立-10
502	40	38	26	16	52	正円形	24個立-3
503	-	36	-	23	38	不整形	
504	46	45	23	22	70	正円形	

C+No.	F+長径	F+短径	F+長径	F+短径	深さ	形態	備考
505	44	37	25	22	48	不整形円	9脚立-9
506	38	34	24	24	64	圓丸方形	17脚立-1
507	27	21	11	11	51	楕円形	
508	29	23	16	15	19	楕円形	
509	41	36	21	21	87	不整形円	8脚立-8 柱直
510	36	32	17	16	44	不整形円	25脚立-1
511	32	30	18	17	49	圓丸方形	27脚立-14
512	28	24	14	13	54	圓丸方形	15脚立-5
513	27	27	19	19	10	圓丸方形	
514	26	26	10	9	18	不整形円	8脚立-9
515	23	22	10	10	26	圓丸方形	
516	30	30	17	17	46	圓丸方形	27脚立-15
517	34	33	18	17	30	圓丸方形	
518	27	23	18	17	19	圓丸方形	
519	15	15	6	5	43	圓丸方形	
520	26	21	20	12	16	楕円形	
521	42	38	10	10	73	不整形円	17脚立-2
522	23	23	16	14	25	正円形	
523	31	31	14	13	90	不整形円	25脚立-12 柱直
524	33	27	11	10	56	不整形円	32脚立-2
525	30	29	16	13	31	圓丸方形	20脚立-3
526	27	27	14	13	60	正円形	25脚立-4
527	37	37	21	20	44	不整形円	27脚立-10 柱直
528	32	32	12	10	57	圓丸方形	31脚立-8
529	34	25	25	19	16	楕円形	
530	43	34	27	19	65	楕円形	8脚立-3
531	50	35	37	16	11	楕円形	
532	38	26	24	17	20	楕円形	22脚立-2
533	25	23	11	11	55	不整形円	29脚立-8
534	44	33	31	28	25	楕円形	
535	55	42	24	22	61	圓丸方形	14脚立-1
536	40	35	14	14	70	不整形円	
537	30	—	9	7	53	楕円形	25脚立-2
538	20	19	12	11	44	正円形	
539	43	33	27	14	36	不整形円	
540	—	38	—	17	62	不整形円	14脚立-16
541	29	27	20	19	13	不整形円	
542	—	37	—	—	—	—	
543	40	30	31	14	70	圓丸方形	8脚立-7 柱直
544	43	39	21	21	62	不整形円	14脚立-17
545	40	37	32	27	59	不整形円	24脚立-5 柱直
546	42	41	24	22	57	圓丸方形	2脚立-1
547	—	33	—	16	38	(圓丸長方形)	
548	36	36	24	24	57	不整形円	14脚立-2
549	23	23	13	13	48	不整形円	29脚立-3
550	—	36	—	12	45	三角形	
551	—	21	—	13	26	(圓丸長方形)	
552	25	23	18	15	17	圓丸方形	22脚立-1
553	—	32	—	24	63	不整形円	14脚立-3
554	57	35	35	32	53	楕円形	29脚立-4
555	32	28	18	14	49	不整形円	18脚立-1
556	21	20	13	10	35	三角形	
557	38	32	24	20	49	圓丸方形	14脚立-19
558	40	36	20	18	74	圓丸方形	8脚立-2
559	48	38	18	18	36	圓丸方形	2脚立-18
560	47	39	14	10	49	圓丸方形	
561	38	33	25	20	43	圓丸方形	27脚立-2
562	—	40	—	19	44	圓丸長方形	31脚立-1
563	28	25	12	12	47	圓丸方形	
564	24	21	16	15	10	圓丸方形	
565	22	20	14	11	19	圓丸方形	
566	22	21	14	12	19	正円形	
567	45	43	28	25	32	圓丸方形	
568	30	29	20	18	38	圓丸方形	27脚立-16
569	38	37	18	18	66	圓丸方形	8脚立-1
570	31	30	14	14	41	楕円形	15脚立-4
571	35	28	19	18	32	圓丸方形	
572	30	27	15	14	35	不整形円	27脚立-17
573	20	19	9	9	45	不整形円	

C+No.	F+長径	F+短径	F+長径	F+短径	深さ	形態	備考
574	21	15	13	8	5	楕円形	15脚立-7
575	32	30	9	8	54	不整形円	15脚立-3
576	23	21	11	10	22	不整形円	22脚立-11
577	32	30	16	16	63	圓丸方形	14脚立-18
578	22	21	10	10	52	圓丸方形	
579	27	24	11	9	40	圓丸方形	
580	14	14	7	6	30	不整形円	
581	42	34	21	20	87	不整形円	
582	34	33	19	18	79	不整形円	
583	32	29	14	14	45	不整形円	27脚立-13
584	—	28	—	16	21	不整形円	
585	36	32	18	—	57	圓丸方形	
586	42	—	30	21	41	(不整形円)	17脚立-3
587	43	35	21	19	22	不整形円	24脚立-7
588	42	38	14	14	59	不整形円	18脚立-3
589	28	23	16	15	25	不整形円	
590	30	26	13	12	56	不整形円	
591	36	—	14	—	42	楕円形	
592	28	21	18	14	22	圓丸方形	25脚立-11
593	27	25	13	13	61	不整形円	6脚立-7
594	37	33	22	18	53	不整形円	18脚立-14
595	38	33	14	12	35	不整形円	
596	19	16	11	7	41	不整形円	
597	31	30	21	20	73	圓丸方形	27脚立-1
598	37	28	18	17	54	楕円形	2脚立-17
599	39	30	17	15	39	楕円形	
600	37	35	24	22	35	正円形	27脚立-18 柱直
601	22	22	13	12	34	不整形円	
602	32	30	19	19	58	圓丸方形	27脚立-4
603	38	34	22	20	59	不整形円	
604	18	17	10	10	44	不整形円	31脚立-3
605	—	38	—	15	39	長円形	
606	30	22	14	12	36	圓丸方形	
607	33	28	17	12	58	圓丸方形	31脚立-2
608	21	20	12	12	35	正円形	27脚立-3
609	31	26	16	13	22	楕円形	22脚立-3
610	—	28	—	13	24	(長円形)	
611	53	40	37	32	58	圓丸長方形	2脚立-3 柱直
612	55	31	37	18	54	双円形	14脚立-4
613	44	27	27	18	53	圓丸長方形	29脚立-5
614	34	34	14	14	52	圓丸方形	
615	—	36	24	22	49	(圓丸長方形)	14脚立-20
616	30	23	16	11	57	圓丸方形	2脚立-19
617	38	33	21	18	42	圓丸方形	22脚立-12
618	21	19	12	10	9	圓丸方形	
619	30	27	16	16	25	圓丸方形	
620	24	23	17	11	22	圓丸方形	
621	36	32	22	20	36	不整形円	16脚立-13
622	38	37	11	10	75	不整形円	18脚立-13
623	44	36	14	12	59	不整形円	17脚立-8
624	37	30	15	12	40	不整形円	25脚立-10
625	45	34	17	17	71	楕円形	27脚立-12
626	31	27	18	17	94	不整形円	
627	27	25	16	13	74	不整形円	
628	35	30	14	14	19	圓丸方形	
629	24	21	14	12	13	圓丸方形	2脚立-24
630	35	33	25	20	30	圓丸方形	11脚立-13
631	20	19	11	10	13	圓丸方形	
632	32	28	19	17	16	圓丸方形	12脚立-10
633	40	30	23	20	25	楕円形	2脚立-8
634	27	26	15	13	11	圓丸方形	
635	30	30	16	15	21	圓丸方形	5脚立-2
636	25	25	15	15	16	圓丸方形	33脚立-5
637	33	28	18	16	15	圓丸方形	
638	34	32	19	15	19	圓丸方形	33脚立-1
639	30	24	20	15	11	圓丸方形	
640	26	26	15	(9)	14	正円形	5脚立-1
641	26	23	16	11	15	圓丸方形	12脚立-9
642	35	34	20	18	11	圓丸方形	12脚立-8

第3章 林中原1遺跡

C+No.	上・長径	上・短径	下・長径	下・短径	深さ	形態	備考
643	30	27	16	14	6	橢圓方形	12個立-7
644	52	47	31	30.	17	橢圓方形	12個立-6
645	34	30.	24	18	20.	橢圓方形	
646	36	34	21	20	42	橢圓方形	12個立-5
647	36	31	21	18	20	橢圓方形	
648	48	46	33	30	30	正円形	12個立-4
649	33	29	18	18	17	橢圓方形	
650	34	31	21	18	14	正円形	
651	35	35	20	16	28	橢圓方形	12個立-3 柱礎
652	54	42	19	17	38	楕円形	12個立-2
653	47	43	25	16	39	橢圓方形	12個立-1
654	44	43	18	12	27	橢圓方形	
655	27	24	11	10	78	不整形円形	
656	27	24	16	14	7	橢圓方形	
657	55	46	—	8	26	不整形円形	26個立-1
658	40	—	13	13	62	不整形円形	18個立-12
659	23	24	14	13	22	不整形円形	
660	38	33	11	11	47	楕円形	29個立-1
661	—	32	—	14	53	不整形円形	14個立-16
662	22	20	12	10	27	橢圓方形	
663	20	17	8	8	21	楕円形	
664	30	28	17	15	37	不整形円形	24個立-4
665	—	40	—	—	21	不整形円形	
666	—	20	—	16	9	(長円形)	
667	—	29	—	11	30	不整形円形	
668	25	25	16	9	43	不整形円形	29個立-9
669	21	21	10	9	60	正円形	
670	39	30	24	16	26	楕円形	27個立-20
671	30	24	15	13	38	楕円形	
672	—	41	—	15	54	(不整形円形)	9個立-2
673	20	17	12	6	16	橢圓方形	
674	21	20	10	7	26	橢圓方形	
675	27	21	12	10	24	楕円形	1個立-10
676	50	36	39	—	27	楕円形	
677	40	36	34	24	15	橢圓方形	
678	27	23	10	10	42	楕円形	32個立-9
679	34.5	25.5	19	17	29	六角形	2面 交個立-12
680	17	14	10	10	19	橢圓長方形	2面
681	17.5	15.5	9.5	9	11	橢圓長方形	2面
682	27	23.5	18.5	15	16	橢圓長方形	2面
683	—	26	—	16	28	不整形円形	2面
684	34	20	13	10.5	30	楕円形	2面 11個立-11
685	18	17	11	11	5	正円形	2面 交個立-14
686	26	24	13.5	10	22	五角形	2面
687	20.5	16	11	8	28	橢圓長方形	2面
688	49	32	13.5	11	42	長方形	2面
689	16	15	10	9	12	正円形	2面
691	21	20	14	10.5	16	五角形	2面 33個立-2
No.6 L	28	15	17	9	65	長方形	2個立-2
No.6 L	48	36	—	21	31	長方形	9個立-5
No.6 L	—	—	—	—	—	不明	29個立-2
33土坑	52	52	37	37	28	正円形	2個立-12
33土坑	48	38	29	25	24	長方形	2個立-22

53区

C+No.	上・長径	上・短径	下・長径	下・短径	深さ	形態	備考
1	31	27	22	18	22	不整形円形	1個立-4
2	36	32	20	20	22	不整形円形	1個立-3
3	30	27	14	12	31	円形	1個立-2
4	29	28	19	18	28	不整形円形	1個立-1
5	33	32	18	16	31	五角形	1個立-9
6	25	23	9	9	8	円形	1個立-5
7	30	27	8	8	32	三角形	
8	28	26	18	15	10	不整形円形	1個立-6
9	29	28	11	10	27	五角形	1個立-7
10	20	20	14	13	9	不整形円形	
11	31	26	18	9	17	楕円形	
12	26	21	12	11	24	楕円形	
13	53	30	10	6	31	長円形	2個になるか?
14	32	26	13	12	40	橢圓方形	

C+No.	上・長径	上・短径	下・長径	下・短径	深さ	形態	備考	
15	48	45	21	9	42	不整形円形		
16	31	23	15	10	20	多角形		
17	30	22	6	6	23	楕円形		
18	29	29	20	14	12	橢圓方形	1個立-8	
19	20	18	12	10	7	不整形円形		
20	23	22	14	12	12	橢圓方形		
21	23	22	15	13	5	五角形	3個立-6	
22	25	21	13	12	9	多角形	3個立-10	
23	26	21	16	13	13	不整形円形		
24	16	15	9	8	6	不整形円形		
25	27	24	18	12	9	不整形円形		
26	22	18	14	12	4	不整形円形	3個立-8	
27	25	20	14	14	5	多角形	3個立-11	
28	16	15	9	7	4	不整形円形	3個立-4	
29	19	19	11	10	6	五角形		
30	20	16	10	10	7	三角形	3個立-9	
31	28	25	19	18	19	不整形円形	3個立-7	
32	20	19	18	11	6	不整形円形		
33	14	13	8	8	5	楕円形	3個立-1	
34	25	21	20	16	7	不整形円形	3個立-2	
35	18	18	12	9	6	三角形	3個立-3	
36	32	26	16	13	12	多角形	2個立-1	
37	28	21	11	10	27	楕円形		
38	23	21	10	9	40	橢圓方形		
39	12	12	10	7	4	楕円形	3個立-5	
40	28	24	19	14	12	三角形	2個立-12	
41	16	15	10	7	13	多角形		
42	19	17	12	12	4	不整形円形	2個立-11	
43	20	19	13	11	5	不整形円形	2個立-10	
44	23	19	13	12	10	不整形円形	2個立-2	
45	25	20	13	13	12	不整形円形	2個立-3	
46	22	19	13	11	7	不整形円形	2個立-4	
47	22	19	13	10	7	多角形	2個立-5	
48	24	19	13	11	15	三角形	2個立-6	
49	3	6	30	12	8	34	楕円形	
50	23	20	12	12	19	五角形	2個立-7	
51	26	24	17	12	18	不整形円形	2個立-9	
52	18	16	11	9	12	不整形円形	2個立-8	
53	23	22	16	15	6	円形		
54	21	22	9	8	15	橢圓方形		
55	34	32	20	16	18	不整形円形		
56	19	17	10	10	17	橢圓方形		
57	28	24	16	—	8	不整形円形		
58	27	23	17	15	12	五角形		
59	28	25	16	13	24	橢圓方形		
60	16	16	11	9	8	五角形		
61	23	20	14	10	23	橢圓方形		
62	24	20	14	11	11	五角形		
63	19	17	12	9	13	橢圓方形	4個立-1	
64	26	16	14	7	10	長円形	4個立-2	
65	21	20	13	11	8	橢圓方形	4個立-3	
66	25	20	17	14	10	橢圓方形	4個立-8	
67	24	23	14	14	8	橢圓方形	4個立-7	
68	20	18	14	14	5	不整形円形	4個立-6	
69	30	30	15	15	31	三角形	袋状 4個立-4	
70	30	28	18	18	16	不整形円形	4個立-5	
71	29	25	17	10	22	五角形		
72	33	25	22	15	21	楕円形		
73	28	24	12	12	23	五角形		
74	33	26	17	12	22	五角形		
75	32	27	12	11	55	多角形		
76	32	32	29	18	27	橢圓方形		
77	29	25	20	15	12	不整形円形		
78	21	20	12	10	36	楕円形		
79	23	20	12	11	23	不整形円形		
80	25	18	15	11	11	楕円形		
81	35	32	22	16	33	橢圓方形		
82	35	33	23	15	17	不整形円形		
83	35	28	17	15	42	楕円形		

C+No.	上・長径	上・短径	下・長径	下・短径	深さ	形態	備考
84	30	28	15	15	40	不整形円	
85	31	30	18	17	19	不整形円	7脚立-10
86	18	16	11	9	6	不整形円	
87	37	32	21	21	9	圓丸方形	
88	31	28	21	16	19	不整形円	
89	24	20	15	10	14	楕円形	
90	38	23	26	25	28	三角形	7脚立-9
91	26	25	17	16	19	不整形円	
92	33	28	24	20	37	圓丸方形	52区16脚立-10
93	30	29	20	16	37	三角形	袋状
94	24	23	16	14	24	不整形円	
95	42	36	27	23	12	不整形円	
96	22	17	13	10	23	楕円形	
97	26	—	16	—	13	—	
98	30	30	18	18	18	不整形円	7脚立-8
99	30	26	20	16	21	不整形円	52区19脚立-6
100	25	18	13	11	3	楕円形	
101	39	33	27	22	17	不整形円	
102	21	17	14	12	8	三角形	
103	27	22	18	15	18	不整形円	
104	27	26	17	16	12	不整形円	
105	29	20	17	11	8	三角形	
106	37	28	23	15	23	長円形	
107	22	17	13	10	18	三角形	
108	25	21	17	11	16	楕円形	
109	21	21	14	13	12	圓丸方形	
110	44	28	22	15	20	不整形円	7脚立-5
111	28	25	16	15	21	不整形円	
112	23	22	15	13	10	不整形円	52区19脚立-1
113	30	25	22	18	8	圓丸方形	2柱脚-6
114	20	19	12	11	5	円形	5脚立-4
115	25	19	16	11	12	楕円形	
116	25	25	15	14	7	円形	
117	18	15	11	11	8	圓丸方形	2柱脚-5
118	34	31	25	17	37	不整形円	7脚立-1
119	23	21	18	11	20	楕円形	5脚立-5
120	20	20	14	11	18	不整形円	5脚立-3
121	17	17	10	10	17	不整形円	7脚立-2
122	31	27	16	16	36	不整形円	7脚立-3
123	27	25	16	15	15	不整形円	
124	25	23	14	13	29	不整形円	5脚立-2
125	25	22	18	15	8	楕円形	5柱脚-4
126	22	20	15	12	8	圓丸方形	5柱脚-3
127	28	27	20	15	23	不整形円	7脚立-4
128	29	28	20	(15)	25	不整形円	
129	24	22	15	12	16	不整形円	
130	16	15	8	7	16	円形	
131	26	21	13	13	25	圓丸方形	1柱脚-1
132	31	25	14	12	33	楕円形	1柱脚-2
133	28	24	20	17	4	不整形円	
134	31	24	16	13	36	楕円形	1柱脚-3
135	26	22	20	15	3	不整形円	
136	27	25	20	18	12	不整形円	1柱脚-4
137	22	15	15	10	3	楕円形	2柱脚-4
138	26	25	18	16	14	圓丸方形	
139	26	25	15	14	25	不整形円	
140	30	26	18	14	14	楕円形	2柱脚-3
141	24	22	14	14	18	圓丸方形	
142	26	22	15	13	25	楕円形	5脚立-6
143	24	22	15	13	23	不整形円	7脚立-11
144	26	22	13	13	33	楕円形	5脚立-1
145	25	20	12	12	16	楕円形	5柱脚-2
146	19	19	11	9	35	圓丸方形	7脚立-12
147	19	17	13	12	17	楕円形	5柱脚-1
148	40	34	26	21	34	楕円形	6脚立-5
149	46	20	20	39	39	不整形円	
150	32	31	19	16	68	圓丸方形	52区16脚立-1
151	26	25	18	16	33	圓丸方形	7脚立-13
152	26	25	16	16	33	不整形円	52区16脚立-11

C+No.	上・長径	上・短径	下・長径	下・短径	深さ	形態	備考
154	30	29	22	17	42	不整形円	6脚立-4 柱礎
155	32	29	16	13	40	不整形円	52区6脚立-10
156	33	31	22	21	44	圓丸方形	52区3脚立-7
157	24	24	18	13	21	圓丸方形	52区3脚立-6
158	30	29	21	18	13	圓丸方形	
159	21	21	11	10	20	不整形円	2柱脚-2
160	18	17	11	9	10	円形	3柱脚-5
161	22	21	14	14	16	円形	
162	21	21	14	12	12	円形	
163	28	28	19	18	16	不整形円	
164	28	28	20	18	11	不整形円	3柱脚-4
165	25	25	18	14	19	三角形	2柱脚-1
166	38	34	23	22	30	不整形円	6脚立-7
167	24	20	12	12	20	楕円形	
168	29	27	17	15	42	不整形円	6脚立-6
169	30	25	21	15	13	不整形円	
170	30	25	21	14	21	楕円形	
171	35	30	15	(15)	13	圓丸方形	52区7脚立-7
172	35	30	22	22	46	不整形円	6脚立-3
173	27	25	19	15	14	不整形円	52区7脚立-1
174	25	18	15	11	18	楕円形	
175	27	22	18	15	20	三角形	
176	17	17	11	11	7	円形	
177	38	36	24	23	61	不整形円	6脚立-1 柱礎
178	24	20	16	14	18	楕円形	
179	27	24	16	13	17	不整形円	
180	36	30	17	15	19	圓丸方形	
181	32	28	21	17	18	楕円形	
182	24	21	14	13	15	不整形円	
183	26	25	18	16	16	不整形円	
184	27	23	17	13	11	三角形	3柱脚-2
185	32	29	20	18	24	不整形円	
186	24	21	15	13	10	楕円形	
187	24	21	13	12	11	不整形円	3柱脚-1
188	43	38	19	15	70	不整形円	6脚立-2
189	25	21	17	14	10	楕円形	4柱脚-1
190	30	29	19	16	24	不整形円	4柱脚-2
191	25	22	14	14	18	不整形円	4柱脚-3
192	33	25	17	12	20	圓丸方形	4柱脚-5
193	37	37	20	19	67	不整形円	52区3脚立-8
194	38	33	20	19	34	不整形円	52区6脚立-1
195	19	18	10	9	14	不整形円	
196	16	15	9	8	4	不整形円	
197	20	14	13	7	10	楕円形	
198	21	20	12	11	13	不整形円	
199	18	16	12	10	8	不整形円	
200	24	19	15	12	14	不整形円	4柱脚-4
201	28	26	16	11	13	圓丸方形	
202	21	19	14	11	9	六角形	
203	20	17	13	11	12	不整形円	
204	36	22	14	11	33	双円形	
205	25	24	16	13	20	三角形	
206	24	21	13	12	32	三角形	
207	22	20	14	11	19	圓丸方形	
208	30	26	18	16	24	五角形	
209	26	26	13	12	31	不整形円	
210	20	16	12	9	18	三角形	
211	42	38	13	13	71	不整形円	
212	20	18	11	11	27	圓丸方形	
213	26	25	11	10	22	圓丸方形	
214	52	37	33	22	17	不整形円	
215	22	21	17	8	25	四角形	
216	27	22	10	9	35	三角形	
217	33	30	23	18	15	圓丸方形	
218	37	25	27	13	13	不整形円	
219	29	26	25	14	18	四角形	
220	25	23	15	10	21	圓丸方形	
221	26	23	14	6	16	長円形	
222	22	21	12	6	18	圓丸方形	

第3章 林中原1遺跡

C+No.	上・長径	上・短径	下・長径	下・短径	深さ	形態	備考
223	43	38	30	28	29	不整形	
224	70	68	50	50	47	三角形	
225 (52)	(44)	—	—	—	86	多角形	
226	17	15	8	7	20	円形	
227	20	17	9	7	15	楕円形	
228	26	24	15	14	15	楕丸方形	
229	32	25	22	16	14	五角形	
230	22	19	10	9	25	不整形円形	
231 (67)	(60)	—	—	(31)	—	—	
232	21	20	12	12	10	円形	
233	43	41	25	21	29	六角形	
234	38	37	21	21	39	五角形	
235	100	80	80	50	27	楕円形	
236	47	38	11	10	38	楕円形	
237	50	46	26	19	31	不整形円形	
238	68	42	58	26	32	楕円形	
239	59	57	54	47	28	三角形	
240	31	26	20	14	17	不整形	

62区

C+No.	上・長径	上・短径	下・長径	下・短径	深さ	形態	備考
1	50	33	40	20	8	楕円形	
2	35	30	19	18	16	五角形	
3	40	30	18	12	15	楕円形	
4	28	25	12	8	29	楕丸方形	

C+No.	上・長径	上・短径	下・長径	下・短径	深さ	形態	備考
5	20	17	13	9	31	楕丸方形	
6							
7							
8							
9	42	30	30	20	10	楕丸長方形	
10	32	25	15	12	21	五角形	
11	40	35	27	16	26	五角形	
12	40	33	10	6	32	五角形	
13							
14	40	34	9	5	23	楕円形	
15 (26)	45	(21)	20	38	—	—	
16	35	34	17	13	18	楕円形	
17	30	23	11	8	33	楕丸長方形	
18	40	39	17	13	15	不整形円形	
19	28	26	17	16	14	楕丸方形	
20	23	22	12	10	28	三角形	

63区

C+No.	上・長径	上・短径	下・長径	下・短径	深さ	形態	備考
1	41	26	28	18	22	五角形	
2	22	15	7	6	38	三角形	
3	26	22	13	10	15	不整形円形	
4	47	44	23	21	38	不整形円形	

表118 出土遺物観察表

52K1号住居

検出番号 図版番号	掲載番号	器種	残存状態	出土位置	計測値 (cm, g)				石材	成形、調整の特徴など	備考
					①長さ	②幅	③厚	④重さ			
第2508 PL.81	1	深鉢	口縁部片	粗砂粒・石英・繊維。 やが軟。暗赤褐色。	平縁で口縁部に隆帯がめぐり、縄文はR.L.					塚田式	
第2508 PL.81	2	深鉢	胴部片	粗砂粒・石英・繊維。 やが軟。暗赤褐色。	縄文はR.Lを縦位に重畳施文。					塚田式	
第2508 PL.81	3	深鉢	胴部片	粗砂粒・石英・繊維。 やが軟。暗赤褐色。	縄文はR.Lを縦位に重畳施文。					塚田式	
第2508 PL.81	4	深鉢	胴部片	粗砂粒・繊維。やが軟。 明褐色。	縄文はR.Lを縦位に施文。					塚田式	
第2508 PL.81	5	深鉢	胴部片	粗砂粒・輝石・繊維。 やが軟。暗褐色。	R線2本を巻いた結帯状態で菱形の文様を構成。					塚田式	
第2508 PL.81	6	深鉢	胴部片	粗砂粒・輝石・繊維。 やが軟。暗褐色。	5と同個体。					塚田式	
第2508 PL.81	7	深鉢	胴部片	粗砂粒・輝石・繊維。 やが軟。暗褐色。	5と同個体。					塚田式	
第2508 PL.81	8	深鉢	口縁・胴部	粗砂粒・石英・繊維。且、 にふい・赤褐色・黒褐色。	平縁の深鉢で砲弾形の平底であろう。口縁部に隆帯がめぐり体部には羽状縄文が施される。縄文はR.L.					塚田式	
検出番号 図版番号	掲載番号	器種	残存状態	出土位置	計測値 (cm, g)				石材	成形、調整の特徴など	備考
					①長さ	②幅	③厚	④重さ			
第2508 PL.81	9	石鏃未製品	一握土		①2.1 ②1.6 ③0.6 ④1.3	黒色頁岩	円錐無茎。				
第2508 PL.81	10	打製石斧	完形		①8.1 ②4.1 ③1.5 ④42.0	黒色頁岩	小型で刃部片歯状。				
第2508 PL.81	11	磨石	—		①(13.6) ②6.1 ③6.8 ④860	粗粒輝石安山岩	鋭磨石。断面三角形の頂部に研磨痕が認められる。下部は砥石として使用されており少し荒れている。				

53K1号住居

検出番号 図版番号	掲載番号	器種	残存状態	出土位置	計測値 (cm, g)				石材	成形、調整の特徴など	備考
					①長さ	②幅	③厚	④重さ			
第2808 PL.81	1	深鉢	口縁部片	粗砂粒・石英・繊維。 やが軟。にふい暗褐色。	小波状口縁か。口縁部外端に縄を押し。縄文はL.Rか。					神ノ木式	
第2808 PL.81	2	深鉢	口縁部片	粗砂粒・小礫・繊維。且、 灰褐色。	L縄2本を結節した原体の回転施文か。					神ノ木式	
第2808 PL.81	3	深鉢	胴部片	粗砂粒・小礫・輝石・繊維。 やが軟。暗褐色。	縄文不明瞭。					神ノ木式	
第2808 PL.81	4	深鉢	胴部片	粗砂粒・輝石・繊維。且、 黒褐色。	羽状縄文構成。縄文はL.RとR.L。内面研磨。					神ノ木式	
第2808 PL.81	5	深鉢	胴部片	粗砂粒・輝石・繊維。且、 灰褐色。黒褐色。	4と同個体。内面研磨。					神ノ木式	
第2808 PL.81	6	深鉢	胴部片	粗砂粒・輝石・繊維。 やが軟。暗褐色。	3と同個体。結節部回転施文か。					神ノ木式	
第2808 PL.81	7	深鉢	胴部片	粗砂粒・石英・繊維。且、 暗褐色。	3と同個体か。L縄2本の結節部回転施文であろう。					神ノ木式	

種別番号 図版番号	掲載番号	器種	残存状態	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴、計測値 (cm)	備考
第2980 PL.81	8	深鉢	胴部片	細砂粒・繊維。良。灰。良。	2と同個体。	神ノ木式
第2980 PL.81	9	深鉢	胴部片	粗砂粒・輝石・繊維。 全今軟。灰褐色。	2と同個体。内面研磨。	神ノ木式
第2980 PL.81	10	深鉢	胴部片	粗砂粒・石英・輝石。良。 にふい赤褐色。	R.Lの斜線文を施文。	前期
第2980 PL.81	11	深鉢	胴部片	粗砂粒・石英・輝石。良。 暗赤褐色。	10と同個体。	前期
第2980 PL.81	12	深鉢	胴部片	粗砂粒・石英・輝石。良。 暗褐色。	10と同個体。	前期
第2980 PL.81	13	深鉢	胴部片	粗砂粒・石英・輝石。 良好。灰赤。	10と同個体。	前期
第2980 PL.81	14	深鉢	胴部片	粗砂粒・石英・輝石。 良好。暗褐色。	10と同個体。	前期
第2980 PL.81	15	深鉢	胴部片	粗砂粒・石英・輝石。良。 明赤褐色。	10と同個体。	前期
第2980 PL.81	16	深鉢	口縁部片	粗砂粒・石英・輝石。良。 明赤褐色。	10と同個体。口唇部にも縄文を施文。	前期

種別番号 図版番号	掲載番号	器種	残存状態 出土位置	計測値 (cm, g)				石材	成形、調整の特徴など
				①長さ	②幅	③厚	④高さ		
第2990 PL.81	17	石匙	60%	①(1.2)	②1.55	③0.4	④0.4	黒曜石	凹基無茎。
第2990 PL.81	18	石匙	一部欠損か	①2.7	②4.0	③0.9	④4.0	珪質変質岩(流紋岩質凝灰岩)	三角形状でつまみがつく。調整は粗い。
第2990 PL.81	19	削器か	完形	①5.15	②3.65	③1.36	④22.8	チャート	打製石押の形態をとり、刃部を片刃に調整。24と類似。エンドスクレイパーか。
第2990 PL.81	20	削器	完形	①6.5	②6.4	③2.66	④77.6	珪化木	下方と左側縁の片面に調整刻痕を加えて、直線状の刃部を作出。
第2990 PL.81	21	削器	完形	①5.8	②5.4	③1.15	④28.8	黒色頁岩	下端に片刃状の刃部を調整。
第2990 PL.81	22	打製石押	柄部残	①(4.4)	②(3.4)	③1.25	④13.1	黒色頁岩	着柄部の破片。
第2990 PL.81	23	打製石押	柄部残	①(4.5)	②(4.2)	③1.3	④24.0	黒色頁岩	着柄部の破片。
第2990 PL.81	24	打製石押	頭部欠損	①(5.7)	②3.8	③1.6	④29.8	黒色安山岩	柄をわずかに欠損。刃部を片刃に調整。
第2990 PL.81	25	石匙	60%	①(1.75)	②(1.55)	③0.65	④1.2	黒曜石	欠損部多。未製品か。
第2990 PL.81	26	磨製石押	完形	①5.4	②2.9	③0.93	④22.8	蛇紋岩	器面に光沢あり。刃部につぶれ・磨耗等の使用痕を明瞭に残す。
第2990 PL.81	27	磨石	完形	①10.0	②7.0	③4.1	④370	粗粒輝石安山岩	両面に研磨痕が認められる。
第2990 PL.81	28	凹石	80%	①10.4	②(6.3)	③3.8	④(220)	粗粒輝石安山岩	扁平な円。窪の両面に最打痕を持つ。両面に研磨痕がわずかに認められる。
第2990 PL.82	29	磨石	70%	①(8.5)	②7.9	③4.4	④(460)	粗粒輝石安山岩	両面に研磨痕が認められる。上下部分欠損。
第2990 PL.82	30	磨石	80%	①(11.6)	②8.4	③4.3	④(540)	粗粒輝石安山岩	両面わずかに研磨痕が認められる。表面に凹穴あり。上下端部欠損。
第3000 PL.82	31	磨石	完形	①13.1	②8.5	③4.4	④770	粗粒輝石安山岩	無面の一部以外ほぼ全面にわたり研磨痕が認められる。下端部に最打痕が残る。表面中央部に凹穴を有す。
第3000 PL.82	32	磨石	完形	①15.7	②7.3	③4.4	④830	石英閃緑岩	両面に研磨痕が認められる。
第3000 PL.82	33	耳飾り	完形	①1.8	②1.6	③0.45	④2.4	滑石	角部は削られて全体磨かれて光沢を持つ。

S3区2号住居

種別番号 図版番号	掲載番号	器種	残存状態	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴、計測値 (cm)	備考
第3300 PL.82	1	深鉢	口縁部片	細砂粒・繊維。良。にふい赤褐色。	羽状縄文構成。縄文はR.LとL.R。内面に擦痕状のナデ痕を残す。	神ノ木式
第3300 PL.82	2	深鉢	胴部片	細砂粒・石英・繊維。良。にふい黄褐色。	結束羽状縄文を施文。内面ナデ。	神ノ木式
第3300 PL.82	3	深鉢	胴部片	粗砂粒・石英・繊維。良。暗褐色。	羽状縄文構成。縄文はR.LとL.R。内面ナデ。	神ノ木式
第3300 PL.82	4	深鉢	胴部片	細砂粒・繊維。良。灰褐色。	結節部回転施文か。内面ナデ。	神ノ木式
第3300 PL.82	5	深鉢	胴部片	細砂粒・輝石・繊維。良。にふい赤褐色。	L縄2本の結節部回転施文。内面ナデ。	神ノ木式
第3300 PL.82	6	深鉢	胴部片	粗砂粒・石英・繊維。良。灰黄褐色。	5と同様。内面からい研磨。	神ノ木式
第3300 PL.82	7	深鉢	胴部片	粗砂粒・石英・繊維。良。暗灰黄・にふい赤褐色。	5と同様。0段3条縄使用。内面に擦痕を残す。	神ノ木式
第3300 PL.82	8	深鉢	胴部片	粗砂粒・石英・繊維。良。にふい褐色。	7と同個体。	神ノ木式

第3章 林中原1遺跡

神回番号 図版番号	掲載番号	器種	残存状態	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴、計測値 (cm)	備考
第339回 PL.82	9	深鉢	胴部片	粗砂粒・褐色粒・繊維。良。にぶい黄褐色。	7と同個体。	神ノ木式
第339回 PL.82	10	深鉢	胴部片	粗砂粒・繊維。良。灰黄褐色。	5と同様。内面研磨。	神ノ木式
第339回 PL.82	11	深鉢	胴部片	粗砂粒・繊維。良。にぶい黄褐色。	縄文R L施文。内面かきい研磨。	神ノ木式
神回番号 図版番号	掲載番号	器種	残存状態 出土位置	計測値 (cm, g)	石材	成形、調整の特徴など
第339回 PL.82	12	胴器	完形	①3.45 ②4.5 ③1.05 ④17.4	黒色安山岩	下方の片面に調整刻線を加えて、直線状の刃部を作出。表面の磨耗・孔状が顕著。
第339回 PL.82	13	胴器	完形	①4.3 ②3.1 ③1.0 ④13.3	柱状変質岩(流紋岩質凝灰岩)	下方と左側の片面に調整刻線を加えて、直線状の刃部を作出。
第340回 PL.82	14	磨石	完形	①12.7 ②9.1 ③5.5 ④850	粗粒輝石安山岩	内面に研磨痕が認められる。
第340回 PL.82	15	凹石	完形	①10.5 ②8.4 ③3.6 ④510	粗粒輝石安山岩	内面に浅い凹みを有す。内面に研磨痕が認められる。

53区3号住居

神回番号 図版番号	掲載番号	器種	残存状態	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴、計測値 (cm)	備考
第378回 PL.82	1	深鉢	胴+底部	雲母・石英。良。褐色。	降帯懸垂文4本。横位にひだ状文がめぐる。	阿玉台1 b式
第378回 PL.82	2	深鉢	胴部片	雲母・石英。良。にぶい褐色。	口縁部箱門区画内に一本単位の押し沈線で波状文等を構成。胴部に直降線を4本垂下。	阿玉台1 b式

54区1号住居

神回番号 図版番号	掲載番号	器種	残存状態	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴、計測値 (cm)	備考
第398回 PL.83	1	深鉢	口縁部片	細砂粒・繊維。良。黒褐色。	羽状縄文構成。縄文はR LとL R。内面研磨。	前期前半
第398回 PL.83	2	深鉢	胴部片	細砂粒・繊維。良。黒褐色。	1と同個体。	前期前半
第398回 PL.83	3	深鉢	胴部片	粗砂粒・繊維。やや軟。明褐色。	R L斜縄文を施す。内面に擦痕状ナデ。	前期前半
第398回 PL.83	4	深鉢	胴部片	粗砂粒・石英・繊維。良。にぶい赤褐色。	3と同個体。	前期前半
第398回 PL.83	5	深鉢	胴部片	粗砂粒・石英・繊維。良。にぶい赤褐色。	R L斜縄文を施す。内面ナデ。	前期前半
第398回 PL.83	6	深鉢	底部片	細砂粒・輝石・繊維。良。にぶい赤褐色。	L R斜縄文を施す。内面ナデ。	前期前半
第398回 PL.83	7	深鉢	底部片	粗砂粒・石英・繊維。良。にぶい褐色。	5と同個体。	前期前半
第400回 PL.83	8	深鉢	口縁部片	粗砂粒・石英。良。褐色。にぶい黄褐色。	波状口縁の深鉢で器面全体に結束羽状縄文を施文。口縁の上下に浮線で副面文を施して文様帯を区画し、波状下に大きな円形貼文。その周囲に2個一対のボタン状貼文を配している。貼文は剥落したものが多い。	諸磯c式
第400回 PL.83	9	深鉢	口縁部片	粗砂粒・石英。良。褐色。にぶい黄褐色。	8と同個体。	諸磯c式
第400回 PL.83	10	深鉢	胴部片	粗砂粒・石英。良。褐色。にぶい黄褐色。	8と同個体。	諸磯c式
第400回 PL.83	11	深鉢	胴部片	粗砂粒・石英。良。褐色。にぶい黄褐色。	8と同個体。	諸磯c式
第400回 PL.83	12	深鉢	胴部片	粗砂粒・石英。良。褐色。にぶい黄褐色。	8と同個体。	諸磯c式
第400回 PL.83	13	深鉢	胴部片	粗砂粒・石英。良。褐色。にぶい黄褐色。	8と同個体。	諸磯c式
第400回 PL.83	14	深鉢	口縁部片	粗砂粒・小礫・石英。良。にぶい褐色。	半截竹管による集合沈線で文様を構成。縄文はR L。	諸磯b式
第400回 PL.83	15	深鉢	胴部片	粗砂粒・輝石。良。黒褐色。	半截竹管による集合沈線で文様を構成。縄文はR L。	諸磯b式
第400回 PL.83	16	深鉢	胴部片	粗砂粒・片岩。良。にぶい褐色。	半截竹管による集合沈線で文様を構成。縄文はR L。	諸磯b式
第400回 PL.83	17	深鉢	胴部片	粗砂粒・片岩。良。にぶい赤褐色。	半截竹管による集合沈線で文様を構成。縄文はR L。	諸磯b式
第400回 PL.83	18	深鉢	胴部片	粗砂粒・輝石。良。にぶい赤褐色。	19と同個体。縄文はR L。	諸磯c式
第400回 PL.83	19	深鉢	口縁部片	粗砂粒・石英。良。にぶい褐色。	半截竹管に集合沈線で、口縁部と外折す内面に稜形文様を構成。	諸磯c式
第400回 PL.83	20	深鉢	胴部片	粗砂粒・石英・輝石。良。にぶい黄褐色。	14と同類。	諸磯b式
第400回 PL.83	21	深鉢	胴部片	粗砂粒・石英。良。にぶい黄褐色。	14と同類。	諸磯b式
第400回 PL.83	22	深鉢	胴部片	粗砂粒・片岩。良。にぶい赤褐色。	14と同類。	諸磯b式
第400回 PL.83	23	深鉢	胴部片	細砂粒・輝石。良。灰褐色。	降線で文様を区画。縄文はL R。	加賀利b4式

種別番号 図版番号	掲載番号	器種	残存状態	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴、計測値 (cm)	備考		
第4008 PL.83	24	深鉢	胴部	粗砂粒・輝石、良。に ぶい赤褐色。	胴上半部に斜格子文を構成。楕円状の貼付文が多量に施される。	諸磯c式		
種別番号 図版番号	掲載番号	器種	残存状態 出土位置	計測値 (cm, g)			石材	成形、調整の特徴など
				①長さ	②幅	③厚・高		
第4008 PL.83	25	磨石	完形	①9.8 ②7.1 ③4.5 ④460	粗粒輝石安山岩	内面に磨磨痕が認められる。内面中央部と下端の欠けは自然面での欠けと思われる。		
第4008 PL.83	26	磨石	完形	①11.7 ②8.6 ③6.2 ④890	粗粒輝石安山岩	内面に磨磨痕が認められる。表面中央部に浅い凹み穴を有す。		

53区 1号壺六状遺構

種別番号 図版番号	掲載番号	器種	残存状態	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴、計測値 (cm)	備考
第4288 PL.83	1	深鉢	胴部片	細砂粒・石英・雲母。良。 にぶい赤褐色。	上半部に大柄の渦巻文。下半部上端が逆U字状の懸垂文を構成。縄文はL R。	加賀初期4式

土坑

種別番号 図版番号	掲載番号	器種	残存状態	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴、計測値 (cm)	備考
第5908 PL.84	第1区画 37号土坑1	深鉢	胴部片	粗砂粒・石英。良。に ぶい赤褐色。	隆線で文様を構成。縄文はL R。	後期初頭
第5908 PL.84	第1区画 38号土坑1	深鉢	胴部片	粗砂粒・石英。良。に ぶい赤褐色。	隆線でアーチ状の文様を構成。縄文はL R。	後期初頭
第5908 PL.84	第1区画 38号土坑2	深鉢	口縁部片	細砂粒。良。灰黄褐色。	縄文帯で文様構成。縄文はL R。	称名寺1式
第5908 PL.84	第1区画 40号土坑1	深鉢	胴部片	粗砂粒。良。にぶい赤褐色。	横線に集合沈線を施す。縄文はR L。	諸磯b式
第5908 PL.84	第1区画 41号土坑1	深鉢	胴部片	粗砂粒・石英・輝石。良。 にぶい赤褐色。	横線に集合沈線を施す。縄文はR Lか。	諸磯b式
第5908 PL.84	第1区画 43号土坑1	深鉢	胴部片	細砂粒・輝石。良。褐色。	縄文帯で文様構成。縄文はL R。	称名寺1式
第5908 PL.84	53区 12号土坑1	深鉢	口縁部片	粗砂粒・石英・輝石・ 繊維。良。にぶい赤褐色。	波状口縁で口縁部に隆帯がめぐり、波頂部に横位の隆帯がつく。横位隆帯と口縁部には刻目が施され口縁部にも爪形状の刺突文が施される。縄文はR Lで内面にはナデ痕を残す。	塚田式
第5908 PL.84	53区 23号土坑1	深鉢	底部片	粗砂粒・繊維。良。褐色。	やや上げ底状。縄文はL R。	前期前半
第5908 PL.84	53区 31号土坑1	深鉢	胴部片	細砂粒・石英・繊維。良。 にぶい赤褐色。	羽状縄文を構成。内面にナデ痕。	前期前半
第6008 PL.84	53区 57号土坑1	深鉢	突起部片	粗砂粒・石英・雲母。良。 にぶい赤褐色。	環状の把手であろう。	中期中葉
第6008 PL.84	54区 24号土坑1	深鉢	口縁部片	細砂粒・輝石。堅緻。 にぶい赤褐色。	4状の結節浮線文と2個一対のボタン状貼付文で構成。縄文はL R。	諸磯c式
第6008 PL.84	54区 27号土坑1	深鉢	胴部片	粗砂粒・輝石。良。黒褐色。	横線に3条単位の浮線文を施す。縄文はL R。	諸磯b式
第6008 PL.84	54区 27号土坑2	深鉢	胴部片	粗砂粒・石英。良。に ぶい赤褐色。	横線に3条単位の浮線文を施す。縄文はR L。	諸磯b式
第6008 PL.84	54区 27号土坑3	深鉢	底部片	粗砂粒・石英・輝石。良。 にぶい赤褐色。	縄文はR L。	諸磯b式

種別番号 図版番号	掲載番号	器種	残存状態 出土位置	計測値 (cm, g)			石材	成形、調整の特徴など
				①長さ	②幅	③厚・高		
第6008 PL.84	54区27号 土坑4	打製石斧	50%	①(6.5) ④70.3	②5.6	③1.75	黒色安山岩	柄部欠損。刃部摩耗顕著。鋒縁に再調整とみられる割 離あり。

遺構外

種別番号 図版番号	掲載番号	器種	残存状態	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴、計測値 (cm)	備考
第6208 PL.84	1	深鉢	胴部片	粗砂粒。良。褐色。	やや斜行する庶系文を施文。厚手で内面は荒れている。	早期初頭・庶 系文系
第6208 PL.84	2	深鉢	胴部片	粗砂粒・石英・繊維。良。 にぶい赤褐色。	頸部外面に段差がつく。内外面とも横位の条痕を残す。内面荒れ。	早期後半
第6308 PL.84	3	深鉢	口縁部片	細砂粒・繊維。良。に ぶい黄褐色。	口唇下に刻目がつく隆線2条がめぐるが、割落。口縁部に庶系浮線文と 断面状刺突文が施されている。	前期初頭～
第6308 PL.84	4	深鉢	口縁部片	細砂粒・繊維。良。に ぶい黄褐色。	刺突利と凹形貼付文を施す。	前期初頭～
第6308 PL.84	5	深鉢	胴部片	細砂粒・繊維。良。に ぶい黄褐色。	ループ文を施文。縄文はR L。	前期初頭～
第6308 PL.84	6	深鉢	胴部片	粗砂粒・石英・繊維。良。 にぶい黄褐色。	0段3条R LとL Rで、縦長の菱形線文を構成。	前期初頭～
第6308 PL.84	7	深鉢	胴部片	粗砂粒・輝石・繊維。良。 にぶい黄褐色。	0段多条R Lの斜縄文を施す。内面ナデ。	前期初頭～
第6308 PL.84	8	深鉢	口縁部片	粗砂粒・石英・繊維。良。 黒褐色。	口唇下と頸部に刻目を伴う隆帯がめぐる。縄文は結節部回転線文か。内 面研磨。	前期初頭～
第6308 PL.84	9	深鉢	口縁部片	細砂粒・石英・繊維。 やや軟。にぶい黄褐色。	口縁部に網目状の庶系文を施す。内面ナデ。	前期中葉
第6308 PL.84	10	深鉢	口縁部片	粗砂粒・石英・輝石・ 繊維。良。にぶい赤褐色。	口唇上端に凹形刺突利。口縁部にL縄2本の結節部回転線文。内面ナデ。	前期中葉

第3章 林中原1遺跡

種別番号 図版番号	掲載番号	器種	残存状態	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴、計測値 (cm)	備考
第6300 PL.84	11	深鉢	口縁部片	細砂粒・石英・微量の 繊維。やや軟。にぶい焼。	波状口縁で口唇部に刺列状。外面に R L 斜縄文。内面ナデ。	前期中葉
第6300 PL.84	12	深鉢	胴部片	粗砂粒・石英・繊維。 良。にぶい焼。	付加条か。R L 斜縄文の片側1本を原体に巻き付けている。内面ナデ。 12と同個体。	前期中葉
第6300 PL.84	13	深鉢	胴部片	粗砂粒・小礫・繊維。 やや軟。焼。	R 縄2本を付加した付加条縄文を施す。内面からい研磨。	前期中葉
第6300 PL.84	14	深鉢	胴部片	粗砂粒・小礫・石英・ 繊維。良。にぶい焼。	12と同個体	前期中葉
第6300 PL.84	15	深鉢	胴部片	粗砂粒・石英・繊維。 やや軟。焼。	羽状縄文を施す。内面ナデ。	前期中葉
第6300 PL.84	16	深鉢	胴部片	粗砂粒・石英・片岩・ 繊維。良。焼。	羽状縄文を施す。内面研磨光沢。	前期中葉
第6300 PL.84	17	深鉢	胴部片	粗砂粒・石英・輝石・ 繊維。良。にぶい焼。	羽状縄文を施す。縄文は R L と L R。	前期中葉
第6300 PL.84	18	深鉢	胴部片	粗砂粒・石英・繊維。良。 焼。	羽状縄文を施す。内面粗いナデ。	前期中葉
第6300 PL.84	19	深鉢	胴部片	粗砂粒・石英・繊維。良。 焼。	羽状縄文を施す。内面粗い研磨。	前期中葉
第6300 PL.84	20	深鉢	胴部片	粗砂粒・片岩・繊維。良。 にぶい焼。	羽状縄文を施す。縄は R L。内面研磨光沢。	前期中葉
第6300 PL.84	21	深鉢	胴部片	粗砂粒・石英・繊維。 やや軟。明焼。	斜縄文を施す。縄は復節 L R L しか。	前期中葉
第6300 PL.85	22	深鉢	底部片	粗砂粒・片岩・繊維。良。 にぶい赤焼。	20と同個体。	前期中葉
第6300 PL.85	23	深鉢	胴部片	粗砂粒・石英。良。に ぶい焼。	幅広い爪形文で菱形の文様を構成。内面をかるい研磨。	前期中葉
第6300 PL.85	24	深鉢	口縁部片	細砂粒・輝石・片岩・ 繊維。良。黒焼。	くり歯状施文帯で波状文を施す。内面研磨。	前期中葉
第6300 PL.85	25	深鉢	胴部片	粗砂粒・輝石・繊維。良。 明焼。	幅広い爪形文3条を平行施文。内面研磨。	前期中葉
第6400 PL.85	26	深鉢	口縁→胴部	粗砂粒。輝石・石英。良。 焼。	口縁部が大きく開いて外折する。波状口縁。半截竹節による集合沈線と 口縁部と頸部に3条施す。胴部の施文は R L しか。	諸磯b式
第6400 PL.85	27	深鉢	口縁部片	粗砂粒。輝石。良。に ぶい黄焼。	口縁部に菱形文を構成。縄文は R L。	諸磯b式
第6400 PL.85	28	深鉢	口縁部片	粗砂粒・輝石。堅焼。 にぶい焼。	R L 斜縄文を施す。内面研磨光沢。	諸磯b式
第6400 PL.85	29	深鉢	胴部片	粗砂粒・石英・輝石。良。 黒焼。	斜行する条線を施す。内面研磨。	諸磯b式
第6400 PL.85	30	深鉢	口縁部片	粗砂粒。良。灰黄焼。	浮線文による文様構成。地文に縄文あり。	諸磯b式
第6400 PL.85	31	深鉢	口縁部片	粗砂粒。良。黒焼。	浮線文で文様構成。	諸磯b式
第6400 PL.85	32	深鉢	胴部片	粗砂粒。輝石。良。焼。	浮線文で文様構成。	諸磯b式
第6400 PL.85	33	深鉢	胴部片	粗砂粒。石英。良。に ぶい焼。	浮線文で文様構成。地文の縄文はすり消されている。	諸磯b式
第6400 PL.85	34	深鉢	口縁部片	粗砂粒・石英・雲母。良。 焼。	押し引き沈線で文様施文。口唇部下に波状文を施す。	阿玉台1b式
第6400 PL.85	35	深鉢	口縁部片	粗砂粒・石英・雲母。良。 にぶい焼。		阿玉台式
第6400 PL.85	36	深鉢	胴部片	粗砂粒・石英・雲母。良。 にぶい焼。	口縁部楕円区画にそって押し引き文を施文。	阿玉台式
第6400 PL.85	37	深鉢	底部片	粗砂粒・石英・雲母。良。 にぶい焼。	底面研磨。	阿玉台式
第6400 PL.85	38	深鉢	口縁部片	粗砂粒。石英・雲母。 良好。にぶい赤焼。	曲線線文を施文。	勝坂式
第6400 PL.85	39	深鉢	口縁部片	粗砂粒。輝石。良。に ぶい焼。	口縁部の把手欠損。胴部上半に方形状の区画。	勝坂式
第6400 PL.85	40	深鉢	胴部片	粗砂粒・石英・輝石。 やや軟。焼。	R L 斜縄文に縦位の結節縄文を伴う。	中期不明
第6400 PL.85	41	深鉢	口縁部片	粗砂粒。良好。にぶい 黄焼。	口唇部上面に沈線。	加曾利2式
第6400 PL.85	42	深鉢	口縁部片	粗砂粒。輝石。良好。 明焼。	口唇部上面に沈線。口縁部区内を縦位沈線で充填。	加曾利2式
第6400 PL.85	43	深鉢	口縁部片	粗砂粒・石英・雲母。良。 にぶい焼。	口縁部に渦巻文。	加曾利3式
第6400 PL.85	44	深鉢	口縁部片	粗砂粒・輝石。良。に ぶい黄焼。	口縁部に隆帯で渦巻文を施文。	加曾利3式
第6400 PL.85	45	深鉢	胴部片	粗砂粒・石英・輝石。良。 にぶい赤焼。	胴部に3本沈線を伴う無文懸垂帯。縄文は L R。	加曾利3式
第6400 PL.85	46	深鉢	胴部片	粗砂粒・石英・輝石。良。 にぶい黄焼。	縄文は復節 L R L。	加曾利3式
第6400 PL.85	47	深鉢	胴部片	粗砂粒。輝石。良好。 明赤焼。	蛇行沈線懸垂文を施す。縄文は R L。	加曾利3式

種図番号 図版番号	掲載番号	器種	残存状態	胎土・焼成・色調		器形・文様の特徴、計測値 (cm)		備考	
				①長さ	②幅	③高さ	④重さ		石材
第6490 PL.85	48	深鉢	銅部片	粗砂粒・石英。良。良。にぶい。黄。	沈線区画無文帯で文様を構成。			加曽利Ⅲ式	
第6490 PL.85	49	深鉢	銅部片	粗砂粒・石英・輝石。良。良。	沈線のみで文様を施す。			加曽利Ⅲ式	
第6490 PL.85	50	深鉢	銅部片	粗砂粒・石英・雲母。良。にぶい。黄。	縄文はR.L.			加曽利Ⅲ式	
第6490 PL.85	51	深鉢	銅部片	粗砂粒・石英。やや軟。にぶい。赤。	縄文はL.R.			加曽利Ⅲ式	
第6490 PL.85	52	深鉢	銅部片	細砂粒・石英。良。粗。	内外面粗い研磨。			加曽利Ⅲ式	
第6490 PL.85	53	深鉢	銅部片	粗砂粒。やや軟。粗。	外面入念研磨。			加曽利Ⅲ式	
第6500 PL.85	54	深鉢	銅部片	粗砂粒・石英・輝石。良。にぶい。赤。	綾杉状沈線を施す。			唐草文系	
第6500 PL.85	55	深鉢	銅部片	粗砂粒。石英。良好。粗。	隆帯区画内に綾杉状沈線を施す。			唐草文系	
第6500 PL.85	56	浅鉢	銅部片	粗砂粒・石英。良。粗。	胴部に渦巻文と楕円区画文を施す。			中期	
第6500 PL.85	57	浅鉢	口縁部片	粗砂粒。良。明赤。粗。	カボチャ形の浅鉢。外面研磨。外面に赤色塗彩が残る。			中期	
第6500 PL.85	58	浅鉢	口縁部片	粗砂粒・石英。良。明赤。粗。	内外面研磨。			中期	
第6500 PL.85	59	浅鉢	口縁部片	粗砂粒・石英。良。にぶい。赤。	内外面研磨光沢。			中期	
第6500 PL.85	60	浅鉢	銅部片	粗砂粒・石英。やや軟。明黄。	いわゆる両耳造形の浅鉢。縄文はL.R.			中期末 加曽利Ⅳ式～	
第6500 PL.85	61	深鉢	銅部片	粗砂粒・石英・輝石。良。粗。	口縁部楕円区画内に押引文を施す。			中期末 加曽利Ⅳ式～	
第6500 PL.85	62	深鉢	銅部片	粗砂粒・石英。良。にぶい。黄。	隆線で文様構成。			中期末 加曽利Ⅳ式～	
第6500 PL.85	63	深鉢	銅部片	粗砂粒・石英。良。にぶい。黄。	隆線で文様を区画。			中期末 加曽利Ⅳ式～	
第6500 PL.86	64	深鉢	銅部片	粗砂粒・石英。良。にぶい。黄。	縄文帯で渦巻文をえがく。			後期初頭	
第6500 PL.86	65	深鉢	銅部片	細砂粒・輝石。やや軟。にぶい。黄。	平行沈線で文様を構成。			後期初頭	
第6500 PL.86	66	深鉢	口縁部片	細砂粒・石英。やや軟。にぶい。黄。	口縁部に刻目を伴う隆線がめぐる。			後期初頭	
第6500 PL.86	67	深鉢	口縁部片	細砂粒・輝石。やや軟。にぶい。黄。	66と同類			後期初頭	
第6500 PL.86	68	深鉢	口縁部片	細砂粒・石英。やや軟。にぶい。黄。	66と同類			後期初頭	
第6500 PL.86	69	深鉢	銅部片	細砂粒・輝石。良。にぶい。粗。	3本単位の沈線で文様を描く。			堀之内Ⅰ式	
第6500 PL.86	70	深鉢	銅部片	細砂粒。堅緻。黒。粗。	平行沈線で文様を描く。縄文はL.R.			後期堀之内Ⅰ～Ⅱ式	
第6500 PL.86	71	深鉢	銅部片	細砂粒・石英。堅緻。灰黄。	沈線で同心円文を施す。縄文はL.R.			後期堀之内Ⅰ～Ⅱ式	
第6500 PL.86	72		貝輪形土製品	粗砂粒・金雲母。良。にぶい。黄。	内外面ナデ。			後期	
第6500 PL.86	73		鏝	銅部片	細砂粒。良。にぶい。粗。	櫛状施文具で波状文を施す。		赤土後期	
種図番号 図版番号	掲載番号	器種	残存状態 出土位置	計測値 (cm, g)				石材	成形、調整の特徴など
				①長さ	②幅	③高さ	④重さ		
第6500 PL.86	74	石鏝	完形 54区-23	①1.4	②1.2	③0.35	④0.5	黒曜石	平基無茎。左側縁は調整剥離がやや粗く、再調整品の可能性もある。
第6500 PL.86	75	石鏝	70% 54区-25	①(2.0)	②(1.3)	③0.4	④0.6	黒曜石	円基無茎。先端と両脚を欠損。
第6500 PL.86	76	石鏝	一部欠損 53区遺構外	①2.0	②(1.5)	③0.53	④1.0	黒曜石	円基無茎。片脚を欠損。
第6500 PL.86	77	石鏝	ほぼ完形 52区4号溝	①2.0	②(1.7)	③0.36	④0.6	珪質変質岩(黄紋珪質凝灰岩)	平基無茎。左脚部一部欠損。片面中央部剥落あり。
第6500 PL.86	78	石鏝	一部欠損 第4区西遺構外	①2.2	②(1.5)	③0.38	④0.8	黒曜石	円基無茎。片脚部を欠損。
第6500 PL.86	79	石鏝	70%	①(1.6)	②1.65	③0.6	④1.3	チャート	円基無茎。先端欠損。
第6600 PL.86	80	石鏝	70% 53区Y-23	①(2.95)	②(1.5)	③0.56	④2.1	チャート	円基無茎。先端と脚部を欠損。片方側縁と裏面上方を剥落。調整剥離もやや粗い。
第6600 PL.86	81	石鏝	完形 52区1号墓	①4.9	②1.4	③0.6	④3.6	チャート	縦長でつまみ付き。押圧剥離による調整良好。
第6600 PL.86	82	削器	完形	①4.2	②3.9	③1.15	④14.8	黒色頁岩	下方と左側縁が刃部か。
第6600 PL.86	83	削器	完形 54区表塚	①4.2	②5.1	③1.2	④30.7	珪質頁岩	下方から左側縁にかけて、両面に調整剥離を加えて刃部を作出。

第3章 林中原1遺跡

採掘番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態 出土位置	計測値(cm, g)				石材	成形、調整の特徴など
				①長さ	②幅	③厚・高	④重さ		
第66図 PL.86	84	打製石斧	30% 62区E-2・3層	①(6.0)	②5.9	③2.85	④133.2	黒色頁岩	無縁に敲打によるつぶしが認められることから柄部の可能性もある。
第66図 PL.86	85	打製石斧	ほぼ完成 62区E-1・3層	①11.0	②4.7	③1.85	④103.7	黒色安山岩	刃部無縁に使用痕跡明瞭。
第66図 PL.86	86	打製石斧	一部欠損 第4区画遺構外	①(14.4)	②6.9	③2.2	④246.3	雲霧輝石安山岩	柄部部を欠損。両側縁磨耗顕著。磨縁に較べて刃部の磨耗はわずかであり再調整かもしれない。
第66図 PL.86	87	磨石	完形 第1区画10号土坑	①7.5	②4.9	③3.0	④160	デイスサイト	片面を磨石として使用している。
第66図 PL.86	88	磨石	完形 第1区画13号土坑	①7.8	②4.9	③3.0	④120	安山岩	両面を磨石として使用し磨耗している。
第66図 PL.86	89	磨石	完形 第4区画2号土坑	①6.1	②5.6	③3.4	④115	安山岩	上下両面及び側面を磨っている。
第66図 PL.86	90	敲石	完形 53区I7号土坑	①9.0	②5.0	③3.0	④180	粗粒輝石安山岩	表面が磨かれて磨耗している。火を受けてヒビが入っている。
第66図 PL.86	91	磨石	完形 第6区画1号配石	①10.0	②5.4	③3.2	④280	デイスサイト	片面が磨られて磨耗している。
第66図 PL.86	92	磨石	完形	①11.1	②6.2	③4.7	④370	安山岩	両面に研磨痕が認められる。
第67図 PL.86	93	磨石	完形 第3区画5号土坑	①12.3	②5.8	③3.5	④410	粗粒輝石安山岩	四石。表裏2面と1側面に多くの浅い凹面あり。表裏2面磨られて磨耗している。
第67図 PL.86	94	敲石	完形 52区I332P	①14.5	②5.6	③4.2	④620	粗粒輝石安山岩	下端部に敲打痕が残る。両平坦面に研磨痕が認められる。
第67図 PL.86	95	敲石	完形	①12.5	②6.1	③2.9	④370	粗粒輝石安山岩	両側面下部を敲石として利用している。両面に研磨痕が認められる。
第67図 PL.86	96	敲石	完形 52区I598P	①13.5	②5.8	③3.4	④450	粗粒輝石安山岩	下端と上部側面を敲石として使用。両面に研磨痕が認められ磨耗し荒沢を持つ。
第67図 PL.86	97	磨石	80% 62区E-2・3層	①(10.1)	②8.2	③4.3	④420	粗粒輝石安山岩	両面に研磨痕が認められる。火を受けて亀裂が多く入っている。上部欠損。
第67図 PL.86	98	磨石	完形 第6区画1号配石	①11.7	②6.0	③3.5	④336	粗粒輝石安山岩	無面の一部と裏面が磨られて磨耗している。
第67図 PL.86	99	磨石	ほぼ完成 62区E-2・3層	①12.9	②8.8	③3.5	④640	粗粒輝石安山岩	両面に研磨痕が認められる。

1号塚

採掘番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態	計測値(cm)				胎土・焼成・色調	成形、調整の特徴など	備考
				①口径	②底径	③器高	④口径			
第79図 PL.87	1	陶製埴輪	口縁～胴部 30%	①(9.4)	-	-	-	良好。灰色。	肥前系。	18世紀前

採掘番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態 出土位置	計測値(cm, g)				石材	成形、調整の特徴など
				①長さ	②幅	③厚・高	④重さ		
第79図 PL.87	2	石臼下臼	破片	様一	①16.2	②(11500)	-	安山岩	側目の残りが良好。使用量少ない段階で破壊して復元したものと思われる。中央の穴は内側から開けており少しずれている。

第1区画4号ピット

採掘番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態	計測値(mm, g)						時期 備考
				①字面径	②内輪径	③厚さ	④重さ	⑤口径	⑥器高	
第81図 PL.87	1	寛永通宝	一部欠損	23.18	23.17	18.49	18.43	1.21～1.42	2.5	新寛永。3期。やや赤み。
第81図 PL.87	2	寛永通宝か	40%	-	-	-	-	-	1.1	文字判読不能。新寛永銭と思われる。

3号塚

採掘番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態	計測値(cm)				胎土・焼成・色調	成形、調整の特徴など	備考
				①口径	②底径	③器高	④口径			
第88図 PL.87	1	青磁 碗	口縁破片	①(14.0)	-	-	-	良好。灰白色。	端反碗。外面にヘラ形の文様か。	14世紀後～15世紀
第88図 PL.87	2	白磁 碗	胴部片	③(2.2)	-	-	-	良好。灰白色。	見込みに押印と思われる文様。	15世紀前

採掘番号 図版番号	掲載番号	種類	残存状態	計測値(cm)				成形、調整の特徴など	樹種
				①長さ	②幅	③厚さ	④重さ		
第88図 PL.87	3	木製品漆桶(朱)	(0.23)×(0.17)×(0.03)	-	-	-	-	朱漆漆桶口縁部小破片である。朱は両面に塗られ中心部木質が残る。	-

採掘番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態	計測値(mm, g)						時期 備考
				①字面径	②内輪径	③厚さ	④重さ	⑤口径	⑥器高	
第88図 PL.87	4	寛永通宝	完形	24.95	24.83	19.47	19.35	1.37～1.44	3.6	古寛永。1636年。
第88図 PL.87	5	寛永通宝	完形	25.49	25.42	20.24	20.32	1.22～1.29	3.1	新寛永。背面上部に「文」。

採掘番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態 出土位置	計測値(cm)				成形、調整の特徴、その他
				①長さ	②幅	③厚・高	④重さ	
第88図 PL.87	6	鉄製品 金盃	完形	①5.6	②1.5	-	-	開き戸の開閉のために用いる金具。扇輪である。「斛金」を受ける部分の一つの鉄板を二つに折り重ねてつくっている。

種別番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態 出土位置	計測値(cm)			成形、調整の特徴、その他		
				①長さ	②幅	③厚・高			
第887図 PL.87	7	鉄製品 釘	下端部欠損か	①(4.2) ②0.6			細く小さな釘と思われる。		
種別番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態 出土位置	計測値(cm, g)			石材	成形、調整の特徴など	
				①長さ	②幅	③厚・高			④重さ
第888図 PL.87	8	磨石	ほぼ完形	①14.3	②9.9	③2.3	④420	砂岩	片面磨られて磨耗している。
5号層									
種別番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態	計測値(cm)			胎土・焼成・色調	成形、調整の特徴など	備考
				①口径	②底径	③器高			
第911図 PL.87	1	青磁 碗	口縁部片	①(15.0)			良好。褐色。	端反碗。	14世紀後～ 15世紀
第914図 PL.87	2	在地土器 内耳土器	口縁部片	①(5.3)			細砂粒多。焼し焼成。良好。にぶい黄褐色。	圓形。内外面横撫で。外面器表は黒色。	中世
6号層									
種別番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態	計測値(cm)			胎土・焼成・色調	成形、調整の特徴など	備考
				①口径	②底径	③器高			
第938図 PL.87	1	陶器 花瓶	口縁部片	①(15.0)			良好。灰白色。	灰釉。尊式花瓶。	古瀬戸後期
1号池									
種別番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態	計測値(cm)			胎土・焼成・色調	成形、調整の特徴など	備考
				①口径	②底径	③器高			
第1004図 PL.87	1	陶器 甕	胴部片	①(12.0)			良好。にぶい赤褐色。	欠損部を除き全面に漆が付着。	中世か
第1018図 PL.87	2	陶器 鉢	口縁～胴部片	①(31.8)			良好。灰色。	内面下部。使用痕跡顯著。珠洲。	中世か
第1019図 PL.87	3	陶器 片口鉢	口縁部片	①(32.0)			良好。褐色。	内面に使用痕。内面及び口縁部外面に釉薬。常滑か。	13～14世紀
第1019図 PL.87	4	陶器 瓶子	胴～胴部片	①(5.7)			良好。灰白色。	被熱のためか釉薬の一部が剥落。	古瀬戸前期 中IV
第1019図 PL.87	5	陶器 壺か	胴～高台部片	①(21.4)			良好。灰褐色。	四口壺か。	中世か
第1019図 PL.87	6	陶器 甕	底部片	①(18.0)			良好。褐色。	常滑。	中世
第1019図 PL.87	7	陶器 甕	胴～胴部片	①(7.8)			良好。褐色。	外面に押印文。常滑。	中世
第1020図 PL.87	8	陶器 甕	胴部片	①(6.4)			良好。灰色。	外面に叩きしめ仕上げの痕跡顯著。珠洲。	中世
第1020図 PL.87	9	在地土器 鉢	口縁～胴部片	①(8.6)			細砂粒多。焼し焼成。良好。灰色。	口縁内側に張り出しを持つ。口縁部片は平坦。内外面器表は黒色。内面使用痕跡顯著。	中世
種別番号 図版番号	掲載番号	種類	計測値(cm)	成形、調整の特徴など			樹種		
				長さ	幅	厚さ			
第1029図 PL.87	10	蒔蓋の一部か	(9.2)×(2.3)×0.6	上端欠表面平滑。椗目で板の厚さ一定。加工痕不明。			スギ		
第1029図 PL.87	11	蒔蓋の一部か	44.4×6.2×2.5	両側面中央部に各2本の木釘と思われる穴あり。曲線端部削られている。丸敷板合わせて作成した蒔蓋の一部か。			スギ		
第1029図 PL.87	12	建築部材	(68.4)×15.3×10.1	枅穴は丁寧に加工されている。下端部鋭利な対物による加工痕。			クリ		
第1029図 PL.87	13	建築部材	(79.5)×15.8×6.9	枅穴は丁寧に加工されている。下端部鋭利な対物による加工痕。			クリ		
第1029図 PL.88	14	板材か	88.8×24.6×8.3	表面に凸凹多くあり、割って板を作成した痕跡か。下端は加工痕残る。			クリ		
第1030図 PL.88	15	用途不明	(19.7)×2.3×2.0	中央表裏へ貫通孔1ヶ。表裏面平滑。上下端部切断され鋭利な工具組残る。			モミ属		
第1030図 PL.88	16	板材	24.9×9.6×1.2	表裏面鋭利な幅広い対物により削られている。上下端部切断され鋭利な工具組残る。			モミ属		
第1030図 PL.88	17	板材	(69.2)×29.3×3.2	表面全体に凸凹あり。割って板を作成した痕跡か。椗目。			クリ		
第1030図 PL.88	18	木杭	(8.3)×4.2×2.2	下半部幅広い対物で切断。切断痕明瞭に残る。心持材。			クリ		
第1030図 PL.88	19	木杭	(20.1)×5.3	下半部幅広い工具による加工で先端突る。心持材。			クリ		
第1030図 PL.88	20	用途不明	21.5×13.3×8.2	上下2箇面幅広い工具により加工され平らとなる。左右側面の一部削られている。上下端部削られて明瞭な加工痕残る。			クリ		
第1030図 PL.88	21	用途不明	27.1×21.7×15.6	上面の切断面平ら。下端は削られて突る。多くの加工痕が残る。心持材。			オニグルミ		
第1030図 PL.88	22	用途不明	20.9×13.0×7.4	上下端部鋭利な対物により切断。丸材の1/2使用。			クリ		
第1040図 PL.88	23	用途不明	22.5×6.0×4.5	上面の切断面平ら。加工痕不明。下端は削られて加工痕一部残る。心持材。			オニグルミ		
第1040図 PL.88	24	用途不明	(20.7)×11.9×9.5	上下端部鋭利な対物により切断され、加工痕明瞭に残る。心持材。			クリ		

第3章 林中原1遺跡

種別番号 図版番号	掲載番号	種類	計測値(cm)		成形、調整の特徴など	樹種
			長さ	幅×厚さ		
第104図 PL.88	25	用途不明	11.5×(7.4)×(3.1)		上下端部切断されているが加工痕不明瞭。表面加工痕不明。 楕目。	スギ
第104図 PL.88	26	用途不明	(9.0)×(7.5)×(2.3)		表裏凸凹多く加工痕なし。上下端部切断面の工具痕不明瞭でない。	クリ
第104図 PL.88	27	用途不明	(27.2)×11.8×11.5		上下端部鋭利な刃物により切断。加工痕残る。心付材。	クリ
第104図 PL.88	28	用途不明	38.1×9.5×9.3		上下端部鋭利な刃物により切断。加工痕残る。心付材。	クリ
第104図 PL.88	29	用途不明	26.2×4.3		下半側面使って広化している。心付材。	クリ
第104図 PL.88	30	用途不明	(14.5)×1.3×0.8		表裏面平滑。整形痕不明。楕目。	モミ属
第104図 PL.88	31	用途不明	15.9×3.9×2.8		右側面小穴2個未貫通。下半部鋭利な幅広刃物で切断。痕跡不明瞭に残る。	カツラ
第104図 PL.88	32	用途不明	22.2×4.5×1.5		表面平滑。加工痕なし。楕目。	クリ
第104図 PL.88	33	用途不明	27.0×3.6×3.0		表面加工痕不明。上下端部切断され、幅広の工具痕少し残る。 楕目。	クリ
第104図 PL.88	34	用途不明	(58.1)×8.4×5.6		側面の一部に幅広な工具による不明瞭な加工痕。	クリ
第104図 PL.88	35	用途不明	(54.9)×5.6×4.5		角材として加工してあるが、加工痕不明。丸材の1/4使用。	クリ
第105図 PL.89	36	用途不明	95.9×6.2×4.8		幅長い材である。表面の加工痕不明。楕目。	クリ
第105図 PL.89	37	用途不明	102.0×4.4×4.6		表面に加工痕なし。下端部鋭利な刃物による加工痕あり。丸材の1/2使用。	クリ
第105図 PL.89	38	用途不明	(81.0)×13.8×5.6		表面に加工痕なし。下端部刃物による切断。加工痕残る。	クリ
第105図 PL.89	39	用途不明	81.8×15.8×6.8		表面に加工痕なし。下端部刃物による切断。加工痕残る。	クリ

種別番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態 出土位置	計測値(cm, g)				石材	成形、調整の特徴など
				①長さ	②幅	③厚	④重さ		
第105図 PL.89	40	磨石	完形	①6.0	②5.9	③2.1	④84	粗粒輝石安山岩	両面が磨られて磨耗している。
第105図 PL.89	41	茶臼白	25%	径一	③12.0	④(2580)		粗粒輝石安山岩	受皿の一部を残しているのみ。

2号池

種別番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態	計測値(cm)			胎土・焼成・色調	成形、調整の特徴など	備考
				①口径	②底径	③器高			
第108図 PL.89	1	青磁 盤	口縁部片	①(29.6)			良好。灰色。		14世紀 後～15世紀
第108図 PL.89	2	陶器 甕か	胴部片	③(2.5)			良好。黄灰色。	珠洒か。	中世か
第108図 PL.89	3	在土土器 内耳土器	口縁部片	③(3.8)			細砂粒・金雲母やや多。 焼し焼成。良好。にぶい 黄褐色。	圓形。口縁部平坦でシャープ。	中世

種別番号 図版番号	掲載番号	種類	計測値(cm)		成形、調整の特徴など	樹種
			長さ	幅×厚さ		
第109図 PL.89	4	用途不明	201.3×12.8×10.0		表面削られていて平らとなっている。加工痕なし。上下端部切断による加工痕不明瞭。	マツ属残葉管束亜属
第109図 PL.89	5	用途不明	189.0×14.3×9.7		表面削られていて平らとなっている。加工痕なし。上下端部切断による加工痕不明瞭。	マツ属残葉管束亜属
第109図 PL.89	6	用途不明	(72.3)×13.3×4.0		表面加工痕なし。上下端部の切断による加工痕も不明瞭。	クリ
第109図 PL.89	7	用途不明	36.0×22.0×2.8		表面加工痕なし。上下端部の切断による加工痕も不明瞭。	クリ
第109図 PL.89	8	用途不明	21.5×(7.7)×(5.4)		表面に加工痕なし。上下端部の切断面による加工痕も確認できない。	マツ属残葉管束亜属

種別番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態 出土位置	計測値(cm, g)				石材	成形、調整の特徴など
				①長さ	②幅	③厚	④重さ		
第109図 PL.89	9	石臼白	50%	推定径(29.5)	③8.6	④(2700)		粗粒輝石安山岩	使用により摺りへり薄くなっている。挽き木穴下部まで摺り減って挽き木がはずれるので新たに別の場所に穴が開けられている。ここまで使用されている例はめずらしい。

盛土下面

種別番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態	計測値(cm)			胎土・焼成・色調	成形、調整の特徴など	備考
				①口径	②底径	③器高			
第110図 PL.90	1	在土土器 内耳土器	胴～胴部片	③(4.1)			細砂粒やや多。焼し焼成。 良好。明黄褐色。	圓形。内面横撫で。外面粗い撫で。外面器表は黒褐色。	中世
第111図 PL.90	2	在土土器 内耳土器	胴部片	③(5.4)			細砂粒多。焼し焼成。 良好。明黄褐色。	圓形。内面横撫で。外面粗い撫で。外面器表は黒褐色。	中世

第1区画土坑

探四番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態	計測値(cm)			胎土・焼成・色調	成形、調整の特徴など	備考
				①口径	②底径	③器高			
第120図 PL.90	1号土坑	陶器 すり鉢	口縁部片	①(30.0)			良好、灰黄色。	瀬戸。	連房6小期
第120図 PL.90	3号土坑	陶器 甕	口縁～胴部片	①(9.8)			良好、灰白色。	灰釉。丸腹。美濃。	連房7か8小期
第120図 PL.90	4号土坑	陶器 灯明皿	口縁～底部 60%	①(8.2) ②4.0 ③1.8			良好、にぶい褐色。	内面に油煙を残す。志戸呂。	18世紀
第120図 PL.90	4号土坑	陶器 すり鉢	口縁部片	③(4.5)			良好、浅黄色。	4面を磨り、四角に成形。瀬戸。	連房6小期
探四番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態 出土位置	計測値(cm, g)			石材	成形、調整の特徴など	備考
				①長さ	②幅	③厚・高			
第120図 PL.90	4号土坑	砥石	完形	①11.9 ②4.0 ③4.4 ④160			安山岩	4側面を砥石として使用している。上端に2条の凹状の刻目あり。4面を使用し端部が薄くなる。	
探四番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態 出土位置	計測値(cm)			石材	成形、調整の特徴、その他	備考
				①長さ	②幅	③厚・高			
第120図 PL.90	10号土坑	鉄製品	不詳	①(3.9) ②3.0				錆がひどく、名称等不明。厚さはほぼ均等である。	
探四番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態 出土位置	計測値(cm, g)			石材	成形、調整の特徴など	備考
				①長さ	②幅	③厚・高			
第120図 PL.90	11号土坑	砥石	50%	①(7.9) ②2.9 ③3.2 ④(124)			砥沢石	半分に割れている。一面のみ砥石として使用。他4面砥石として加工時のノミ等による工具痕あり。	
探四番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態	計測値(cm)			胎土・焼成・色調	成形、調整の特徴など	備考
				①口径	②底径	③器高			
第120図 PL.90	16号土坑	陶器 すり鉢	胴～底部片	②(12.0)			良好、灰白色。	内面に使用痕跡。瀬戸。	連房1～4小期
第120図 PL.90	27号土坑	陶器 すり鉢	口縁部片	①(30.0)			良好、灰白色。	瀬戸。	連房6小期
第120図 PL.90	30号土坑	陶器 仏蘭具	胴部片	③(2.0)			良好、灰白色。	灰釉。瀬戸・美濃。	連房7か8小期
探四番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態 出土位置	計測値(cm)			石材	成形、調整の特徴、その他	備考
				①長さ	②幅	③厚・高			
第120図 PL.90	31号土坑	鉄製品	釘	完形	①11.1 ②0.8			頭部は折り曲げしていない。	
探四番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態	計測値(cm)			胎土・焼成・色調	成形、調整の特徴など	備考
				①口径	②底径	③器高			
第120図 PL.90	32号土坑	青磁 甕	口縁部片	③(2.4)			良好、黄灰色。	鍋蓋弁文調。	青磁晩8期
第120図 PL.90	33号土坑	染付 甕	口縁～高台部 50%	①(7.7) ②(2.8) ③4.0			良好、灰白色。	小広東縁。外面、梵字文。見込み、一重 唐轆轤内に文様あり。肥前系。	18世紀後～ 19世紀前
探四番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態 出土位置	計測値(cm)			石材	成形、調整の特徴、その他	備考
				①長さ	②幅	③厚・高			
第120図 PL.90	33号土坑	銅製品	脚金具か	不詳	①(3.6) ②1.1			片面に磨削されている。	
第120図 PL.90	44号土坑	銅製品	煙管	吸口	③3.5 ②1.3			接合部分が離れて割れている。	
1号石皿									
探四番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態	計測値(cm)			胎土・焼成・色調	成形、調整の特徴など	備考
				①口径	②底径	③器高			
第121図 PL.90	1	染付 皿	口縁部片	①(17.3)			良好、灰白色。	肥前系。	近世
第121図 PL.90	2	陶器 皿	口縁～高台部 片	①(12.8)			良好、灰黄色。	反皿。美濃。	連房4か5小期
探四番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態 出土位置	計測値(cm, g)			石材	成形、調整の特徴など	備考
				①長さ	②幅	③厚・高			
第121図 PL.90	3	硯	破片	①(5.0) ②6.2 ③(1.1)			粘板岩	海部破片と思われる。	
5号石皿									
探四番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態 出土位置	計測値(cm, g)			石材	成形、調整の特徴など	備考
				①長さ	②幅	③厚・高			
第124図 PL.90	1	石鉢	30%	径一 ③13.0 ④(4250)			安山岩溶岩	鉢の破片と思われる。	
第124図 PL.90	2	石白上白	破片	径一 ③11.0 ④(3600)			龍輪舞石安山岩	割れた上白の破片。磨り面の刻目は磨り減って明瞭でない。	
第124図 PL.90	3	石白上白	破片	径一 ③11.4 ④(5450)			安山岩	上白の破片である。側面も割られて残っている面なし。上面の一部に痕あり。	
第124図 PL.90	4	石白下白	一部欠損	径(35.0) ③11.4 ④(14750)			龍輪舞石安山岩	使用後砥石として一部再利用している。6区画で12溝。	
第124図 PL.90	5	石白下白	50%	推定径(33.0) ③15.0 ④(10500)			安山岩	刻目が18本前後と細い。厚く使用による減りは少ない。中央部の穴は上下から開けてある。	

第3章 林中原1遺跡

スロープ

種別番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態	計測値(cm)			胎土・焼成・色調	成形、調整の特徴など	備考
				①口径	②底径	③器高			
第130図 PL-91	1	磁器 瓶	口縁～胴部 30%	①(1.3)			良好、灰白色。	肥前系。	19世紀
第130図 PL-91	2	染付 碗	口縁～胴部片	①(9.9)			良好、灰白色。	外面に雪輪草文。被熱か。肥前系。	18世紀後
第130図 PL-91	3	陶器 碗	口縁～高台部 70%	①(11.0)			良好、灰白色。	小碗。一部被熱。美濃。	連房7小期
第130図 PL-91	4	陶器 碗	口縁～胴部片	①(11.7)			良好、灰白色。	灰釉。美濃。	連房5か6小期

種別番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態 出土位置	計測値(cm, g)			時期 備考
				①長さ	②幅	③厚・高	
第130図 PL-91	5	銅製品 煙管	雁首	①3.9	②1.1		胴部と頸部との境に段差あり。雁首は細い。胴中央部に接合痕跡。一部はがれて離れている。
第130図 PL-91	6	鉄製品 鉢	完形	①18.0	②4.2		和漢のはば完形品である。口字状に曲がった支点付近で折れて、一部変形している。外側から見ると刀身部が先端部に向かい少し左側に傾いている。
第130図 PL-91	7	鉄製品 不詳	不詳	①(8.1)	②0.9		断面長方形。幅広く薄い。

平正面

種別番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態	計測値(mm, g)					時期 備考	
				①口径	②底径	③内輪径	④厚さ	⑤重さ		
第132図 PL-91	1	天保通宝	完形	49.40	32.50	44.32	27.43	2.36～2.55	20.8	天保通寶。天保6(1835)年。

第1区画遺構外

種別番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態	計測値(cm)			胎土・焼成・色調	成形、調整の特徴など	備考
				①口径	②底径	③器高			
第135図 PL-91	1	青磁 碗	胴～高台部片	①(1.2)			良好、灰白色。	見込みに陰刻による一重縞線。中国。	15世紀か
第135図 PL-91	2	陶器 皿か	口縁部片	①(11.0)			良好、灰白色。	灰釉。縁軸小皿か。	古瀬戸後期IIか
第135図 PL-91	3	在土土器 皿	口縁～底部 50%	①(7.2) ②(4.7) ③1.7			細砂粒少。良好。に赤い 褐色。	小型の上器部皿(カワラケ)。底部より、僅かに内湾しながら外反。器高低い。口縁部平やや平坦。底部左回転糸切り後、板目状の圧痕。見込み撫で。口縁部に油煙を残す。	中世
第135図 PL-91	4	染付 瓶	口縁部欠損	②(2.7)			良好、灰白色。	小瓶 肥前。	18世紀後～ 19世紀前
第135図 PL-91	5	染付 碗	胴～高台部片	③(3.0)			良好、灰白色。	外面に雪輪草文。肥前。	18世紀後
第135図 PL-91	6	染付 小杯か小碗	胴～高台部 60%	②3.0			良好、灰白色。	外面に雪文。肥前系。	18世紀中～後
第135図 PL-91	7	陶器 碗	口縁～胴部 40%	①(5.8)			良好、浅黄色。	灰釉。小碗。美濃。	連房7か8小期
第135図 PL-91	8	陶器 碗	胴～高台部 50%	②3.0			良好、灰白色。	灰釉。小碗。美濃。	連房9小期
第135図 PL-91	9	陶器 碗	口縁～高台部 50%	①(12.0) ②(5.6) ③7.3			良好、浅黄色。	尾呂茶碗。美濃。	近世
第135図 PL-91	10	陶器 皿	口縁～胴部片	①(15.8)			良好、灰白色。	内野山酒碗。	17世紀末～ 18世紀前
第135図 PL-91	11	陶器 皿	口縁～胴部片	①(18.0)			良好、灰白色。	内外面、白化粒土による施文。肥前系。	18世紀前

種別番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態 出土位置	計測値(cm)			成形、調整の特徴、その他
				①長さ	②幅	③厚・高	
第135図 PL-91	12	銅製品 煙管	飛口 斜断面表上	①5.3	②0.5		胴部分押しつぶされている。
第135図 PL-91	13	銅製品 煙管	飛口端部欠損	①(3.3)	②1.4		扉字につながる部分が大きく3段に加工されている。側面中央部分に接合痕跡。

種別番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態	計測値(mm, g)					時期 備考	
				①口径	②底径	③内輪径	④厚さ	⑤重さ		
第136図 PL-91	14	天聖元宝	一部欠損	23.07	23.67	19.28	19.53	0.94～1.06	1.6	天聖元宝。宋銭。1023年。
第136図 PL-91	15	寛永通宝	完形	23.48	23.49	18.01	18.19	0.91～0.95	2.4	新寛永。3期。

種別番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態 出土位置	計測値(cm)			成形、調整の特徴、その他
				①長さ	②幅	③厚・高	
第135図 PL-91	16	鉄製品 釘	頭部一部欠損	①5.1	②0.5		頭部を薄く伸ばした後、折り曲げて形成。
第135図 PL-91	17	鉄製品 不詳	不詳 断面	①(6.8)	②3.2		断面長方形。幅広く薄い。
第136図 PL-91	18	青銅製品 飾金具	一部欠損	②2.7			青銅製の飾金具と思われる。

種別 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態 出土位置	計測値(cm, g)			胎土・焼成・色調	石材	成形、調整の特徴など	備考
				①長さ	②幅	③厚・高				
第136図 PL.91	19	砥石	30%	①(3.9) ②2.8 ③1.5			砥石		3面を使用。断面の使用傾度は軽微。調整時の工具類が不明瞭。2面も使用可。	
第2区画1号礎石建物										
種別 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態	計測値(cm)			胎土・焼成・色調	成形、調整の特徴など	備考	
①口径	②底径	③器高								
第141図 PL.92	1	陶器 德利	口縁～胴部 30%	①4.4			良好。灰黄色。	美濃。	連房7小期	
第141図 PL.92	2	陶器 すり鉢	胴部片	①(6.6)			良好。灰白色。	すり鉢胴部片を成形し転用。上部はその後欠損。蓋戸。	連房1～4小期	
種別 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態 出土位置	計測値(cm)			胎土・焼成・色調	成形、調整の特徴、その他	備考	
①長さ	②幅	③厚・高								
第141図 PL.92	3	銅製品 煙首	煙首	①6.2 ②0.9			胴部が細く頸部との差が少ない。火皿も小さい。			
第141図 PL.92	4	銅製品 銅金具か	完形	①3.5 ②1.5			線刻等なし。			
種別 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態 出土位置	計測値(cm, g)			胎土・焼成・色調	石材	成形、調整の特徴など	備考
①長さ	②幅	③厚・高	④重さ							
第141図 PL.92	5	石鉢	完形	①9.8 ②7.2 ③4.9 ④174			軽石		軽石を利用した小さな鉢か。表面を平らにして中央に小さな穴が開けられている。	
第2区画礎土										
種別 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態	計測値(cm)			胎土・焼成・色調	成形、調整の特徴など	備考	
①口径	②底径	③器高								
第143図 PL.92	1	陶器 碗	口縁～高台部 60%	①(12.4) ②(4.0) ③5.8			良好。灰白色。	柳茶碗。蓋戸・美濃。	18世紀後～19世紀初	
第2区画土坑										
種別 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態	計測値(mm, g)			胎土・焼成・色調	時期 備考		
①直径	②内輪径	③厚さ	④重さ							
第145図 PL.92	3号土坑1	木炭通宝	完形	24.79	24.75	21.07	20.61	1.21～1.24	2.5	木炭通宝。明銭。1408年。
第2区画土取穴										
種別 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態	計測値(cm)			胎土・焼成・色調	成形、調整の特徴など	備考	
①口径	②底径	③器高								
第149図 PL.92	1	陶器 碗	胴～高台部 40%	②(4.8)			良好。淡黄色。	柳茶碗。覆付部分の摩滅顕著。蓋戸。	連房8小期	
第149図 PL.92	2	陶器 すり鉢	胴部片	③(5.3)			良好。浅黄褐色。	すり鉢胴部片を成形し転用。上下部はその後欠損。蓋戸。	連房5～7小期	
第149図 PL.92	3	陶器 土皿	口縁～底部 60%	①9.0 ②9.7 ③7.8			良好。灰白色。	外面白化化粧に染付。蓋子・笠間川。	近代	
第149図 PL.92	4	陶器 片口	口縁～胴部 40%	①(19.8)			良好。黄灰色。		近世以降	
種別 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態 出土位置	計測値(cm)			胎土・焼成・色調	成形、調整の特徴、その他	備考	
①長さ	②幅	③厚・高								
第149図 PL.92	5	銅製品 煙首	煙首	①5.9 ②1.1			火皿の器内厚い。胴部から頸部に向かい急に細くなる。断面に接合痕跡。羅字が残る。材質は籐竹と思われる。			
第149図 PL.92	6	銅製品 煙首	煙首	①5.2 ②0.8			頸部と胴部細い。羅字が残る。材質は籐竹と思われる。			
第149図 PL.92	7	銅製品 煙首	火皿部分	①1.8			頸部で欠損した火皿部分。			
第149図 PL.92	8	銅製品 煙首	吸口	①5.4 ②1.1			ほぼ完形。羅字が残る。材質は籐竹と思われる。			
第149図 PL.92	9	銅製品 煙首	吸口一部欠損	①(3.8) ②0.5			羅字に連なる太い部分欠損。			
種別 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態	計測値(mm, g)			胎土・焼成・色調	時期 備考		
①直径	②内輪径	③厚さ	④重さ							
第149図 PL.92	10	寛永通宝	完形	23.25	23.11	18.67	18.58	1.08～1.10	2.5	新寛永。3期。
第149図 PL.92	11	寛永通宝	完形	24.60	24.53	19.21	19.29	1.14～1.22	3.2	新寛永。3期。文字が少し太い。
第149図 PL.92	12	寛永通宝	ほぼ完形	23.84	23.64	18.65	18.61	0.91～0.97	2.2	新寛永。3期。薄くなり一部穴が開いている。
第149図 PL.92	13	寛永通宝	ほぼ完形	23.07	22.67	18.48	18.31	1.11～1.16	2.1	新寛永。3期。
第149図 PL.92	14	寛永通宝	一部欠損	-	25.48	19.60	19.83	(2.06～2.64)	2.5	新寛永。3期。鉄製で錆がひどく、○永通宝がかわらうじて読める。
第149図 PL.92	15	半銭銅貨	完形	22.08	22.09	-	-	1.08	3.1	半銭銅貨。明治18年。錆がひどい。
種別 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態 出土位置	計測値(cm)			胎土・焼成・色調	成形、調整の特徴、その他	備考	
①長さ	②幅	③厚・高								
第150図 PL.92	16	銅製品 銅金具	不詳	①3.0 ②2.1					銅製の銅金具2枚の間に皮と思われるものを挟み込み、2本のビスで留めている。裏側の銅金具上半分は欠損。裏の一部とビスが1本残る。	

第3章 林中原1遺跡

種別番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態 出土位置	計測値(cm)			成形、調整の特徴、その他
				①長さ	②幅	③厚・高	
第150図 PL-92	17	鉄製品 釘	ほぼ完形	①4.8	②0.9		頭部の片方を叩き、薄く伸ばした後、折り曲げて形成。胴部は空洞となっている。
第150図 PL-92	18	鉄製品 釘	端部欠損	①6.2	②0.9		鉄釘の一部、胴部中央空洞。鉄の厚さ0.5mm。
第150図 PL-92	19	青銅製品 飾金具	完形	①0.9			飾金具の一部。留金具と思われる。

種別番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態 出土位置	計測値(cm, g)			石材	成形、調整の特徴など
				①長さ	②幅	③厚・高		
第150図 PL-92	20	砥石	50%	①(5.1)	②3.0	③1.3	流紋岩	主に3面を使用。調整時の痕跡不明瞭。
第150図 PL-92	21	石臼上臼	80%	推定径(32.0)	③14.2	④(17300)	粗粒輝石安山岩	供給口部分で割れている。刻目は使用により磨り減っている。

第2区画遺構外

種別番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態 出土位置	計測値(cm)			胎土・焼成・色調	成形、調整の特徴など	備考
				①口径	②底径	③器高			
第153図 PL-93	1	染付 瓶	胴～高台部 60%	②3.7			良好。灰白色。	外面、水裂地に菊花文。見込み、崩れた五弁花。肥前。	18世紀後～ 19世紀前

種別番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態 出土位置	計測値(cm)			成形、調整の特徴、その他
				①長さ	②幅	③厚・高	
第153図 PL-93	2	鉄製品 釘	完形	①13.8	②1.0		頭部は細くして折り曲げている。

3号石皿

種別番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態 出土位置	計測値(cm)			胎土・焼成・色調	成形、調整の特徴など	備考
				①口径	②底径	③器高			
第158図 PL-93	1	陶器 皿	胴～高台部片 ②(4.4)				良好。ぶい黄褐色。	京焼風。肥前。	1650～1690 年代
第158図 PL-93	2	陶器 片口	口縁～高台部 70%	①16.0	②9.0	③8.5	良好。淡黄色。	見込みに目痕5カ所。漆黒。美濃。	連房9小期

種別番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態 出土位置	計測値(cm)			成形、調整の特徴、その他
				①長さ	②幅	③厚・高	
第158図 PL-93	3	鉄製品 釘	ほぼ完形	①12.3	②0.9		頭部側面を薄く伸ばした後、折り曲げて形成。

種別番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態 出土位置	計測値(cm, g)			石材	成形、調整の特徴など
				①長さ	②幅	③厚・高		
第158図 PL-93	4	石鉢	—	①(16.1)	②(10.0)	③7.4 ④(350)	軽石	鉢の一部分と思われる。多くの部分が欠損して全体不明瞭。
第158図 PL-93	5	茶臼下臼	—	径一	③4.6	④(330)	粗粒輝石安山岩	茶臼の受皿部分の破片である。受皿上部部を砥石として使用している。
第158図 PL-93	6	石臼上臼	60%	径34.2	③11.2	④(11000)	安山岩	表面荒い。6分曲か。刻目主溝+副10本前後。使用により全体が薄くなっている。
第158図 PL-93	7	石臼上臼	75%	径33.0	③11.3	④(10800)	安山岩	4つに割れている。使用により薄くなっている。刻目は明瞭に残っている。
第159図 PL-93	8	茶臼下臼	30%	径一	③9.9	④(1400)	安山岩	小さく割っており、受皿部もわずかに残る程度である。
第159図 PL-93	9	石臼下臼	一部欠損	径33.6	③14.0	④22500	粗粒輝石安山岩	刻目は使用により摩耗し、一部破石のように磨り減っている。
第159図 PL-93	10	石臼下臼	50%	推定径(33.0)	③12.4	④(9008)	粗粒輝石安山岩	厚く使用量は少ないか。刻目は細い。6分曲で12本前後か。

種別番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態 出土位置	計測値(cm)			胎土・焼成・色調	成形、調整の特徴など	備考
				①口径	②底径	③器高			
第168図 PL-94	1号 掘立 柱建物1	陶器 徳利	胴部片	③(4.5)			良好。灰白色。	美濃。	連房5か6小 期
第168図 PL-94	4号 掘立 柱建物1	陶器 碗	口縁～胴部 60%	①(12.4)			良好。灰白色。	灰緑。丸碗。被熱か。美濃。	連房5小期

種別番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態 出土位置	計測値(cm, g)			石材	成形、調整の特徴など	
				①長さ	②幅	③厚・高			
第168図 PL-94	4号 掘立 柱建物2	石臼上臼	破片 P23埋土上	①—	②—	③(5.4)	④(200)	安山岩	上臼上縁の一部である。火を受けて一部に煤が残る。
第168図 PL-94	4号 掘立 柱建物3	石臼下臼	40%	推定径(31.8)	③14.6	④(7700)	安山岩	使用により目が磨り減って刻目が明瞭でない。厚さも薄くなっている。	

種別番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態 出土位置	計測値(cm)			胎土・焼成・色調	成形、調整の特徴など	備考
				①口径	②底径	③器高			
第168図 PL-94	6号 掘立 柱建物1	青磁 碗	口縁～胴部片	①(15.0)			良好。灰白色。	端反碗。	14世紀後～ 15世紀 青磁 碗D1類

種別番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態 出土位置	計測値(cm, g)			石材	成形、調整の特徴など
				①長さ	②幅	③厚・高		
第171図 PL-94	76号ピット 1	砥石	破片	①(6.1)	②(2.6)		流紋岩	1面を使用。細かい溝を複数残す。残る1面の使用 痕跡は軽微。調整時の痕跡不明瞭。

種図番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態	計測値(cm)			胎土・焼成・色調	成形、調整の特徴など	備考	
				①口径	②底径	③器高				
第171図 PL.94	166号	陶器 すり鉢	胴～底部片	②(12.0)			良好、灰白色。	見込み及び底部外面の使用痕跡顕著。	連房5～7小期	
第171図 PL.94	199号	在土器 内耳土器	内耳部片	③(2.2)			細砂粒やや多、僅し焼成。 良好、にぶい褐色。	胴形。外面やや粗い撫で。外面器表は黒色。 信濃型か。	中世	
第171図 PL.94	200号	陶器 鉢	胴～高台部 50%	②(4.8)			良好、淡黄色。	尾呂茶碗。美濃。	連房6か7小期	
第171図 PL.94	200号	陶器 香炉	口縁～底部 40%	①(10.6) ②(7.4) ③(6.0)			良好、灰黄色。	瀬戸・美濃系。	近世	
種図番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態	計測値(mm, g)				時期 備考		
第171図 PL.94	200号	寛永通宝	完形	24.43	24.45	19.27	19.26	1.26～1.33	3.2	新寛永。3期。
第3区画1土坑										
種図番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態	計測値(cm)			胎土・焼成・色調	成形、調整の特徴など	備考	
第175図 PL.94	6号	陶器 碗	口縁～胴部 30%	①(11.3)						良好、灰色。
第175図 PL.94	8号	陶器 皿	口縁部片	①(15.0)			良好、灰白色。	肥前系。内野山諸窯。	17世紀後～ 18世紀	
種図番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態 出土位置	計測値(cm)			胎土・焼成・色調	成形、調整の特徴、その他	備考	
第175図 PL.94	8号	鉄製品 釘	ほぼ完形	①長さ	②幅	③厚・高				①8.8 ②0.7
種図番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態 出土位置	計測値(cm, g)			胎土・焼成・色調	成形、調整の特徴など	備考	
第175図 PL.94	10号	土坑	鉢跡	①長さ	②幅	③厚・高				①(9.7) ②10.8 ③7.0
種図番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態	計測値(cm)			胎土・焼成・色調	成形、調整の特徴など	備考	
第175図 PL.94	14号	磁器 碗	口縁～高台部 60%	①9.3	②5.2	③3.7				良好、灰白色。
第3区画6号溝										
種図番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態	計測値(cm)			胎土・焼成・色調	成形、調整の特徴など	備考	
第177図 PL.94	1	磁器 仏飯器	脚部	②3.6						良好、灰白色。
第3区画遺構外										
種図番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態	計測値(cm)			胎土・焼成・色調	成形、調整の特徴など	備考	
第178図 PL.94	1	陶器 碗	口縁部片	①(15.0)						良好、灰白色。
第178図 PL.94	2	在土器 内耳土器	胴～底部片	③(3.2)			細砂粒やや多、僅し焼成。 良好、にぶい褐色。	胴形。平底。内面横撫で。外面粗い撫で。 外面器表は黒色。	中世	
第178図 PL.94	3	染付 碗	口縁～高台部 50%	①(10.2) ②(4.0) ③5.4			良好、灰白色。	外面、雪輪草花文。高台内に銘か。肥前。	18世紀後	
第178図 PL.94	4	陶附染付 碗	胴～高台部 40%	②(4.1)			良好、灰色。	肥前。	18世紀前	
第178図 PL.94	5	陶附染付 碗	胴～高台部 40%	②(4.0)			良好、灰色。	肥前系。	18世紀前	
第178図 PL.94	6	陶器 碗か	胴～高台部 50%	②(4.4)			良好、灰黄色。	瀬戸・美濃系。	近世	
第178図 PL.94	7	陶器 すり鉢	胴～底部片	③(1.8)			良好、にぶい褐色。	すり鉢底部を成形し転用。見込み及び底部 外面に使用痕跡顕著。瀬戸。	近世	
種図番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態 出土位置	計測値(cm)			胎土・焼成・色調	成形、調整の特徴、その他	備考	
第178図 PL.94	8	銅製品 煙管	吸口 54区表層	①5.0	②0.9					
第178図 PL.94	9	銅製品 煙管	覆蓋火皿部分欠損 2層	①(4.9)	②0.8			火皿部分欠損。側面に接合痕跡。		
第178図 PL.94	10	鉄製品 刃物か	不詳	①(2.2)	②1.2			刃物の一部か。		
第178図 PL.94	11	銅製品 煙管	吸口一部欠損	①(2.5)	②0.5			側面中央付近に接合痕跡。		
種図番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態	計測値(mm, g)				時期 備考		
第178図 PL.94	12	寛永通宝	完形	24.20	24.24	18.71	18.78	1.14～1.18	3.2	新寛永。3期。
第178図 PL.94	13	寛永通宝	完形	24.48	24.65	20.03	20.06	1.01～1.08	2.5	新寛永。3期。

第3章 林中原1遺跡

4号石函

神回番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態 出土位置	計測値(cm, g)			石材	成形、調整の特徴など
				①長さ	②幅	③厚・高		
第185回 PL.94	1	石臼上白	40%	楕定径(32.5) ③14.4 (6.0900)			粗粒輝石安山 岩	挽手欠のある側面も打ち欠いてある。刻目は明確で残りがよい。

第5区両遺構外

神回番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態	計測値(cm)			胎土・焼成・色調	成形、調整の特徴など	備考
				①口径	②底径	③器高			
第186回 PL.95	1	青磁 碗	口縁部片	③(1.3)			良好。灰白色。	竊造片文碗。	青磁碗1類
第186回 PL.95	2	青磁 皿	口縁～胴部片	①(11.4)			良好。明褐色。	青磁蓮片文折縁皿。	13世紀後(横田・森田分組 杯皿-4類)
第186回 PL.95	3	白磁 盃	口縁～胴部片	①(9.3)			良好。にぶい黄褐色。	面取蓋。中国。	15世紀前
第186回 PL.95	4	陶器 皿	胴部片	③(1.0)			良好。灰黄色。	縁輪小皿。	古瀬戸後期皿
第186回 PL.95	5	陶器 皿	胴～底部50%	②5.8			良好。浅黄褐色。	縁輪小皿。内面使用痕跡等。一部被熱。	古瀬戸後期皿 分取皿
第186回 PL.95	6	陶器 甕	口縁部片	③(4.6)			良好。にぶい褐色。	常滑。	5型式期(13 世紀末)
第186回 PL.95	7	陶器 鉢か鉢	胴～底部片	②(11.8)			良好。褐色。	内面使用痕跡跡等。珠溝。	中世
第186回 PL.95	8	陶器 皿	口縁部片	①(30.0)			良好。灰白色。	灰釉。折縁深皿。	古瀬戸中期皿
第186回 PL.95	9	陶器 甕	口縁～胴部片	①(43.0)			良好。褐色。	外面に押印文を残す。常滑。	7型式期
第187回 PL.95	10	在地土器 香炉	胴～脚部40%	②(7.6)			細砂粒・金雲母多。酸化 炭焼成。良好。褐色。	右回転糸切り痕。3カ所に脚を付ける。	中世
第187回 PL.95	11	在地土器 内耳土器	胴部片	③(7.4)			細砂粒・金雲母含。焼し 焼成。良好。灰黄褐色。	銅形。内面横撫で。外面粗い撫で。外面 器表は黒色。	中世
第187回 PL.95	12	在地土器 内耳土器	胴～底部片	③(3.0)			細砂粒多。焼し焼成。良 好。にぶい黄褐色。	平底。内面横撫で。外面粗い撫で。底部 付近以外。外面器表は黒色。	中世
第187回 PL.95	13	染付 碗	口縁～高台部 40%	①(6.8) ②(2.9) ③5.3			良好。灰黄色。	箱形湯呑。外面に菊花文。見込みに星唐文。 瀬戸。	連房10小期
第187回 PL.95	14	染付 碗	口縁～胴部 40%	③6.7			良好。灰白色。	外面に格子文。口縁部外面に跡をまわす。 口縁部外面に重ね焼き時の痕跡か。肥前。	19世紀
第187回 PL.95	15	陶器 碗	胴部片	③(1.8)			良好。灰色。	丸碗。被熱。志野。	連房1か2小期
第187回 PL.95	16	陶器 皿か鉢か	胴部片	③(1.8)			良好。赤褐色。	内面。白化粧土を刷毛塗り。肥前。	18世紀前～中
第187回 PL.95	17	陶器 碗	口縁～胴部片	①(11.0)			良好。灰黄色。	尾呂茶碗。	連房5か6小期
第187回 PL.95	18	陶器 すり鉢	口縁部片	①(32.0)			良好。にぶい黄褐色。	瀬戸。	連房6小期

神回番号 図版番号	掲載番号	種類	計測値(cm)		成形、調整の特徴など	樹種
			長さ×幅×厚さ	高さ		
第187回 PL.95	19	椀	口径一底径(3.0) 高さ(0.7)		椀の破片である内外面。黒色に塗装されている。皮膜確認できる。	ケヤキ
第187回 PL.95	20	曲物	(12.0)×(4.7)×0.5		二枚の片木板を重ねて、重ね合わせ部分に縦列の切れ目を入れて榫皮綴り組む合せている。	ヒノキ
第187回 PL.95	21	用途不明	(8.6)×6.5×3.3		表面加工痕なし。下端部の切断による加工痕も不明瞭。	ヒノキ科
第187回 PL.95	22	用途不明	13.4×5.6×4.1		表面削られているが加工痕不明。	クリ
第187回 PL.95	23	用途不明	(6.7)×3.8×1.3		J字状の木製品である。明確な加工痕確認できない。	ヤマグワ
第187回 PL.95	24	榫皮か	4.2×3.1×2.7		榫皮(山桜の皮か)。曲物の重ね合わせ部に2枚の片木板を固定するためのものか。	—
第187回 PL.95	25	榫皮か	2.7×2.5		榫皮(山桜の皮か)。曲物の重ね合わせ部に2枚の片木板を固定するためのものか。	—

神回番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態 出土位置	計測値(cm)			成形、調整の特徴、その他
				①長さ	②幅	③厚・高	
第187回 PL.95	26	真鍮 煙管	吸口	①6.5 ②1.2			残りよく欠損部なし。側面に接合痕跡。現代に近い遺物か。

神回番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態 出土位置	計測値(cm, g)			石材	成形、調整の特徴など
				①長さ	②幅	③厚・高		
第187回 PL.95	27	台石	完形	①27.6 ②27.2 ③17.6 ④22000			粗粒輝石安山 岩	台石と思われる。3側面に縁辺部を帯状に残し内側を廻り込んでいる。上面中央部凹状となっている。下部は平らに加工している。

第6区画1号配石

神岡番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態	計測値(cm)			胎土・焼成・色調	成形、調整の特徴など	備考	
				①口径	②底径	③器高				
第202図 PL.95	1	在土土器 皿	口縁～胴部片	①(10.8)			磁砂粒少。良好。浅黄褐色。	土師器皿。底部より外反し、口縁部に向け内湾。口縁部付近、器壁厚い。		
第202図 PL.95	2	在土土器 鉢	口縁部片	①(28.5)			磁砂粒多。還元炎焼成。良好。黄灰色。	口縁部くの字に屈曲する。	中世	
神岡番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態 出土位置	計測値(cm)			胎土・焼成・色調	成形、調整の特徴、その他	備考	
				①長さ	②幅	③厚・高				
第202図 PL.95	3	鉄製品 釘	頭部欠損	①(6.3)	②0.6			釘下部と思われる。		
神岡番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態	計測値(mm, g)					時期 備考	
				①口径	②底径	③内輪径	④厚さ	⑤重さ		
第202図 PL.95	4	元豊通宝	完形	24.75	24.79	19.35	19.14	1.13～1.15	2.6	元豊通宝。宋銭。1078年。
神岡番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態 出土位置	計測値(cm, g)			石材	成形、調整の特徴など	備考	
				①長さ	②幅	③厚・高				
第202図 PL.95	5	多孔石	完形	①21.6 ④2600	②11.9	③8.2	粗粒輝石安山岩	不定形な自然石利用。表裏面に多くの凹穴を持つ。		
第203図 PL.95	6	不明	完形	①19.7 ④3200	②17.0	③6.0	粗粒輝石安山岩	表裏中央部に埋付着。中央部がより厚く堆積。周辺が薄い。直径約10cm。丸い自然石を使用している。		
第203図 PL.95	7	不明	—	①8.7 ④320	②8.7	③3.1	粗粒輝石安山岩	用途名称不明。表面に細長いU字状の線が刻まれている。		

第6区画遺構外

神岡番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態	計測値(cm)			胎土・焼成・色調	成形、調整の特徴など	備考
				①口径	②底径	③器高			
第209図 PL.96	1	磁器 水注 蓋	50%	③(1.5)			良好。灰白色。	小型小汁の蓋。青白磁か。外面型押しによる成形。	
第209図 PL.96	2	染付 陶	口縁～胴部片	①(9.2)			良好。灰白色。	内外面に二重刷目文。肥前。	18世紀後

第7区画掘立柱建物

神岡番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態	計測値(cm)			胎土・焼成・色調	成形、調整の特徴など	備考
				①口径	②底径	③器高			
第222図 PL.96	3号掘立 柱建物1	須恵器 環	胴～底部60%	②(7.5)			磁砂粒含。良好。灰白色。	底部左回転系切り。	9世紀後
第222図 PL.96	9号掘立 柱建物1	在土土器 内耳土器	口縁～胴部片	③(3.9)			磁砂粒多。焼し焼成。良好。褐色。	内面、頸部外面横溝で。胴部外面、やや粗い様で。外面器表は黒褐色。	中世

第7区画ビット

神岡番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態 出土位置	計測値(cm)			胎土・焼成・色調	成形、調整の特徴、その他	備考
				①長さ	②幅	③厚・高			
第224図 PL.96	3 7 8 号 ビット1	鉄製品	不詳	①(5.9)	②1.4			名称・用途不明。釘の一部か。	
神岡番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態	計測値(cm)			胎土・焼成・色調	成形、調整の特徴など	備考
				①口径	②底径	③器高			
第224図 PL.96	4 9 9 号 ビット1	陶器 磨か徳利	胴部片	③(5.8)			良好。灰色。	生産地不詳。	近世以降

第7区画土坑

神岡番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態	計測値(cm)			胎土・焼成・色調	成形、調整の特徴など	備考
				①口径	②底径	③器高			
第227図 PL.96	25号土坑 1	青磁 陶	口縁～胴部片	①(13.6)			良好。灰白色。	鍋蓋弁文様。龍泉窯系。	青磁碗B1類

第7区画溝

神岡番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態	計測値(cm)			胎土・焼成・色調	成形、調整の特徴など	備考
				①口径	②底径	③器高			
第231図 PL.96	2号溝1	陶器 皿	胴～底部30%	②(6.0)			良好。にぶい黄褐色。	縁輪小皿。	古瀬戸後期
神岡番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態 出土位置	計測値(cm)			胎土・焼成・色調	成形、調整の特徴、その他	備考
				①長さ	②幅	③厚・高			
第231図 PL.96	2号溝2	鉄製品 釘	先端部欠損	①(4.3)	②0.7			頭部薄く伸ばした後、折り曲げて形成。中心部空洞でない。	
第231図 PL.96	3号溝1	鉄製品	不詳	①(3.0)	②1.9			断面長方形。幅広く薄い。	
神岡番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態	計測値(cm)			胎土・焼成・色調	成形、調整の特徴など	備考
				①口径	②底径	③器高			
第231図 PL.96	5号溝1	染付 陶	胴～高台部 30%	③(3.4)			良好。灰白色。	小丸碗。外面に笹文。肥前系。	18世紀後～ 19世紀初
第231図 PL.96	6号溝1	青磁 陶	口縁部片	①(13.6)			良好。灰白色。	鍋蓋弁文様。龍泉窯系。	青磁碗B0期 か

第3章 林中原1遺跡

第7区画1号礎石建物

棟回番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態	計測値(cm)			胎土・焼成・色調	成形、調整の特徴など	備考
				①口径	②底径	③器高			
第230回 PL.96	1	須恵器 環	底部片	②(4.0)	細砂粒やや多く含。良好。にぶい黄褐色。			底部回転糸切り。	10世紀後
	2	在土土器 内耳土器	胴部片	③(5.4)	細砂粒多。焼し焼成。良好。褐色。			良好。内面横撫で。外面やや粗い横撫で。	中世

第7区画2号礎石建物

棟回番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態	計測値(cm)			胎土・焼成・色調	成形、調整の特徴など	備考
				①口径	②底径	③器高			
第235回 PL.96	1	青磁 碗	口縁～胴部 30%	①(14.0)	良好。灰色。			端反碗。龍泉窯系。	青磁碗D2類か

52K区立柱建物

棟回番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態 出土位置	計測値(cm)				成形、調整の特徴、その他
				①長さ	②幅	③厚・高	④重さ	
第281回 PL.96	2号 区立柱建物1	銅製品 円筒	完形 P17覆土	①4.1	②0.55	表面は塗装しており、部分的にはがれている。		

棟回番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態 出土位置	計測値(cm, g)				石材	成形、調整の特徴など
				①長さ	②幅	③厚・高	④重さ		
第281回 PL.96	2号 区立柱建物2	不明	完形	①27.6 ④10400	②29.6	③7.5	粗粒輝石安山岩	片面中央部に直径13cm前後の円形に覆付着。中央部分は僅かに付着している。一部に磨られて磨耗した面あり。炭化の付着していない裏面はほぼ全面磨耗している。磨石の転用か。	
第281回 PL.96	3号 区立柱建物1	石白下白	40%	推定径(31.0) ③9.0 ④5420				粗粒輝石安山岩	下白の破片である。6分測されている1区画の割目が6本前後と幅広く荒い。使用により薄くなっている。軸受けの穴は半分以下の残りであるが円形でなく方形の可能性あり。
第281回 PL.96	8号 区立柱建物1	不明	完形 P3覆土	①10.4	②5.3	③3.5	④300	粗粒輝石安山岩	名称用途不明。表面の一部に墨が塗られている。他に加工痕なし。

棟回番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態	計測値(cm)			胎土・焼成・色調	成形、調整の特徴など	備考
				①口径	②底径	③器高			
第281回 PL.96	16号 区立柱建物1	陶器 意か	胴部片	③(3.0)	良好。にぶい赤褐色。			志戸呂を含む地方産。	近世

棟回番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態 出土位置	計測値(cm, g)				石材	成形、調整の特徴など
				①長さ	②幅	③厚・高	④重さ		
第281回 PL.96	16号 区立柱建物2	転用砥石	完形 P15覆土	①14.9	②11.5	③8.1	④850	安山岩	自然石を砥石として使用している。

棟回番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態	計測値(cm)			胎土・焼成・色調	成形、調整の特徴など	備考
				①口径	②底径	③器高			
第281回 PL.96	18号 区立柱建物1	陶器 甕	胴部片	③(1.8)	良好。灰白色。			天目茶碗。瀬戸・美濃。	透房1か2小期
第281回 PL.96	25号 区立柱建物1	陶器 甕	胴～高台部 50%	②4.8	良好。浅黄色。			反軸。平碗。内面に直径5カ所。費付に回転糸切り痕を残す。	古瀬戸後期IV古

52K区ピット

棟回番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態	計測値(cm)			胎土・焼成・色調	成形、調整の特徴など	備考
				①口径	②底径	③器高			
第283回 PL.96	5 3 8号 ピット1	陶器 甕	胴部片	③(8.8)	良好。にぶい赤褐色。			常滑。	中世

棟回番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態 出土位置	計測値(cm, g)				石材	成形、調整の特徴など
				①長さ	②幅	③厚・高	④重さ		
第283回 PL.96	5 4 7号 ピット1	砥石	完形	①16.4 ④1880	②14.4	③9.7	安山岩	4側面砥石として使用している。砥面は平面でなく凹状となっている。一部に幅3～4mmの線状の刻みを持つ。線状の刻面は磨耗していない。	

52K区1号竪穴状遺構

棟回番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態	計測値(cm)			胎土・焼成・色調	成形、調整の特徴など	備考
				①口径	②底径	③器高			
第286回 PL.97	1	在土土器 内耳土器	口縁部及び 底部一部欠損	①26.6 ③16.5	②22.2	細砂粒やや多。焼し焼成。やや良好。にぶい黄褐色。			15世紀～16世紀
			胴部片	①(30.0)	細砂粒やや多。焼し焼成。やや良好。にぶい黄褐色。				
第286回 PL.97	2	在土土器 内耳土器	口縁部片	①(30.0)	細砂粒やや多。焼し焼成。やや良好。にぶい黄褐色。			口縁部。平皿でシャープ。頸部で強く屈曲。内外面横撫で。外面器表は暗褐色。	中世
第286回 PL.97	3	白磁 皿	口縁～胴部片	①(10.8)	良好。灰白色。			白磁碗高台部の周辺を打ち欠き、円盤状に成形。見込み欄面状工具による施文。見込みには焼成時に付いたと思われる鉄が残る。	
第286回 PL.97	4	白磁 碗	底部片	②6.0	良好。灰白色。			白磁碗高台部の周辺を打ち欠き、円盤状に成形。見込み欄面状工具による施文。見込みには焼成時に付いたと思われる鉄が残る。	白磁碗V類
第286回 PL.97	5	砥 (漆付着)	破片 (半円形)	幅約16.8cm 縦約9cm 重量7.9g			伊の北内輪円礫の上に平折りされた砥が出土。砥には漆が付着。砥を赤外線でも調べたが文字は書かれていなかった。図では全体の他に平折りされた部分を拡大し表裏を指示した。		

神岡番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態 出土位置	計測値(cm, g)				石材	成形、調整の特徴など
				①長さ	②幅	③厚・高	④重さ		
第287図 PL.97	6	砥石	完形				①17.1 ②2.0 ③2.0 ④57.4	流紋岩	4側面磨かれている。上下両端部は自然面。小さな砥石と思われる。
第287図 PL.97	7	転用砥石	完形				①19.9 ②11.0 ③8.6 ④1600	粗粒輝石安山岩	自然石を砥石として使用している。
第287図 PL.97	8	磨石	完形				①8.8 ②7.9 ③4.0 ④384	粗粒輝石安山岩	裏面裏面が磨かれて磨耗している。
第287図 PL.97	9	不明	完形				①21.7 ②18.8 ③4.1 ④2900	粗粒輝石安山岩	表面中央部に磨付着。中央部で一部煤のかたまりが剥離している。加工痕なし。直径約10cmの範囲に煤が付着。
第287図 PL.97	10	不明	50%				①23.0 ②(15.1) ③4.0 ④2650	粗粒輝石安山岩	表面中央部に約10cmの円形に煤付着。割れた断面にも煤が付着。加工痕なし。自然石を利用している。
第286図 PL.97	11	不明	ほぼ完形				①18.2 ②19.0 ③4.0 ④1950	粗粒輝石安山岩	表面中央部に煤付着。特に中央部厚く。加工痕なし。自然石を利用している。片面中央部煤少ない。煤の付着範囲直径約10cm。

52K1号落ち込み

神岡番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態	計測値(cm)				胎土・焼成・色調	成形、調整の特徴など	備考
				①口径	②底径	③器高	④重さ			
第292図 PL.98	1	在土器 内耳土器	胴～底部30%				②(21.0)	細砂粒やや多。焼し焼成、やや良好。ふいね色。	丸底。内外面横撫で。内面にスス付着。	中世
第292図 PL.98	2	在土器 内耳土器	口縁部片				③(5.2)	細砂粒少。酸化炎焼成。良好。褐色。	胴形。口縁部やや外反。口縁端部平直。内外面横撫で。	中世
第292図 PL.98	3	在土器 内耳土器	胴～底部片				③(3.7)	細砂粒多。焼し焼成、やや良好。ふいね色。	胴形。平底。内面横撫で。外面底部付近横撫で。	中世
第292図 PL.98	4	在土器 内耳土器	胴～底部片				③(2.8)	細砂粒やや多。焼し焼成。良好。黄灰色。	胴形。平底。内面横撫で。外面底部付近横撫で。内外面器表は黒褐色。	中世
第293図 PL.98	5	須恵器 碗	底部40%				③(0.9)	細砂粒少。良好。灰黄色。	底部右回転系切り無調整。周辺を打ち欠き。円形に成形。	9世紀後

神岡番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態 出土位置	計測値(cm)				成形、調整の特徴、その他
				①長さ	②幅	③厚・高	④重さ	
第293図 PL.98	6	桶型鉄洋	一部欠損				①9.7 ②6.7 ③3.9 重さ216g	表面は密でやや光沢を持つ。裏面は砂粒を含み荒れている。

神岡番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態 出土位置	計測値(cm, g)				石材	成形、調整の特徴など
				①長さ	②幅	③厚・高	④重さ		
第293図 PL.98	7	硯	30%				①(6.8) ②(5.0) ③0.8	粘板岩	欠損が多く使用頻度は不明。陸部には細かい溝が弧を描くように残る。側面の細かい溝は調整時の痕跡と思われる。縁には製作時の痕跡と思われる高直線3条。並行する痕跡の形のみ2条。
第293図 PL.98	8	砥石	破片				①(6.7) ②(4.5)	砥沢石	不定形の砥石。欠損部以外、使用痕跡あり。両側面には数条の溝。一部深く凹む。
第293図 PL.98	9	不明	50%				①(6.8) ②(12.7) ③2.5 ④(324)	粗粒輝石安山岩	平らな右の両面中央部に煤付着。片面に縦長い凹状の痕みあり。

52K土坑

神岡番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態	計測値(cm)				胎土・焼成・色調	成形、調整の特徴など	備考
				①口径	②底径	③器高	④重さ			
第298図 PL.98	10号土坑 1	白磁 皿	口縁～胴部片				①(10.9)	良好。灰白色。	口壳面。漆黒。	白磁皿Ⅱ型 (14世紀)
第298図 PL.98	10号土坑 2	陶器 片口	胴～高台部 30%				②8.0	良好。淡黄色。	見込みに目痕1カ所。美濃。	連房9小期
第298図 PL.98	16号土坑 1	陶器 碗	高台部片				②4.2	良好。灰白色。	呉器手縁。周辺を打ち欠き。円盤状に成形。彫筋系。	1650～1690 年代
第298図 PL.98	22号土坑 1	陶器 碗	口縁～胴部 60%				①(10.4)	良好。灰白色。	丸底。瀬戸。	連房5か6小期
第298図 PL.98	23号土坑 1	染付 碗	口縁～高台部 30%				①(10.0) ②(4.0) ③4.8	良好。灰白色。	外面に雪輪草花文。高台内、方形枠内に筋か。彫筋。	18世紀

神岡番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態 出土位置	計測値(cm)				成形、調整の特徴、その他
				①長さ	②幅	③厚・高	④重さ	
第298図 PL.98	38号土坑 1	鉄製品 不詳	不詳				①(2.9) ②0.7	断面長方形。幅狭く薄い。

神岡番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態 出土位置	計測値(cm, g)				石材	成形、調整の特徴など
				①長さ	②幅	③厚・高	④重さ		
第298図 PL.98	39号土坑 1	石鉢	破片				径一 ③(5.0) ④(110)	安山岩	浅い鉢の一部。縁の上端は磨耗している。

神岡番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態	計測値(cm)				胎土・焼成・色調	成形、調整の特徴など	備考
				①口径	②底径	③器高	④重さ			
第298図 PL.98	53号土坑 1	陶器 碗	高台部片				②5.5	良好。黄灰色。	尾呂基碗の高台部を打ち欠き。円盤状に成形。美濃。	連房6か7小期

52K遺構外

神岡番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態	計測値(cm)				胎土・焼成・色調	成形、調整の特徴など	備考
				①口径	②底径	③器高	④重さ			
第303図 PL.98	1	白磁 皿	口縁～胴部片				①(11.2)	良好。灰白色。	口壳面。	白磁皿Ⅱ型

第3章 林中原1遺跡

種別番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態	計測値(cm)			胎土・焼成・色調	成形、調整の特徴など	備考	
				①口径	②底径	③器高				
第303図 PL-98	2	陶器 茶入	胴～底部	②(3.1)			良好、褐色。	鉄軸、器壁薄い。底部回転車切り。中国。	中世	
第303図 PL-98	3	陶器 瓶子	口縁部片	①(3.8)			良好、灰白色。	灰軸。	古瀬戸中期Ⅲ 4V	
第303図 PL-98	4	陶器 碗	口縁部片	①(12.0)			良好、灰黄色。	天目茶碗。	古瀬戸後期Ⅳ 古	
第303図 PL-98	5	陶器 志か瓶子	胴部片	③(2.4)			良好、にぶい黄褐色。	四口壺か瓶子。	古瀬戸前期	
第303図 PL-98	6	陶器 碗	口縁～胴部片	①(15.8)			良好、灰褐色。	平碗。	古瀬戸後期Ⅰ	
第303図 PL-98	7	陶器 鉢	口縁部片	③(6.8)			良好、にぶい褐色。	口縁部外面、内面横溝で、外面整形時の 痕跡顕著。口縁部平坦。口縁部器壁は やや厚い。使用痕跡は不明瞭。常滑か。	中世	
第303図 PL-98	8	在土土器 内耳土器	胴～底部片	③(2.2)			粗砂粒少。感し焼成。 良好。にぶい褐色。	良形。平底。内外面横溝で。	中世	
第303図 PL-98	9	染付 油壺	口縁～胴部片	①(1.5)			良好、灰白色。	肥前。	18世紀	
第303図 PL-98	10	染付 碗	胴～高台部 30%	②(4.3)			良好、灰白色。	外面、雪輪草文か。見込み、蛇ノ目輪 刺ぎ。肥前。	18世紀	
第303図 PL-98	11	染付 碗	胴部30%	③(1.0)			良好、灰黄色。	外面に雪輪梅樹文。高台内に附けた路あり。 波佐見。	18世紀 後～ 19世紀初	
第303図 PL-98	12	陶胎染付 碗	口縁～胴部 30%	①(11.0)			良好、灰色。	肥前系。	18世紀前	
第303図 PL-98	13	染付 摺子	口縁～胴部 30%	①(7.4)			良好、灰白色。	肥前。	近世	
第303図 PL-98	14	染付 皿	高台部片	③(1.2)			良好、灰白色。	見込み、コンニャク印判による五弁花。 高台内、路あり。漆継か。肥前系。	17世紀 後～ 18世紀	
第303図 PL-98	15	陶器 碗	胴～高台部 30%	②(4.2)			良好、淡黄色。	美濃。	連房7か8小 期	
第303図 PL-98	16	陶器 碗	胴～高台部 40%	②4.0			良好、にぶい黄褐色。	膳前茶碗。畳付部分の厚縁顕著。瀬戸。	連房8小期	
種別番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態	計測値(mm, g)					時期 備考	
第304図 PL-98	17	天福通宝	完形	24.82	24.76	20.32	20.31	1.15～1.24	2.9	天福通宝。宋銭。1017年。
第304図 PL-98	18	解一銭青銅貨	完形	22.99	22.96	-	-	1.14	3.4	解一銭銅貨。大正9年。
種別番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態 出土位置	計測値(cm, g)			石材	成形、調整の特徴など	備考	
				①長さ	②幅	③厚・高				④重さ
第304図 PL-98	19	門石	完形 表探	①10.5	②8.6	③5.0	④350	安山岩	縄文時代の門石に形は似ているが、材質が滑り着面は 全くない。用途不明。	
第304図 PL-99	20	石鉢	25%	①-	②-	③10.3	④850	安山岩	黒色。全体にゆがんでいる。底部外面に對するによる直 線的な縦割多数あり。内面に磨料の痕跡なし。	
第304図 PL-99	21	不明	完形	①28.2	②20.0	③8.6		粗粒輝石安山 岩	表裏中央部及び側面の一部に畳付着。中央部がより厚 く堆積。周辺が薄い。片面は畳が全体に薄い。履の付 着範囲約10cmの円形。	
54区1号竪穴遺構										
種別番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態	計測値(cm)			胎土・焼成・色調	成形、調整の特徴など	備考	
				①口径	②底径	③器高				
第310図 PL-99	1	在土土器か 皿	口縁～底部片	①(7.0)	②(5.0)	③1.6	粗砂粒・金雲母含。良好。 にぶい黄褐色。	器面厚減。小型のカワラケか。器高低い。	中世か	
墓										
種別番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態	計測値(cm)			胎土・焼成・色調	成形、調整の特徴など	備考	
				①口径	②底径	③器高				
第320図 PL-99	第1区画 1号墓1	陶器 碗	一部欠損	①9.9	②4.2	③5.6	良好、浅黄色。	膳前茶碗。内面に漆碗と思われる漆片が 付着。瀬戸・美濃系。	近世	
種別番号 図版番号	掲載番号	種類		計測値(cm)			成形、調整の特徴など		樹種	
第320図 PL-99	第1区画 1号墓2	漆椀		長さ×幅×厚さ			漆椀。漆部分のみ残り、中心の本質部なし。赤色朱で用と書 かれている。		-	
種別番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態 出土位置	計測値(cm)			成形、調整の特徴、その他		備考	
				①長さ	②幅	③厚・高				
第320図 PL-99	第1区画 1号墓3	銅製品 煙管	煙首	①4.6	②1.0		頸部は胴部より少し細くなっている。胴中央部に接合痕跡。			
種別番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態	計測値(mm, g)					時期 備考	
				①②直径	③④内輪径	⑤厚さ	⑥重さ			
第320図 PL-99	第1区画1号墓4	寛永通宝か	-	-	-	-	-	7.7	寛永通宝か。新寛永3期の銅銭1枚と鉄銭2枚が錆 び付いているものと思われる。鉄銭の外側に鉄銭と は別に薄い鉄板状の跡が銭の1/3ほどに付着して いる。銭さしの状態で破られた状態で残る。さしの状 態で破ったものは麻紙と思われる。	

種図番号 図版番号	掲載番号	種別 銭種	残存状態	計測値(mm, g)					時期 備考	
				①直径	②内輪径	③厚さ	④重さ			
第320図 PL-99	第1区画1号墓5	寛永通宝	完形(4枚重)	24.60	24.68	19.29	19.15	5.68 ~ 6.09	11.5	新寛永。3期。銭4枚が貼りついている。外側の2枚が銅銭、中側の2枚が鉄銭と思われる。
第320図 PL-99	第1区画1号墓6	寛永通宝	ほぼ完形	21.37	21.67	16.43	16.52	1.16 ~ 1.32	1.9	新寛永。3期。
種図番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態 出土位置	計測値(cm)			成形、調整の特徴、その他			
第320図 PL-99	第2区画1号墓1	銅製品 煙管	煙首	①4.6	②1.1		頸部外側に織籠が付着。罐口部分が一部残存。胴中央部に接合痕跡。			
第320図 PL-99	第2区画1号墓2	銅製品 煙管	吸口	①6.8	②1.1		側面中央部分に接合痕跡。罐口が残る。			
第320図 PL-99	第2区画1号墓3	火打ち金	完形	①2.8	②5.5	③0.5	平面形は山形打撃。中央部は少し凹状となっている。打撃部下端が最も厚い。山形に延びる細長い部分は中央で左右にねじって打撃部分につなげている。			

種図番号 図版番号	掲載番号	種別 銭種	残存状態	計測値(mm, g)					時期 備考	
				①直径	②内輪径	③厚さ	④重さ			
第320図 PL-99	第2区画1号墓4	寛永通宝	70%	25.20	-	19.53	-	(1.36 ~ 1.58)	2.7	新寛永。3期。
第320図 PL-99	第2区画1号墓5	寛永通宝か	一部欠損	24.78	24.68	-	-	-	2.6	文字判読不能。新寛永鉄銭と思われる。
第321図 PL-99	第2区画4号墓1	開元通宝	完形	23.63	23.64	19.08	19.04	0.94 ~ 1.04	2.7	開元通宝。唐銭。621年。
第321図 PL-99	第2区画4号墓2	寛永通宝	完形	24.58	24.53	19.70	19.89	1.24 ~ 1.29	3.8	古寛永。1636年。
第321図 PL-99	第2区画4号墓3	寛永通宝	完形	24.69	24.72	19.77	19.74	1.17 ~ 1.23	3.8	古寛永。1636年。
第321図 PL-99	第2区画4号墓4	寛永通宝	完形	25.42	25.34	20.09	20.02	1.22 ~ 1.34	3.8	新寛永。背面上部に「文」。
第321図 PL-99	第2区画4号墓5	寛永通宝	完形	24.51	24.15	19.65	19.61	1.38 ~ 1.47	3.1	新寛永。背面上部に「文」。
第321図 PL-100	第2区画4号墓6	寛永通宝	完形	24.45	24.47	18.94	18.56	1.15 ~ 1.16	3.2	新寛永。3期。
第321図 PL-100	第2区画4号墓7	寛永通宝	完形	24.44	24.43	19.27	19.31	1.02 ~ 1.11	3.2	新寛永。3期。
第321図 PL-100	第2区画4号墓8	寛永通宝	完形	23.25	23.23	18.27	18.46	0.83 ~ 0.92	2.4	新寛永。3期。
第321図 PL-100	第2区画4号墓9	寛永通宝	完形	23.11	23.09	18.69	18.46	1.03 ~ 1.11	2.5	新寛永。3期。
第321図 PL-100	第2区画4号墓10	寛永通宝	完形	22.72	22.78	18.55	18.67	1.16 ~ 1.19	2.5	新寛永。3期。
第321図 PL-100	第2区画4号墓11	寛永通宝	完形	23.19	23.30	18.05	18.46	1.09 ~ 1.20	2.9	新寛永。3期と思われる。永がつぶれて読めない。
第321図 PL-100	53区1号墓1	天聖元宝	完形	24.49	24.39	20.40	20.10	1.27 ~ 1.36	2.7	天聖元宝。宋銭。1023年。
第321図 PL-100	53区1号墓2	政和通宝	一部欠損	24.31	24.39	20.95	20.53	1.01 ~ 1.06	2.1	政和通宝。宋銭。1111年。
第321図 PL-100	53区1号墓1	開元通宝	完形	24.53	24.56	20.61	20.80	1.12 ~ 1.14	2.9	開元通宝。唐銭。621年。
第321図 PL-100	53区1号墓2	開元通宝	完形	24.52	24.73	20.75	20.90	1.12 ~ 1.20	3.1	開元通宝。唐銭。621年。
第321図 PL-100	53区1号墓3	元祐通宝	完形	23.48	23.06	18.95	18.89	1.12 ~ 1.13	2.2	元祐通宝。宋銭。1086年。
第321図 PL-100	53区1号墓4	宣徳通宝	完形	25.37	25.47	20.98	20.89	1.26 ~ 1.32	3.3	宣徳通宝。明銭。1433年。
第321図 PL-100	53区1号墓5		完形	23.16	23.32	19.46	19.44	1.24 ~ 1.64	2.3	判読不能。渡来銭か?
第321図 PL-100	53区2号墓1	永樂通宝	完形	25.41	25.40	20.97	20.84	1.97 ~ 2.17	3.5	永樂通宝。明銭。1408年。
第321図 PL-100	53区2号墓2	〇〇元宝	ほぼ完形	24.79	23.87	19.76	19.26	1.62 ~ 1.73	2.8	〇〇元宝。判読不能。渡来銭か。
第321図 PL-100	53区2号墓3		一部欠損	-	-	-	-	(1.38 ~ 1.41)	1.7	判読不能。渡来銭か?

53・54区ビット

種図番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態 出土位置	計測値(cm)			石材	成形、調整の特徴など
				①長さ	②幅	③重さ		
第325図 PL-100	53区231 ビット1	白石	完形	①25.5	②25.5	③20.2	粗粒輝石安山 岩	ビットの中で凹面を上にして磨られていた。台石の再利用と思われる。本平凹面は下面と思われる。表面は平らに丁寧に加工している。凹面にはノミの痕が明瞭に残る。
種図番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態	計測値(cm)		胎上・焼成・色調	成形、調整の特徴など	備考
第325図 PL-100	54区11号 ビット1	磁器 皿	口縁部片	①(19.0)		良好。灰白色。	白磁皿か。内面に磨かれた沈黙一糸。磨かれた文様あり。中国。	中世

第3章 林中原1遺跡

種別番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態	計測値(cm)			胎土・焼成・色調	成形、調整の特徴など	備考
				①口径	②底径	③器高			
第325図 PL.100	54区30号 ピット1	在土器 内耳土器	胴部片	③(2.8)			細砂粒やや多。焼し焼成。 良好。褐色。	内外面撫で。外面器表は暗褐色。	中世
第325図 PL.100	54区76号 ピット1	須恵器 坏か焼	口縁部片	③(12.8)			細砂粒含。良好。灰白色。	焼き締まっていない。口縁部の小破片。	9世紀後～ 10世紀初
53・54区遺構外・表採									
種別番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態	計測値(cm)			胎土・焼成・色調	成形、調整の特徴など	備考
				①口径	②底径	③器高			
第326図 PL.100	53区1	陶器 甕	胴部片	③(1.2)			良好。褐灰色。	灰輪。四耳甕。	古瀬戸前期
種別番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態 出土位置	計測値(cm, g)			石材	成形、調整の特徴など	備考
				①長さ	②幅	③厚			
第326図 PL.100	53区2	石白上白	25% 表土	推定径(29.0) ③14.9 ④(6100)			粗粒輝石安山 岩	上臼1/4の破片。厚さが4.9mmと厚く使用による減り が少ない。白の目が荒く、主溝・副溝で6本と少ない。も のくぼりが深く長い。	
第326図 PL.100	53区3	石白下白	50%	径一 ③16.4 ④(14000)			安山岩	下臼の破片である。側面はほぼ全面にわたり割って おり残っていない。芯棒穴は上下両面からあけてい る。上面から開けた穴が大きい。厚い白であり刻目の残りも 良好である。	
種別番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態	計測値(cm)			胎土・焼成・色調	成形、調整の特徴など	備考
				①口径	②底径	③器高			
第326図 PL.100	54区1	染付 碗	胴～高台部 30%	③(2.0)			良好。灰白色。	外面に雪輪草花文か。高台内、崩れた銘 あり。波佐見。	18世紀後～ 19世紀初
第326図 PL.100	54区2	陶器 碗	口縁～胴部片	③(9.0)			良好。灰白色。	腰踏茶碗。瀬戸・美濃系。	連房9小期か 10小期か
第326図 PL.100	54区3	在土器か 皿	口縁～底部 30%	①(7.2) ②(5.4) ③1.2			細砂粒少。良好。にぶい 黄褐色。	器面摩滅。小型のカワラケか。底部回転 糸切り。器壁薄く。器高低い。	中世か
種別番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態 出土位置	計測値(cm)			成形、調整の特徴、その他		
				①長さ	②幅	③厚	④高		
第326図 PL.100	54区4	鉄製品 釘	先端部欠損 54-C-25	③(3.3) ②0.4				頭部薄く伸ばした後、折り曲げて形成。中心部空洞でない。	
種別番号 図版番号	掲載番号	種別 器種	残存状態 出土位置	計測値(cm, g)			石材	成形、調整の特徴など	備考
				①長さ	②幅	③厚			
第326図 PL.100	表採1	硯	—	③3.3 ②3.5 ③1.9			硬沢石	硯の破片を硬石に転用か。	